

令和7年度
白岡市高齢者等実態調査
報告書



令和8年3月
白岡市

目次

序章 はじめに	1
1. 調査の概要	3
2. 報告書の見方	5
 第1章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	7
1. 回答者の属性	9
2. ご家族や生活状況について	13
3. からだを動かすことについて	16
4. 食べることについて	37
5. 毎日の生活について	42
6. 就労について	48
7. 地域での活動について	51
8. たすけあいについて	57
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	68
10. 健康について	70
11. 高齢者福祉や介護保険等について	79
12. 自由意見	96
13. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のまとめ	100
 第2章 在宅介護実態調査	117
1. 回答者の属性	119
2. 健康状態や医療などについて	123
3. 施設入所の意向について	136
4. 介護保険サービス等の利用について	138
5. 高齢者福祉や介護保険等について	162
6. 介護者の状況について	170
7. 自由意見	189
8. 在宅介護実態調査のまとめ	193

第3章 施設サービス利用者調査	213
1. 回答者の属性	215
2. 入所している施設について	218
3. 施設のサービスについて	222
4. 今後の意向や要望について	236
5. 自由意見	243
6. 施設サービス利用者調査のまとめ	246
 第4章 サービス提供事業者調査	 251
1. 回答事業者の属性	253
2. サービスの提供状況及び今後の事業展開について	254
3. 施設・居住系サービスの利用者数の動向について	256
4. 事業所の開所理由について	257
5. 運営上の課題・市に期待するサポートについて	258
6. 自由意見	263
7. サービス提供事業者調査のまとめ	264
 第5章 ケアマネジャー調査	 267
1. 回答者の属性	269
2. ケアプランについて	270
3. 他機関との連携について	272
4. サービスの供給バランスに対する評価について	276
5. 地域資源の把握・利用・不足の状況について	279
6. ケアマネ業務の課題・負担について	281
7. 虐待について	283
8. 行政に期待することについて	285
9. 自由意見	285
10. ケアマネジャー調査のまとめ	286

序章 はじめに

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、「白岡市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画」（計画期間：令和9年度～令和11年度）の策定にあたり、高齢者、介護保険サービス利用者及び介護サービス提供事業者等を対象とし、地域での高齢者の生活実態や介護サービスに対するニーズ等を把握することによって、本市における課題及び計画期間内の目指すべき介護サービスの方向性を検討する基礎資料とするため実施しました。

(2) 調査の内容

本調査では、様々な立場の方から意見を伺うことを目的として、以下の5つのアンケート調査を実施しました。なお、「調査①：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び「調査②：在宅介護実態調査」は、国が示す設問項目（必須・オプション）に、本市独自の設問を加えています。

【調査①：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

対象者	令和7年12月1日現在で65歳以上の市民 (要介護1～5の認定を受けていない方から無作為抽出)
対象件数	1,500件
調査方法	サンプル調査、郵送による調査票の配布・回収、無記名で回答
調査期間	令和7年12月10日～令和8年1月27日

【調査②：在宅介護実態調査】

対象者	40歳以上の白岡市の介護保険被保険者で、令和7年12月1日現在、要支援・要介護に認定され、在宅で過ごしている方（調査①との重複者は除く）
対象件数	1,800件
調査方法	サンプル調査、郵送による調査票の配布・回収、無記名で回答
調査期間	令和7年12月10日～令和8年1月27日

【調査③：施設サービス利用者調査】

対象者	白岡市の介護保険被保険者で、令和7年11月に介護保険施設※に入所していた方 ※ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設（老人保健施設）、介護医療院
対象件数	385件（全件）
調査方法	全数調査、郵送による調査票の配布・回収、無記名で回答
調査期間	令和7年12月10日～令和8年1月27日

【調査④：サービス提供事業者調査】

対象者	白岡市内のサービス事業者
対象件数	52 件（全件）
調査方法	全数調査、原則WEBでの回答（希望者へは紙の調査票を配布） 記名式（事業者名及び連絡先の記入）
調査期間	令和7年11月21日～令和8年1月16日

【調査⑤：ケアマネジャー調査】

対象者	白岡市内の居宅介護支援事業所のケアマネジャー
対象件数	42 件（全件）
調査方法	全数調査、原則WEBでの回答（希望者へは紙の調査票を配布） 無記名の回答
調査期間	令和7年11月21日～令和7年12月26日

（3）回収結果

調査名	発送数 ^{注1}	有効 回答数 ^{注2}	回収率	備考
① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,500 票	1,154 票	76.9%	
② 在宅介護実態調査	1,783 票	914 票	51.3%	
③ 施設サービス利用者調査	374 票	209 票	55.9%	
④ サービス提供事業者調査	52 票	36 票	69.2%	紙での回答1件
⑤ ケアマネジャー調査	42 票	35 票	83.3%	すべてWEB回答

注1：死亡による事前の引き抜き及び宛先不明等により市役所に返送された調査票数を除いた発送数

注2：白票や無効票を除いた回答数

2. 報告書の見方

(1) 数値の取り扱いや表記について

- ・図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表しています。
- ・図表中の（n＝＊）の数値は、集計母数を表しています。
- ・回答の比率（％）は、その設問の回答者数を母数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると 100％を超えることがあります。
- ・回答の比率（％）は、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。そのため、属性ごとの回答比率の合計が 100％にならないことがあります。
- ・図表中の「0.0」は四捨五入の結果、または回答者が皆無であることを表しています。
- ・一部の設問で、経年変化をみるために、前回調査（令和 4 年）の数値を掲載しています。なお、前回調査実施時は、新型コロナウイルス感染症の影響下であったため、回答に影響が出ていたことが推測され、経年比較ではその点に留意する必要があります。
- ・本報告書では、5 ポイント以上の差がみられる項目を、一定の傾向がみられる変化として取り上げています。
- ・クロス集計等においては、回答者数が少ない場合、結果のばらつきが大きくなる可能性があることから、本文中で回答傾向について言及していない場合があります。
- ・各図表や説明文に対して、前回比較や性別などの集計区分が記載されていない場合は、全体についての集計結果を表しています。
- ・自由意見については、概ね原文のとおり記載しておりますが、個人情報の秘匿や誤字の修正など、表現を調整している場合があります。

(2) 居住地区の区分について

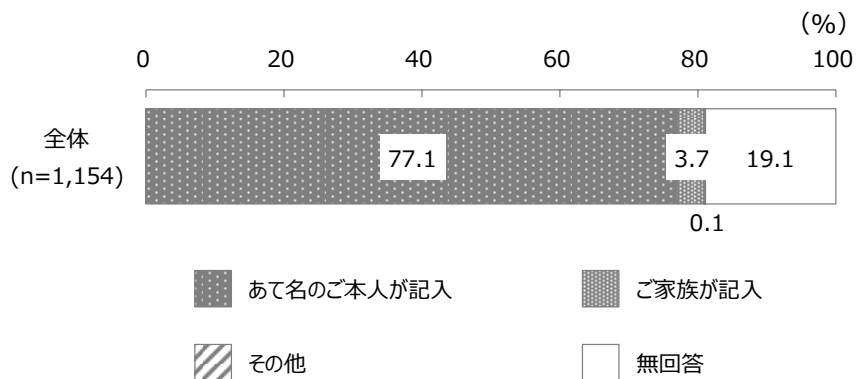
居住地区は、20 の地区を 2 区分に分けた日常生活圏域（地域包括ケアシステムを構築する区域）と、その日常生活圏域を見直すにあたり、地理的条件、人口、交通事情などを勘案し、さらに細かく分けた 6 地区の、いずれかの区分で集計しています。（詳細は、11 ページを参照してください。）

日常生活圏域	6 地区	地区
日勝圏域	菁莪地区	岡泉、上野田、下野田、爪田ケ谷、太田新井、彦兵衛
	白岡駅周辺地区	実ケ谷、千駄野、小久喜
篠津・大山圏域	篠津・西地区	篠津、西
	新白岡駅周辺地区	野牛、高岩、新白岡、寺塚
	白岡・白岡東地区	白岡、白岡東
	大山地区	柴山、荒井新田、下大崎

第1章 介護予防・ 日常生活圏域二一ス調査

調査票を記入されたのはどなたですか。[1つに○]

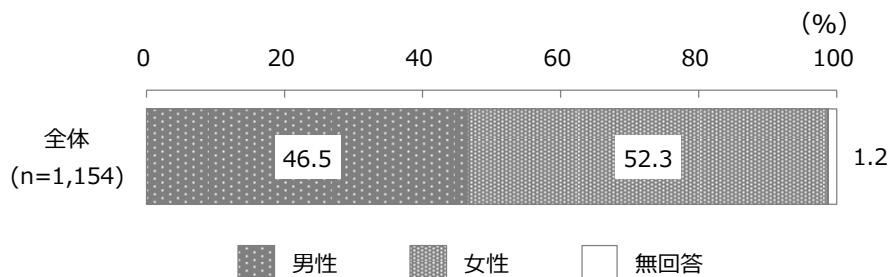
「あて名のご本人が記入」が77.1%で最も多く、次いで「ご家族が記入」(3.7%)となっています。



1. 回答者の属性

問1 性別を教えてください。[1つに○]

「女性」が52.3%で、「男性」(46.5%) より多くなっています。

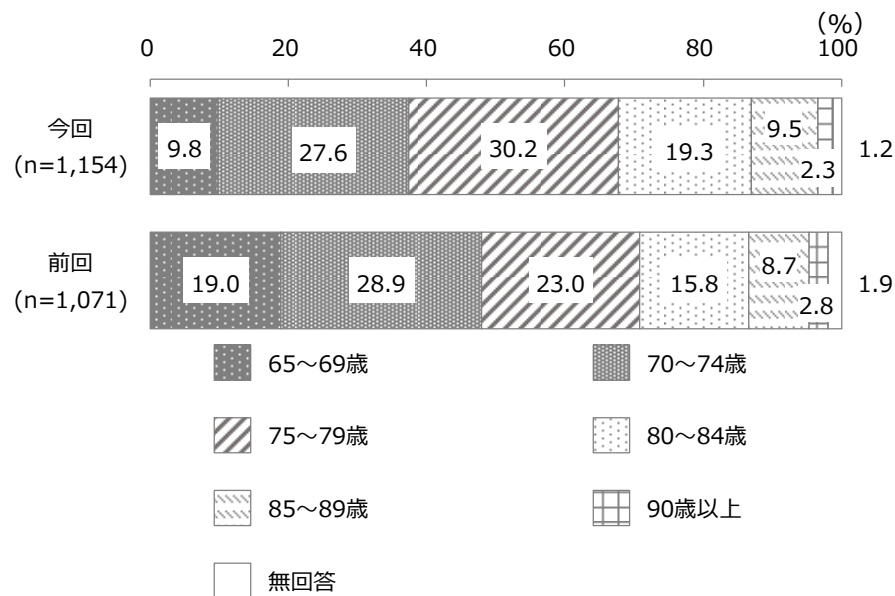


問2 12月1日現在、何歳ですか。

全体 「75～79歳」が30.2%で最も多く、次いで「70～74歳」(27.6%)、「80～84歳」(19.3%)となっています。65～74歳までの前期高齢者が37.4%である一方、75歳以上の後期高齢者は61.3%で、前期高齢者より多くなっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「65～69歳」が9.2ポイント減少している一方、「75～79歳」が7.2ポイント増加しており、後期高齢者からの回答が多くなっています。

全体・前回比較



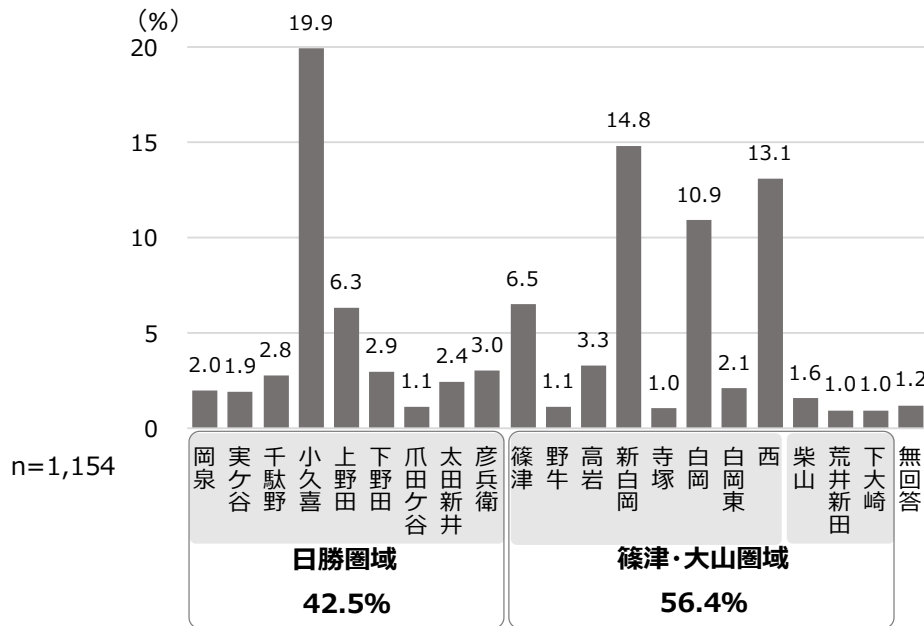
問3 お住まいの地区はどちらですか。[1つに○]

日常生活圏域「篠津・大山圏域」が56.4%で、「日勝圏域」が42.5%となっています。

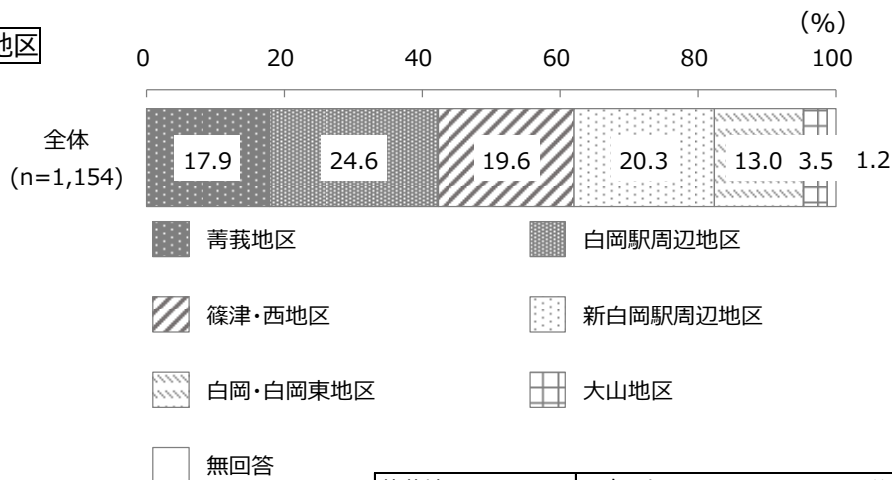
居住地区「小久喜」が19.9%で最も多く、次いで「新白岡」(14.8%)、「西」(13.1%)となっています。

6地区 日常生活圏域を見直すにあたり、地理的条件、人口、交通事情などを勘案し、現在設定している2圏域内をさらに6地区にグループ分けしました。その6地区別にみると、「白岡駅周辺地区」が24.6%で最も多く、次いで「新白岡駅周辺地区」(20.3%)、「篠津・西地区」(19.6%)となっています。

日常生活圏域・居住地区



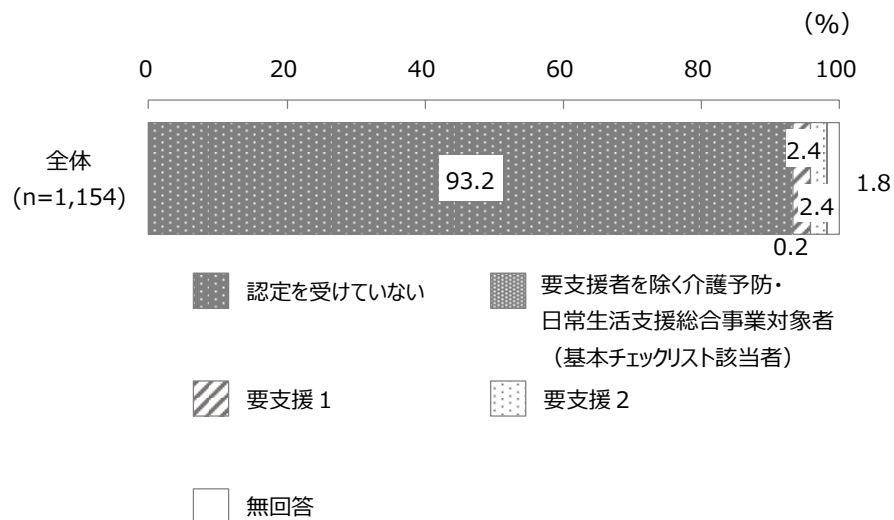
6地区



青莪地区	岡泉、上野田、下野田、爪田ヶ谷、太田新井、彦兵衛
白岡駅周辺地区	実ヶ谷、千駄野、小久喜
篠津・西地区	篠津、西
新白岡駅周辺地区	野牛、高岩、新白岡、寺塚
白岡・白岡東地区	白岡、白岡東
大山地区	柴山、荒井新田、下大崎

問4 介護保険制度の「要支援」の認定を受けていますか。[1つに○]

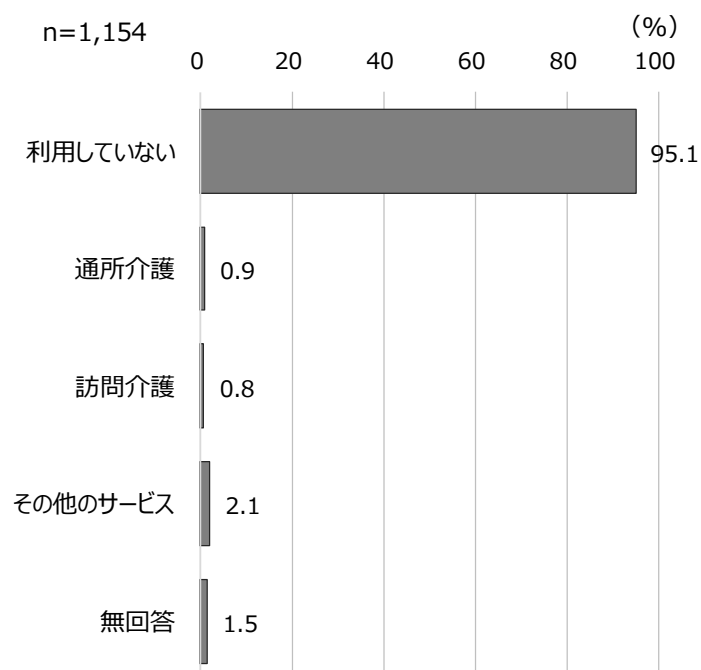
「認定を受けていない」が93.2%で大半を占め、次いで「要支援1」と「要支援2」がそれぞれ2.4%となっています。



問5 現在、利用している介護予防サービスはありますか。[あてはまるものすべてに○]

「利用していない」が95.1%と大半を占め、「通所介護」、「訪問介護」、「その他のサービス※」はそれぞれ約1～2%に留まっています。

(※ 訪問入浴、訪問看護、訪問リハビリ、居宅療養管理指導、通所リハビリ、ショートステイ、福祉用具の貸与、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護)



2. ご家族や生活状況について

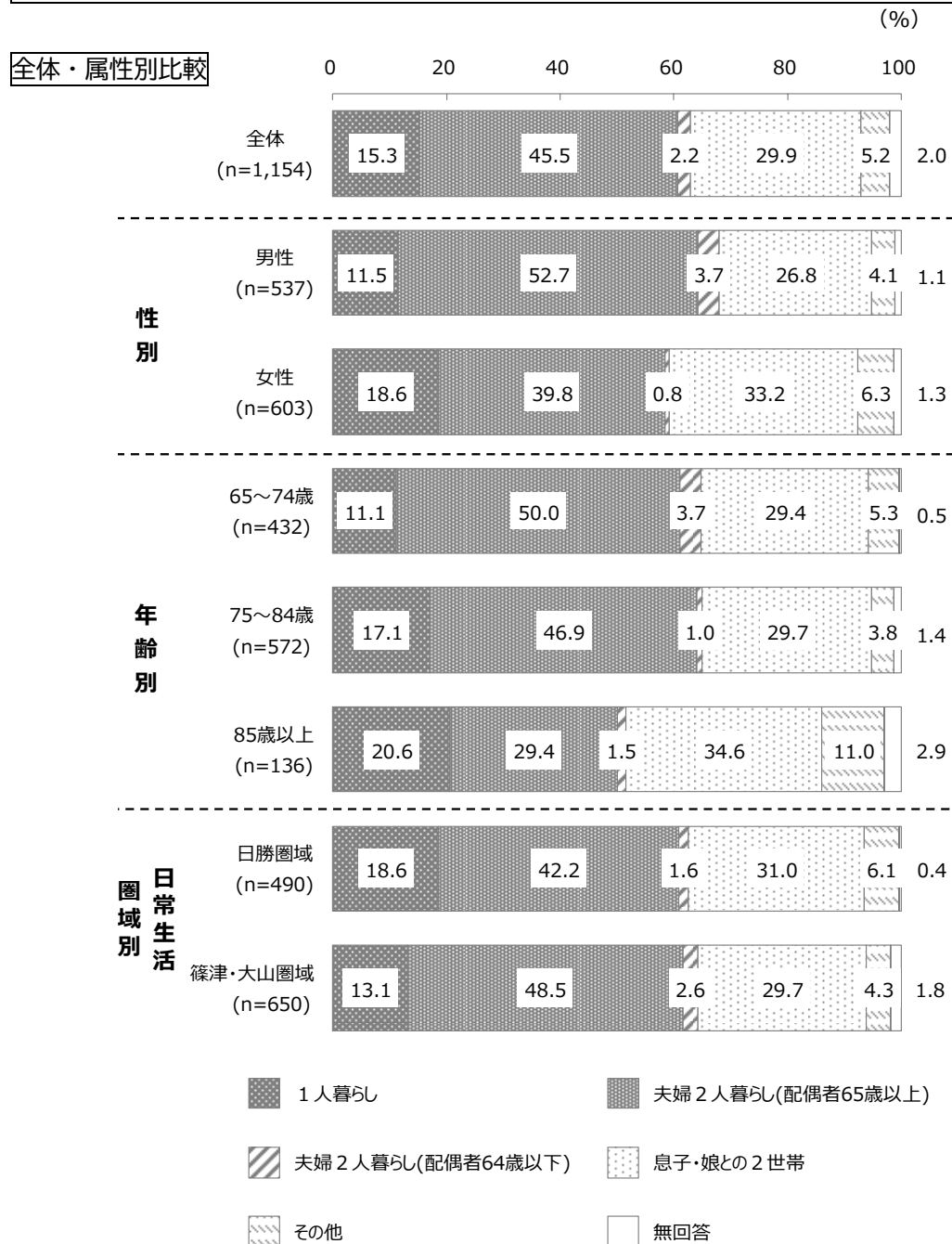
問6 家族構成を教えてください。[1つに○]

全体 「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 45.5%と約半数を占め、次いで「息子・娘との2世帯」（29.9%）、「1人暮らし」（15.3%）となっています。

性別 女性は、「1人暮らし」の割合が男性よりも 7.1 ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「1人暮らし」と「息子・娘との2世帯」の割合が高くなっています。

日常生活圏域 日勝圏域では、「1人暮らし」の割合が篠津・大山圏域よりも 5.5 ポイント多く、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 6.3 ポイント少なくなっています。

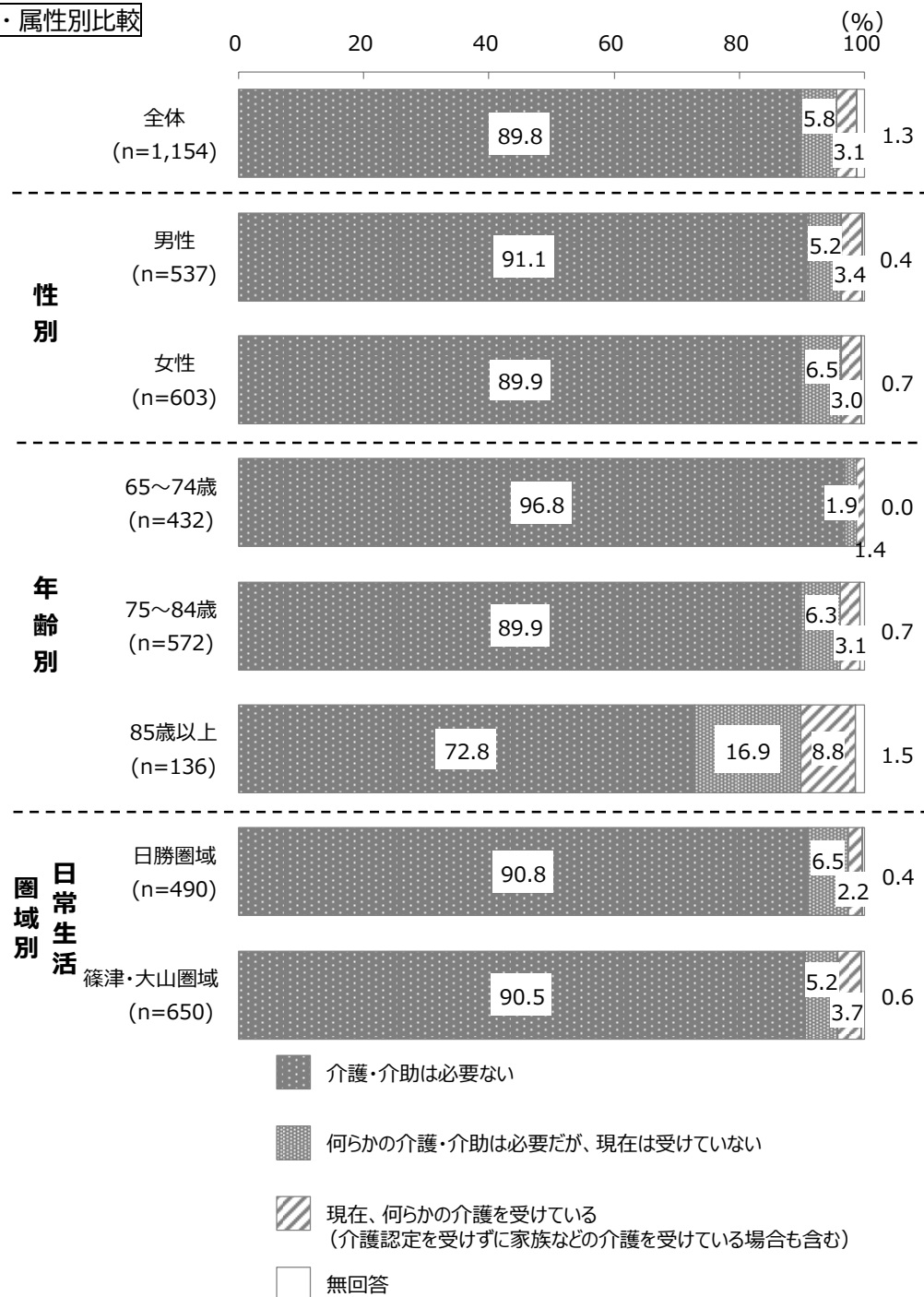


問7 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。[1つに○]

全体 「介護・介助は必要ない」が89.8%と大半を占めている一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答した人が5.8%います。

年齢 85歳以上になると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が16.9%、「現在、何らかの介護を受けている」が8.8%と、84歳以下よりも割合が高くなっています。

全体・属性別比較

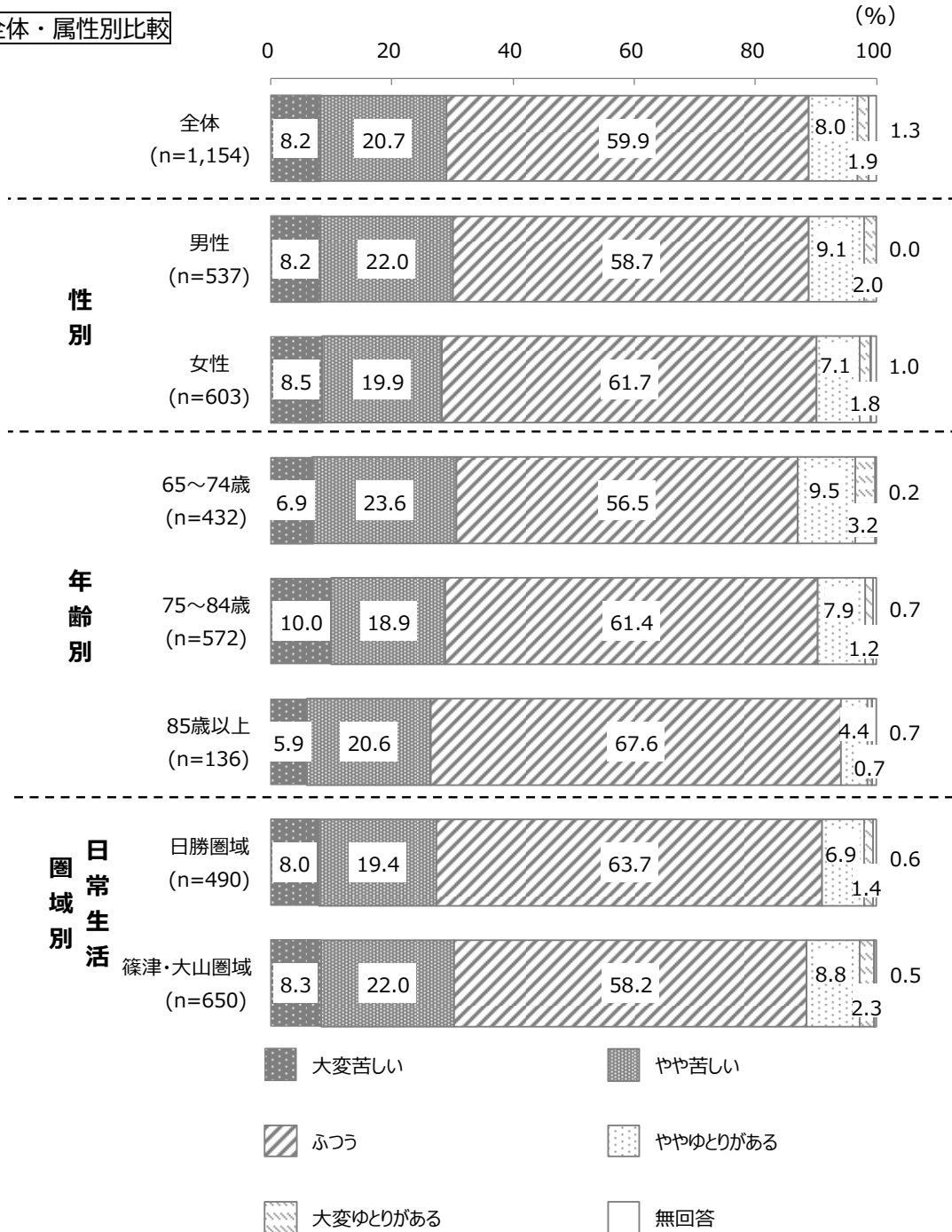


問8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。[1つに○]

全体 「ふつう」が59.9%で最も多く、次いで「やや苦しい」(20.7%)、「大変苦しい」(8.2%)となっています。「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた「苦しい」が3割近くを占めています。

年齢 年代が高くなるほど「ふつう」の割合が増え、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた「ゆとりがある」割合が、少なくなっています。

全体・属性別比較



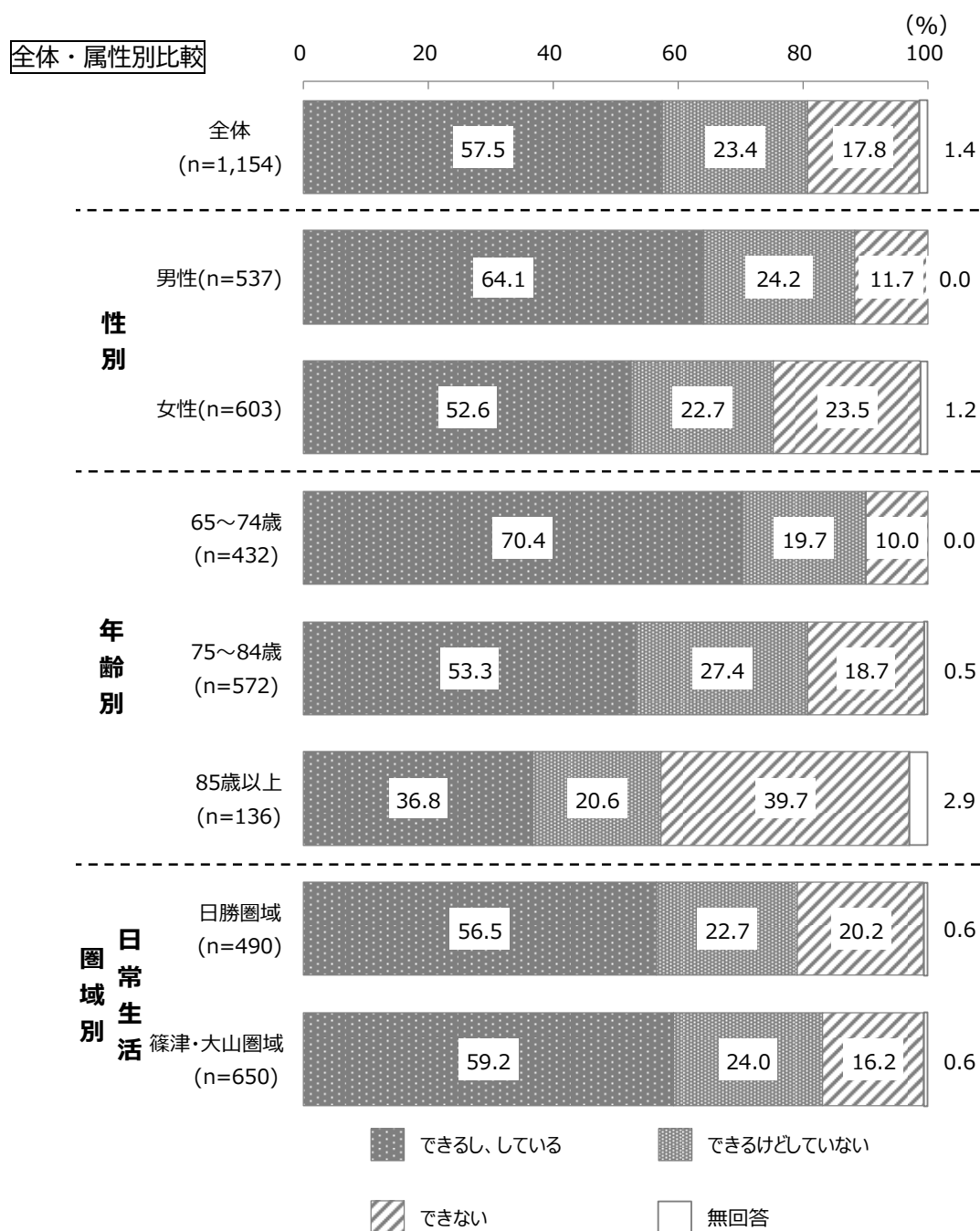
3. からだを動かすことについて

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が57.5%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(23.4%)、「できない」(17.8%)となっています。

性別 女性は、「できない」の割合が男性よりも11.8ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「できない」の割合が増え、65～74歳と比較して、85歳以上は約30ポイント多くなっており、全体の約4割が「できない」と回答しています。



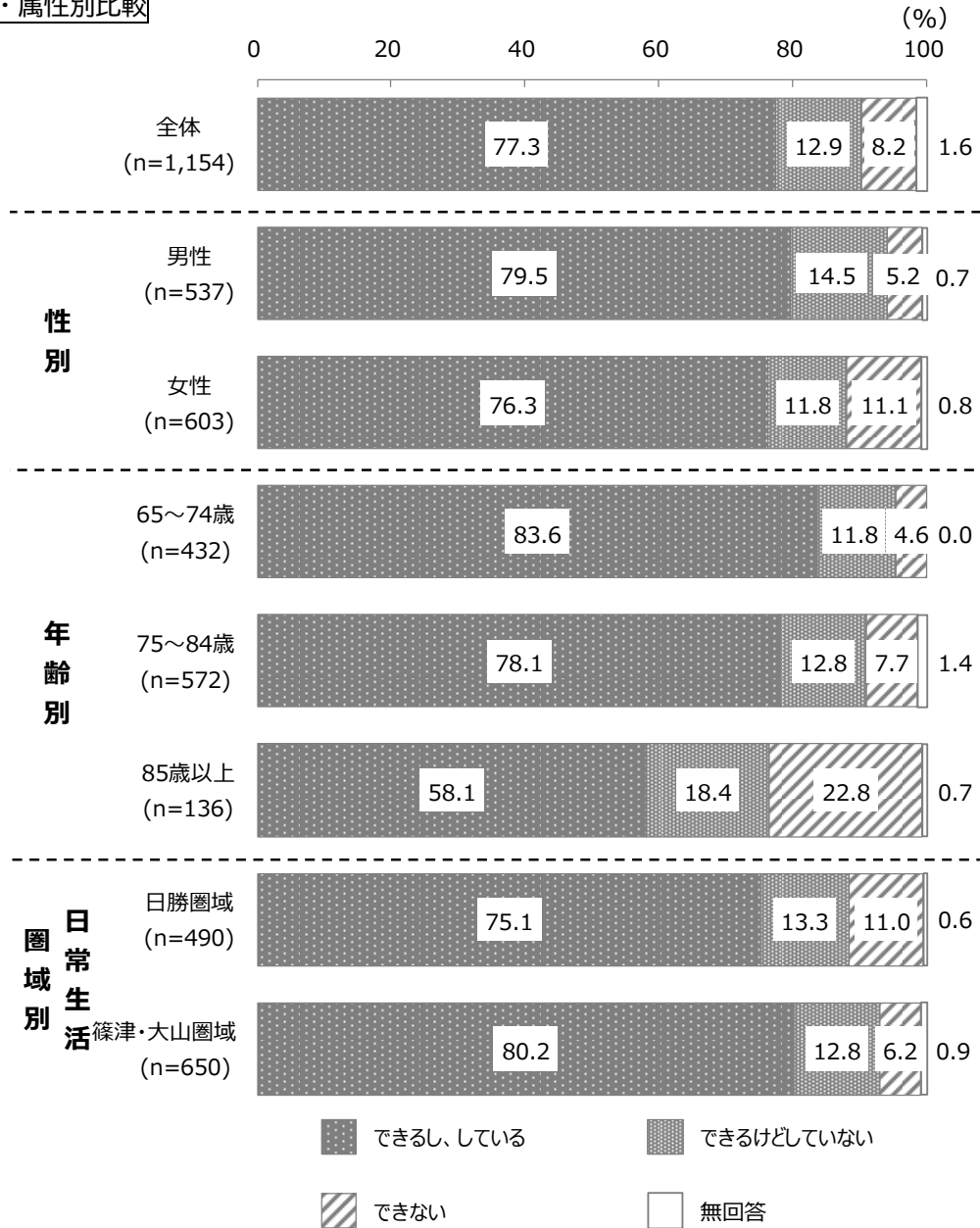
問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が77.3%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(12.9%)、「できない」(8.2%)となっています。

性別 女性は、「できない」の割合が男性よりも5.9ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「できるし、している」の割合が減り、65～74歳と比較して、85歳以上は25.5ポイント少なくなっています。

全体・属性別比較

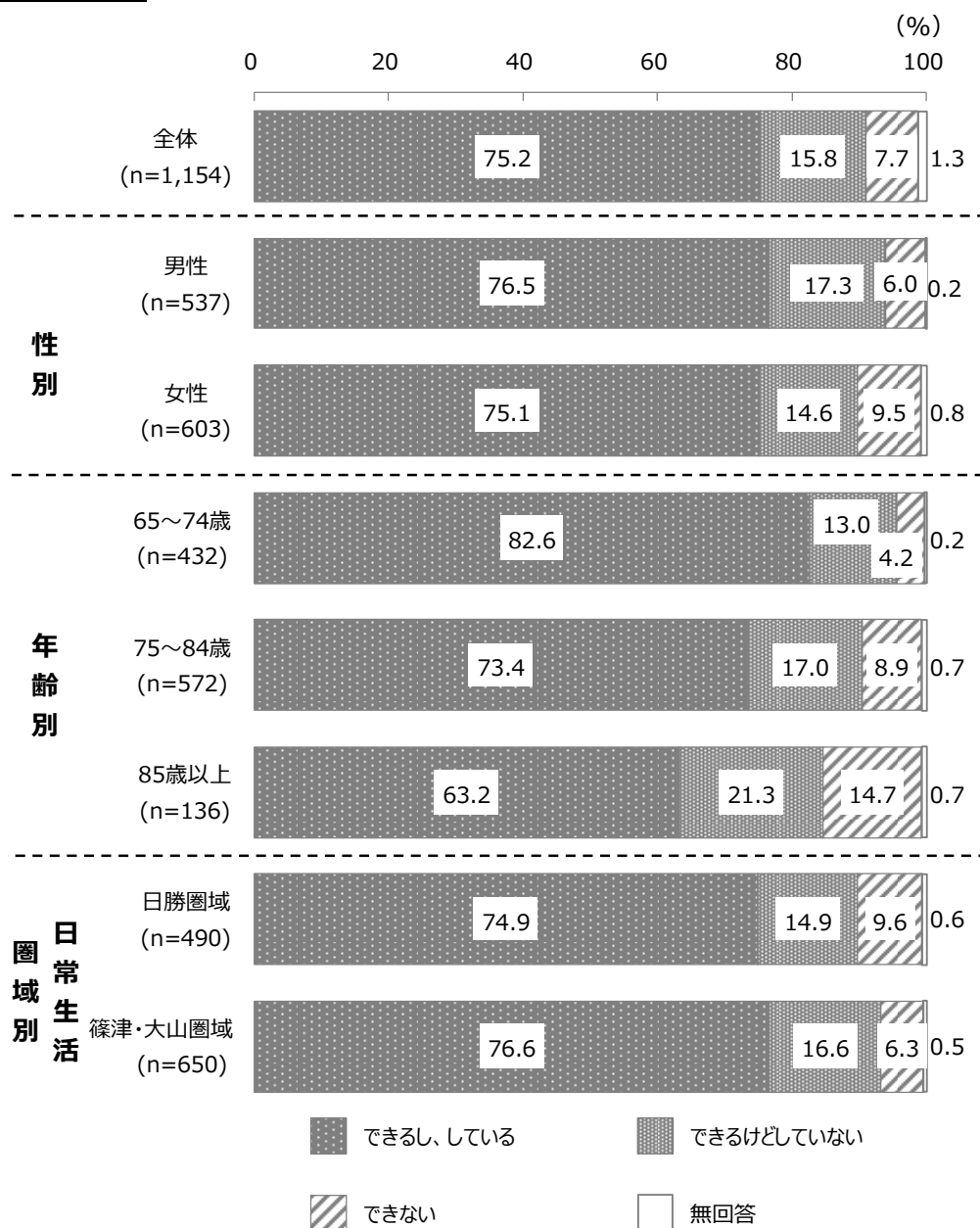


問11 15分位続けて歩いていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が75.2%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(15.8%)、「できない」(7.7%)となっています。

年齢 年代が高くなるほど「できるし、している」の割合が減り、65～74歳と比較して、85歳以上は19.4ポイント少なくなっています。

全体・属性別比較

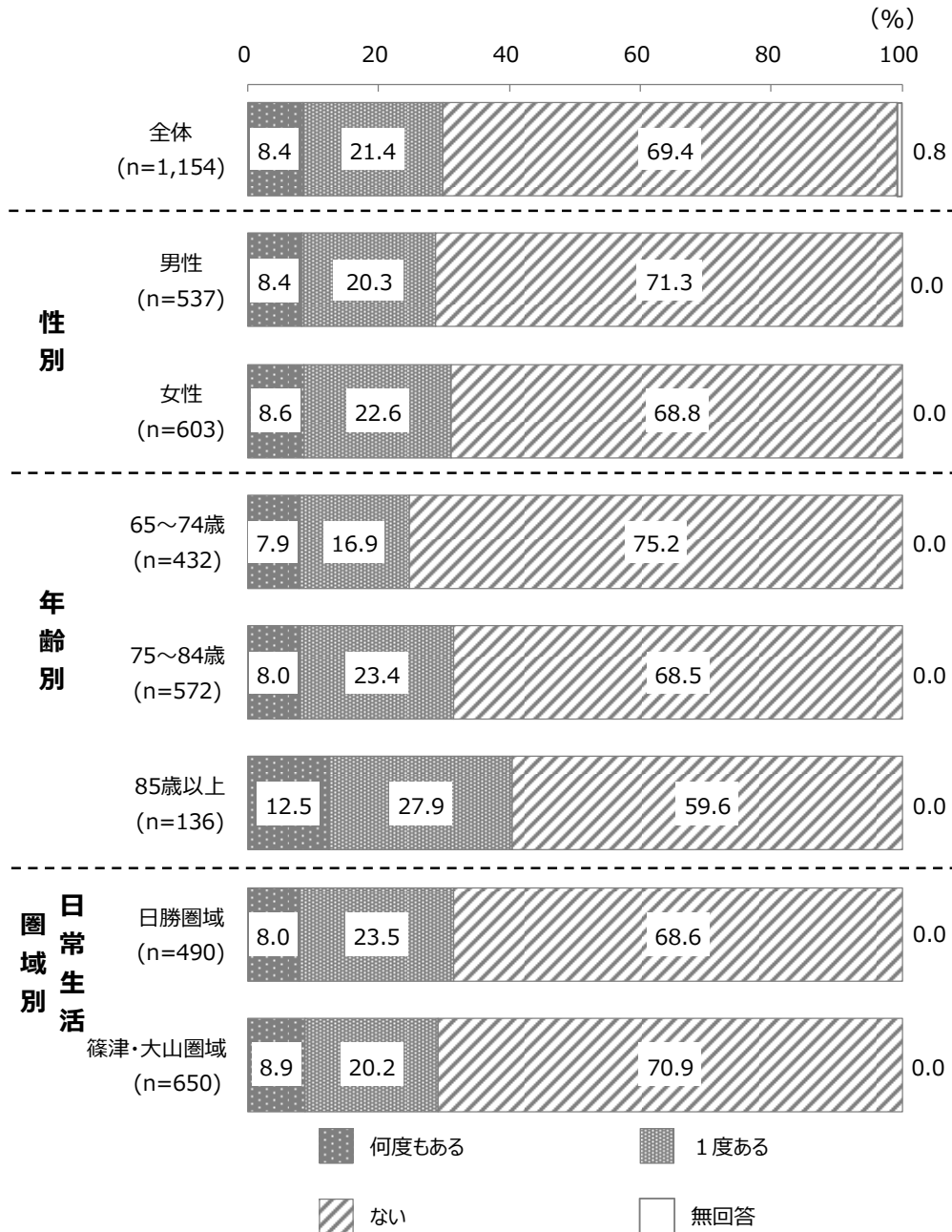


問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。[1つに○]

全体 「ない」が69.4%で最も多く、次いで「1度ある」(21.4%)、「何度もある」(8.4%)となっています。

年齢 年代が高くなるほど「ない」の割合が減り、65～74歳と比較して、85歳以上は15.6ポイント少なくなっています。

全体・属性別比較



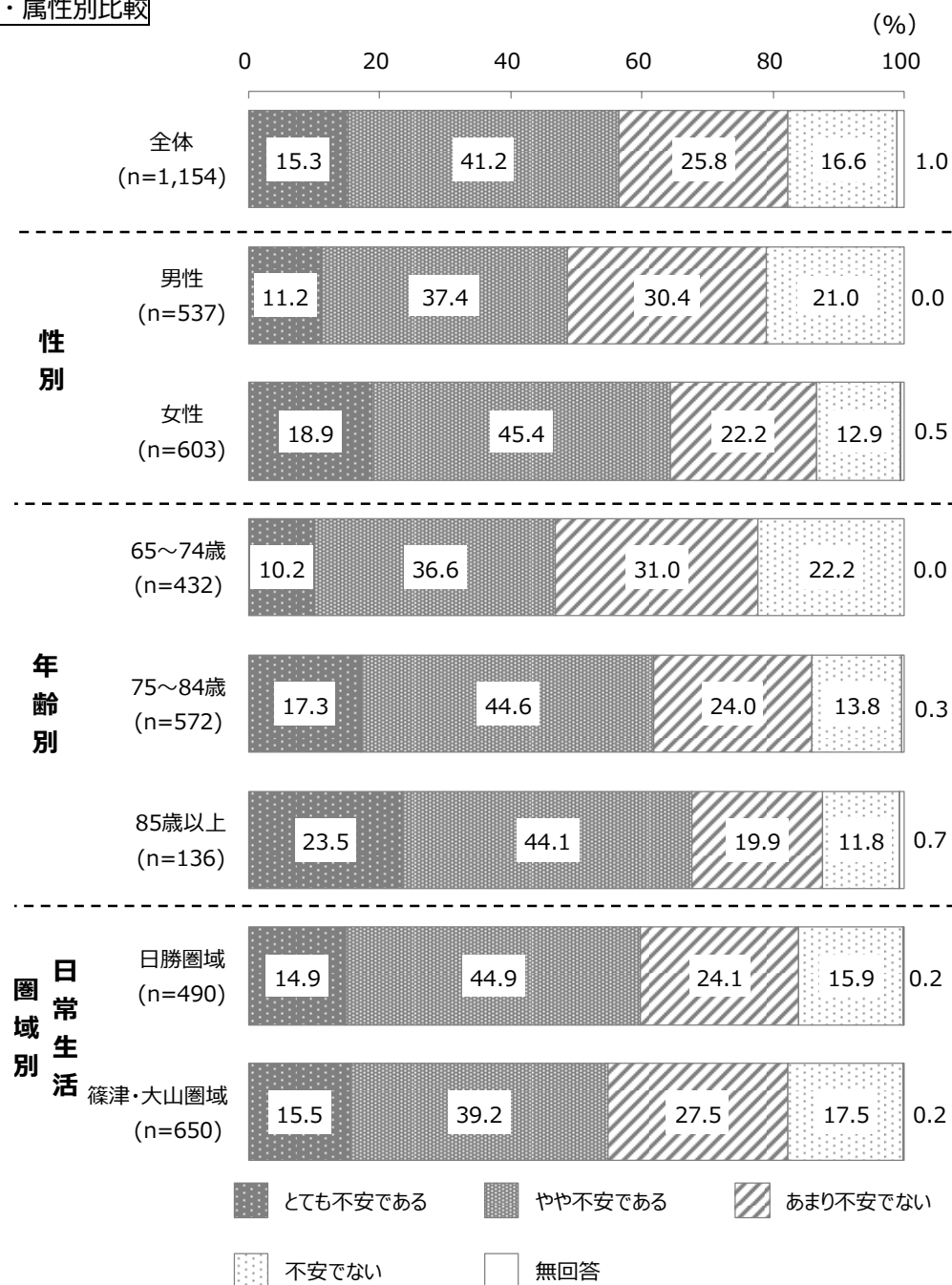
問13 転倒に対する不安は大きいですか。[1つに○]

全体 「やや不安である」が41.2%で最も多く、次いで「あまり不安でない」(25.8%)、「不安でない」(16.6%)となっています。

性別 女性は、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた「不安である」割合が64.3%で、男性よりも15.7ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた「不安である」割合が多くなり、65～74歳と比較して、85歳以上は20.8ポイント多くなっています。

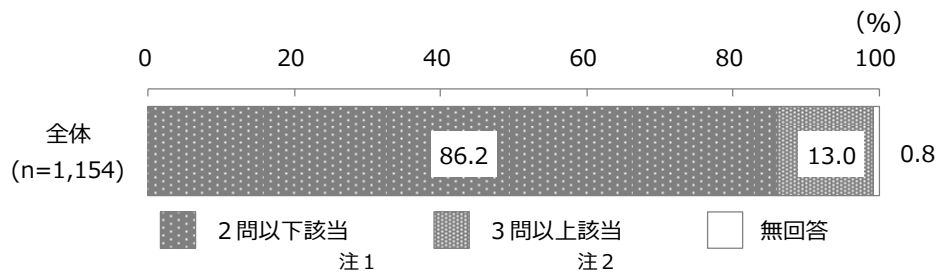
全体・属性別比較



【運動器の機能低下リスク】

問9～問13に対して、5問中3問以上、下表の網掛けの選択肢に該当する場合は、運動器機能の低下している人に該当します。該当者を抽出したところ、運動器の機能が低下している人は、150人おり、全体の13.0%となっています。前回調査の14.6%よりも1.6ポイント減少しています。

問	設問	選択肢
問9	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
問10	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
問11	15分位続けて歩いていますか	1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
問12	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1 何度もある 2 1度ある 3 ない
問13	転倒に対する不安は大きいですか。	1 とても不安である 2 やや不安である 3 あまり不安でない 4 不安でない



注1：問9～13の網掛けの選択肢に2問以下該当する方

注2：問9～13の網掛けの選択肢に3問以上該当する方

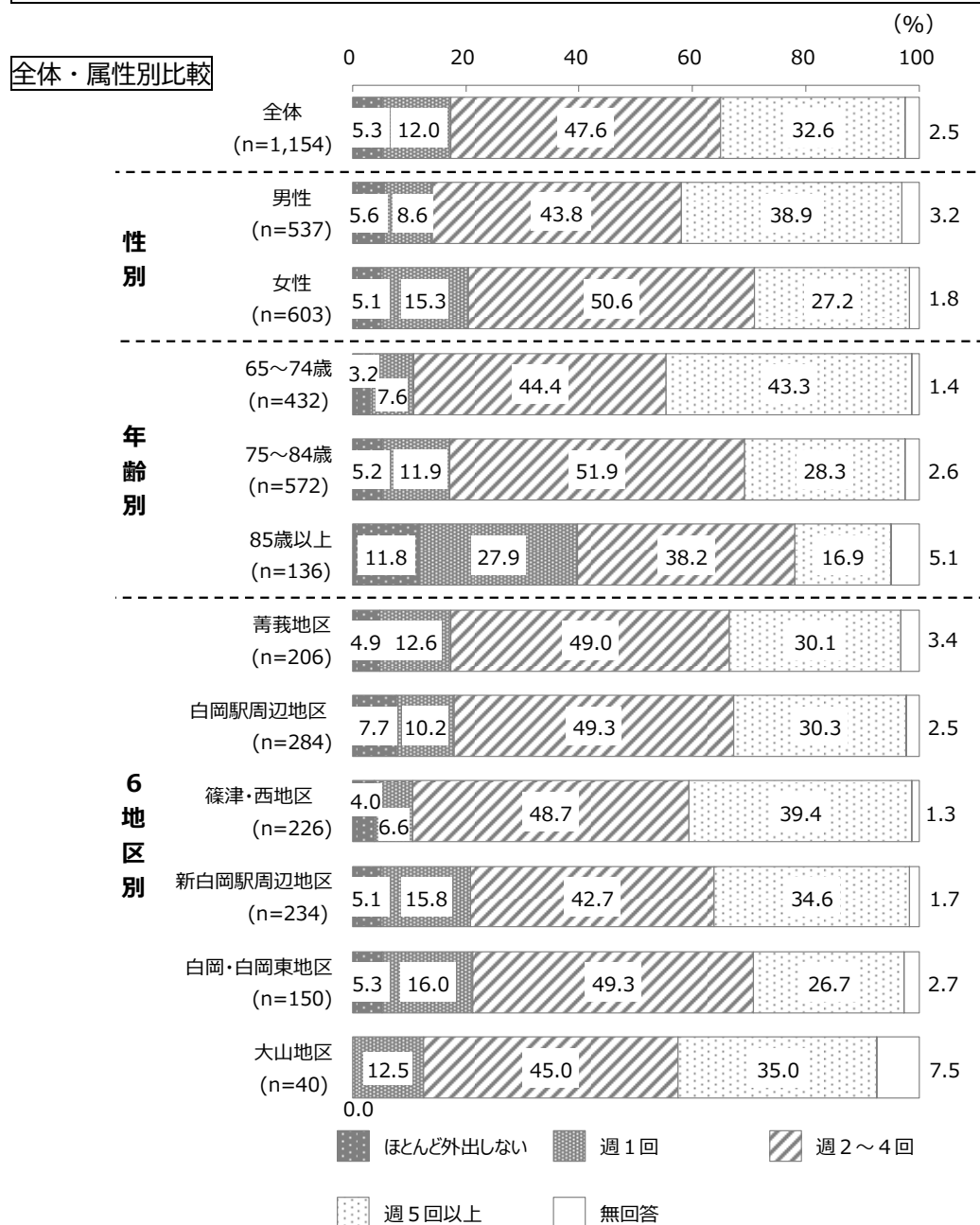
問14 週に1回以上は外出していますか。[1つに○]

全体 「週2～4回」が47.6%で半数近くを占め、次いで「週5回以上」(32.6%)、「週1回」(12.0%)となっています。「ほとんど外出しない」と回答した人も5.3%います。

性別 女性は、「週5回以上」の割合が男性よりも11.7ポイント少なく、また、「週1回」の割合が6.7ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「ほとんど外出しない」と「週1回」の割合が増え、85歳以上では、両方を合わせた割合が全体の約4割となっています。

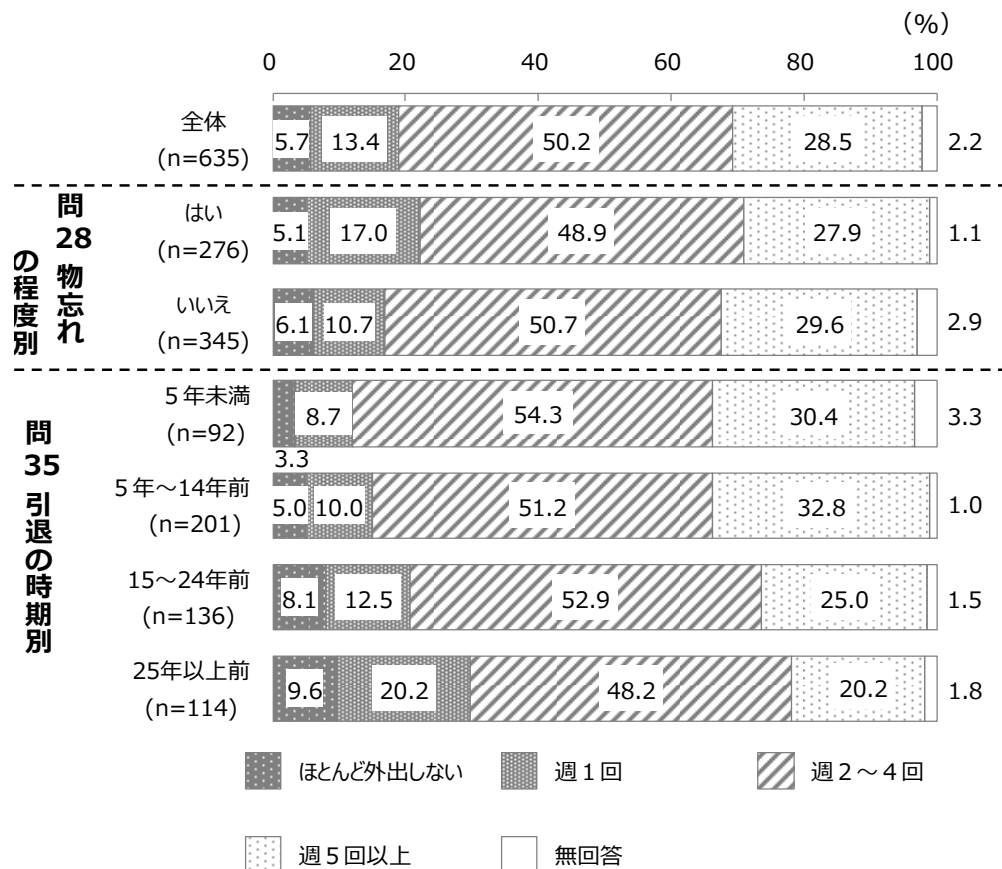
6地区 「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた回答割合を6地区で比較すると、篠津・西地区(10.6%)と大山地区(12.5%)は、他の4地区と比較して約5～10ポイント少なく、週2回以上外出する人の割合が多くなっています。



物忘れの程度別 問 28 で物忘れが多いと感じるかとの問いに対し、「はい」と回答した人は、「いいえ」と回答した人と比較して、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた回答割合が5.3ポイント多くっており、物忘れが多いと感じる人の方が、外出の頻度が少ない傾向にあります。

引退の時期別 引退からの経過年数が長いほど、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた回答割合が多くなっています。引退時期が5年未満では、外出頻度が週1回以下の人が全体の約1割であるのに対して、25年以上前では、全体の約3割と多くなっています。

物忘れの程度別・引退の時期別



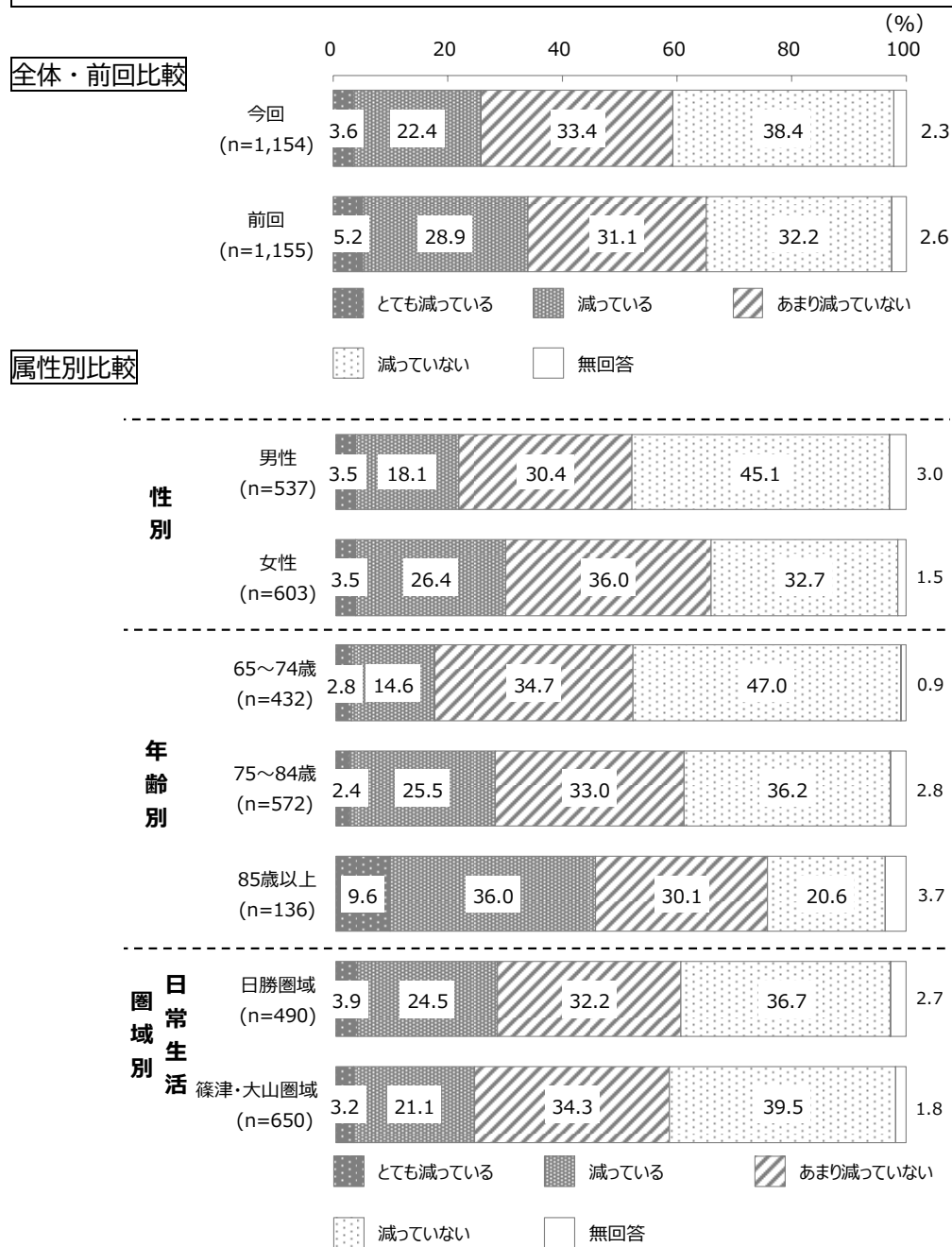
問15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。[1つに○]

全体 「減っていない」が38.4%で最も多く、「あまり減っていない」(33.4%)と合わせると71.8%である一方、「減っている」(22.4%)と「とても減っている」(3.6%)を合わせた回答割合が26.0%で、昨年と比べて外出の回数が減っていない人が多くなっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた回答割合が、8.1ポイント少なく、「減っていない」が6.2ポイント多くなっています。

性別 女性は、「減っている」の割合が男性よりも8.3ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「とても減っている」と「減っている」を合わせた回答割合が多くなり、65～74歳と比較して、85歳以上は28.2ポイント多くなっています。85歳以上では、半数近くの人が減っていると回答しています。



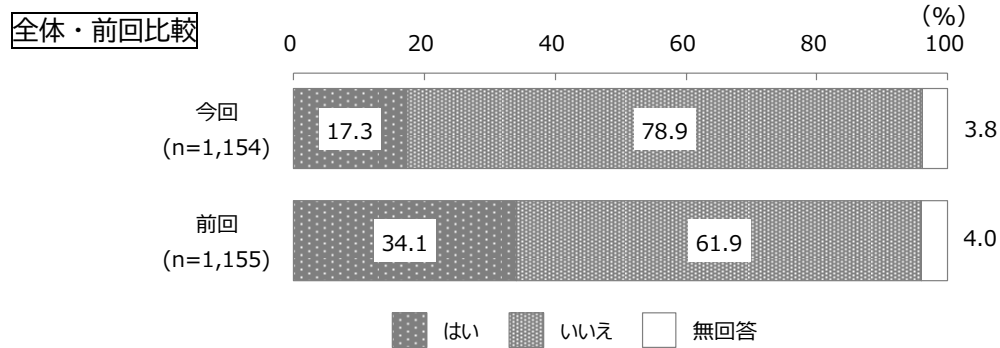
問16 外出を控えていますか。〔1つに○〕

全体 「いいえ」が78.9%で、「はい」が17.3%となっています。

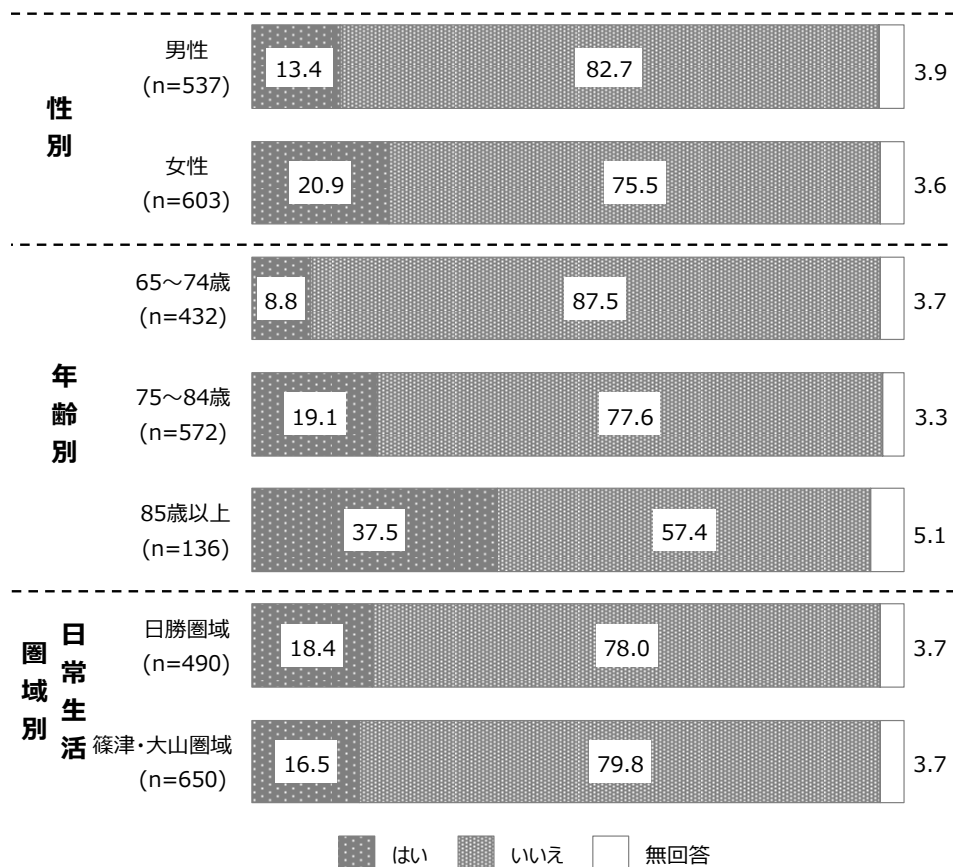
前回比較 前回調査と比較すると、「はい」が16.8ポイント少なく、外出を控えている人が少なくなっています。

性別 女性は、「はい」の割合が男性よりも7.5ポイント多く、外出を控えている人が多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「はい」が多くなり、85歳以上は4割近くが外出を控えており、65～74歳と比較して28.7ポイント多くなっています。



属性別比較



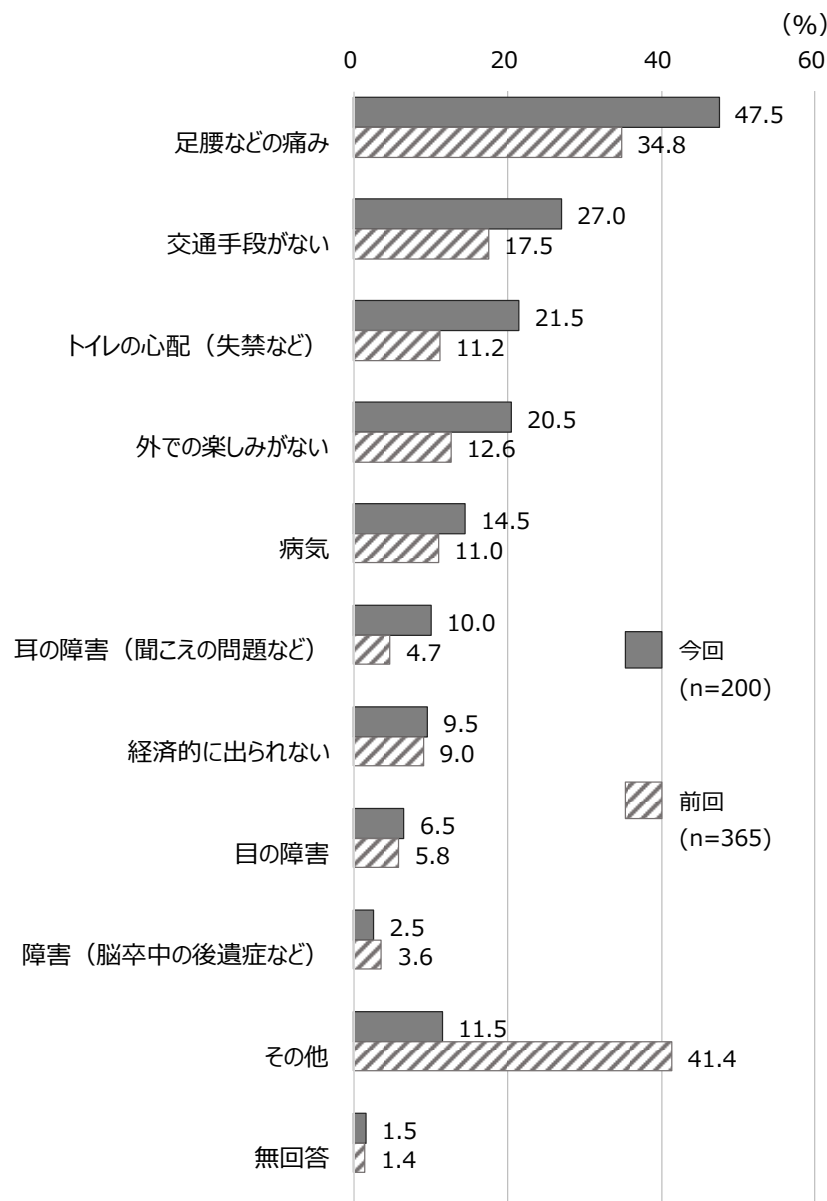
問17 「問16で「1 はい」と回答した方のみお答えください」

外出を控えている理由は、次のどれですか。〔あてはまるものすべてに○〕

全体 「足腰などの痛み」が47.5%で最も多く、次いで「交通手段がない」(27.0%)、「トイレの心配(失禁など)」(21.5%)となっています。

前回比較 前回調査実施時は、新型コロナウイルス感染症の影響下であったため、「その他」の回答が41.4%と最も多かったことが推測されます。それを前提として比較すると、5ポイント以上多くなっている項目が5つありました。「足腰などの痛み」(12.7ポイント増)、「トイレの心配(失禁など)」(10.3ポイント増)、「交通手段がない」(9.5ポイント増)、「外での楽しみがない」(7.9ポイント増)、「耳の障害(聞こえの問題など)」(5.3ポイント増)が該当します。

全体・前回比較



性別 男女ともに「足腰などの痛み」が最も多くなっています。次いで、男性は「外での楽しみがない」と「病気」である一方、女性は「交通手段がない」となっています。

年齢 全年代において「足腰などの痛み」が最も多くなっています。2番目に多い回答は、65～74歳が「病気」である一方、75歳以上は「交通手段がない」となっています。

6地区 すべての地区において、「足腰などの痛み」が最も多くなっています。各地区によってばらつきがあるものの、大山地区を除き、「交通手段がない」の回答割合が多くなっています。大山地区では、「トイレの心配（失禁など）」と「耳の障害（聞こえの問題など）」が並んで最も多くなっています。

属性別比較

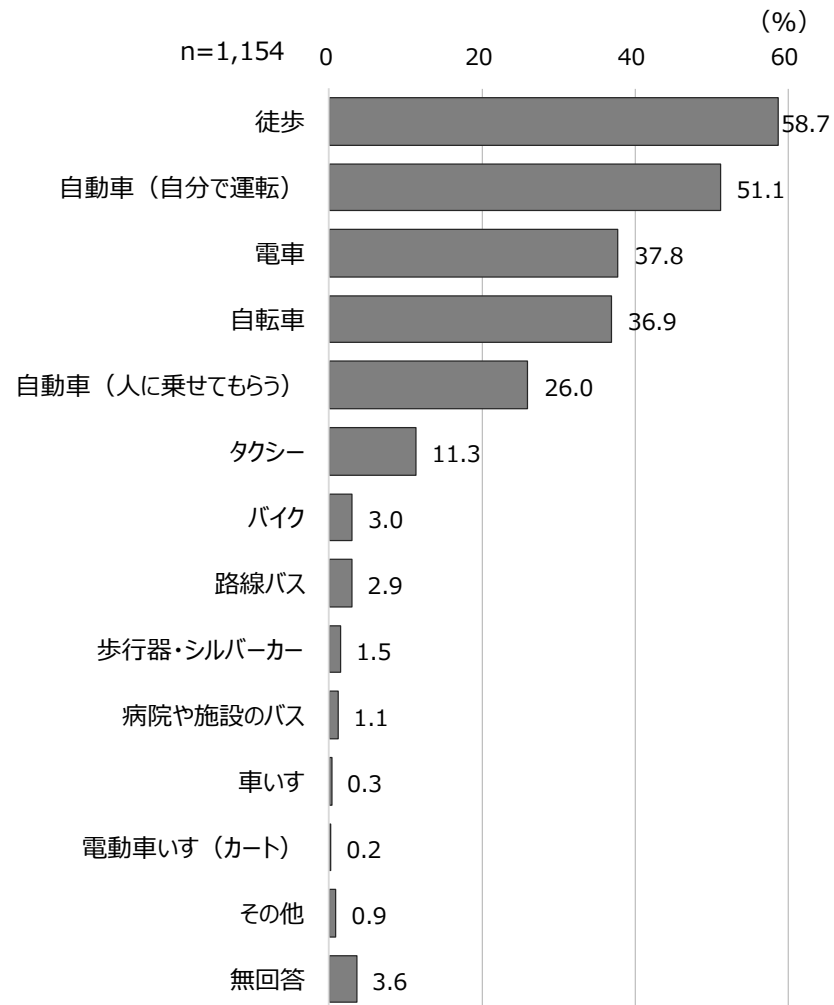
※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

			足腰などの痛み	交通手段がない	トイレの心配 (失禁など)	外での楽しみがない	病気	(聞こえの問題など) 耳の障害	経済的に出られない	目の障害	(脳卒中の後遺症など) 障害	その他	無回答	(%)
全体(n=200)			47.5	27.0	21.5	20.5	14.5	10.0	9.5	6.5	2.5	11.5	1.5	
性別	男性(n=72)		40.3	20.8	20.8	25.0	25.0	13.9	5.6	8.3	4.2	9.7	1.4	
	女性(n=126)		51.6	31.0	21.4	18.3	8.7	7.9	11.9	5.6	1.6	11.9	1.6	
年齢別	65～74歳(n=38)		34.2	10.5	26.3	21.1	31.6	5.3	18.4	7.9	0.0	15.8	2.6	
	75～84歳(n=109)		49.5	25.7	18.3	17.4	10.1	8.3	9.2	4.6	1.8	11.0	0.9	
	85歳以上(n=51)		52.9	43.1	23.5	27.5	11.8	17.6	3.9	9.8	5.9	7.8	2.0	
6地区別	菁莪地区(n=33)		45.5	36.4	9.1	12.1	6.1	9.1	0.0	6.1	3.0	9.1	6.1	
	白岡駅周辺地区(n=57)		50.9	21.1	19.3	29.8	14.0	3.5	15.8	5.3	0.0	19.3	0.0	
	篠津・西地区(n=35)		37.1	37.1	25.7	14.3	14.3	2.9	5.7	5.7	5.7	2.9	2.9	
	新白岡駅周辺地区(n=41)		46.3	22.0	29.3	19.5	17.1	12.2	9.8	4.9	2.4	9.8	0.0	
	白岡・白岡東地区(n=25)		60.0	24.0	16.0	24.0	24.0	8.0	12.0	4.0	12.0	0.0	0.0	
	大山地区(n=6)		50.0	16.7	50.0	16.7	0.0	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	

問18 外出する際の移動手段は何ですか。〔あてはまるものすべてに○〕

全体 「徒歩」が58.7%で最も多く、次いで「自動車（自分で運転）」（51.1%）、「電車」（37.8%）となっています。また、「電車」以外の公共交通機関は、「タクシー」（11.3%）と「路線バス」（2.9%）となっています。

全体



性別 男性は、「自動車（自分で運転）」が70.2%と最も多い一方、女性は33.7%に留まっており、男女で大きな差がみられます。女性は、「徒歩」（56.1%）が最も多く、次いで「自転車」（38.5%）が多くなっています。

年齢 84歳以下では、「徒歩」に加え、「自動車（自分で運転）」が多い一方、85歳以上では、「徒歩」に加え、「自動車（人に乗せてもらう）」が多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

(%)

		徒歩	自動車 (自分で運転)	電車	自転車	自動車 (人に乗せてもらう)	タクシー	バイク	路線バス	歩行器・シルバーカー	病院や施設のバス	車いす
全体(n=1,154)		58.7	51.1	37.8	36.9	26.0	11.3	3.0	2.9	1.5	1.1	0.3
性別	男性(n=537)	62.2	70.2	38.0	35.2	14.7	6.9	4.3	2.8	0.2	0.0	0.4
	女性(n=603)	56.1	33.7	38.0	38.5	36.5	15.3	2.0	3.2	2.7	2.0	0.2
年齢別	65～74歳(n=432)	61.6	64.1	43.5	33.8	23.1	6.0	3.7	2.8	0.5	0.5	0.0
	75～84歳(n=572)	59.4	48.3	37.6	41.4	27.3	12.8	3.1	3.5	1.7	0.7	0.3
	85歳以上(n=136)	49.3	19.9	22.8	29.4	30.9	22.8	0.7	1.5	3.7	4.4	0.7
圏域別 日常生活	日勝圏域(n=490)	55.3	50.0	36.1	34.3	24.7	13.3	4.1	2.7	1.2	1.0	0.0
	篠津・大山圏域(n=650)	61.8	51.7	39.4	39.4	27.2	10.0	2.3	2.8	1.7	1.1	0.5

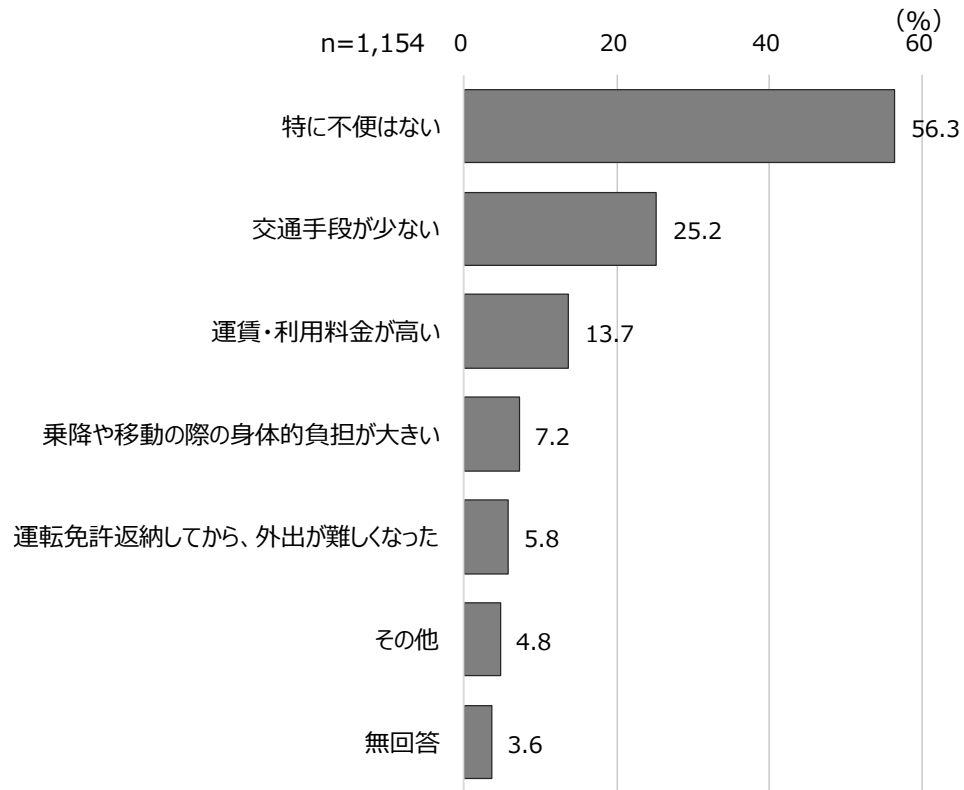
(%)

		電動車いす (カート)	その他	無回答
全体(n=1,154)		0.2	0.9	3.6
性別	男性(n=537)	0.0	0.6	3.9
	女性(n=603)	0.3	1.2	3.2
年齢別	65～74歳(n=432)	0.2	0.2	1.9
	75～84歳(n=572)	0.0	1.0	3.5
	85歳以上(n=136)	0.7	2.2	8.8
圏域別 日常生活	日勝圏域(n=490)	0.4	1.0	4.5
	篠津・大山圏域(n=650)	0.0	0.6	2.8

問19 外出する際に不便を感じることは次のうちどれですか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「特に不便はない」が56.3%で最も多く、次いで「交通手段がない」(25.2%)、「運賃・利用料金が高い」(13.7%)となっています。

全体



性別 女性は、「特に不便はない」の割合が男性よりも12.7ポイント少ない一方、「交通手段が少ない」の割合が9.9ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「特に不便はない」の割合が減り、「交通手段が少ない」の割合が増えています。85歳以上では、3割以上が交通手段が少ないことを不便に感じています。

6地区 「交通手段が少ない」の割合は、白岡・白岡東地区では1割半ばである一方、篠津・西地区では約3割、薮荻地区では約4割となっています。

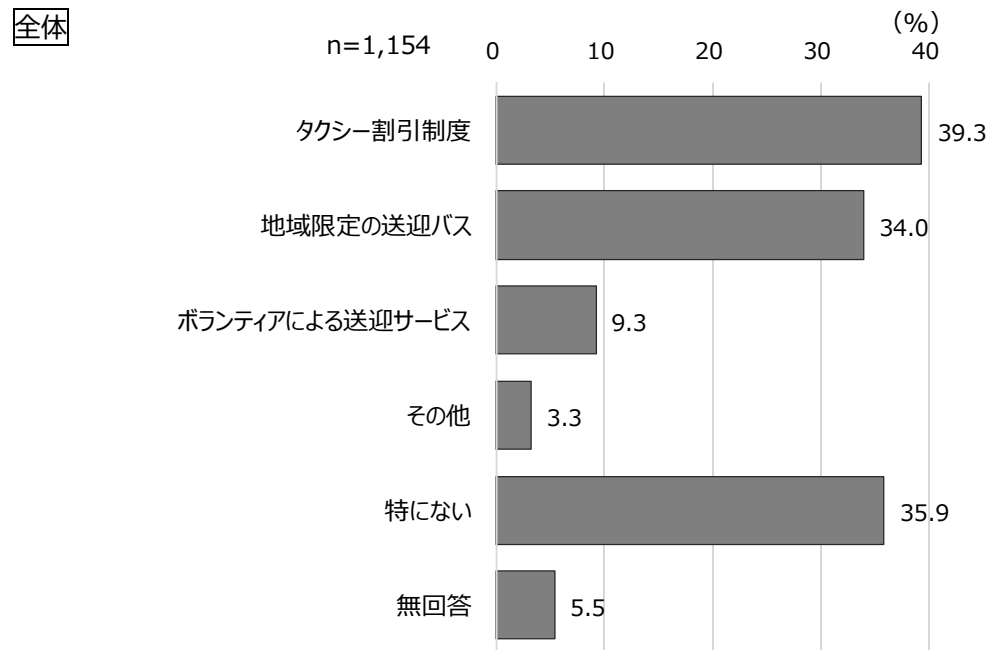
属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

								(%)
		特に不便はない	交通手段が少ない	運賃・利用料金が高い	乗降や移動の際の 身体的負担が大きい	運転免許返納してから、 外出が難しくなった、	その他	無回答
全体(n=1,154)		56.3	25.2	13.7	7.2	5.8	4.8	3.6
性別	男性(n=537)	63.3	20.1	12.3	4.8	5.6	3.7	3.0
	女性(n=603)	50.6	30.0	14.8	9.0	6.0	5.6	4.1
年齢別	65～74歳(n=432)	68.5	18.5	11.8	3.7	0.7	4.2	2.1
	75～84歳(n=572)	51.0	28.7	14.7	7.2	7.7	5.8	3.5
	85歳以上(n=136)	40.4	33.1	15.4	17.6	14.7	2.2	8.8
6地区別	薮荻地区(n=206)	44.7	38.8	14.1	4.9	5.8	6.3	5.3
	白岡駅周辺地区(n=284)	61.3	19.7	12.0	9.5	6.3	4.2	3.5
	篠津・西地区(n=226)	54.0	28.3	18.1	5.3	5.8	2.2	4.0
	新白岡駅周辺地区(n=234)	59.0	21.8	14.1	5.6	4.3	6.0	1.7
	白岡・白岡東地区(n=150)	62.7	16.7	11.3	9.3	8.7	6.0	3.3
	大山地区(n=40)	65.0	22.5	7.5	10.0	2.5	2.5	5.0

問20 あれば利用したい移動支援サービスは何ですか。【あてはまるものすべてに○】

全体 「タクシー割引制度」が39.3%で最も多く、次いで「地域限定の送迎バス」(34.0%)となっています。また、「特にない」が35.9%となっています。



性別 女性は、男性と比較して「タクシー割引制度」の割合が11.9ポイント、「地域限定の送迎バス」の割合が8.4ポイント多くなっています。

年齢 全年代において、「タクシー割引制度」と「地域限定の送迎バス」が上位を占めています。85歳以上では、「ボランティアによる送迎サービス」が14.0%で他の年代と比べ多くなっています。

6地区 「タクシー割引制度」は、大山地区を除いた5地区では、約4割が回答しています。「地域限定の送迎バス」は、菁莪地区では4割前半、篠津・西地区、大山地区で3割後半が回答しています。

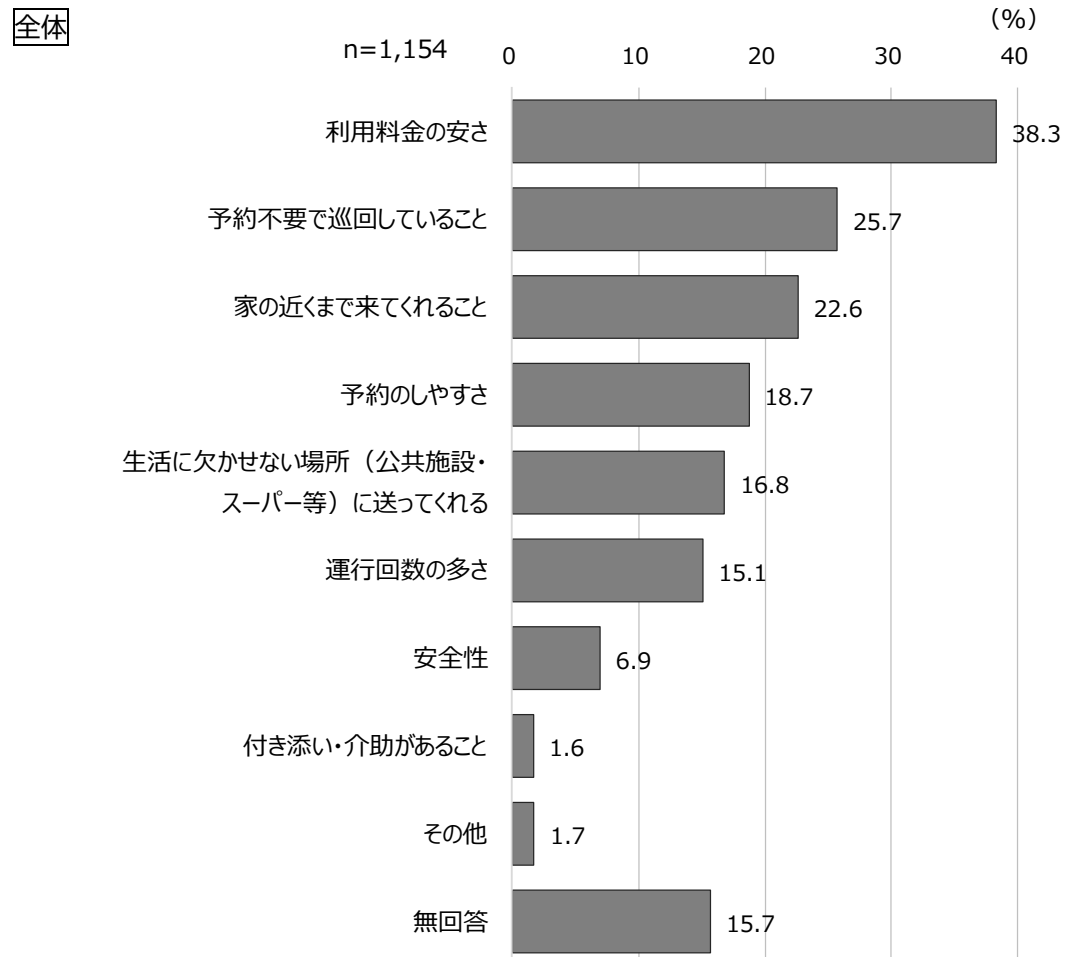
属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)					
		タクシー割引制度	地域限定の送迎バス	ボランティアによる送迎サービス	その他	特にない	無回答
全体(n=1,154)		39.3	34.0	9.3	3.3	35.9	5.5
性別	男性(n=537)	33.0	29.6	7.6	3.2	42.1	5.4
	女性(n=603)	44.9	38.0	10.9	3.3	30.5	5.5
年齢別	65～74歳(n=432)	39.8	33.8	7.6	3.5	39.6	3.5
	75～84歳(n=572)	38.6	34.8	9.6	3.0	34.6	6.8
	85歳以上(n=136)	41.9	33.1	14.0	2.9	29.4	5.9
6地区別	菁莪地区(n=206)	40.8	40.8	13.1	3.9	31.6	7.3
	白岡駅周辺地区(n=284)	39.1	31.0	9.9	3.9	35.9	4.6
	篠津・西地区(n=226)	38.9	37.2	8.0	4.9	34.1	4.9
	新白岡駅周辺地区(n=234)	41.9	35.9	8.1	0.9	36.8	3.8
	白岡・白岡東地区(n=150)	39.3	22.7	8.0	2.7	44.0	6.0
	大山地区(n=40)	22.5	37.5	5.0	0.0	37.5	10.0

問21 移動支援サービスを利用する際に重視する点は何ですか。〔〇は2つまで〕

全体 「利用料金の安さ」が38.3%で最も多く、次いで「予約不要で巡回していること」(25.7%)、「家の近くまで来てくれること」(22.6%)となっています。



性別 女性は、「予約不要で巡回していること」が30.8%で、男性と比較して10.9ポイント多くなっています。

年齢 年代が低くなるほど、「利用料金の安さ」の割合が多くなっており、65～74歳では、約半数が回答しています。85歳以上では、「利用料金の安さ」よりも「予約不要で巡回していること」の割合がやや多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		利用料金の安さ	予約不要で巡回していること	家の近くまで来てくれること	予約のしやすさ	(生活に欠かせない場所) (公共施設・スーパー等) に送ってくれる	運行回数の多さ	安全性	付き添い・介助があること	その他	無回答
全体(n=1,154)		38.3	25.7	22.6	18.7	16.8	15.1	6.9	1.6	1.7	15.7
性別	男性(n=537)	41.2	19.9	21.6	20.7	14.3	17.5	8.4	1.9	2.0	14.9
	女性(n=603)	36.2	30.8	23.5	17.2	18.7	12.9	5.8	1.5	1.5	16.3
年齢別	65～74歳(n=432)	47.0	28.0	22.5	18.3	18.5	16.9	7.9	1.6	0.9	10.9
	75～84歳(n=572)	35.5	24.3	23.1	19.6	15.4	15.2	7.3	1.4	1.4	17.8
	85歳以上(n=136)	24.3	25.0	21.3	17.6	16.9	9.6	2.9	2.9	4.4	21.3
圏域別 日常生活	日勝圏域(n=490)	38.8	28.0	20.8	18.0	18.4	15.1	8.6	1.2	1.6	15.3
	篠津・大山圏域(n=650)	38.5	24.2	24.0	19.5	15.2	15.2	5.8	2.0	1.8	15.7

問22 「問21で「1 利用料金の安さ」を選択した方のみお答えください」

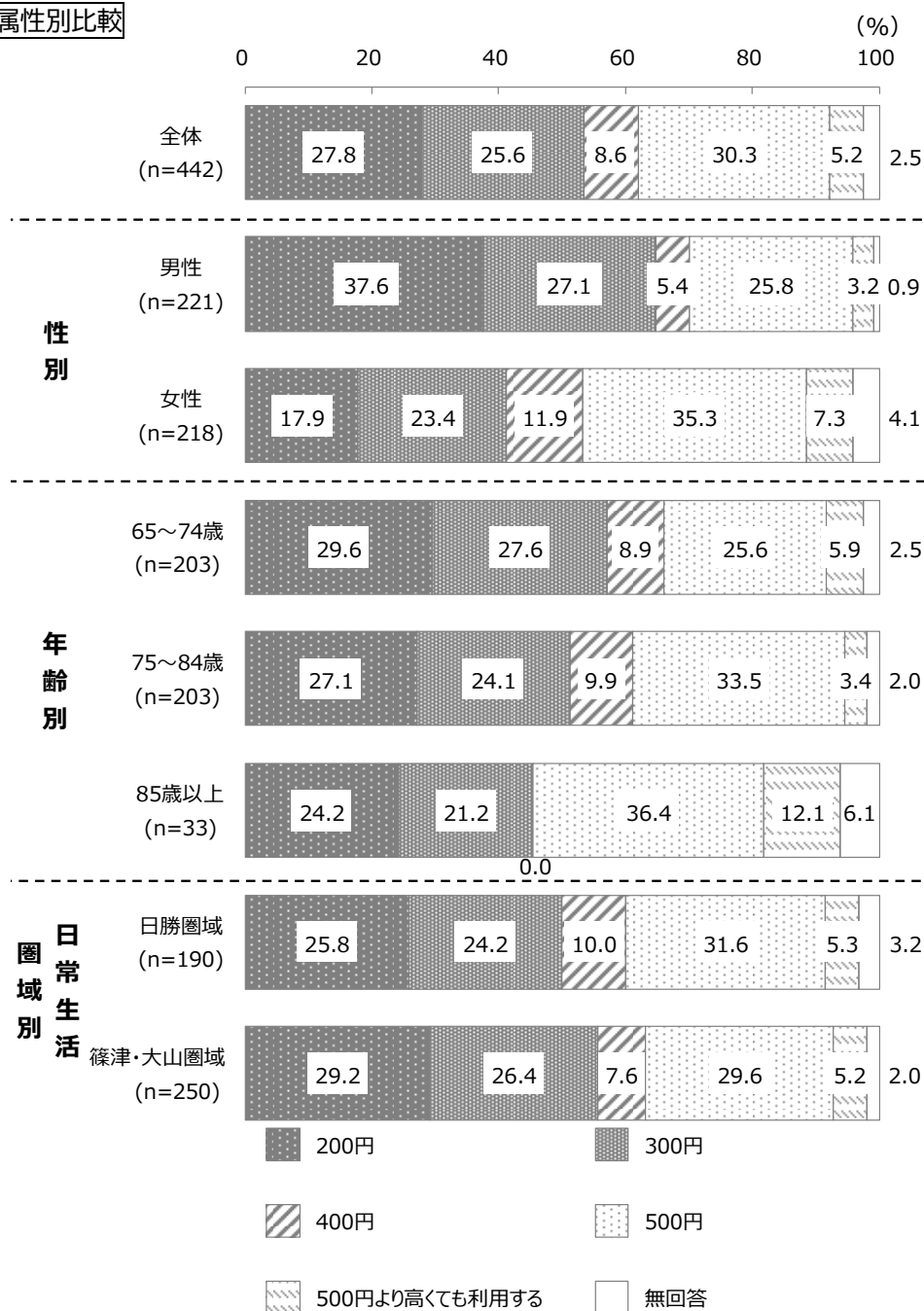
市内1回の乗車につき、高くても利用を控えると思う料金設定はいくらですか。[1つに○]

全体 「500円」が30.3%で最も多く、次いで「200円」(27.8%)、「300円」(25.6%)となっており、半数以上の方が300円以下と回答しています。

性別 男性は、「200円」が37.6%で最も多い一方、女性は「500円」が35.3%で最も多くなっており、女性の方が、高くても利用を控えると思う金額は高くなっています。

年齢 85歳以上では、「500円」と「500円より高くても利用する」を合わせた500円以上と回答した割合が48.5%と半数近くを占めており、84歳以下と比較して多くなっています。

全体・属性別比較



4. 食べることについて

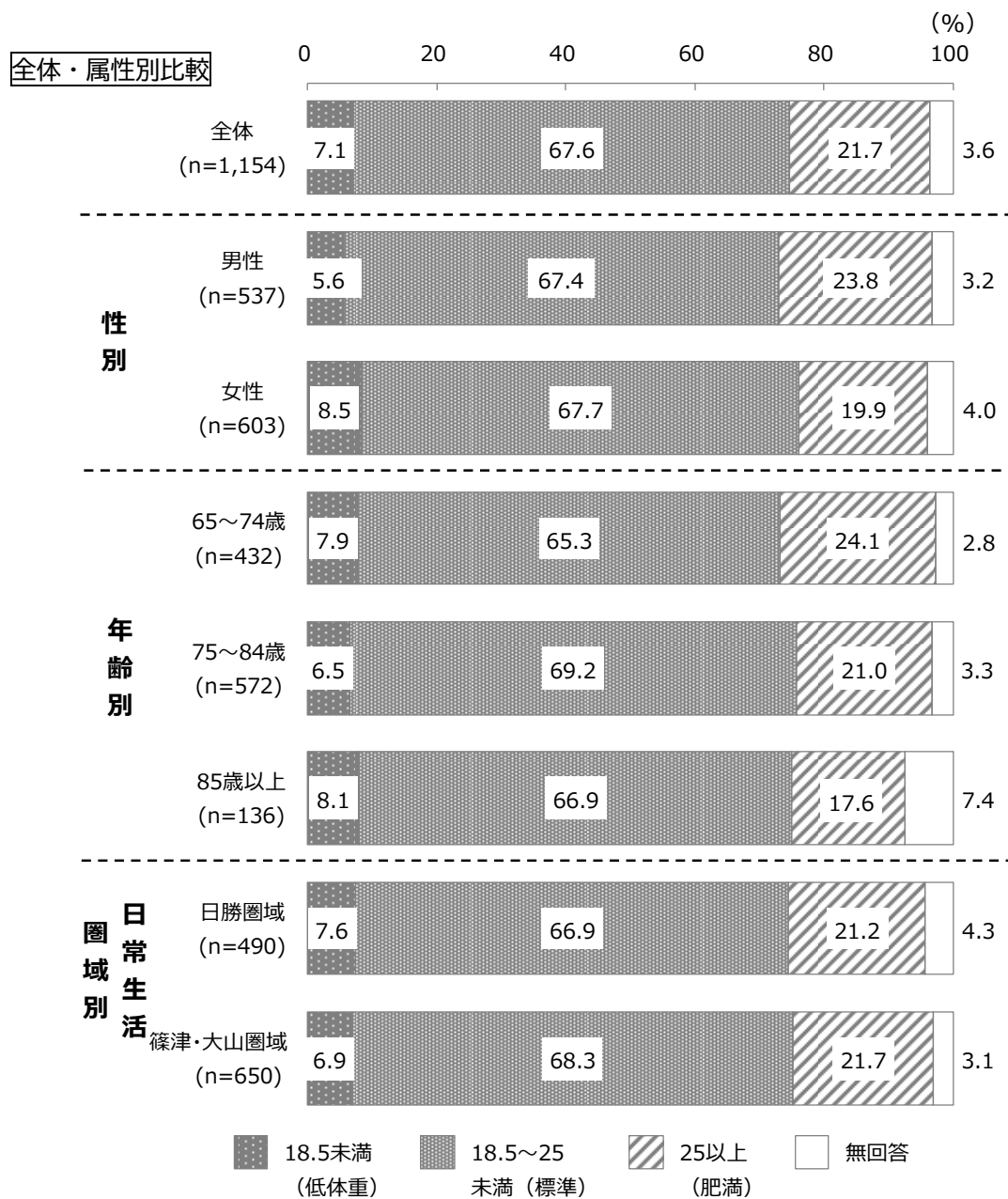
問23 身長・体重を教えてください。

全体 身長と体重をたずねて、BMI※を算出しました。67.6%の人が「標準」である一方、「肥満」が21.7%、「低体重」が7.1%となっています。「低体重」に該当する人は、低栄養が疑われます。

年齢 65～74歳は、「肥満」の割合が24.1%で、85歳以上と比較して、6.5ポイント多くなっています。

※BMI：体重（Kg）÷（身長（m）×身長（m））

18.5以下→低体重、18.5～25.0未満→標準、25.0以上→肥満



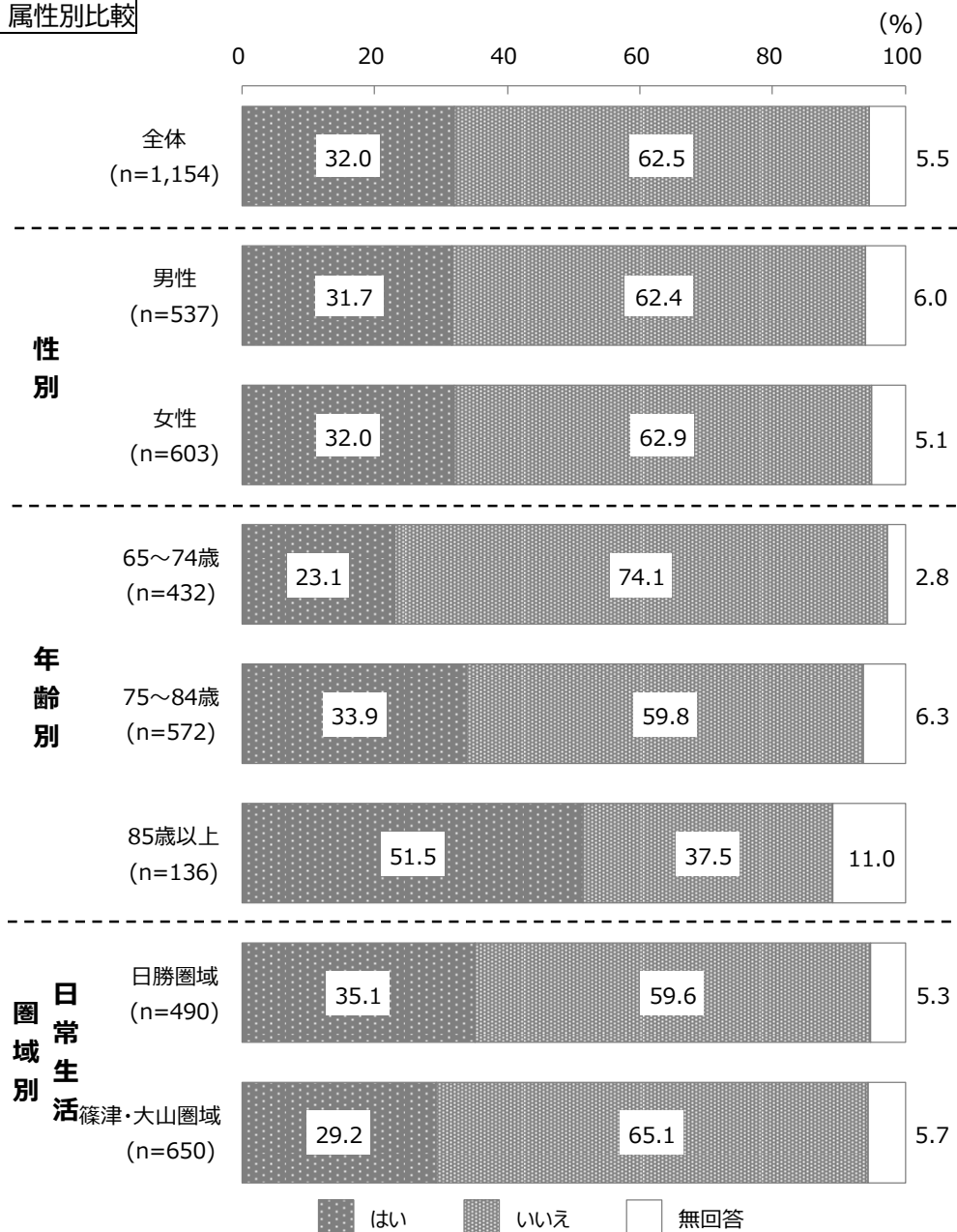
問24 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。[1つに〇]

全体 「いいえ」が62.5%で、「はい」が32.0%となっています。

年齢 年代が高くなるほど、「はい」の回答割合が増え、85歳以上では、過半数が半年前に比べて固いものが食べにくくなったと回答しています。

日常生活圏域 日勝圏域では、篠津・大山圏域と比べて「はい」と回答した割合が5.9ポイント多くなっています。

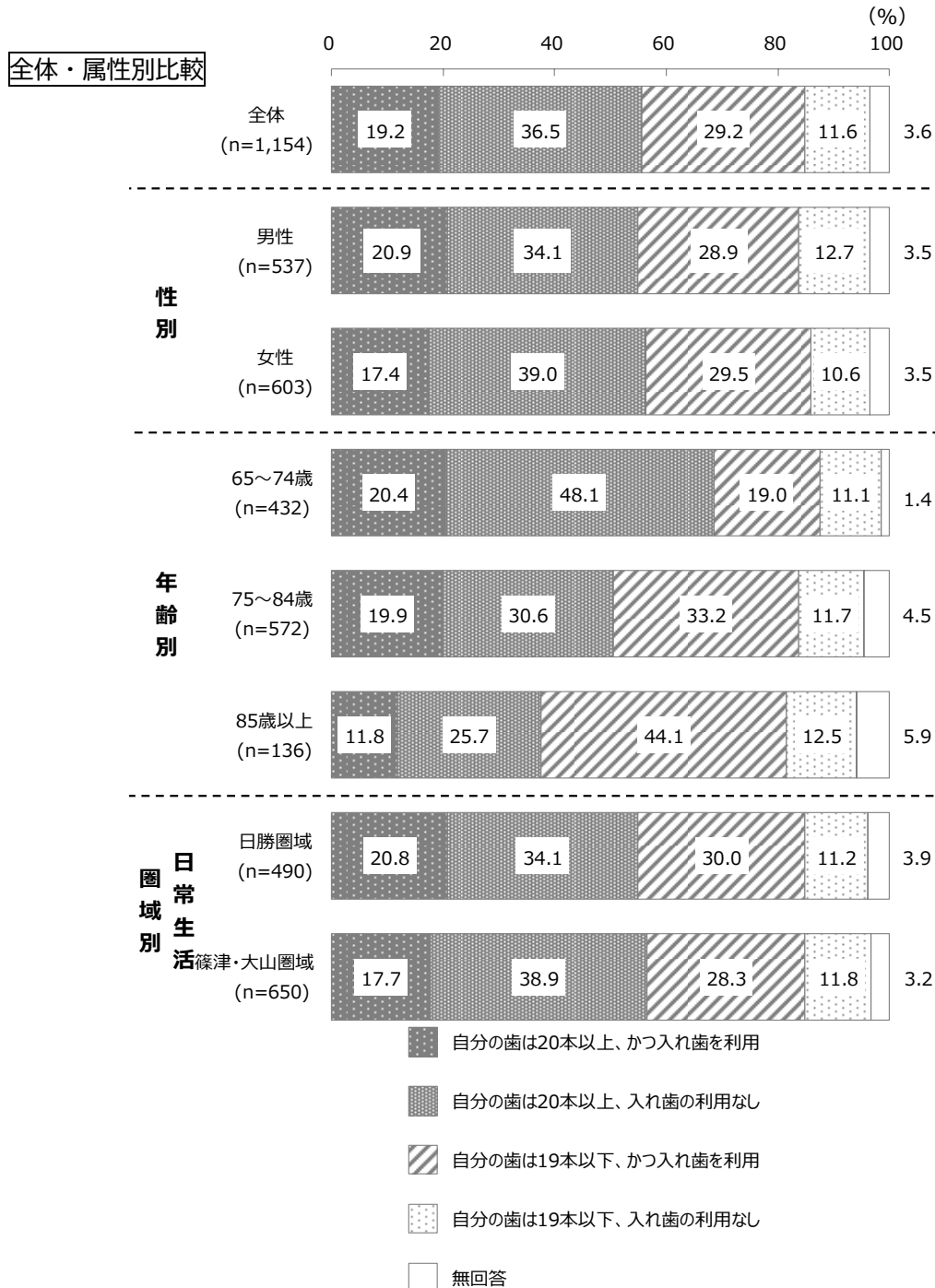
全体・属性別比較



問25 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です) [1つに○]

全体 「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が36.5%で最も多く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(29.2%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(19.2%)となっています。自分の歯が20本以上あると回答した人が半数以上います。また、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」と回答した人が約1割います。

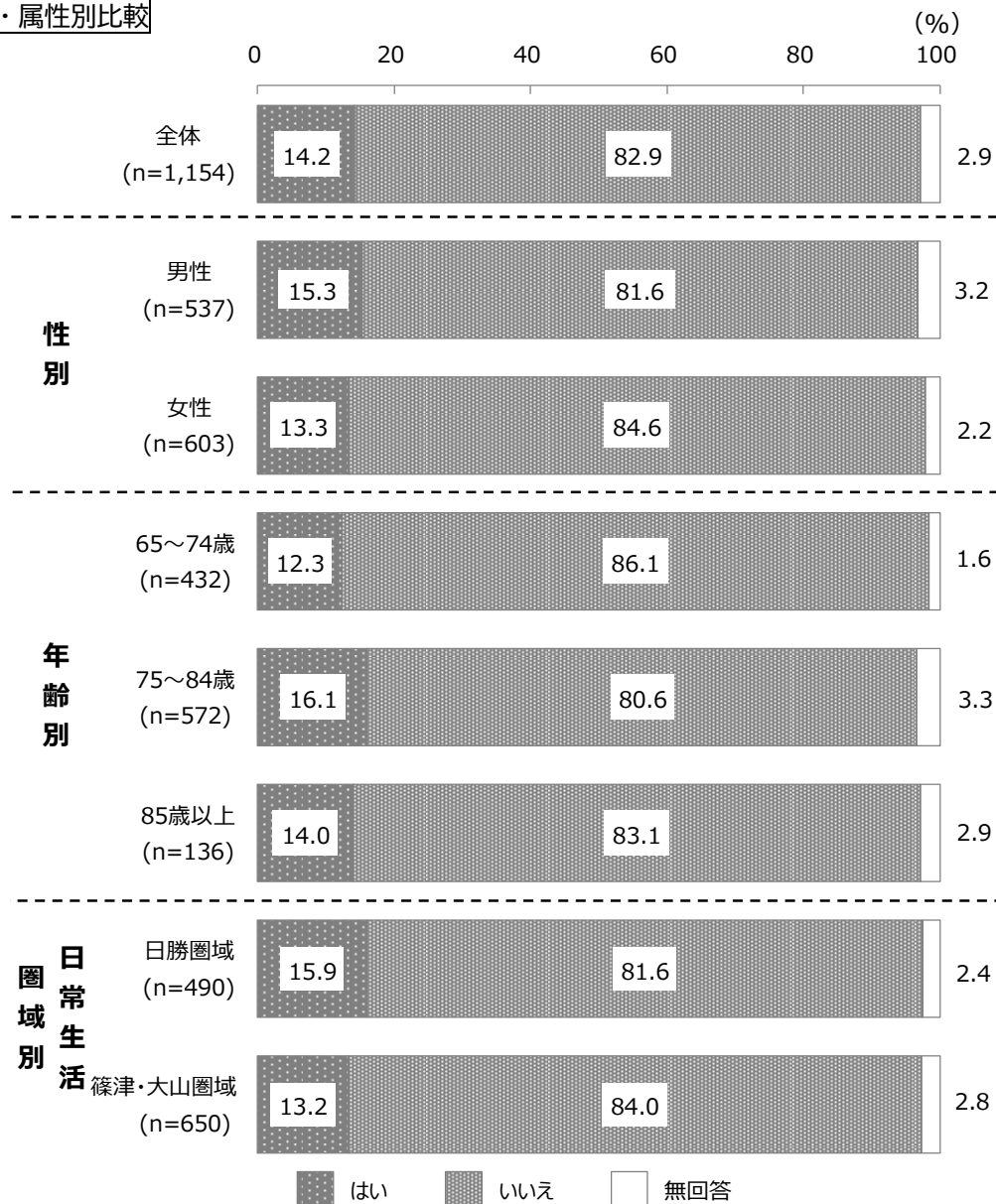
年齢 年代が高くなるほど、自分の歯が20本以上あると回答した人が減り、85歳以上では、4割以下となっています。



問26 6か月間で2～3Kg以上の体重減少がありましたか。[1つに○]

全体 「いいえ」が82.9%で大半を占めるものの、「はい」と回答した人が14.2%います。
年齢 75～84歳は、「いいえ」の割合が65～74歳と比較して、5.5ポイント少なくなっており、6か月間で2～3Kg以上の体重減少のあった人がやや多くなっています。

全体・属性別比較



【低栄養の傾向】

問23「身長・体重」から算出されるBMIが18.5以下（低体重）で、かつ問26「6か月間で2～3Kg以上の体重減少がありましたか。」で「はい」と回答している人は、低栄養状態にあると言えます。該当者は20人、全体の1.7%となっています。

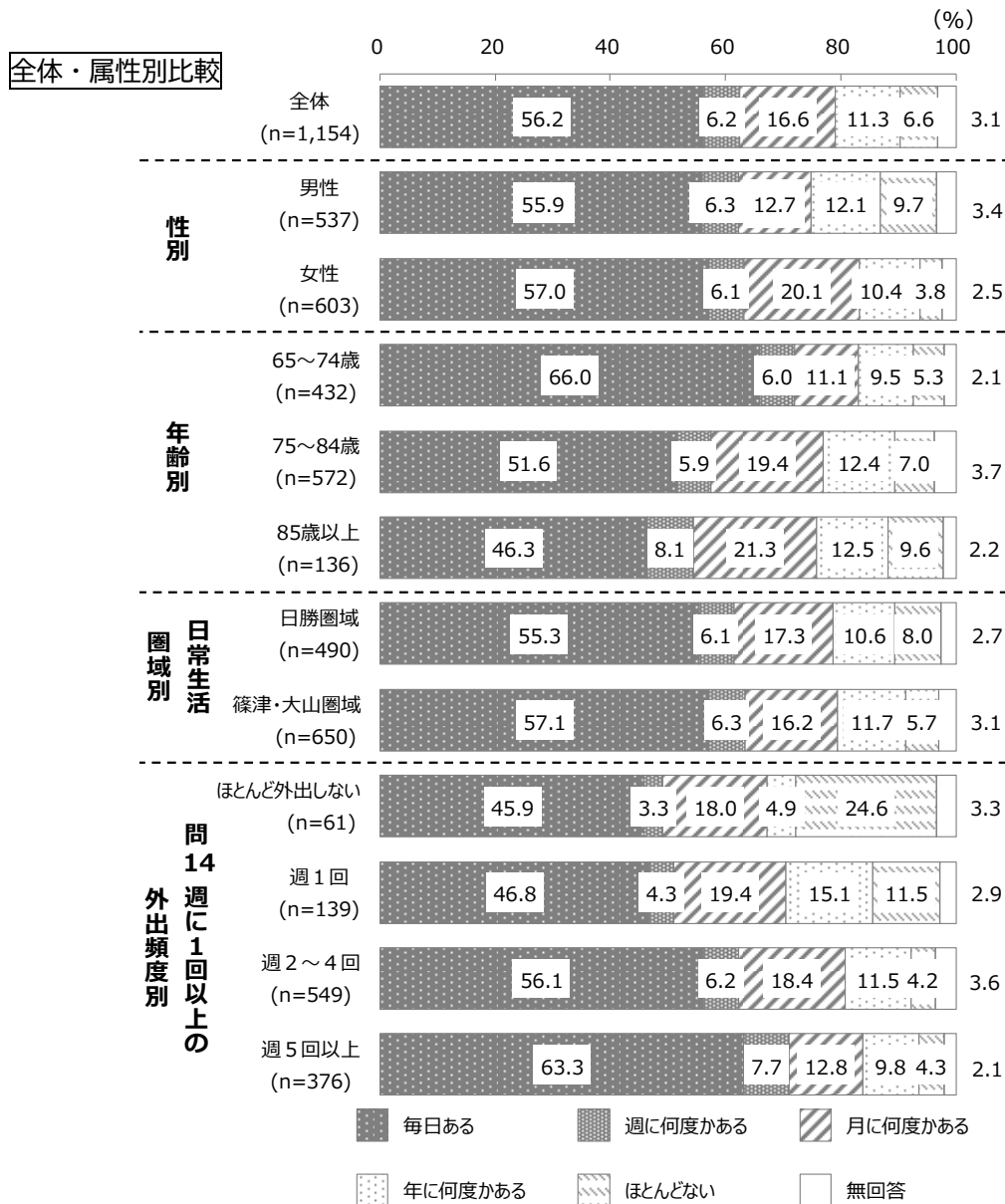
問27 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。[1つに○]

全体 「毎日ある」が56.2%で最も多く、次いで「月に何度かある」(16.6%)、「年に何度かある」(11.3%)となっています。「月に何度かある」、「年に何度かある」、「ほとんどない」を合わせると、3割以上が、誰かと食事をすることが月に数回以下となっています。

性別 女性は、「毎日ある」(57.0%)に次いで「月に何度かある」(20.1%)となっており、「ほとんどない」は3.8%となっています。一方、男性は「月に何度かある」が12.7%と女性より少なく、「ほとんどない」が9.7%と女性より多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「毎日ある」の割合が減り、85歳以上では半数を下回っており、孤食の頻度が増えています。

外出頻度別 問14の外出頻度別で比較すると、外出頻度が少ないほど、共食の機会が減っています。週5回以上外出する人は、「毎日ある」が6割半ばである一方、ほとんど外出しない人は「毎日ある」が4割半ばに留まり、共食の機会が「ほとんどない」が2割半ばとなっています。



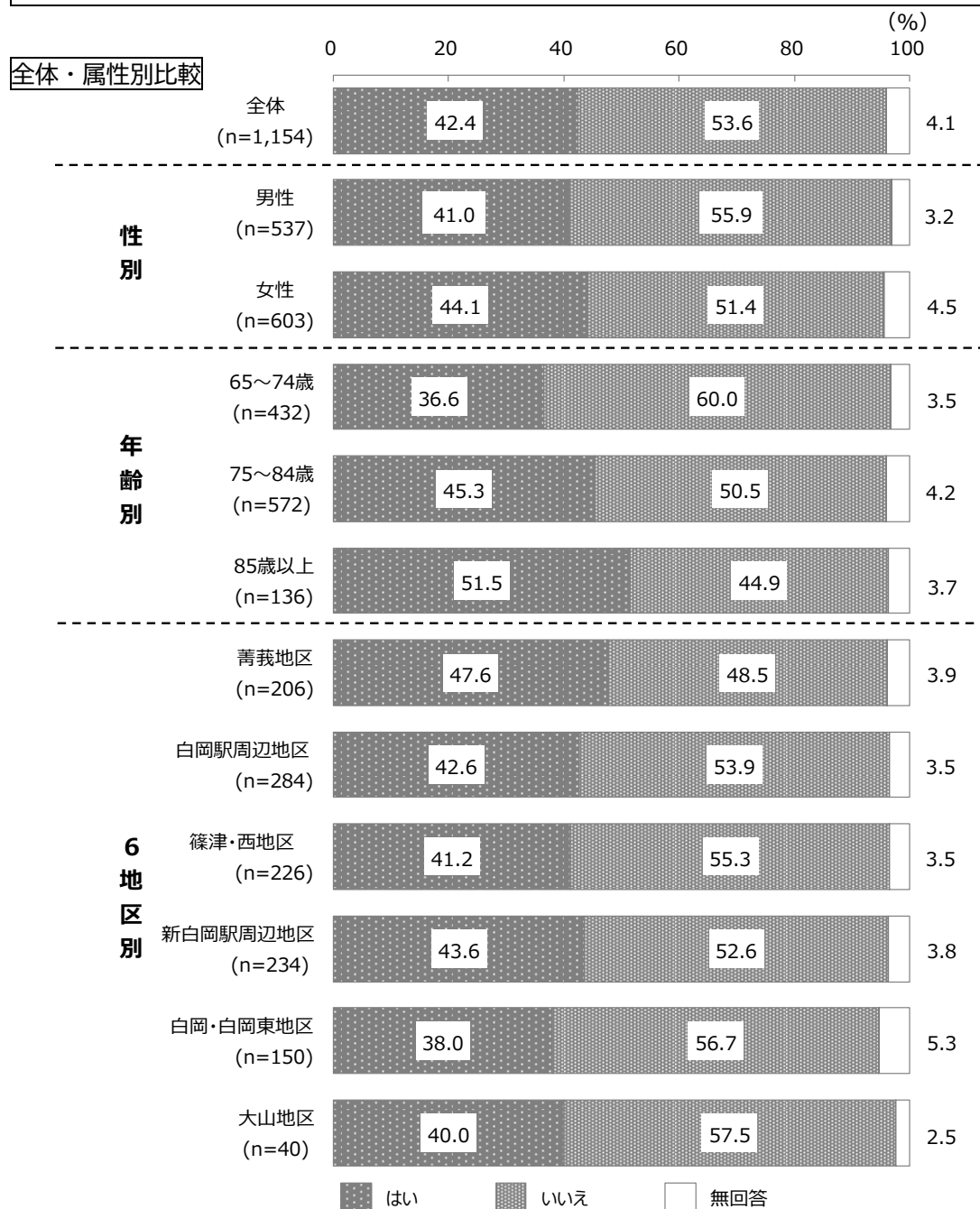
5. 毎日の生活について

問28 物忘れが多いと感じますか。[1つに○]

全体 「いいえ」が53.6%で、「はい」が42.4%となっており、物忘れが多いと感じている人の方が約1割少なくなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「はい」と回答した割合が増えています。65～74歳では、物忘れが多いと感じる人は36.6%であるのに対し、85歳以上では、半数を上回っています。

6地区 白岡・白岡東地区と大山地区では、「はい」と回答した人が4割以下である一方、菁莪地区では、47.6%と物忘れが多いと感じる人が多くなっています。



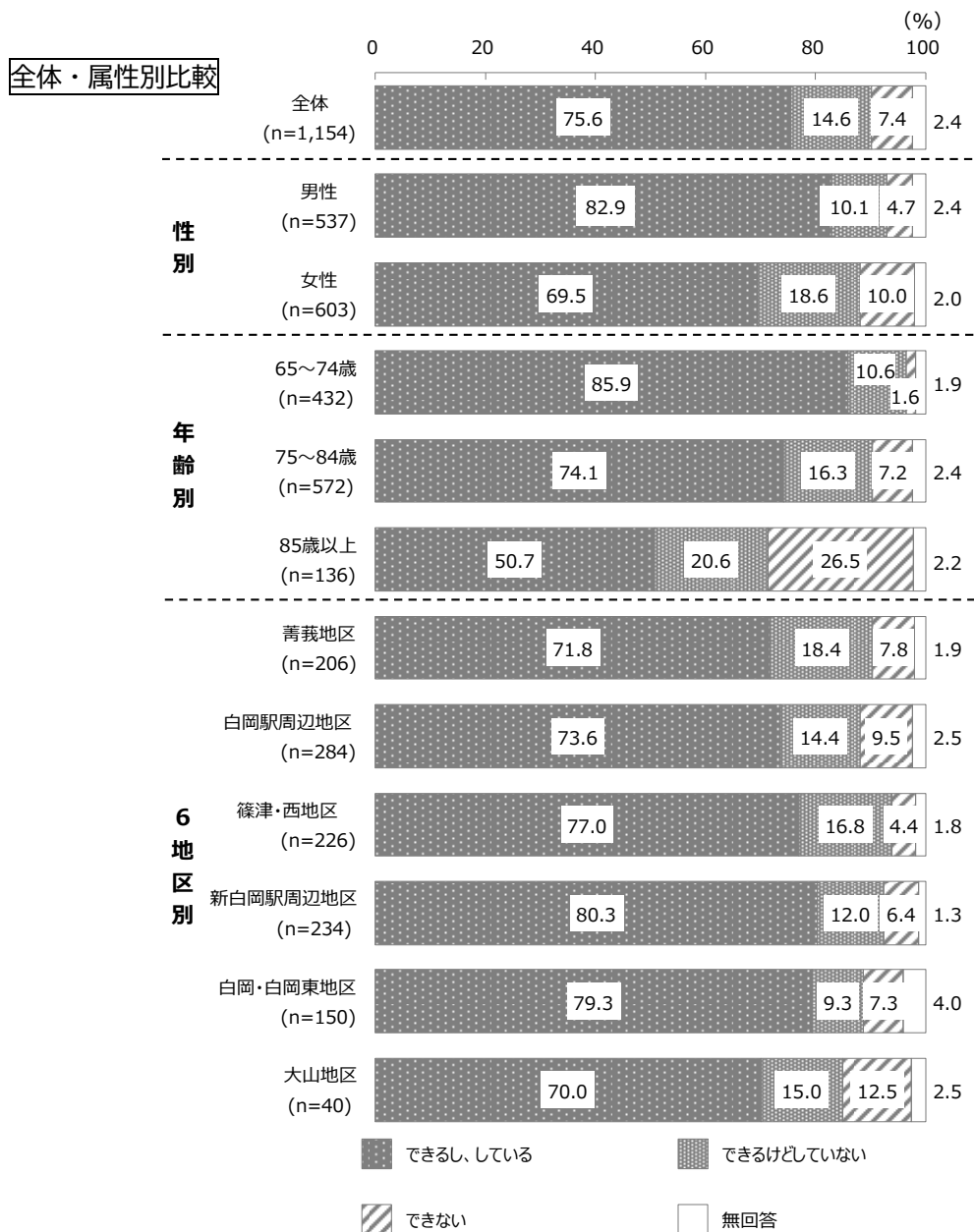
問29 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。[1つに○]

全体 「できるし、している」が75.6%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(14.6%)、「できない」(7.4%)となっています。

性別 女性は、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が28.6%で、男性と比較して13.8ポイント多く、女性の方がバスや電車を使って1人で外出しない割合が多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「できるし、している」と回答した割合が減っており、65～74歳では85.9%で大半を占める一方、85歳以上では約半数となっています。

6地区 白岡・白岡東地区と新白岡駅周辺地区は、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が2割を下回っている一方、薮荻地区と大山地区では2割半ばを上回っており、バスや電車を使って1人で外出しない割合が多くなっています。



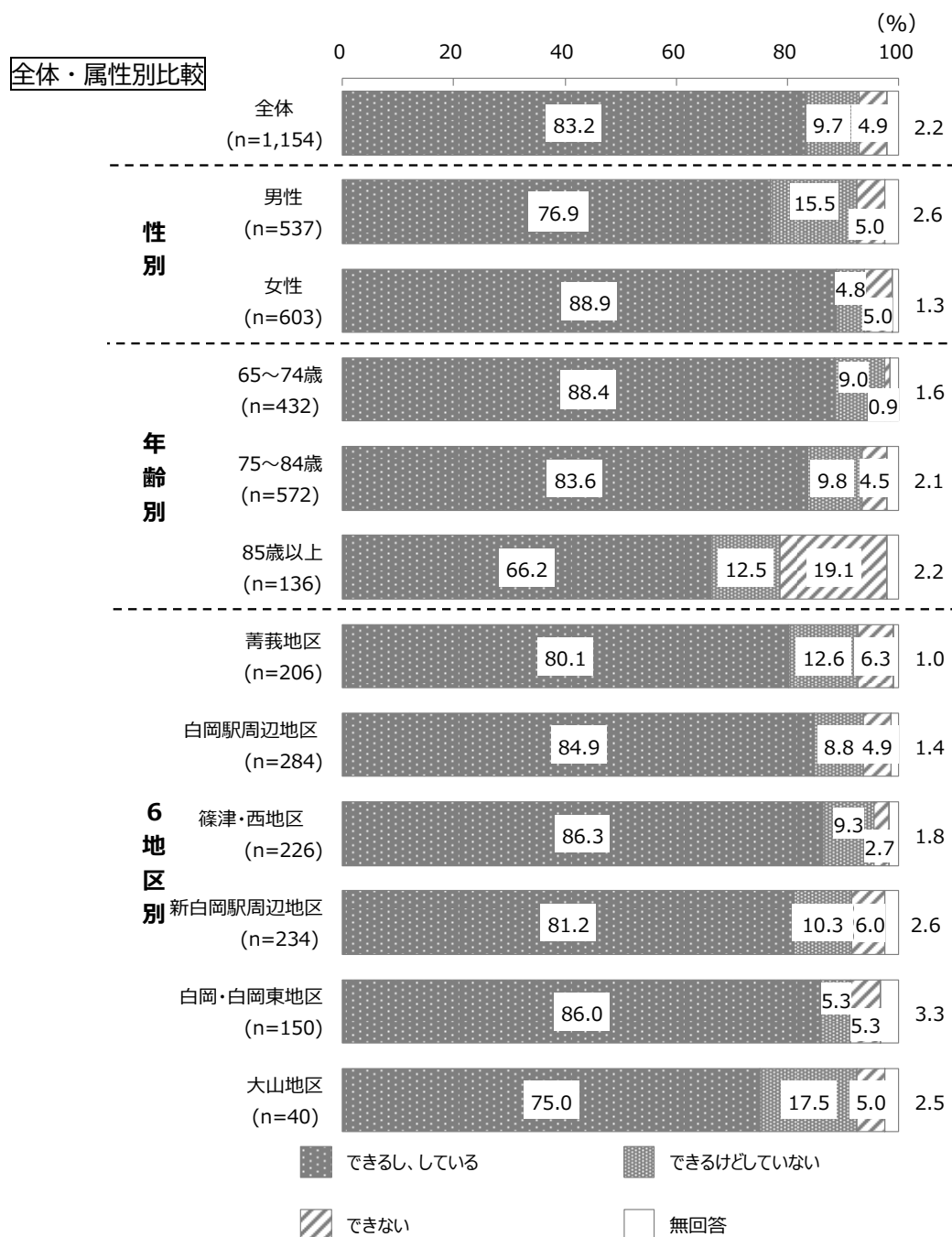
問30 自分で食品・日用品の買物をしていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が83.2%で大半を占める一方、「できるけどしていない」は9.7%、「できない」は4.9%となっています。

性別 男性は、「できるし、している」の割合が女性よりも12.0ポイント少なく、「できるけどしていない」の割合が10.7ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「できるし、している」と回答した割合が減っています。85歳以上では、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が31.6%で3割を超えています。

6地区 白岡・白岡東地区では、「できるけどしていない」の割合が5.3%である一方、大山地区、菁莪地区、新白岡駅周辺地区では、1割を超えており、他の地区と比べて多くなっています。

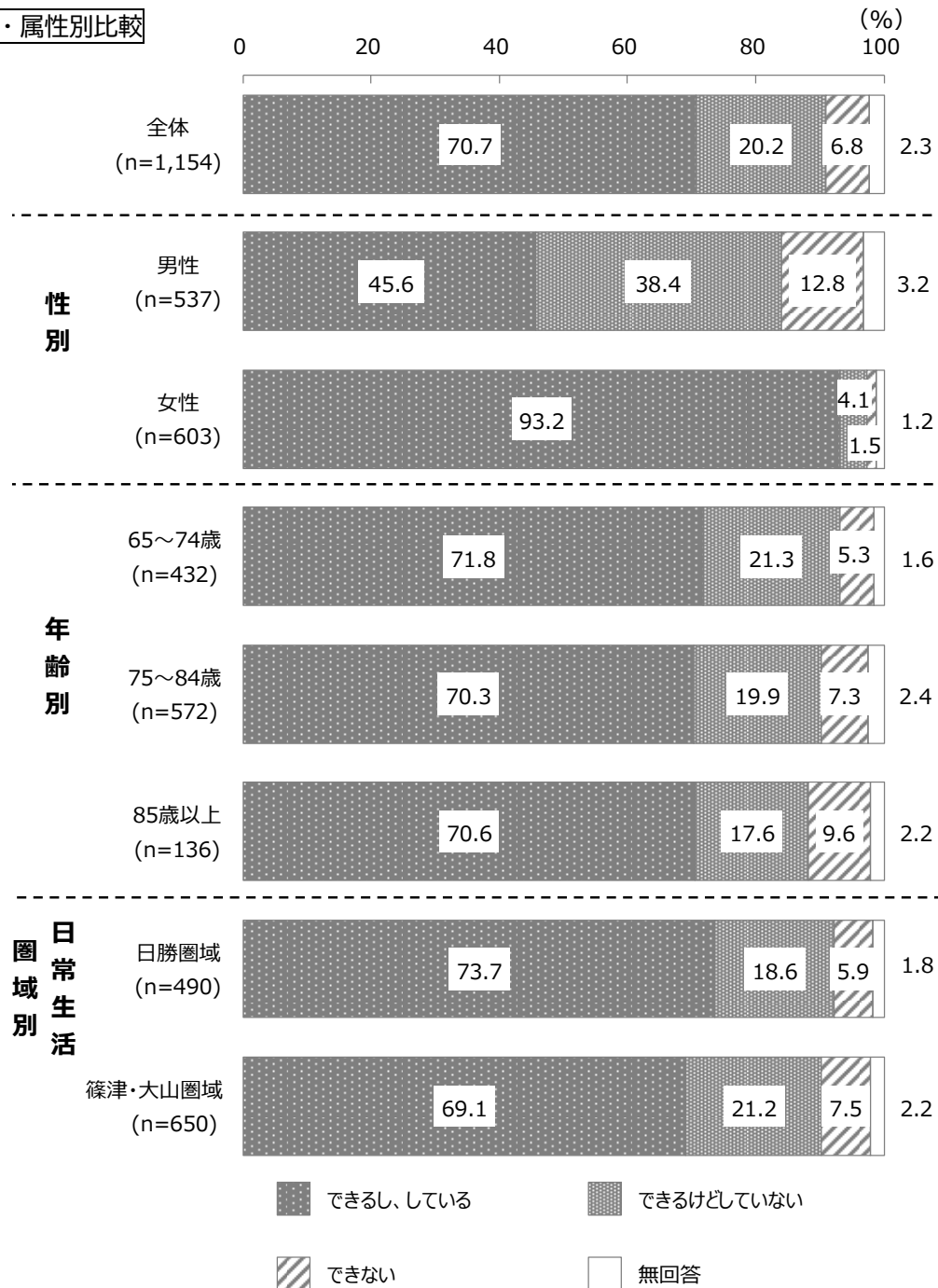


問31 自分で食事の用意をしていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が70.7%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(20.2%)、「できない」(6.8%)となっています。

性別 男性は、「できるし、している」の割合が45.6%で、女性よりも47.6ポイント少なくなっています。一方で、「できるけどしていない」の割合は38.4%で、「できない」と合わせて、約半数が自分で食事の用意をしていないと回答しています。

全体・属性別比較

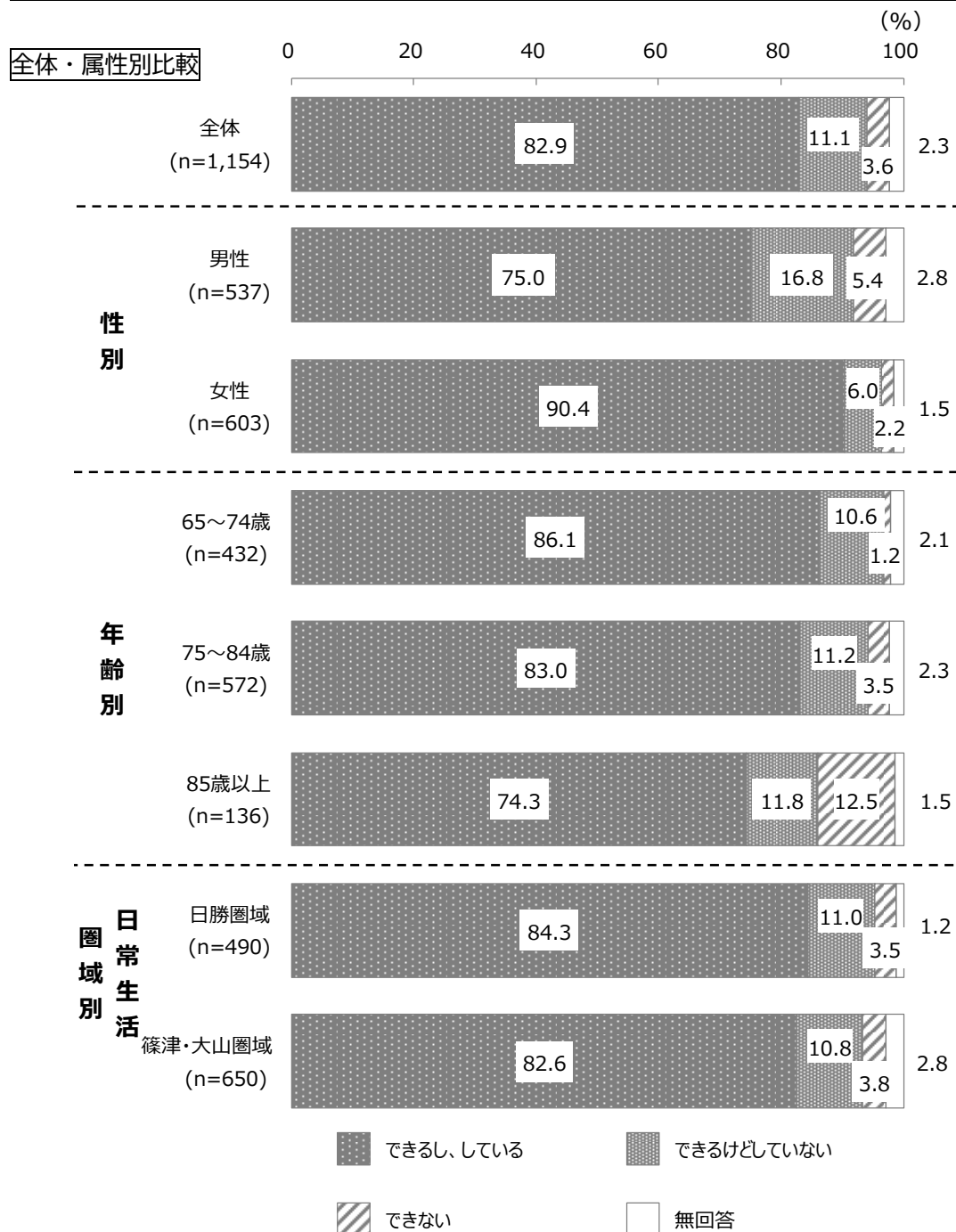


問32 自分で請求書の支払いをしていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が82.9%で大半を占める一方、「できるけどしていない」と「できない」はそれぞれ11.1%、3.6%となっています。

性別 男性は、「できるし、している」の割合が女性よりも15.4ポイント少なく、「できるけどしていない」の割合が10.8ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「できるし、している」と回答した割合が減っています。85歳以上では、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が24.3%で2割半ばとなっています。

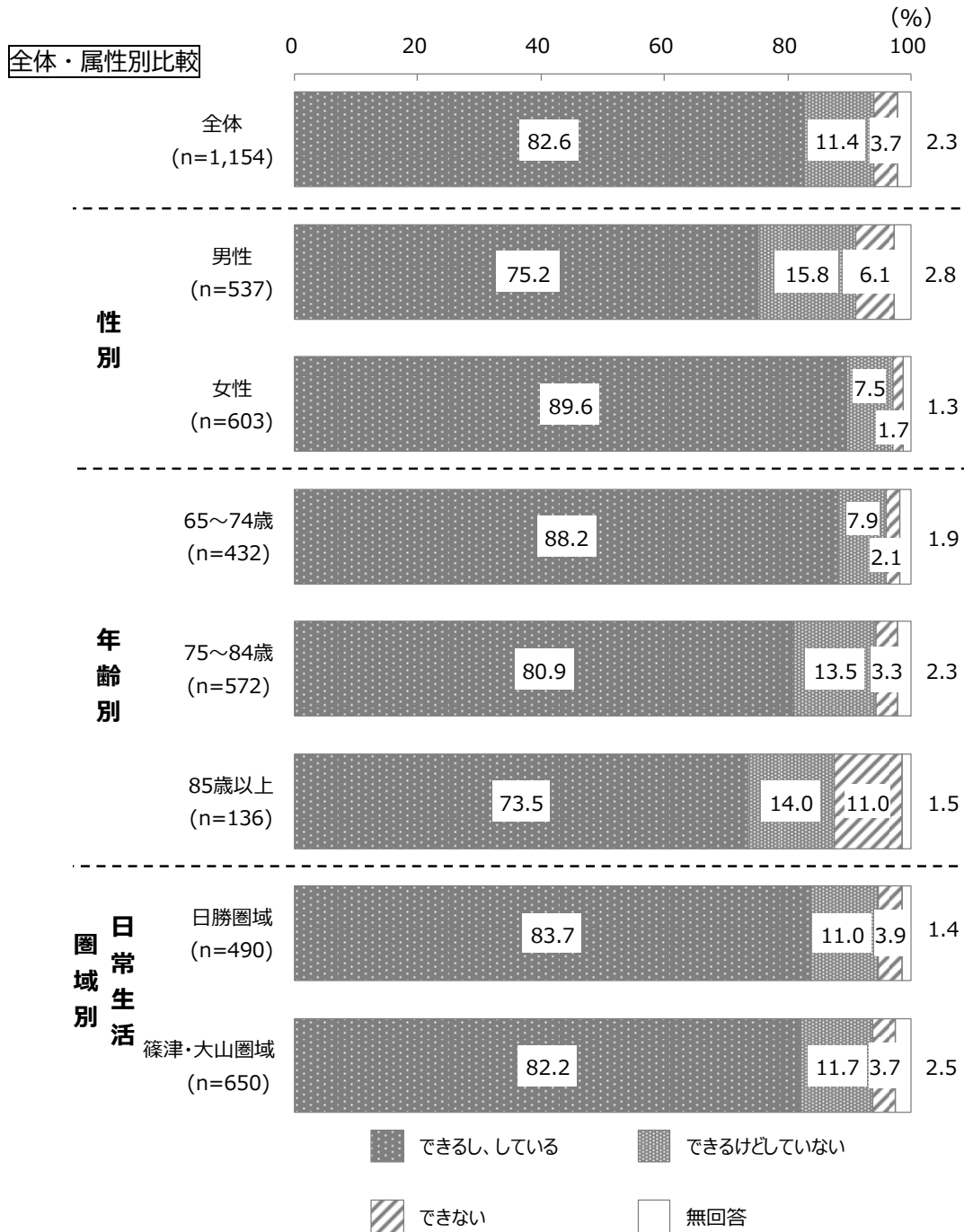


問33 自分で預貯金の出し入れをしていますか。[1つに○]

全体 「できるし、している」が82.6%で大半を占める一方、「できるけどしていない」と「できない」はそれぞれ11.4%、3.7%となっています。

性別 男性は、「できるし、している」の割合が女性よりも14.4ポイント少なく、「できるけどしていない」の割合が8.3ポイント多くなっています。

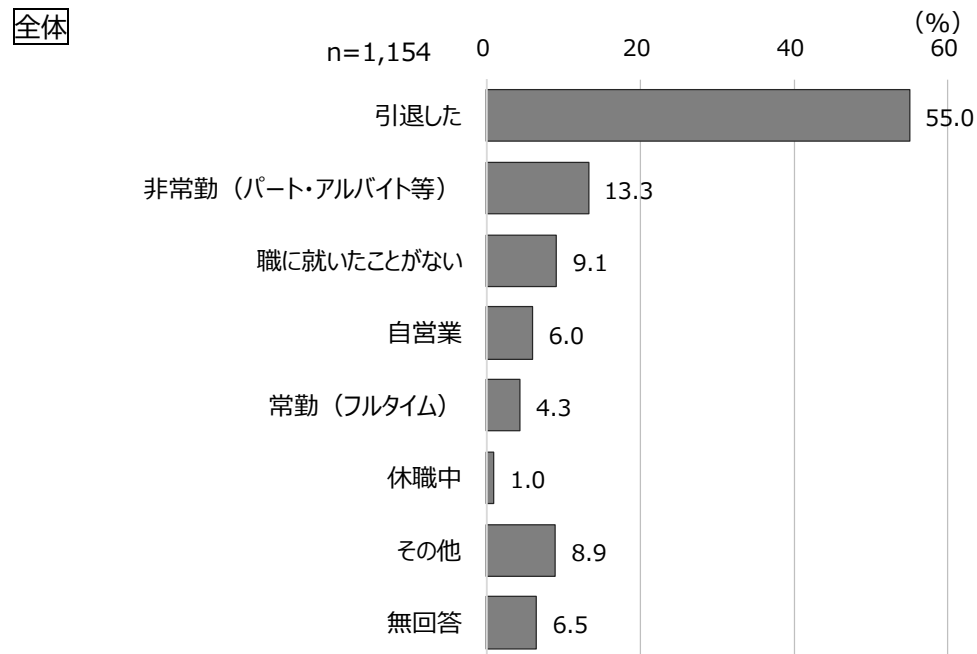
年齢 年代が高くなるほど、「できるし、している」と回答した割合が減っています。85歳以上では、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が25.0%で2割半ばとなっています。



6. 就労について

問34 現在のあなたの就労状態はどれですか【あてはまるものすべてに○】

全体「引退した」が55.0%で最も多く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」（13.3%）、「職に就いたことがない」（9.1%）となっています。「非常勤（パート・アルバイト等）」（13.3%）、「自営業」（6.0%）、「常勤（フルタイム）」（4.3%）を合わせると、現在働いている人は23.6%で、2割前半となっています。



性別 男性は、女性と比較して「引退した」の割合が8.4ポイント、「常勤（フルタイム）」の割合が6.1ポイント多く、「職に就いたことがない」が6.9ポイント少なくなっています。

年齢 全年代において、「引退した」が半数を超えて最も多くなっています。また、「非常勤（パート・アルバイト等）」の割合は、65～74歳で22.9%と2割を超えている一方で、75歳以上では1割未満となっています。

6地区 大山地区は「引退した」が35.0%で他の地区より10ポイント以上少ない一方、「自営業」が15.0%と多くなっています。また、篠津・西地区では、「非常勤（パート・アルバイト等）」が19.0%で他の地区より多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

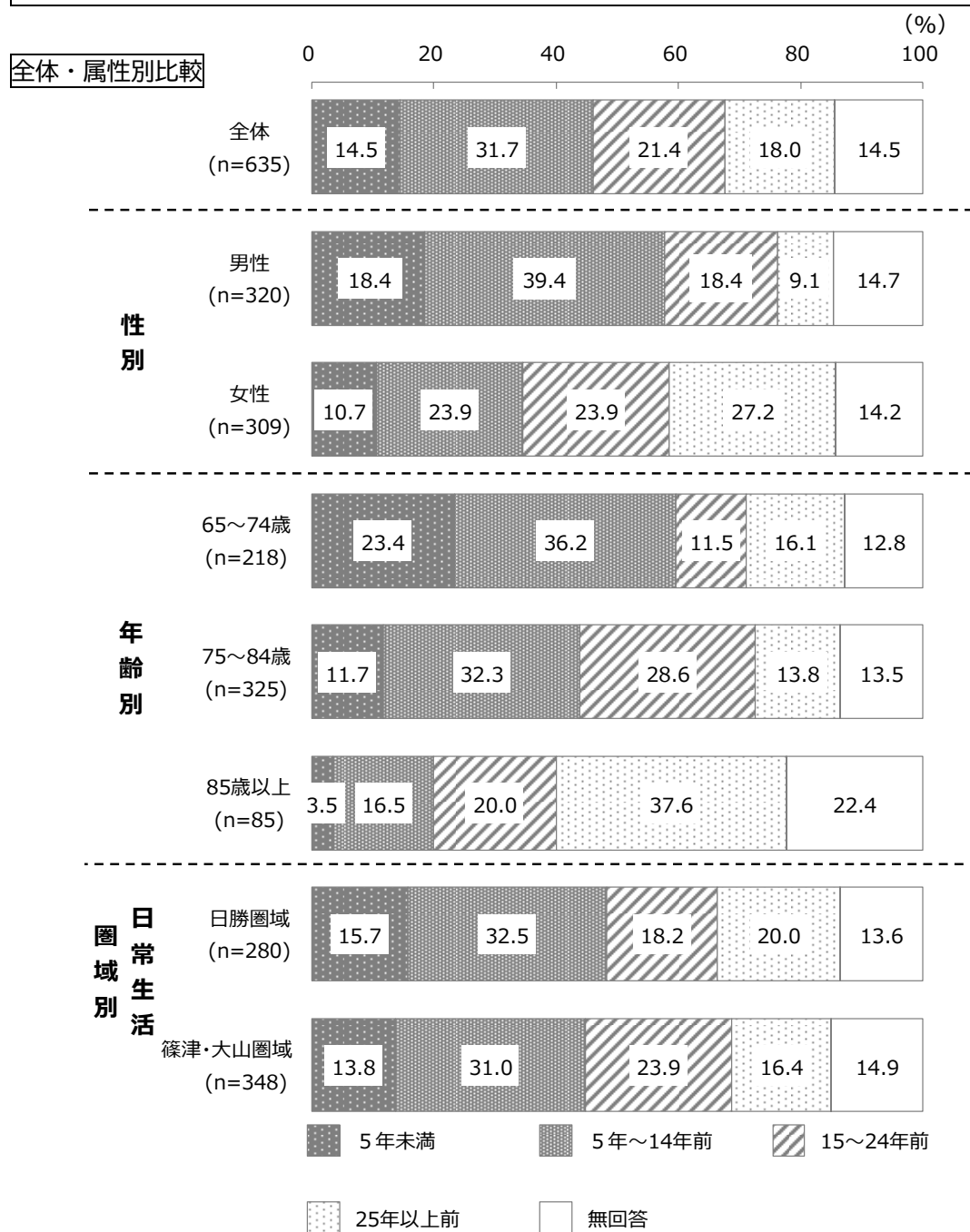
		(%)							
		引退した	非常勤（パート・アルバイト等）	職に就いたことがない	自営業	常勤（フルタイム）	休職中	その他	無回答
全体(n=1,154)		55.0	13.3	9.1	6.0	4.3	1.0	8.9	6.5
性別	男性(n=537)	59.6	13.8	5.2	7.1	7.6	1.7	5.4	4.5
	女性(n=603)	51.2	13.1	12.1	5.1	1.5	0.3	12.1	7.8
年齢別	65～74歳(n=432)	50.5	22.9	5.1	7.2	7.9	1.6	6.9	2.5
	75～84歳(n=572)	56.8	8.7	11.0	5.4	2.4	0.7	10.3	8.7
	85歳以上(n=136)	62.5	2.9	11.8	5.1	1.5	0.0	9.6	8.1
6地区別	菁莪地区(n=206)	50.5	12.6	10.7	5.8	4.4	1.5	13.6	7.3
	白岡駅周辺地区(n=284)	62.0	11.3	8.1	7.4	5.6	0.7	4.9	4.2
	篠津・西地区(n=226)	47.8	19.0	11.9	6.6	3.5	1.3	7.5	6.6
	新白岡駅周辺地区(n=234)	60.3	11.5	8.5	5.1	3.0	0.4	9.4	5.6
	白岡・白岡東地区(n=150)	56.7	12.0	6.0	2.0	4.7	1.3	10.0	8.7
	大山地区(n=40)	35.0	12.5	5.0	15.0	7.5	0.0	15.0	10.0

問35 「問34で「2 引退した」と回答した方のみお答えください」
あなたはいつ引退しましたか。

全体 「5～14年前」が31.7%で最も多く、次いで「15～24年前」(21.4%)、「25年以上前」(18.0%)となっています。

性別 女性は、男性と比較して「25年以上前」が18.1ポイント、「15～24年前」が5.5ポイント多い一方、「5～14年前」が15.5ポイント、「5年未満」が7.7ポイント少なく、引退からの経過年数が長くなっています。

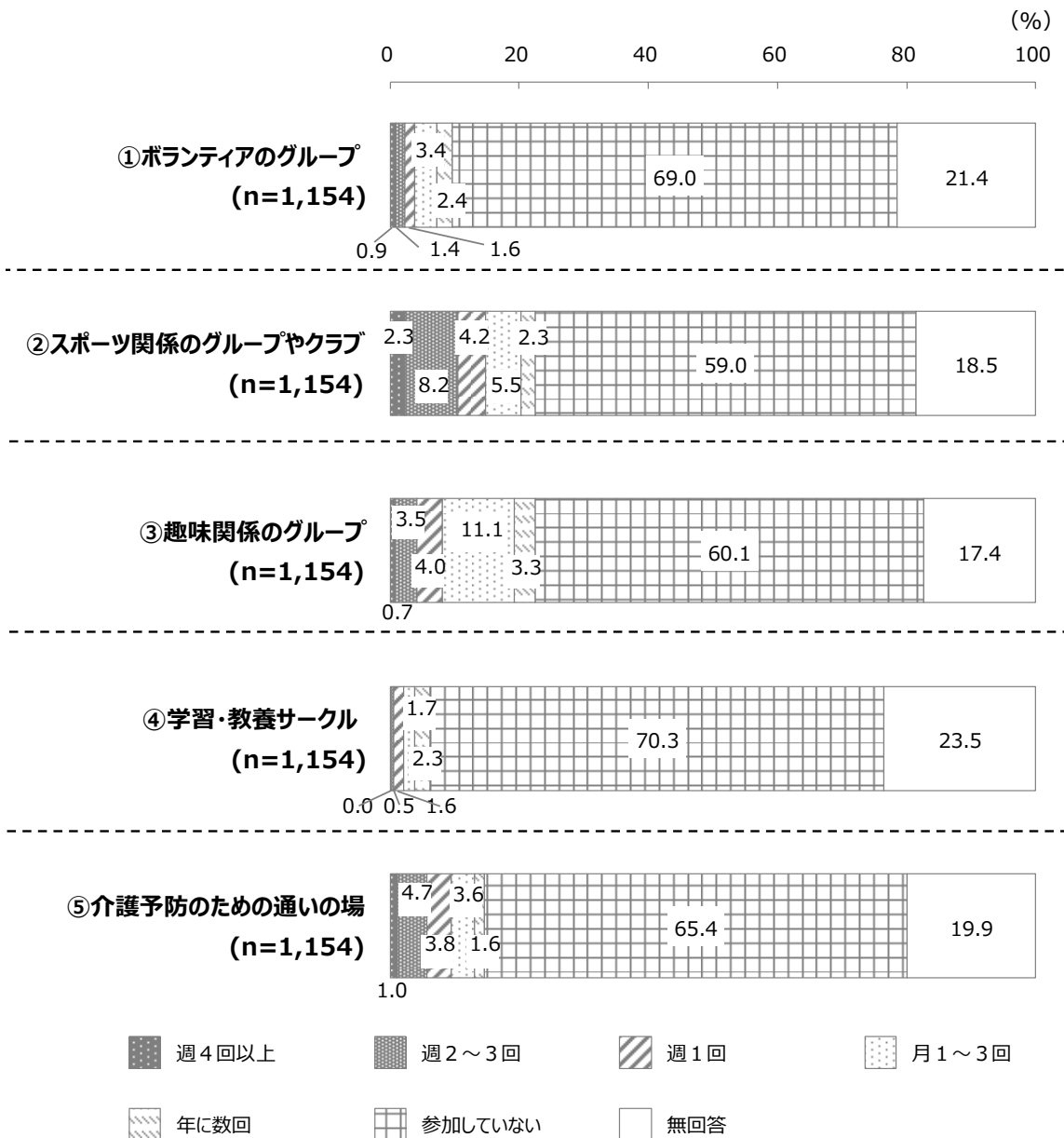
年齢 年代が高くなるほど、引退からの経過年数が長くなっています。85歳以上では、「25年以上前」が4割近くになっています。

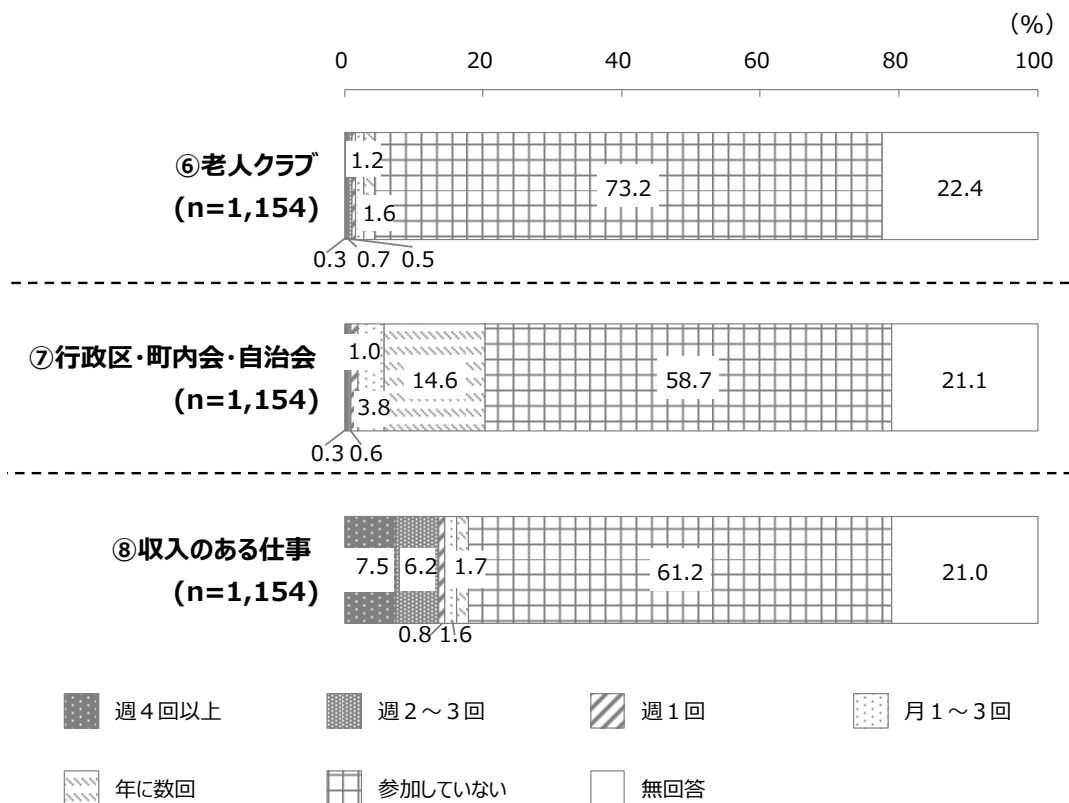


7. 地域での活動について

問36 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。①～⑧それぞれに回答してください。[1つずつ〇]

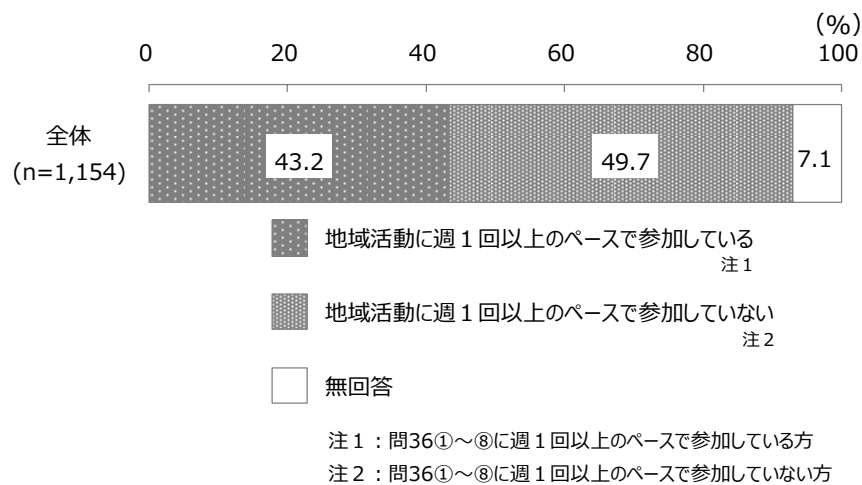
①～⑧のすべての会・グループ等において、「参加していない」が6～7割前後で、「無回答」が2割前後となっています。①～⑧の中で、「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」を合わせた週1回以上参加している割合が最も多いのは、「②スポーツ関係のグループやクラブ」で14.7%、次いで「⑧収入のある仕事」(14.5%)、「⑤介護予防のための通いの場」(9.5%)となっています。また、「③趣味関係のグループ」では、「月1～3回」が11.1%、「⑦行政区・町内会・自治会」では、「年に数回」が14.6%で、割合が多くなっています。





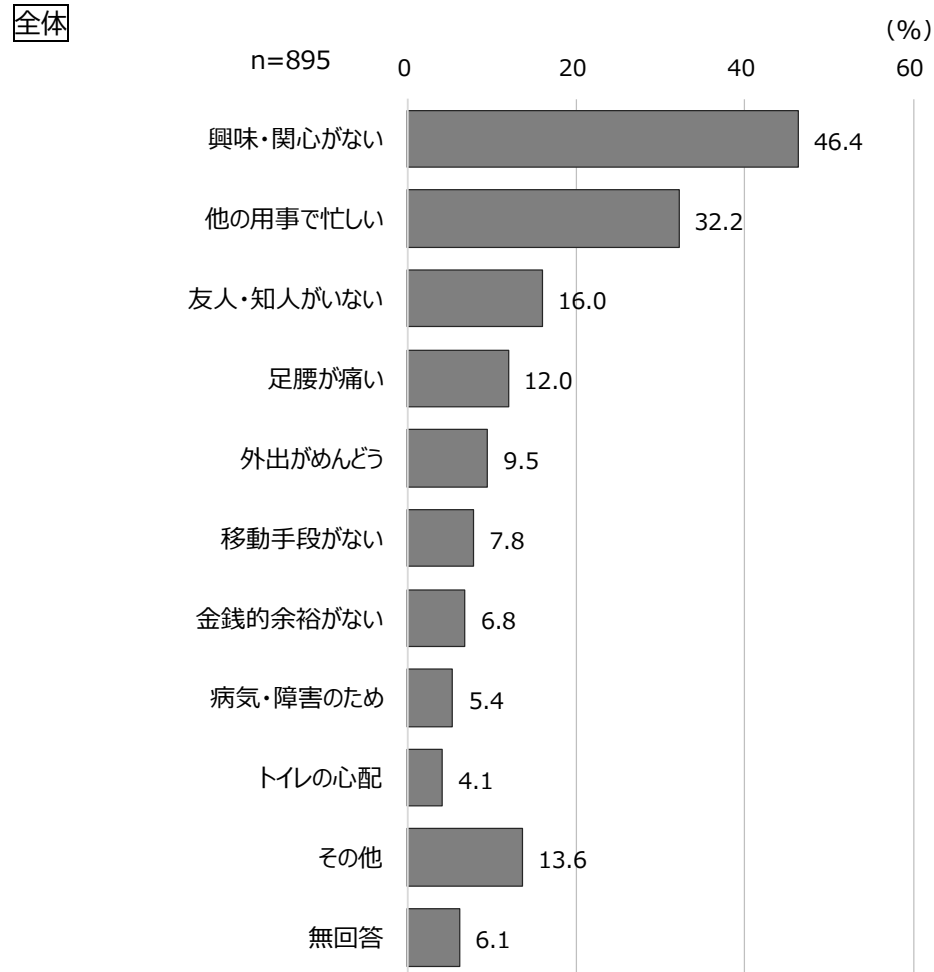
【社会参加率】

問36の①～⑧の各種会・グループなど、「何らかの地域活動に週1回以上のペースで参加している高齢者の割合」を社会参加率として集計した結果、43.2%となっています。なお、「月1～3回」参加している地域活動が複数選択されている場合は、「週1回以上」の参加があるものと見なしています。



問37 〔問36 ①～⑧において、1つでも「6 参加していない」と回答した方のみお答えください〕あなたが参加していない主な理由は何ですか。〔〇は3つまで〕

全体 「興味・関心がない」が46.4%で最も多く、次いで「他の用事で忙しい」(32.2%)、「友人・知人がいない」(16.0%)となっています。



性別 男性は、「興味・関心がない」の割合が女性より 16.2 ポイント多い一方、「移動手段がない」が 7.8 ポイント、「足腰が痛い」が 6.7 ポイント少なくなっています。

年齢 全年代において、「興味・関心がない」の割合が最も多くなっています。次いで「他の用事で忙しい」が 65～74 歳と 75～84 歳では多くなっている一方、85 歳以上は、「足腰が痛い」(30.7%)、「移動手段がない」(21.6%) が上位となっています。

6 地区 すべての地区において、参加していない理由の順位は概ね同じ傾向で、「興味・関心がない」、「他の用事で忙しい」、「友人・知人がいない」または「足腰が痛い」の順番になっています。一方で、「友人・知人がいない」と回答した割合は、大山地区では 0.0%であるのに対し、他の地区は 1 割以上で、地区間で違いがみられます。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位 3 位を表す

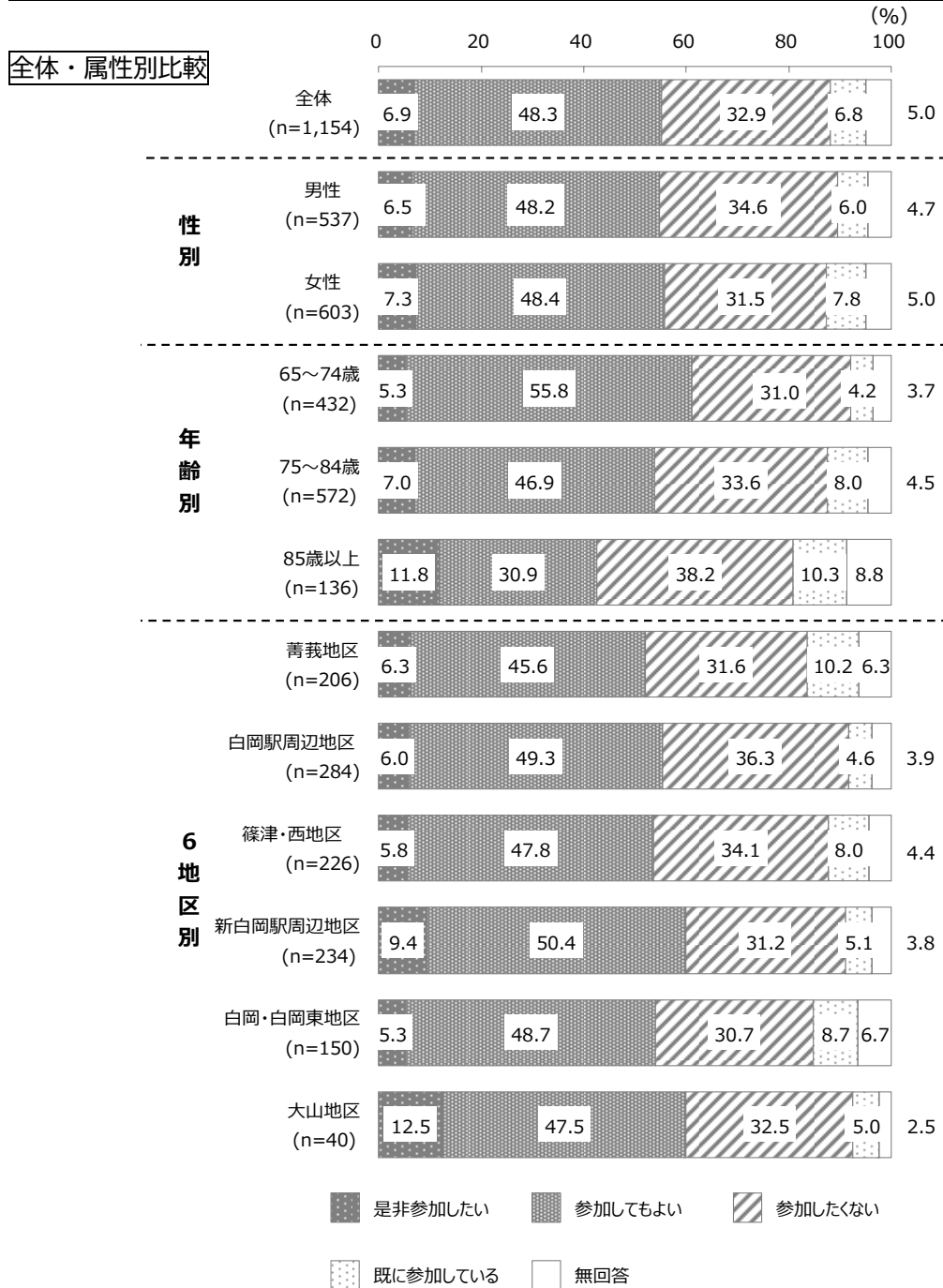
		(%)										
		興味・関心がない	他の用事で忙しい	友人・知人がいない	足腰が痛い	外出がめんどろ	移動手段がない	金銭的余裕がない	病気・障害のため	トイレの心配	その他	無回答
全体(n=895)		46.4	32.2	16.0	12.0	9.5	7.8	6.8	5.4	4.1	13.6	6.1
性別	男性(n=445)	54.4	29.4	19.1	8.5	7.6	4.0	6.3	5.8	4.0	13.7	5.6
	女性(n=442)	38.2	34.6	12.9	15.2	11.1	11.8	7.5	4.8	4.3	13.6	6.8
年齢別	65～74歳(n=370)	51.9	38.4	15.9	7.0	7.0	3.8	6.8	5.4	2.7	12.7	3.2
	75～84歳(n=430)	42.8	30.5	15.8	12.1	10.0	8.6	7.0	4.7	4.0	14.2	7.4
	85歳以上(n=88)	42.0	12.5	18.2	30.7	17.0	21.6	6.8	8.0	11.4	14.8	11.4
6地区別	菁莪地区(n=156)	44.2	37.2	11.5	16.7	10.3	9.6	10.9	3.2	4.5	14.7	5.1
	白岡駅周辺地区(n=222)	45.9	32.0	18.9	11.3	11.3	12.2	6.3	4.1	5.4	16.7	5.4
	篠津・西地区(n=170)	48.2	30.0	14.1	8.2	6.5	6.5	9.4	8.8	3.5	11.8	8.2
	新白岡駅周辺地区(n=188)	47.3	29.8	18.1	10.6	11.2	4.8	4.3	4.3	3.7	10.1	6.4
	白岡・白岡東地区(n=119)	46.2	32.8	21.0	12.6	8.4	5.0	3.4	5.9	2.5	15.1	6.7
	大山地区(n=31)	45.2	32.3	0.0	16.1	3.2	6.5	3.2	3.2	6.5	12.9	3.2

問38 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。[1つに○]

全体 「参加してもよい」が48.3%で最も多く、次いで「参加したくない」(32.9%)、「是非参加したい」(6.9%)となっています。

年齢 年代が高くなるほど、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合が少なくなり、65～74歳では約6割である一方、85歳以上では約4割となっています。

6地区 すべての地区において、全体と類似した傾向となっています。また、大山地区は、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合が6割で、最も多くなっています。

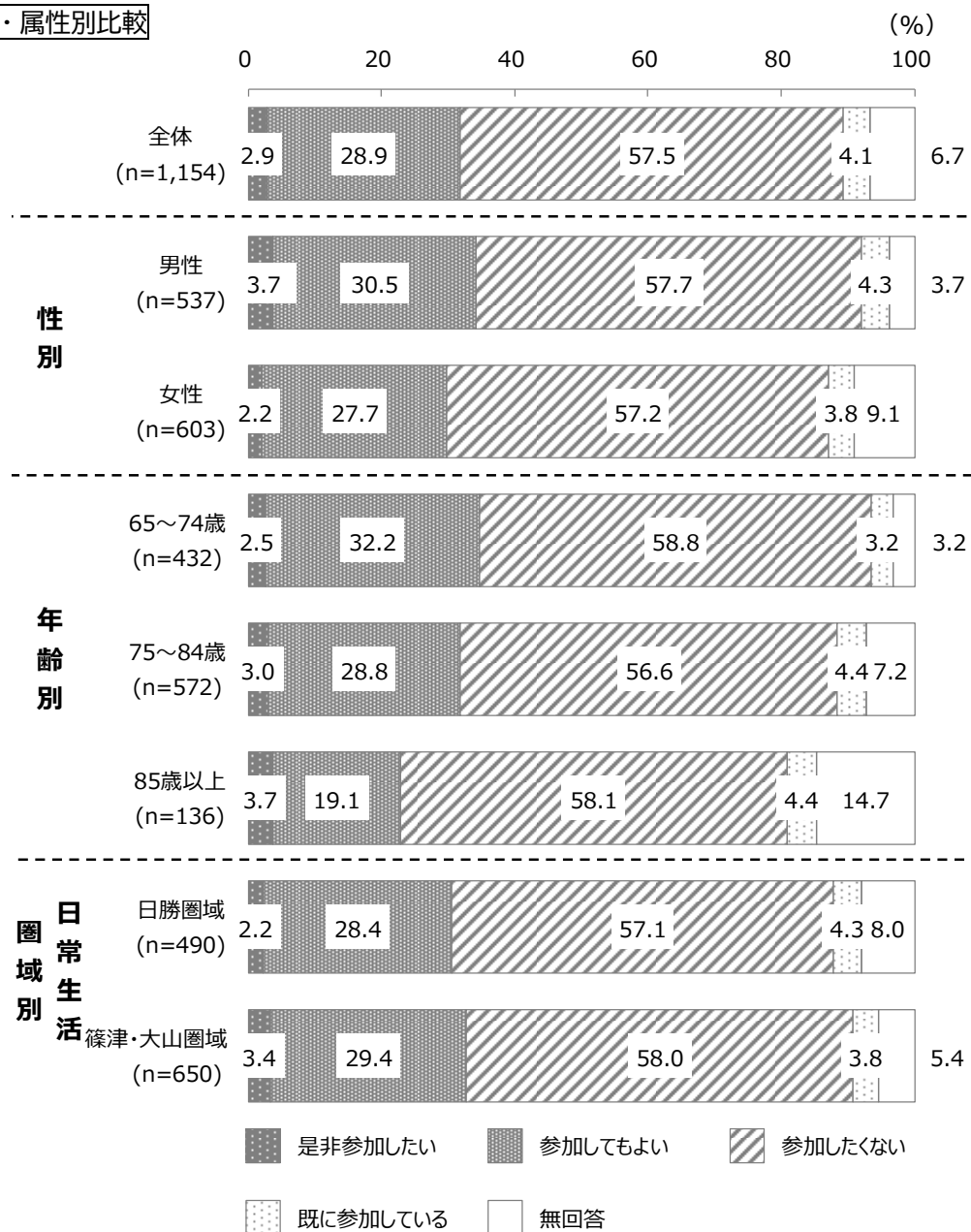


問39 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

全体 「参加したくない」が57.5%で最も多く、次いで「参加してもよい」(28.9%)、「既に参加している」(4.1%)となっています。

年齢 年代が高くなるほど、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合が少なくなり、65～74歳では3割半ばである一方、85歳以上では2割前半となっています。

全体・属性別比較

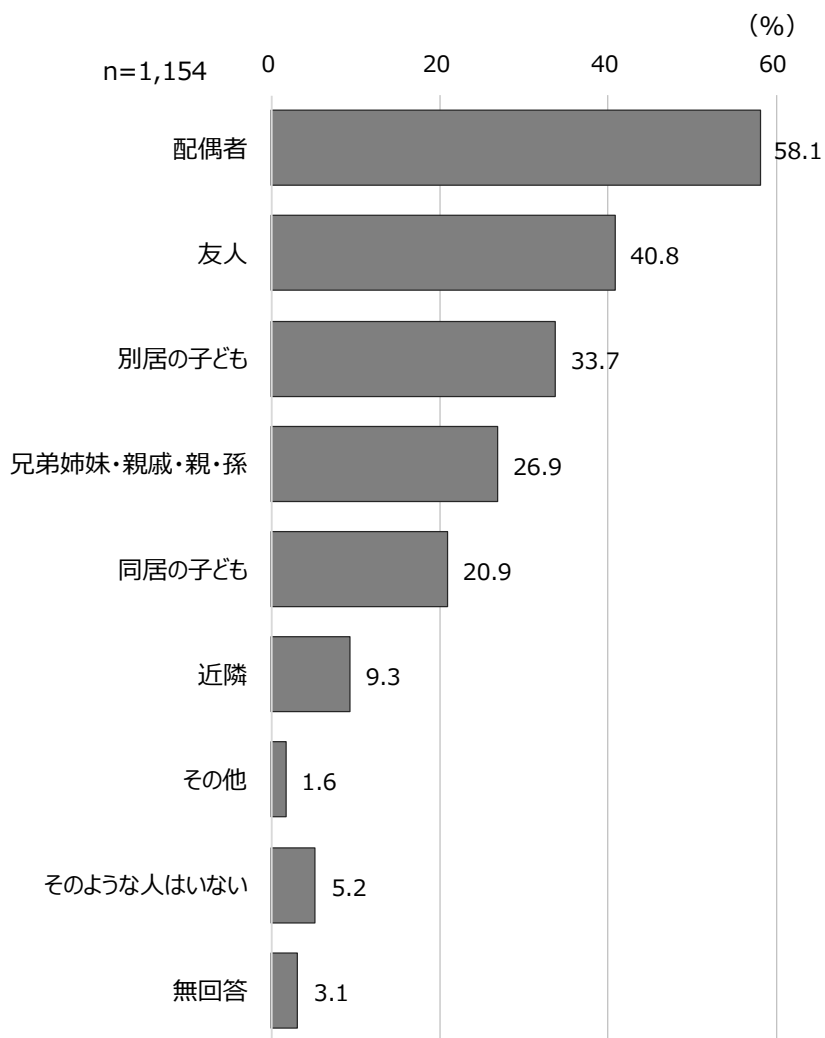


8. たすけあいについて

問40 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人〔あてはまるものすべてに○〕

全体 「配偶者」が58.1%で最も多く、次いで「友人」（40.8%）、「別居の子ども」（33.7%）となっています。

全体



性別 男性は、「配偶者」の割合が7割以上で最も多く、次いで「友人」と「別居の子ども」が2割後半である一方、女性は「友人」が約半数で最も多く、次いで「配偶者」が4割半ば、「別居の子ども」が3割後半となっています。

年齢 年代が高くなるほど、「配偶者」と「友人」の割合が減り、85歳以上では、それぞれ約4割、約2割と少なくなっています。一方で、「同居の子ども」と「別居の子ども」の割合は、年代が高くなるほど多くなっています。

日常生活圏域 篠津・大山圏域では、「配偶者」の割合が日勝圏域よりも6.6ポイント多くなっています。

属性別比較

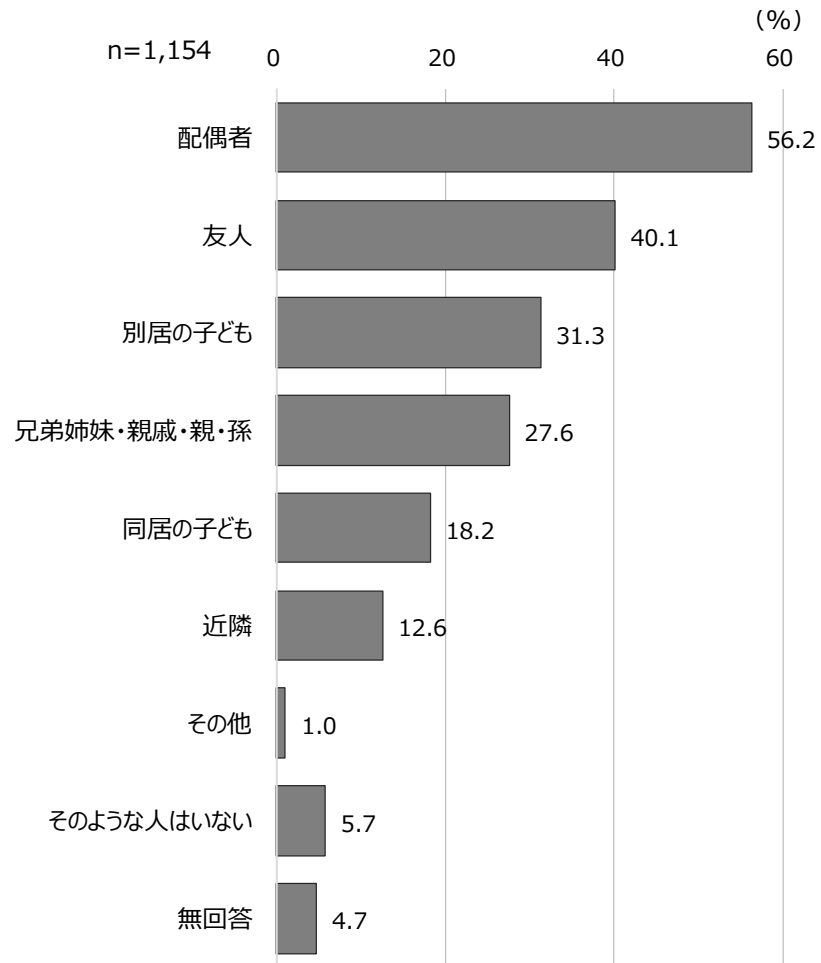
※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)								
		配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体(n=1,154)		58.1	40.8	33.7	26.9	20.9	9.3	1.6	5.2	3.1
性別	男性(n=537)	72.1	29.4	27.4	19.6	13.8	4.8	1.7	7.6	3.0
	女性(n=603)	45.9	50.7	39.1	33.3	27.4	13.1	1.7	3.0	3.2
年齢別	65～74歳(n=432)	66.4	49.1	32.4	27.5	18.8	8.1	2.1	5.3	2.1
	75～84歳(n=572)	56.5	39.7	33.4	27.4	21.2	10.7	1.2	5.1	3.1
	85歳以上(n=136)	39.7	20.6	39.0	22.8	27.2	7.4	2.2	5.1	5.9
日常生活圏域別	日勝圏域(n=490)	54.5	39.6	33.7	25.3	21.8	10.6	0.8	6.3	3.5
	篠津・大山圏域(n=650)	61.1	42.2	33.8	28.0	20.5	8.5	2.2	4.3	2.6

問41 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人【あてはまるものすべてに
○】

全体 「配偶者」が56.2%で最も多く、次いで「友人」（40.1%）、「別居の子ども」（31.3%）となっています。

全体



性別 男性は、「配偶者」の割合が7割以上で最も多く、次いで「友人」が2割後半、「別居の子ども」が2割半ばである一方、女性は「友人」が約半数で最も多く、次いで「配偶者」が4割前半、「別居の子ども」が3割半ばとなっています。

年齢 年代が高くなるほど、心配事や愚痴を聞いてあげる割合が減り、特に「配偶者」と「友人」については、65～74歳と比較すると、85歳以上では、それぞれ20ポイント以上少なくなっています。

属性別比較

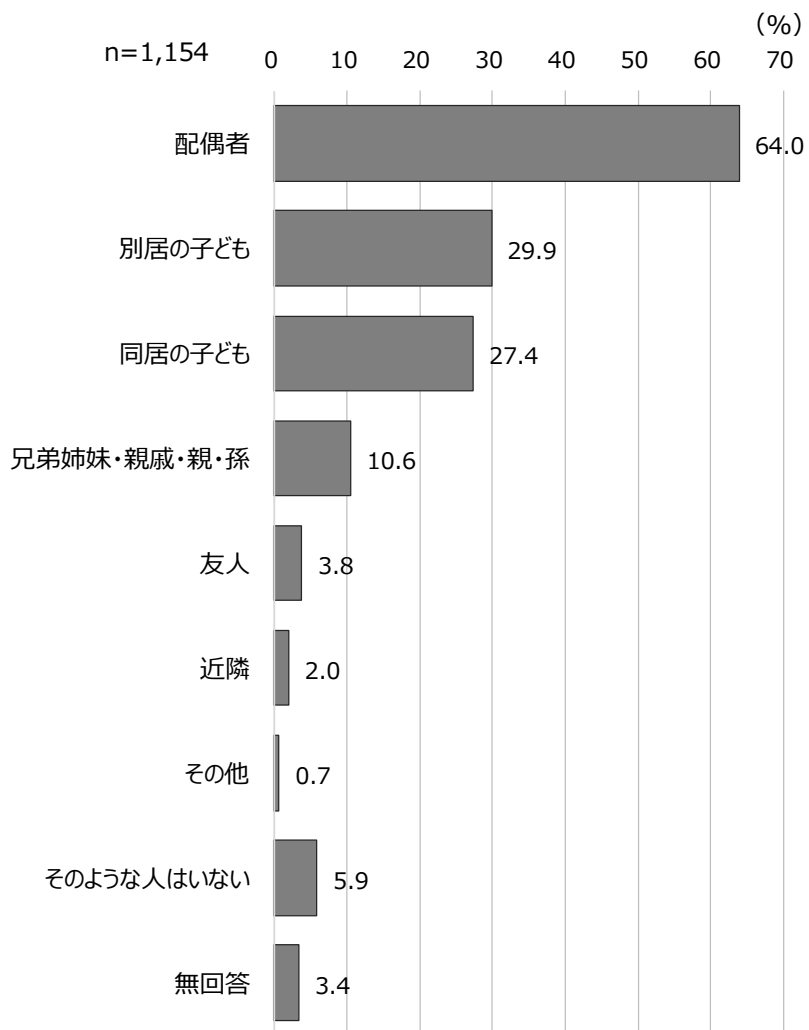
※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)								
		配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体(n=1,154)		56.2	40.1	31.3	27.6	18.2	12.6	1.0	5.7	4.7
性別	男性(n=537)	72.3	27.4	25.9	21.8	14.0	5.6	1.9	8.0	3.2
	女性(n=603)	42.1	51.2	36.2	33.0	21.9	18.7	0.3	3.6	6.0
年齢別	65～74歳(n=432)	64.1	46.5	34.3	28.9	19.0	12.5	1.6	5.6	2.5
	75～84歳(n=572)	54.9	39.3	29.4	28.5	17.1	12.9	0.3	5.1	5.2
	85歳以上(n=136)	37.5	23.5	28.7	21.3	19.9	11.8	2.2	8.8	8.8
日常生活圏域別	日勝圏域(n=490)	53.7	39.0	31.4	25.5	18.4	14.3	1.0	6.1	4.7
	篠津・大山圏域(n=650)	58.3	41.1	31.4	29.2	18.0	11.5	1.1	5.4	4.5

問42 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人【あてはまるものすべてに○】

全体 「配偶者」が64.0%で最も多く、次いで「別居の子ども」(29.9%)、「同居の子ども」(27.4%)となっています。

全体



性別 男性は、「配偶者」の割合が77.5%で最も多く、女性よりも25.3ポイント多くなっています。女性も、「配偶者」が約半数で最も多いものの、次いで「同居の子ども」と「別居の子ども」が3割半ばで男性よりも多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「配偶者」の割合が減り、65～74歳と比較すると、85歳以上では、32.9ポイント少なく、4割前半となっています。一方で、「同居の子ども」と「別居の子ども」の割合は、年代が高くなるほど増え、85歳以上では、それぞれ3割半ばとなっています。

属性別比較

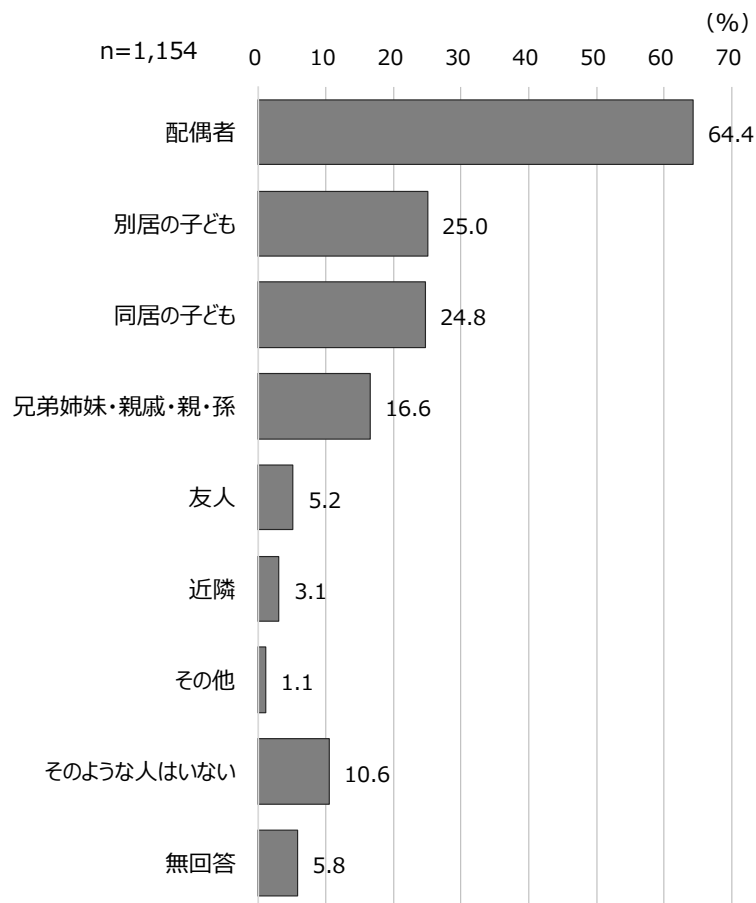
※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)								
		配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体(n=1,154)		64.0	29.9	27.4	10.6	3.8	2.0	0.7	5.9	3.4
性別	男性(n=537)	77.5	24.4	19.6	9.5	1.5	0.6	0.4	5.0	3.0
	女性(n=603)	52.2	34.5	34.7	11.6	6.0	3.2	1.0	6.6	3.6
年齢別	65～74歳(n=432)	74.8	23.4	24.5	10.9	4.6	1.4	0.2	6.3	2.1
	75～84歳(n=572)	61.5	33.4	28.0	10.7	3.8	2.4	0.9	5.4	3.1
	85歳以上(n=136)	41.9	34.6	35.3	9.6	1.5	1.5	1.5	6.6	8.1
日常生活圏域別	日勝圏域(n=490)	61.4	29.4	27.6	10.2	3.9	2.0	0.8	6.5	3.9
	篠津・大山圏域(n=650)	66.2	30.3	27.7	10.9	3.8	2.0	0.6	5.2	2.8

問43 反対に、看病や世話をしてくれる人【あてはまるものすべてに○】

全体 「配偶者」が64.4%で最も多く、次いで「別居の子ども」(25.0%)、「同居の子ども」(24.8%)となっています。

全体



性別 男性は、「配偶者」の割合が75.4%で最も多く、女性よりも20.3ポイント多くなっています。女性も、「配偶者」が半数以上で最も多いものの、次いで「同居の子ども」と「別居の子ども」が約3割で男性よりも多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、看病や世話をしあける割合は減り、特に「配偶者」については、65～74歳と比較すると、85歳以上では、36.2ポイント少なく、約4割となっています。また、85歳以上では、「そのような人はいない」が22.8%で、「配偶者」の次に多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)								
		配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体(n=1,154)		64.4	25.0	24.8	16.6	5.2	3.1	1.1	10.6	5.8
性別	男性(n=537)	75.4	20.3	19.0	13.8	2.6	2.0	1.1	9.9	4.5
	女性(n=603)	55.1	29.5	30.2	19.4	7.5	4.1	1.2	10.8	7.0
年齢別	65～74歳(n=432)	75.9	28.5	26.2	19.9	5.3	3.0	0.7	7.2	3.2
	75～84歳(n=572)	62.1	25.5	24.5	15.9	5.9	3.3	1.4	10.0	6.3
	85歳以上(n=136)	39.7	13.2	21.3	10.3	1.5	2.9	1.5	22.8	11.8
日常生活圏域別	日勝圏域(n=490)	62.2	25.9	25.5	16.5	6.7	3.1	1.2	10.4	5.9
	篠津・大山圏域(n=650)	66.5	24.8	24.5	16.9	4.0	3.2	0.9	10.5	5.5

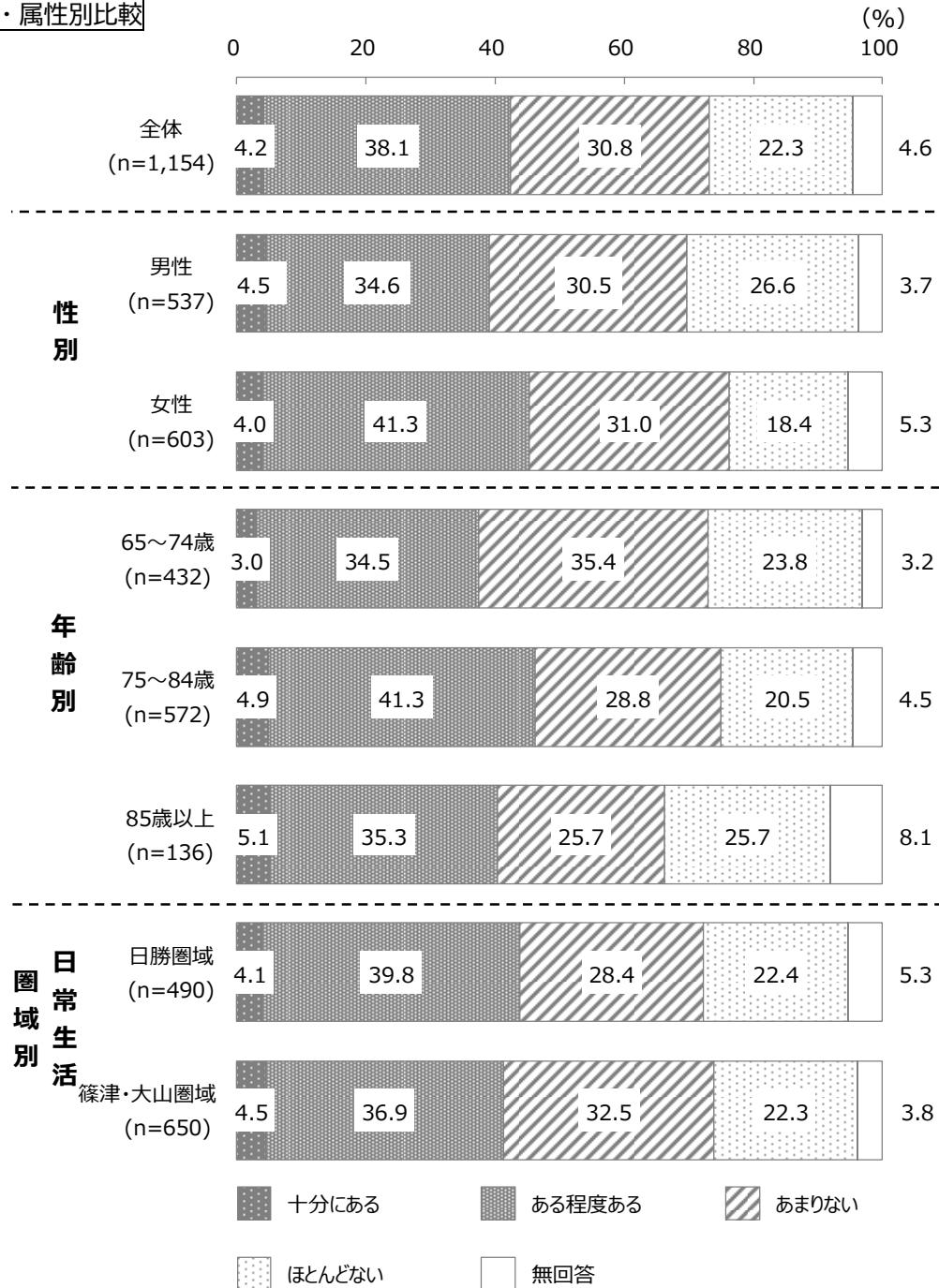
問44 地域での交流や支え合いについて、どのように感じていますか。[1つに○]

全体 「ある程度ある」が 38.1%で最も多く、次いで「あまりない」(30.8%)、「ほとんどない」(22.3%)となっています。「あまりない」と「ほとんどない」を合わせて半数を超えています。

性別 男性は、「ほとんどない」の割合が2割半ばで、女性よりも8.2ポイント多くなっています。

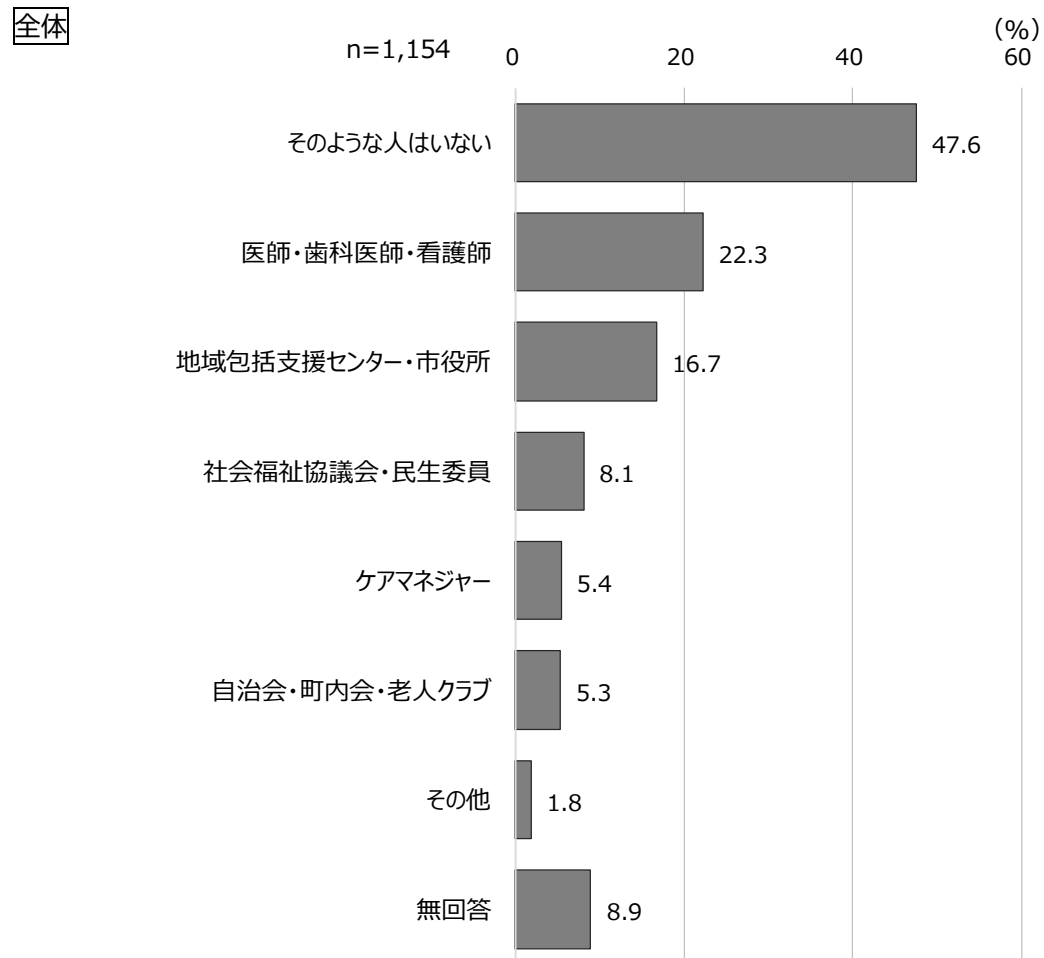
年齢 75～84歳は、「十分ある」と「ある程度ある」を合わせた割合が46.2%と、他の年代より、地域での交流や支え合いがあると回答した割合が多くなっています。また、65～74歳と85歳以上では、「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた割合が半数を超えています。

全体・属性別比較



問45 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。[あてはまるものすべてに○]

全体 「そのような人はいない」が47.6%で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(22.3%)、「地域包括支援センター・市役所」(16.7%)となっています。



性別 男女ともに、「そのような人はいない」が半数近くで最も多くなっています。次いで、女性には、「地域包括支援センター・市役所」と「医師・歯科医師・看護師」が約2割で同程度である一方、男性は「医師・歯科医師・看護師」(25.5%)が、「地域包括支援センター・市役所」(13.8%)より11.7ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「社会福祉協議会・民生委員」、「ケアマネジャー」、「自治会・町内会・老人クラブ」の割合が多くなっていますが、85歳以上であっても、「そのような人はいない」が4割近くで、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を有していません。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

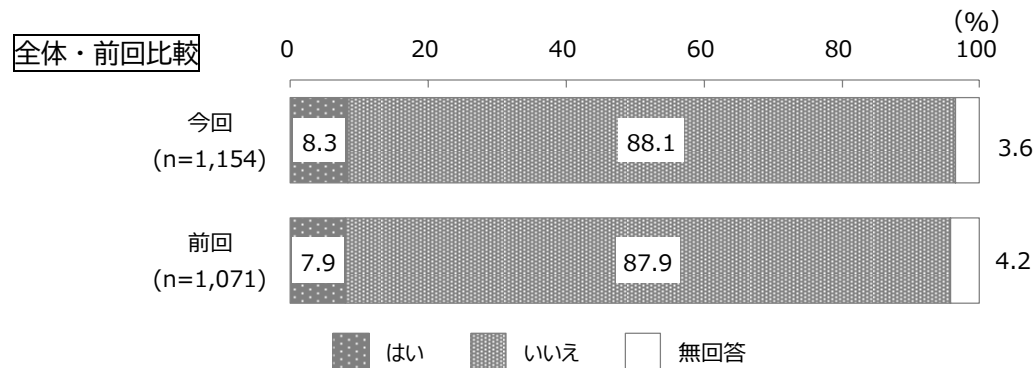
		(%)							
		そのような人はいない	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・市役所	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	自治会・町内会・老人クラブ	その他	無回答
全体(n=1,154)		47.6	22.3	16.7	8.1	5.4	5.3	1.8	8.9
性別	男性(n=537)	48.2	25.5	13.8	8.6	5.2	7.1	1.9	6.9
	女性(n=603)	46.9	19.2	19.6	7.8	5.5	3.6	1.8	10.6
年齢別	65～74歳(n=432)	54.6	22.9	15.7	3.7	2.1	3.5	1.6	6.9
	75～84歳(n=572)	44.6	22.4	17.8	9.8	5.9	6.1	2.3	9.1
	85歳以上(n=136)	38.2	19.9	15.4	15.4	13.2	6.6	0.7	14.0
圏域別 日常生活	日勝圏域(n=490)	46.3	20.4	16.9	8.6	4.7	6.5	2.9	9.8
	篠津・大山圏域(n=650)	48.6	23.4	16.6	7.8	5.7	4.3	1.1	8.2

9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

問46 認知症の症状がある、または、家族に認知症の症状のある人がいますか。[1つに○]

全体 「いいえ」が88.1%で大半を占める一方、「はい」は8.3%となっています。

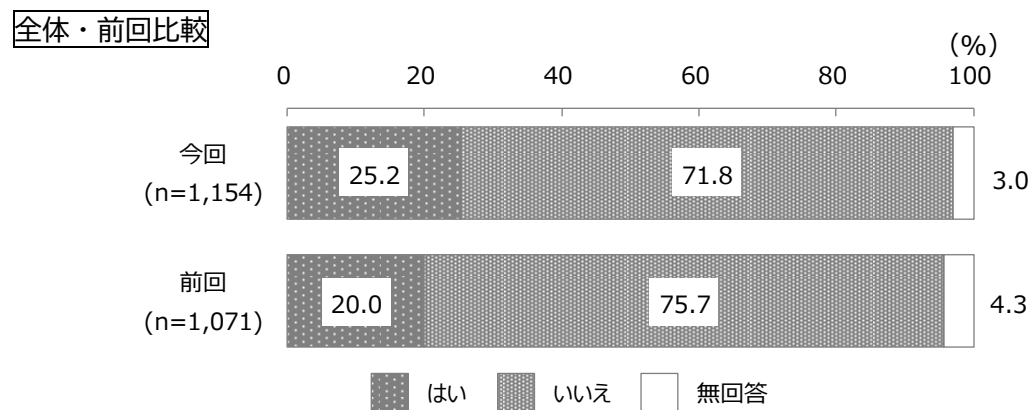
前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。



問47 認知症に関する相談窓口を知っていますか。[1つに○]

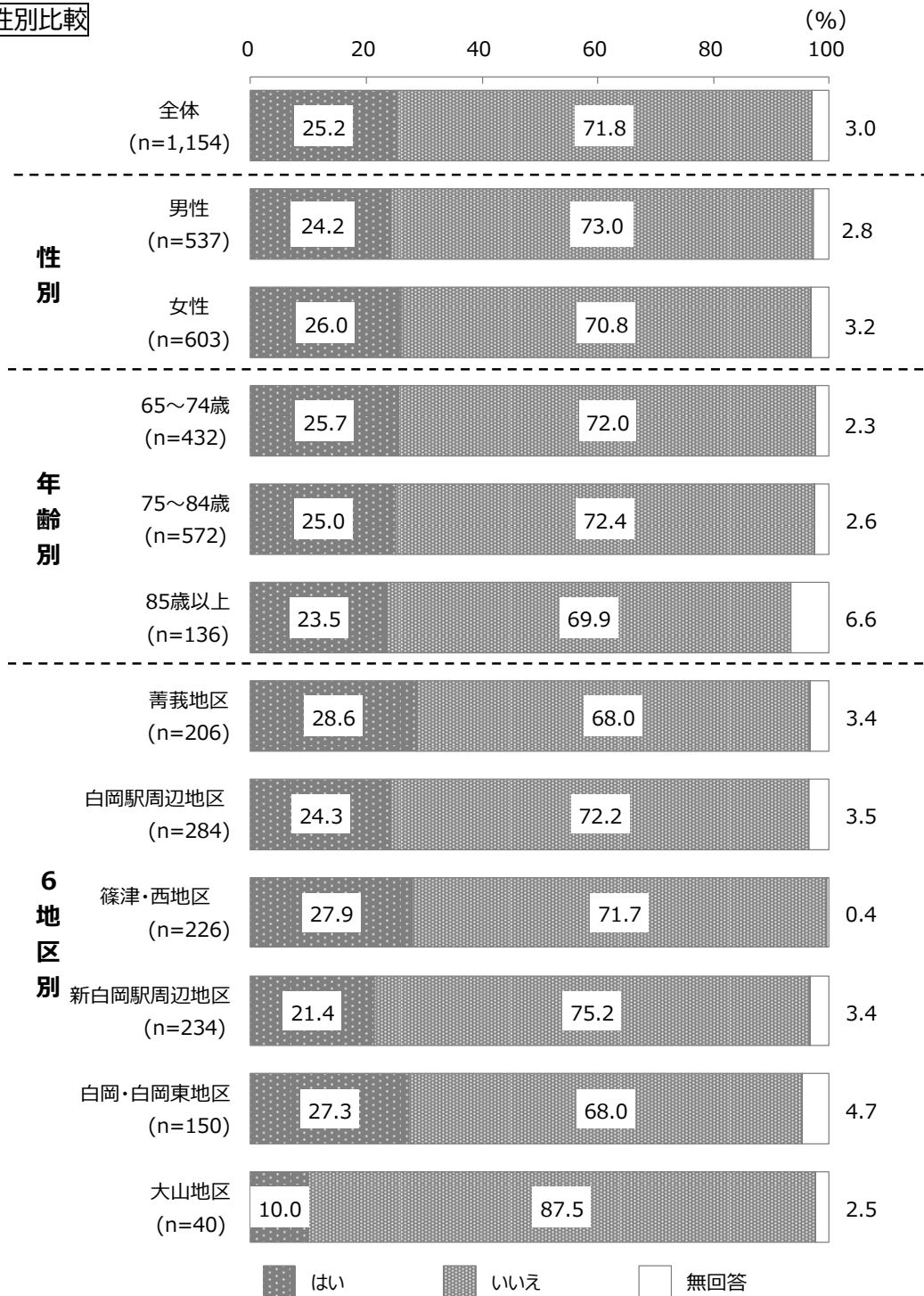
全体 「いいえ」が71.8%で、「はい」(25.2%)より多くなっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「はい」が5.2ポイント多くなっており、認知症に関する相談窓口を知っている割合が多くなっています。



6地区 大山地区では、「いいえ」が87.5%と大半を占めており、他の5地区よりも10ポイント以上多くなっています。大山地区では、他の地区と比較して、認知症に関する相談窓口を知らない人の割合が多くなっています。

属性別比較



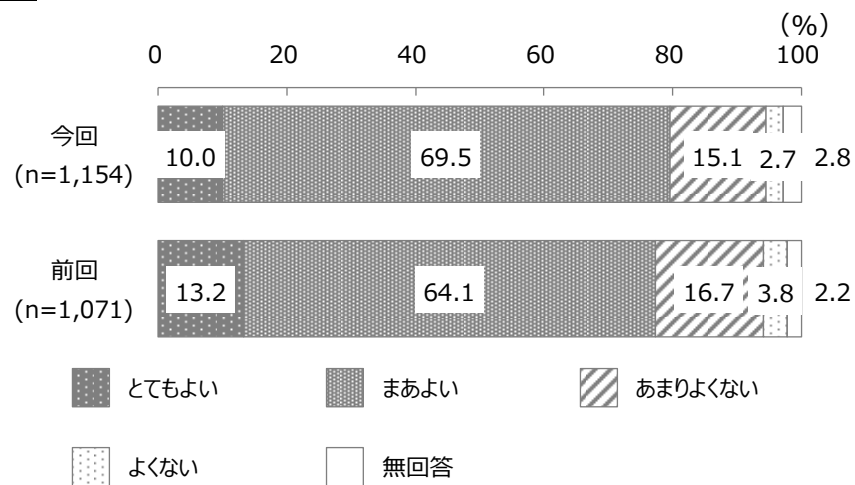
10. 健康について

問48 現在のあなたの健康状態はいかがですか。〔1つに○〕

全体 「まあよい」が69.5%で最も多く、次いで「あまりよくない」(15.1%)、「とてもよい」(10.0%)となっています。「とてもよい」と「まあよい」を合わせた約8割が現在の健康状態はよいと回答しています。

前回比較 前回調査と比較すると、「まあよい」が5.4ポイント多くなっていますが、他の項目については、前回調査と概ね同様の傾向です。

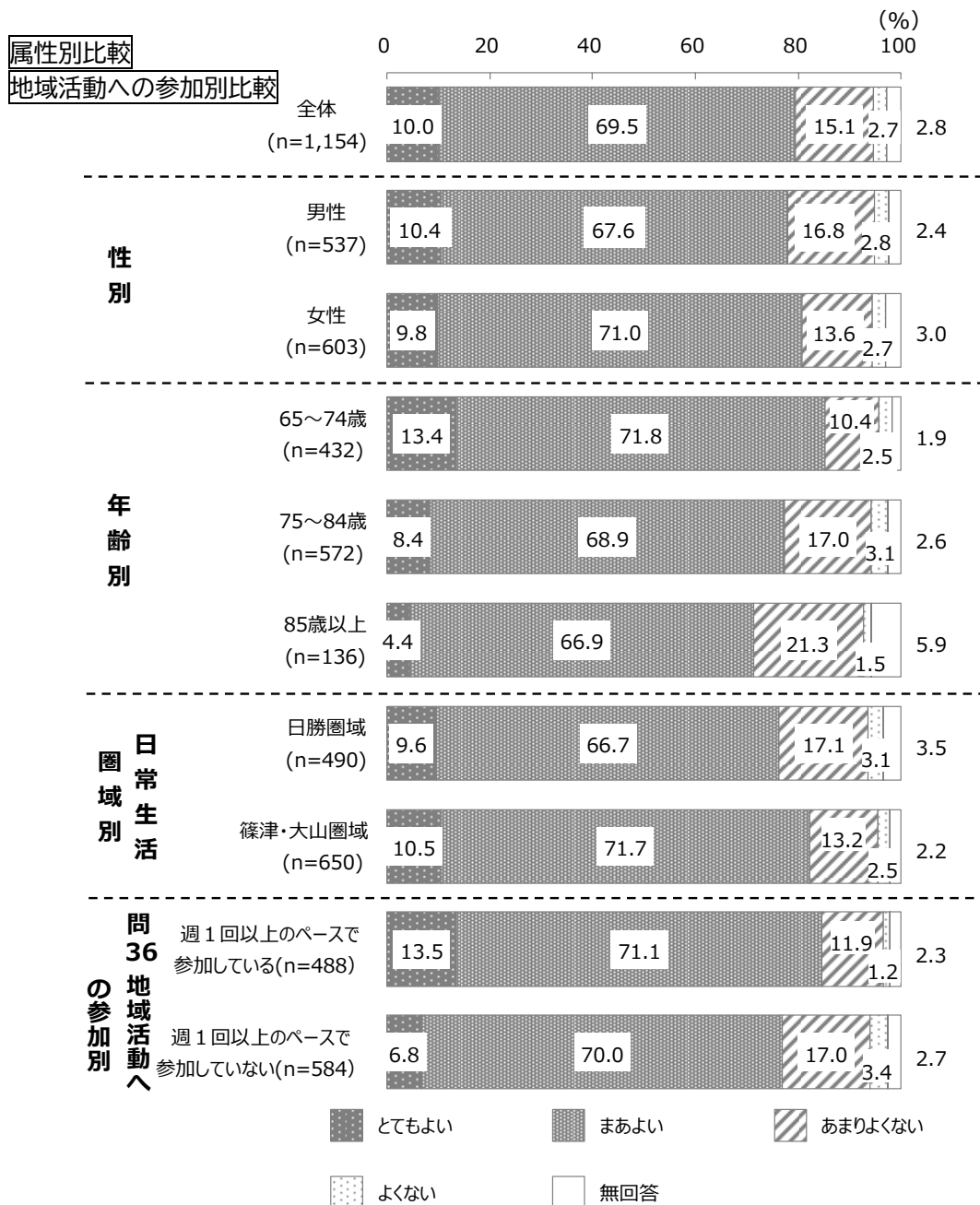
全体・前回比較



年齢 年代が高くなるほど、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が減り、65～74歳と比較すると、85歳以上では13.9ポイント少なく、約7割となっています。一方で、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、年代が高くなるほど増え、85歳以上では、約2割となっています。

日常生活圏域 日勝圏域は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が篠津・大山圏域より5.9ポイント少なく、7割半ばとなっています。「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合も2割を超えています。

地域活動への参加別 問36の①～⑧の地域活動に週1回以上のペースで参加している人は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が、参加していない人よりも7.8ポイント多く、8割半ばとなっています。地域活動へ参加している人ほど、自分自身が健康であると感じる傾向にあります。



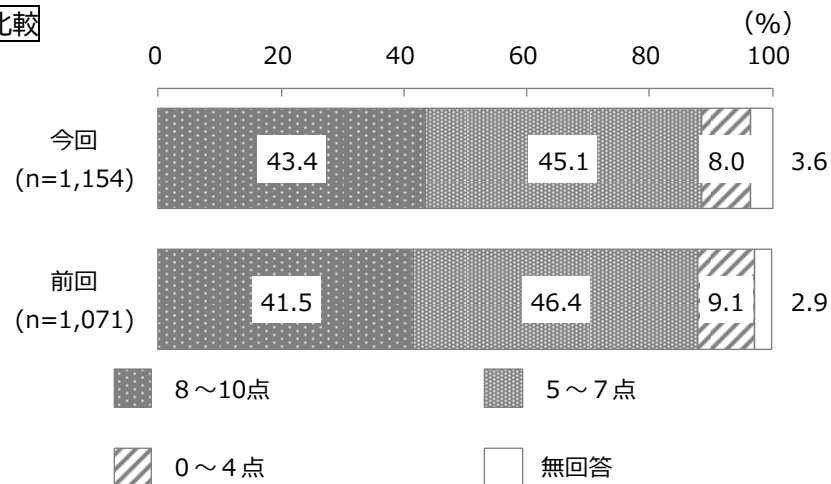
問49 あなたは、現在どの程度幸せですか。〔1つに〇〕

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

全体 「5～7点」が45.1%で最も多く、次いで「8～10点」（43.4%）、「0～4点」（8.0%）となっています。平均値である5点以上と回答した人の割合が9割近くになっています。平均点を算出したところ、7.0点でした。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。平均点は前回の6.9点から0.1ポイント上昇しました。

全体・前回比較



性別 女性は、「8～10点」が46.6%で最も多い一方、男性は「5～7点」が48.8%で最も多くなっています。女性の方が自分自身が幸せだと感じる傾向にあります。

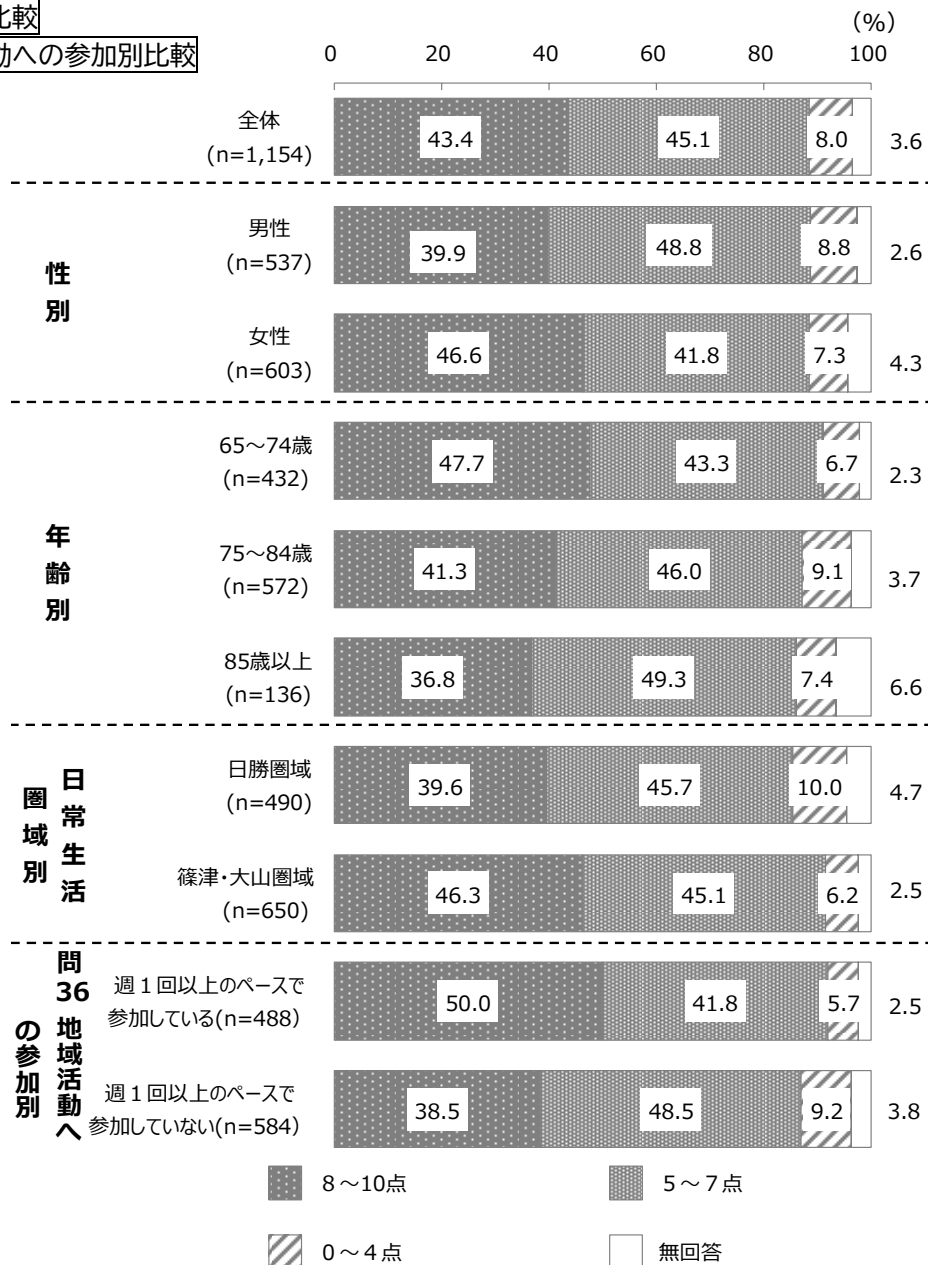
年齢 年代が高くなるほど、「8～10点」の割合が減り、65～74歳と比較すると、85歳以上では10.9ポイント少なく、4割を下回っています。また、「0～4点」の割合は、すべての年代を通じて1割を下回っています。

日常生活圏域 日勝圏域は、「8～10点」の割合が篠津・大山圏域より6.7ポイント少なく、4割を下回っています。

地域活動への参加別 問36の①～③の地域活動に週1回以上のペースで参加している人は、「8～10点」の割合が、参加していない人よりも11.5ポイント多く、半数となっています。地域活動へ参加している人ほど、自分自身が幸せだと感じる傾向にあります。

属性別比較

地域活動への参加別比較



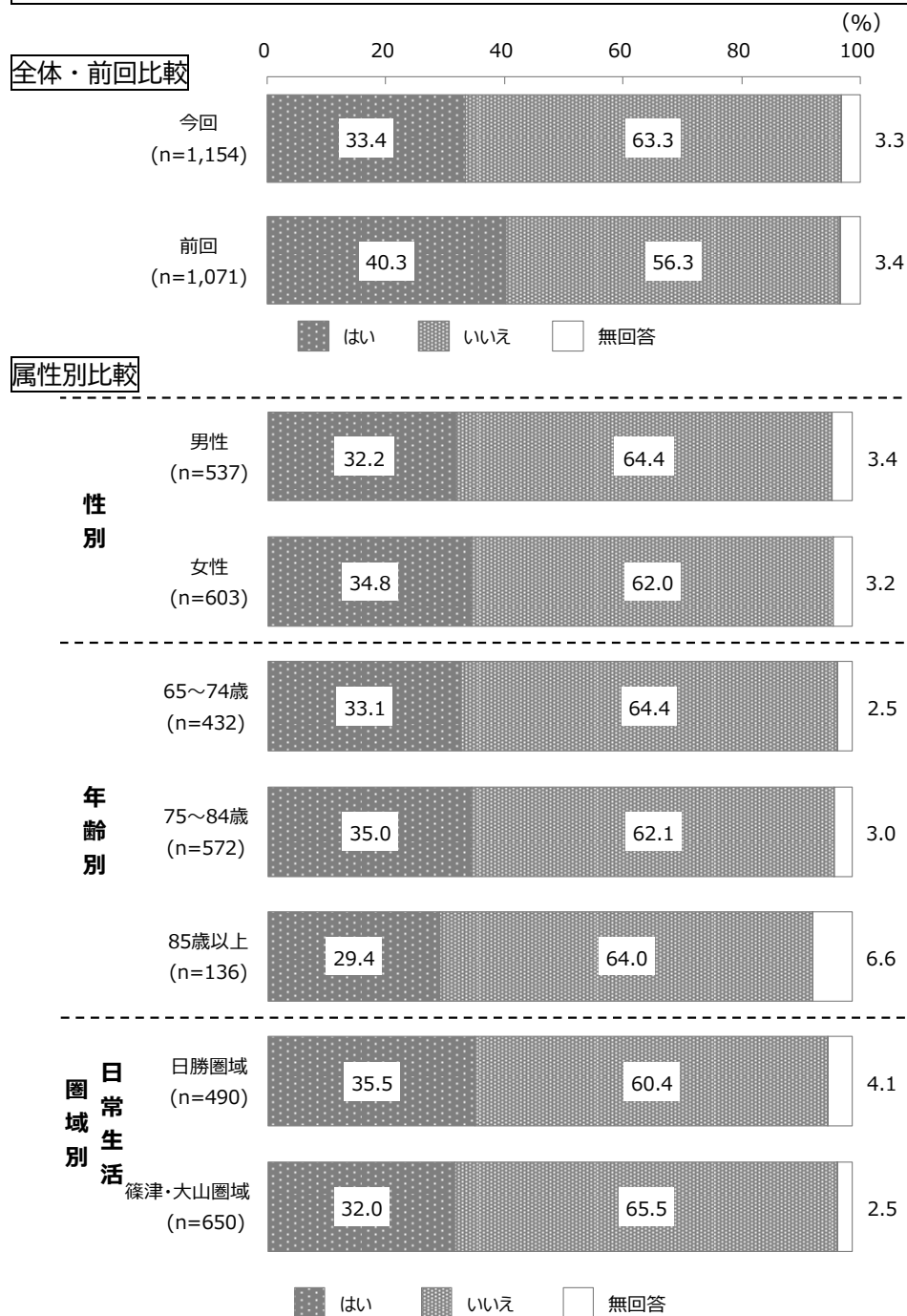
問50 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。[1つに○]

全体 「いいえ」が63.3%で、「はい」(33.4%) よりも多くなっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「いいえ」の割合が7.0ポイント多くなっており、この1か月に、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった人の割合が減っています。

年齢 65～74歳と75～84歳は、「はい」の割合が3割を超えていますが、85歳以上は3割を下回っています。

日常生活圏域 日勝圏域は、「いいえ」の割合が篠津・大山圏域より5.1ポイント少なく、この1か月に、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった人の割合がより多くなっています。

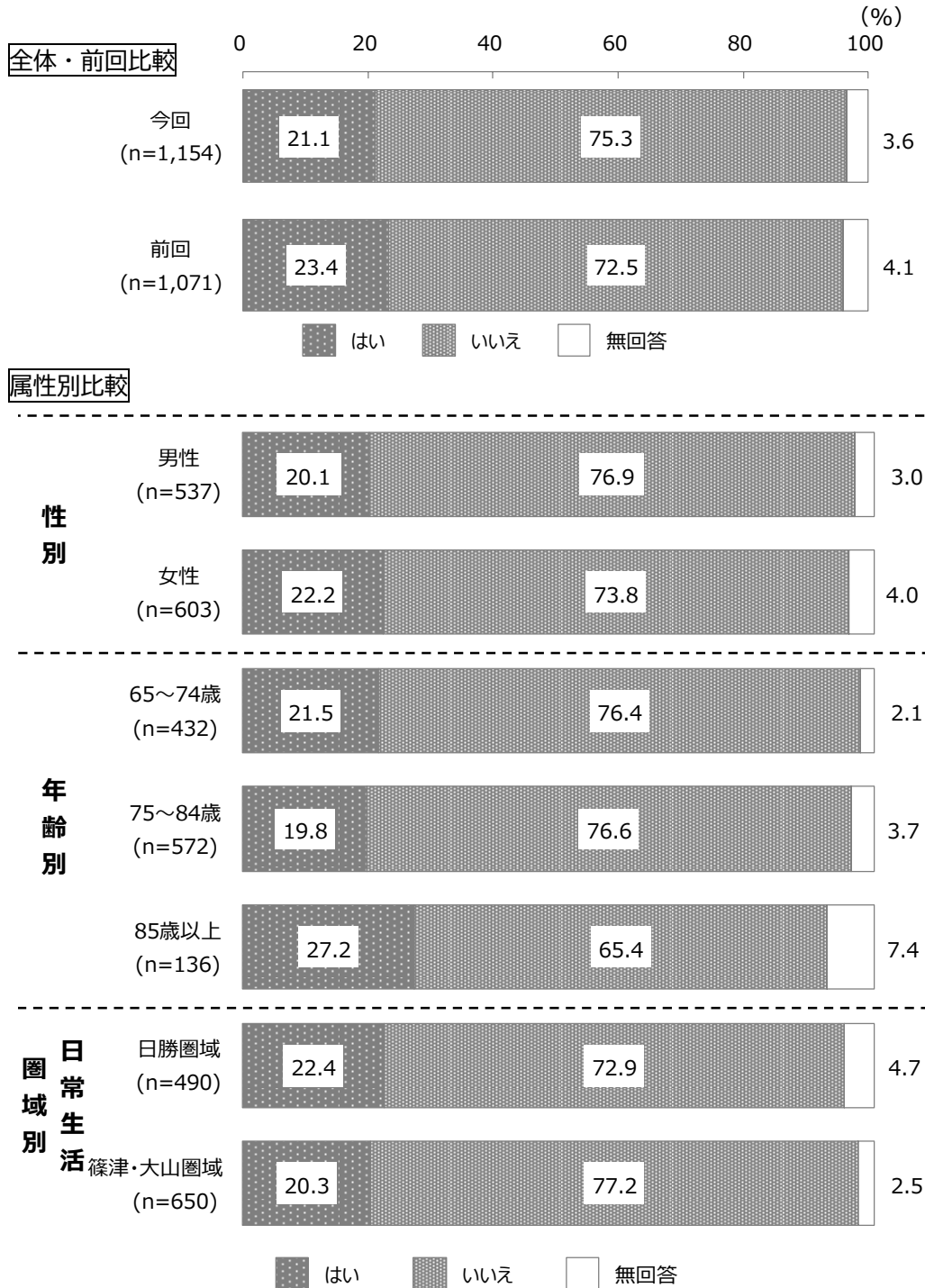


問51 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。[1つに○]

全体 「いいえ」が75.3%で、「はい」(21.1%) よりも多くなっています。

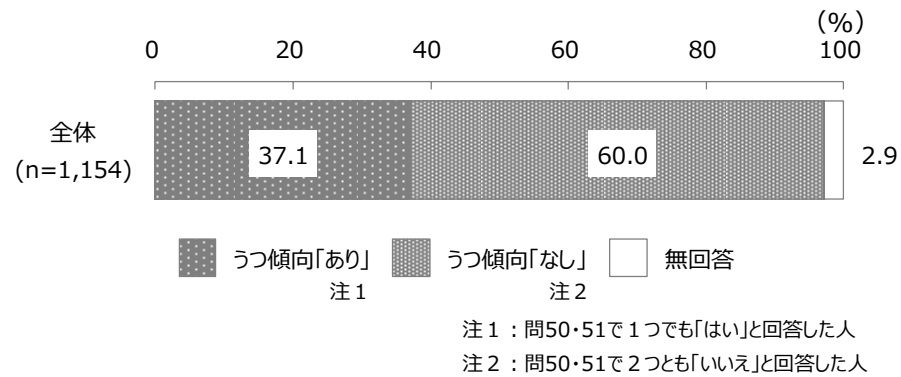
前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

年齢 85歳以上は、「はい」の割合が65～74歳と75～84歳よりも5ポイント以上多く、この1か月間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった人の割合が多くなっています。



【うつ傾向】

問50、問51で、いずれか1つでも「はい」を選択した場合は、うつ傾向の高齢者と言えます。該当者は428人、全体の37.1%となっています。前回調査の43.4%より6.3ポイント減少しています。

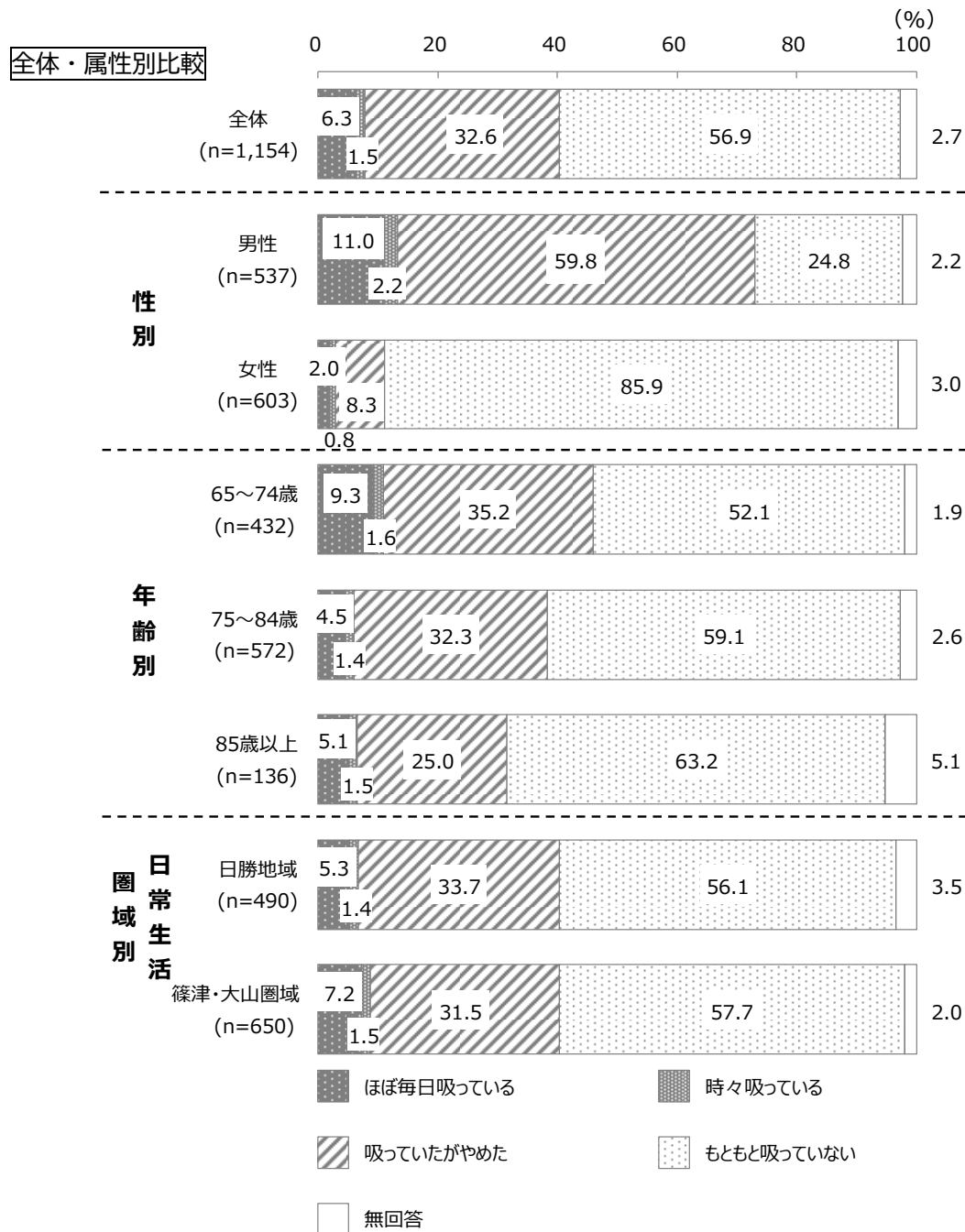


問52 タバコは吸っていますか。[1つに○]

全体 「もともと吸っていない」が56.9%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」(32.6%)、「ほぼ毎日吸っている」(6.3%)となっています。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせ、7.8%がタバコを吸っています。

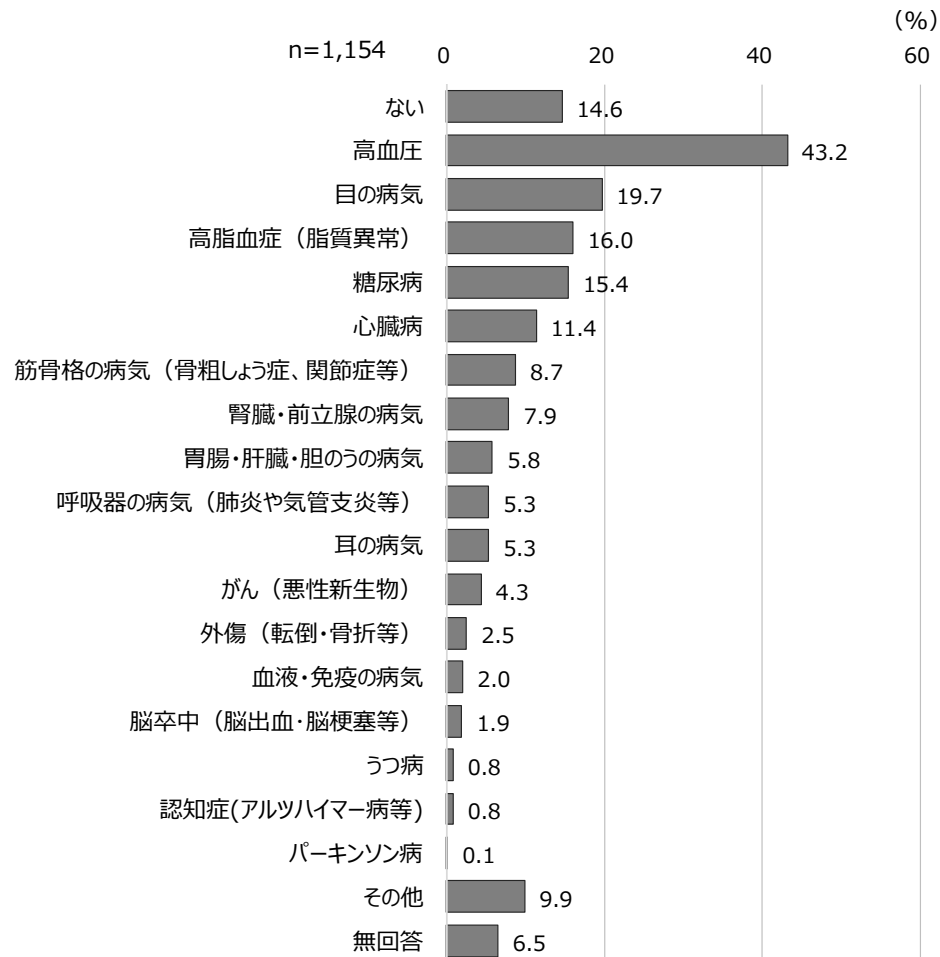
性別 女性は、「もともと吸っていない」が8割半ばで大半を占める一方、男性は「吸っていたがやめた」が約6割で最も多くなっています。また、男性は「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせ、13.2%がタバコを吸っています。

年齢 65～74歳は、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた「吸っている」割合が、75歳以上よりも多く、1割を超えています。



問53 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。[あてはまるものすべてに○]

「高血圧」が43.2%で最も多く、次いで「目の病気」(19.7%)、「高脂血症(脂質異常)」(16.0%)となっています。また、「ない」が14.6%となっています。



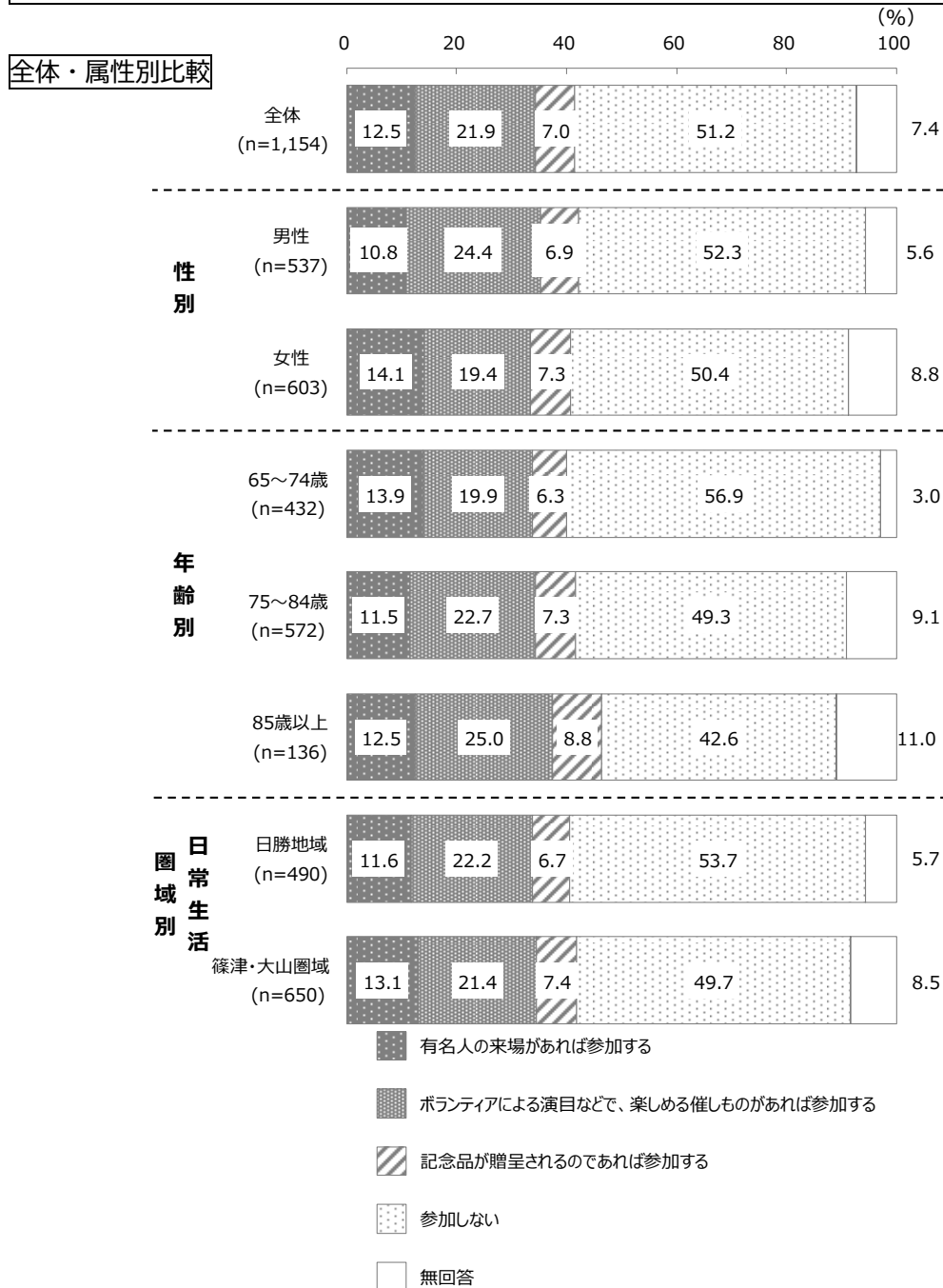
11. 高齢者福祉や介護保険等について

問54 事業の見直しにより、令和2年度から敬老会の開催が廃止されていますが、もし再開される場合、あなたの考えに最も近いものはどれですか。[1つに○]

全体 「参加しない」が51.2%で最も多く、次いで「ボランティアによる演目などで、楽しめる催しものがあれば参加する」(21.9%)、「有名人の来場があれば参加する」(12.5%)となっています。

性別 男性は、「ボランティアによる演目などで、楽しめる催しものがあれば参加する」の割合が女性よりも5.0ポイント多くなっています。

年齢 年代が低くなるほど、「参加しない」の割合が増え、65～74歳では半数を超えています。

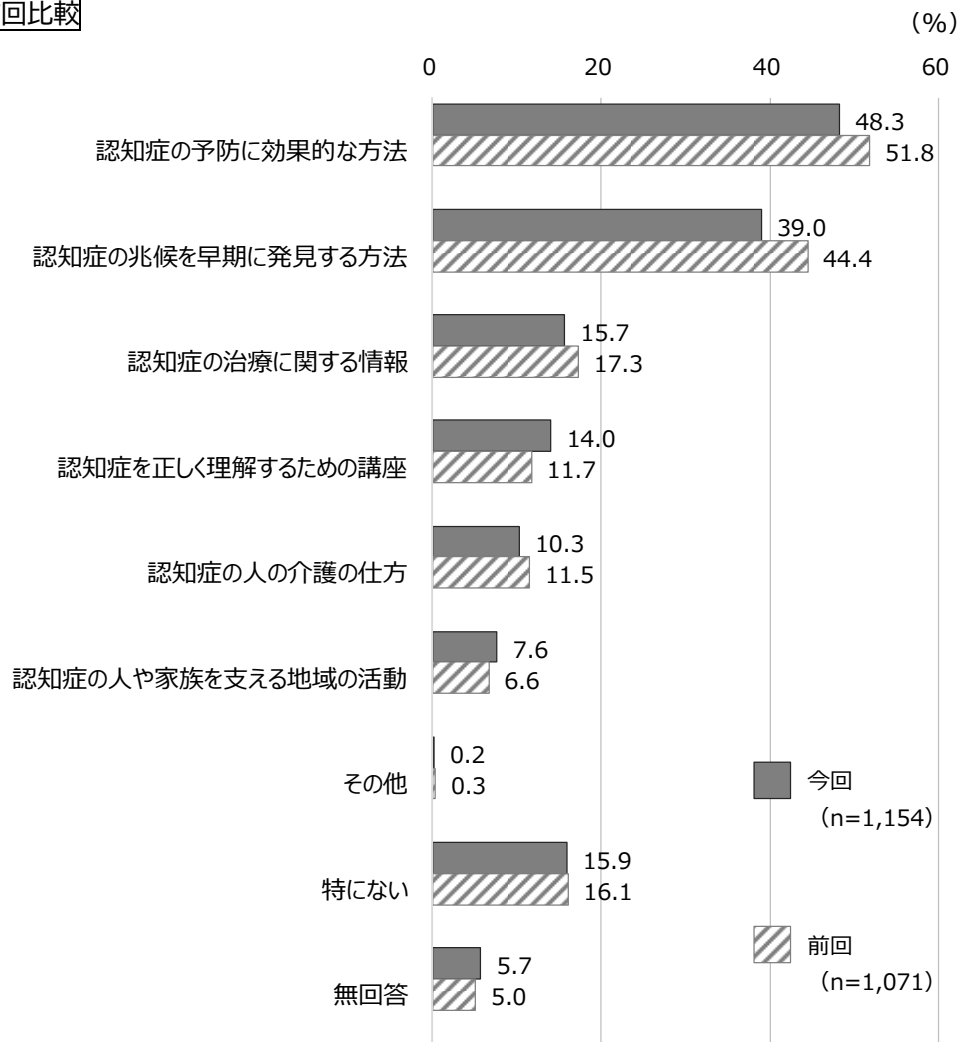


問55 認知症についてどんなことに関心がありますか。[〇は2つまで]

全体 「認知症の予防に効果的な方法」が48.3%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(39.0%)、「認知症の治療に関する情報」(15.7%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「認知症の兆候を早期に発見する方法」が5.4ポイント少なくなっているものの、項目の順位はすべて前回調査と同じとなっています。

全体・前回比較

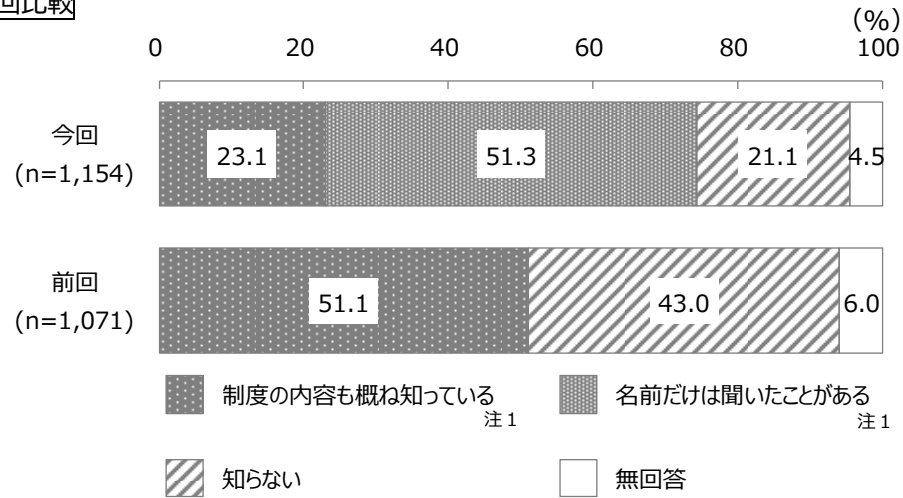


問56 あなたは、成年後見制度（判断力が低下した方への法的な支援制度）を知っていますか。[1つに○]

全体 「名前だけは聞いたことがある」が51.3%で最も多く、次いで「制度の内容も概ね知っている」(23.1%)、「知らない」(21.1%)となっています。

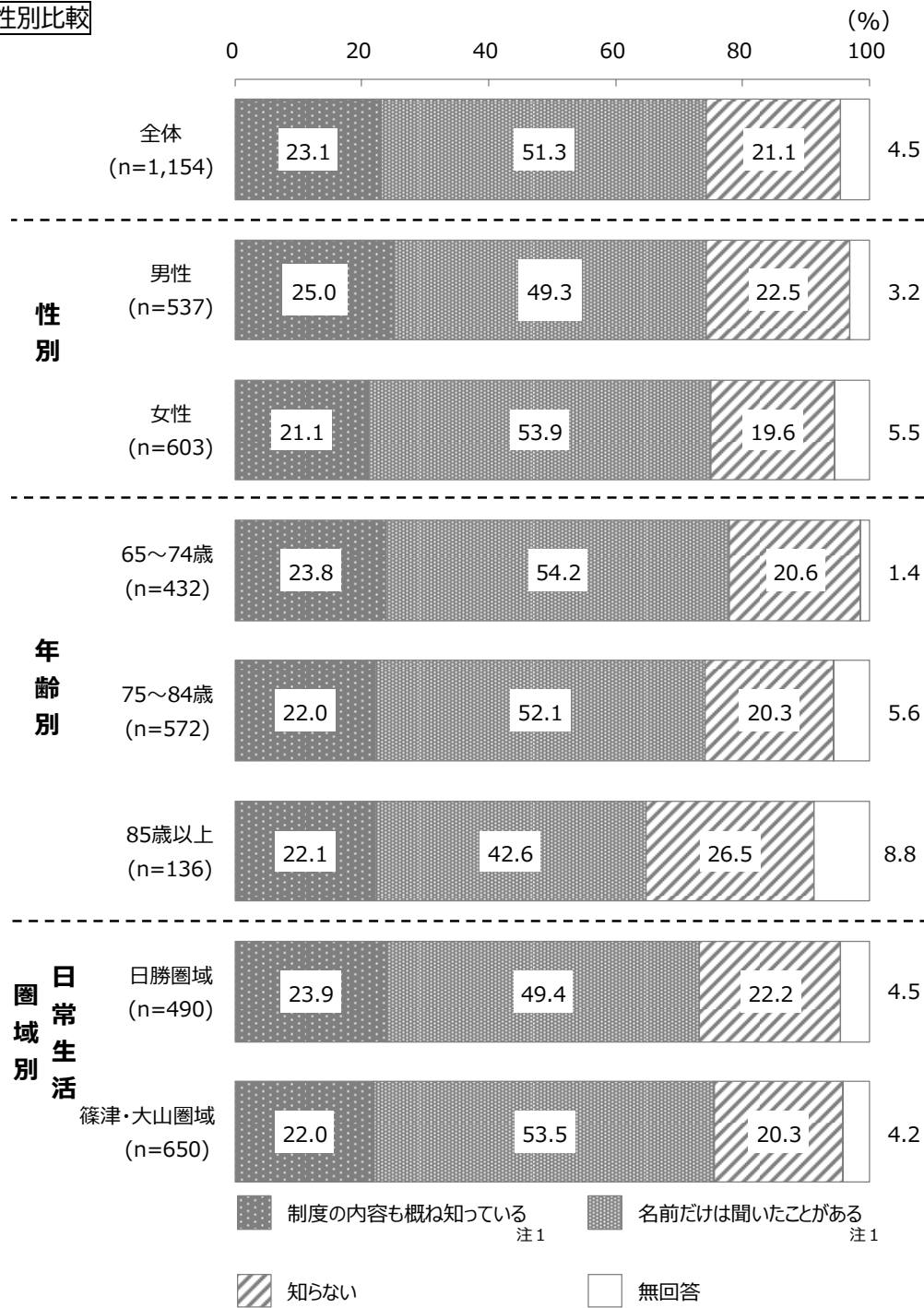
前回比較 前回調査では、「知っている」と「知らない」の2択でしたが、今回調査では、「制度の内容も概ね知っている」、「名前だけは聞いたことがある」、「知らない」の3択に変更されたため、単純な比較はできません。そのことを前提に比較すると、同じ選択肢である「知らない」の割合は、前回調査よりも減っています。

全体・前回比較



年齢 年代が高くなるほど、「知らない」の割合が増えて、「名前だけは聞いたことがある」の割合が減っています。また、「制度の内容も概ね知っている」の割合は、年代を問わず、2割前半となっており、成年後見制度の内容を知らない割合が多くなっています。

属性別比較

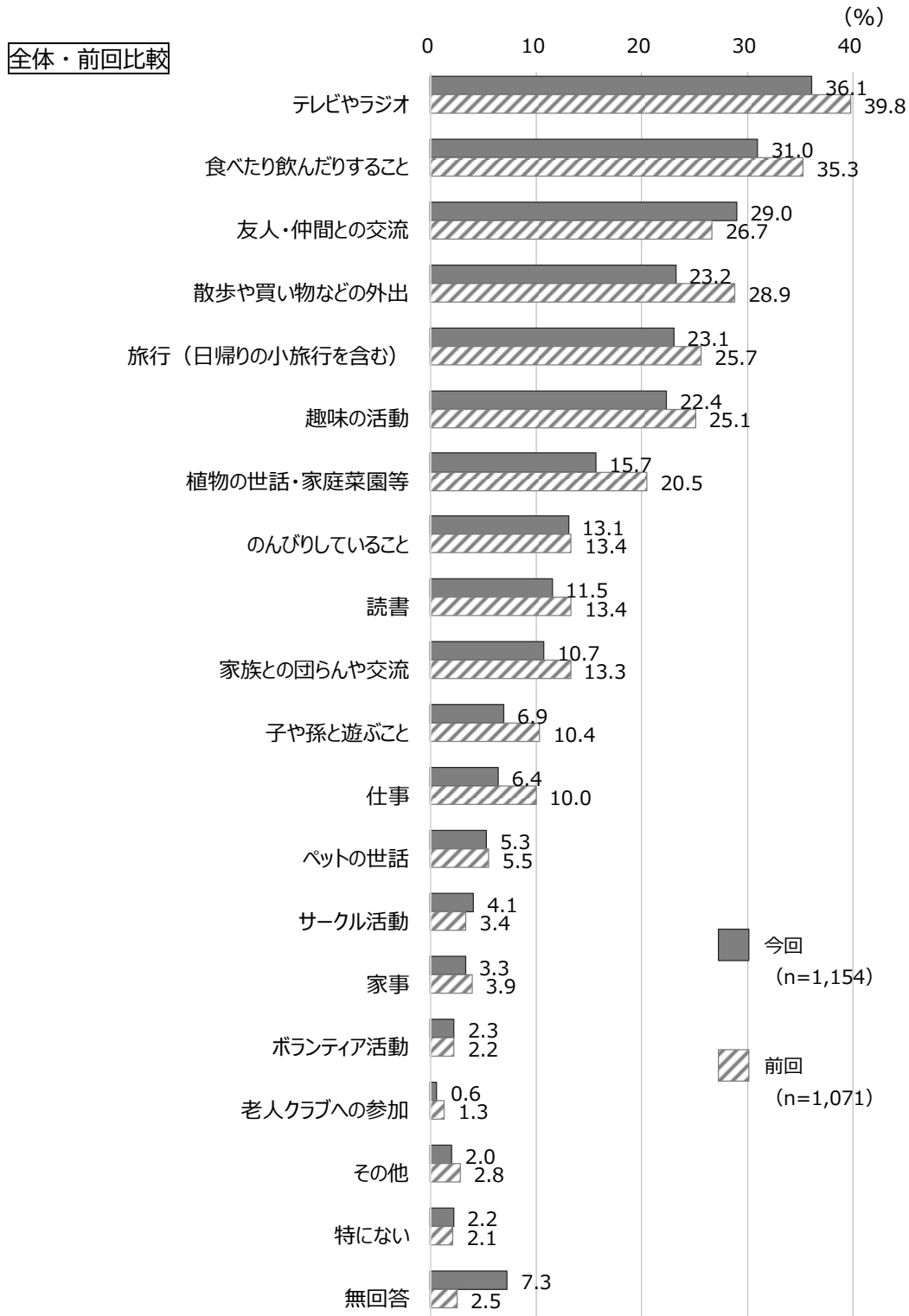


注1：前回調査の選択肢は、「知っている」を採用。

問57 あなたの生活の中で、生きがいや楽しみは何ですか。〔〇は3つまで〕

全体 「テレビやラジオ」が36.1%で最も多く、次いで「食べたり飲んだりすること」(31.0%)、「友人・仲間との交流」(29.0%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「散歩や買い物などの外出」が5.7ポイント少なくなっているものの、項目の順位は概ね前回調査と同様となっています。



性別 男性は、「食べたり飲んだりすること」の割合が女性よりも14.0ポイント多くなっている一方、女性は、「友人・仲間との交流」、「散歩や買い物などの外出」の割合が男性よりも10ポイント前後多く、女性の方が、交流や外出を楽しむ割合が多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「テレビやラジオ」の割合が増え、85歳以上では半数近くになっています。また、「友人・仲間との交流」は、年代が高くなるほど少なくなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		テレビやラジオ	食べたり飲んだりすること	友人・仲間との交流	散歩や買い物などの外出	(日帰りの小旅行を含む)	趣味の活動	植物の世話・家庭菜園等	のんびりしていること	読書	家族との団らんや交流	子や孫と遊ぶこと
全体(n=1,154)		36.1	31.0	29.0	23.2	23.1	22.4	15.7	13.1	11.5	10.7	6.9
性別	男性(n=537)	35.8	38.5	23.5	17.9	25.0	26.6	13.2	13.4	13.0	10.4	6.1
	女性(n=603)	36.3	24.5	33.7	27.7	21.4	18.6	17.9	12.8	10.3	11.1	7.8
年齢別	65～74歳(n=432)	31.0	37.0	31.9	23.1	28.9	25.2	14.1	10.2	9.3	13.0	12.3
	75～84歳(n=572)	37.2	27.6	27.8	23.3	20.6	22.2	16.8	14.9	12.2	9.6	3.8
	85歳以上(n=136)	47.8	27.9	24.3	23.5	14.7	14.7	15.4	14.7	15.4	8.1	3.7
圏域別 日常生活	日勝圏域(n=490)	37.6	31.0	30.0	24.5	20.4	21.6	16.9	11.8	11.0	8.0	7.1
	篠津・大山圏域(n=650)	35.4	31.1	28.3	22.3	24.9	22.9	14.8	14.2	12.0	12.9	6.9

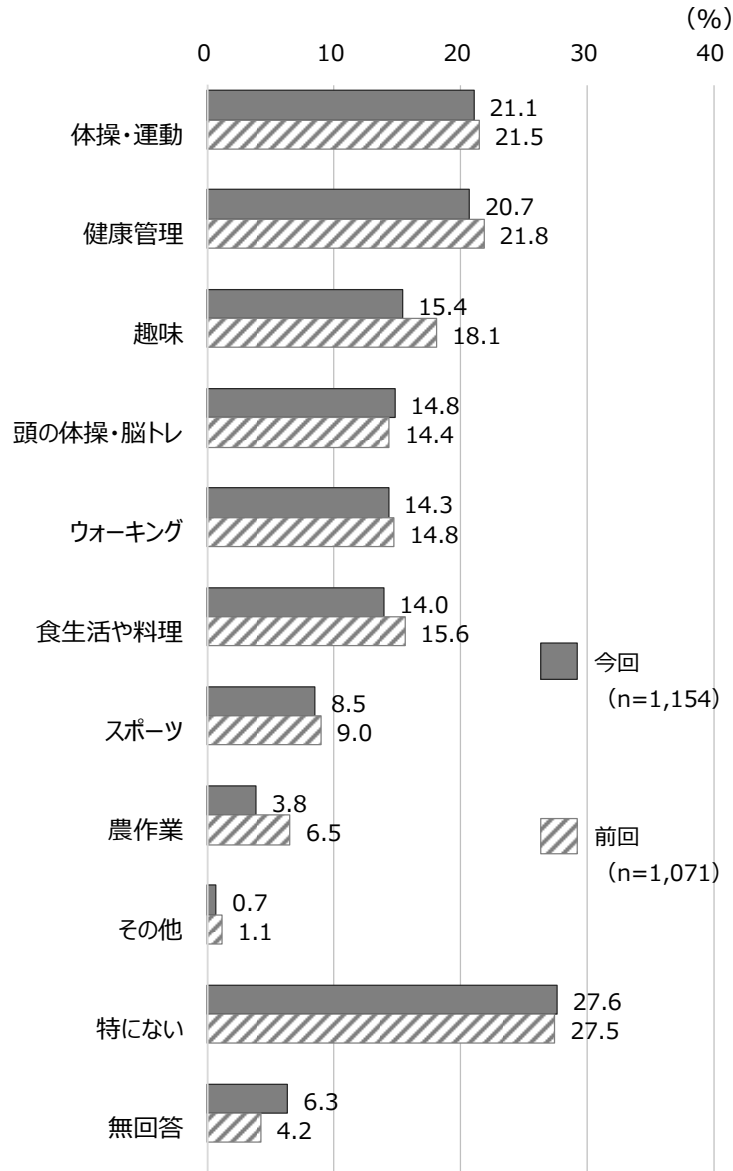
		仕事	ペットの世話	サークル活動	家事	ボランティア活動	老人クラブへの参加	その他	特にない	無回答
全体(n=1,154)		6.4	5.3	4.1	3.3	2.3	0.6	2.0	2.2	7.3
性別	男性(n=537)	7.6	4.3	3.5	1.7	2.0	0.6	2.0	3.5	6.0
	女性(n=603)	5.5	6.1	4.6	4.8	2.5	0.7	2.0	1.0	8.3
年齢別	65～74歳(n=432)	9.5	7.2	3.5	3.5	1.4	0.0	1.9	1.4	3.2
	75～84歳(n=572)	4.9	4.0	4.2	3.5	3.3	1.0	2.3	2.4	9.4
	85歳以上(n=136)	2.9	5.1	5.1	1.5	0.7	0.7	1.5	3.7	10.3
圏域別 日常生活	日勝圏域(n=490)	7.8	4.9	4.3	2.9	2.7	0.8	1.8	2.2	7.8
	篠津・大山圏域(n=650)	5.5	5.7	4.0	3.7	2.0	0.5	2.2	2.0	6.6

問58 介護予防や健康づくりのために参加してみたい講座や教室はどのようなものですか。
 [〇は2つまで]

全体 「特にない」が27.6%で最も多く、次いで「体操・運動」(21.1%)「健康管理」(20.7%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、各項目の割合の差は数ポイントであり、概ね前回調査と同じ傾向となっています。

全体・前回比較



性別 女性は、「体操・運動」の割合が男性よりも9.5ポイント多く、最も多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「体操・運動」、「ウォーキング」、「スポーツ」などの体を動かすことに関する項目の割合が減り、特に「体操・運動」は65～74歳と比較して、85歳以上では、14.0ポイント少なく、約1割となっています。また、年代を問わず「特にない」が最も多い回答となっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

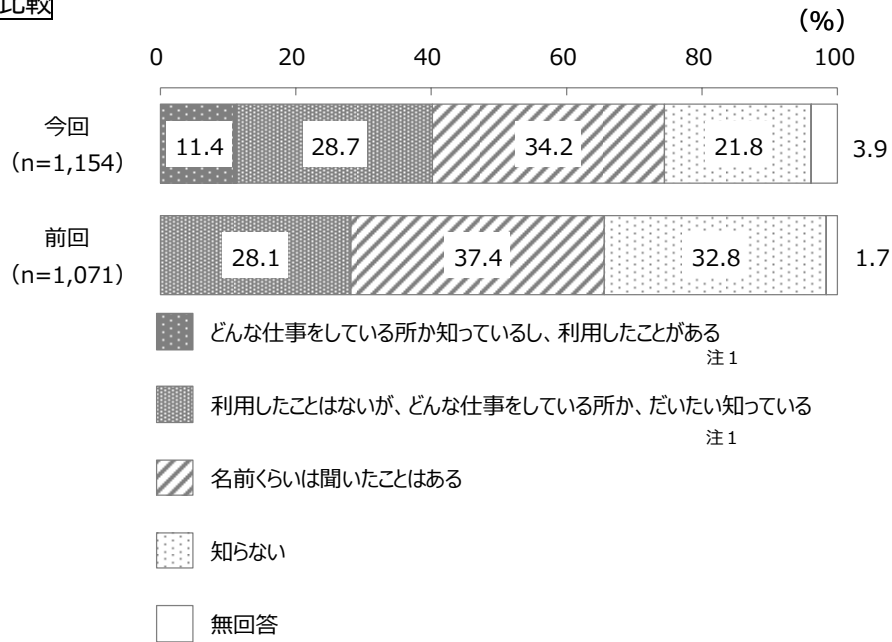
												(%)
		体操・運動	健康管理	趣味	頭の体操・脳トレ	ウォーキング	食生活や料理	スポーツ	農作業	その他	特にない	無回答
全体(n=1,154)		21.1	20.7	15.4	14.8	14.3	14.0	8.5	3.8	0.7	27.6	6.3
性別	男性(n=537)	16.0	22.2	16.6	11.7	15.8	10.4	13.6	5.6	0.4	30.7	4.5
	女性(n=603)	25.5	19.2	14.6	17.7	12.4	16.9	4.1	2.2	1.0	25.0	8.0
年齢別	65～74歳(n=432)	25.0	17.8	17.8	15.7	17.1	13.7	10.2	3.7	0.2	28.0	1.2
	75～84歳(n=572)	20.6	22.6	14.7	13.6	13.6	14.3	7.9	4.2	0.9	26.2	8.7
	85歳以上(n=136)	11.0	21.3	11.8	16.9	6.6	11.8	6.6	2.2	1.5	33.1	12.5
圏域別	日常生活圏域(n=490)	21.0	21.2	14.9	15.1	14.5	12.7	7.1	3.9	1.2	28.0	6.5
	篠津・大山圏域(n=650)	20.9	20.3	16.0	14.8	13.8	14.9	9.4	3.7	0.3	27.8	6.0

問59 高齢者介護や介護予防などについて総合的に対応し、さまざまな相談に応じる窓口として、「地域包括支援センター」が設置されています。あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。[1つに○]

全体 「名前だけは聞いたことがある」が34.2%で最も多く、次いで「利用したことはないが、どんな仕事をしている所か、だいたい知っている」(28.7%)、「知らない」(21.8%)となっています。

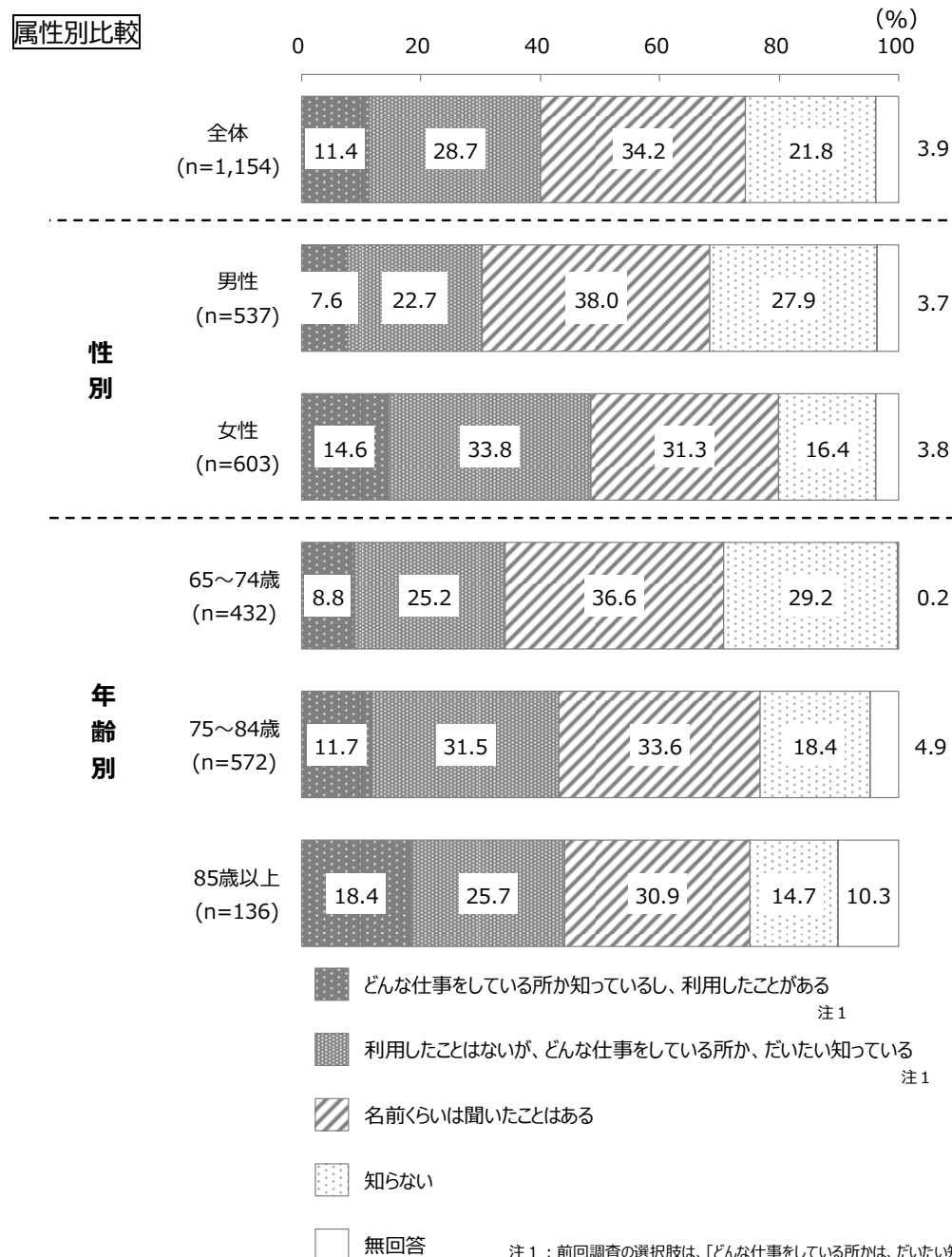
前回比較 前回調査での「どんな仕事をしている所かは、だいたい知っている」の選択肢を、今回調査では、利用の有無によって、「どんな仕事をしている所か知っているし、利用したことがある」と「利用したことはないが、どんな仕事をしている所か、だいたい知っている」の2つの選択肢に分けています。それを前提として比較すると、利用の有無に関わらず、「どんな仕事をしている所か知っている」の割合が、12.0ポイント多く、「知らない」が11.0ポイント少なくなっており、地域包括支援センターを知っている割合が増えています。

全体・前回比較



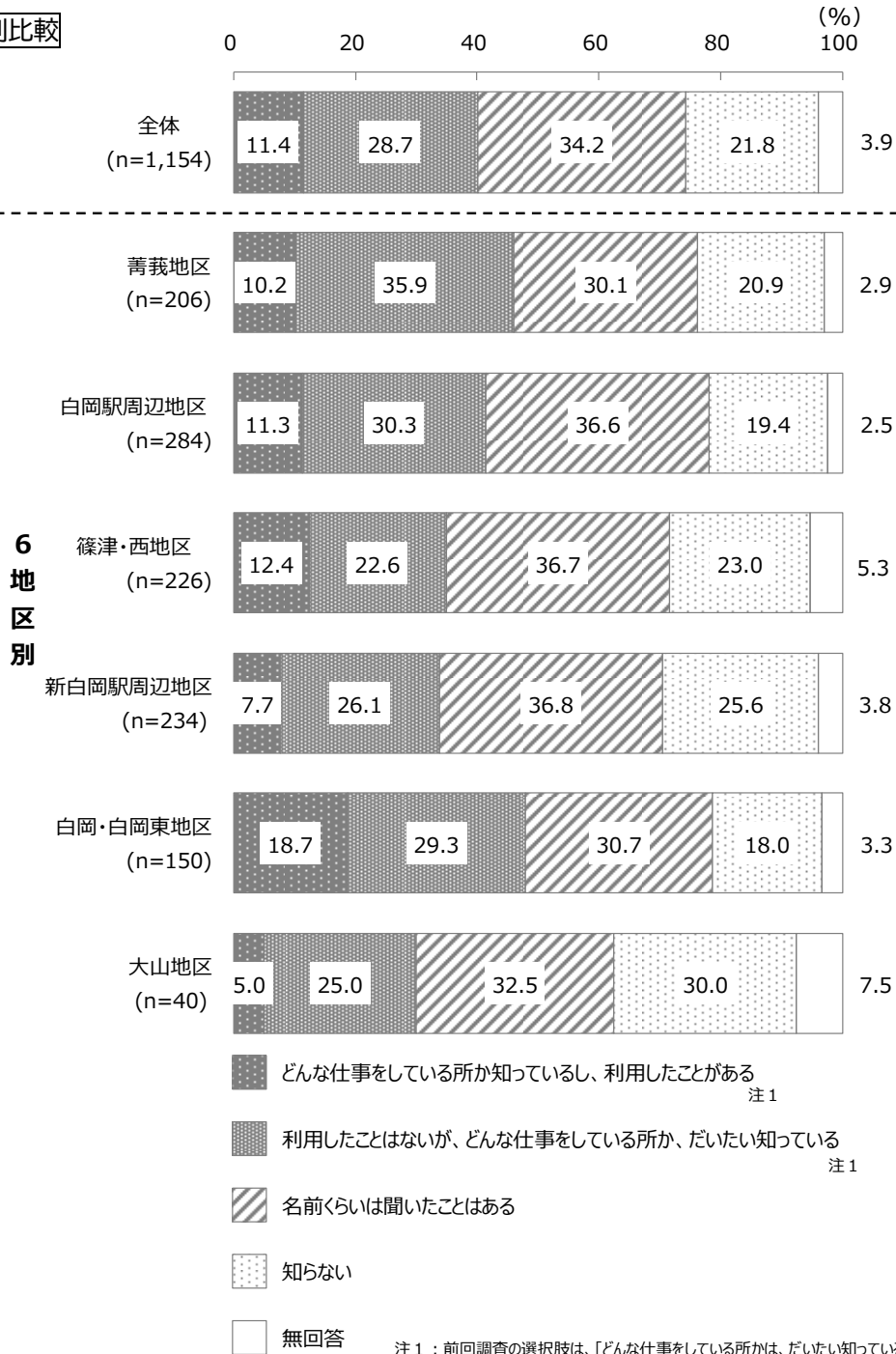
性別 女性は、男性と比較して「どんな仕事をしている所か知っているし、利用したことがある」の割合が7.0ポイント、「利用したことはないが、どんな仕事をしている所か、だいたい知っている」の割合が11.1ポイント多く、「どんな仕事をしている所か知っている」割合が多くなっています。一方で、男性は「名前くらいは聞いたことはある」と「知らない」を合わせた割合が6割半ばとなっており、地域包括支援センターの仕事について知らない割合が多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「どんな仕事をしている所か知っているし、利用したことがある」の割合が増え、「知らない」の割合が減っています。65～74歳は「名前くらいは聞いたことはある」と「知らない」を合わせた割合が6割半ばとなっており、地域包括支援センターの仕事について知らない割合が多くなっています。



6地区 白岡・白岡東地区では、「どんな仕事をしている所か知っているし、利用したことがある」の割合が18.7%で、他の地区と比較して5ポイント以上多くなっています。大山地区では、「どんな仕事をしている所か知っているし、利用したことがある」の割合が5.0%である一方、「知らない」の割合は30.0%となっており、白岡・白岡東地区と比較すると、12.0ポイント多くなっています。また、白岡・白岡東地区を除く他の5地区では、「名前くらいは聞いたことはある」と「知らない」を合わせた割合が半数を上回っており、地域包括支援センターの仕事について知らない割合が多くなっています。

属性別比較

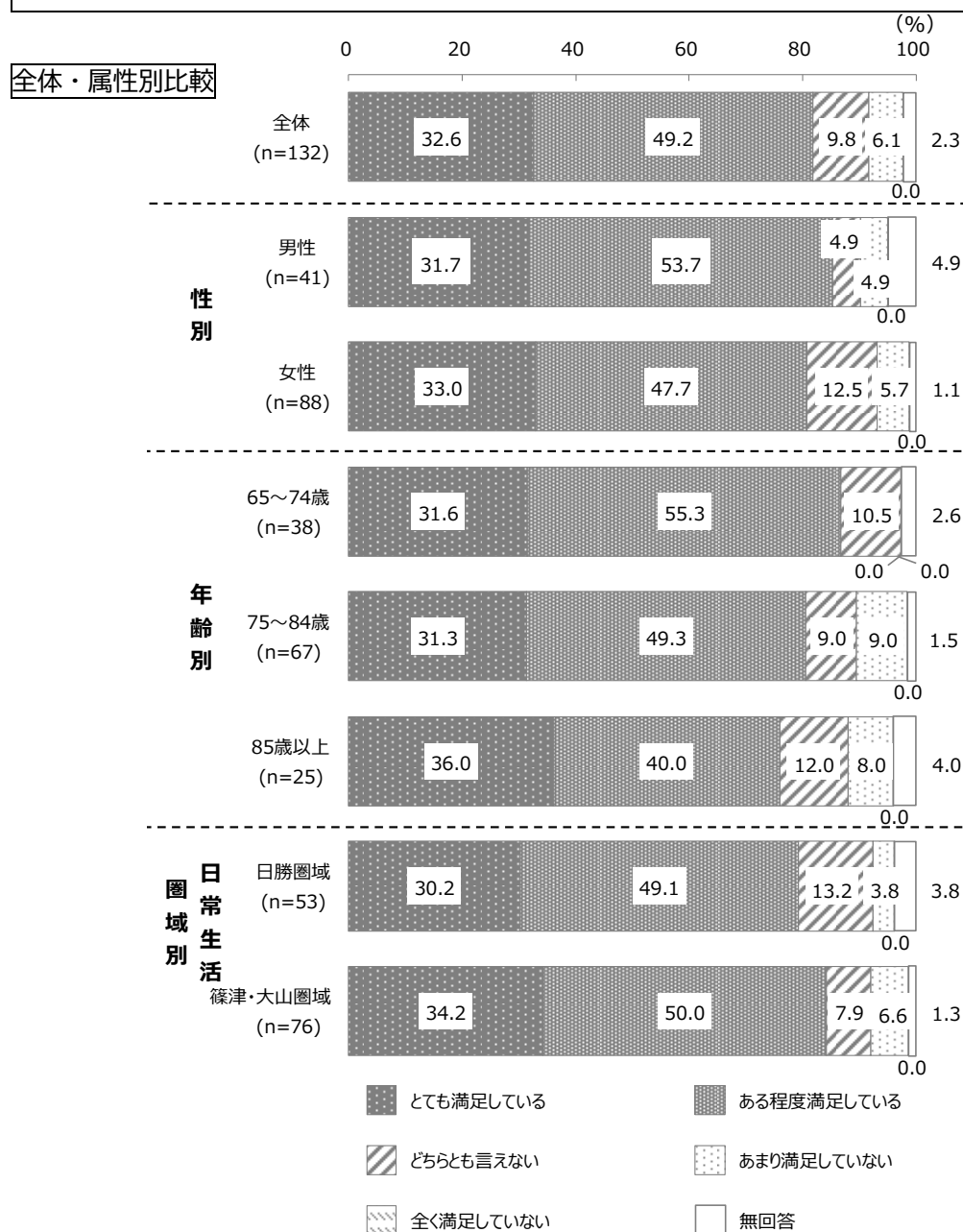


問60 「問59で「1 利用したことがある」と回答した方のみお答えください」
 利用した際の地域包括支援センターの対応は満足いくものでしたか。[1つに○]

全体 「ある程度満足している」が49.2%で最も多く、次いで「とても満足している」(32.6%)、「どちらとも言えない」(9.8%)となっています。「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせた「満足している」割合が8割を超え、大半を占めています。

性別 女性は、「ある程度満足している」が男性よりも6.0ポイント少なく、「どちらとも言えない」が7.6ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど「ある程度満足している」の割合が減り、65～74歳と比較して、85歳以上は15.3ポイント少なくなっています。また、65～74歳では「あまり満足していない」が0.0%であった一方、75～84歳では9.0%、85歳以上では8.0%となっており、75歳以上では、地域包括支援センターの対応にあまり満足していない人が約1割います。



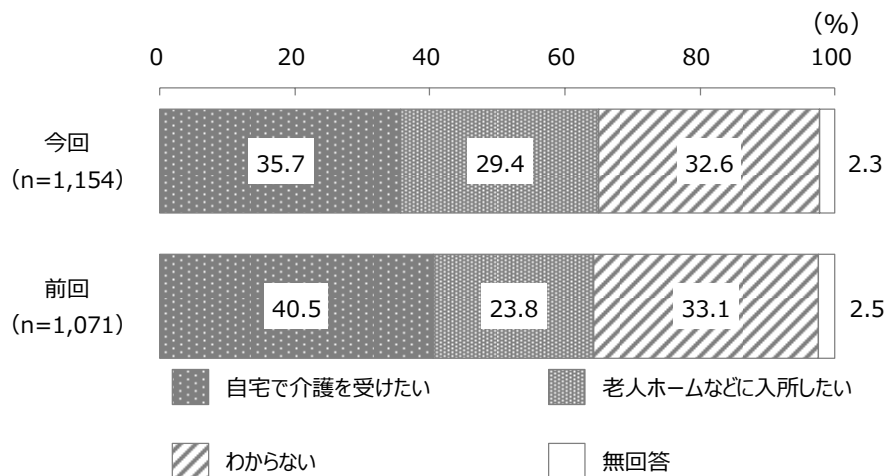
問61 今後仮に、あなたに介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。

〔1つに〇〕

全体 「自宅で介護を受けたい」が35.7%で最も多く、次いで「わからない」(32.6%)、「老人ホームなどに入所したい」(29.4%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「老人ホームなどに入所したい」が5.6ポイント多くなっています。

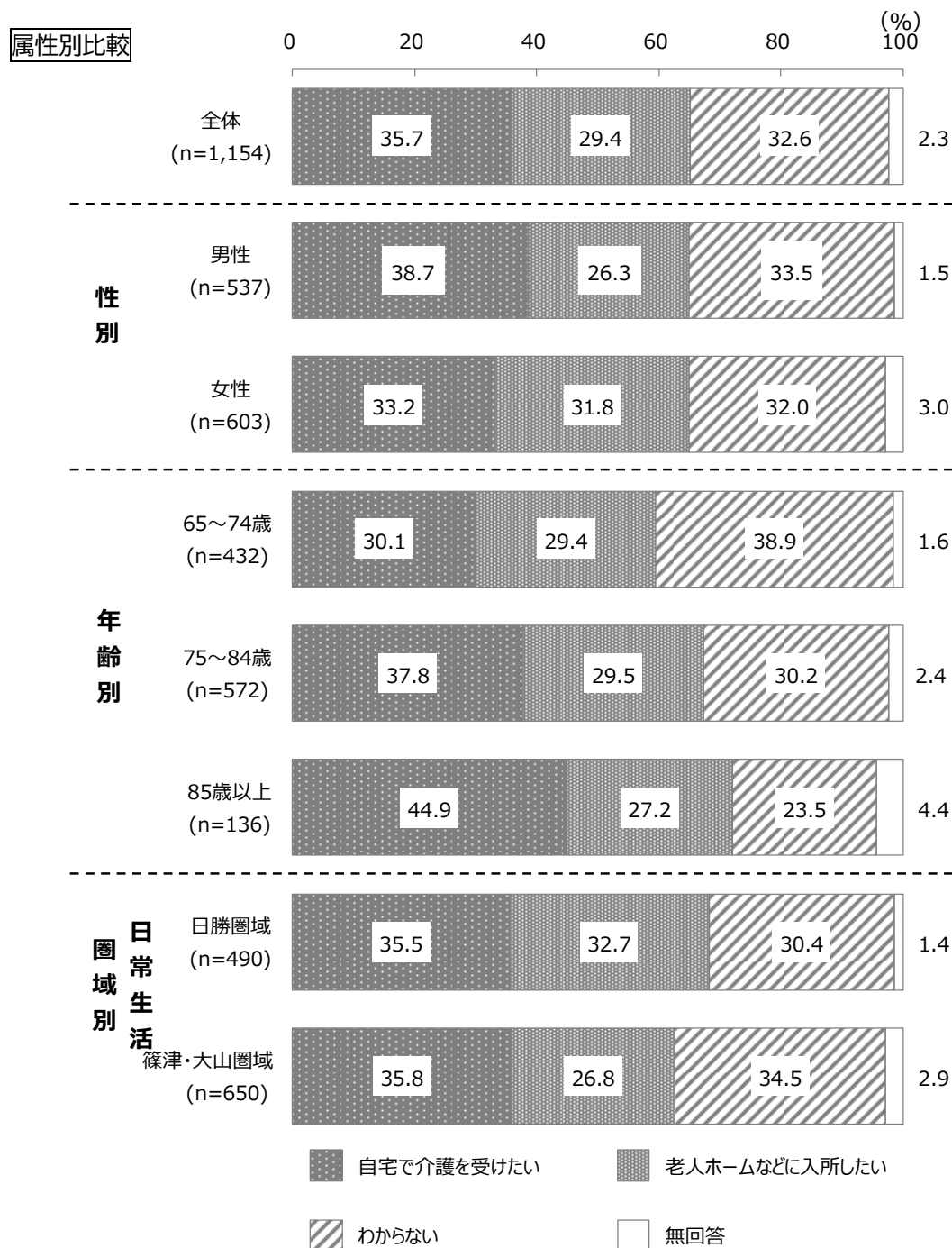
全体・前回比較



性別 女性は、「自宅で介護を受けたい」の割合が男性よりも5.5ポイント少なく、「老人ホームなどに入所したい」が5.5ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「自宅で介護を受けたい」の割合が増え、65～74歳が約3割である一方、85歳以上では、4割半ばとなっています。また、65～74歳では、「わからない」の割合が4割近く、最も多くなっています。

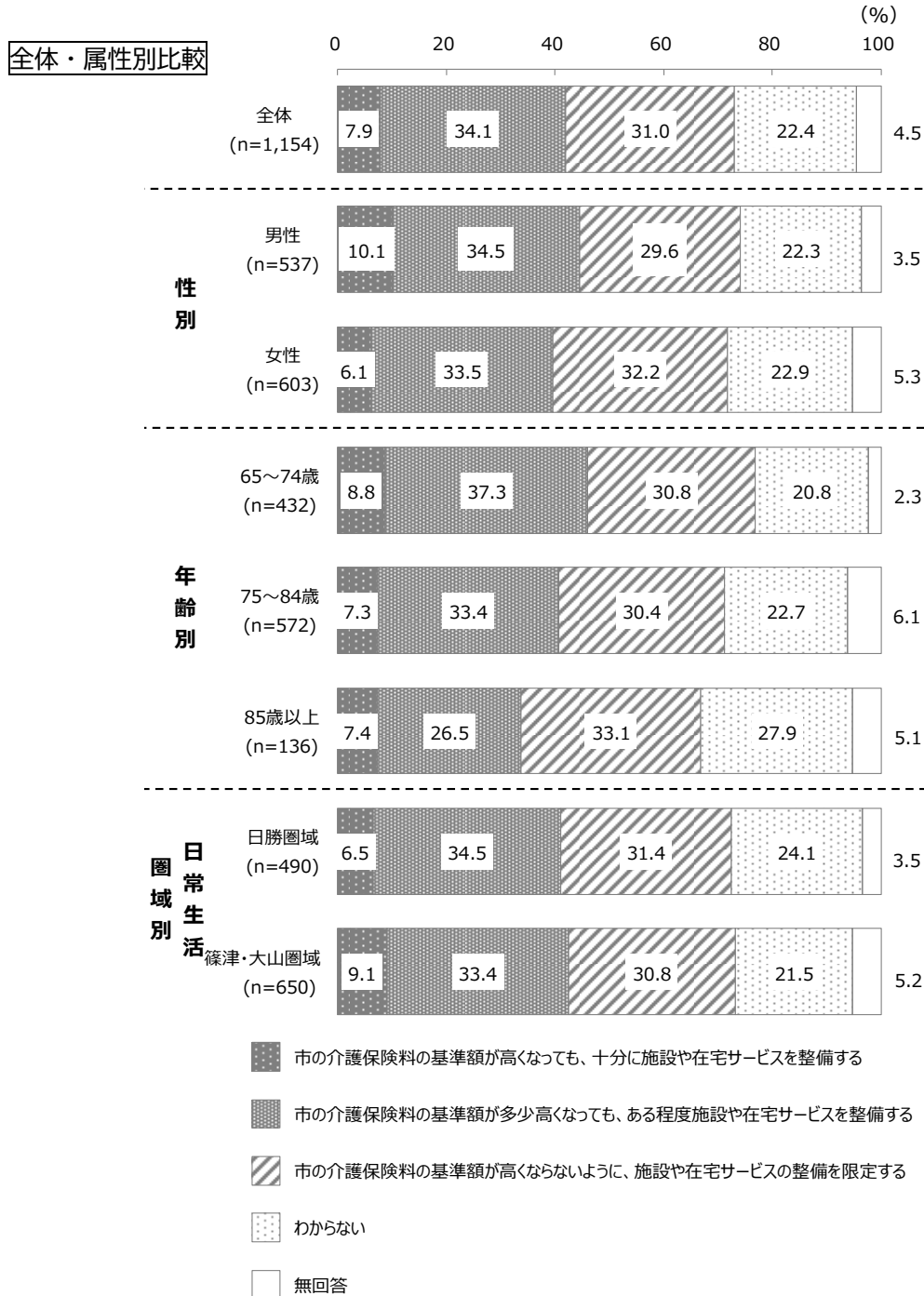
日常生活圏域 日勝圏域は、「老人ホームなどに入所したい」の割合が篠津・大山圏域よりも5.9ポイント多くなっています。



問62 介護保険制度では、保険料と介護保険サービスの利用については関連がありますが、あなたの考えに最も近いのはどれですか。〔1つに〇〕

全体 「市の介護保険料の基準額が多少高くなっても、ある程度施設や在宅サービスを整備する」が34.1%で最も多く、次いで「市の介護保険料の基準額が高くないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」(31.0%)、「わからない」(22.4%)となっています。

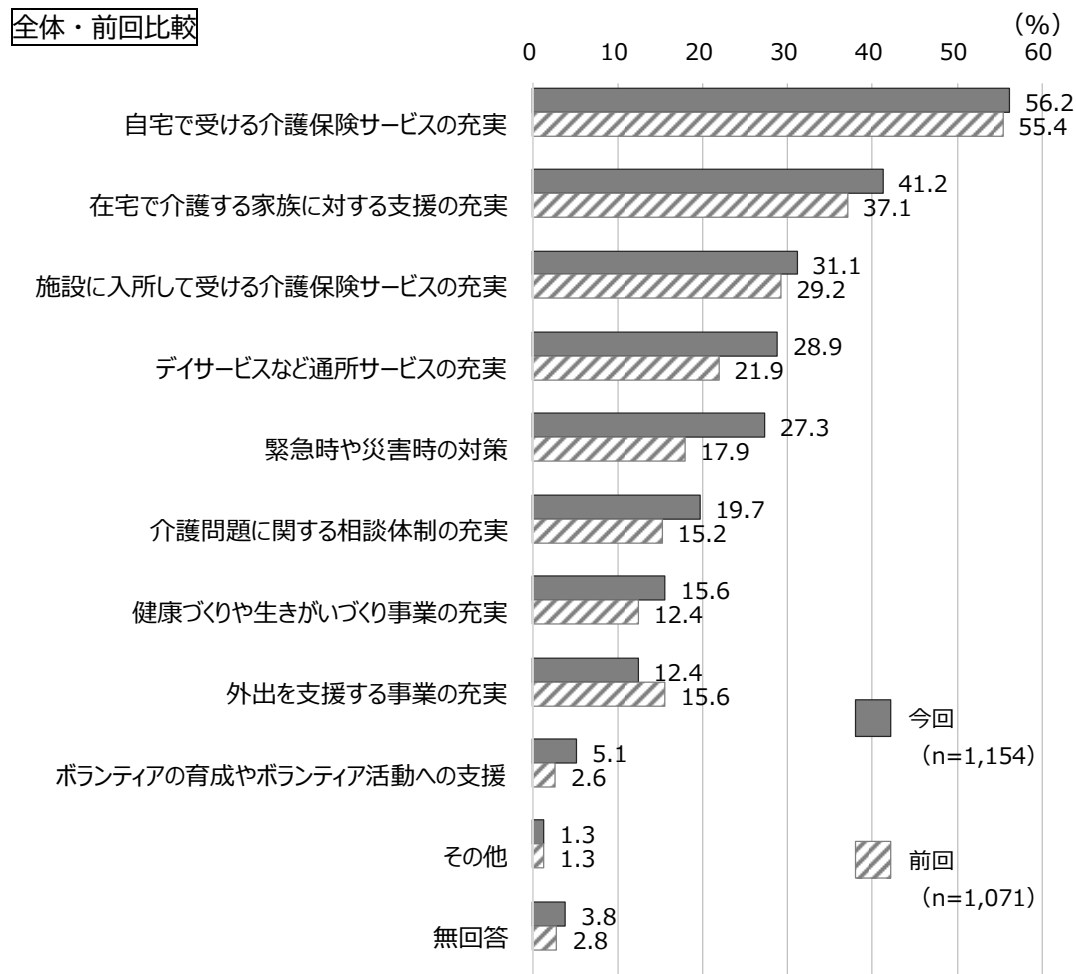
年齢 年代が高くなるほど、「市の介護保険料の基準額が多少高くなっても、ある程度施設や在宅サービスを整備する」の割合が減り、65～74歳が3割後半である一方、85歳以上では、2割半ばとなっています。



問63 高齢者への対応として、今後、行政にどのようなことを期待しますか。〔〇は3つまで〕

全体 「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が56.2%で最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(41.2%)、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」(31.1%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「緊急時や災害時の対策」が9.4ポイント、「デイサービスなど通所サービスの充実」が7.0ポイント多くなっていますが、項目の順位は概ね同様の傾向が見られます。



注1：前回調査の選択肢には、「病院や診療所などの医療機関の充実」、「防犯対策の充実」、「高齢者向け住宅の整備」、「老人クラブの活発化」が含まれる。

性別 男女ともに、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」となっています。一方で、男性は、女性と比較して、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」の割合が6.4ポイント、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が6.3ポイント多くなっています。

年齢 年代が高くなるほど、「デイサービスなど通所サービスの充実」の割合が減り、65～74歳が約3割である一方、85歳以上では、1割後半となっています。

日常生活圏域 篠津・大山圏域は、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」の割合が日勝圏域よりも5.0ポイント多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)										
		介護保険サービスの充実 自宅で受ける	在宅で介護する家族に 対する支援の充実	施設に入所して受ける 介護保険サービスの充実	デイサービスなど 通所サービスの充実	緊急時や災害時の対策	介護問題に関する 相談体制の充実	健康づくりや 生きがいづくり事業の充実	外出を支援する事業の充実	ボランティア活動への支援	その他	無回答
全体(n=1,154)		56.2	41.2	31.1	28.9	27.3	19.7	15.6	12.4	5.1	1.3	3.8
性別	男性(n=537)	58.5	44.7	34.3	27.0	26.1	17.1	14.7	8.4	6.7	1.9	3.0
	女性(n=603)	54.1	38.3	28.0	30.7	28.9	21.9	16.4	15.8	3.8	0.8	4.3
年齢別	65～74歳(n=432)	52.8	41.2	31.5	31.7	28.5	21.3	15.3	14.8	5.1	1.9	2.1
	75～84歳(n=572)	58.7	41.8	30.8	29.7	26.9	19.1	15.9	10.7	4.9	1.0	3.8
	85歳以上(n=136)	55.9	38.2	29.4	17.6	27.2	15.4	15.4	11.8	5.9	0.7	8.8
日常生活圏域別	日勝圏域(n=490)	53.3	40.8	31.8	27.8	26.9	21.0	16.9	14.3	5.9	1.2	1.6
	篠津・大山圏域(n=650)	58.3	41.7	30.3	30.2	28.0	18.6	14.6	10.9	4.5	1.4	5.1

12. 自由意見

市へご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、どのようなことでも結構ですからお知らせください。

267 件のご意見をいただき、以下の9つのカテゴリーに分類しました。(概ね原文のとおり)

【移動支援・生活支援】(56 件)

- ・市内を走る市内循環バスができることを望んでいます。今は自分で運転していますが、あったら今後出かける時に助かるだろうと思います。
- ・市内を巡回するバスを復帰してほしい。外出する時に交通手段がないと段々外出をあきらめてしまう。外出する楽しみがなくなる。
- ・現在、出かける時は自分で車を運転。もし、免許返納するにあたり移動支援サービスがもっと向上できれば、また、乗り物も回数が多ければ、安心して免許を返すことができる。節に願うものです。
- ・のりあいタクシーを使わせて頂き、安い料金で感謝しているのですが、使うのはほとんどが病院に行く時。行く時は予約時間で行けるのですが、帰りは時間が分からずタクシーを利用していますが高いこと！いつでも乗れるバスなどを運行してほしいです。
- ・介護を受ける者も介護をする者も共に高齢者の場合、通院においてタクシーのみであるため、タクシー券を配布していただければと思います。
- ・タクシーの予約が取りづらいので困る。
- ・スーパー、コンビニなどの食品は添加物が多い。高齢者向けにキッチンカーで昼食、夕食など販売できないか。
- ・大きなスーパーよりも、近くで日々の買い物ができるお店が欲しいです。

【生きがいづくり・就労・地域交流】(20 件)

- ・介護が必要にならないように、生きがいの見出せるプログラムを考えてほしい。いつでも誰でもどこでも参加できるようなぬくもりのあるおしゃべりできる場所がほしい。
- ・高齢者の中にも元気な方は沢山います。そういう人を活用して、地域の高齢者のおしゃべり場を作ればよいと思います。自宅から近いところでない高齢者は通えません。空き家活用もありますよね。
- ・高齢者の仲間作り、友達作りを目的とした活動(参加)を要望します。
- ・老人が出来る仕事の充実、生きがいの健康活動、役に立っている気持ちを持ち続ける行政の取り組み。
- ・老人会等高齢者だけの集まりでなく若人との交流会もあるといいと思います。中学、高校の部活の発表会(吹奏楽部、スポーツ部の試合観戦)等。
- ・高齢者でも働けるような窓口がない。年金だけでは生活苦で大変、少しでも収入を得たい。シルバー人材とか利用したくても仕事がない。

【健康づくり・介護予防・医療】(17件)

- ・身近な場所に予約なしでも運動ができる所(室内)がたくさんあったらいいと思います。
- ・今後、増々高齢者が増える中、介護事業は大変だと思います。私達高齢者が一人一人、健康を意識してピンコロになるよう心掛けて生活を送ることも必要だと思います。
- ・近くに公園とか安心してウォーキングができる場所がありません。近くに安心して行ける場所がほしいと思います。
- ・高齢者でも気軽に利用できる施設の整備。例えば、温水プールの設備充実や、腰痛・ひざ痛等の解消講座、トイレ・シャワー室等の改良、体力増進講座や体力測定など。
- ・当面の介護行政の役割は効率的に考えて、団塊の世代を中心とした介護予備軍の健康寿命を延ばすための自助活動の支援となる環境整備に注力すべきと考えています。
- ・在宅介護、特に在宅医療の充実を望みます。

【介護保険サービス】(32件)

- ・難しいと思うが、夫婦が安心して入所できる料金体制のサービスの向上をお願いしたい。
- ・1人暮らしをサポートするところがあればいい。
- ・保険料の負担が増えているが、この先自分が介護を受ける時にどれだけのサービスが受けられるのか心配。
- ・夫が施設に入り厚生年金は全く残りません。自分の年金では、病気や入院になれば生活はできません。自分だけでも自宅介護保険サービスをと考えています。ぜひ充実した支援をお願いいたします。
- ・私自身いつ介護が必要になるか不明ではあるが、その際あまり費用がかからないほどの介護の充実さを望みたい。
- ・在宅介護サービスをより充実させ、家族の負担を極力少なくできれば在宅介護が望ましいが現状では施設入所もやむを得ないと思う。どちらの場合でも利用者の費用の負担を極力少なくすることと、施設の数を増やすことで容易に入所ができるようにしてもらいたい。
- ・自分が認知症になり、介護が必要になった時は家族に迷惑をかけたくないので、金額は高くてもよいので施設に入居したい。
- ・市に高齢者シェアハウスがあったら、いずれ入ってみたい。

【相互理解と助け合いの地域づくり】(11件)

- ・地域の中で、孤立・孤独な方の存在がわかるように、民生委員さんに手当を出すことも大切です。
- ・近所に何でも話をしたりする人がいなくて不安です。
- ・若い世代と高齢者がお互いに理解をする事ができる制度を作ってほしい。
- ・介護をしている家族が気軽に話し合える場所がたくさんあればいいと思う。利用できる情報などをわかりやすく広めてほしい。
- ・介護の仕事に就いて24年、来年で退職の予定。経験を活かしたボランティアをできる場所があればと思っています。

【経済的負担】(23件)

- ・物価が高く大変です。何か支援があるといいです。
- ・介護保険料があまりにも高すぎる。インフレや、上方硬直の年金生活にこれ程の負担を強いるのは「楽しい老後」政策とは真逆。高齢者の生活の実態をしっかりと把握して健保を含めて安心して生きていける生活水準の維持をしっかりと考えてほしい。
- ・年金の額は増えないので、介護保険料が高くなるのは不安である。施設やサービスは受けたい希望がある。
- ・介護保険料が65歳からとても高すぎるが、支払額によってサービスの違いはないのか。結果的に利用しないで終わるのはどうなのか。
- ・健康状態を維持する為、コロナ、インフルエンザ等各種ワクチンを利用しています。特にコロナワクチンは自己負担が大きく、東京都と比べるとかなりの差があります。同じにしろというのは無理でしょうが、たくさんの人に利用してもらえようご検討下さい。带状疱疹用ワクチンもしかり。

【情報提供・相談・手続き】(27件)

- ・介護情報や高齢者福祉に関する行政サービスの情報を積極的に発信願います。
- ・後期高齢者医療保険料はコンビニで支払いをできるようにしてほしい。
- ・包括支援センターでの対応がすみやかにされています。
- ・元気なうちに何かボランティア活動してみたい。何があるか分からない。知らせる方法はないか。
- ・介護保険の使い方がわからないことが親の介護の時にありました。何を質問したらよいか分からず手さぐり状態で困ってしまった経験があり、話を聞きに行くところはどこに？窓口でもっと親身になって教えてくれたらよかったことがいっぱいありました。
- ・高齢者は、市の活動について知っているようで知らないことが多いと思います。年寄り向けの広報みたいなものがあれば送ってほしい。
- ・介護問題に関する情報がもう少しほしいと思っている。現在は介護を受けてないが、心配があるため。

【まちづくり、インフラ、防災】(27件)

- ・ 駅中の出張所を復活してほしい。
- ・ 独居老人への支援と空家対策として所有者への管理の徹底→地域の安全対策につながる。
- ・ 新白岡は1軒のみしかスーパーがない。食べ物屋さんがあればいいのだが、このままだともっと歳をとったら、買い物もいけなくなり、今は引越しを考えている始末だ。元気な年寄りでも生きていけるようにしてほしい。元気でない人の充実は大切ではあるが、元気な年寄りがいることも忘れずに。
- ・ 散歩しやすい道路の整備（例えば川沿いをウォーキングできるように整備、椅子を置くとか）。道も川も草を刈ってほしいです。歩くにも車も見通し悪く危険です。
- ・ 白岡市もいずれ人口減少が進みますので、「箱もの」と呼ばれる余計な建造物は作らないでください。
- ・ 駅前の開発、賑わいある街づくりを期待。

【その他意見】(54件)

- ・ 高齢者が安心して最後が迎えられるように良い市づくりを期待します。よろしくお願い申し上げます。
- ・ 高齢の認知症のある親を介護して送りました。ケアマネさんが、介護する私に大丈夫ですかと声をかけてくれた時は嬉しかった。介護する側もとってもストレスや疲れがあって大変なのです。
- ・ 自分にとって遠い先のことではないものの現在はほぼ元気なので現実感がなく、わからないことが多い。
- ・ アンケートはWebで回答できるようにしてほしい。
- ・ こんなに細かくまた行き届いたアンケートをありがとうございました。

13. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のまとめ

【1. 回答者の属性】

回答者の性別は、「女性」が52.3%で、「男性」(46.5%)より多くなっています。年齢構成を見ると、「75～79歳」が30.2%で最も多く、次いで「70～74歳」(27.6%)、「80～84歳」(19.3%)となっています。65～74歳までの前期高齢者が37.4%である一方、75歳以上の後期高齢者は61.3%で、前期高齢者より多くなっています。前回調査と比較すると、「65～69歳」が9.2ポイント減少している一方、「75～79歳」が7.2ポイント増加しており、後期高齢者からの回答が多くなっています。

居住地域を日常生活圏域でみると、「篠津・大山圏域」が56.4%で、「日勝圏域」(42.5%)より多くなっています。地区別では、「小久喜」が19.9%で最も多く、次いで「新白岡」(14.8%)、「西」(13.1%)となっています。また、日常生活圏域を見直すにあたり、地理的条件、人口、交通事情などを勘案し、現在設定している2圏域内をさらに6地区にグループ分けしました。その6地区別にみると、「白岡駅周辺地区」が24.6%で最も多く、次いで「新白岡駅周辺地区」(20.3%)、「篠津・西地区」(19.6%)となっています。

「要支援」の認定を受けているかどうか尋ねたところ、「認定を受けていない」が93.2%で大半を占め、「要支援1」と「要支援2」はそれぞれ2.4%となっています。

現在、利用している介護予防サービスについて尋ねたところ、「利用していない」が95.1%と大半を占め、「通所介護」、「訪問介護」、「その他のサービス」はそれぞれ約1～2%に留まっています。

【2. ご家族や生活状況について】

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が45.5%と約半数を占め、次いで「息子・娘との2世帯」(29.9%)、「1人暮らし」(15.3%)となっています。性別でみると、女性は「1人暮らし」の割合が男性よりも7.1ポイント多くなっています。また、年代別にみると、年代が高くなるほど、「1人暮らし」と「息子・娘との2世帯」の割合が高くなっており、85歳以上では、「1人暮らし」が20.6%、「息子・娘との2世帯」が34.6%となっています。日常生活圏域では、日勝圏域では、「1人暮らし」の割合が篠津・大山圏域よりも5.5ポイント多く、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が6.3ポイント少なくなっています。

普段の生活でどなたかの介護・介助が必要か尋ねたところ、「介護・介助は必要ない」が89.8%と大半を占めている一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答した人が5.8%います。年代別にみると、85歳以上になると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が16.9%、「現在、何らかの介護を受けている」が8.8%と、84歳以下よりも割合が高くなっています。

85歳以上では、1人暮らしの割合が2割を超えている中、何らかの介護・介助が必要にも関わらず受けていない人が16.9%います。独居高齢者の孤立化を防ぎ、必要な時に支援を求められる体制作りが重要となっています。

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか尋ねたところ、「ふつう」が59.9%で最も多く、次いで「やや苦しい」(20.7%)、「大変苦しい」(8.2%)となっています。「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた「苦しい」の割合が3割近くを占めています。年代別でみると、年代が高くなるほど「ふつう」の割合が増え、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた「ゆとりがある」の割合が少なくなっています。

【3. からだを動かすことについて】

1) 運動器機能

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか尋ねたところ、「できない」と回答した人が17.8%います。女性は、「できない」の割合が男性よりも11.8ポイント多くなっています。また、年代が高くなるほど「できない」の割合が増え、85歳以上では全体の約4割となっています。

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか尋ねたところ、「できない」と回答した人が8.2%います。女性は、「できない」の割合が男性よりも5.9ポイント多くなっています。また、年代が高くなるほど「できない」の割合が増え、85歳以上では全体の約2割となっています。

15分位続けて歩いているか尋ねたところ、「できない」と回答した人が7.7%います。年代が高くなるほど「できない」の割合が増え、85歳以上では全体の14.7%となっています。

過去1年間に転んだ経験があるか尋ねたところ、「1度ある」が21.4%、「何度もある」が8.4%であり、これらを合わせると転倒リスクのある高齢者は29.8%となっています。85歳以上では、4割を超える人が転倒のリスクがあります。転倒に対する不安については、「やや不安である」が41.2%で最も多く、「とても不安である」(15.3%)と合わせると56.5%であり、半数以上が転倒について不安を持っています。年代が高くなるほど「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた「不安である」割合が多くなり、85歳以上では67.6%の人が不安を感じています。

上記の運動器機能に関する問への回答内容から、国が示す方法を用いて運動器の機能が低下している人を抽出したところ、150人おり、全体の13.0%となっています。また、総じて運動器機能は、年代が高くなるほど、そして男性よりも女性の方が「できない」の割合が多くなっています。「できない」状態に陥る前から、運動器機能の低下を防ぐため、日頃の体操やウォーキングなど、運動器機能の向上のための情報やプログラムを提供していくことが重要となっています。

2) 外出の頻度

外出の頻度は、「週2～4回」が47.6%で半数近くを占め、次いで「週5回以上」(32.6%)で、週2回以上外出している人は8割を超えています。一方で、「週1回」は12.0%、「ほとんど外出しない」は5.3%で、これらを合わせると閉じこもり傾向のある人は17.3%います。性別でみる

と、女性は「週5回以上」の割合が男性よりも11.7ポイント少なく、「週1回」の割合が6.7ポイント多くなっており、女性の方が外出の頻度が少なくなっています。年代別では、年代が高くなるほど「ほとんど外出しない」と「週1回」の割合が増え、85歳以上では、両方を合わせた閉じこもり傾向のある人が全体の約4割となっています。

「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた回答割合を6地区で比較すると、白岡・白岡東地区（21.3%）と新白岡駅周辺地区（20.9%）は2割を超えて多くなっています。

物忘れが多いと感じるかとの問に対し、「はい」と回答した人は、「いいえ」と回答した人と比較して、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた回答割合が5.3ポイント多くなっており、物忘れが多いと感じる人の方が、外出の頻度が少ない傾向にあります。

引退の時期別でみると、引退からの経過年数が長いほど、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた割合が多くなっています。引退時期が5年未満では、外出頻度が週1回以下の人が全体の約1割であるのに対して、25年以上前では、全体の約3割と多くなっています。

閉じこもり傾向のある人が全体で2割近く、85歳以上では約4割もいます。また、物忘れが多いと感じる人の方が、外出頻度が少ない傾向にあることがわかります。外出することで人との交流が生まれ、様々な刺激を受けることは、認知機能の低下を防ぐことにもつながります。年代が高くなるにつれ、運動器機能が低下し、それによって閉じこもり傾向になり、それが更なる運動器機能の低下や認知機能の低下を加速させる要因にもなります。こうした負の連鎖を防ぐためにも、運動器機能の向上以外にも、高齢者の外出を促す環境作りが求められています。

3) 昨年と比較した外出回数

昨年と比べて外出の回数が減っているか尋ねたところ、「減っていない」が38.4%で最も多く、「あまり減っていない」（33.4%）と合わせると71.8%である一方、「減っている」（22.4%）と「とても減っている」（3.6%）を合わせた、減っている割合は26.0%で、約4人に1人は昨年と比べて外出の回数が減っています。

性別でみると、女性は「減っている」の割合が男性よりも8.3ポイント多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合が多くなり、85歳以上では半数近くの人が、昨年と比べて外出回数が減っていると回答しています。

4) 外出を控えているか・控えている理由

外出を控えているか尋ねたところ、「いいえ」が78.9%で、「はい」が17.3%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が16.8ポイント少なく、外出を控えている人が少なくなっています。前回調査実施時は、新型コロナウイルス感染症の影響下であったため、外出を控える人が多かったことが推測されます。

性別でみると、女性は「はい」の割合が男性よりも7.5ポイント多く、2割を超える人が外出を控えています。年代別でみると、年代が高くなるほど「はい」が多くなり、85歳以上は4割近くが外出を控えています。

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が47.5%で最も多く、次いで「交通手段がない」（27.0%）、「トイレの心配（失禁など）」（21.5%）となっています。性別でみると、男女ともに「足

腰などの痛み」が最も多くなっていますが、次いで、男性は「外での楽しみがない」と「病気」である一方、女性は「交通手段がない」となっています。

年代別にみると、全年代において「足腰などの痛み」が最も多くなっています。2番目に多い回答は、65～74歳が「病気」である一方、75歳以上は「交通手段がない」となっています。

6地区別では、すべての地区において、「足腰などの痛み」が最も多くなっています。第2位と3位は各地区によってばらつきがあるものの、大山地区を除き、「交通手段がない」の回答割合が多くなっています。

外出を控えている理由のうち、「交通手段がない」との回答は、外出を控えている割合が多くなっている女性で3割を超え、また、85歳以上では4割を超えています。6地区別では、菁莪地区と篠津・西地区では3割半ばを超えています。また、「外での楽しみがない」との回答は、男性で2割半ばとなっています。心身の健康以外の理由で外出を控えることがないように、移動手段の確保や魅力的な活動の創出などが重要となっています。

5) 外出時の移動手段

外出する際の移動手段は、「徒歩」が58.7%で最も多く、次いで「自動車（自分で運転）」(51.1%)、「電車」(37.8%)となっています。また、「電車」以外の公共交通機関は、「タクシー」(11.3%)と「路線バス」(2.9%)となっています。

性別でみると、男性は「自動車（自分で運転）」が70.2%と最も多い一方、女性は33.7%に留まっており、男女で大きな差がみられます。女性は、「徒歩」(56.1%)が最も多く、次いで「自転車」(38.5%)が多くなっています。年代別でみると、84歳以下では、「徒歩」に加え、「自動車（自分で運転）」が多い一方、85歳以上では、「徒歩」に加え、「自動車（人に乗せてもらう）」が多くなっています。

男性は7割以上の人自分が自分で自動車を運転していることから比較的外出しやすい一方、女性は3割半ばに留まり、主に徒歩と自転車での移動となるため、必然的に外出しにくい状況が生まれています。また、85歳以上でみると、「自動車（自分で運転）」は2割以下、「自転車」は3割以下となっており、外出は主に徒歩と自動車（人に乗せてもらう）に頼っていることがうかがえます。

6) 外出する際に不便を感じること

外出する際に不便を感じることは、「特に不便はない」が56.3%で最も多く、次いで「交通手段がない」(25.2%)、「運賃・利用料金が安い」(13.7%)となっています。性別でみると、女性は「交通手段が少ない」の割合が男性よりも9.9ポイント多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、「交通手段が少ない」の割合が増え、85歳以上では3割以上が交通手段が少ないことを不便に感じています。6地区別では、「交通手段が少ない」の割合は、白岡・白岡東地区では1割半ばである一方、篠津・西地区では約3割、菁莪地区では約4割となっています。

7) 利用したい移動サービス

あれば利用したい移動支援サービスは、「タクシー割引制度」が 39.3%で最も多く、次いで「地域限定の送迎バス」(34.0%)となっています。また、「特にない」が 35.9%となっています。性別でみると、女性は、男性と比較して「タクシー割引制度」の割合が 11.9 ポイント、「地域限定の送迎バス」の割合が 8.4 ポイント多くなっています。年代別では、全年代において、「タクシー割引制度」と「地域限定の送迎バス」が上位を占めています。85 歳以上では、「ボランティアによる送迎サービス」が 14.0%で他の年代と比べ多くなっています。

6 地区別でみると、「タクシー割引制度」は、大山地区を除いた 5 地区では、約 4 割が回答しています。「地域限定の送迎バス」は、菁莪地区では 4 割前半、篠津・西地区、大山地区で 3 割後半が回答しています。

8) 移動支援サービスを利用する際に重視すること

移動支援サービスを利用する際に重視することは、「利用料金の安さ」が 38.3%で最も多く、次いで「予約不要で巡回していること」(25.7%)、「家の近くまで来てくれること」(22.6%)となっています。性別でみると、女性は「予約不要で巡回していること」が 30.8%で、男性と比較して 10.9 ポイント多くなっています。年代別では、年代が低くなるほど、「利用料金の安さ」の割合が多くなっており、65～74 歳では、約半数が回答しています。85 歳以上では、「利用料金の安さ」よりも「予約不要で巡回していること」の割合がやや多くなっています。

9) 市内 1 回の乗車の適正料金

移動支援サービスを利用する際に重視することとして、「利用料金の安さ」と回答した 442 人に、市内 1 回の乗車につき、高くて利用を控えると思う料金設定を尋ねたところ、「500 円」が 30.3%で最も多く、次いで「200 円」(27.8%)、「300 円」(25.6%)となっており、半数以上の人 が 300 円以下と回答しています。性別でみると、男性は「200 円」が 37.6%で最も多い一方、女性は「500 円」が 35.3%で最も多くなっており、女性の方が、高くて利用を控えると思う金額は高くなっています。また、年代別でみると、85 歳以上では、「500 円」と「500 円より高くても利用する」を合わせた 500 円以上と回答した割合が 48.5%と半数近くを占めており、84 歳以下と比較して多くなっています。

あれば利用したい移動支援サービスの上位は「タクシー割引制度」と「地域限定の送迎バス」であり、特に、菁莪地区、篠津・西地区、大山地区では「地域限定の送迎バス」が求められています。また、全体では、半数以上の人 が、高くて利用を控える料金設定を 300 円以下だと回答していますが、移動支援の要望の高い「女性」や「85 歳以上」に限定すると、500 円の回答が多くなっています。これら市民の声を把握し、適切な移動支援サービスを提供していくことが重要となっています。

【4. 食べることについて】

身長と体重を尋ねて、BMI を算出しました。67.6%の人が「標準」である一方、「肥満」が 21.7%、「低体重」が 7.1%で、栄養状態の二極化がうかがえます。年代別では、65～74 歳は、「肥

満」の割合が24.1%で多くなっています。また、「低体重」に該当する人は、低栄養が疑われるため、これらの層に対する対応が求められます。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったか尋ねたところ、「はい」と回答した人が32.0%おり、咀嚼機能の低下が疑われます。年代が高くなるほど、「はい」の割合が増え、85歳以上では、過半数が半年前に比べて固いものが食べにくくなったと回答しています。日常生活圏域別でみると、日勝圏域では、篠津・大山圏域と比べて「はい」と回答した割合が5.9ポイント多くなっています。

歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が36.5%で最も多く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(29.2%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(19.2%)となっています。自分の歯が20本以上あると回答した人が半数以上います。また、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」と回答した人が約1割います。年代が高くなるほど、自分の歯が20本以上あると回答した人が減り、85歳以上では4割以下となっています。

口腔機能については、半年前と比較して固いものが食べにくくなったと回答した人が3割を超え、年代が高くなるほどその割合は増え、85歳以上では過半数に達しています。さらに、自分の歯が19本以下にも関わらず、入れ歯を利用していない人も約1割おり、咀嚼機能の低下が、食事内容や栄養状態に影響を及ぼす可能性もあります。

6か月間で2～3Kg以上の体重減少があったか尋ねたところ、「いいえ」が82.9%で大半を占めるものの、「はい」と回答した人が14.2%います。「はい」と回答した人で、かつ「身長・体重」から算出されるBMIが18.5以下（低体重）の人は、低栄養状態にあると言えますが、該当者は20人、全体の1.7%となっています。

誰かと食事をとにもする機会があるかについては、「毎日ある」が56.2%で最も多く、次いで「月に何度かある」(16.6%)、「年に何度かある」(11.3%)となっています。「月に何度かある」、「年に何度かある」、「ほとんどない」を合わせると、3割以上の人が、誰かと食事をすることが月に数回以下となっています。

性別でみると、女性は「ほとんどない」が3.8%である一方、男性は9.7%で女性より多くなっています。また、年代別では、年代が高くなるほど、「毎日ある」の割合が減り、85歳以上では半数を下回っており、孤食の頻度が増えています。外出頻度別で比較すると、外出頻度が少ないほど、共食の機会が減っています。週5回以上外出する人は、「毎日ある」が6割半ばである一方、ほとんど外出しない人は「毎日ある」が4割半ばに留まり、共食の機会が「ほとんどない」が2割半ばとなっています。

孤食の状態は、特に男性や後期高齢者においてその傾向が強く、年代が高くなるほど共食の機会が減っています。外出頻度が少ない人ほど共食の機会も少なく、外出機会の減少は、食事環境の悪化につながっている可能性もあります。食べることに関する課題は、栄養状態、口腔機能、孤食などの社会的側面と相互に関連しており、介護予防の観点から、口腔機能の維持・向上、低栄養の予防、共食（外出）機会の確保を一体的に進めていくことが重要となっています。

【5. 毎日の生活について】

1) 物忘れ

物忘れが多いと感じるか尋ねたところ、「はい」が42.4%となっており、認知機能の低下が疑われる人が4割を超えています。また、年代が高くなるほど、その割合は増え、85歳以上では物忘れが多いと感じる人は半数を上回っています。6地区別では、白岡・白岡東地区と大山地区では、「はい」と回答した人が4割以下である一方、薮荻地区では、47.6%と物忘れが多いと感じる人が多くなっています。

2) バスや電車での1人での外出

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が75.6%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(14.6%)、「できない」(7.4%)となっています。性別でみると、女性は「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が28.6%で、男性よりもバスや電車を使って1人で外出しない割合が多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど「できるし、している」と回答した割合が減っており、85歳以上では約半数となっています。

6地区別では、白岡・白岡東地区と新白岡駅周辺地区は、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が2割を下回っている一方、薮荻地区と大山地区では2割半ばを上回っており、バスや電車を使って1人で外出しない割合が多くなっています。特に、薮荻地区は、外出する際に不便を感じることで、「交通手段がないこと」の割合が最も多い地区であるため、移動手段が確保できないことも影響を及ぼしていると考えられます。

3) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

自分で食品・日用品の買い物を「できるし、している」が83.2%で大半を占める一方、「できるけどしていない」は9.7%、「できない」は4.9%となっています。性別でみると、女性は「できるし、している」の割合が9割近い一方、男性は7割半ばとなっています。年代別では、年代が高くなるほど、「できるし、している」と回答した割合が減っています。85歳以上では、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が3割を超えています。また、6地区別では、大山地区、薮荻地区、新白岡駅周辺地区では、「できるけどしていない」の割合が1割を超えており、他の地区と比べて多くなっています。特に、薮荻地区は移動手段が確保できないことも影響を及ぼしていると考えられます。

4) 自分で食事の用意をしているか

自分で食事の用意をしているか尋ねたところ、「できるし、している」が70.7%で最も多く、次いで「できるけどしていない」(20.2%)、「できない」(6.8%)となっています。性別でみると、男性は「できるし、している」の割合が45.6%で、女性の半分以下となっています。一方で、「できるけどしていない」の割合は38.4%で、「できない」と合わせて、約半数が自分で食事の用意をしていないと回答しています。これは、従来の生活習慣や役割分担の影響により、特に男性において調理行動が習慣化されていないことが背景にあると考えられます。

5) 自分で請求書の支払いや預貯金の出し入れをしているか

請求書の支払いや預貯金の出し入れを自分でしているかについては、「できるし、している」が8割を超えている一方、年代が高くなるほどその割合は減り、85歳以上では「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合が2割半ばとなっています。また、男性の方が「できるし、している」の割合が少なくなっています。

毎日の生活の項目について、総じて「できるし、している」が大半を占めていますが、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合も1割半ばから2割後半と一定数おり、加齢に伴いその割合も増えています。また、バスや電車を使った1人での外出を除き、男性の方が「できるし、している」の割合が低くなっています。外出や買い物、食事の用意といった生活行為は相互に関連しており、これらの機能の低下は社会参加の減少や生活の質の低下につながる恐れがあります。さらに、認知機能の低下との関連も考えられることから、介護予防の観点においては、移動支援や生活支援、調理機会の確保等を通じてIADL（手段的日常生活動作）※の維持・向上を図るとともに、認知機能の低下予防を含めた総合的な取組を推進していくことが重要となっています。

※IADL（手段的日常生活動作）とは、ADL（食事や排泄、入浴など日常生活を送るために最低限必要な活動）の次の段階の、買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作のこと。

【6. 就労について】

現在の就労状態は、「引退した」が55.0%で最も多く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」（13.3%）、「職に就いたことがない」（9.1%）となっています。「非常勤（パート・アルバイト等）」（13.3%）、「自営業」（6.0%）、「常勤（フルタイム）」（4.3%）を合わせると、現在働いている人は23.6%で、2割前半となっています。

性別でみると、男性は、現在働いている割合は約3割、女性は約2割となっています。年代別では、全年代において、「引退した」が半数を超えて最も多くなっていますが、85歳以上では、6割を上回っています。また、「非常勤（パート・アルバイト等）」の割合は、65～74歳で2割を超えている一方で、75歳以上では1割未満となっています。6地区別では、大山地区は「引退した」が35.0%で他の地区より少ない一方、「自営業」が15.0%と多くなっています。また、篠津・西地区では、「非常勤（パート・アルバイト等）」が19.0%で他の地区より多くなっています。

引退してからの経過年数は、「5～14年前」が31.7%で最も多く、次いで「15～24年前」（21.4%）、「25年以上前」（18.0%）となっています。性別でみると、女性は、男性と比較して「25年以上前」が18.1ポイント、「15～24年前」が5.5ポイント多く、引退からの経過年数が長くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、引退からの経過年数が長くなり、85歳以上では、「25年以上前」が4割近くなっています。

高齢者の就労は前期高齢者を中心に一定程度維持されているものの、加齢とともに引退が進み、85歳以上では6割を超える人が引退しています。また、性別や地域によって就労状況に差がみられることから、多様な背景を踏まえた就労支援や社会参加の機会の確保が求められます。

特に、就労は生きがいや社会参加、健康維持にも寄与する側面があることから、個々の状況に応じた柔軟な就労機会の提供や、就労以外の社会参加の促進を含めた取組を進めていくことが重要となっています。

【7. 地域での活動について】

1) 会・グループへの参加頻度

「①ボランティアのグループ」、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「③趣味関係のグループ」、「④学習・教養サークル」、「⑤介護予防のための通いの場」、「⑥老人クラブ」、「⑦行政区・町内会・自治会」、「⑧収入のある仕事」の①～⑧のすべての会・グループ等において、「参加していない」が6～7割前後で、「無回答」が2割前後となっています。①～⑧の中で、「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」を合わせた週1回以上参加している割合が最も多いのは、「②スポーツ関係のグループやクラブ」で14.7%、次いで「⑧収入のある仕事」(14.5%)、「⑤介護予防のための通いの場」(9.5%)となっています。また、「③趣味関係のグループ」では、「月1～3回」が11.1%で割合が多くなっています。

①～⑧の各種会・グループなど、「何らかの地域活動に週1回以上のペースで参加している高齢者の割合」を社会参加率として集計した結果、43.2%となっています。

2) 会・グループに参加しない理由

①～⑧の各種会・グループなどに参加していない主な理由は、「興味・関心がない」が46.4%で最も多く、次いで「他の用事で忙しい」(32.2%)、「友人・知人がいない」(16.0%)となっています。性別でみると、男性は、「興味・関心がない」の割合が女性より16.2ポイント多い一方、「移動手段がない」と「足腰が痛い」は少なくなっています。

年代別では、全年代において、「興味・関心がない」の割合が最も多くなっています。次いで「他の用事で忙しい」が65～74歳と75～84歳では多くなっている一方、85歳以上は、「足腰が痛い」(30.7%)、「移動手段がない」(21.6%)が上位となっています。

6地区別では、すべての地区において、参加していない理由の順位は概ね同じ傾向で、「興味・関心がない」、「他の用事で忙しい」、「友人・知人がいない」または「足腰が痛い」の順番になっています。一方で、「友人・知人がいない」と回答した割合は、大山地区では0.0%であるのに対し、他の地区は1割以上で、地区間で違いがみられます。

3) 地域住民の有志による地域づくり活動への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいか尋ねたところ、「参加してもよい」が48.3%で最も多く、次いで「参加したくない」(32.9%)、「是非参加したい」(6.9%)となっています。

年代別では、年代が高くなるほど、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合が少なくなり、65～74歳では約6割ですが、85歳以上では約4割となっています。6地区別では、すべての地区において、全体と類似した傾向となっていますが、大山地区では、「是非参加した

い」と「参加してもよい」を合わせた割合が6割で最も多くなっています。

また、参加者としてではなく、企画・運営（お世話役）として参加してみたいか尋ねたところ、「参加したくない」が57.5%で最も多く、参加者としての参加よりも24.6ポイント多くなっています。一方で、「参加してもよい」と回答した人が28.9%います。年代別では、年代が高くなるほど、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合が少なくなっており、65～74歳では3割半ばである一方、85歳以上では2割前半となっています。

高齢者の社会参加は、外出機会の増加による身体機能の維持や、人との交流による認知機能の低下予防など、健康づくりや介護予防につながるだけでなく、孤立化防止や自己効力感の維持など、様々な側面から大変重要です。調査結果から、会やグループ活動等に参加していない人が多く見受けられますが、地域づくり活動に対する参加者としての参加意向は半数を超え、また、お世話役としても3割を超える人が参加意向を示しています。このような前向きな高齢者を積極的に巻き込んで、地域の高齢者の社会参加を促進していくことが求められます。

【8. たすけあいについて】

1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」が58.1%で最も多く、次いで「友人」(40.8%)、「別居の子ども」(33.7%)となっています。性別でみると、男性は「配偶者」の割合が7割以上で最も多く、次いで「友人」と「別居の子ども」が2割後半である一方、女性は「友人」が約半数で最も多く、次いで「配偶者」が4割半ば、「別居の子ども」が3割後半となっています。年代別では、年代が高くなるほど、「配偶者」と「友人」の割合が減り、85歳以上では、それぞれ約4割、約2割と少なくなっています。一方で、「同居の子ども」と「別居の子ども」の割合は、年代が高くなるほど多くなっています。

反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」が56.2%で最も多く、次いで「友人」(40.1%)、「別居の子ども」(31.3%)となっています。性別でみると、男性は「配偶者」の割合が7割以上で最も多く、次いで「友人」が2割後半、「別居の子ども」が2割半ばである一方、女性は「友人」が約半数で最も多く、次いで「配偶者」が4割前半、「別居の子ども」が3割半ばとなっています。年代別では、年代が高くなるほど、心配事や愚痴を聞いてあげる割合が減り、85歳以上では「配偶者」が3割後半、「友人」が2割前半と少なくなっています。

2) 看病や世話をしてくれる人、してあげる人

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が64.0%で最も多く、次いで「別居の子ども」(29.9%)、「同居の子ども」(27.4%)となっています。性別でみると、男性は「配偶者」の割合が77.5%で最も多く、女性も「配偶者」が半数以上で最も多いものの、「同居の子ども」と「別居の子ども」が3割半ばとなっており、男性は配偶者に頼る割合が多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、「配偶者」の割合が減り、85歳以上では4割前半となっています。一方で、「同居の子ども」と「別居の子ども」の割合は、年代が高くなるほど増え、85歳以上では、それぞれ3割半ばとなっています。

反対に、看病や世話をしあける人は、「配偶者」が64.4%で最も多く、次いで「別居の子ども」(25.0%)、「同居の子ども」(24.8%)となっています。性別でみると、看病されるときと同様、男性は「配偶者」の割合が77.5%で最も多く、女性も「配偶者」が半数以上で最も多いものの、「同居の子ども」と「別居の子ども」が約3割で男性よりも多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、看病や世話をしあける割合は減り、特に「配偶者」については、85歳以上では約4割となっています。また、85歳以上では、「そのような人はいない」が22.8%で、「配偶者」の次に多くなっています。

心配事や愚痴の相談、看病や世話といった日常的・緊急時の支援のいずれにおいても、「配偶者」を中心とした家族関係が基盤となっていることがうかがえます。また、「友人」や「別居の子ども」も一定の役割を担っており、家族と非家族の双方による支え合いがみられます。

性別でみると、男性は「配偶者」に依存する割合が高く、相談や看病のいずれにおいても配偶者中心の関係構造となっている一方、女性は「友人」や「子ども」との関係も比較的強く、多様な支援関係を有していることがうかがえます。年代別にみると、年代が高くなるほど「配偶者」や「友人」との関係は弱まり、「同居の子ども」や「別居の子ども」による支援の割合が高まっています。

3) 地域での交流や支え合い

地域での交流や支え合いの程度について、「ある程度ある」が38.1%で最も多く、次いで「あまりない」(30.8%)、「ほとんどない」(22.3%)となっています。「あまりない」と「ほとんどない」を合わせて半数を超えており、地域におけるつながりの希薄化がうかがえます。性別でみると、女性は「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた割合が5割弱である一方、男性は6割近くで、地域との関係性の弱さがみられます。また、年代別では、65～74歳と85歳以上では、「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた割合が半数を超えています。

4) 家族や友人・知人以外の相談相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「そのような人はいない」が47.6%で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(22.3%)、「地域包括支援センター・市役所」(16.7%)となっています。年代別では、年代が高くなるほど、「そのような人はいない」の割合が少なくなっていますが、85歳以上であってもまだ4割近くおり、家族や友人・知人以外の相談相手を有していません。

たすけあいの状況は、基盤は主に家族関係に依存しており、特に男性や高齢期後半においては支援関係が限定的となる傾向があります。また、地域におけるつながりや家族以外の相談先は十分とは言えず、孤立リスクを有する層が一定数存在しています。今後は、家族に依存しすぎない多様な支え合いの構築に向けて、地域における交流の促進や相談体制の充実、専門職や関係機関とのつながりの強化など、重層的な支援体制の整備が求められます。

【9. 認知症にかかる相談窓口の把握について】

認知症の症状がある、または、家族に認知症の症状のある人がいるか尋ねたところ、「いいえ」が88.1%で大半を占める一方、「はい」は8.3%となっています。多くの人にとって認知症は現時点で身近な課題として認識されていない状況がうかがえます。

また、認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「いいえ」が71.8%で、「はい」が25.2%となっており、前回調査と比較すると、「はい」が5.2ポイント多くなっているものの、未だ相談窓口の周知が十分に行き届いていない状況にあります。6地区別では、大山地区では、「いいえ」が87.5%と大半を占めており、他の地区と比較して、認知症に関する相談窓口を知らない人の割合が多くなっています。

認知症が身近な課題として顕在化する前段階から、相談窓口の周知を強化するとともに、地域差を踏まえた効果的な情報発信や普及啓発を進めていくことが重要です。

【10. 健康について】

1) 現在の健康状態

現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が約8割を占めており、多くの高齢者が自身の健康状態を良好と認識しています。一方で、年代が高くなるほど、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が減り、85歳以上では約7割となっており、加齢に伴う健康感の低下がみられます。日常生活圏域別では、日勝圏域は「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が篠津・大山圏域より5.9ポイント少なく、7割半ばとなっており、圏域によって健康状態に対する認識に差がみられます。

また、問36の①～⑧の地域活動に週1回以上のペースで参加している人は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が、参加していない人よりも7.8ポイント多く、8割半ばとなっています。地域活動へ参加している人ほど、自分自身が健康であると感じる傾向にあります。

2) 主観的幸福感

現在、どの程度幸せか（主観的幸福感）を10点満点中（とても不幸を0点、とても幸せを10点）であらわしてもらったところ、「5～7点」が45.1%で最も多く、次いで「8～10点」（43.4%）、「0～4点」（8.0%）となっています。平均値である5点以上と回答した人が9割近くを占め、平均点を算出したところ7.0点と比較的高い水準にあります。これは、前回調査と概ね同様の傾向で、平均点は0.1ポイント上昇しています。

性別でみると、女性は「8～10点」が46.6%で最も多い一方、男性は「5～7点」が48.8%で最も多くなっており、女性の方が主観的幸福感が高い傾向にあります。また、年代が高くなるほど、「8～10点」の割合が減り、85歳以上では4割を下回っています。「0～4点」の割合は、すべての年代を通じて1割を下回っています。日常生活圏域別では、日勝圏域は、「8～10点」の割合が篠津・大山圏域より6.7ポイント少なく、4割を下回っています。健康状態と同様に、主観的幸福感も日常生活圏域で差が見られます。

また、問36の①～⑧の地域活動に週1回以上のペースで参加している人は、「8～10点」の割合が、参加していない人よりも11.5ポイント多く、半数となっています。地域活動へ参加している人ほど、主観的幸福感が高い傾向にあります。

3) うつ傾向

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか尋ねたところ、「いいえ」が63.3%で多いものの、「はい」と回答した人が33.4%と3人に1人の割合でいます。前回調査と比較すると、「いいえ」の割合が7.0ポイント多く、気分の落ち込みを感じた人の割合は減少しているものの、依然として3割を超えている状況にあります。

年代別では、65～74歳と75～84歳は、「はい」の割合が3割を超えていますが、85歳以上は3割を下回っています。また、日常生活圏域別では、日勝圏域は、「いいえ」の割合が篠津・大山圏域より5.1ポイント少なく、気分の落ち込みを感じた人の割合がより多くなっています。

また、この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか尋ねたところ、「いいえ」が75.3%で多いものの、「はい」と回答した人が21.1%います。これは、前回調査と概ね同様の傾向です。年代別では、85歳以上は、「はい」の割合が多く3割近くで、物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった人の割合が多くなっています。

上記の2つの問のうち、いずれか1つでも「はい」を選択した場合は、うつ傾向のある高齢者であると言えます。該当者は428人、全体の37.1%となっています。これは、前回調査の43.4%より6.3ポイント減少しており、うつ傾向のある高齢者の割合が減っています。

4) タバコを吸っているか

タバコを吸っているか尋ねたところ、「もともと吸っていない」が56.9%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」(32.6%)、「ほぼ毎日吸っている」(6.3%)となっています。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせ、7.8%が現在もタバコを吸っています。性別で見ると男性は13.2%が、年代別では65～74歳は10.9%が現在もタバコを吸っています。男性と前期高齢者において喫煙率が高い傾向がみられることから、健康リスクへの配慮が必要です。

5) 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」が43.2%で最も多く、次いで「目の病気」(19.7%)、「高脂血症(脂質異常)」(16.0%)となっており、慢性疾患を有する人が多い状況が確認できます。また、「ない」が14.6%に留まり、多くの高齢者が何らかの疾病を抱えながら生活している実態がうかがえます。

健康については、健康状態や主観的幸福感は全体として良好な水準にあるものの、加齢や地域差に伴う課題がみられるとともに、うつ傾向や慢性疾患を抱える高齢者も一定数存在しています。また、地域活動への参加が健康感や幸福感と関連していることから、身体的・心理的健康の維持に向けて、生活習慣の改善や疾病管理に加え、社会参加の促進を含めた総合的な健康づくりの取組を推進していくことが重要となっています。

【11. 高齢者福祉や介護保険等について】

1) 敬老会の再開に関する考え

敬老会が再開される場合の考えについて尋ねたところ、「参加しない」が51.2%で最も多く、次いで「ボランティアによる演目などで、楽しめる催しものがあれば参加する」(21.9%)、「有名人の来場があれば参加する」(12.5%)となっています。性別でみると、男性は「ボランティアによる演目などで、楽しめる催しものがあれば参加する」の割合が女性よりも5.0ポイント多くなっています。年代別では、年代が低くなるほど、「参加しない」の割合が増え、65～74歳では半数を超えています。

2) 認知症について関心のあること

認知症についてどのようなことに関心があるか尋ねたところ、「認知症の予防に効果的な方法」が48.3%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(39.0%)、「認知症の治療に関する情報」(15.7%)となっています。「予防に効果的な方法」や「早期発見の方法」への関心が高く、発症後の対応よりも、予防や早期対応に対するニーズが強いことがうかがえます。

3) 成年後見制度の認知度

成年後見制度(判断力が低下した方への法的な支援制度)の認知度は、「名前だけは聞いたことがある」が51.3%で最も多く、次いで「制度の内容も概ね知っている」(23.1%)、「知らない」(21.1%)となっており、制度の具体的な理解が十分に進んでいない状況がわかります。

年代別では、「制度の内容も概ね知っている」の割合は、年代を問わず2割前半に留まっています。また、年代が高くなるほど、「知らない」の割合が増え、85歳以上では2割半ばに達し、本来利用の必要性が高まる層において認知度が低いという課題がみられます。

4) 生きがいや楽しみ

生活の中での生きがいや楽しみは、「テレビやラジオ」が36.1%で最も多く、次いで「食べたり飲んだりすること」(31.0%)、「友人・仲間との交流」(29.0%)となっています。性別でみると、男性は「食べたり飲んだりすること」の割合が女性よりも14.0ポイント多くなっている一方、女性は、「友人・仲間との交流」、「散歩や買い物などの外出」の割合が男性よりも10ポイント前後多く、女性の方が、交流や外出を楽しむ割合が多くなっています。

年代別では、年代が高くなるほど、「テレビやラジオ」の割合が増え、85歳以上では半数近くになっています。また、「友人・仲間との交流」は、年代が高くなるほど少なくなっています。年齢の上昇に伴い、交流や外出よりも「テレビやラジオ」など自宅内で完結する受動的な活動の割合が高まっており、社会参加が減少していることもうかがえます。

5) 介護予防や健康づくりのために参加したい講座・教室

介護予防や健康づくりのために参加してみたい講座や教室について尋ねたところ、「特にない」が27.6%で最も多く、次いで「体操・運動」(21.1%)「健康管理」(20.7%)となっています。性別でみると、女性は「体操・運動」の割合が男性よりも9.5ポイント多く、最も多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、「体操・運動」、「ウォーキング」、「スポーツ」などの体を動かすことに関する項目の割合が減り、特に「体操・運動」は85歳以上では約1割とな

っています。また、年代を問わず「特にない」が2割半ばから3割前半で最も多い回答となっており、参加意欲の低い層に対する介護予防や健康づくりに関心をもてるような働きかけが重要です。

6) 地域包括支援センターの認知度・満足度

地域包括支援センターを知っているか尋ねたところ、「名前だけは聞いたことがある」が34.2%で最も多く、次いで「利用したことはないが、どんな仕事をしている所か、だいたい知っている」(28.7%)、「知らない」(21.8%)となっています。利用したことがある人を含めても、「どんな仕事をしている所か知っている」割合は約4割に留まっています。

前回調査とは選択肢が一部異なりますが、利用の有無に関わらず、「どんな仕事をしている所か知っている」の割合が、12.0ポイント増え、「知らない」が11.0ポイント減っており、前回調査と比較すると、地域包括支援センターの認知度は高まっています。

性別でみると、女性は、利用の有無に関わらず「どんな仕事をしている所か知っている」割合が男性よりも18.1ポイント多くなっています。男性は「名前くらいは聞いたことはある」と「知らない」を合わせた割合が6割半ばとなっており、性別で地域包括支援センターの認知度に大きな差がみられます。

また、65～74歳は「名前くらいは聞いたことはある」と「知らない」を合わせた割合が6割半ばとなっており、地域包括支援センターの認知度が低くなっていますが、年代が高くなるほど利用したことがある割合が増え、「知らない」の割合が減っています。

6地区別では、白岡・白岡東地区では、「どんな仕事をしている所か知っているし、利用したことがある」の割合が18.7%で、他の地区と比較して5ポイント以上多くなっています。大山地区では、「知らない」の割合が30.0%で最も多くなっています。また、白岡・白岡東地区を除く他の5地区では、「名前くらいは聞いたことはある」と「知らない」を合わせた割合が半数を上回っており、地域包括支援センターの認知度は低くなっています。

地域包括支援センターを利用したことがある人に、利用した際の対応の満足度について尋ねたところ、「ある程度満足している」が49.2%で最も多く、次いで「とても満足している」(32.6%)、「どちらとも言えない」(9.8%)となっています。「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせた「満足している」割合が8割を超え、大半を占めています。性別でみると、女性は「ある程度満足している」が男性よりも6.0ポイント少なくなっています。年代別では、65～74歳では「あまり満足していない」と回答した人はいなかった一方、75～84歳と85歳以上では約1割います。

地域包括支援センターの認知度については、特に男性や前期高齢者において認知度が低く、また地区間での差もみられ、周知に関する課題が残されています。一方で、利用経験者の満足度は高く、サービスの質に対する評価は良好です。

7) 介護が必要となった場合の対応

今後自身に介護が必要となった場合の対応について尋ねたところ、「自宅で介護を受けたい」が35.7%で最も多く、次いで「わからない」(32.6%)、「老人ホームなどに入所したい」(29.4%)と、それぞれ3割前後で分散しており、志向が分かれています。前回調査と比較すると、「老人ホームなどに入所したい」が5.6ポイント多くなっており、将来不安や家族構成の変化等が影響している可能性が考えられます。

性別でみると、女性は「自宅で介護を受けたい」の割合が男性よりも5.5ポイント少なく、「老人ホームなどに入所したい」が5.5ポイント多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、「自宅で介護を受けたい」の割合が増え、65～74歳が約3割である一方、85歳以上では4割半ばとなっています。また、65～74歳では「わからない」の割合が4割近く、最も多くなっています。年代が高くなるほど在宅志向が高まる一方、前期高齢者では判断を保留する傾向が強くなっています。

日常生活圏域別では、日勝圏域は、「老人ホームなどに入所したい」の割合が篠津・大山圏域よりも5.9ポイント多くなっています。日勝圏域は篠津・大山圏域より独居高齢者の割合が多いことも、施設入所希望が多くなっている要因として考えられます。

8) 保険料と介護保険サービスの利用

保険料と介護保険サービスの利用に関する考えを尋ねたところ、「市の介護保険料の基準額が高くなっても、十分に施設や在宅サービスを整備する」(7.9%)と「市の介護保険料の基準額が多少高くなっても、ある程度施設や在宅サービスを整備する」(34.1%)を合わせた「施設や在宅サービスを整備する」の割合が42.0%で4割を超えています。一方で、「市の介護保険料の基準額が高くならないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」は31.0%、「わからない」(22.4%)となっており、一定の負担増を許容してでもサービスを整備してほしいと考える人の方が多くなっています。

年代別では、年代が高くなるほど、一定の負担増を許容してでもサービスを整備してほしいと考える人の割合が減り、65～74歳が4割半ばである一方、85歳以上では3割前半となっています。高齢になるほどサービス整備に積極的な意向は低下しており、負担感の影響が考えられます。

9) 高齢者への対応として、今後行政に期待すること

高齢者への対応として、今後行政に期待することは、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が56.2%で最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(41.2%)、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」(31.1%)となっており、在宅生活の継続を支える支援へのニーズが高いことがわかります。前回調査と比較すると、「緊急時や災害時の対策」が9.4ポイント、「デイサービスなど通所サービスの充実」が7.0ポイント多くなっていますが、項目の順位は概ね同様の傾向が見られます。

性別でみると、男女ともに「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」となっています。一方で、男性は、女性と比較して、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」の割合が6.4ポイント、「施設に入所して受ける介

「介護保険サービスの充実」が6.3ポイント多くなっています。年代別では、年代が高くなるほど、「デイサービスなど通所サービスの充実」の割合が減り、65～74歳が約3割である一方、85歳以上では1割後半となっています。日常生活圏域別では、篠津・大山圏域は、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」の割合が日勝圏域よりも5.0ポイント多くなっています。

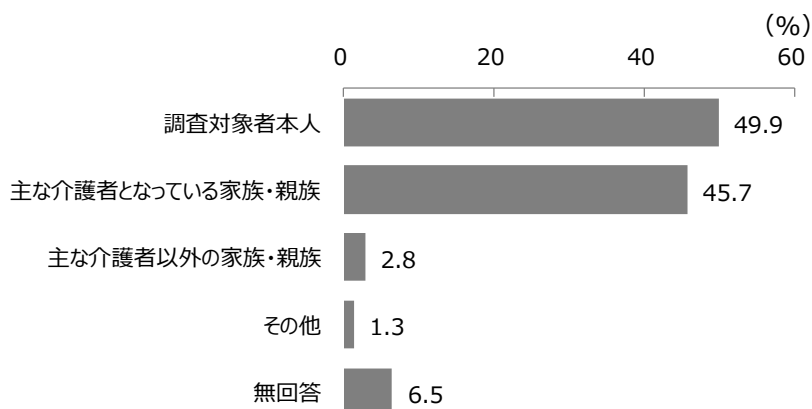
高齢者福祉や介護保険に関する意識は、予防や在宅生活の維持に対する関心が高い一方で、制度理解やサービス選択に関しては十分に整理されていない側面もみられます。また、認知度や意向には性別・年代・地域による差が存在しており、対象に応じたきめ細かな情報提供と支援体制の整備が求められます。今後は、制度の周知と利用促進を図るとともに、在宅生活を支えるサービスの充実や家族支援の強化を通じて、安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていくことが重要となっています。

第2章

在宅介護実態調査

現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。[あてはまるものすべてに○]

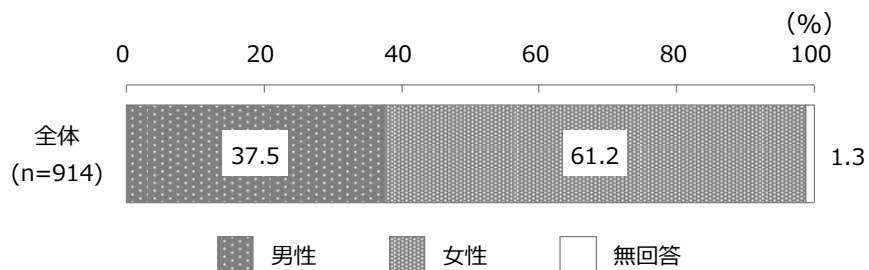
「調査対象者本人」が49.9%で最も多く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」(45.7%)、「主な介護者以外の家族・親族」(2.8%)となっています。



1. 回答者の属性

問1 ご本人の性別について、ご回答ください [1つに○]

「女性」が61.2%で、「男性」(37.5%) より多くなっています。

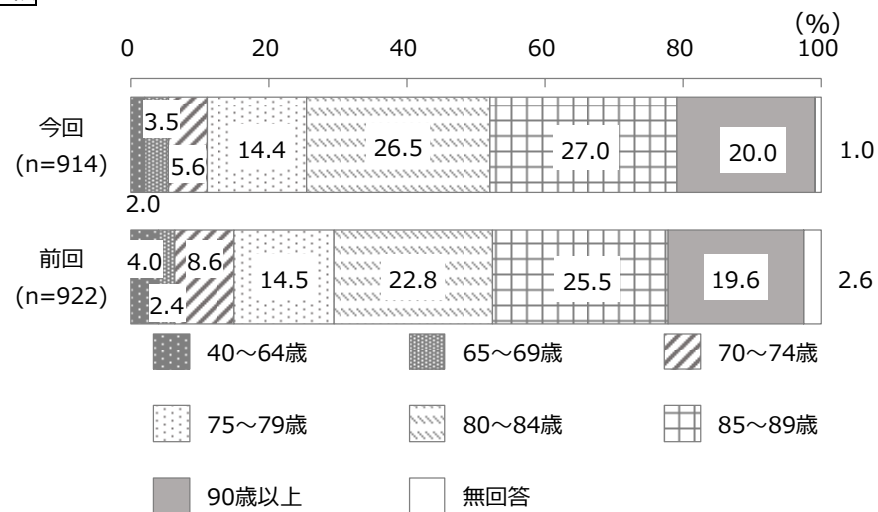


問2 12月1日現在のご本人の年齢について、ご回答ください【1つに○】

全体 「85～89歳」が27.0%で最も多く、次いで「80～84歳」(26.5%)、「90歳以上」(20.0%)となっています。65～74歳までの前期高齢者が9.1%である一方、75歳以上の後期高齢者は87.9%で、大半を占めています。また、「40～64歳」は2.0%となっています。

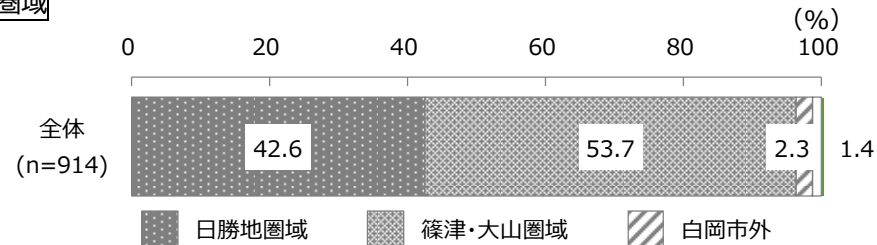
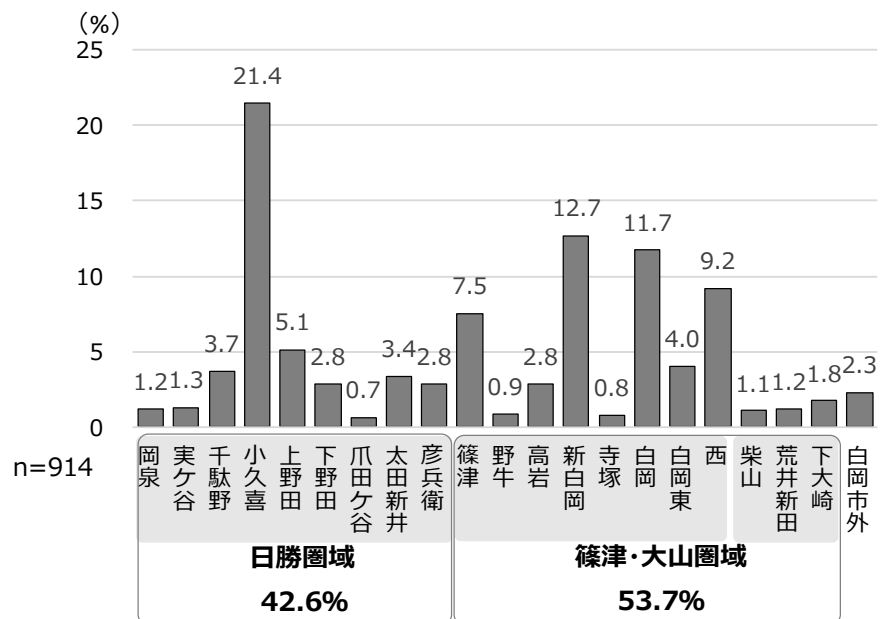
前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

全体・前回比較



問3 お住まいの地区はどちらですか。[1つに○]

日常生活圏域「篠津・大山圏域」が53.7%で、「日勝圏域」(42.6%)より多くなっています。
居住地区「小久喜」が21.4%で最も多く、次いで「新白岡」(12.7%)、「白岡」(11.7%)となっています。また、「白岡市外」は2.3%となっています。

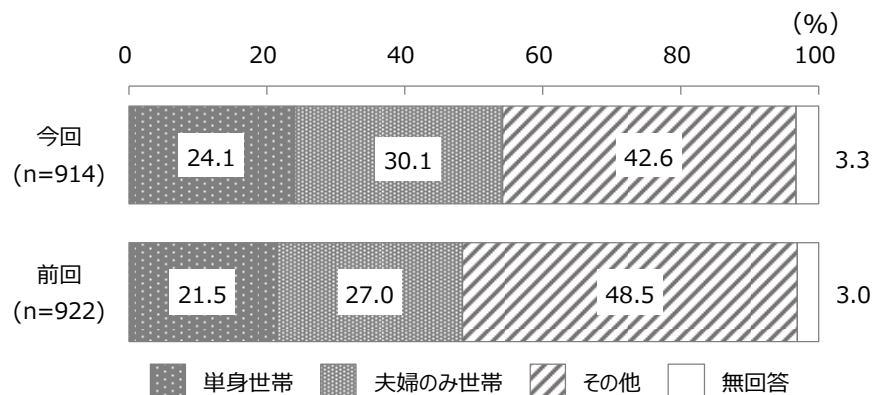
日常生活圏域**居住地区**

問4 世帯類型について、ご回答ください【1つに○】

全体 「夫婦のみ世帯」が30.1%で、「単身世帯」(24.1%)より多くなっています。また、子どもと同居や施設入所などの「その他」が42.6%となっています。

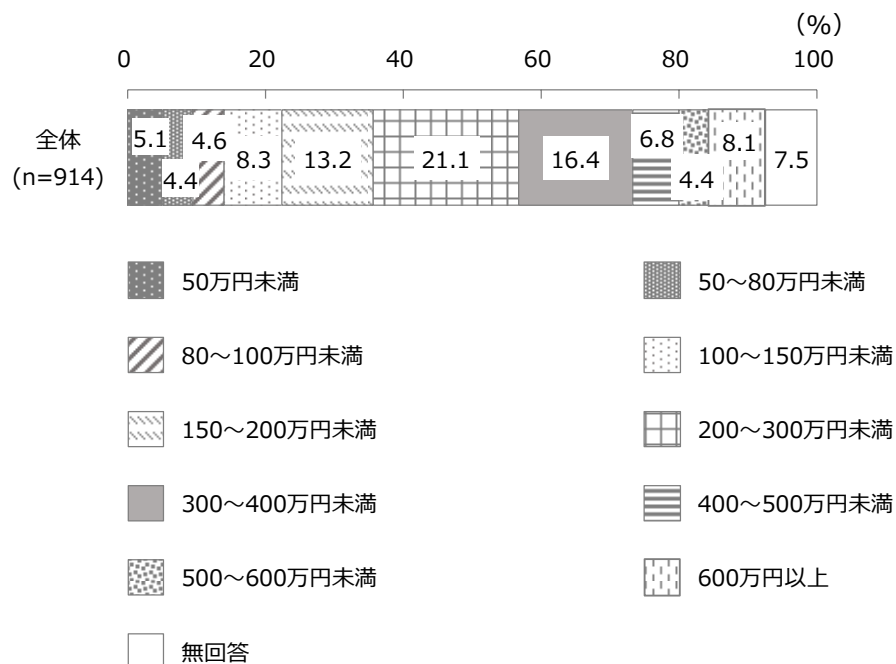
前回比較 前回調査と比較すると、「その他」の割合が5.9ポイント少なくなり、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」を合わせ、半数を超えています。

全体・前回比較



問5 あなたを含めた世帯全体の年収（年金含む）はどれにあてはまりますか。【1つに○】

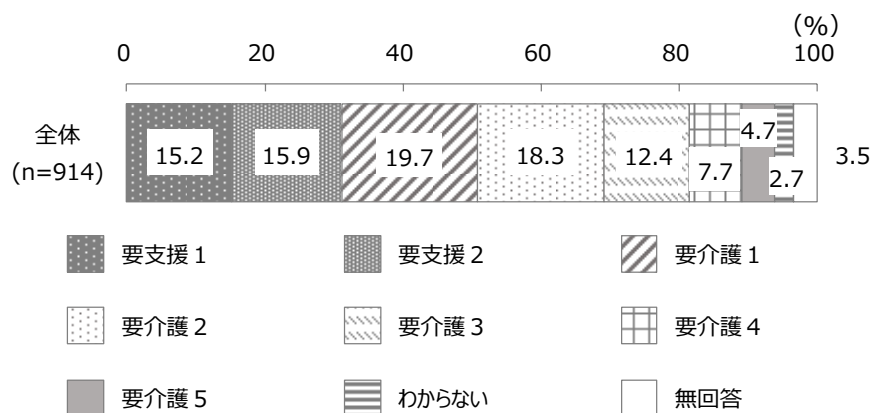
「200～300万円未満」が最も多く21.1%で、次いで「300～400万円未満」(16.4%)、「150～200万円未満」(13.2%)となっています。世帯年収が150万円未満の割合は22.4%で2割前半、100万円未満の割合は14.1%で1割半ばとなっています。



2. 健康状態や医療などについて

問6 ご本人の要介護度について、ご回答ください[1つに○]

「要介護1」が19.7%で最も多く、次いで「要介護2」(18.3%)、「要支援2」(15.9%)となっています。「要支援1」から「要介護2」までを合わせた比較的軽度の高齢者の割合は69.1%で、「要介護3」、「要介護4」、「要介護5」を合わせた中重度の高齢者(24.8%)より多くなっています。



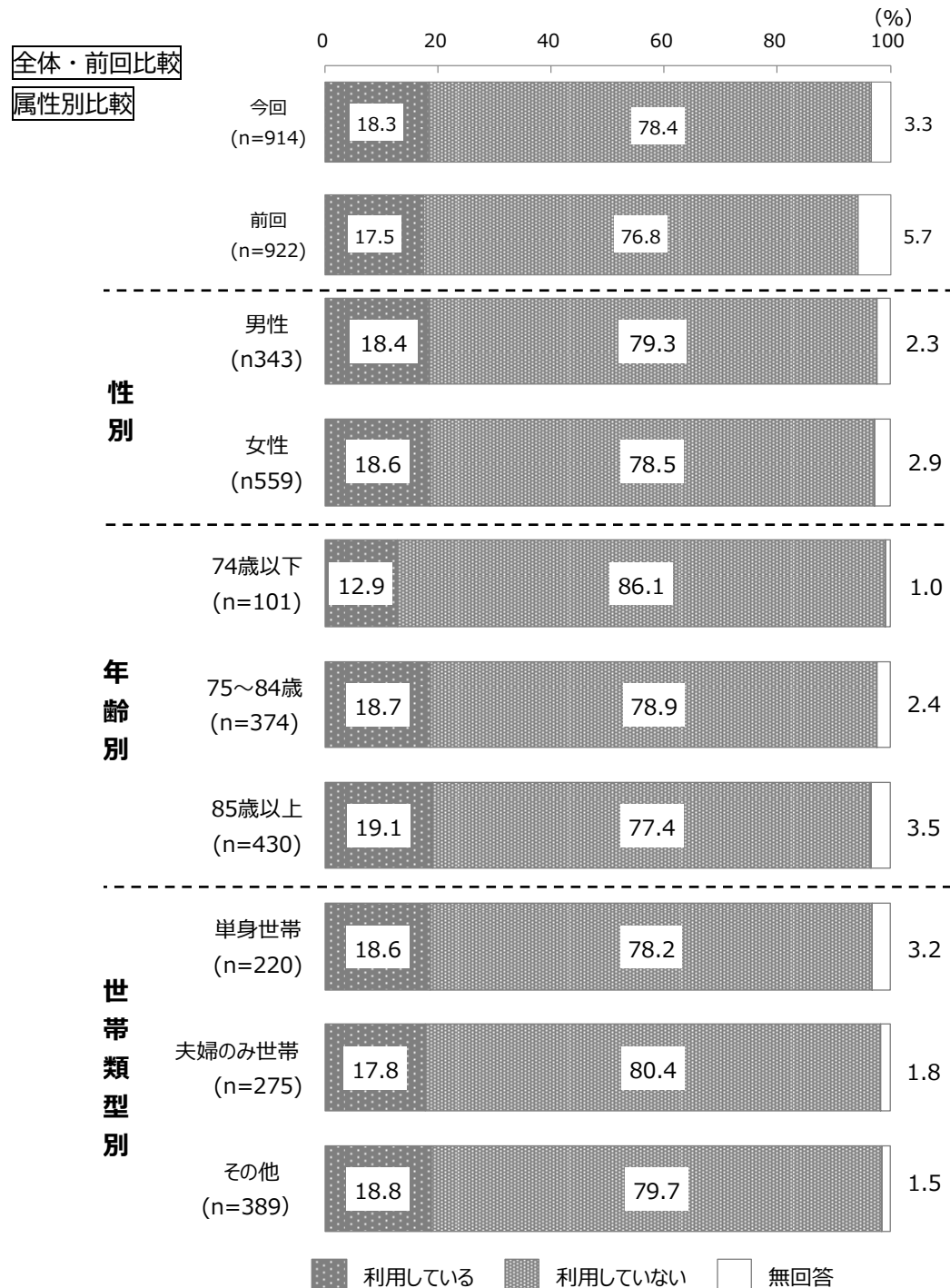
問7 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。〔1つに○〕

全体 「利用していない」が78.4%で、「利用している」(18.3%)より多くなっています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

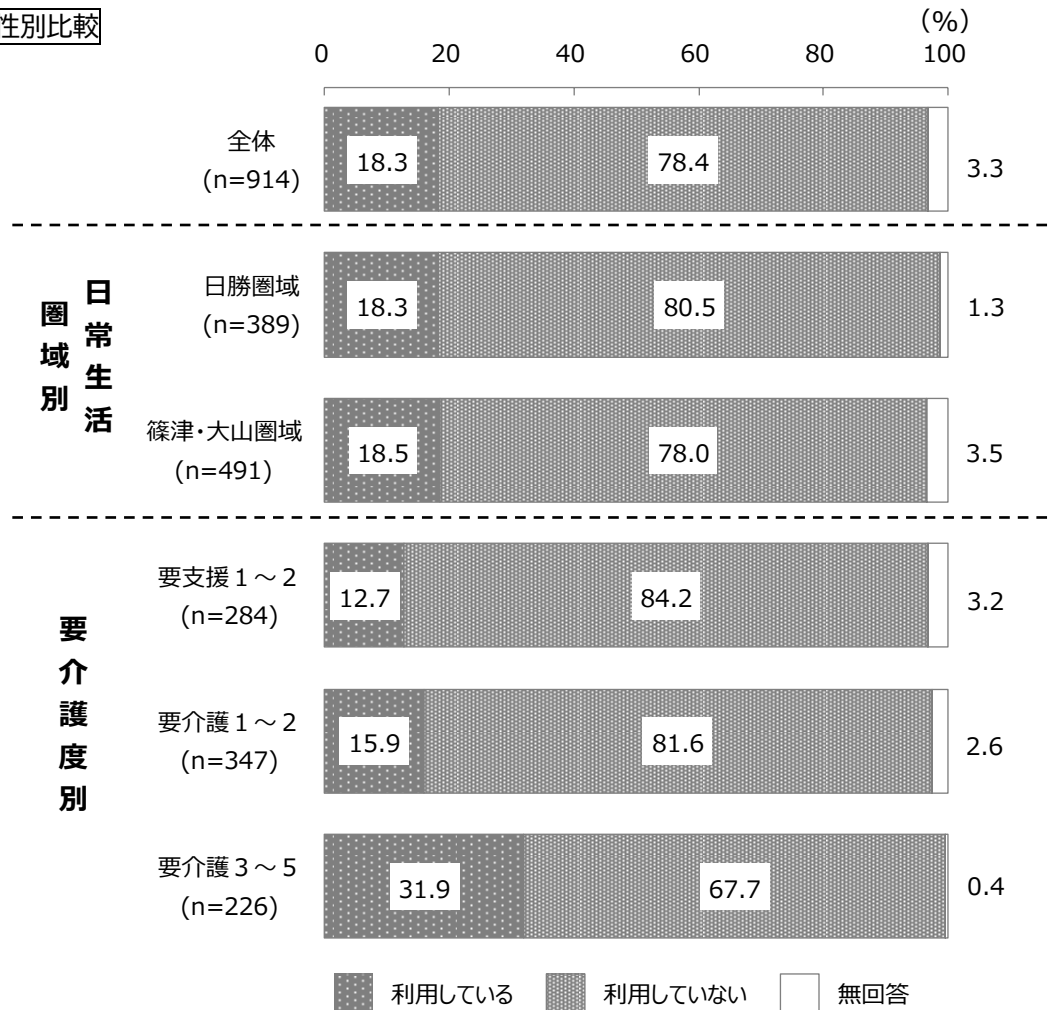
年齢 75～84歳と85歳以上では、「利用している」の割合が約2割で、74歳以下より5ポイント以上多くなっています。

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。



要介護度 要介護度が高くなるほど「利用している」の割合が増え、「要介護3～5」では、3割を超える人が利用しています。また、「要支援1～2」と「要介護1～2」では、「利用していない」の割合が8割を超え、大半を占めています。

属性別比較

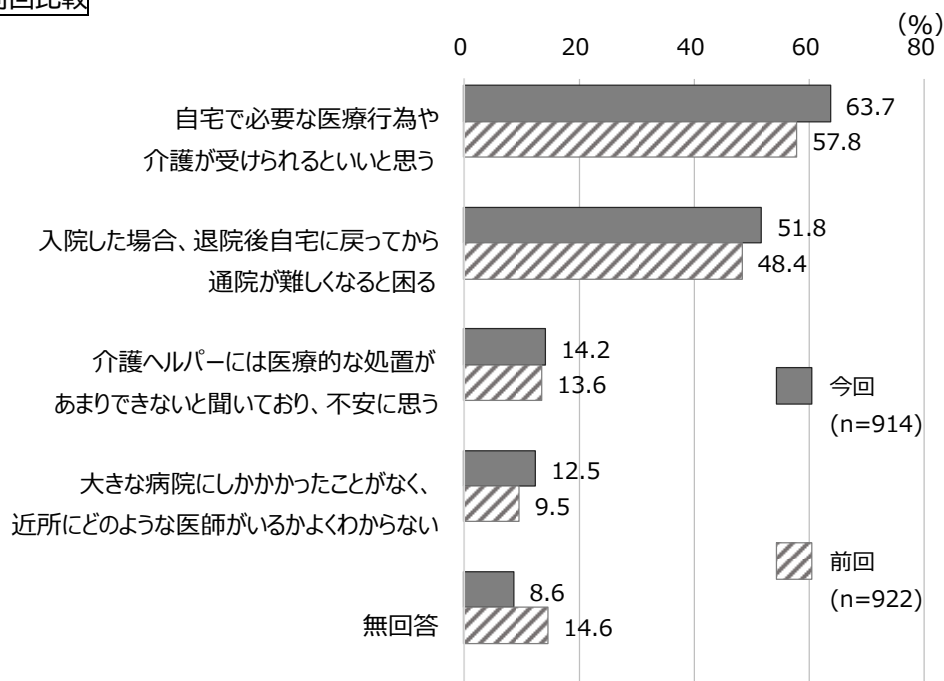


問8 医療と介護の連携についてどのように考えますか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う」が63.7%で最も多く、次いで「入院した場合、退院後自宅に戻ってから通院が難しくなると困る」(51.8%)、「介護ヘルパーには医療的な処置があまりできないと聞いており、不安に思う」(14.2%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う」の割合が5.9ポイント多いものの、概ね同様の傾向となっています。

全体・前回比較



日常生活圏域 日勝圏域と篠津・大山圏域の両圏域とも、「全体」と概ね同様の傾向にあります。日勝圏域は、「自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う」の割合が、篠津・大山圏域よりも6.2ポイント多くなっています。

要介護度 いずれの要介護度においても、第1位と2位は、「全体」と同じ項目ですが、第3位は、「要支援1～2」と「要介護1～2」では、「大きな病院にしかかかったことがなく、近所にどのような医師がいるのかよくわからない」となっています。特に、「要介護1～2」は、「要介護3～5」と比較して、5ポイント以上多くなっています。

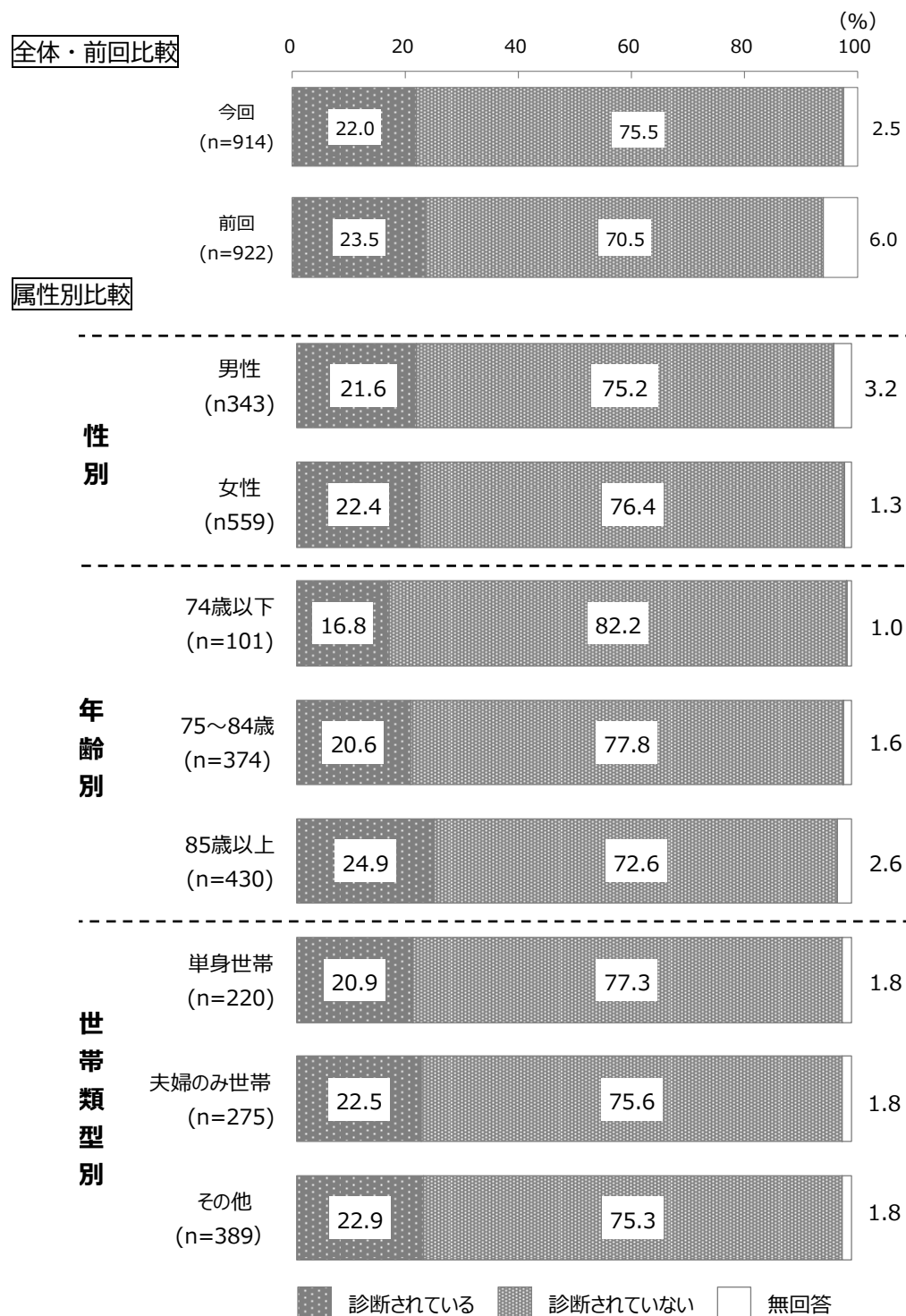
属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		(%)				
		自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う	入院した場合は通院が難しくなる	介護ヘルパーには医療的な処置があまりできないと思う	大きな病院にしかかかったことがなく、近所しかかかった医師がいない	無回答
全体(n=914)		63.7	51.8	14.2	12.5	8.6
世帯類型別	単身世帯(n=220)	63.2	52.3	15.9	10.0	7.7
	夫婦のみ世帯(n=275)	66.5	48.7	13.5	12.4	8.7
	その他(n=389)	63.8	55.0	13.9	13.9	6.9
日常生活圏域	日勝圏域(n=389)	67.9	54.5	16.2	13.6	7.2
	篠津・大山圏域(n=491)	61.7	50.9	12.4	11.0	8.6
要介護度別	要支援1～2(n=284)	64.4	53.5	12.0	12.7	7.7
	要介護1～2(n=347)	62.8	53.0	13.8	14.4	6.3
	要介護3～5(n=226)	67.7	52.2	16.8	9.3	8.0

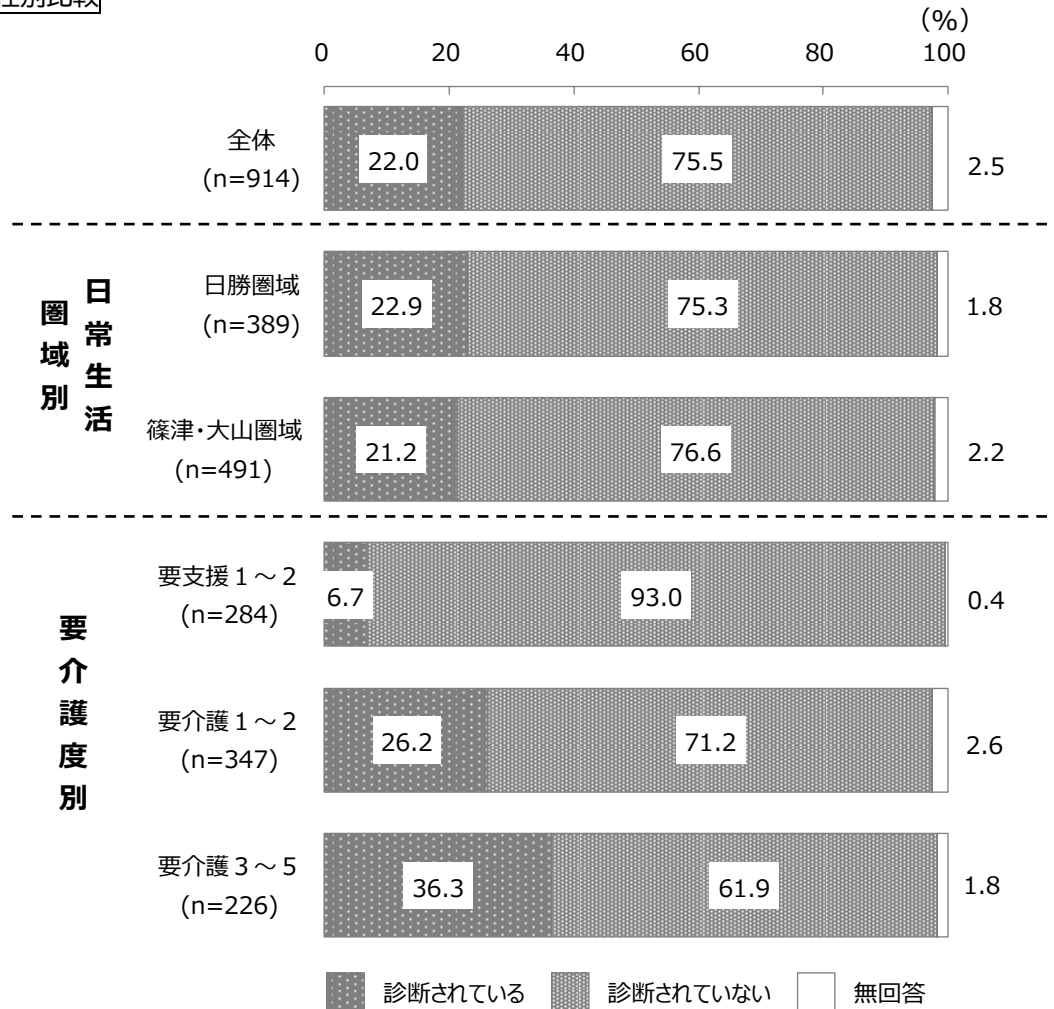
問9 医師に「認知症」と診断されていますか。[1つに○]

全体 「診断されていない」が75.5%で、「診断されている」(22.0%)より多くなっています。
前回比較 前回調査と比較すると、「診断されていない」が5ポイント多くなっています。
年齢 年代が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、85歳以上では、2割半ばとなっています。



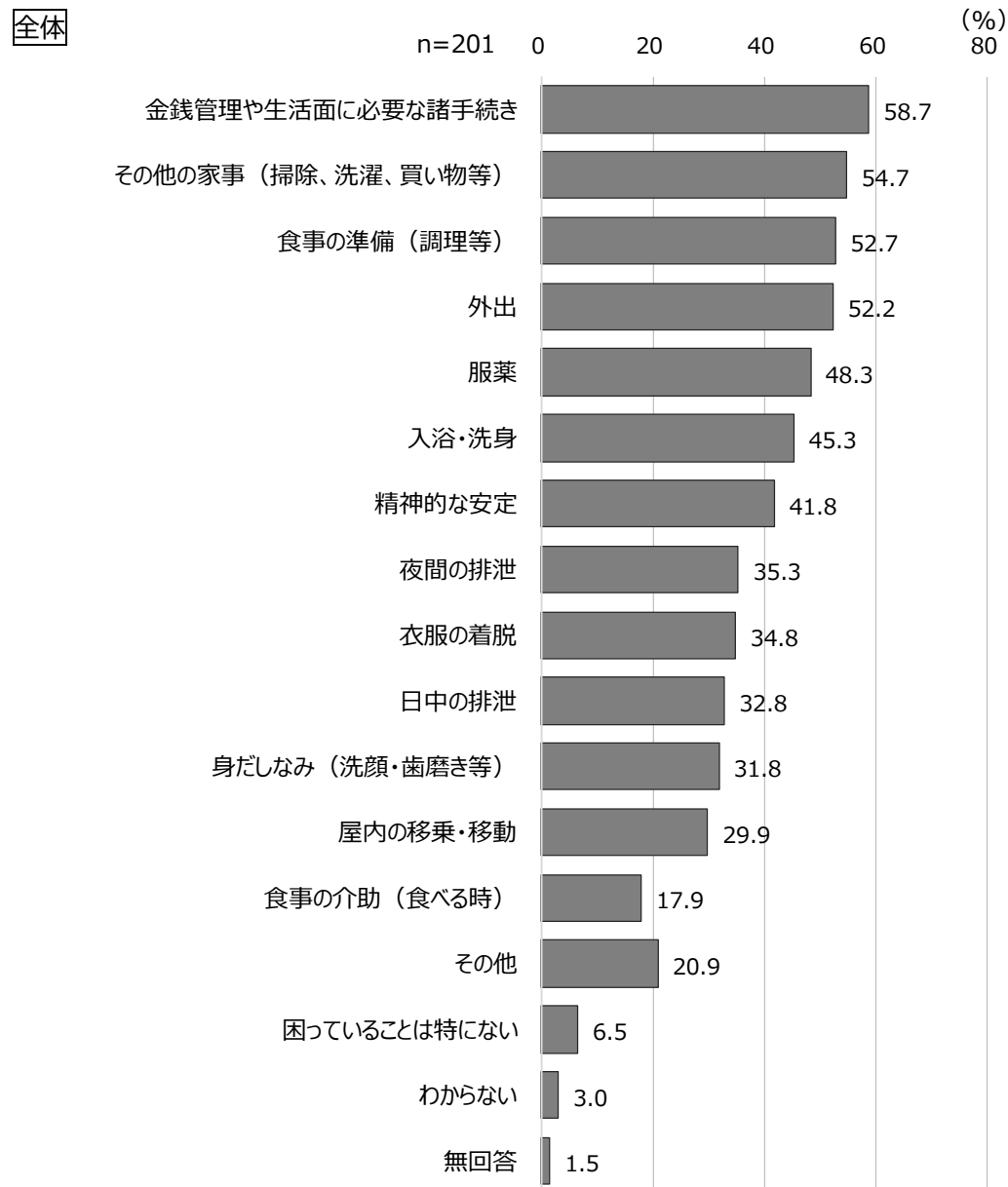
要介護度 要介護度が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、「要支援1～2」では1割未満である一方、「要介護3～5」では3割半ばとなっています。

属性別比較



問10 「問9で「1 診断されている」と回答した方に伺います。」現在、ご本人が日常生活の中で困っていることはどれですか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が58.7%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（54.7%）、「食事の準備（調理等）」（52.7%）となっています。



世帯類型 世帯類型によって日常生活で困っていることの順位にばらつきが見られます。「単身世帯」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「食事の準備（調理等）」が67.4%で最も多く、次いで「外出」（60.9%）となっています。「夫婦のみ世帯」では、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」と「入浴・洗身」が51.6%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「服薬」が50.0%となっています。

要介護度 要介護度によって日常生活で困っていることの順位にばらつきが見られます。最も多い回答は、「要支援1～2」では「精神的な安定」（57.9%）、「要介護1～2」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（67.0%）、「要介護3～5」では「入浴・洗身」（65.9%）となっています。また、「要介護3～5」では、「夜間の排泄」と「日中の排泄」が6割を超えて多くなっています。

属性別比較 ※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		金銭管理や生活面に必要な諸手続き	（掃除、洗濯、買い物等）	食事の準備（調理等）	外出	服薬	入浴・洗身	精神的な安定	夜間の排泄	衣服の着脱	日中の排泄	（洗顔・歯磨き等）
全体(n=914)		58.7	54.7	52.7	52.2	48.3	45.3	41.8	35.3	34.8	32.8	31.8
世帯類型別	単身世帯(n=220)	56.5	67.4	67.4	60.9	41.3	47.8	43.5	28.3	34.8	26.1	32.6
	夫婦のみ世帯(n=275)	51.6	50.0	48.4	41.9	50.0	51.6	45.2	43.5	45.2	38.7	32.3
	その他(n=389)	65.2	51.7	48.3	56.2	51.7	39.3	39.3	32.6	25.8	30.3	31.5
要介護度別	要支援1～2(n=284)	42.1	52.6	47.4	52.6	21.1	31.6	57.9	21.1	15.8	15.8	10.5
	要介護1～2(n=347)	67.0	54.9	49.5	53.8	53.8	33.0	46.2	16.5	20.9	13.2	24.2
	要介護3～5(n=226)	56.1	57.3	59.8	52.4	52.4	65.9	37.8	61.0	56.1	61.0	46.3

(%)

		屋内の移乗・移動	食事の介助（食べる時）	その他	困っていることは特にない	わからない	無回答
全体(n=914)		29.9	17.9	20.9	6.5	3.0	1.5
世帯類型別	単身世帯(n=220)	34.8	21.7	23.9	4.3	6.5	4.3
	夫婦のみ世帯(n=275)	29.0	17.7	21.0	3.2	1.6	0.0
	その他(n=389)	27.0	14.6	20.2	10.1	2.2	0.0
要介護度別	要支援1～2(n=284)	21.1	0.0	36.8	5.3	0.0	0.0
	要介護1～2(n=347)	16.5	3.3	22.0	6.6	1.1	1.1
	要介護3～5(n=226)	48.8	37.8	17.1	4.9	6.1	1.2

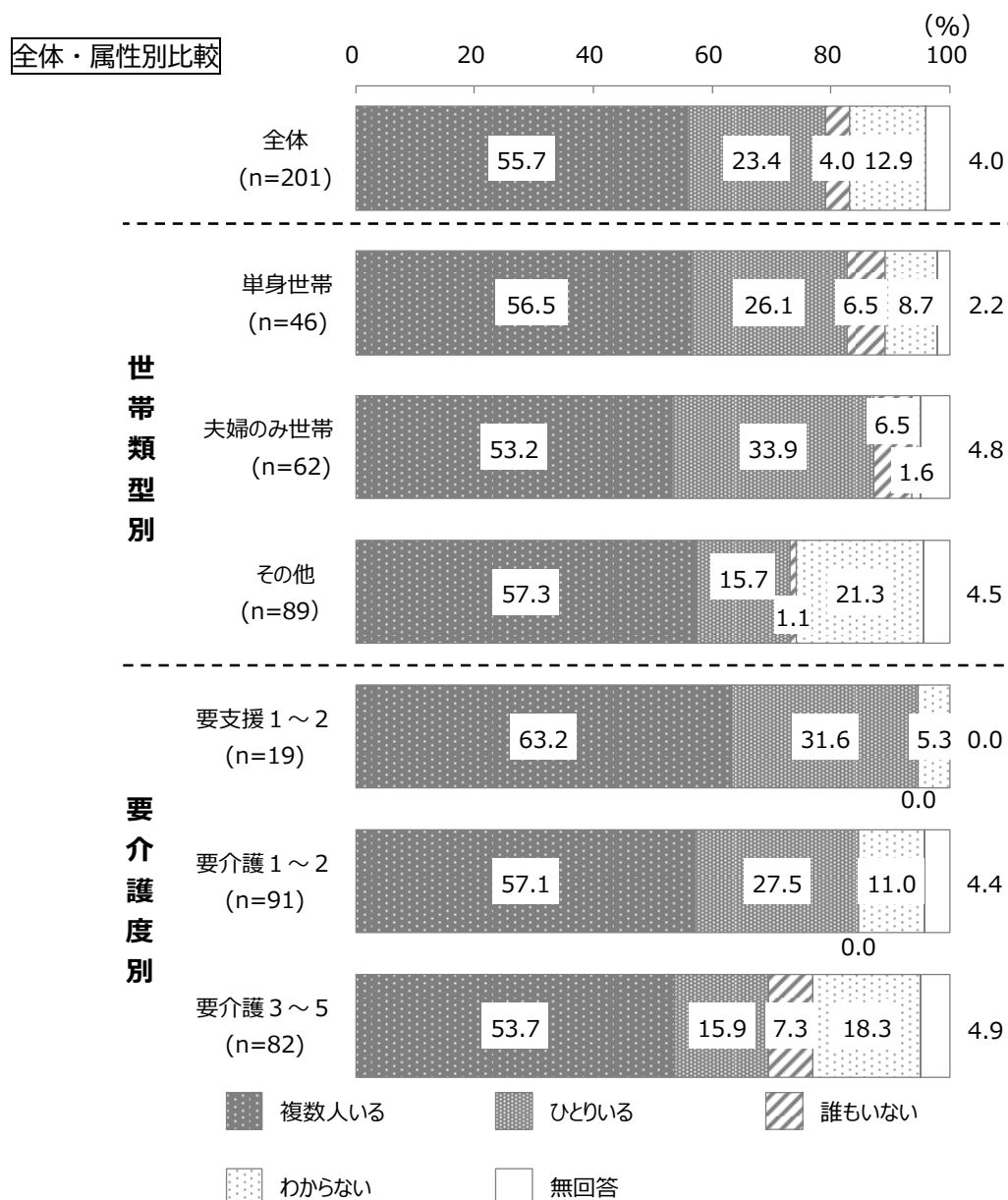
問11 「問9で「1 診断されている」と回答した方に伺います。」

自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいますか。[1つに○]

全体 「複数人いる」が55.7%で最も多く、「ひとりいる」(23.4%)、「わからない」(12.9%)となっています。また、「誰もいない」は4.0%となっています。

世帯類型 「その他」では、「わからない」の割合が2割を超えているため、単純な比較はできませんが、「複数人いる」の割合は、すべての世帯類型で5割台となっています。また、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では、「誰もいない」の割合が6.5%となっています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「複数人いる」と「ひとりいる」を合わせた「一人以上いる」の割合は少なくなり、「要介護3～5」では、7割を下回っています。また、「要支援1～2」と「要介護1～2」では、「誰もいない」と回答した人はいみせませんが、「要介護3～5」では、7.3%となっています。



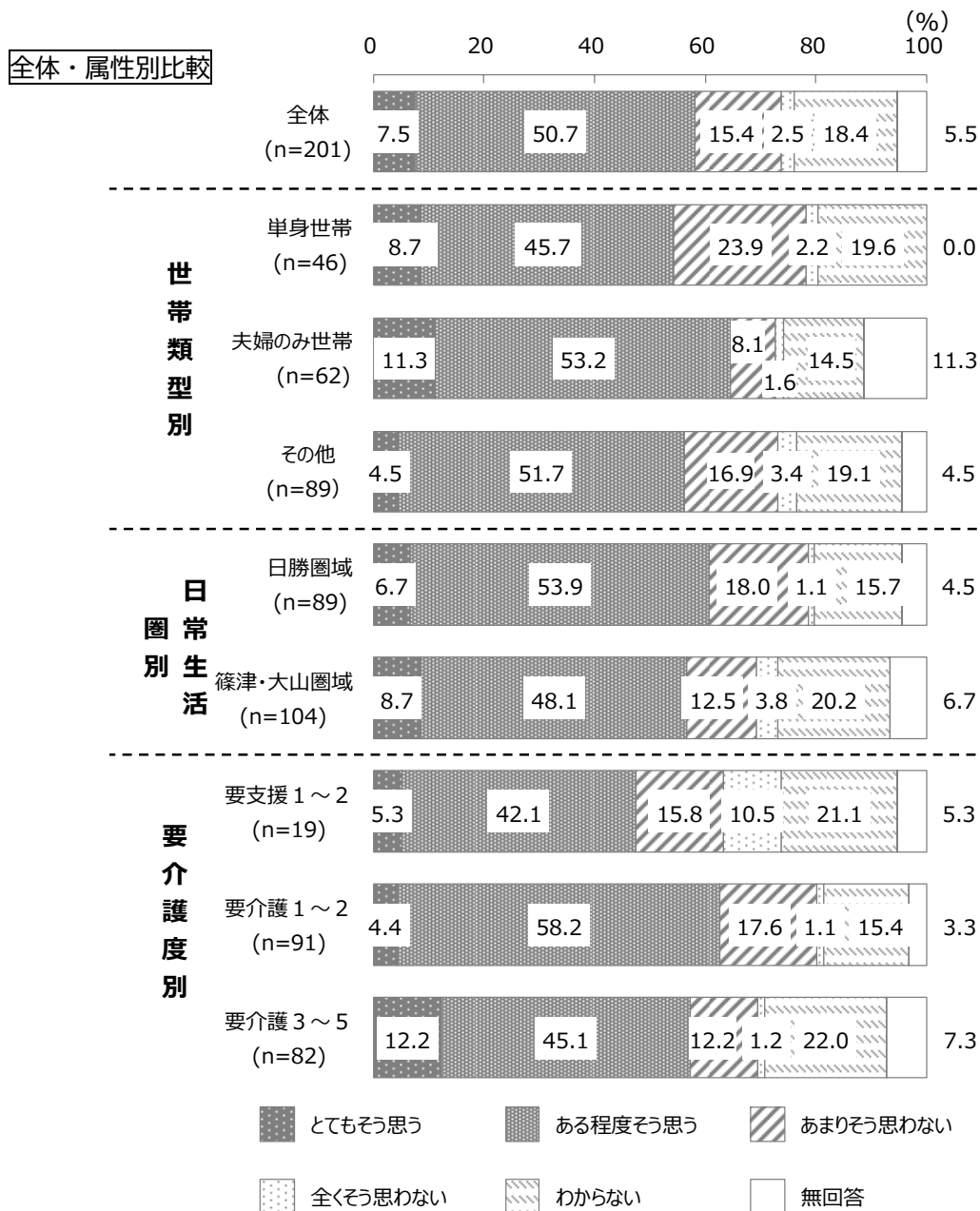
問12 「問9で「1 診断されている」と回答した方に伺います。」

地域生活のさまざまな場面において、ご本人の意見が尊重され、望む生活が継続できていると思いますか。[1つに○]

全体 「ある程度そう思う」が 50.7%で最も多く、次いで「わからない」(18.4%)、「あまりそう思わない」(15.4%)となっています。また、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた「そう思わない」割合は、17.9%となっています。

世帯類型 「夫婦のみ世帯」は、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた「そう思わない」割合が1割を下回っている一方、「単身世帯」と「その他」は2割を上回っています。

要介護度 「要支援1～2」は、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた「そう思う」割合が半数を下回っている一方、「要介護1～2」と「要介護3～5」は、半数を上回り、多くなっています。



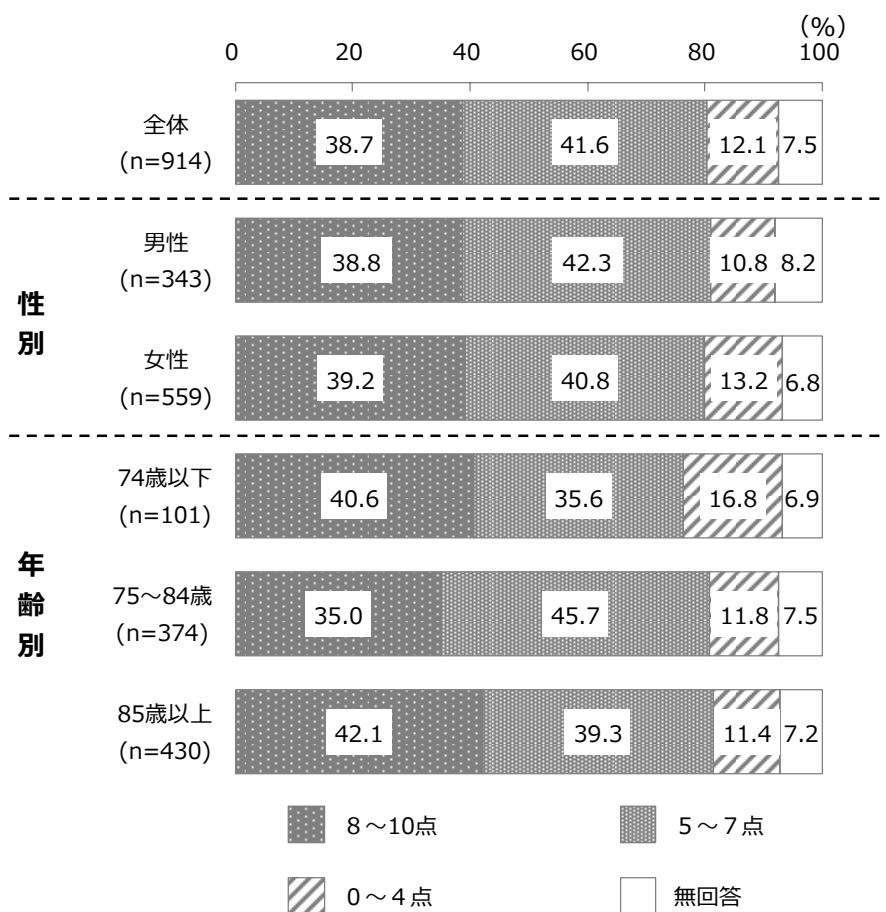
問13 あなたは、現在どの程度幸せですか。〔1つに〇〕

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

全体 「5～7点」が41.6%で最も多く、次いで「8～10点」(38.7%)、「0～4点」(12.1%)となっています。平均値である5点以上と回答した人の割合が8割を超え大半を占めています。平均点を算出したところ、6.7点でした。

年齢 74歳以下と85歳以上は、「8～10点」の割合が4割を上回っており、75～84歳より多くなっています。また、年代が高くなるほど「0～4点」の割合が減っています。

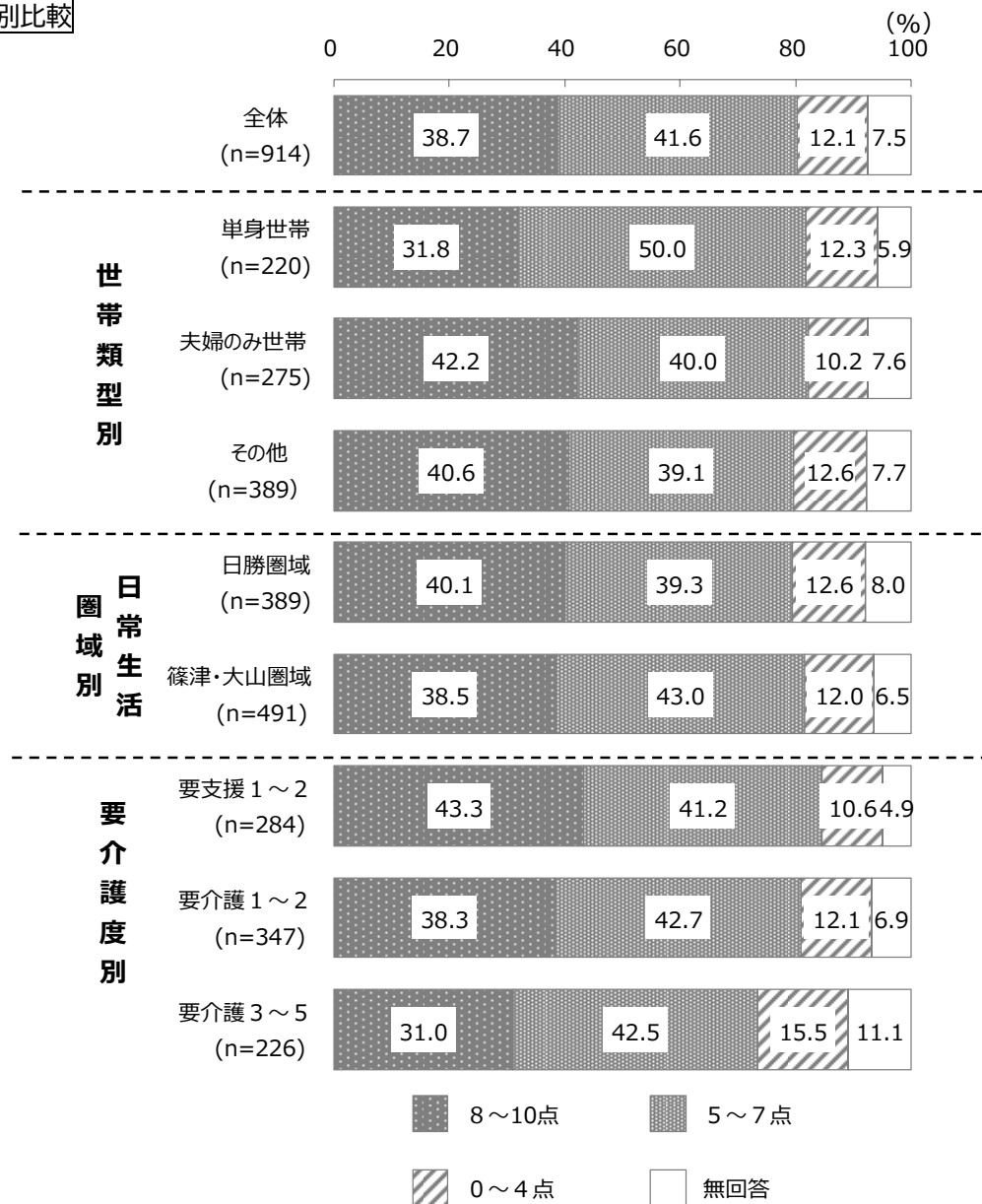
全体・属性別比較



世帯類型 「夫婦のみ世帯」と「その他」では、「8～10点」と「5～7点」の割合がそれぞれ約4割である一方、「単身世帯」では、「8～10点」が約3割、「5～7点」が5割となっています。また、「0～4点」の割合は、すべての世帯類型を通じて約1割となっています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「8～10点」の割合が減り、「要介護3～5」では約3割で、「要支援1～2」と比較すると、12.3ポイント少なくなっています。

属性別比較



3. 施設入所の意向について

問14 現時点での、施設等※への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。[1つに○]

全体 「入所・入居は検討していない」が 64.7%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」(15.4%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(14.1%)となっています。

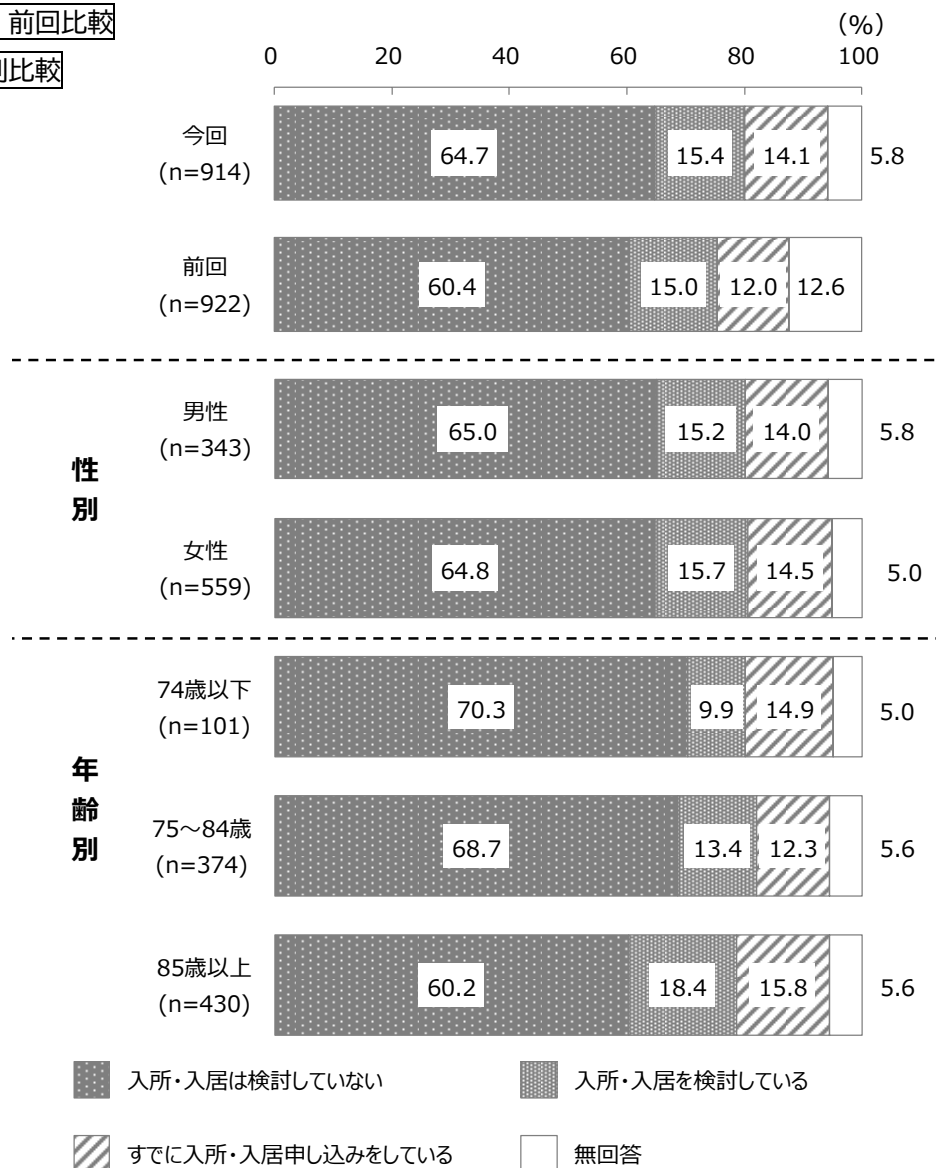
前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

年齢 74歳以下と75～84歳では、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた「入所・入居を見据えている」割合は2割半ばである一方、85歳以上では、3割半ばとなっています。

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

全体・前回比較

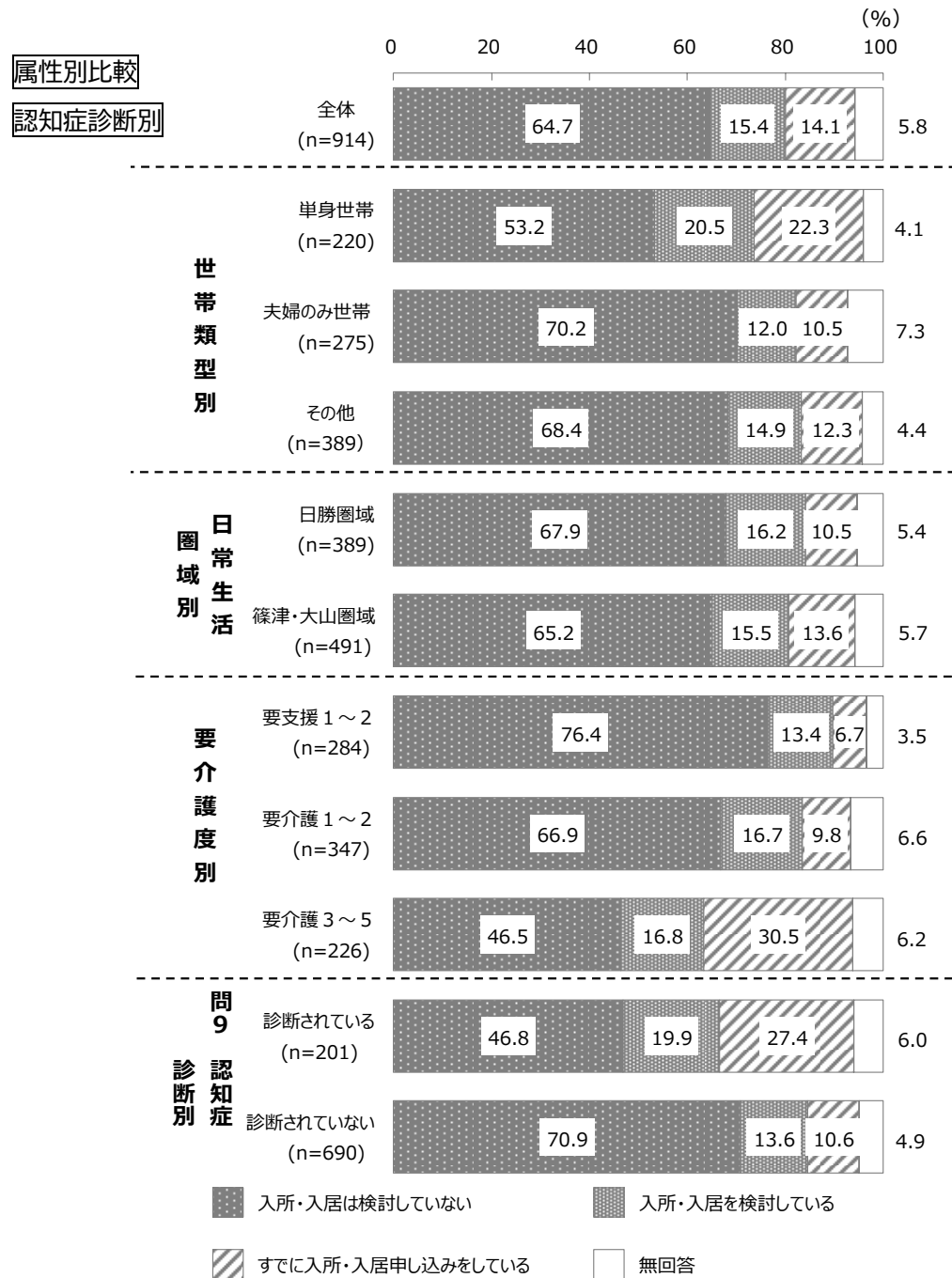
属性別比較



世帯類型 「夫婦のみ世帯」と「その他」では、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた「入所・入居を見据えている」割合は2割台である一方、「単身世帯」では、4割を上回っています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた「入所・入居を見据えている」割合が増え、「要支援1～2」と「要介護1～2」が2割台である一方、「要介護3～5」は半数近くとなっています。

認知症診断別 問9で医師に「認知症と診断されている」と回答した人は、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた「入所・入居を見据えている」割合が半数近くとなっており、「診断されていない」と回答した人よりも2割以上多くなっています。



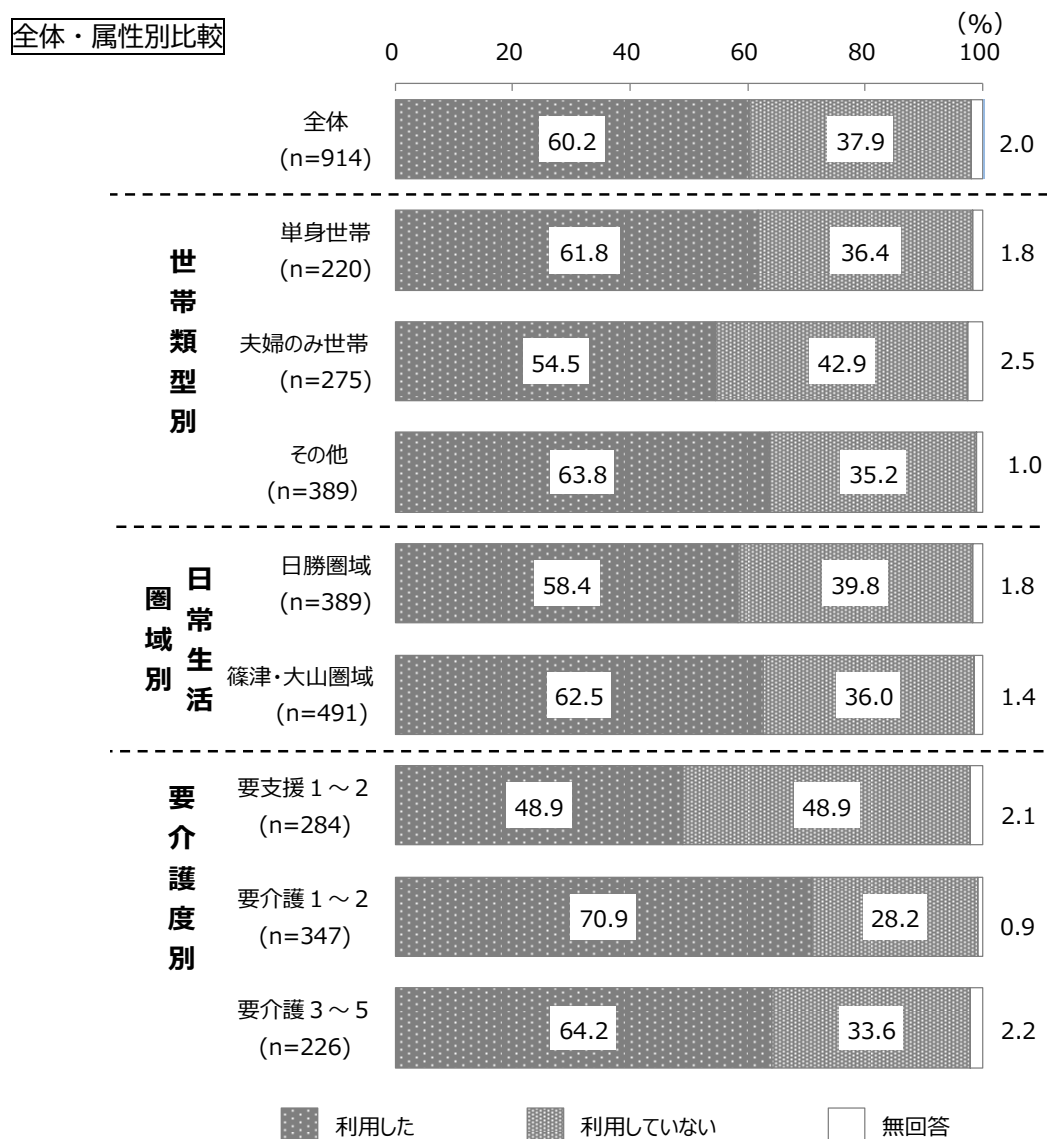
4. 介護保険サービス等の利用について

問15 令和7年11月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。[1つに○]

全体 「利用した」が60.2%で「利用していない」(37.9%)より多くなっています。

世帯類型 「単身世帯」と「その他」では、「利用した」の割合が6割を超えている一方、「夫婦のみ世帯」は、5割半ばと5ポイント以上少なくなっています。

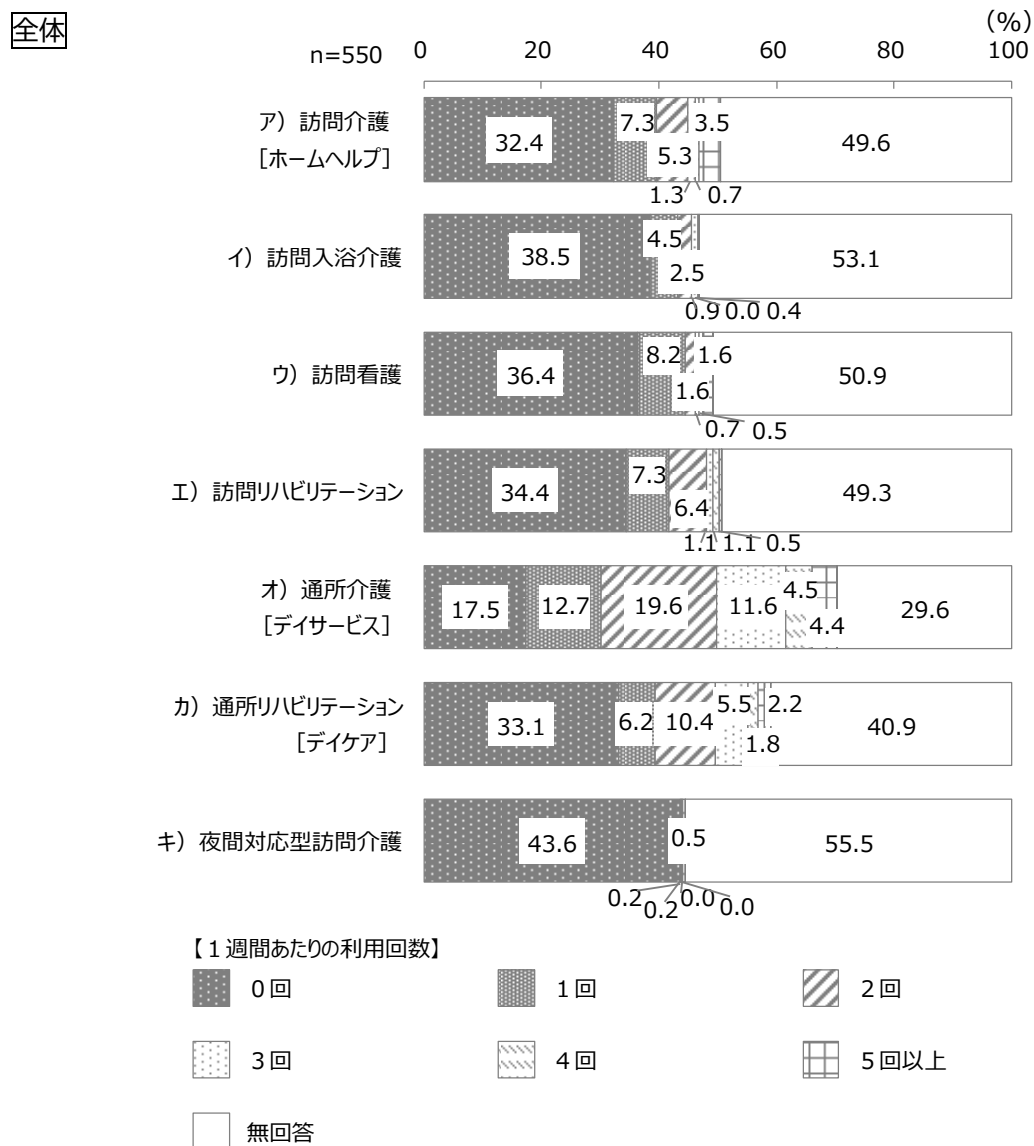
要介護度 「要支援1～2」では、「利用した」と「利用していない」が約半数ずつとなっている一方、「要介護3～5」では「利用した」の割合が6割半ば、「要介護1～2」では7割を超え、より多くなっています。



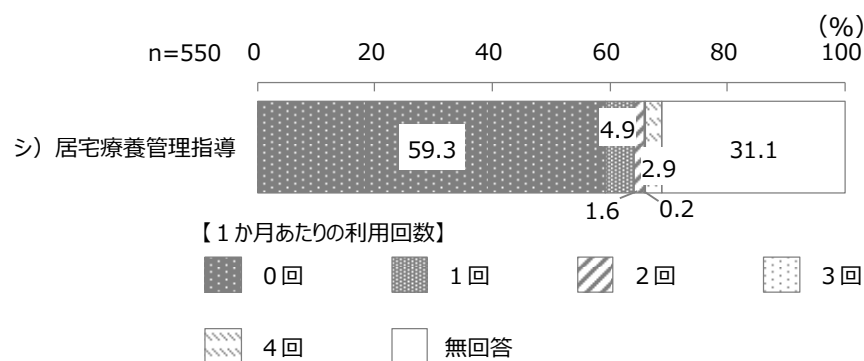
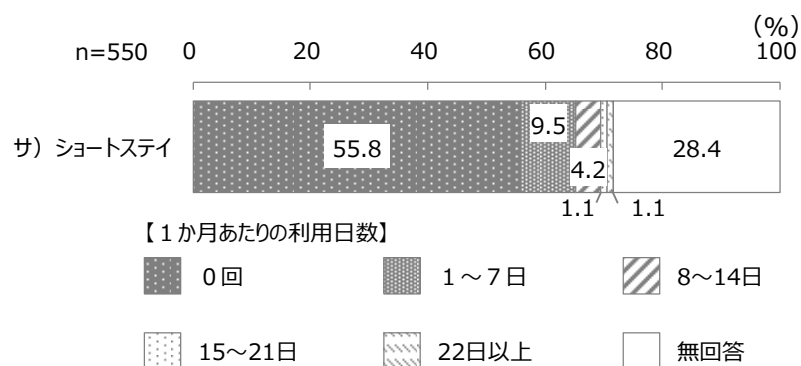
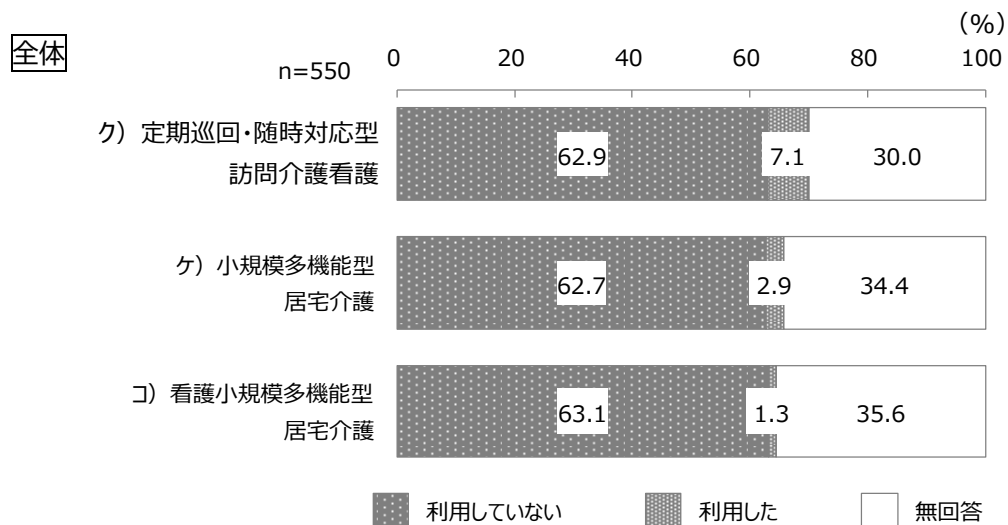
問16 【問15で「1 利用した」と回答した方に伺います。】

以下の介護保険サービスについて、令和7年11月の1か月間の利用状況をご回答ください。
【それぞれ1つに○】

全体 ア)～キ)の介護保険サービスのうち、1週間あたりの利用回数が1回以上と回答した人の割合が2割を超えるサービスは、「オ）通所介護[デイサービス]」（52.8%）と「カ）通所リハビリテーション[デイケア]」（26.1%）の2つとなっています。特に、「オ）通所介護[デイサービス]」は、週2回以上利用している人の割合も4割を超えています。一方で、「キ）夜間対応型訪問介護」は、1週間あたりの利用回数が1回以上と回答した人の割合はわずか0.9%（6人）となっています。

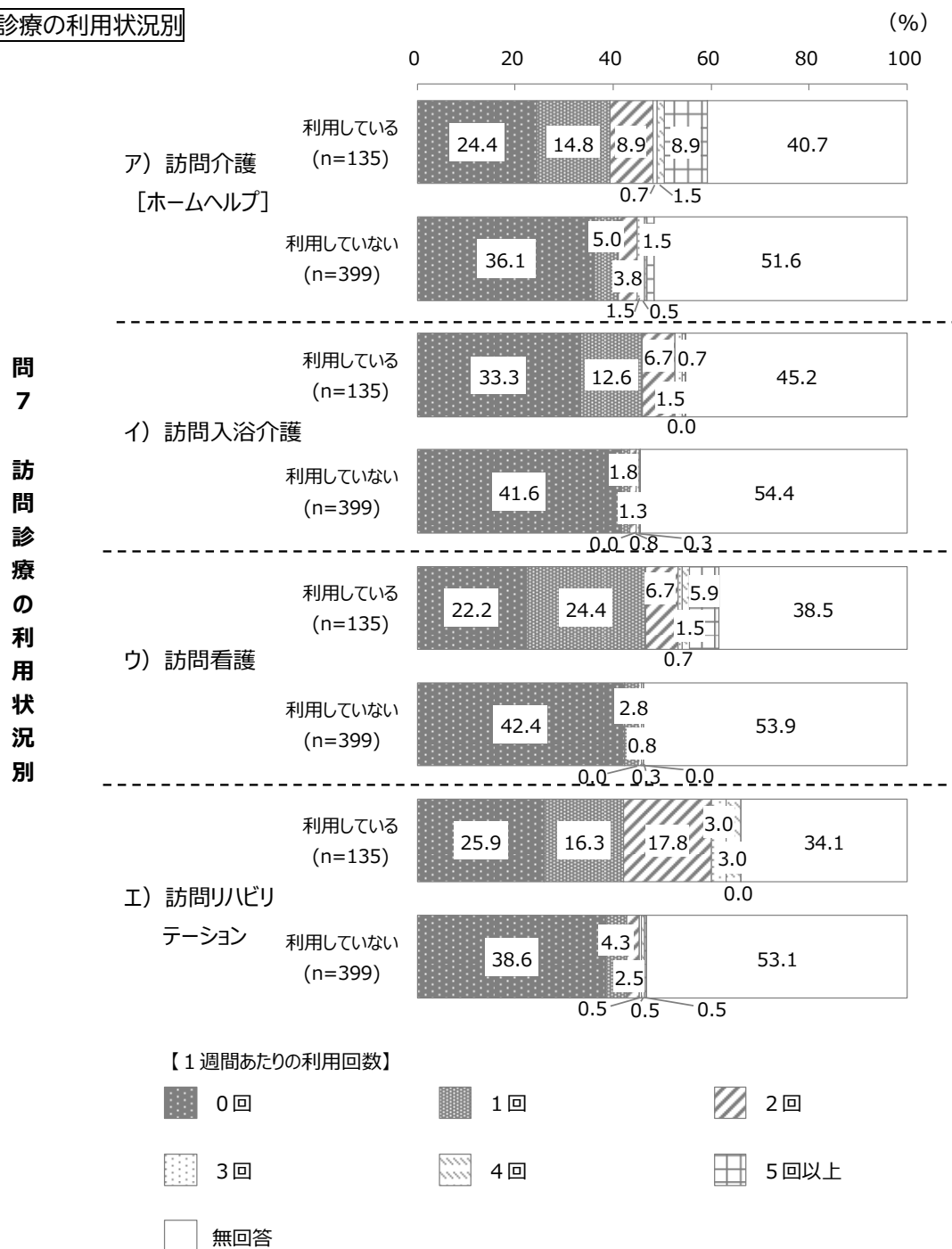


全体 「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「ケ）小規模多機能型居宅介護」、「コ）看護小規模多機能型居宅介護」のすべての介護保険サービスでは、令和7年11月の1か月の間に、「利用していない」の割合は6割前半で、「利用した」の割合は1割を下回っています。また、「サ）ショートステイ」の1か月あたりの利用日数は、「0回」が55.8%で最も多く、次いで「1～7日」（9.5%）、「8～14日」（4.2%）となっています。さらに、「シ）居宅療養管理指導」の1か月あたりの利用回数は、「0回」が59.3%で最も多く、次いで「1回」（4.9%）、「4回」（2.9%）となっています。

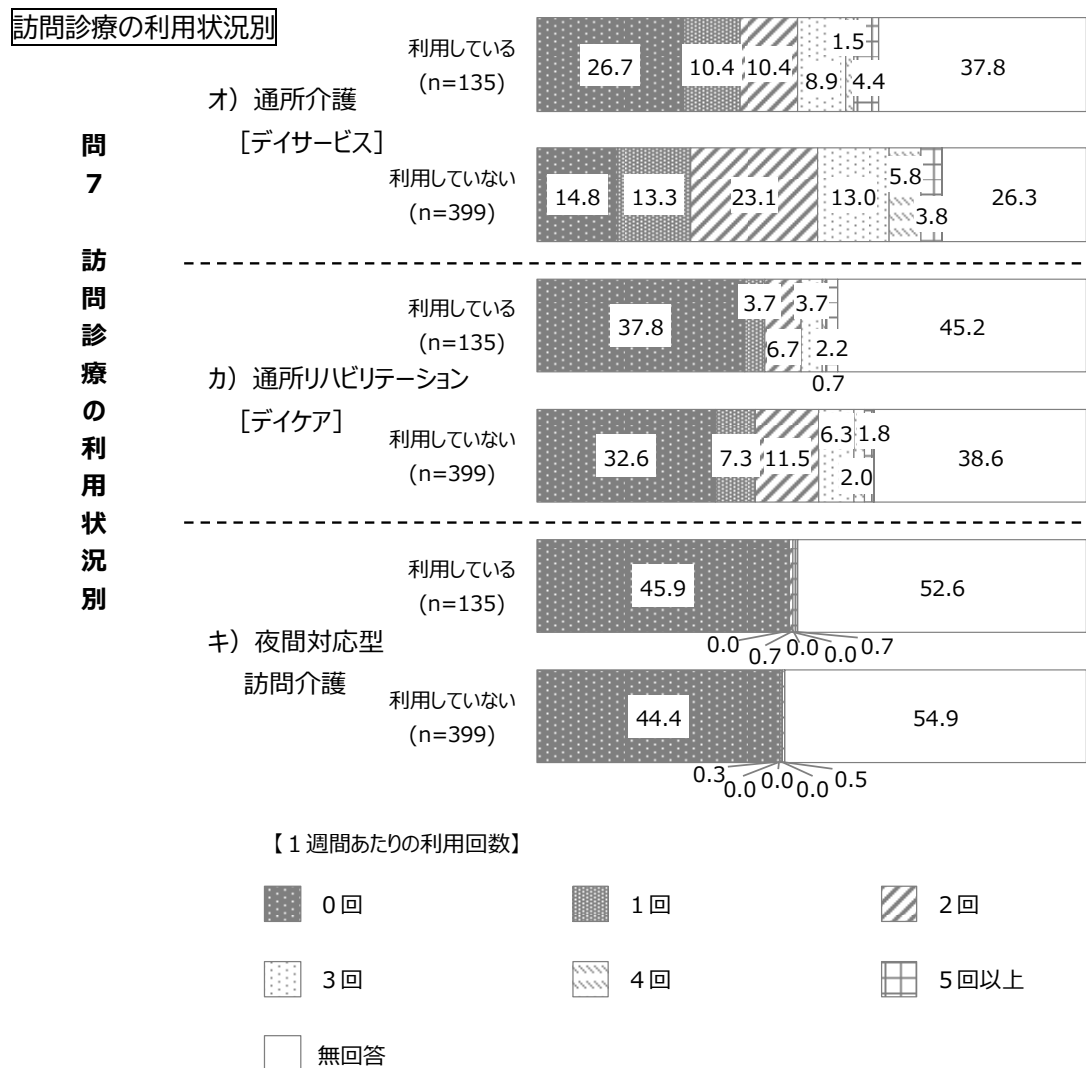


訪問診療の利用状況別 ア)～キ)の介護保険サービスのうち、ア)～エ)についてみると、問7で「訪問診療を利用していると回答した人」は、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が、「訪問診療を利用していないと回答した人」と比較して、15ポイント以上多くなっています。特に、「ウ)訪問看護」については、訪問診療を利用している人は、利用していない人よりも、訪問看護を週1回以上利用している人の割合が35.3ポイントも多くなっています。

訪問診療の利用状況別

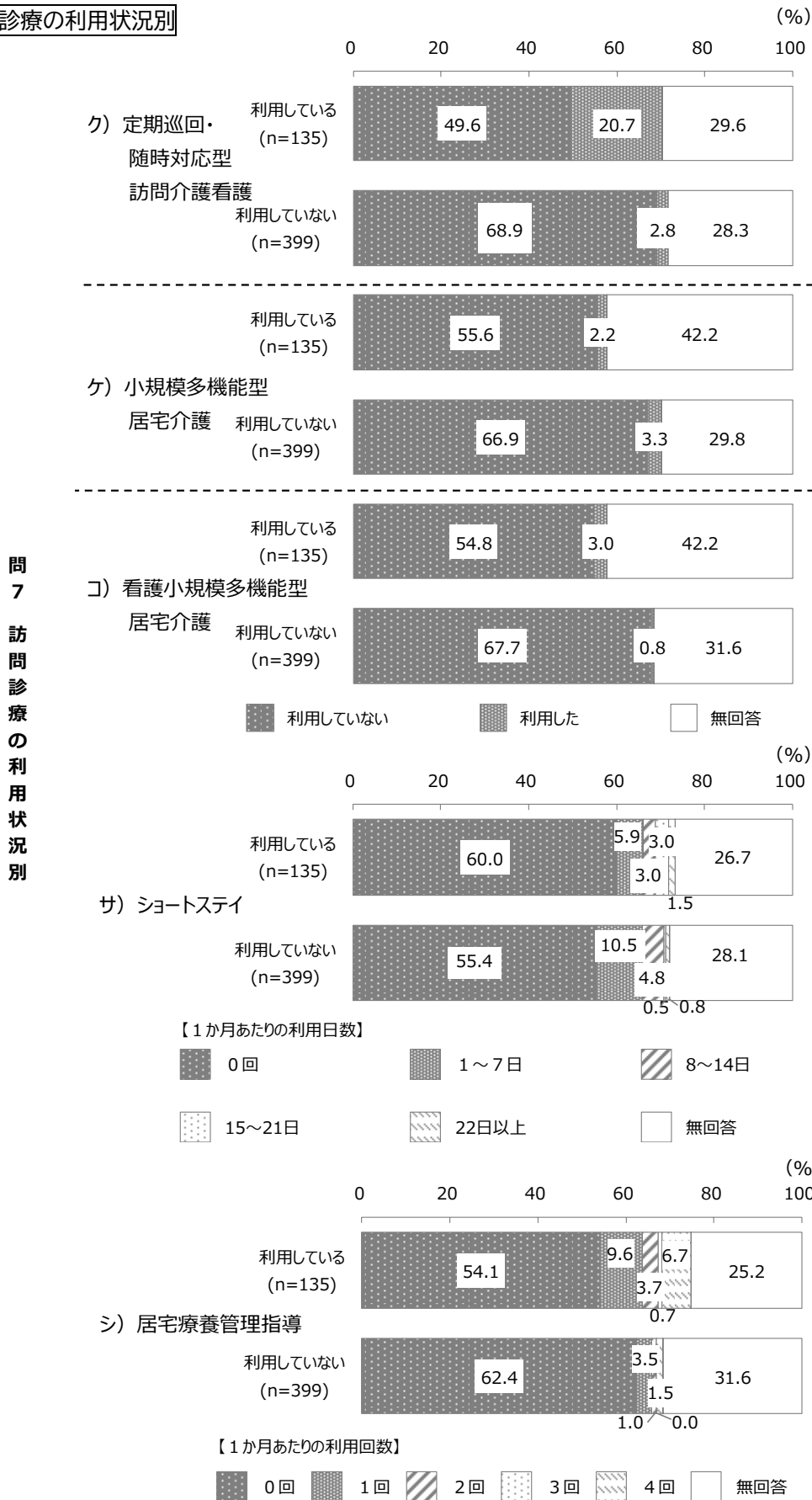


訪問診療の利用状況別 一方で、「オ）通所介護[デイサービス]」と「カ）通所リハビリテーション[デイケア]」については、問7で「訪問診療を利用していないと回答した人」は、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が、「訪問診療を利用していると回答した人」と比較して、10ポイント以上多くなっています。訪問診療を利用していない人ほど、オとカのサービスを利用しています。

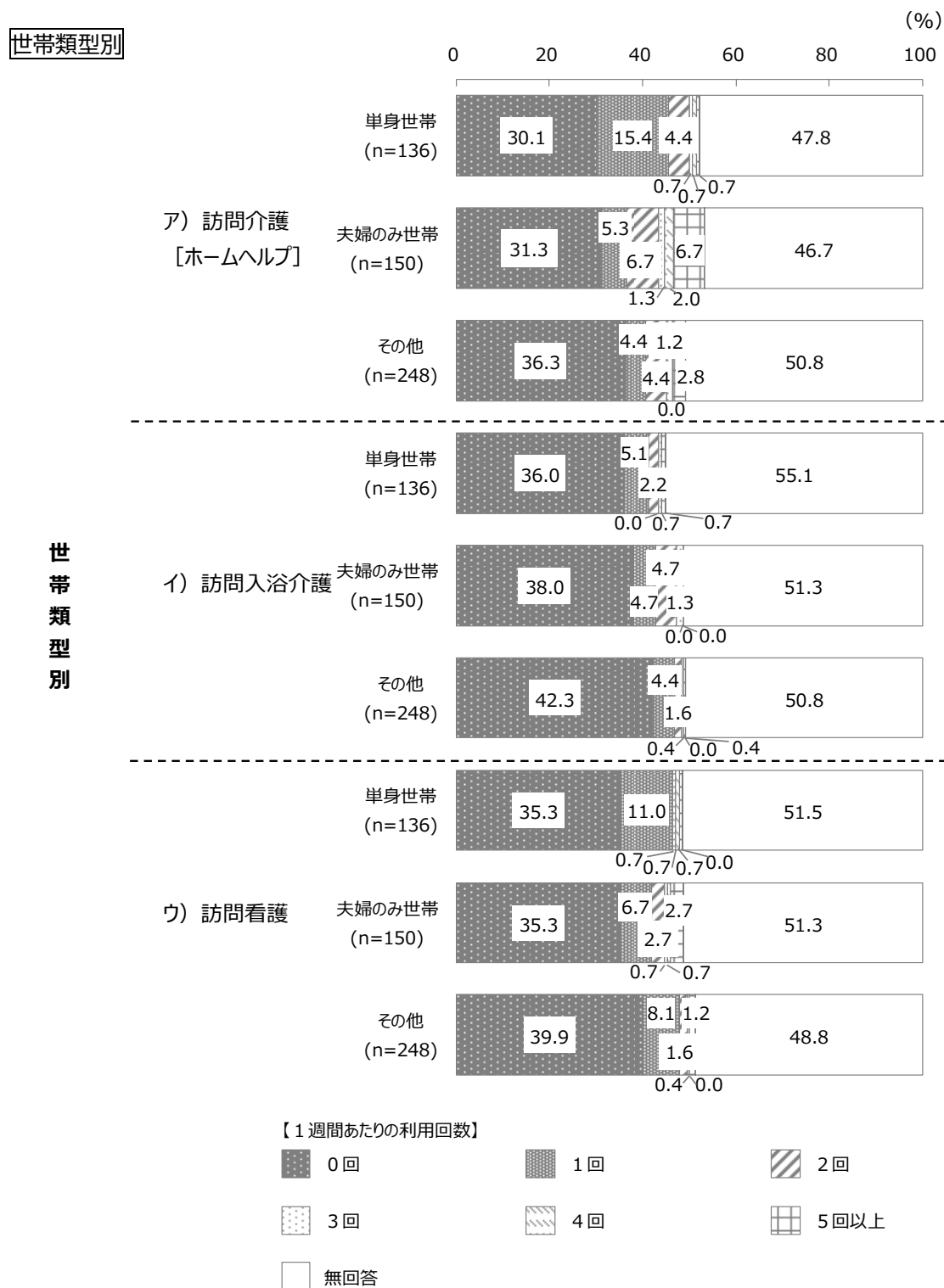


訪問診療の利用状況別 また、「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」では、「訪問診療を利用している人」は、サービスを「利用した」の割合が20.7%である一方、「訪問診療を利用していない人」は、サービスを「利用した」の割合が2.8%で、ほとんどサービスを利用していません。「シ）居宅療養管理指導」では、「訪問診療を利用している人」は、1か月間に1回以上サービスを利用した人の割合が20.7%である一方、「訪問診療を利用していない人」は6.0%で、14.7ポイント少なくなっています。

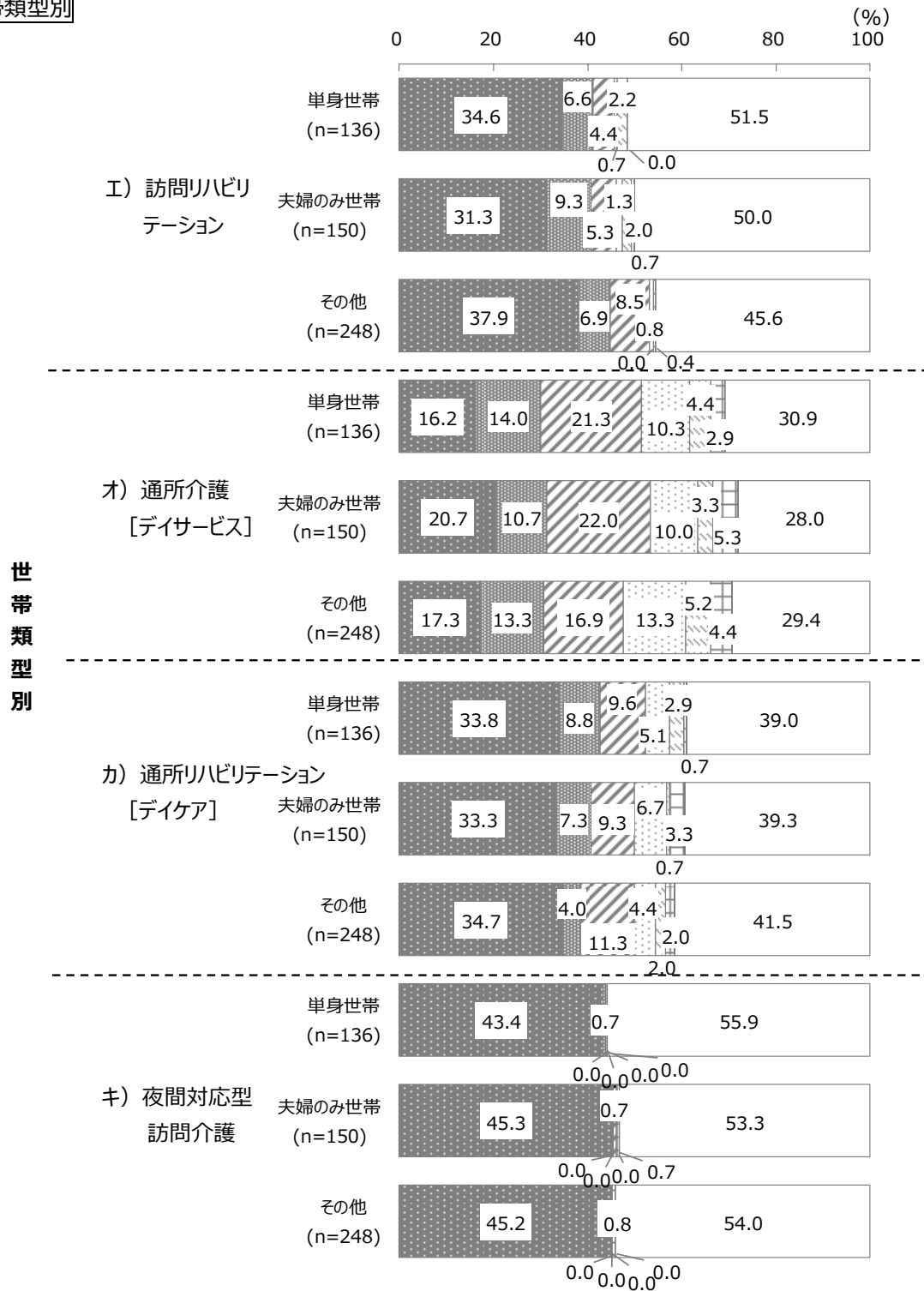
訪問診療の利用状況別



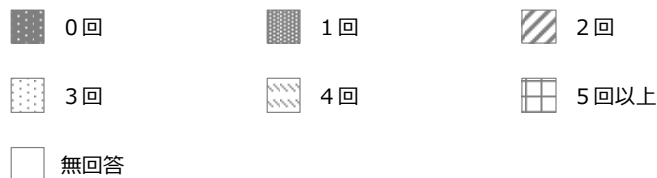
世帯類型別 ア)～キ)の介護保険サービスのうち、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合で、世帯類型別に5ポイント以上の差が見られたのは「ア) 訪問介護[ホームヘルプ]」で、「単身世帯」は「その他」と比較して、9.1ポイント多くなっています。また、「イ) 訪問入浴介護」については、「単身世帯」は、「0回」(利用していない)の割合が、「その他」よりも6.3ポイント少なくなっています。



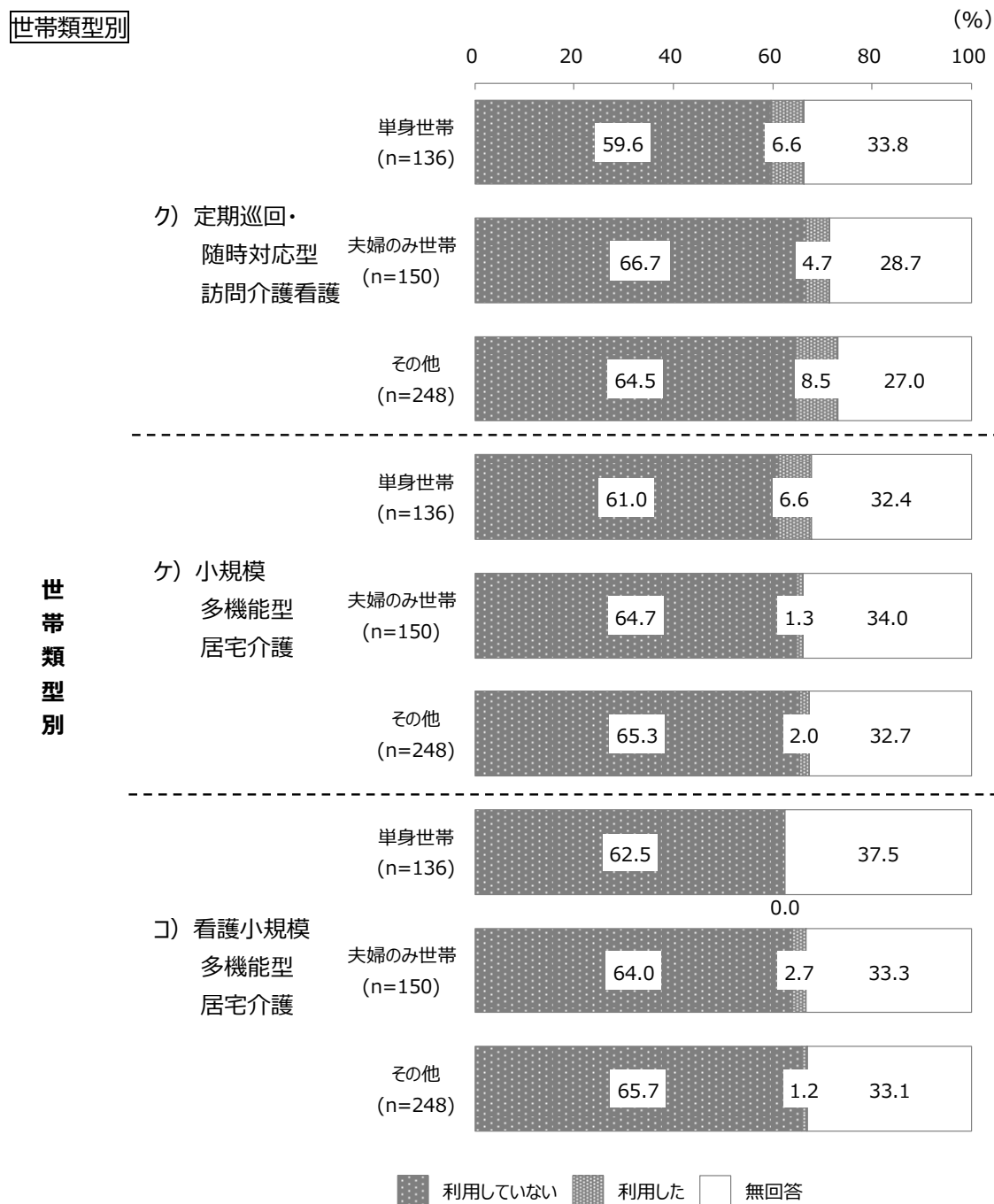
世帯類型別



【1週間あたりの利用回数】

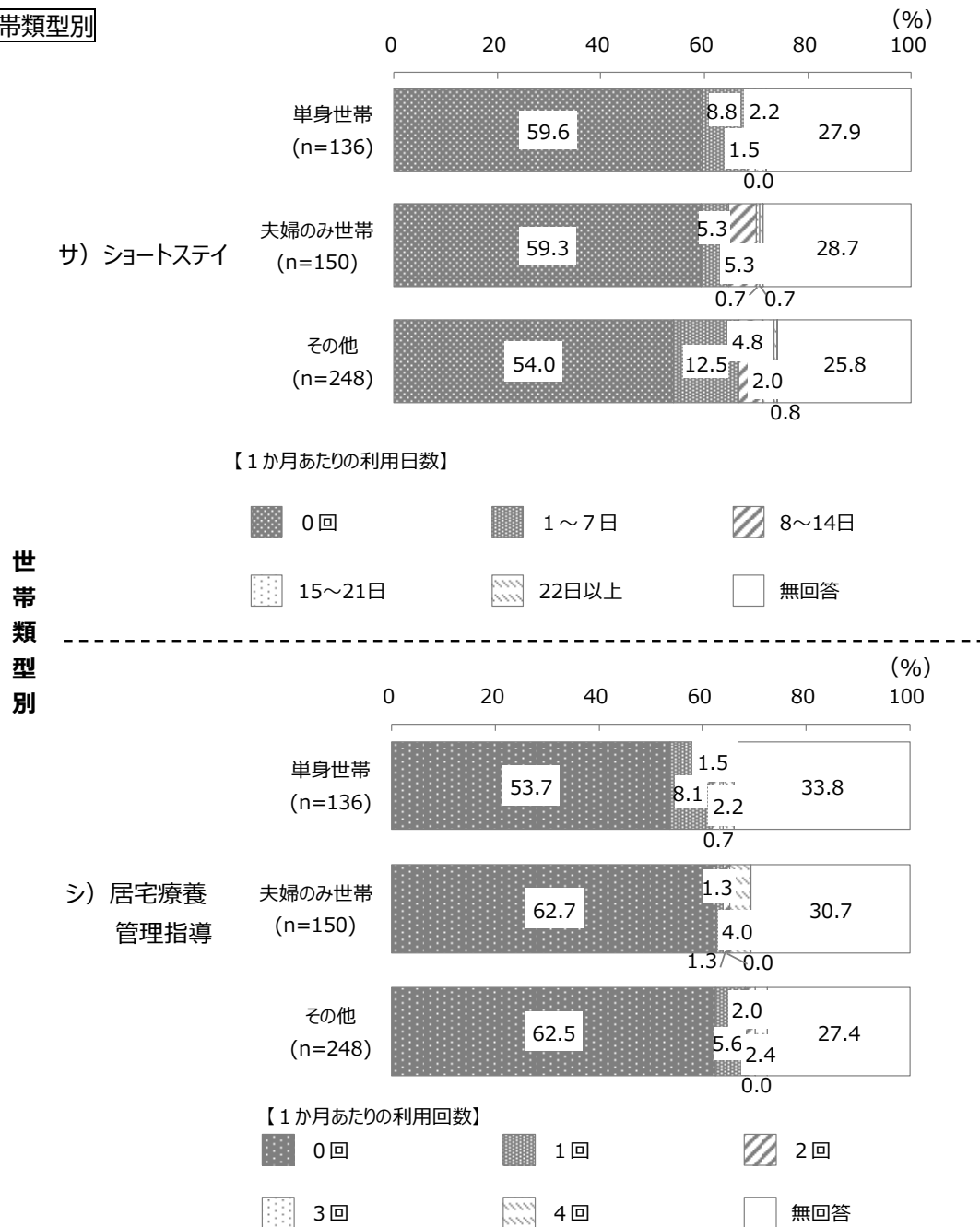


世帯類型別 「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「ケ）小規模多機能型居宅介護」、「コ）看護小規模多機能型居宅介護」のすべての介護保険サービスでは、令和7年11月の1か月の間に、「利用していない」の割合は世帯類型に関わらず概ね6割台で、「利用した」の割合は1割を下回っています。5ポイント以上の差が見られたのは、「ケ）小規模多機能型居宅介護」における「単身世帯」で、「利用した」の割合が「夫婦のみ世帯」より5.3ポイント多くなっています。

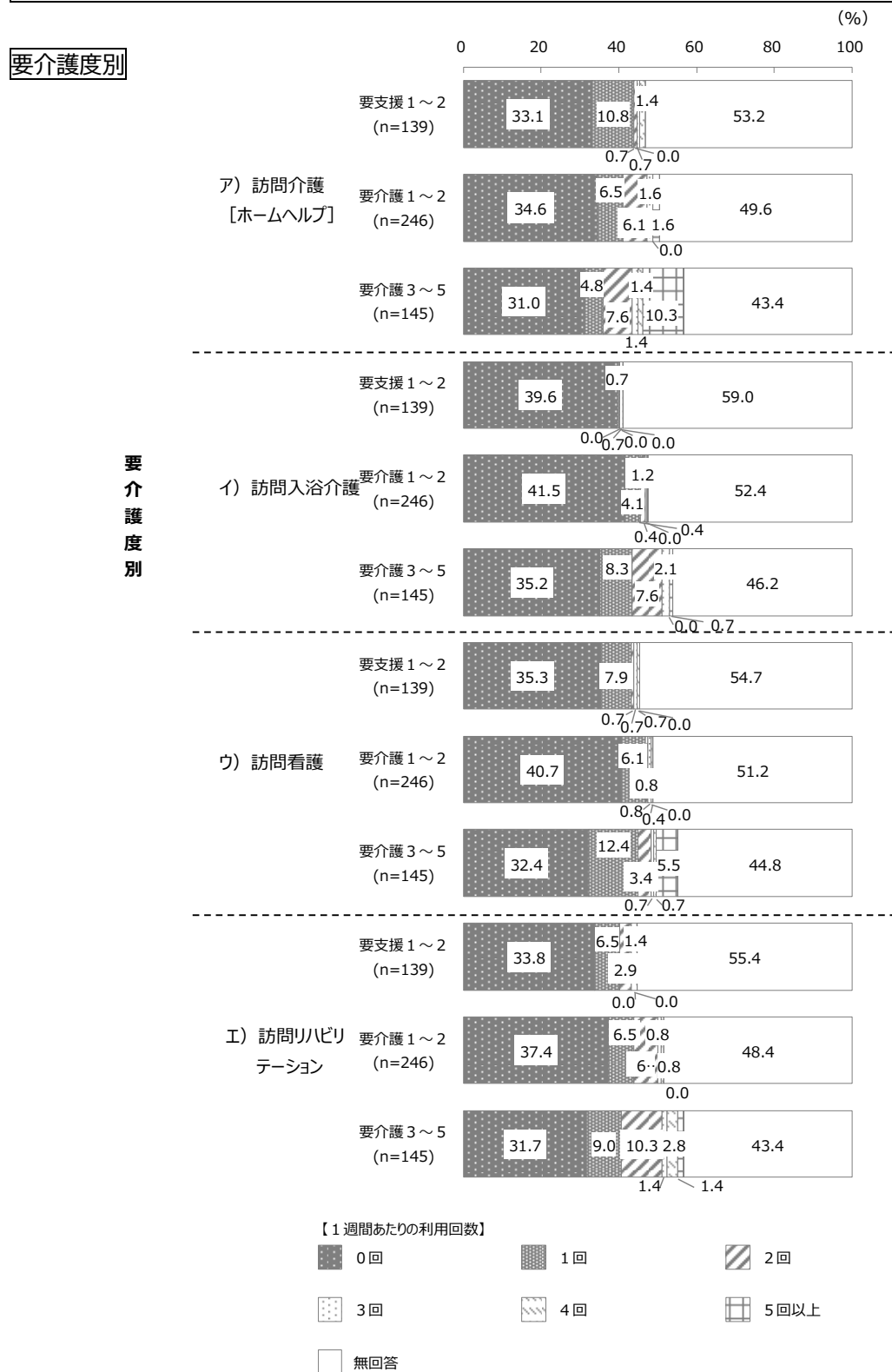


世帯類型別 「サ) ショートステイ」では、1か月あたりの利用日数が1日以上ある割合は、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では1割前半である一方、「その他」では2割を超えて多くなっています。「シ) 居宅療養管理指導」では、1か月あたりの利用回数が1回以上の割合は、「単身世帯」では12.5%で、「夫婦のみ世帯」よりも5ポイント以上多くなっています。

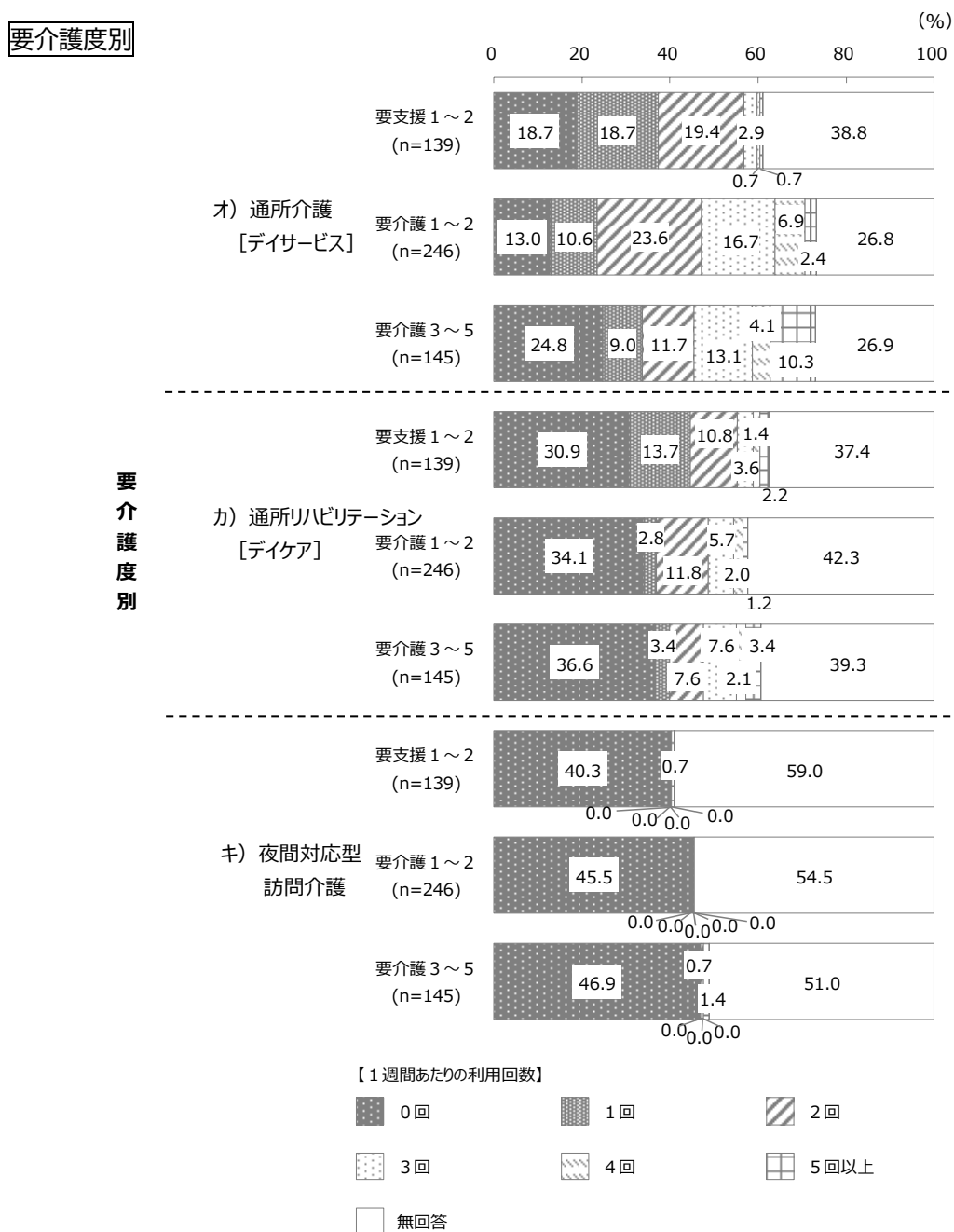
世帯類型別



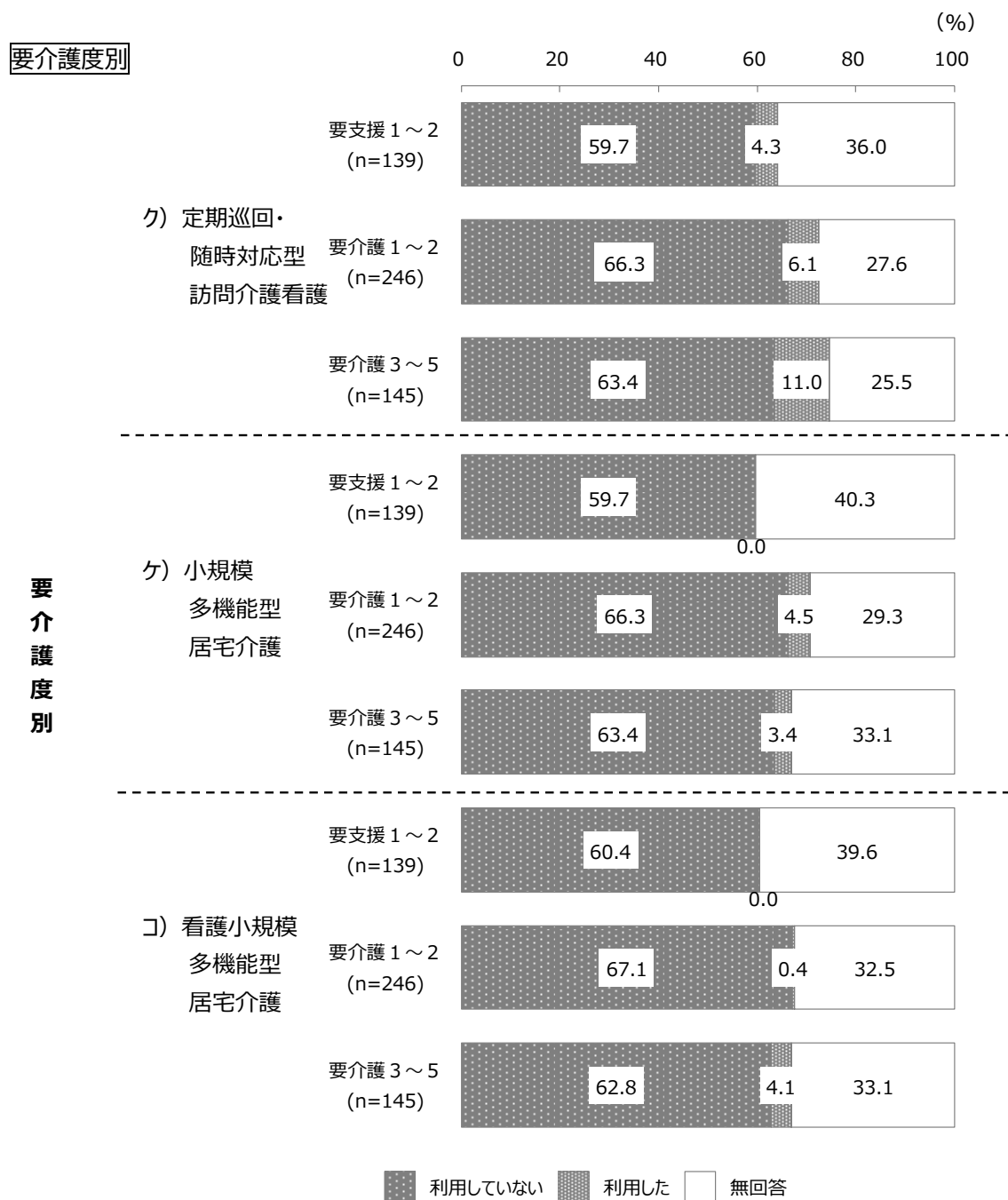
要介護度 ア)～キ)の介護保険サービスのうち、ア)～エ)については、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合を要介護度別で比較すると、「要介護3～5」は、「要支援1～2」よりも10ポイント以上多くなっており、要介護度が高い方が介護保険サービスを1回以上利用している割合が多くなっています。



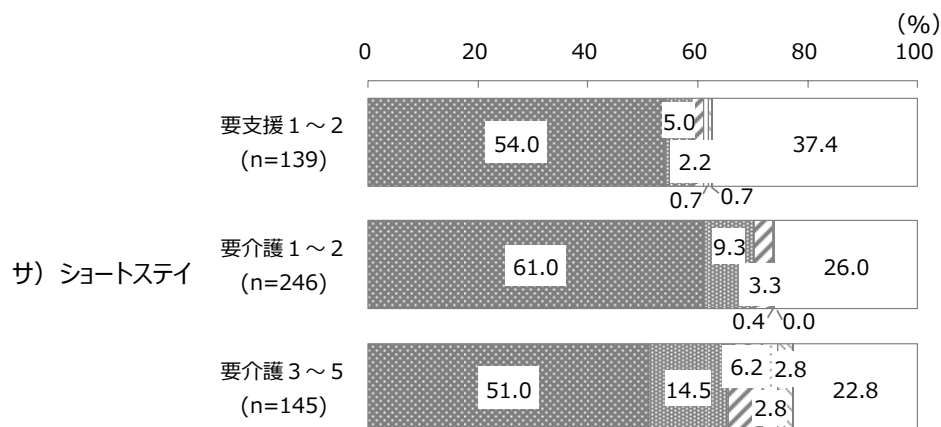
要介護度 一方で、「オ）通所介護[デイサービス]」では、1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が最も多いのは、「要介護1～2」(60.2%)で、次いで「要介護3～5」(48.2%)となっています。また、「カ）通所リハビリテーション[デイケア]」については、1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が最も多いのは、「要支援1～2」(31.7%)で、次いで「要介護3～5」(24.1%)となっています。オとカのいずれも、1週間あたりの利用回数が「0回」の割合が最も多いのは「要介護3～5」となっています。



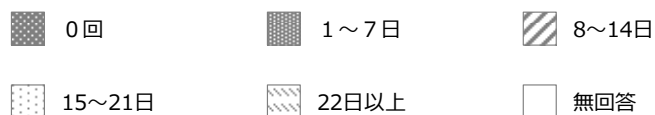
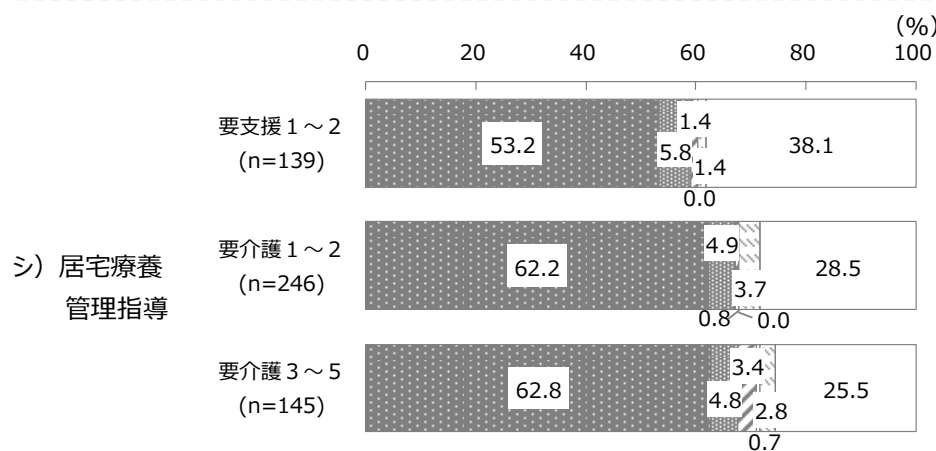
要介護度 「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「ケ）小規模多機能型居宅介護」、「コ）看護小規模多機能型居宅介護」のすべての介護保険サービスでは、令和7年11月の1か月の間に、「利用していない」の割合は要介護度に関わらず概ね6割台となっています。「利用した」の割合は「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の「要介護3～5」のみ1割を上回り、その他は1割を下回っています。



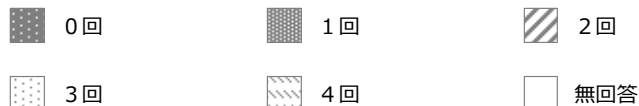
要介護度 「サ) ショートステイ」では、1か月あたりの利用日数が1日以上ある割合は、要介護度が高くなるほど多くなり、「要介護3～5」では2割半ばとなっています。「シ) 居宅療養管理指導」では、1か月あたりの利用回数が「0回」の割合は、「要介護1～2」と「要介護3～5」では6割前半である一方、「要支援1～2」では5割前半と少なくなっています。

要介護度別

【1か月あたりの利用日数】

**要
介
護
度
別**

【1か月あたりの利用回数】



問17 「問15で「1 利用した」と回答した方に伺います。」

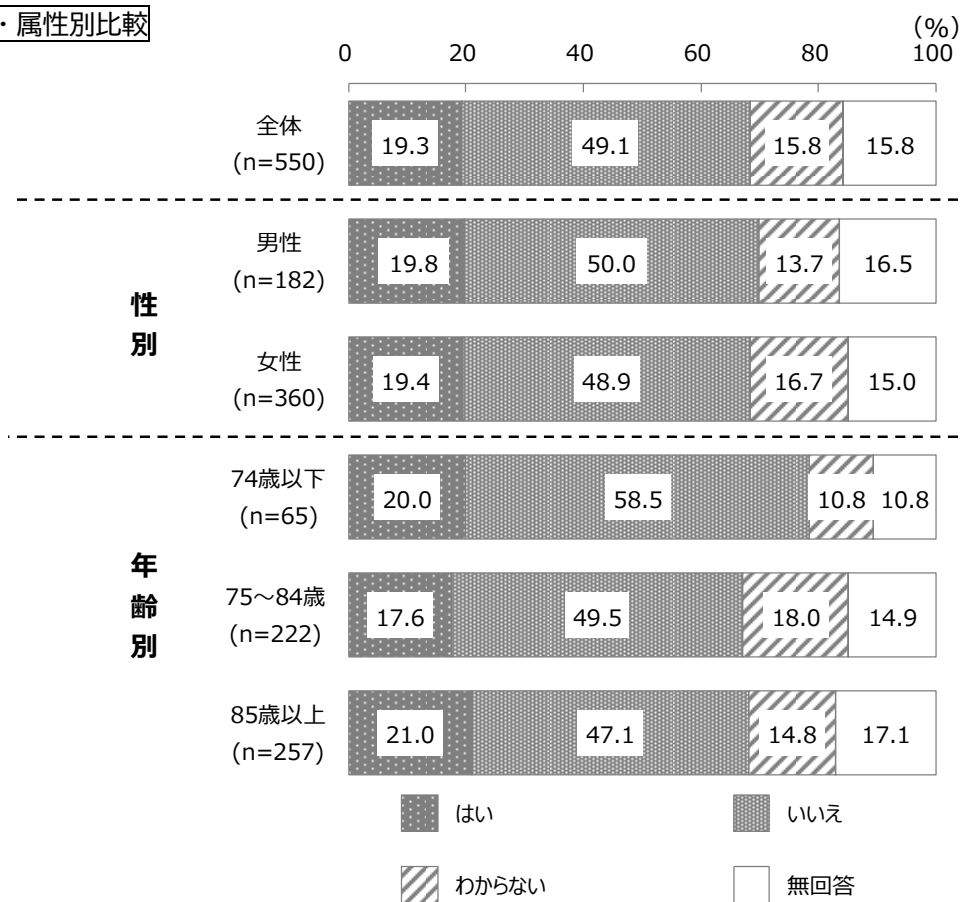
現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっていると思いますか。

〔1つに○〕

全体 「いいえ」が49.1%で最も多く、次いで「はい」(19.3%)、「わからない」(15.8%)となっています。約2割が現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっていると感じています。

年齢 年代が高くなるほど、「いいえ」の割合が少なくなり、85歳以上では、74歳以下より11.4ポイント少なく、47.1%となっています。一方で、「はい」の割合は年代に関わらず2割前後となっており、75～84歳と85歳以上では、「わからない」と「無回答」の割合が多くなっています。

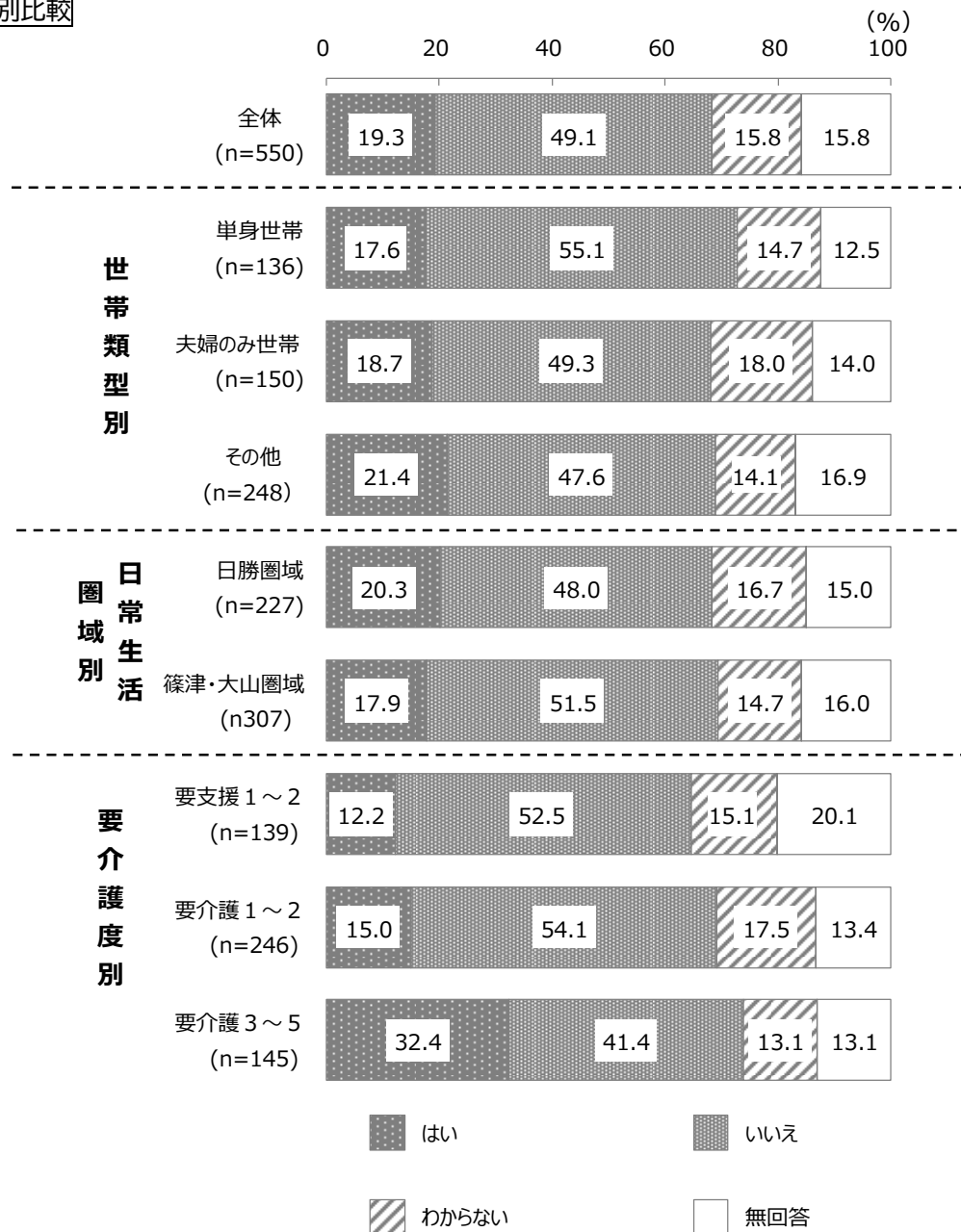
全体・属性別比較



世帯類型 「単身世帯」は、「いいえ」の割合が半数を超えている一方、「夫婦のみ世帯」と「その他」は半数を下回っています。「単身世帯」の方が、現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっていると感じていない割合が多くなっています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「はい」の割合が多くなり、「要介護3～5」では3割を超える人が、現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっていると感じています。

属性別比較



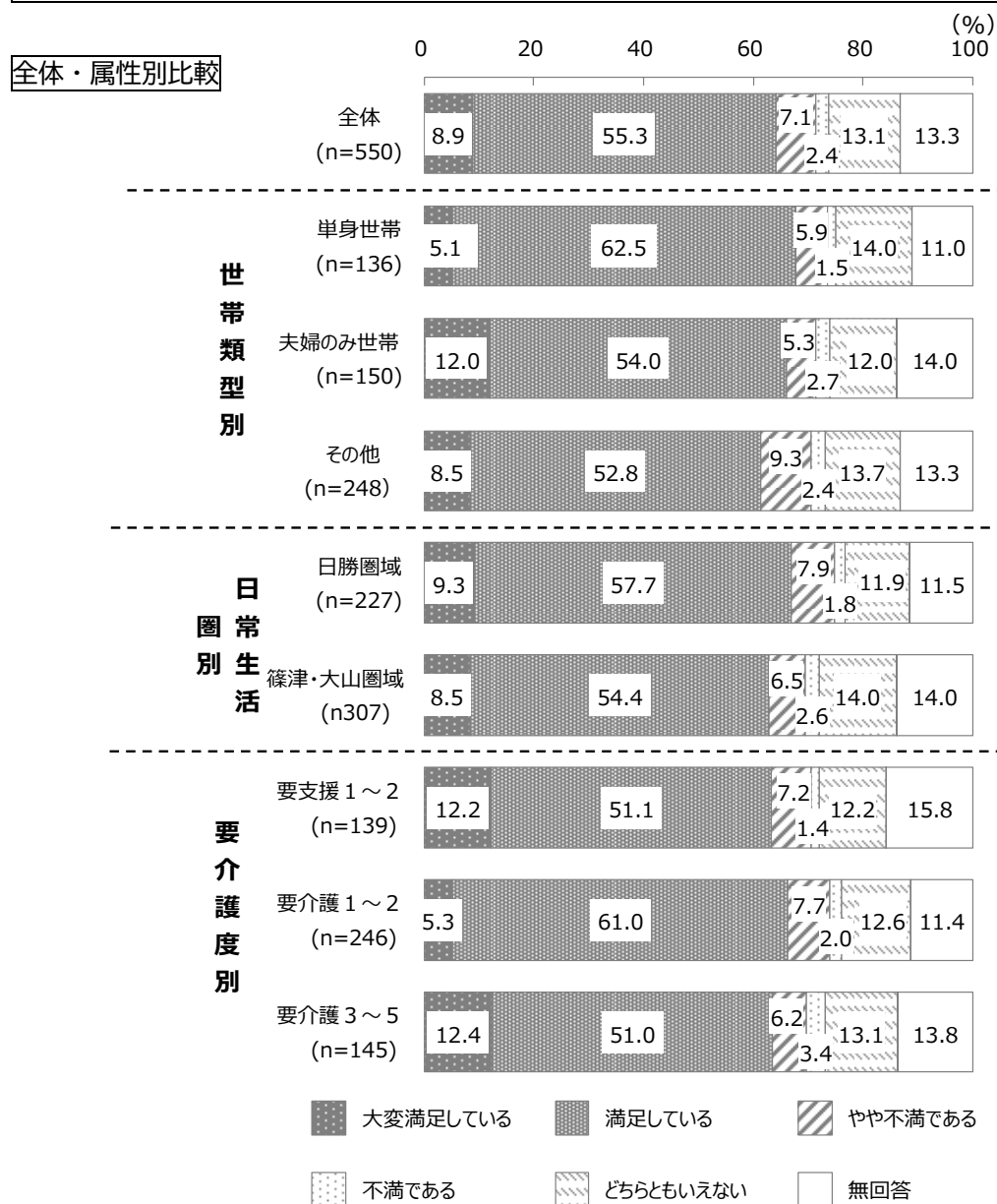
問18 「問15で「1 利用した」と回答した方に伺います。」

総合的にみて、介護保険サービスを利用してどのように感じていますか。〔1つに○〕

全体「満足している」が55.3%で最も多く、次いで「どちらともいえない」(13.1%)、「大変満足している」(8.9%)となっています。また、「大変満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合は64.2%となっている一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた不満である割合は9.5%となっています。

世帯類型「単身世帯」は、「大変満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合が67.6%で、「その他」より6.3ポイント多くなっています。

要介護度すべての要介護度において、「大変満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合は6割台となっています。そのうち、「大変満足している」の割合が、「要支援1～2」と「要介護3～5」では1割前半である一方、「要介護1～2」では5.3%と少なくなっています。

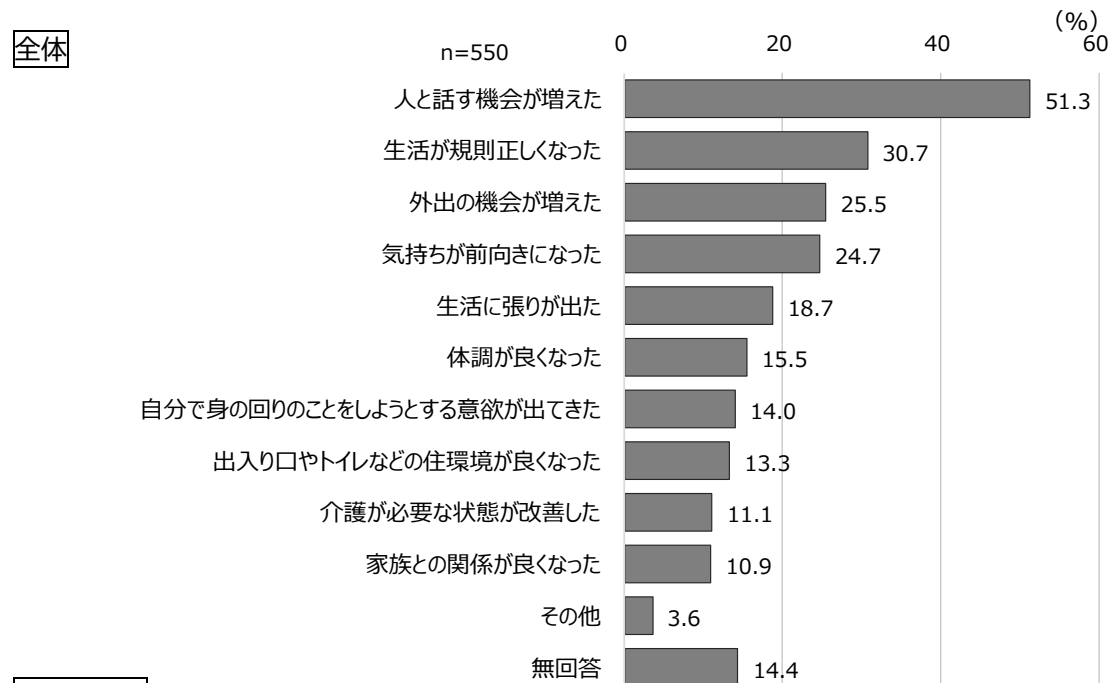


問19 「問15で「1 利用した」と回答した方に伺います。」

介護保険サービスを利用してよかったと思うことは何ですか。[あてはまるものすべてに○]

全体「人と話す機会が増えた」が51.3%で最も多く、次いで「生活が規則正しくなった」(30.7%)、「外出の機会が増えた」(25.5%)となっています。

要介護度 すべての要介護度において、「人と話す機会が増えた」が最も多くなっています。続く第2位は、「要介護1～2」と「要介護3～5」では「生活が規則正しくなった」、「要支援1～2」では「外出の機会が増えた」となっています。また、「要介護3～5」では、「生活が規則正しくなった」の割合が4割半ばで、「要支援1～2」(2割前半)、「要介護1～2」(2割後半)と比較して多くなっています。



属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

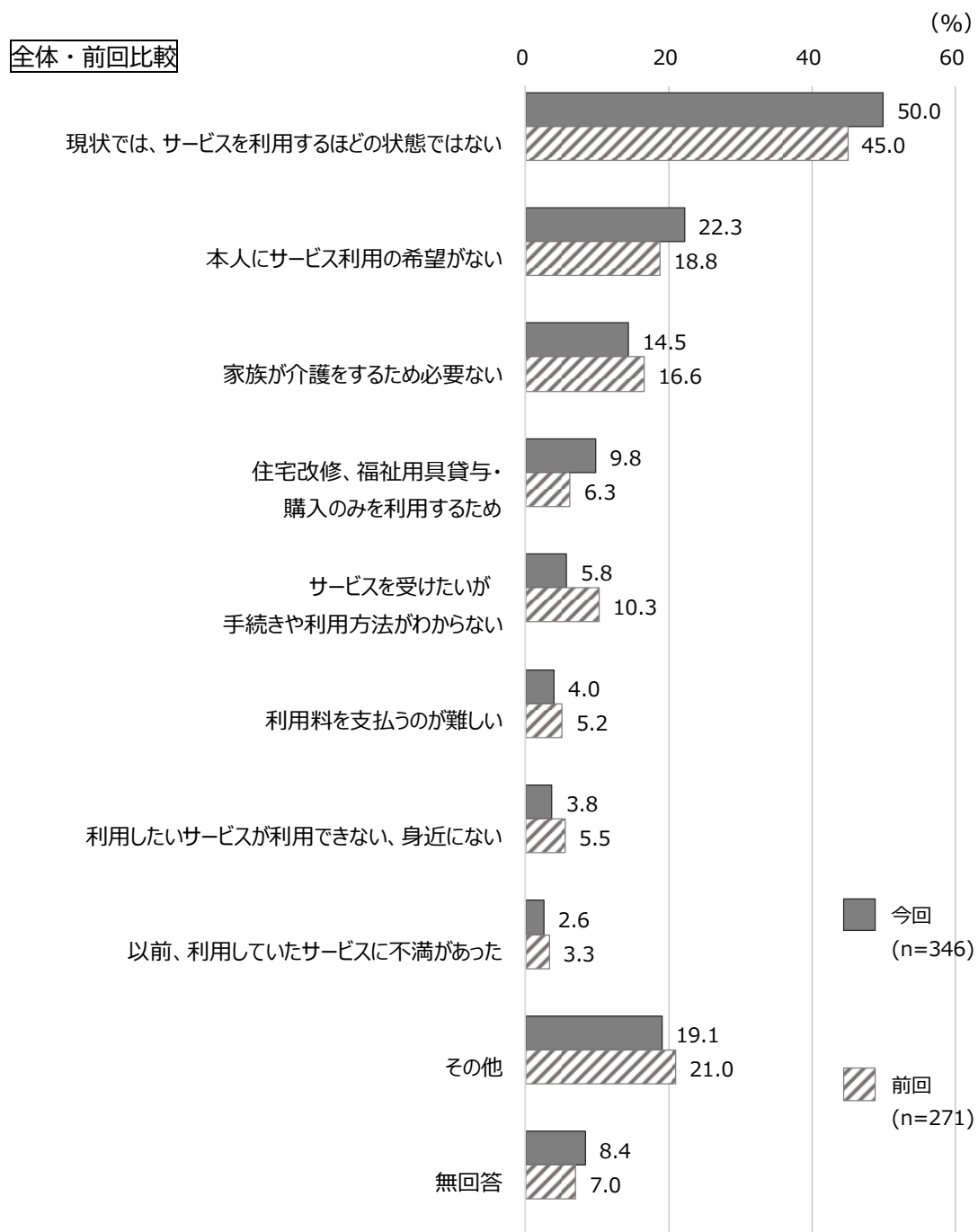
		人と話す機会が増えた	生活が規則正しくなった	外出の機会が増えた	気持ちが前向きになった	生活に張りが出た	体調が良くなった	自分で身の回りのことをしようとする意欲が出てきた	出入り口やトイレなどの住環境が良くなった	介護が必要な状態が改善した	家族との関係が良くなった	その他	無回答
全体(n=550)		51.3	30.7	25.5	24.7	18.7	15.5	14.0	13.3	11.1	10.9	3.6	14.4
活動地域	日勝圏域(n=227)	51.1	29.1	26.4	22.5	18.9	13.7	12.8	13.7	9.3	9.3	2.6	12.3
	篠津・大山圏域(n=307)	52.4	32.6	25.4	27.0	19.5	17.6	14.7	13.4	13.0	12.4	3.9	15.3
要介護度別	要支援1～2(n=139)	51.8	23.0	28.1	26.6	20.1	18.0	10.8	9.4	8.6	7.2	2.9	15.8
	要介護1～2(n=246)	54.5	28.9	27.6	24.8	20.7	14.2	15.0	16.3	11.0	12.2	3.3	12.2
	要介護3～5(n=145)	48.3	44.1	21.4	22.1	15.9	16.6	14.5	13.8	13.8	13.1	4.1	15.2

問20 「問15で「2 利用していない」と回答した方に伺います。」

介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。〔あてはまるものすべてに○〕

全体 「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」が50.0%で最も多く、「本人にサービス利用の希望がない」(22.3%)、「家族が介護をするため必要ない」(14.5%)となっています。「その他」と回答した人のうち、施設に入所中または病院に入院中と記載のあった割合は、介護保険サービスを利用していない人の12.1%(42人)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」が5ポイント多くなっていますが、その他の項目は概ね同様の傾向です。



要介護度 要介護度が高くなるほど、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」の割合が少なくなっており、「要支援1～2」では67.6%である一方、「要介護3～5」では、11.8%となっています。また、「要介護3～5」では、「その他」が43.4%で最も多くなっていますが、その中で、施設に入所中または病院に入院中と記載のあった割合は、「要介護3～5」の36.8%（28人）となっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

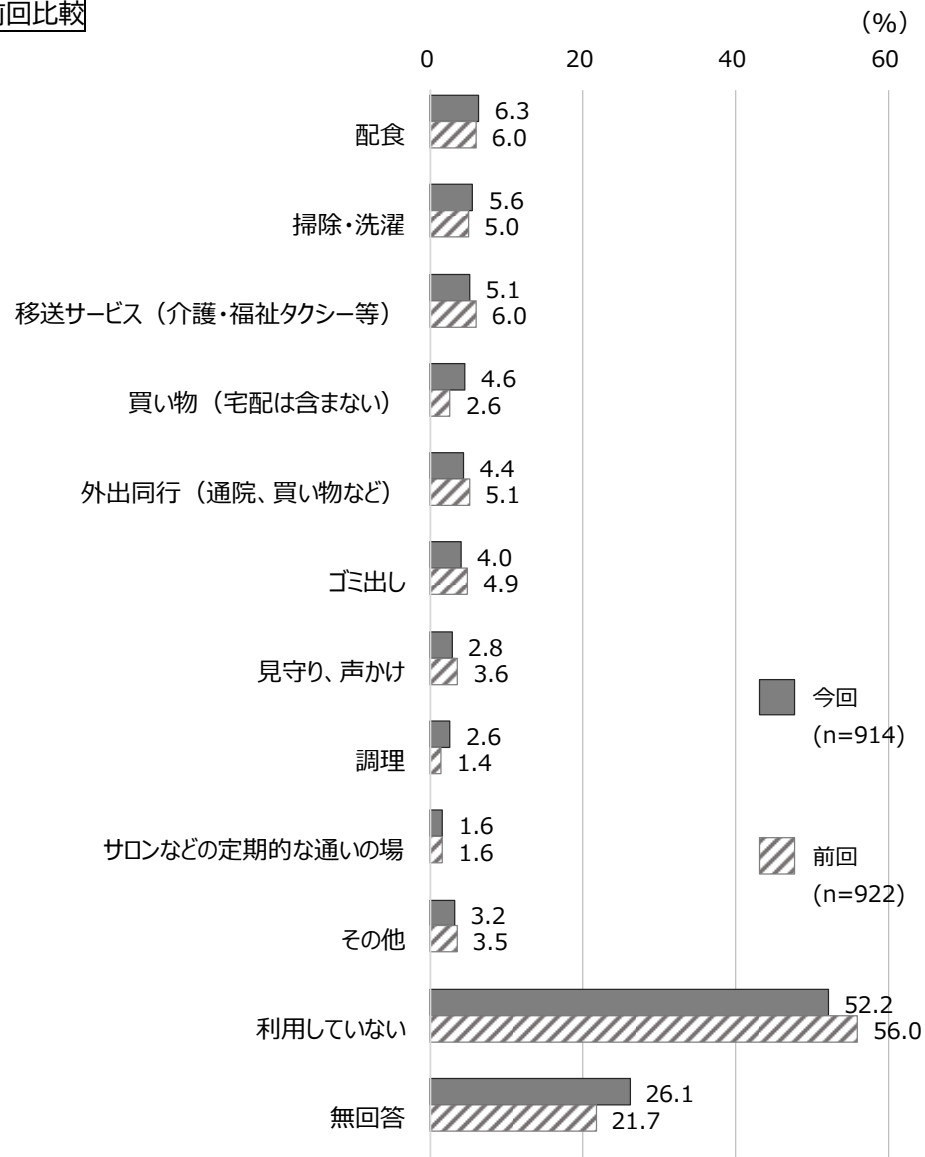
											(%)
		現状では、サービスを利用 するほどの状態ではない	本人にサービス利用の 希望がない	家族が介護をするため 必要ない	住宅改修、福祉用具貸与・ 購入のみを利用するため	サービスを受けたいが 手続きや利用方法が わからない	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスがい 利用できない、身近にない	以前、利用していたサービ スに不満があった	その他	無 回 答
全体(n=346)		50.0	22.3	14.5	9.8	5.8	4.0	3.8	2.6	19.1	8.4
活日圏常域生	日勝圏域(n=155)	51.0	24.5	12.9	11.0	6.5	3.9	3.2	3.9	21.9	9.0
	篠津・大山圏域(n=177)	51.4	21.5	16.4	9.0	5.6	4.5	4.0	1.7	14.1	7.3
要介護度別	要支援1～2(n=139)	67.6	18.0	11.5	11.5	7.2	3.6	1.4	1.4	9.4	5.8
	要介護1～2(n=98)	49.0	31.6	21.4	13.3	1.0	3.1	6.1	4.1	15.3	9.2
	要介護3～5(n=76)	11.8	17.1	13.2	6.6	6.6	6.6	3.9	3.9	43.4	14.5

問21 現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスは何ですか。〔あてはまるものすべてに○〕

全体 「配食」が6.3%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」(5.6%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(5.1%)となっています。一方で、「利用していない」が52.2%と半数を超えています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

全体・前回比較



年齢 すべての年代において、「利用していない」が最も多くなっていますが、第2位の項目は各年代で異なり、74歳以下では「外出同行（通院、買い物など）」（6.9%）、75～84歳では「掃除・洗濯」（8.0%）、85歳以上では「配食」（5.6%）となっています。

世帯類型 すべての世帯類型で、「利用していない」が最も多くなっていますが、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」が4割台である一方、「その他」は6割を超えています。また、「単身世帯」は、「配食」が13.2%で1割を上回り、他の世帯類型よりも多くなっています。

日常生活圏域 日勝圏域と篠津・大山圏域の両圏域とも、「利用していない」が最も多くなっていますが、第2位の項目は異なり、日勝圏域では「買い物（宅配は含まない）」（5.9%）、篠津・大山圏域では「配食」（6.9%）となっています。

要介護度 すべての要介護度で、「利用していない」が最も多くなっていますが、第2位の項目は、「要支援1～2」と「要介護1～2」では「配食」、「要介護3～5」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（8.8%）となっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

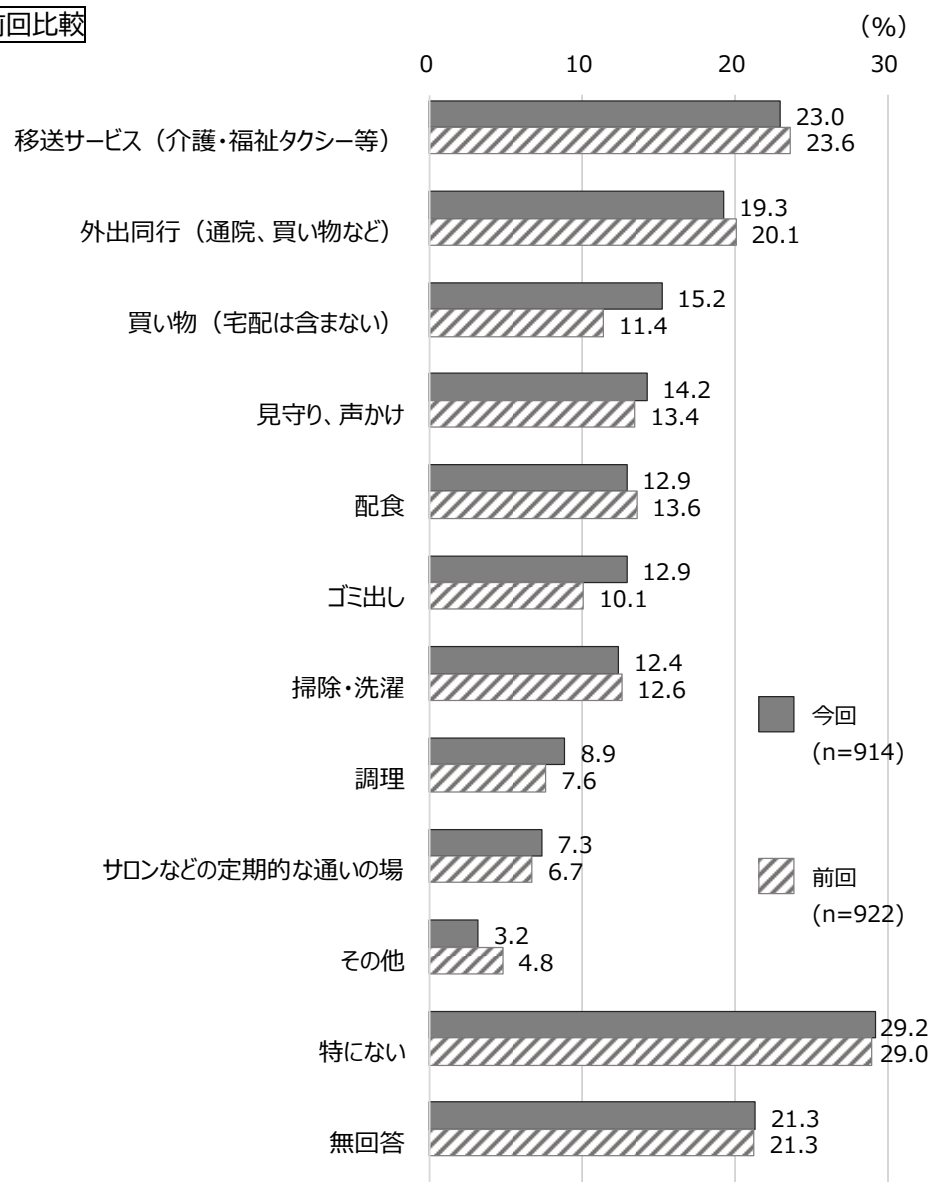
		配食	掃除・洗濯	（介護・福祉サービス等） 移送サービス等	買い物（宅配は含まない）	（通院、買い物など） 外出同行	ゴミ出し	見守り、声かけ	調理	定期的な通いの場 サロンなどの場	その他	利用していない	無回答
全体(n=914)		6.3	5.6	5.1	4.6	4.4	4.0	2.8	2.6	1.6	3.2	52.2	26.1
性別	男性(n=343)	6.1	5.0	5.0	4.4	5.0	3.5	2.0	3.2	1.2	2.6	51.0	29.2
	女性(n=559)	6.4	6.1	5.4	4.8	4.1	4.5	3.4	2.3	2.0	3.6	53.0	24.0
年齢別	74歳以下(n=101)	5.0	3.0	5.9	5.9	6.9	3.0	3.0	3.0	0.0	5.0	55.4	23.8
	75～84歳(n=374)	7.2	8.0	6.1	4.0	4.5	5.1	3.2	3.5	2.7	3.7	47.9	25.7
	85歳以上(n=430)	5.6	4.2	4.2	4.9	3.7	3.5	2.6	1.9	1.2	2.3	55.8	26.5
世帯類型別	単身世帯(n=220)	13.2	10.0	5.9	8.2	6.4	8.6	4.1	3.6	2.3	6.8	41.8	20.5
	夫婦のみ世帯(n=275)	3.6	6.2	7.3	5.1	4.0	4.0	3.6	3.6	1.5	1.8	48.0	33.5
	その他(n=389)	4.6	2.6	3.3	2.6	3.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.3	62.5	22.9
日常生活圏域別	日勝圏域(n=389)	5.4	5.4	5.4	5.9	5.4	3.9	2.3	2.6	2.3	3.1	51.7	24.7
	篠津・大山圏域(n=491)	6.9	5.5	5.1	3.3	3.5	4.1	3.5	2.9	1.2	3.3	53.2	26.3
要介護度別	要支援1～2(n=284)	6.7	6.3	6.0	5.3	4.9	2.8	2.5	2.1	2.5	2.8	46.8	27.1
	要介護1～2(n=347)	6.6	4.6	2.9	3.2	4.3	4.3	3.2	1.4	0.9	4.0	55.0	24.2
	要介護3～5(n=226)	5.3	4.9	8.8	5.3	3.5	4.9	3.1	4.0	2.2	2.7	58.0	23.9

問22 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じるサービスを含む）は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

全体 「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.0%で最も多く、「外出同行（通院、買い物など）」（19.3%）、「買い物（宅配は含まない）」（15.2%）となっています。また、「特にない」が29.2%となっています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

全体・前回比較



年齢 すべての年代において、「特にない」が最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっていますが、第3位の項目は85歳以上で「見守り・声かけ」（17.0%）となっており、他の年代よりも多くなっています。

世帯類型 「夫婦のみ世帯」と「その他」では、第1位から第3位までの順位が「全体」と同じ傾向となっている一方、「単身世帯」では、「外出同行（通院、買い物など）」が29.1%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（24.1%）、「特にない」（22.7%）となっています。

要介護度 すべての要介護度で、第1位から第3位までの順位は「全体」と同じ傾向となっています。一方で、「ゴミ出し」の項目は、「要支援1～2」が、「要介護1～2」と「要介護3～5」より5ポイント以上多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

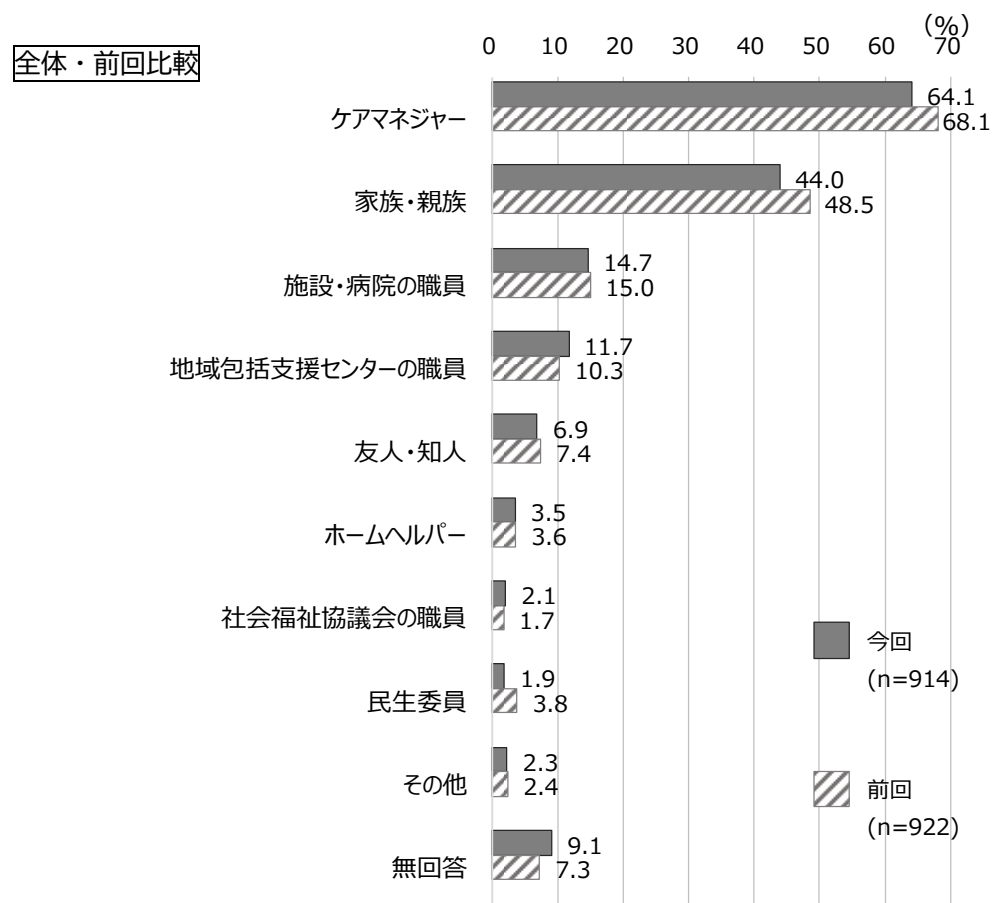
		(介護・福祉サービス等)	(通院、外出同行、買い物など)	買い物（宅配は含まない）	見守り、声かけ	配食	ゴミ出し	掃除・洗濯	調理	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特にない	無回答
		(%)											
全体(n=914)		23.0	19.3	15.2	14.2	12.9	12.9	12.4	8.9	7.3	3.2	29.2	21.3
性別	男性(n=343)	22.7	17.2	14.6	13.4	12.5	11.7	11.4	9.9	8.7	2.3	29.2	23.0
	女性(n=559)	23.4	20.8	15.7	15.0	13.2	13.8	13.1	8.4	6.6	3.8	29.3	19.9
年齢別	74歳以下(n=101)	21.8	21.8	9.9	9.9	8.9	7.9	6.9	5.0	5.9	1.0	39.6	20.8
	75～84歳(n=374)	23.0	22.5	16.6	12.6	13.1	15.5	15.8	11.5	7.8	3.5	25.1	22.7
	85歳以上(n=430)	23.5	16.3	15.3	17.0	13.7	12.1	10.9	7.7	7.4	3.5	30.7	19.3
世帯類型別	単身世帯(n=220)	24.1	29.1	22.3	21.4	17.7	21.8	17.7	10.0	7.3	2.3	22.7	17.3
	夫婦のみ世帯(n=275)	23.6	18.5	16.4	13.8	13.1	14.5	14.5	12.7	6.2	4.0	27.3	25.5
	その他(n=389)	23.1	14.9	11.3	11.1	10.8	7.5	8.7	5.9	8.5	3.1	35.5	18.5
日常生 活圏域別	日勝圏域(n=389)	23.1	19.8	16.7	14.4	11.6	12.3	12.3	7.7	8.2	3.3	27.5	22.1
	篠津・大山圏域(n=491)	23.6	18.7	14.1	14.5	13.4	13.0	12.0	9.6	6.7	2.9	30.8	19.6
要介護度別	要支援1～2(n=284)	26.4	19.0	17.6	13.7	12.0	16.9	13.4	8.1	7.7	2.1	27.5	22.9
	要介護1～2(n=347)	21.9	20.2	14.7	15.0	12.1	10.7	11.8	8.6	7.2	2.3	32.6	17.9
	要介護3～5(n=226)	24.3	19.9	13.7	14.6	15.0	11.9	11.9	11.1	8.0	5.8	28.3	20.4

5. 高齢者福祉や介護保険等について

問23 福祉や介護に関して、誰に相談していますか。[〇は3つまで]

全体「ケアマネジャー」が64.1%で最も多く、「家族・親族」(44.0%)、「施設・病院の職員」(14.7%)となっています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。



属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

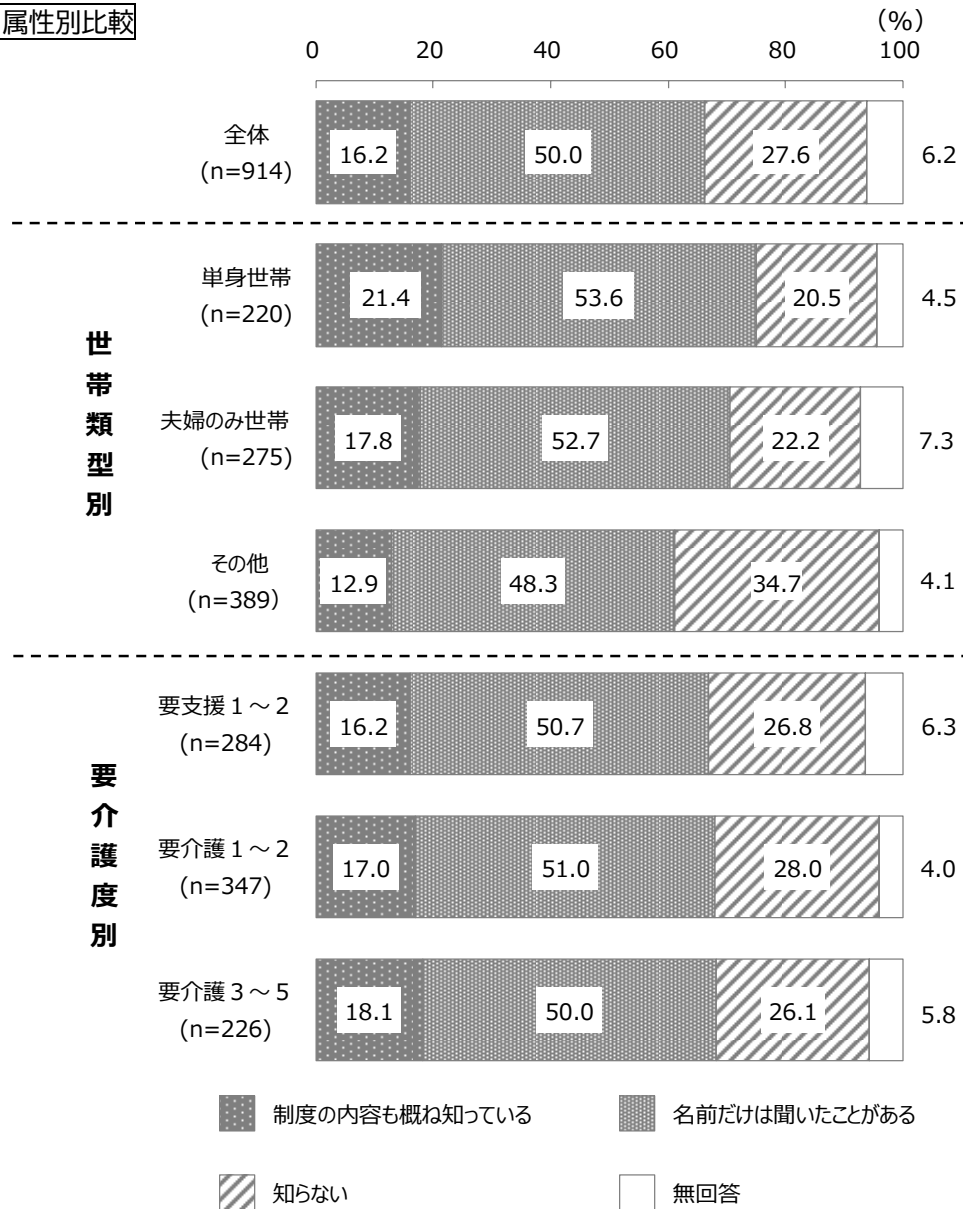
		ケアマネジャー	家族・親族	施設・病院の職員	地域包括支援センターの職員	友人・知人	ホームヘルパー	社会福祉協議会の職員	民生委員	その他	無回答
全体(n=914)		64.1	44.0	14.7	11.7	6.9	3.5	2.1	1.9	2.3	9.1
圏域別	日勝圏域(n=389)	63.2	43.2	13.6	12.1	8.2	3.1	3.3	1.0	3.1	10.0
	篠津・大山圏域(n=491)	65.4	46.2	14.1	11.6	6.1	3.7	1.2	2.4	1.6	7.5

問24 あなたは、成年後見制度（判断力が低下した方への法的な支援制度）を知っていますか。[1つに○]

全体 「名前だけは聞いたことがある」が50.0%で最も多く、「知らない」(27.6%)、「制度の内容も概ね知っている」(16.2%)となっています。

世帯類型 「単身世帯」は、「制度の内容も概ね知っている」の割合が21.4%で最も多く、「その他」より8.5ポイント多くなっています。また、「単身世帯」は、「知らない」の割合が2割前半である一方、「その他」は3割半ばとなっています。

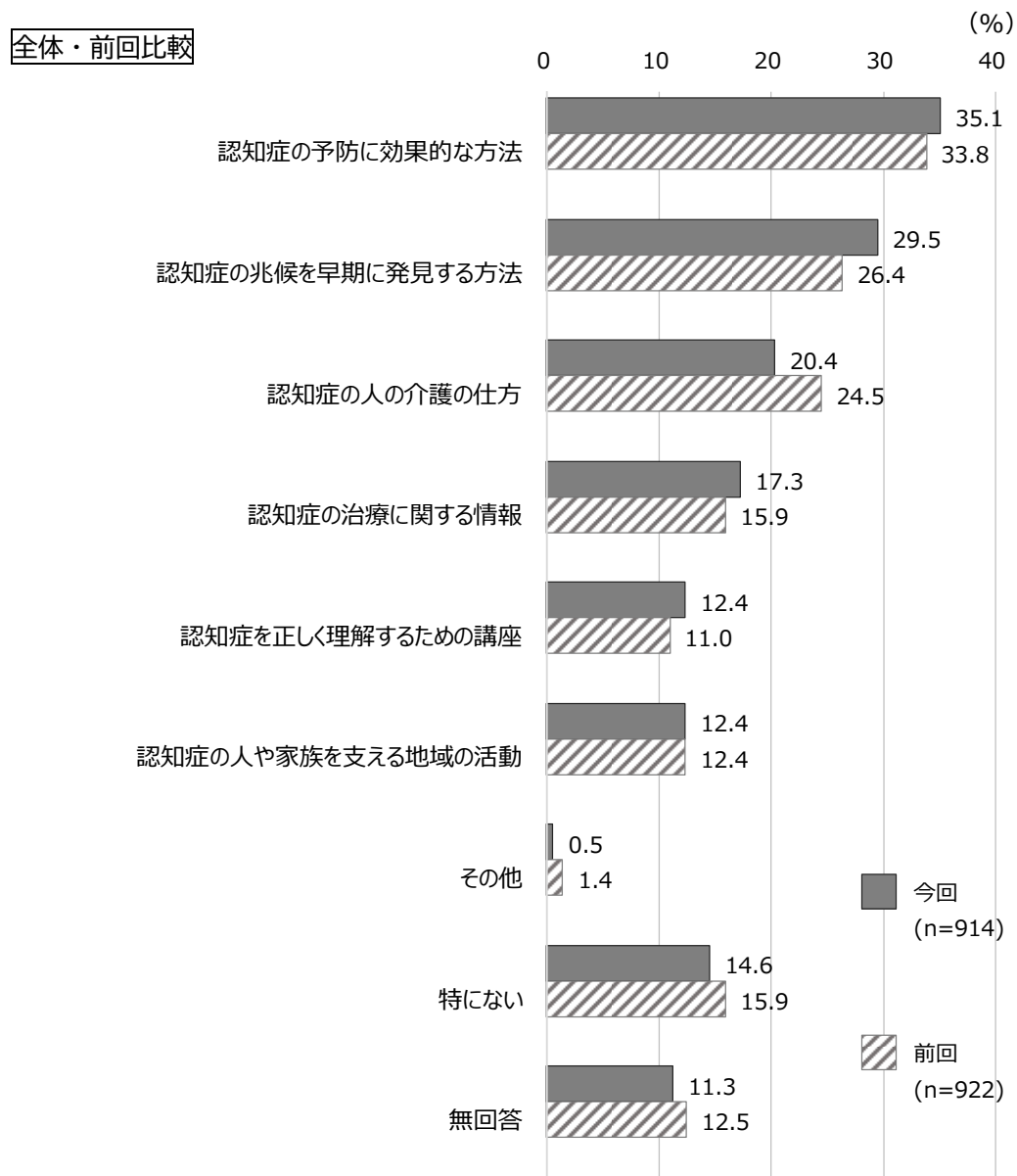
全体・属性別比較



問25 認知症についてどんなことに関心がありますか。[〇は2つまで]

全体 「認知症の予防に効果的な方法」が 35.1%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(29.5%)、「認知症の人の介護の仕方」(20.4%)となっています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。



世帯類型 いずれの世帯類型においても、認知症に関する関心事の第1位と第2位は、「全体」の傾向と同様、「認知症の予防に効果的な方法」が最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」となっていますが、「認知症の人の介護の仕方」と「認知症の人や家族を支える地域の活動」の割合は、「その他」が「単身世帯」よりも5ポイント以上多くなっています。一方で、「認知症を正しく理解するための講座」の割合は、「単身世帯」が「その他」よりも5ポイント以上多くなっています。

要介護度 いずれの要介護度においても、認知症に関する関心事の第1位と第2位は、「全体」の傾向と同様ですが、第1位と第2位の割合は、「要支援1～2」が「要介護1～2」と「要介護3～5」よりも5ポイント以上多くなっています。一方で、「認知症の人や家族を支える地域の活動」の割合は、「要支援1～2」が「要介護1～2」と「要介護3～5」よりも5ポイント以上少なくなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

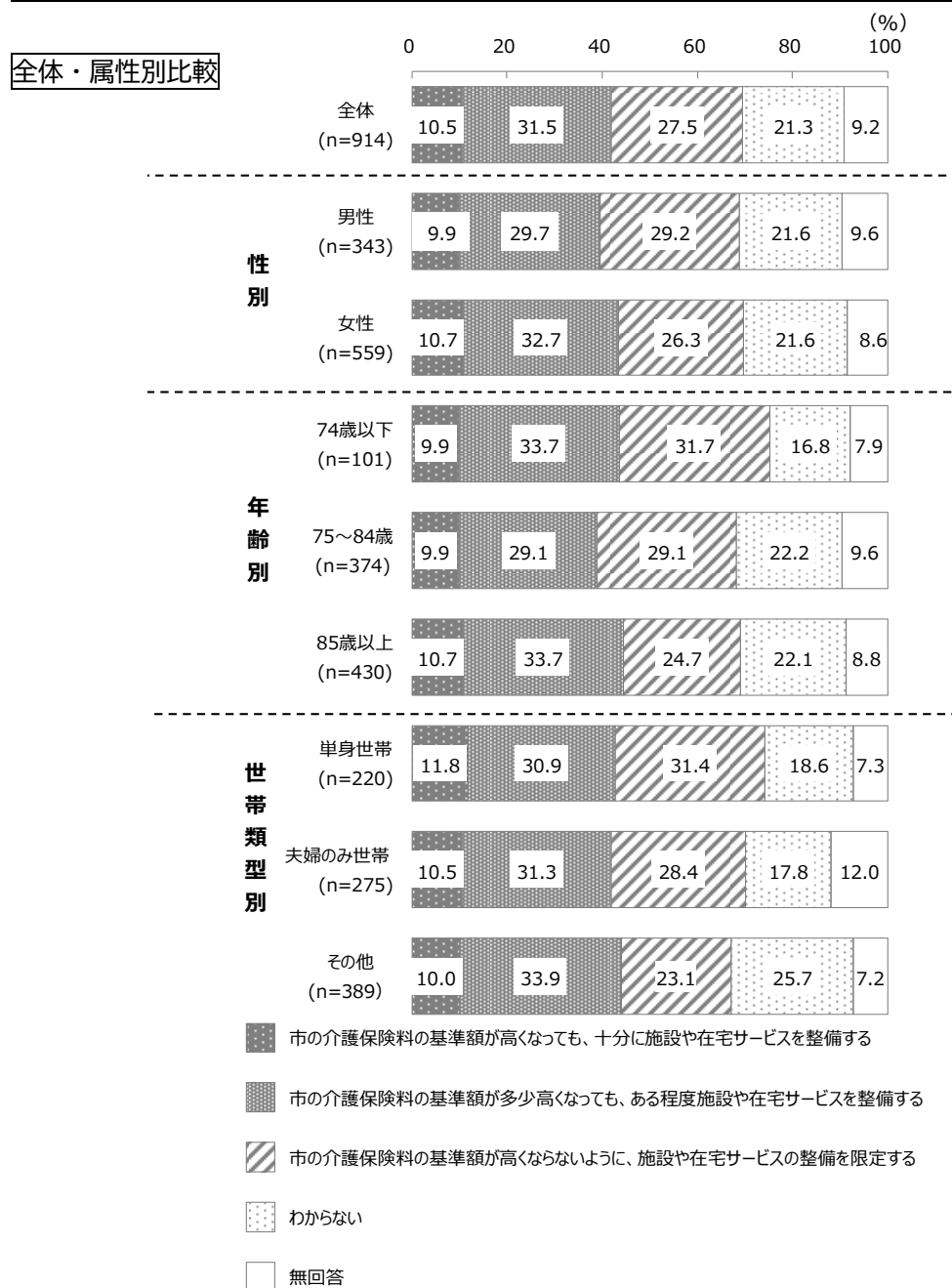
		(%)								
		認知症の予防に効果的な方法	認知症の兆候を早期に発見する方法	認知症の人の介護の仕方	認知症の治療に関する情報	認知症を正しく理解するための講座	認知症の人や家族を支える地域の活動	その他	特にない	無回答
全体(n=914)		35.1	29.5	20.4	17.3	12.4	12.4	0.5	14.6	11.3
世帯類型別	単身世帯(n=220)	37.7	33.6	15.0	17.7	16.8	9.1	0.9	13.6	7.7
	夫婦のみ世帯(n=275)	34.9	26.9	21.5	16.7	13.1	10.9	0.4	15.6	13.8
	その他(n=389)	35.2	28.8	23.1	17.7	10.0	14.9	0.5	14.7	9.8
要介護度別	要支援 1～2 (n=284)	41.2	35.2	14.8	15.5	13.0	8.1	0.0	13.4	12.3
	要介護 1～2 (n=347)	32.6	28.0	22.8	18.7	11.5	15.9	0.0	16.1	8.9
	要介護 3～5 (n=226)	34.5	26.1	25.2	19.0	11.1	14.2	1.8	12.8	10.2

問26 介護保険制度では、保険料と介護保険サービスの利用については関連がありますが、あなたの考えに最も近いのはどれですか。〔1つに○〕

全体 「市の介護保険料の基準額が多少高くなっても、ある程度施設や在宅サービスを整備する」が31.5%で最も多く、次いで「市の介護保険料の基準額が高くないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」(27.5%)、「わからない」(21.3%)となっています。

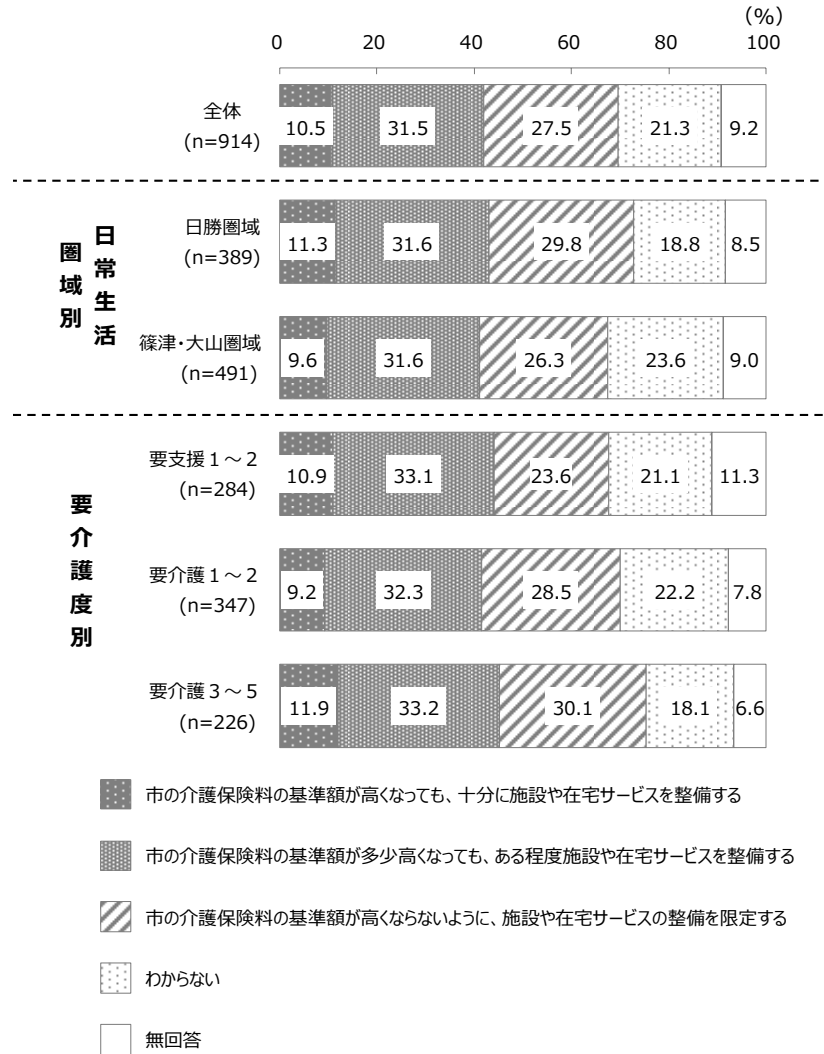
年齢 年代が低いほど、「市の介護保険料の基準額が高くないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」の割合が多くなっており、74歳以下では3割を上回っています。

世帯類型 「単身世帯」は、「夫婦のみ世帯」(28.4%)や「その他」(23.1%)と比較して「市の介護保険料の基準額が高くないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」の割合が多くなっており、3割を上回っています。



要介護度 要介護度が高いほど、「市の介護保険料の基準額が高くならないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」の割合が多くなっており、「要介護3～5」では、3割を上回っています。

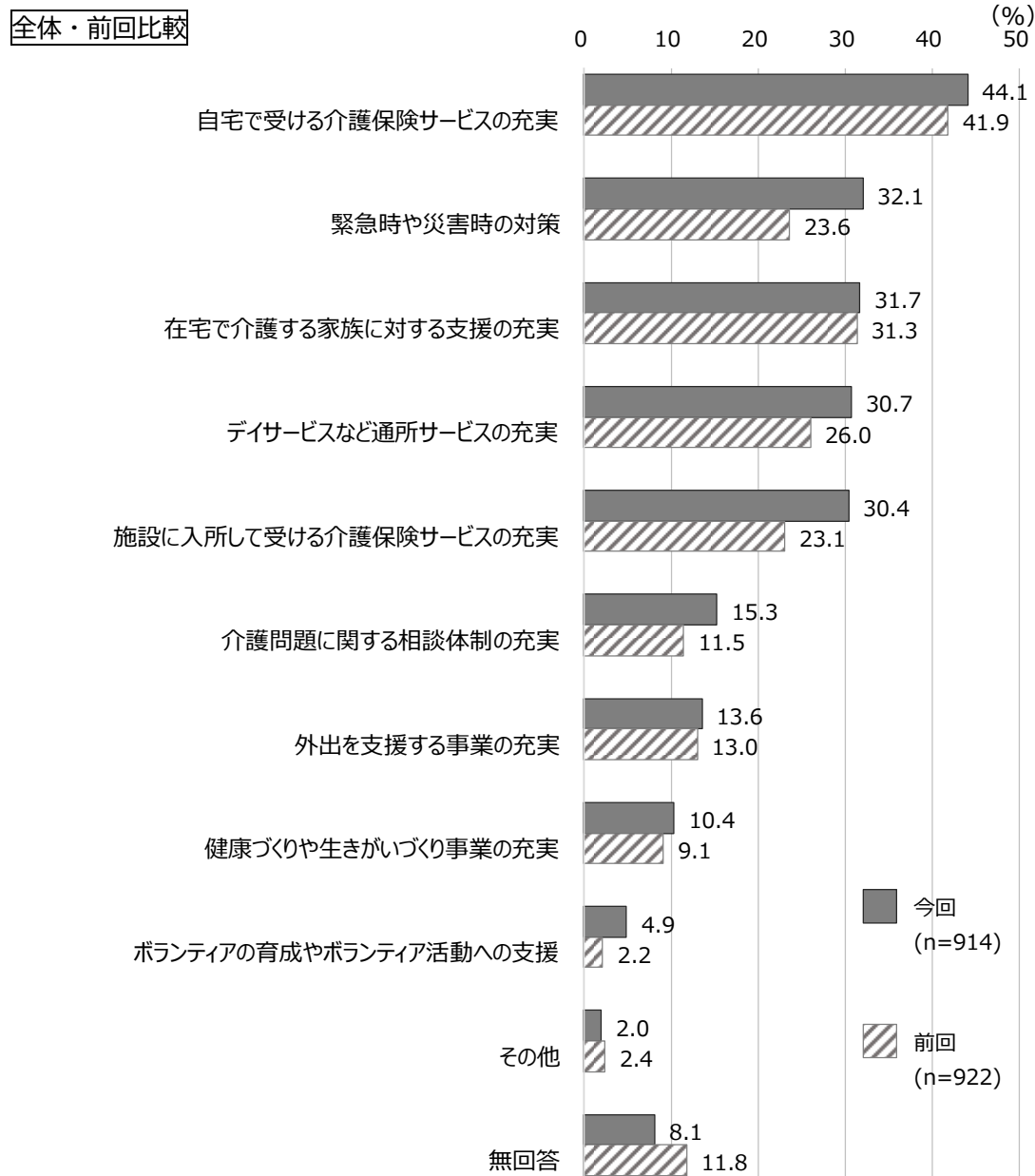
属性別比較



問27 高齢者への対応として、今後、行政にどのようなことを期待しますか。[〇は3つまで]

全体 「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が 44.1%で最も多く、次いで「緊急時や災害時の対策」(32.1%)、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(31.7%)となっています。

前回比較 前回調査では、今回調査の選択肢に加え、「病院や診療所などの医療機関の充実」、「防犯対策の充実」、「高齢者向け住宅の整備」、「老人クラブの活発化」の選択肢が含まれていたため、単純な比較はできませんが、そのことを前提に比較すると、「緊急時や災害時の対策」が 8.5 ポイント、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が 7.3 ポイント多くなっています。



注1：前回調査では、今回調査の選択肢に加え、「病院や診療所などの医療機関の充実」、「防犯対策の充実」、「高齢者向け住宅の整備」、「老人クラブの活発化」の選択肢が含まれていた。

世帯類型 すべての世帯類型で、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が4割を超え最も多くなっていますが、「単身世帯」の第2位は「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」(38.2%)、「夫婦のみ世帯」(34.5%)と「その他」(36.5%)の第2位は「在宅で介護する家族に対する支援の充実」となっています。

日常生活圏域 日勝圏域と篠津・大山圏域の両圏域とも、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が4割を超え最も多くなっていますが、日勝圏域の第2位は「デイサービスなど通所サービスの充実」(32.9%)、篠津・大山圏域の第2位は「緊急時や災害時の対策」と「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(33.0%)となっています。

要介護度 すべての要介護度において、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が4割を超えて最も多くなっていますが、第2位は要介護度によって異なります。「要支援1～2」は「緊急時や災害時の対策」(34.5%)、「要介護1～2」は「デイサービスなど通所サービスの充実」(37.5%)、「要介護3～5」は「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(38.1%)となっています。また、「要介護3～5」では、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」の割合が「要支援1～2」と「要介護1～2」と比較して5ポイント以上多くなっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		介護保険サービスを受ける 自宅での充実	緊急時や災害時の対策	家族 在宅で介護する 家族に対する支援の充実	通所サービスなど デイサービスなど	施設に入所して受ける 介護保険サービスの充実	介護問題に関する 相談体制の充実	外出を支援する事業の充実	生きがいづくり事業の充実	ボランティア活動への支援	その他	無回答
全体(n=914)		44.1	32.1	31.7	30.7	30.4	15.3	13.6	10.4	4.9	2.0	8.1
世帯 類型 別	単身世帯(n=220)	42.3	35.5	20.9	25.0	38.2	15.0	16.8	14.5	5.0	3.2	5.9
	夫婦のみ世帯(n=275)	46.5	29.8	34.5	29.8	26.2	18.2	12.7	12.0	4.0	2.2	8.7
	その他(n=389)	43.7	32.9	36.5	33.9	30.1	13.9	12.1	7.7	5.9	1.3	7.5
日 常 生 活 圏 域 別	日勝圏域(n=389)	46.0	32.6	30.6	32.9	28.0	14.9	14.7	11.1	6.2	1.8	6.9
	篠津・大山圏域(n=491)	44.0	33.0	33.0	29.5	31.4	15.3	12.6	9.4	4.1	2.0	8.6
要 介 護 度 別	要支援1～2(n=284)	47.9	34.5	31.0	27.1	27.8	13.0	15.5	13.7	3.9	0.7	9.5
	要介護1～2(n=347)	41.8	35.2	28.8	37.5	29.7	14.4	13.5	11.8	4.6	3.2	5.8
	要介護3～5(n=226)	43.8	27.9	38.1	25.2	36.3	19.9	12.4	5.8	5.3	1.8	8.0

●問 28 以降は、「主な介護者」の方にご回答をお願いしました。

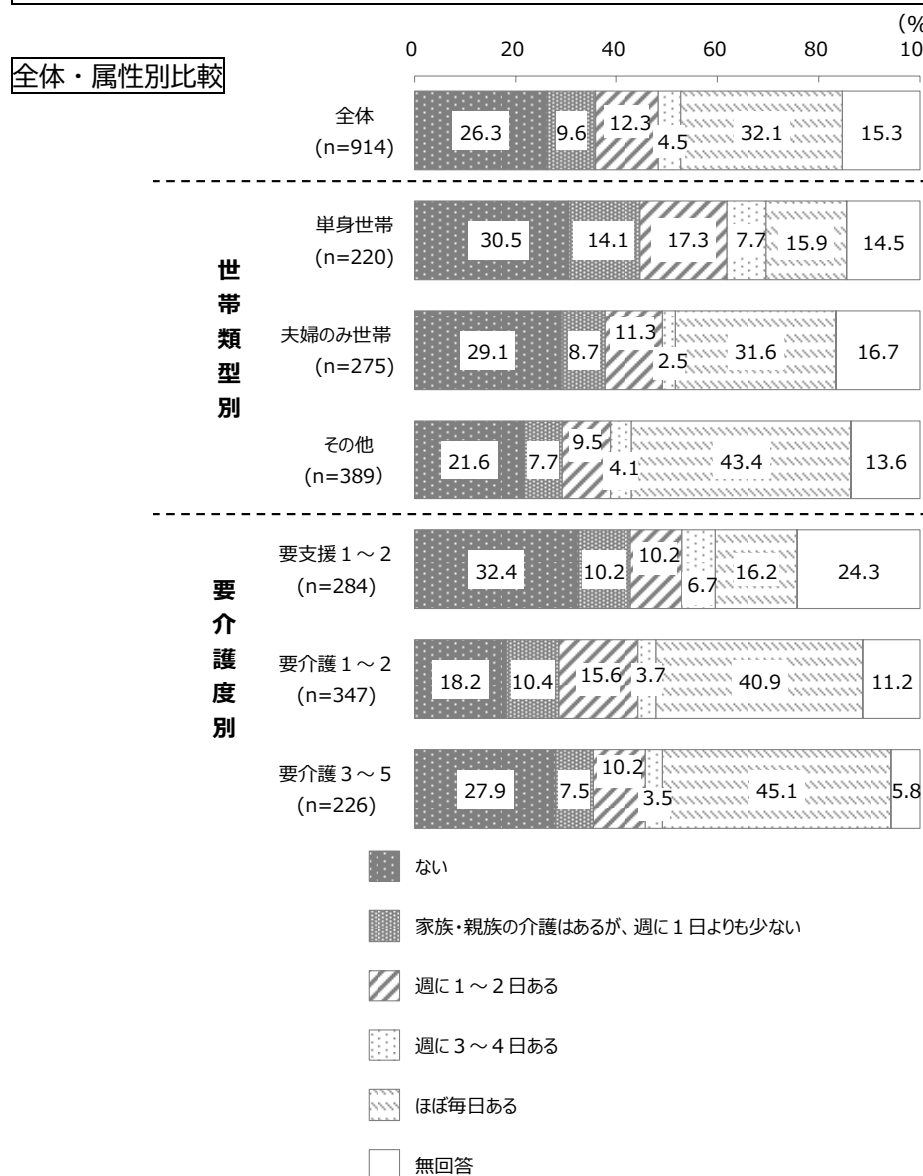
6. 介護者の状況について

問28 家族や親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。
(同居していない子どもや親族等からの介護を含む) [1つに○]

全体 「ほぼ毎日ある」が 32.1%で最も多く、次いで「ない」(26.3%)、「週に1～2日ある」(12.3%)となっています。「週に1～2日ある」、「週に3～4日ある」、「ほぼ毎日ある」を合わせた週に1日以上ある割合は、48.9%で約半数となっています。

世帯類型 家族や親族からの介護が週に1日以上ある割合は、「その他」が 57.0%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」(45.4%)、「単身世帯」(40.9%)となっています。また、「単身世帯」は、「ない」と「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」を合わせた割合が 44.6%で、週に1日以上ある割合よりも多くなっています。

要介護度 家族や親族からの介護が週に1日以上ある割合は、「要介護1～2」が 60.2%で最も多く、次いで「要介護3～5」(58.8%)、「要支援1～2」(33.1%)となっています。



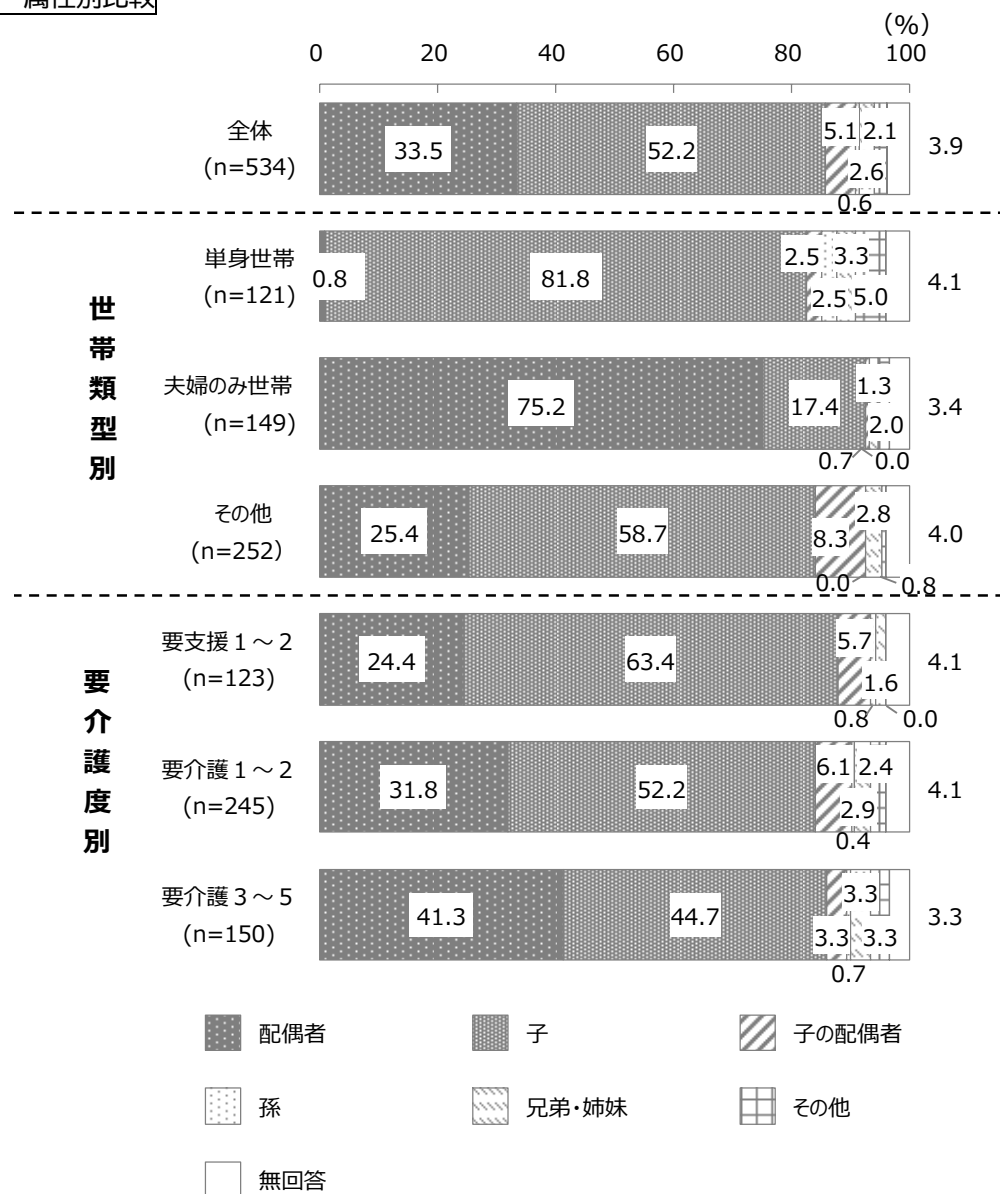
問29 主な介護者の方は、どなたですか。[1つに○]

全体 「子」が52.2%で最も多く、次いで「配偶者」(33.5%)、「子の配偶者」(5.1%)となっています。

世帯類型 「単身世帯」では、「子」の割合が81.8%で大半を占めている一方、「夫婦のみ世帯」では、「配偶者」の割合が75.2%と最も多く、「子」の割合は17.4%となっています。「その他」では、「子」の割合が58.7%で最も多く、次いで「配偶者」(25.4%)となっています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「配偶者」の割合が増え、「子」の割合が減っており、「要介護3～5」では、「配偶者」と「子」の割合が4割台で概ね同程度になっています。

全体・属性別比較



問30 主な介護者の方の年齢は何歳ですか。〔1つに〇〕

全体 「50代」が28.5%と最も多く、次いで「60代」(26.4%)、「70代」と「80代」が18.5%となっています。

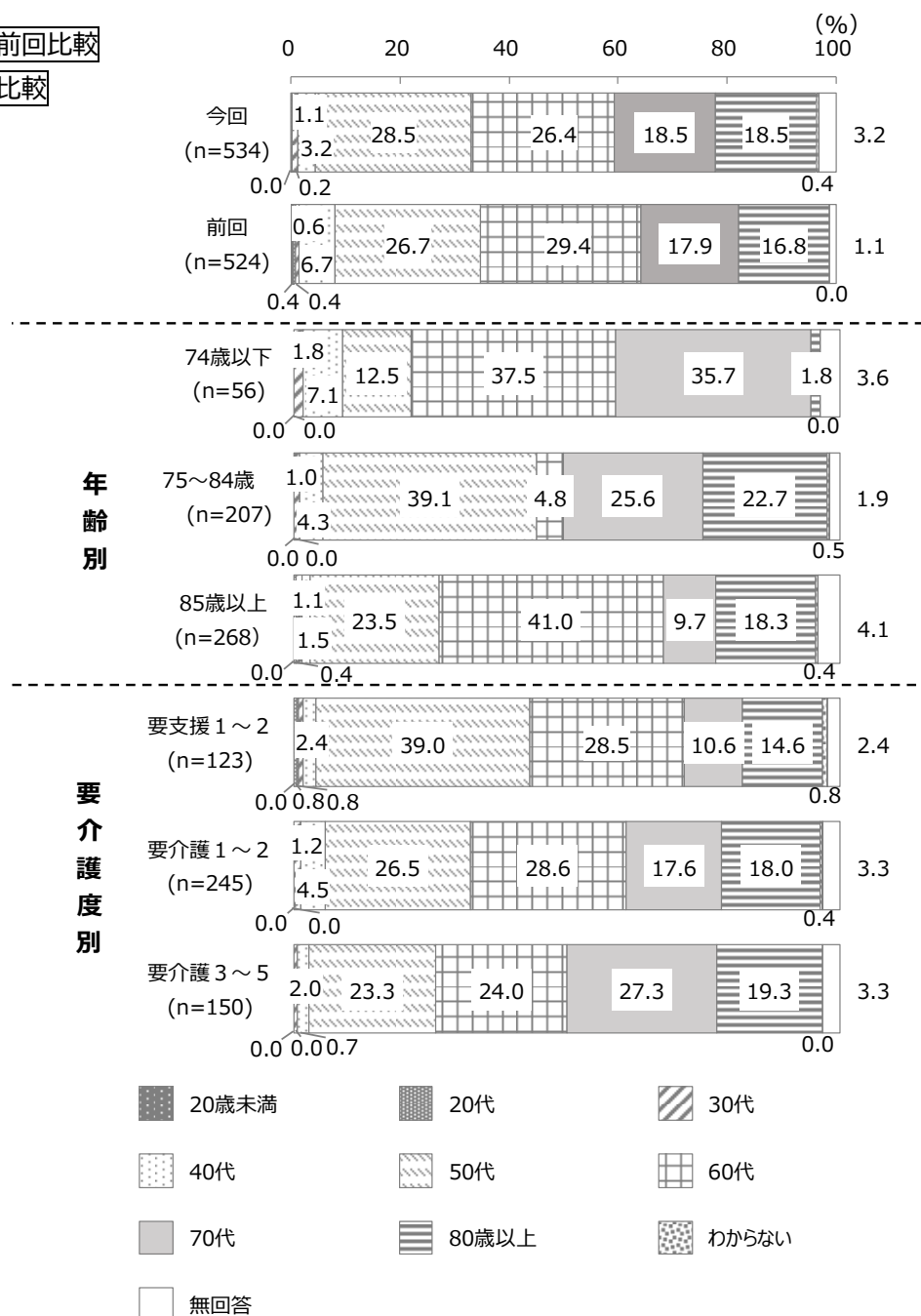
前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

年齢 「75～84歳」では、60代以上の介護者の割合が53.1%で約半数ですが、「74歳以下」では75.0%、「85歳以上」では、69.0%と高齢の介護者の割合が多くなっています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「50代」の割合が減り、「70代」の割合が増えています。「要介護3～5」では、60代以上の介護者の割合が7割を超えています。

全体・前回比較

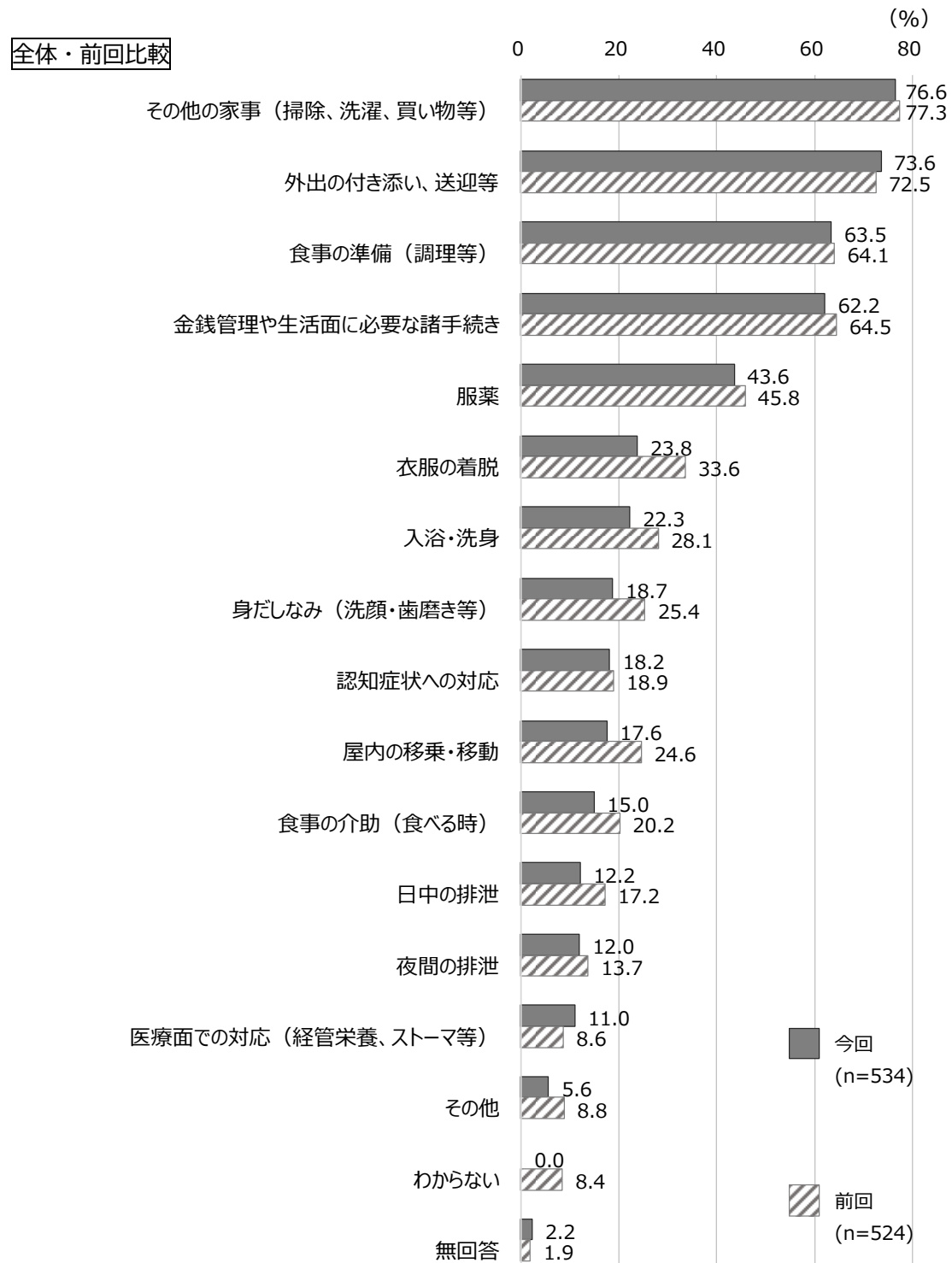
属性別比較



問31 現在、主な介護者の方が行ってる介護等はどれですか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が76.6%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」（73.6%）、「食事の準備（調理等）」（63.5%）となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、上位5位は概ね同様の傾向ですが、第6位以降の項目で、5ポイント以上少なくなっている項目が5つありました。「衣服の着脱」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「屋内の移乗・移動」、「日中の排泄」が該当する項目です。



要介護度 すべての要介護度において、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「外出の付き添い、送迎等」の割合が7割を超え多くなっています。「要介護3～5」では、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（74.0%）と「食事の準備（調理等）」（72.7%）も7割を超えています。また、「外出の付き添い、送迎等」と「認知症状への対応」を除き、他のすべての項目において、要介護度が高くなるほど、回答割合が多くなっており、「要支援1～2」と「要介護3～5」の間に20ポイント以上の差がある項目も10項目あります。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

(%)												
		(掃除、洗濯、買い物等) その他の家事	外出の付き添い、送迎等	食事の準備(調理等)	金銭管理や生活面に 必要な諸手続き	服薬	衣服の着脱	入浴・洗身	身だしなみ(洗顔・歯磨き 等)	認知症状への対応	屋内の移乗・移動	食事の介助(食べる時)
全体(n=534)		76.6	73.6	63.5	62.2	43.6	23.8	22.3	18.7	18.2	17.6	15.0
要介護 度別	要支援1～2(n=123)	72.4	75.6	48.0	48.8	26.0	9.8	8.9	4.9	12.2	5.7	6.5
	要介護1～2(n=245)	77.6	75.1	66.9	63.3	42.0	15.9	21.6	14.7	22.0	13.1	10.6
	要介護3～5(n=150)	80.7	71.3	72.7	74.0	63.3	50.0	36.7	37.3	17.3	36.7	30.0
(%)												
		日中の排泄	夜間の排泄	(経管栄養、ストーマ等) 医療面での対応	その他	わからない	無回答					
全体(n=534)		12.2	12.0	11.0	5.6	0.0	2.2					
要介護 度別	要支援1～2(n=123)	2.4	1.6	10.6	3.3	0.0	2.4					
	要介護1～2(n=245)	3.7	5.3	10.6	6.1	0.0	2.4					
	要介護3～5(n=150)	35.3	32.0	12.7	6.7	0.0	1.3					

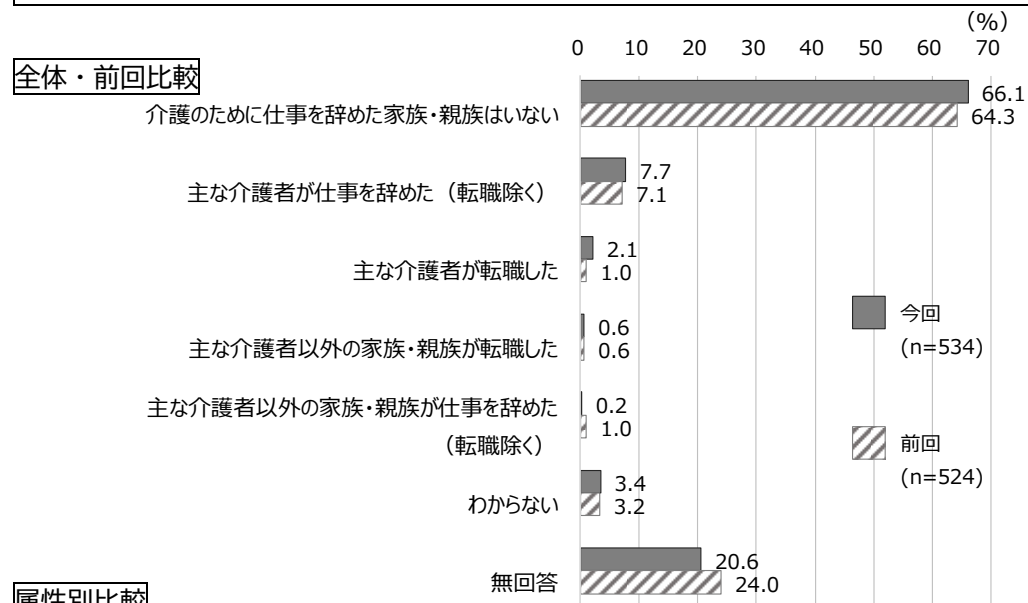
問32 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか。(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません) [あてはまるものすべてに○]

全体 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が66.1%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(7.7%)、「主な介護者が転職した」(2.1%)となっています。

前回調査 前回調査と概ね同様の傾向です。

世帯類型 「その他」は、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」の割合が1割を上回っており、「夫婦のみ世帯」(3.4%)よりも6.9ポイント多くなっています。

要介護度 すべての要介護度において、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も多くなっており、「要介護1～2」(70.2%)と「要介護3～5」(68.0%)は、「要支援1～2」(57.7%)よりも10ポイント以上回答割合が多くなっています。



属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		介護のために仕事を辞めた 家族・親族はいない	主な介護者が仕事を辞めた (転職除く)	主な介護者が転職した	家族・親族が転職した 主な介護者以外の	家族・親族が仕事を辞めた (転職除く)	わからない	無回答
全体(n=534)		66.1	7.7	2.1	0.6	0.2	3.4	20.6
世帯 類型 別	単身世帯(n=121)	63.6	8.3	4.1	0.8	0.8	3.3	19.0
	夫婦のみ世帯(n=149)	64.4	3.4	0.7	0.0	0.0	2.7	29.5
	その他(n=252)	68.3	10.3	2.0	0.8	0.0	3.6	15.9
要 介 護 度 別	要支援1～2(n=123)	57.7	8.9	4.1	0.0	0.0	2.4	27.6
	要介護1～2(n=245)	70.2	6.1	1.6	0.8	0.0	4.1	17.1
	要介護3～5(n=150)	68.0	8.7	1.3	0.7	0.7	2.0	19.3

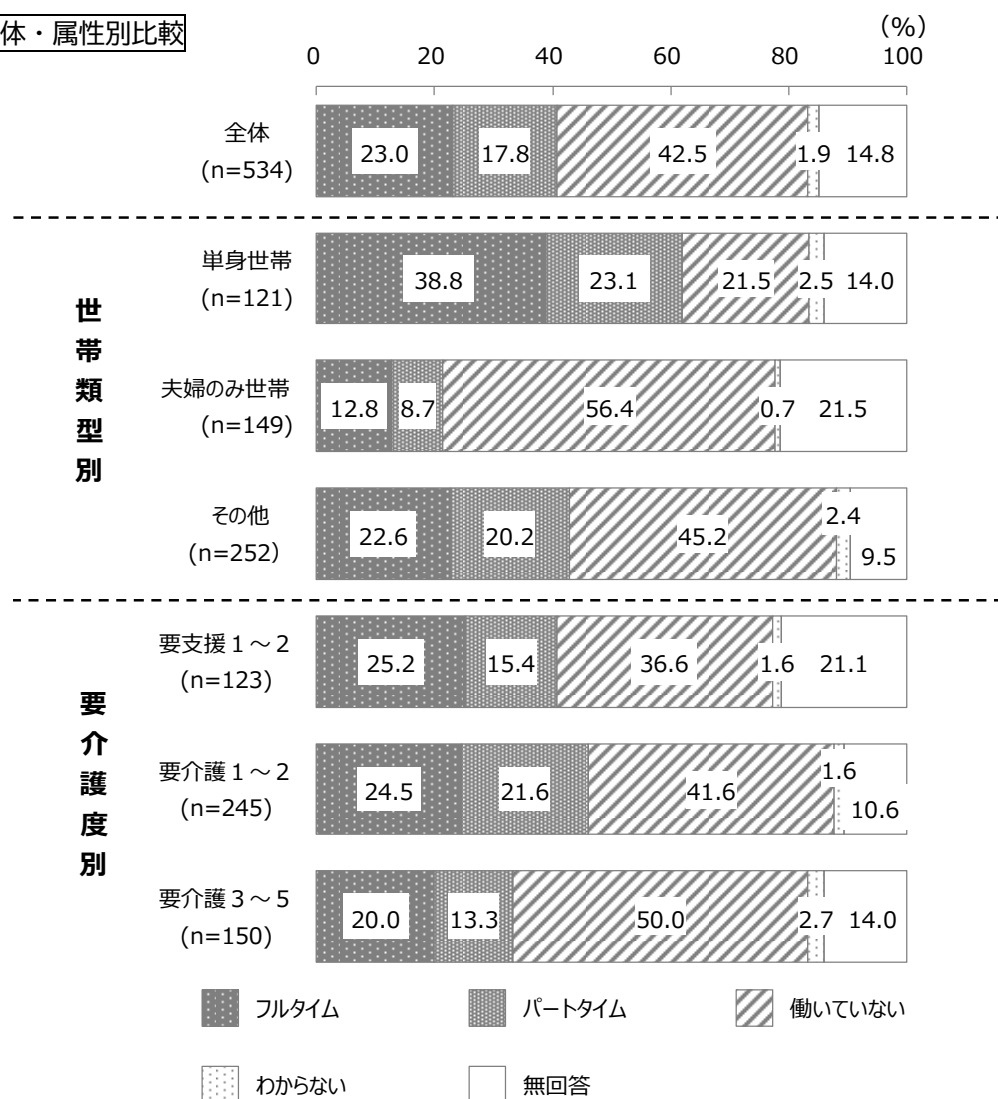
問33 主な介護者の方の現在の勤務形態はどれにあてはまりますか。[1つに○]

全体 「働いていない」が42.5%で最も多く、「フルタイム」(23.0%)、「パートタイム」(17.8%)となっています。また、「フルタイム」(23.0%)と「パートタイム」(17.8%)を合わせた、働いている割合は4割を超えています。

世帯類型 世帯類型によって主な介護者の方の現在の勤務形態は異なります。「単身世帯」では「フルタイム」が38.8%で最も多い一方、「夫婦のみ世帯」(56.4%)と「その他」(45.2%)では、「働いていない」が最も多くなっています。また、「その他」では、「フルタイム」(22.6%)と「パートタイム」(20.2%)を合わせた、働いている割合は4割を超えています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「働いていない」の割合が増えており、「要介護3～5」では、半数が働いていません。また、「フルタイム」と「パートタイム」を合わせた、働いている割合は、「要支援1～2」と「要介護1～2」では4割を超えていますが、「要介護3～5」では3割前半となっています。

全体・属性別比較

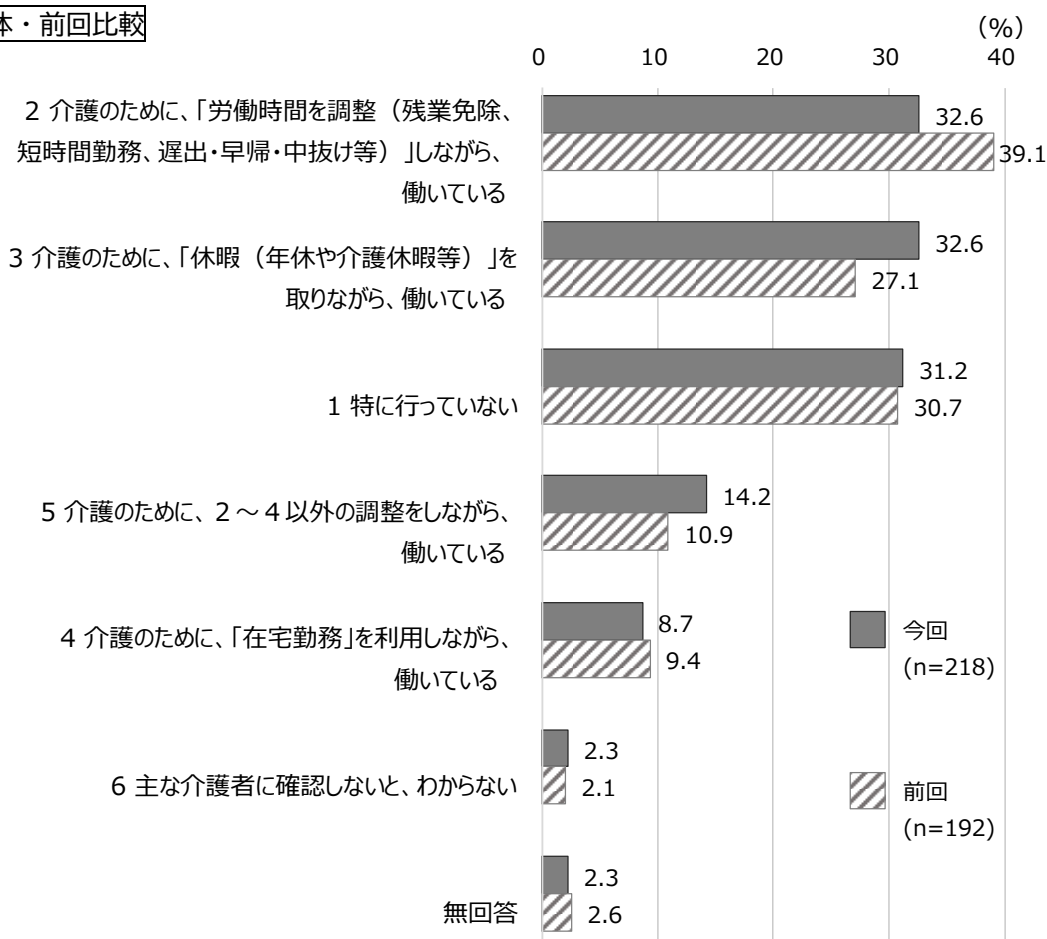


問34 「問33で「1 フルタイム」または「2 パートタイム」と回答した方に伺います。」
 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」と「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が32.6%で最も多く、次いで「特に行っていない」（31.2%）となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」の割合が6.5ポイント減った一方で、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」の割合は5.5ポイント増えています。

全体・前回比較



世帯類型 世帯類型によって、主な介護者の働き方の調整内容は異なります。「単身世帯」では「特に行っていない」が 36.0%で最も多く、「夫婦のみ世帯」では「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」（46.9%）、「その他」では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」（37.0%）が最も多くなっています。また、「夫婦のみ世帯」では、「介護のために、『在宅勤務』を利用しながら、働いている」の割合が1割半ばで「単身世帯」や「その他」と比較して、5ポイント以上多くなっています。さらに、「特に行っていない」の割合が約1割で、大半が何かしら働き方の調整を行っています。

要介護度 要介護度によって、主な介護者の働き方の調整内容は異なります。「要支援1～2」では「特に行っていない」が 42.0%で最も多く、「要介護1～2」では「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」（36.3%）、「要介護3～5」では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」（42.0%）が最も多くなっています。また、「特に行っていない」の割合が、「要介護1～2」と「要介護3～5」で3割未満であり、7割前後が何かしらの働き方の調整を行っています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

								(%)
		2 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」をしながら、働いている	3 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	5 介護のために、2と4以外の調整をしながら、働いている	1 特に行っていない	4 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	6 主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体(n=218)		32.6	32.6	14.2	31.2	8.7	2.3	2.3
世帯類型別	単身世帯(n=75)	21.3	26.7	18.7	36.0	8.0	2.7	4.0
	夫婦のみ世帯(n=32)	43.8	46.9	18.8	12.5	15.6	3.1	3.1
	その他(n=108)	37.0	33.3	10.2	32.4	7.4	1.9	0.9
要介護度別	要支援 1～2 (n=50)	22.0	22.0	10.0	42.0	8.0	4.0	8.0
	要介護 1～2 (n=113)	33.6	36.3	13.3	29.2	8.8	1.8	0.9
	要介護 3～5 (n=50)	42.0	34.0	22.0	24.0	10.0	2.0	0.0

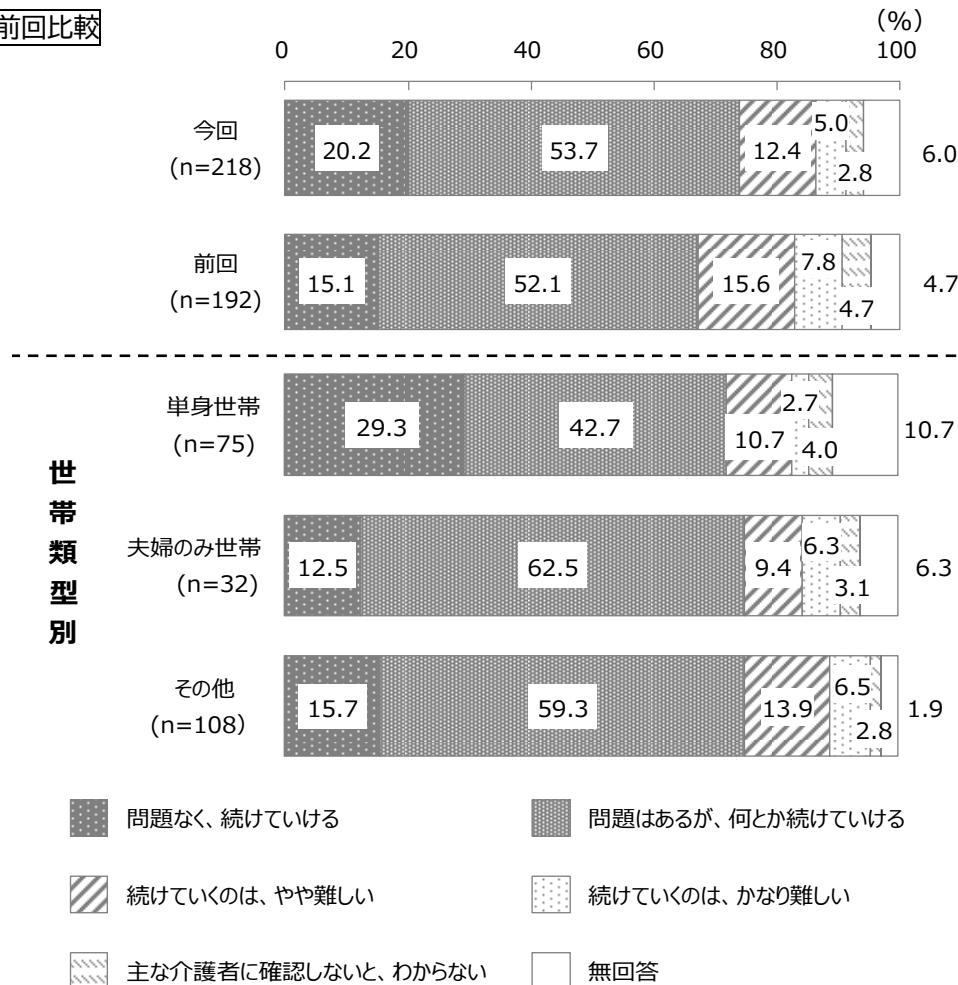
問35 「問33で「1 フルタイム」または「2 パートタイム」と回答した方に伺います。」
 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。[1つに○]

全体 「問題はあるが、何とか続けていける」が53.7%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」(20.2%)、「続けていくのは、やや難しい」(12.4%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「問題なく、続けていける」が5.1ポイント増え、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」割合は、6.0ポイント減っています。

世帯類型 すべての世帯類型で、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた「続けていける」の割合は7割を超えています。一方で、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」の割合は、すべての世帯類型で1割を超えており、特に「その他」では2割を超えています。

全体・前回比較

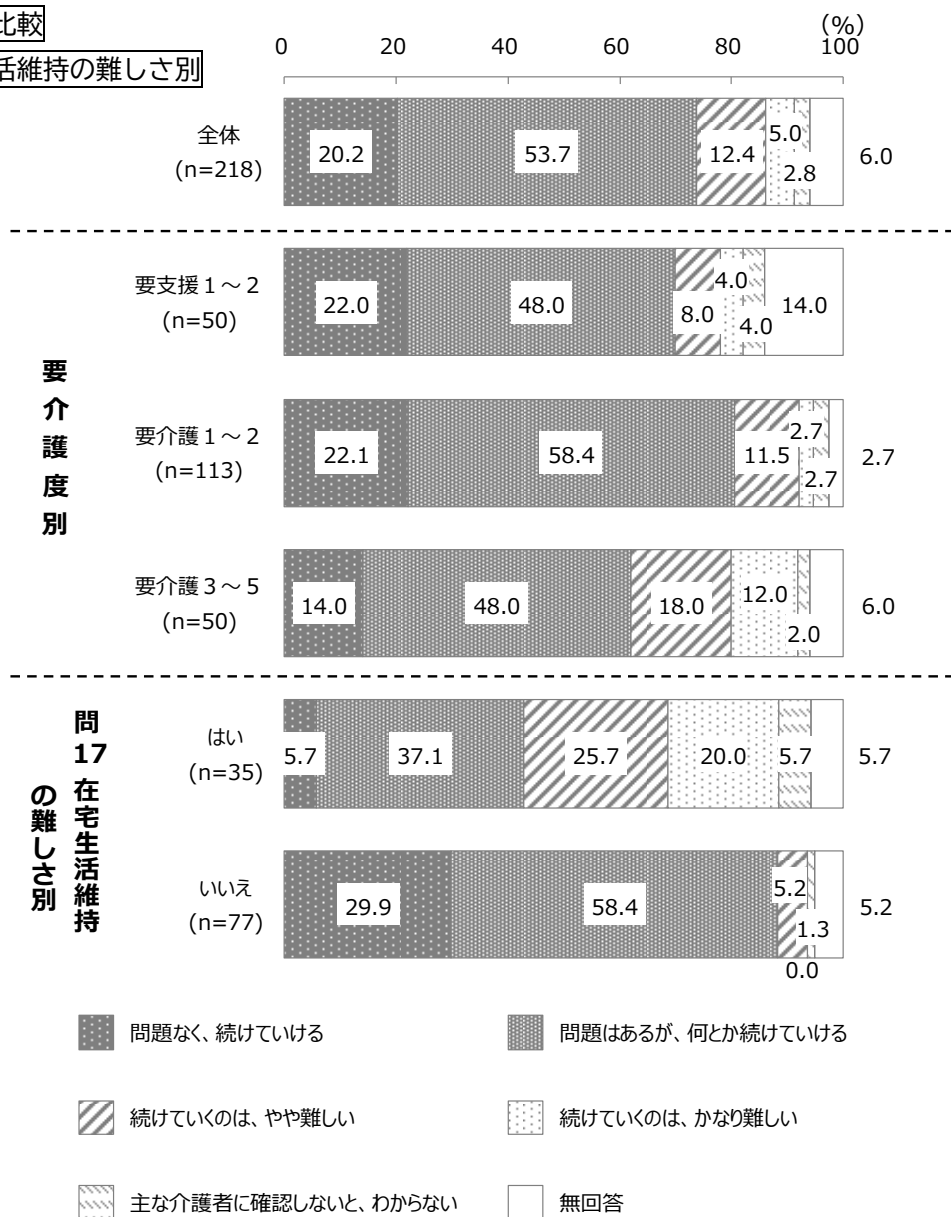


要介護度 「要支援1～2」と「要介護1～2」で、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた「続けていける」の割合は7割を超えていますが、「要介護3～5」では6割前半となっています。また、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」の割合は、「要介護3～5」で3割となっており、「要支援1～2」と「要介護1～2」より15ポイント以上多くなっています。

在宅生活維持の難しさ別 問17で現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなってきたとの問いに「はい」と回答した人は、「続けていくのは、やや難しい」(25.7%)と「続けていくのは、かなり難しい」(20.0%)を合わせた「続けていくのは難しい」の割合が45.7%となっています。半数近くが今後も働きながら介護を続けていくことは難しいと感じています。一方で、「いいえ」と回答した人は、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた「続けていける」の割合が88.3%で、大半の人が続けていけると感じています。

属性別比較

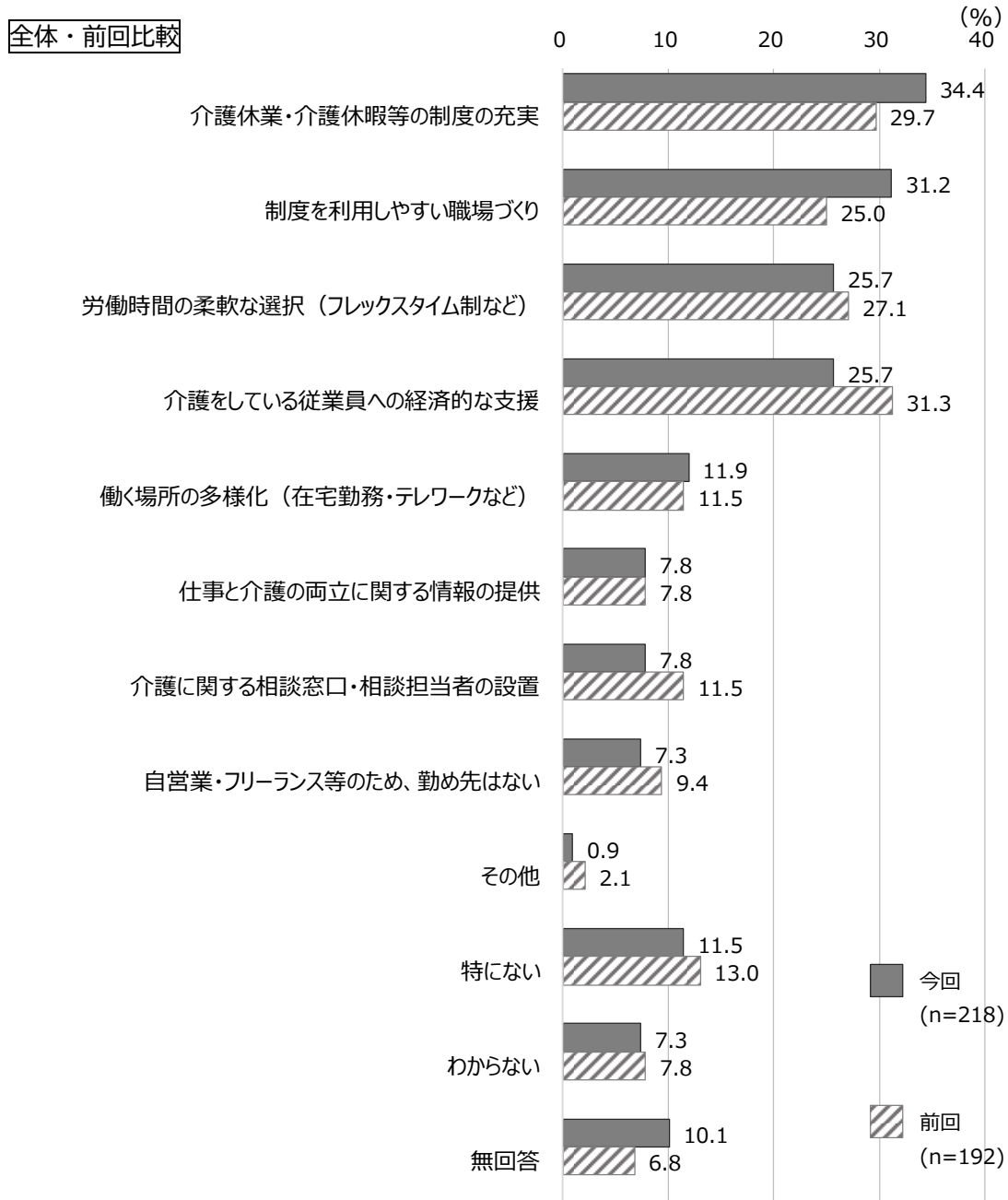
在宅生活維持の難しさ別



問36 「問33で「1 フルタイム」または「2 パートタイム」と回答した方に伺います。」
 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果がある
 と思いますか。[〇は3つまで]

全体 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が34.4%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(31.2%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」と「介護をしている従業員への経済的な支援」が25.7%となっています。

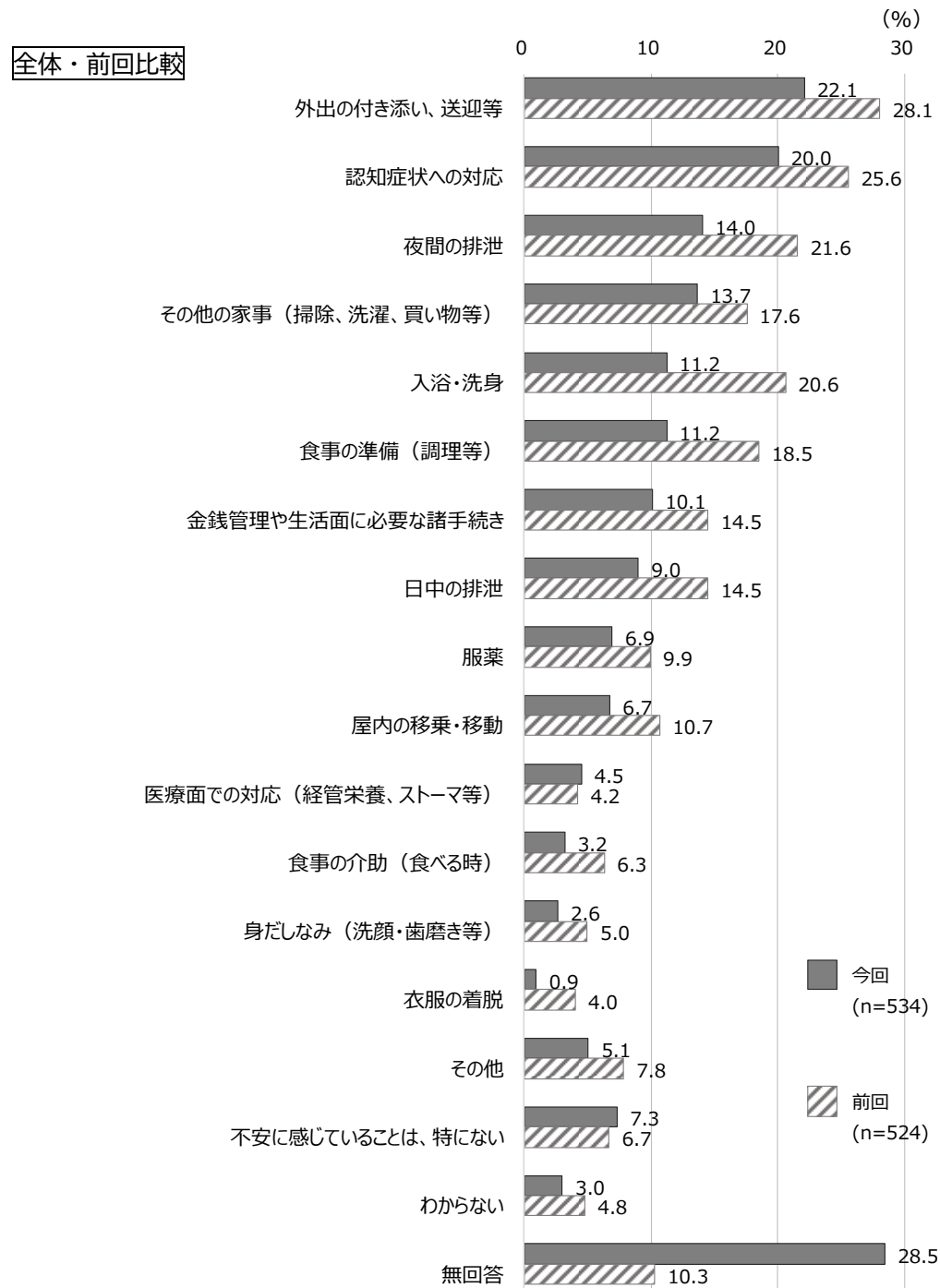
前回比較 前回調査では、「介護をしている従業員への経済的な支援」(31.3%)が最も多かったですが、今回は5.6ポイント減り第3位となっています。一方で、前回調査で第4位だった「制度を利用しやすい職場づくり」は6.2ポイント増え第2位となっています。



問37 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等はどれですか。[〇は3つまで]

全体 「外出の付き添い、送迎等」が22.1%で最も多く、次いで「認知症状への対応」(20.0%)、「夜間の排泄」(14.0%)となっています。

前回調査 前回調査と比較すると、項目の順位は概ね同様ですが、5ポイント以上減っている項目が6つありました。上位3つに加え、「入浴・洗身」、「食事の準備(調理等)」、「日中の排泄」が該当しますが、「無回答」の割合が前回調査よりも18.2ポイント増え3割近いことも、上記6項目の割合が減った要因として考えられます。



世帯類型 すべての世帯類型において、上位の順位は概ね「全体」と同様となっています。一方で、「単身世帯」は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（21.5%）と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（14.9%）において、「夫婦のみ世帯」や「その他」よりも5ポイント以上多くなっています。また、「夫婦のみ世帯」では、各項目の割合がすべて2割を下回っており、「単身世帯」や「その他」よりも不安に感じる介護等が少ない傾向にあります。

要介護度 すべての要介護度において、「外出の付き添い、送迎等」と「認知症状への対応」は上位を占めています。一方で、「要介護3～5」では、「夜間の排泄」が23.3%で最も多く、「要支援1～2」よりも14.4ポイント多くなっています。また、「日中の排泄」も10ポイント近く多くなっており、「要介護3～5」では、「要支援1～2」と比較して、昼夜問わず排泄の介護に不安を感じています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		外出の付き添い、送迎等	認知症状への対応	夜間の排泄	（掃除、洗濯、買い物等） その他の家事	入浴・洗身	食事の準備（調理等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	日中の排泄	服薬	屋内の移乗・移動	（経管栄養、ストーマ等） 医療面での対応
全体(n=534)		22.1	20.0	14.0	13.7	11.2	11.2	10.1	9.0	6.9	6.7	4.5
世帯類型別	単身世帯(n=121)	27.3	23.1	12.4	21.5	8.3	13.2	14.9	11.6	5.8	7.4	2.5
	夫婦のみ世帯(n=149)	16.1	14.8	12.8	13.4	10.1	10.1	8.1	5.4	8.1	7.4	6.7
	その他(n=252)	23.8	22.2	15.1	10.3	13.9	11.1	9.1	9.9	7.1	6.3	4.0
要介護度別	要支援1～2(n=123)	18.7	18.7	8.9	13.8	8.9	12.2	7.3	4.1	4.9	5.7	4.9
	要介護1～2(n=245)	27.3	24.9	11.8	16.3	11.4	13.9	10.6	8.6	8.2	6.9	2.4
	要介護3～5(n=150)	18.7	15.3	23.3	8.7	14.0	7.3	10.7	14.0	5.3	8.0	7.3

(%)

		食事の介助（食べる時）	（洗顔・歯磨き等） 身だしなみ	衣服の着脱	その他	不安に感じていることは、 特になし	わからない	無回答
全体(n=534)		3.2	2.6	0.9	5.1	7.3	3.0	28.5
世帯類型別	単身世帯(n=121)	2.5	1.7	0.8	5.8	4.1	5.8	21.5
	夫婦のみ世帯(n=149)	4.0	2.7	2.0	2.7	6.0	1.3	38.9
	その他(n=252)	3.2	3.2	0.4	6.3	8.7	2.4	25.8
要介護度別	要支援1～2(n=123)	1.6	2.4	0.0	4.1	11.4	4.1	27.6
	要介護1～2(n=245)	4.1	2.4	1.6	4.5	5.3	3.3	26.1
	要介護3～5(n=150)	3.3	3.3	0.7	6.7	6.7	1.3	32.0

介護者の就労継続の見込み別 問35の主な介護者が今後も働きながら介護を続けていけそうかとの問に、「続けていくのは、やや難しい」と回答した人が不安に感じる介護は「食事の準備（調理等）」が25.0%で最も多く、次いで「外出への付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が同率2位となっています。また、「続けていくのは、かなり難しい」と回答した人が不安に感じる介護は「入浴・洗身」と「日中の排泄」が33.3%で最も多く、次いで、「外出への付き添い、送迎等」と「夜間の排泄」が同率3位となっています。

介護者の就労継続の見込み別

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

(%)

		外出の付き添い、送迎等	認知症状への対応	夜間の排泄	（掃除、洗濯、買い物等） その他の家事	入浴・洗身	食事の準備（調理等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	日中の排泄	服薬	屋内の移乗・移動	（経管栄養、ストーマ等） 医療面での対応
全体(n=534)		22.1	20.0	14.0	13.7	11.2	11.2	10.1	9.0	6.9	6.7	4.5
問35 介護者の就労継続の見込み別	問題なく、続けていける(n=47)	25.5	19.1	8.5	10.6	10.6	10.6	14.9	10.6	8.5	6.4	6.4
	問題はあるが、何とか続けていける(n=126)	28.6	23.0	12.7	15.9	7.1	8.7	12.7	5.6	10.3	10.3	3.2
	続けていくのは、やや難しい(n=28)	21.4	21.4	7.1	21.4	7.1	25.0	10.7	14.3	10.7	3.6	3.6
	続けていくのは、かなり難しい(n=12)	25.0	8.3	25.0	16.7	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0	8.3	8.3
	主な介護者に確認しないと、わからない(n=10)	20.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0

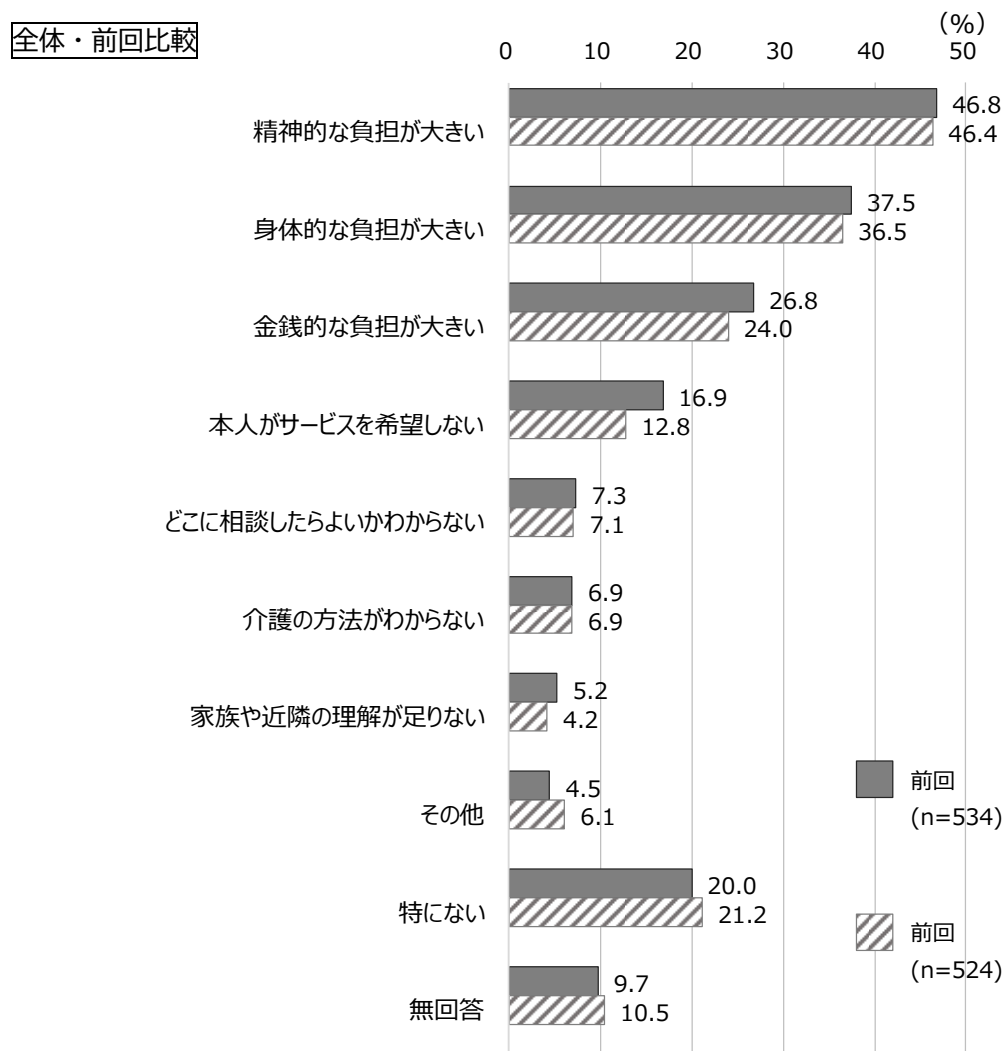
(%)

		食事の介助（食べる時）	（洗顔・身だしなみ・歯磨き等）	衣服の着脱	その他	不安に感じていることは、 特にない	わからない	無回答
全体(n=534)		3.2	2.6	0.9	5.1	7.3	3.0	28.5
問35 介護者の就労継続の見込み別	問題なく、続けていける(n=47)	2.1	0.0	2.1	8.5	17.0	4.3	8.5
	問題はあるが、何とか続けていける(n=126)	2.4	4.0	0.8	4.0	7.1	2.4	27.0
	続けていくのは、やや難しい(n=28)	7.1	3.6	0.0	7.1	3.6	7.1	32.1
	続けていくのは、かなり難しい(n=12)	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	25.0
	主な介護者に確認しないと、わからない(n=10)	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	10.0

問38 主な介護者の方が介護する上で困っていることはありますか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「精神的な負担が大きい」が46.8%で最も多く、次いで「身体的な負担が大きい」(37.5%)、「金銭的な負担が大きい」(26.8%)となっています。また、「特にない」が20.0%となっています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。



世帯類型 すべての世帯類型において、上位の順位は「全体」と同様となっています。一方で、「その他」は、「精神的な負担が大きい」(51.6%)の割合が、「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」よりも5ポイント以上多くなっています。また、「夫婦のみ世帯」(43.0%)と「その他」(39.3%)は、「身体的な負担が大きい」の割合が「単身世帯」(28.9%)よりも10ポイント以上多くなっています。

要介護度 すべての要介護度において、上位の順位は「全体」と概ね同様となっていますが、「要支援1～2」の第3位は、「本人がサービスを希望しない」(21.1%)となっています。また、「精神的な負担が大きい」、「身体的な負担が大きい」、「金銭的な負担が大きい」のいずれにおいても、要介護度が高くなるほど割合が多くなり、精神的と身体的な負担に関しては、「要介護3～5」で半数を超えています。

認知症診断別 問9で医師に「認知症と診断されている」と回答した人は、「診断されていない」と回答した人よりも、すべての項目において介護する上で困っていることの割合が多くなっています。特に「精神的な負担が大きい」(64.6%)の割合は、20ポイント以上多くなっています。

在宅生活維持の難しさ別 問17で現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっているとの間に「はい」と回答した人は、「いいえ」と回答した人よりも、概ねすべての項目において介護する上で困っていることの割合が多くなっています。特に精神的と身体的な負担に関しては、30ポイント以上多くなっています。

属性別比較・認知症診断別・在宅生活維持の難しさ別

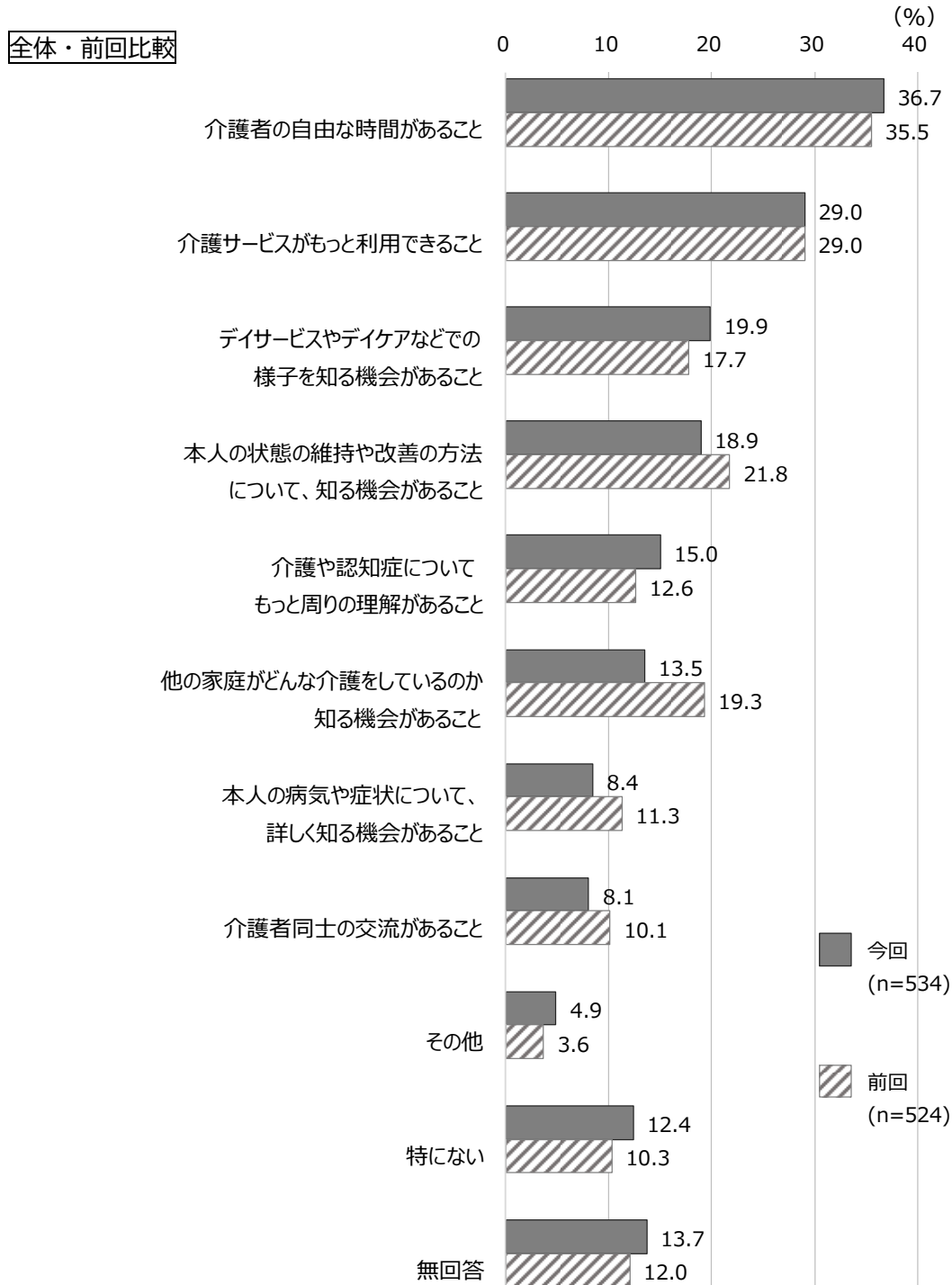
※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		精神的な負担が大きい	身体的な負担が大きい	金銭的な負担が大きい	本人がサービス希望しない	どこに相談したらよいかわからない	介護の方法がわからない	家族や近隣の理解が足りない	その他	特にない	無回答
全体(n=534)		46.8	37.5	26.8	16.9	7.3	6.9	5.2	4.5	20.0	9.7
世帯類型別	単身世帯(n=121)	43.8	28.9	24.0	19.0	5.0	4.1	5.8	1.7	19.8	10.7
	夫婦のみ世帯(n=149)	43.6	43.0	28.9	15.4	7.4	9.4	4.0	6.7	16.1	13.4
	その他(n=252)	51.6	39.3	27.8	16.7	8.7	7.1	6.0	4.4	21.4	7.1
要介護度別	要支援 1～2 (n=123)	31.7	23.6	17.1	21.1	6.5	5.7	3.3	4.1	27.6	19.5
	要介護 1～2 (n=245)	49.0	34.3	25.7	17.1	5.7	6.9	6.9	5.3	20.8	6.9
	要介護 3～5 (n=150)	58.7	56.0	36.7	12.7	8.7	7.3	4.0	4.0	12.7	6.7
問9 認知症診断別	診断されている(n=130)	64.6	40.8	30.0	20.0	8.5	10.8	10.0	5.4	11.5	3.8
	診断されていない(n=392)	41.3	36.2	26.0	15.3	7.1	5.9	3.8	4.3	22.7	11.7
問17 在宅生活維持の難しさ別	はい(n=83)	72.3	63.9	48.2	13.3	4.8	14.5	6.0	6.0	6.0	4.8
	いいえ(n=185)	40.5	30.8	22.7	11.9	4.9	3.8	3.2	3.8	28.6	5.9

問39 在宅で介護する家族等への支援について、どんなことが重要だと思いますか。[〇は3つまで]

全体 「介護者の自由な時間があること」が 36.7%で最も多く、次いで「介護サービスがもっと利用できること」(29.0%)、「デイサービスやデイケアなどでの様子を知る機会があること」(19.9%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「他の家庭がどんな介護をしているのか知る機会があること」(13.5%)が5.8ポイント減ったものの、他の項目は前回調査と概ね同様の傾向です。



世帯類型 すべての世帯類型において、上位1位、2位の順位は「全体」と同様となっていますが、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」が「介護者の自由な時間があること」の割合が3割台である一方、「その他」の割合は4割を超えて多くなっています。

要介護度 「要介護1～2」と「要介護3～5」では、上位の順位は「全体」と概ね同様となっていますが、「要支援1～2」の第1位は「介護サービスがもっと利用できること」(26.0%)で、第2位は「デイサービスやデイケアなどでの様子を知る機会があること」となっています。

認知症診断別 問9で医師に「認知症と診断されている」と回答した人は、「診断されていない」と回答した人よりも、4つの項目において5ポイント以上割合が多くなっています。「介護者の自由な時間があること」、「介護サービスがもっと利用できること」、「本人の状態の維持や改善の方法について、知る機会があること」、「介護や認知症についてもっと周りの理解があること」の4つが該当する項目となっています。特に、「介護者の自由な時間があること」(43.8%)は、4割を超えて多くなっています。

在宅生活維持の難しさ別 問17で現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっているとの間に「はい」と回答した人は、「介護サービスがもっと利用できること」の割合が半数近く、「いいえ」と回答した人よりも20ポイント以上多くなっています。また、「介護者の自由な時間があること」については、在宅生活の維持の難しさに関わらず4割を超えて多くなっています。

属性別比較・認知症診断別・在宅生活維持の難しさ別

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		介護者の自由な時間があること	介護サービスがもっと利用できること	デイサービスやデイケアなどでの様子を知る機会があること	本人の状態の維持や改善の方法について、知る機会があること	介護や認知症についてもっと周りの理解があること	他の家庭がどんな介護をしているのか知る機会があること	本人の病気や症状について、詳しく知る機会があること	介護者同士の交流があること	その他	特にない	無回答
全体(n=534)		36.7	29.0	19.9	18.9	15.0	13.5	8.4	8.1	4.9	12.4	13.7
世帯類型別	単身世帯(n=121)	34.7	28.9	16.5	20.7	13.2	9.9	7.4	4.1	4.1	14.9	14.9
	夫婦のみ世帯(n=149)	31.5	25.5	22.1	16.1	13.4	14.1	9.4	10.1	4.0	9.4	21.5
	その他(n=252)	41.7	31.0	19.0	19.4	17.5	15.1	7.5	8.3	6.0	12.7	8.7
要介護度別	要支援 1～2 (n=123)	20.3	26.0	22.0	16.3	15.4	12.2	8.1	7.3	0.8	17.9	22.0
	要介護 1～2 (n=245)	39.6	30.6	19.6	21.2	15.1	13.9	8.6	7.8	4.5	9.8	11.0
	要介護 3～5 (n=150)	46.7	30.0	18.7	18.7	14.7	15.3	8.7	9.3	9.3	9.3	10.7
認知症診断別	問9 診断されている(n=130)	43.8	38.5	19.2	23.8	21.5	13.1	7.7	11.5	7.7	6.9	9.2
	診断されていない(n=392)	34.9	26.3	19.6	16.8	13.3	13.8	8.4	7.1	3.8	13.8	15.3
在宅生活維持の難しさ別	問17 はい(n=83)	47.0	47.0	26.5	19.3	19.3	16.9	9.6	7.2	8.4	2.4	9.6
	いいえ(n=185)	42.7	25.9	18.9	19.5	13.5	10.3	5.4	8.1	5.4	15.7	8.6

7. 自由意見

市へご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、どのようなことでも結構ですからお知らせください。

229 件のご意見をいただき、以下の8つのカテゴリーに分類しました。(概ね原文のとおり)

【移動支援・生活支援】(36 件)

- ・乗合タクシーの利用者です。用事のある時には、前もって予約が取れますが、帰りの時間がわからない時には帰りの予約が取れません。そんな時には、普通タクシーを利用しますが、料金がかなり高いです。せめて乗合タクシー並の料金で利用できれば幸いです。
- ・足が不自由なので選挙に行けません。そういう方達を車に乗せて連れて行っていただくことはできませんか。タクシーで行くと往復で5,000円かかるので行けません。
- ・自身で買物できる範囲の場所への送迎があるとよいと思います。
- ・駅や主要な場所まで遠い所に住んでいますが、公共の交通手段がないので、介護者が車を持っていないと移動が困難です。バスがあると便利だと思います。バス停も増やしてほしいです。
- ・交通機関があまりにも貧弱で、足がなく、老人はひきこもりを余儀なくされています。
- ・市役所へ行くのに、自宅からも駅からも公共交通機関がないのは困ります。
- ・バス運行などのきめ細かな配慮があれば運転免許証を返納したい。市役所、駅、病院等へ行くのに利用しやすい乗り物があればと思う。現在の乗り物は使いづらい。
- ・現在は元気で生活していますが、とにかく買物の足、病院への足がなく不自由しております。タクシー代も馬鹿になりません。ふれあいタクシーを利用することはありますが、予約制なので、いきなりの電話には対応できません。仕方ないとは諦めておりますが、もう少し足の便が良いと助かります。
- ・生ごみ出し、部屋の掃除、浴室の清掃が大変。
- ・80代の一人暮らしですが、家の片付けを心がけてボツボツやっていますが、一般ゴミに出せない大きな物を環境センターに持っていく方法がありません。

【介護保険サービス・高齢者福祉全般】(26 件)

- ・定期的(月1回又は2か月に1回)な見守り(巡回)があると安心です。
- ・両親ともに介護が必要です。介護者の仕事の都合で、デイサービスから帰宅して夕食までの間、1人で留守番させることがあります。何をするかわからないので心配です。デイサービスをもう少し遅い時間まで利用できるとありがたいです。
- ・目の見えない人のための支援をもっとしてほしい。
- ・市の介護認定が厳しすぎる。介護度が低く認定されてしまう。
- ・各地で問題が起きているようなので、成年後見制度(関係団体含む)の厳格な運営、管理が必要だと思います。

- ・本人ができることもたくさんあるので、「介護される」ことに抵抗を感じているようです。できることを活かしつつ、サポートをしてもらえるような施設やサービスがあるといいと思います。生きがいと安心感のある制度ができるとありがたいです。平日にイベントはいろいろありますが、仕事をしているため参加できないのも残念です。
- ・親族の遠方での急な葬儀で数日家を空ける時の預け先の確保は、非常に大変でした。いつものショートステイ先に空きがなければ、新しく別のショートステイの契約をする必要があり、急なケースではそれができず、予定の日数を削ることになってしまいました。そのような時は、とても辛いと感じました。受け入れ先の充実を希望します。
- ・金額的にも雰囲気的にも行きやすい入居施設がたくさんあればいいと思います。
- ・本人がデイサービスに行きたくないと言い困っている。本人の気持ちの問題も大きいですが、高齢者が通いたくなる魅力的な施設等を作ってほしい。
- ・市の介護施設を多くつくり、希望者が安価で利用できるようにしてもらいたいと思います。介護が必要になった時には、施設に行きたいと思っております。

【介護従事者（専門職・家族）】（26件）

- ・ケアマネジャーの方に本当に助けられています。介護者の精神的なサポートとしてもありがたい存在です。
- ・老老介護になり自分も疲れてしまった。
- ・介護者が疲れやストレスから事件を起こすニュースをよく見ます。そのような悲しいことが起きないように、介護者の心をフォローする機関があるとよいと思います。誰もが生活しやすい市にしてください。
- ・365日介護で、介護者の休みが全くありません。1年間に1日でもいいから、介護保険費用を使って介護から解放されたい。
- ・訪問看護のスタッフにはとても感謝しています。スタッフの皆様の苦勞を考えると脱帽です。手当てが上がるといいのにとおもいます。
- ・介護者が体調をくずした時、または熱が出た時等どうしたらよいか不安です。特に夜間にその状態になった時のことを考えると恐ろしいです。
- ・介護のために私の仕事（パート職）の勤務日数や時間を少なくせざるを得なくなった。年齢を重ねるごとに夫の面倒をみる項目が増えて、とてもきつい状態になっている。
- ・介護者の再就職の支援、在宅ワークなどの紹介やあっせん（介護関連の制度の充実）をしてほしい。
- ・介護をするために時短勤務になるため、減収になってしまう。介護する側も生活をしなければならず、どうしたらいいか悩む人は多いと思います。
- ・昨年から両親が要介護になり、介護者の身体に異常が出るようになりました。補助が欲しいです。1人で2人の介護は厳しい。

【経済的負担】(31件)

- ・介護をしている人に、介護をするための金銭面の援助がほしい。
- ・子育て支援ばかり手厚くて、助成金や手当などありますが、高齢者（介護が必要な）にも手当てが必要です。年金、貯金だけでは足りず、将来が不安です。
- ・高齢者の介護保険料がこれ以上増えないようにしてほしい。
- ・4年前に脳内出血にて倒れ、2～3年は散歩もできましたが、昨年より転ぶことが多く、今年からデイサービスに通わせていただいております。この先介護施設に入居となると、年金金額で払うことができるのか、非常に心配になります。
- ・両親の介護がいつまで続くか不安。今まであった収入が全くゼロになっているので、国が若い人優先に考えるのはやめてほしい。すべて税負担してきてこんなことになるとは、この国はどうなっているのか非常に不安である。
- ・現在親が施設入所している。施設費用が収入によってランク付されるのは仕方ないが、せめて年金支給額の範囲で毎月の支払いが成立すれば助かる。持家の固定資産税や光熱費等もあるので、身内の負担が大きく厳しい状況である。
- ・夫を介護していますが、市で紙オムツの援助をしてくれたら助かります。自治体によっては市で負担してくれる所もあります。検討してもらえるとうれしいです。
- ・介護対象者が一家庭に複数人いる場合の補助を増やしてほしい。

【情報提供・相談・手続き】(27件)

- ・補聴器購入補助を受けようと思ったが、高齢者にとっては手続きのハードルが高く諦めた。
- ・介護施設が具体的に近場にあるのかわからない。施設名と内容を知りたい。
- ・白岡市役所の提出書類はほぼ全てがHPからダウンロードできず、役所に行く必要がある。自宅でダウンロードし、自宅からアップロードして提出できるようにしてほしい。申請手続きをオンライン化して下さい！
- ・もっと身近に行政の窓口があるとよいと考えます。
- ・老人のいろいろな手続きが毎年あって、書類を書くのが大変。同じことを何回も書くことが多い。一回ですべての手続きをしてほしい。
- ・私どもはいろいろな介護サービスを利用しております。専門職の方（特にケアマネさん）が親切に指導してくれます。でもそのような事を知らない人がたくさんいます。
- ・どこに相談してよいかわからない。
- ・市町村窓口が民間と同じように土日休んでいては相談もできず、サービスも使えない。
- ・高齢者が多い地区です。両親が介護保険を利用するようになり、少しずつ情報を知ることがなりましたが、市からの介護に関する情報は少なく、民生委員の訪問なども過去に1度あったきりです。働きながら介護をするというのはとても大変なことです。システム、料金ともに、現実に利用しやすいサービスや情報提供など、さらなる高齢化に向けての対策をお願いしたいです。

【生きがいづくり・地域交流】（4件）

- ・新白岡周辺に情報交換や気を休めることができるような喫茶店やレストランのような施設を作ってほしい。葬祭センターばかり作らないでほしい。
- ・介護されていない人でも気軽に出かけられる場所があったらよいと思う。話し相手がほしい。一日家にこもっている。外へ出て他人との交流がしたい。
- ・日中やることがなく、毎日デイサービスへ行く以外はボーッとしていることが多く、何かできることがあればと言っていますが、何かありませんか？出歩けないので、家の中でできることが望ましいです。このままだと可哀そうです。
- ・地域活動が活発で、社会とのつながりを感じることができる白岡に住んでいた幸運に感謝しています。担い手不足の中で地区ごとの居場所作り、互助の仕組み作りは急務であると感じています。

【まちづくり・地域づくり】（11件）

- ・街中から離れたところは景色も良く、青空の下、数少ないベンチで話をします。頭の体操になります。もう少しベンチがほしいです。自然の中にさりげなく、ぶら下がり棒や健康器具があったら、もっと健康になれそうです。バスがない分、歩道などに少し休めるベンチを作ってほしいです。
- ・各地区へ役所をはじめとする公共施設の支所を設置できませんか？
- ・超高齢者や認知症の者は、近隣の役目を免除するなど考慮してもらいたいと思う。
- ・楽しい活気のある街づくりを望みます。商店が続く通りがあるとよいと思います。
- ・要支援、介護者の避難場所がよくわかりません。
- ・ネット予約処方せん扱いの薬屋で、日曜日に扱っているところが白岡にはありません。一軒だけでいいので市内で利用できる場所を作ってください。

【その他意見】（68件）

- ・今は頑張っているが、いつお世話になるかわかりません。自分でできることは自主的に運動して健康に日々楽しくやるようにしています。
- ・地域包括支援センターのスタッフの方には、良き対応をしていただき感謝です。
- ・手紙（アンケート）を出すより、市の職員とかが自宅に来て、意見・要望を聞いてほしい。
- ・今現在は介護を必要としておりませんが、いつサービスにお世話になるかわかりません。この度のアンケートでより良くなりますように。ありがとうございました。
- ・週1回のデイサービス、楽しく行っています。このまま続けられればよいなと思います。
- ・紙のアンケート調査ばかり繰り返している印象がある。結果をグラフや表にまとめて、私や私の家族の介護の状況改善にはつながらないのではないか。

8. 在宅介護実態調査のまとめ

【調査票の記入者】

「調査対象者本人」が49.9%で最も多く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」(45.7%)、「主な介護者以外の家族・親族」(2.8%)となっています。

【1. 回答者の属性】

回答者の性別は、「女性」が61.2%で、「男性」(37.5%)より多くなっています。年齢構成を見ると、「85～89歳」が27.0%で最も多く、次いで「80～84歳」(26.5%)、「90歳以上」(20.0%)となっています。65～74歳までの前期高齢者が9.1%である一方、75歳以上の後期高齢者は87.9%で大半を占めています。また、「40～64歳」は2.0%となっています。これは、前回調査と概ね同様の傾向です。

居住地域を日常生活圏域でみると、「篠津・大山圏域」が53.7%で、「日勝圏域」(42.6%)より多くなっています。地区別では、「小久喜」が21.4%で最も多く、次いで「新白岡」(12.7%)、「白岡」(11.7%)となっています。また、「白岡市外」は2.3%となっています。

家族構成は、「その他」(子どもと同居や施設入所など)が42.6%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」(30.1%)、「単身世帯」(24.1%)となっています。前回調査と比較すると、「その他」の世帯が5.9ポイント少なくなり、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」を合わせると半数を超え、高齢者のみで構成される世帯の増加がうかがえます。このことは、家族による介護力の低下や、在宅生活を支える外部サービスの重要性がより高まっているとも考えられます。

世帯年収は、「200～300万円未満」が最も多く21.1%で、次いで「300～400万円未満」(16.4%)、「150～200万円未満」(13.2%)となっています。世帯年収が150万円未満の世帯が2割前半、100万円未満でも1割半ば存在しており、これらの世帯では、介護サービスの利用にあたって経済的負担が制約要因となる可能性があります。

【2. 健康状態や医療などについて】

1) 要介護度

要介護度は「要介護1」が19.7%で最も多く、次いで「要介護2」(18.3%)、「要支援2」(15.9%)となっています。「要支援1」から「要介護2」までを合わせた比較的軽度の高齢者が約7割を占め、「要介護3」、「要介護4」、「要介護5」を合わせた中重度の高齢者は2割半ばに留まっており、在宅生活を継続している比較的状态の安定した軽度の高齢者が中心となっています。

2) 訪問診療の利用・医療と介護の連携

現在、訪問診療を利用しているか尋ねたところ、「利用していない」が約8割と大半を占めており、前回調査と概ね同様の傾向となっています。年齢が高いほど、また要介護度が高いほど利用割合が高くなっており、特に「要介護3～5」では3割を超えています。また、「要支援1

～2」と「要介護1～2」では、「利用していない」の割合が8割を超え大半を占めています。訪問診療は主に医療依存度の高い層を中心に利用されている実態が確認できます。一方で、軽度者では利用が限定的であり、通院を基本とした医療利用が中心であると考えられます。

医療と介護の連携についての考えを尋ねたところ、「自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う」が63.7%で最も多く、在宅療養の継続に対するニーズの高さがうかがえます。また、「入院した場合、退院後自宅に戻ってから通院が難しくなると困る」(51.8%)、「介護ヘルパーには医療的な処置があまりできないと聞いており、不安に思う」(14.2%)との意見も見られ、医療と介護の切れ目ない支援体制の構築が重要となっています。前回調査と比較すると、「自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う」の割合が5.9ポイント多いものの、概ね同様の傾向となっています。

日常生活圏域別では、日勝圏域と篠津・大山圏域の両圏域とも、「全体」と概ね同様の傾向にあります。日勝圏域は、「自宅で必要な医療行為や介護が受けられるといいと思う」の割合が、篠津・大山圏域よりも6.2ポイント多くなっています。要介護度別でみると、いずれの要介護度においても、第1位と2位は、「全体」と同じ項目ですが、第3位は、「要支援1～2」と「要介護1～2」の軽度者では、「大きな病院にしかかかったことがなく、近所にどのような医師がいるのかよくわからない」となっており、地域の医療機関に関する情報提供も重要だと考えられます。

3) 認知症の診断

医師に認知症と診断されているかについては、「診断されていない」が75.5%で、回答者の約4分の3を占めています。前回調査と比較すると、「診断されていない」が5ポイント多くなっています。年代や要介護度が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、85歳以上では2割半ば、「要介護3～5」では3割半ばとなっています。

4) 認知症と診断されている人の困り事

認知症と診断されている人の日常生活の中での困り事は、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が58.7%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」(54.7%)、「食事の準備（調理等）」(52.7%)となっています。これらは認知機能の低下により影響を受けやすい領域であり、生活支援サービスの重要性が示されています。

世帯類型別でみると、世帯類型によって日常生活で困っていることの順位にばらつきが見られます。「単身世帯」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「食事の準備（調理等）」が67.4%で最も多く、次いで「外出」(60.9%)となっており、家事や外出に関する困難が見られ、日常生活全般を主に1人で担う負担の大きさがうかがえます。「夫婦のみ世帯」では、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」と「入浴・洗身」が51.6%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「服薬」が50.0%となっています。

要介護度別では、要介護度によって日常生活で困っていることの順位にばらつきが見られます。最も多い回答は、「要支援1～2」では「精神的な安定」(57.9%)、「要介護1～2」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(67.0%)、「要介護3～5」では「入浴・洗身」(65.9%)となっています。また、「要介護3～5」では、「夜間の排泄」と「日中の排泄」が6割を超えて多く

なっています。軽度者では精神的な安定や生活管理、中重度者では身体介護（入浴・排泄）といったように、状態の進行に応じて課題が変化しており、段階に応じた支援の必要性が示されています。

5) 認知症と診断されている人が思いを伝えることができる人

認知症と診断されている人に、自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいるか尋ねたところ、「複数人いる」が 55.7%で最も多く、「ひとりいる」(23.4%)、「わからない」(12.9%)となっています。また、「誰もいない」と回答した人も 4.0%います。

世帯類型別では、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では、「誰もいない」の割合が 6.5%で、「その他」の世帯より多くなっています。要介護度では、要介護度が高くなるほど、1人以上いる割合は少なくなり、「要介護3～5」では7割を下回っています。また、「要支援1～2」と「要介護1～2」では、「誰もいない」と回答した人はいませんでしたが、「要介護3～5」では、7.3%となっています。「誰もいない」の割合が比較的多い「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」、「要介護3～5」の層において、孤立のリスクが高まる可能性があります。家族以外も含めた相談・交流の場の確保や見守り体制の充実が重要となっています。

6) 認知症と診断されている人が望む生活が継続できているか

認知症と診断されている人に、地域生活でご本人の意見が尊重され、望む生活が継続できているか尋ねたところ、「ある程度そう思う」が 50.7%で半数を占めている一方、「あまりそう思わない」(15.4%)と「全くそう思わない」(2.5%)を合わせた「そう思わない」割合も2割近くいます。

世帯類型別でみると、「単身世帯」と「その他」の世帯では、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた「そう思わない」割合が2割を上回っています。要介護度別では、「要介護1～2」と「要介護3～5」は「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた「そう思う」割合が半数を上回り多くなっています。

7) 主観的幸福感

現在、どの程度幸せか（主観的幸福感）を10点満点中（とても不幸を0点、とても幸せを10点）であらわしてもらったところ、「5～7点」が 41.6%で最も多く、次いで「8～10点」(38.7%)、「0～4点」(12.1%)となっています。平均値である5点以上と回答した人の割合が8割を超え大半を占め、平均点を算出したところ 6.7点でした。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の同じ設問（問49）と比較したところ、0.3ポイント少なく、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者よりも主観的幸福感はやや低くなっています。

年代別では、74歳以下と85歳以上は、「8～10点」の割合が4割を上回っており、75～84歳より多くなっています。また、年代が高くなるほど「0～4点」の割合が減っています。世帯類型別では、「0～4点」の割合は、すべての世帯類型を通じて約1割ですが、「単身世帯」は、「夫婦のみ世帯」と「その他」の世帯と比較して、「8～10点」の割合が低く約3割となっています。また、要介護度別でみると、要介護度が高くなるほど、「8～10点」の割合が減り、「要介護3～5」では約3割となっています。

【3. 施設入所の意向について】

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が64.7%で最も多く、在宅生活の継続を基本とする意向が主流であることがわかります。一方で、「入所・入居を検討している」(15.4%)と「すでに入所・入居申し込みをしている」(14.1%)を合わせた入所・入居を見据えている層も約3割おり、前回調査と概ね同様の傾向です。

年代別では、74歳以下と75～84歳では、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた「入所・入居を見据えている」割合は2割半ばである一方、85歳以上では3割半ばとなっています。世帯類型でみると、「単身世帯」において、「入所・入居を見据えている」割合が4割を超えており、「夫婦のみ世帯」と「その他」の世帯より多くなっています。

要介護度別でみると、要介護度が高くなるほど、「入所・入居を見据えている」割合が増え、「要介護3～5」は半数近くとなっています。一方、「要支援1～2」と「要介護1～2」では2割台に留まっており、状態の重度化に伴い在宅生活から施設への移行を意識する傾向がうかがえます。

認知症の診断状況別では、認知症と診断されている場合は、「入所・入居を見据えている」割合が半数近くと多く、診断されていない場合と比較して、2割以上多くなっています。認知症に伴う生活管理や安全面の課題が、在宅生活の継続を困難にし、施設入所の検討につながっていると考えられます。

全体としては在宅生活継続の意向が多数を占めるものの、高齢化の進行、単身化、要介護度の重度化、認知症の進行といった要因により、施設入所のニーズが高まる傾向にあると考えられます。在宅生活を支えるサービスの充実とともに、中重度者や認知症のある高齢者を受け止める施設サービスの確保・充実をバランスよく進めていくことが重要となっています。

【4. 介護保険サービス等の利用について】

1) 介護保険サービスの利用の有無

令和7年11月の1か月間の間に、(住宅改修、福祉用具貸与、購入以外の)介護保険サービスを利用したか尋ねたところ、「利用した」が60.2%で「利用していない」(37.9%)より多くなっています。在宅生活を支えるためにサービスが活用されていることが確認できる一方、約4割がサービスを利用していないことから、必ずしもすべての対象者にサービス利用が広がっているわけではなく、利用の有無に差がある状況もうかがえます。

世帯類型別でみると、「単身世帯」と「その他」の世帯では、「利用した」の割合が6割を超えている一方、「夫婦のみ世帯」は、5割半ばと5ポイント以上少なくなっています。「夫婦のみ世帯」では、配偶者による介護が一定程度機能しており、サービス利用が相対的に抑えられている可能性が考えられます。要介護度別では、「要支援1～2」では、「利用した」と「利用していない」が約半数ずつとなっており、軽度者においてはサービス利用にばらつきがある一

方、「要介護1～2」では「利用した」の割合が7割を超え、「要介護3～5」では6割半ばと多くなっています。

2) 介護保険サービスの利用状況

以下のア)～シ)の介護保険サービスの利用状況についてうかがいました。

ア) 訪問介護 [ホームヘルプ]	キ) 夜間対応型訪問介護
イ) 訪問入浴介護	ク) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
ウ) 訪問看護	ケ) 小規模多機能型居宅介護
エ) 訪問リハビリテーション	コ) 看護小規模多機能型居宅介護
オ) 通所介護 [デイサービス]	サ) ショートステイ
カ) 通所リハビリテーション [デイケア]	シ) 居宅療養管理指導

(全体)

ア)～キ)の介護保険サービスのうち、1週間あたりの利用回数が1回以上と回答した人の割合が2割を超えるサービスは、「オ) 通所介護[デイサービス]」(52.8%)と「カ) 通所リハビリテーション[デイケア]」(26.1%)の2つで、特に、「オ) 通所介護[デイサービス]」は、週2回以上利用している人の割合も4割を超えています。通所系サービスが在宅生活を支える中心的な役割を担っていることが読み取れます。一方で、「キ) 夜間対応型訪問介護」は、1週間あたりの利用回数が1回以上と回答した人の割合はわずか0.9%(6人)となっています。

「ク) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「ケ) 小規模多機能型居宅介護」、「コ) 看護小規模多機能型居宅介護」の3つの地域密着型サービスでは、令和7年11月の1か月の間に、「利用していない」の割合は6割前半で、「利用した」の割合は1割を下回っています。これらの地域密着型サービスは、中重度者や医療ニーズの高い利用者を主な対象としていることから、対象者が限定されていること等が利用状況に影響していると考えられます。

また、「サ) ショートステイ」の1か月あたりの利用日数は、「0回」が55.8%で最も多く、次いで「1～7日」(9.5%)、「8～14日」(4.2%)となっています。さらに、「シ) 居宅療養管理指導」の1か月あたりの利用回数は、「0回」が59.3%で最も多く、次いで「1回」(4.9%)、「4回」(2.9%)となっています。サ)とシ)のサービスも、過半数を超える人が利用しておらず、一部の利用者に限定されている状況です。

(訪問診療の利用状況別)

訪問診療の利用状況別でみると、ア)～エ)の介護保険サービスにおいて、「訪問診療を利用していると回答した人」は、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が、「訪問診療を利用していないと回答した人」と比較して、15ポイント以上多くなっています。訪問診療を利用している人が、医療依存度や介護ニーズの高い層であり、在宅での生活を維持するために訪問系サービスを組み合わせて利用している実態を示しています。特に、「ウ) 訪問看護」については、訪問診療を利用している人は、利用していない人よりも、訪問看護を週1回以上利用している人の割合が35.3ポイントと大幅に多くなっています。医師による訪問診療と看

護職による訪問看護の両方が提供されることで、在宅での医療的管理が支えられていることがわかります。

一方で、「オ）通所介護[デイサービス]」と「カ）通所リハビリテーション[デイケア]」については、「訪問診療を利用していない人」の方が、オとカのサービスを週1回以上利用している人の割合が10ポイント以上多くなっています。訪問診療を利用していない人は比較的状态が安定しており、通所によるサービス利用が可能であるのに対し、訪問診療を利用している人は、身体状況や医療的管理の必要性から通所が難しい場合が多いことを示していると考えられます。

また、「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」では、「訪問診療を利用している人」は、サービスを「利用した」の割合が20.7%である一方、「訪問診療を利用していない人」は、サービスを「利用した」の割合が2.8%で、医療ニーズの高い利用者を中心に活用されていることがわかります。「シ）居宅療養管理指導」においても、「訪問診療を利用している人」は、1か月に1回以上サービスを利用した人の割合が20.7%である一方、「訪問診療を利用していない人」は6.0%で、訪問診療を利用している人の方が利用割合が高く、医師や薬剤師等による在宅での専門的支援が併せて提供されている状況がうかがえます。

（世帯類型別）

世帯類型別でみると、ア）～キ）の介護保険サービスのうち、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合で、世帯類型別に5ポイント以上の差が見られたのは「ア）訪問介護[ホームヘルプ]」で、「単身世帯」は「その他」の世帯と比較して、9.1ポイント多くなっています。また、「イ）訪問入浴介護」については、「単身世帯」は、「0回」（利用していない）の割合が、「その他」の世帯よりも6.3ポイント少なくなっています。ア）やイ）において、「単身世帯」の利用が進んでいる傾向がみられますが、これは、日常生活や身体介護など家族の支援を受けにくいことから、訪問系サービスへの依存度が高くなるためと考えられます。

「ク）定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「ケ）小規模多機能型居宅介護」、「コ）看護小規模多機能型居宅介護」の3つの地域密着型サービスでは、令和7年11月の1か月の間に、「利用していない」の割合は世帯類型に関わらず概ね6割台で、「利用した」の割合は1割を下回っており、全体として限定的な利用に留まっています。5ポイント以上の差が見られたのは、「ケ）小規模多機能型居宅介護」における「単身世帯」で、「利用した」の割合が「夫婦のみ世帯」より5.3ポイント多くなっています。

「サ）ショートステイ」では、1か月あたりの利用日数が1日以上ある割合は、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」では1割前半である一方、「その他」の世帯では2割を超えて多くなっています。同居家族がいる世帯において、介護者の休養や一時的な負担軽減を目的として活用されていることが考えられます。「シ）居宅療養管理指導」では、1か月あたりの利用回数が1回以上の割合は、「単身世帯」では12.5%で、「夫婦のみ世帯」よりも5ポイント以上多くなっており、通院や服薬管理が難しい単身高齢者に対して、医師や薬剤師等による在宅での専門的支援が必要とされている状況がうかがえます。

(要介護度別)

要介護度別でみると、ア)～キ)の介護保険サービスのうち、ア)～エ)については、各介護保険サービスの1週間あたりの利用回数が1回以上の割合を要介護度別で比較すると、「要介護3～5」は、「要支援1～2」よりも10ポイント以上多くなっており、要介護度が高い方が介護保険サービスを1回以上利用している割合が多くなっています。身体機能の低下や医療的ケアの必要性の高まりにより、在宅における個別的・継続的な支援が求められているためと考えられます。

一方で、「オ)通所介護[デイサービス]」では、1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が最も多いのは、「要介護1～2」(60.2%)で、次いで「要介護3～5」(48.2%)となっています。また、「カ)通所リハビリテーション[デイケア]」については、1週間あたりの利用回数が1回以上の割合が最も多いのは、「要支援1～2」(31.7%)で、次いで「要介護3～5」(24.1%)となっています。オ)とカ)のいずれも、1週間あたりの利用回数が「0回」の割合が最も多いのは「要介護3～5」となっており、中重度者は様々な要因から通所型サービスの利用が困難になっていると考えられます。

「ク)定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「ケ)小規模多機能型居宅介護」、「コ)看護小規模多機能型居宅介護」の3つの地域密着型サービスでは、令和7年11月の1か月の間に、「利用していない」の割合は要介護度に関わらず概ね6割台となっており、全体としては限定的な利用に留まっています。その中で、「ク)定期巡回・随時対応型訪問介護看護」は、「要介護3～5」においてのみ「利用している」が1割を上回っています。

「サ)ショートステイ」では、1か月あたりの利用日数が1日以上ある割合は、要介護度が高くなるほど多くなり、「要介護3～5」では2割半ばとなっています。介護負担の大きい中重度者において、家族介護者の休養や緊急時対応としての利用ニーズが高まっていると考えられます。「シ)居宅療養管理指導」では、1か月あたりの利用回数が「0回」の割合は、「要介護1～2」と「要介護3～5」では6割前半である一方、「要支援1～2」では5割前半と少なくなっています。

3) 在宅生活の維持が難しくなっているか

令和7年11月の1か月の間に介護保険サービスを利用した人に、現在のサービス利用では在宅生活の維持が難しくなっているか尋ねたところ、「いいえ」が49.1%で最も多く、次いで「はい」(19.3%)、「わからない」(15.8%)となっています。現時点では多くの高齢者が在宅生活を継続できている状況がうかがえます。一方で、難しくなっていると回答した人も約2割存在しており、現在のサービスでは在宅生活の継続に不安や限界を感じていることがわかります。

年代別でみると、年代が高くなるほど、「いいえ(難しくなっていない)」の割合が少なくなり、85歳以上では47.1%となっています。加齢に伴い在宅生活の維持が徐々に難しくなっている実態がうかがえます。一方で、「はい(難しくなっている)」の割合は年代に関わらず2割前後となっており、75～84歳と85歳以上では、「わからない」と「無回答」の割合が多くなっています。

世帯類型別では、「単身世帯」は、「いいえ（難しくなっていない）」の割合が半数を超えている一方、「夫婦のみ世帯」と「その他」の世帯は半数を下回っています。「単身世帯」の方が、在宅生活の維持は難しくなっていないと感じている割合が多くなっていますが、これは、本人の判断や生活スタイルに応じてサービス利用が調整されていることや、比較的自立度の高い層が含まれていると考えられます。

要介護度別でみると、要介護度が高くなるほど、「はい（難しくなっている）」の割合が多くなり、「要介護3～5」では3割を超えています。身体機能や認知機能の低下等により、現在のサービスだけでは在宅生活の維持が困難となるケースが増えていることを示しています。

現状では在宅生活を維持できている層が多数を占めるものの、高齢化や要介護度の重度化に伴い、在宅生活の継続に対する困難感が高まる傾向にあります。今後は、サービス量や内容の充実に加え、医療との連携強化や家族介護者への支援など、多面的な支援を通じて在宅生活の維持を支えていくことが重要となっています。

4) 介護保険サービスの総合評価

令和7年11月の1か月の間に介護保険サービスを利用した人に、総合的にみて介護保険サービスを利用してどのように感じているか尋ねたところ、「満足している」が55.3%で最も多く、「大変満足している」(8.9%)を合わせると64.2%と6割を超えています。一方で、「やや不満である」と「不満である」を合わせた不満である割合は1割未満に留まっており、全体としてはサービスに対する評価は概ね良好と言えます。

世帯類型別では、「単身世帯」は、「大変満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合が67.6%で、「その他」の世帯より6.3ポイント多くなっています。「単身世帯」では介護保険サービスが生活を支える基盤となっており、サービスの効果を実感しやすいことが影響していると考えられます。要介護度でみると、すべての要介護度において、「大変満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合は6割台となっており、いずれの要介護度の利用者であっても、一定の評価が得られていることがうかがえます。その中で、「大変満足している」の割合が、「要支援1～2」と「要介護3～5」では1割前半である一方、「要介護1～2」では5.3%とやや少なくなっています。

5) 介護保険サービスを利用してよかったこと

令和7年11月の1か月の間に介護保険サービスを利用した人に、介護保険サービスを利用してよかったと思うことを尋ねたところ、「人と話す機会が増えた」が51.3%で最も多く、次いで「生活が規則正しくなった」(30.7%)、「外出の機会が増えた」(25.5%)となっています。サービス利用が身体的支援に留まらず、社会的交流の促進や生活リズムの安定といった側面にも寄与していることがうかがえます。

また、要介護度別では、すべての要介護度において、「人と話す機会が増えた」が最も多くなっており、介護保険サービスが高齢者の孤立防止やコミュニケーション機会の確保に重要な役割を果たしていると言えます。また、「要支援1～2」では「外出の機会が増えた」が2番目に多く、比較的自立度の高い層においては、活動機会の拡大や社会参加の促進といった効果があることがうかがえます。一方、「要介護1～2」および「要介護3～5」では、「生活が規則正

しくなった」が2番目に多くなっており、特に「要介護3～5」では4割半ばと高い割合を占めています。日常生活の自立度が低下する中で、サービス利用が生活リズムの維持や安定に寄与していることを示しています。

6) 介護保険サービスを利用していない理由

令和7年11月の1か月の間に介護保険サービスを利用していない人に、利用していない理由を尋ねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」が50.0%で最も多く、「本人にサービス利用の希望がない」(22.3%)、「家族が介護をするため必要ない」(14.5%)となっています。サービス未利用者の多くが比較的状态の安定した層であることがうかがえ、また、本人の意向や家族による支援体制が、サービス利用の有無に影響していることがわかります。

また、「その他」と回答した人のうち、施設に入所中または病院に入院中と記載のあった割合は、介護保険サービスを利用していない人の12.1%(42人)となっており、在宅でのサービス利用を前提としていない人も含まれている点に留意が必要です。前回調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」が5ポイント多くなっていますが、その他の項目は概ね同様の傾向です。

要介護度別では、要介護度が高くなるほど、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」の割合が少なくなっており、「要支援1～2」では67.6%である一方、「要介護3～5」では、11.8%に留まっており、中重度者においてはサービス利用の必要性が認識されていることがわかります。一方で、「要介護3～5」では、「その他」が43.4%で最も多く、その内訳として、施設に入所中または病院に入院中と記載のあった割合は、「要介護3～5」の36.8%(28人)を占めていることから、在宅生活の継続が困難となり、居宅が在宅以外へ移行している実態が反映されていると考えられます。

7) 利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況をみると、「利用していない」が半数を超えており、介護保険サービス以外のサービスは全体としては限定的な利用に留まっています。個別のサービスでは、「配食」(6.3%)、「掃除・洗濯」(5.6%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(5.1%)が比較的多いものの、いずれも1割未満であり、介護保険サービスを補完する役割として、一部の利用に留まっている状況がうかがえます。これらの傾向は前回調査と概ね同様です。

年代別にみると、すべての年代において、「利用していない」が最も多くなっていますが、次に多い項目は各年代で異なり、74歳以下では「外出同行(通院、買い物など)」(6.9%)、75～84歳では「掃除・洗濯」(8.0%)、85歳以上では「配食」(5.6%)となっています。世帯類型別では、すべての世帯類型で、「利用していない」が最も多くなっていますが、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」が4割台である一方、「その他」の世帯は6割を超えています。また、「単身世帯」は、「配食」が13.2%で1割を上回り、他の世帯類型よりも多くなっています。

日常生活圏域別では、日勝圏域と篠津・大山圏域の両圏域とも、「利用していない」が最も多くなっていますが、次に多い項目は異なり、日勝圏域では「買い物(宅配は含まない)」(5.9%)、篠津・大山圏域では「配食」(6.9%)となっています。要介護度別でみると、すべての要介護度

で、「利用していない」が最も多くなっていますが、次に多い項目は、「要支援1～2」と「要介護1～2」では「配食」で、日常生活の補完的支援のニーズが中心であるのに対し、「要介護3～5」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（8.8%）で、通院や外出に関する支援ニーズが高いことがうかがえます。

8) 在宅生活継続に必要な支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.0%で最も多く、「外出同行（通院、買い物など）」（19.3%）、「買い物（宅配は含まない）」（15.2%）となっています。これらはいずれも外出や移動に関連する支援であり、在宅生活を継続する上で、移動手段の確保や外出支援が重要な課題となっていることがうかがえます。一方で、「特になし」との回答も3割近くみられ、現時点では大きな支援を必要としていない層も存在しており、前回調査と概ね同様の傾向となっています。

年代別では、すべての年代において、「特になし」が最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっていますが、第3位の項目は85歳以上で「見守り・声かけ」（17.0%）で、他の年代よりも多くなっており、加齢に伴い日常的な見守りや安心感の確保に対するニーズが高まっていることがうかがえます。

世帯類型でみると、「夫婦のみ世帯」と「その他」の世帯では、第1位から第3位までの順位が「全体」と同じ傾向を示している一方、「単身世帯」では、「外出同行（通院、買い物など）」が29.1%で最も多くなっていることが特徴です。

要介護度別では、すべての要介護度で、第1位から第3位までの順位は「全体」と同じ傾向を示しています。一方で、「ゴミ出し」については、「要支援1～2」が相対的に多くなっています。

【5. 高齢者福祉や介護保険等について】

1) 福祉や介護に関する相談者

福祉や介護に関して相談する人は、「ケアマネジャー」が64.1%で最も多く、「家族・親族」（44.0%）、「施設・病院の職員」（14.7%）となっており、専門職と身近な支援者の双方が相談先としての役割を担っていることがうかがえます。これは、前回調査と概ね同様の傾向です。

2) 成年後見制度の認知度

成年後見制度（判断力が低下した方への法的な支援制度）の認知度は、「名前だけは聞いたことがある」が50.0%で半数を占めている一方で、「制度の内容も概ね知っている」は2割未満に留まっており、制度の存在自体は一定程度知られているものの、具体的な内容まで理解されている層は限られていることがうかがえます。また、「知らない」との回答も3割近くみられ、認知度には課題があると言えます。世帯類型別では、「単身世帯」は、「制度の内容も概ね知っている」の割合が21.4%で他の世帯よりも多く、「知らない」の割合も相対的に少なくなっています。

また、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の同じ設問（問 56）と比較すると、「制度の内容も概ね知っている」が 6.9 ポイント少なく、「知らない」は 6.5 ポイント多くなっており、要介護認定を受けていない高齢者と比べて認知度は低い傾向がみられます。介護が必要な状態にある人やその家族に対しても、制度の周知が十分に行き届いていないことが考えられます。

成年後見制度については、名称の認知から内容理解へとつなげるための普及啓発が重要であり、特に制度の利用が想定される層に対して、具体的な活用場面や手続きについてわかりやすく情報提供を行う必要があると考えられます。

3) 認知症について関心のあること

認知症について関心のあることは、「認知症の予防に効果的な方法」が 35.1%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」（29.5%）、「認知症の人の介護の仕方」（20.4%）となっており、発症予防や早期発見といった初期段階への関心が特に高いことがうかがえます。この傾向は、前回調査と概ね同様です。

世帯類型別では、いずれの世帯類型においても、認知症に関する関心事の第1位と第2位は、「全体」の傾向と同様、「認知症の予防に効果的な方法」が最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」となっていますが、「認知症の人の介護の仕方」と「認知症の人や家族を支える地域の活動」の割合は、「その他」の世帯が「単身世帯」よりも5ポイント以上多くなっています。一方で、「認知症を正しく理解するための講座」の割合は、「単身世帯」が「その他」の世帯よりも5ポイント以上多くなっています。

要介護度でみると、いずれの要介護度においても、認知症に関する関心事の第1位と第2位は、「全体」の傾向と同様ですが、「要支援1～2」においてその割合が相対的に高くなっています。比較的自立度の高い段階において、将来のリスクに備えようとする意識が高いことを反映していると考えられます。一方で、「認知症の人や家族を支える地域の活動」の割合は、「要支援1～2」が相対的に少なくなっています。

4) 保険料と介護保険サービスの利用

保険料と介護保険サービスの利用に関する考えを尋ねたところ、「市の介護保険料の基準額が高くなっても、十分に施設や在宅サービスを整備する」（10.5%）と「市の介護保険料の基準額が多少高くなっても、ある程度施設や在宅サービスを整備する」（31.5%）を合わせた「施設や在宅サービスを整備する」の割合が 42.0%で4割を超えています。一方で、「市の介護保険料の基準額が高くならないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」は 27.5%、「わからない」も 21.3%となっており、負担とサービスのバランスに対する意識が分かれています。

なお、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の同じ設問（問 62）とほぼ同様の傾向となっており、在宅介護を受けているか否かに関わらず、一定の負担増を許容してでもサービスを整備してほしいと考える人の方が多くなっています。

年代別にみると、年代が低いほど、「市の介護保険料の基準額が高くならないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」の割合が多くなっており、74歳以下では3割を上回っています。世帯類型では、「単身世帯」は、他の世帯と比較して「市の介護保険料の基準額が高くなら

ないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」の割合が多く3割を上回っており、保険料負担の増加に対して敏感であることが影響していると考えられます。

要介護度では、要介護度が高いほど、「市の介護保険料の基準額が高くないように、施設や在宅サービスの整備を限定する」の割合が多くなっており、「要介護3～5」では3割を上回っています。実際にサービスを利用する立場にあるほど、費用負担の実感が強く、負担増に対する懸念が大きくなるためだと考えられます。

5) 高齢者への対応として、今後行政に期待すること

高齢者への対応として、今後行政に期待することは、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が44.1%で最も多く、次いで「緊急時や災害時の対策」(32.1%)、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(31.7%)となっており、在宅生活を前提としたサービス基盤の強化とともに、リスク対応や家族支援へのニーズが高いことがうかがえます。

世帯類型別では、すべての世帯類型で、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が4割を超え最も多くなっていますが、第2位の内容には違いがみられます。「単身世帯」では「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」(38.2%)となっており、将来的な在宅生活の継続困難に備えた受け皿として施設整備を求める意識が強いと考えられます。一方で、「夫婦のみ世帯」(34.5%)と「その他」(36.5%)では「在宅で介護する家族に対する支援の充実」となっており、家族介護の負担軽減に対するニーズが高いことがわかります。

日常生活圏域別では、日勝圏域と篠津・大山圏域の両圏域とも、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が4割を超え最も多くなっていますが、第2位の内容に地域差がみられます。日勝圏域では「デイサービスなど通所サービスの充実」(32.9%)、篠津・大山圏域では「緊急時や災害時の対策」と「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が33.0%となっています。

要介護度でみると、すべての要介護度において、「自宅で受ける介護保険サービスの充実」が4割を超えて最も多くなっていますが、第2位の内容は、要介護度によって異なっています。「要支援1～2」は「緊急時や災害時の対策」(34.5%)、「要介護1～2」は「デイサービスなど通所サービスの充実」(37.5%)、「要介護3～5」は「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(38.1%)となっており、心身の状態に応じて必要とされる支援の内容が変化していることがうかがえます。また、「要介護3～5」では、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」の割合が「要支援1～2」と「要介護1～2」と比較して多くなっており、在宅生活の限界を見据えた支援ニーズがうかがえます。

【6. 介護者の状況について】

1) 家族や親族からの介護の日数

家族や親族からの1週間当たりの介護日数は、「ほぼ毎日ある」が32.1%で最も多く、「週に1～2日ある」、「週に3～4日ある」、「ほぼ毎日ある」を合わせた週1日以上介護がある割合も約半数に達していることから、在宅生活を支える上で家族・親族の関与が大きな役割を果た

していることがうかがえます。一方で、「(介護は) ない」(26.3%) との回答も4分の1程度を占めており、家族等の支援を前提としない在宅生活者も一定程度存在しています。

世帯類型別にみると、家族や親族からの介護が週に1日以上ある割合は、「その他」の世帯が57.0%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」(45.4%)、「単身世帯」(40.9%)となっています。また、「単身世帯」は、「(介護は) ない」と「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」を合わせた割合が44.6%で、日常的な支援を受けにくい状況にあることがわかります。単身高齢者に対しては、家族以外の支援体制の充実がより重要になると考えられます。要介護度別では、家族や親族からの介護が週に1日以上ある割合は、「要介護1～2」が60.2%で最も多く、次いで「要介護3～5」(58.8%)、「要支援1～2」(33.1%)となっています。

2) 主な介護者と年齢

主な介護者は、「子」が52.2%で過半数を占め、次いで「配偶者」(33.5%)となっており、在宅介護は主に子世代および配偶者によって担われている状況が確認できます。「子の配偶者」(5.1%)の割合は限定的であり、介護の担い手が直系家族に集中している傾向がうかがえます。

世帯類型別でみると、「単身世帯」では、「子」の割合が81.8%で大半を占めており、別居する子による支援が中心となっていると考えられます。一方、「夫婦のみ世帯」では、「配偶者」の割合が75.2%と最も多く、「子」の割合は17.4%となっており、老老介護の実態がうかがえます。「その他」の世帯では、「子」の割合が58.7%で最も多いものの、「配偶者」も25.4%で一定の割合を占めています。要介護度別では、要介護度が高くなるほど、「配偶者」の割合が増え、「子」の割合が減っており、「要介護3～5」では、「配偶者」と「子」の割合が4割台で概ね同程度になっています。重度化に伴い、「配偶者」が介護の中心的役割を担うケースが増えていると考えられます。

主な介護者の年齢は、「50代」(28.5%)と「60代」(26.4%)が中心ではあるものの、「70代」と「80代」が18.5%で一定の割合を占めており、幅広い年齢層が介護を担っていることがわかります。この傾向は、前回調査と概ね同様です。回答者の年代別では、60代以上の介護者の割合が「74歳以下」では75.0%、「75～84歳」では53.1%、「85歳以上」では69.0%となっています。また、要介護度が高くなるほど、「50代」の割合が減り、「70代」の割合が増えています。「要介護3～5」では、60代以上の介護者の割合が7割を超えており、介護の重度化とともに介護者の高齢化が進行している状況がうかがえます。

3) 主な介護者による介護の内容

主な介護者が行っている介護の内容は、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が76.6%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(73.6%)、「食事の準備(調理等)」(63.5%)となっています。日常生活を支える支援が中心となっており、在宅介護が生活全般にわたる包括的な支援によって成り立っていることがうかがえます。特に、これらの項目はいずれも高い割合を占めており、身体介護に限らず、生活支援の比重が大きいことがわかります。

前回調査と比較すると、上位5項目は概ね同様の傾向ですが、第6位以降の項目で、5ポイント以上少なくなっている項目が5つありました。「衣服の着脱」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「屋内の移乗・移動」、「日中の排泄」が該当項目ですが、身体介護に関す

る項目が多く、家族介護の中心が比較的負担の軽い生活支援にシフトしていることや、身体介護については介護保険サービス等の外部資源の活用が進んでいることが考えられます。

要介護度別にみると、すべての要介護度において、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「外出の付き添い、送迎等」の割合が7割を超えています。「要介護3～5」では、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（74.0%）と「食事の準備（調理等）」（72.7%）も7割を超えています。また、「外出の付き添い、送迎等」と「認知症状への対応」を除き、他のすべての項目において、要介護度が高くなるほど、回答割合が多くなっており、介護内容が量的・質的に拡大していることがわかります。特に、「要支援1～2」と「要介護3～5」との間に20ポイント以上の差がある項目も10項目あることから、状態の重度化に伴い、家族介護者の負担が増大している状況がうかがえます。

4) 介護のために仕事を辞めた家族等の有無

家族や親族で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた人がいるか尋ねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が66.1%で、約3分の2を占めており、多くの世帯においては仕事を継続しながら介護を担っている状況がうかがえます。一方で、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（7.7%）や「主な介護者が転職した」（2.1%）と介護が就業継続に影響を及ぼしているケースが存在していることも確認できます。この傾向は、前回調査と概ね同様です。

世帯類型別にみると、「その他」の世帯は、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」の割合が1割を上回って多くなっています。一方、「夫婦のみ世帯」ではその割合が低くなっていますが、そもそも配偶者が就労していないことが背景にあることが考えられます。

要介護度別にみると、すべての要介護度において、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も多くなっており、「要介護1～2」（70.2%）と「要介護3～5」（68.0%）は、「要支援1～2」（57.7%）よりも10ポイント以上回答割合が多くなっています。これは、要介護認定を受けている層では、既に就業していない家族が介護を担っているという可能性も考えられます。

5) 介護者の勤務形態

主な介護者の現在の勤務形態は、「働いていない」が42.5%で最も多いものの、「フルタイム」（23.0%）と「パートタイム」（17.8%）を合わせた就業者の割合も4割を超えており、就労と介護を両立している層が相当数存在していることがわかります。

世帯類型別でみると、世帯類型によって主な介護者の方の現在の勤務形態は異なっています。「単身世帯」では「フルタイム」が38.8%で最も多く、就業している子世代などが別居しながら介護を担っている状況が想定されます。一方、「夫婦のみ世帯」（56.4%）と「その他」の世帯（45.2%）では、「働いていない」が最も多くなっています。また、「その他」の世帯では、「フルタイム」（22.6%）と「パートタイム」（20.2%）を合わせた就業者の割合は4割を超えています。

要介護度別では、要介護度が高くなるほど、「働いていない」の割合が増えており、「要介護3～5」では半数が働いていません。また、「フルタイム」と「パートタイム」を合わせた就業

者の割合は、「要支援1～2」と「要介護1～2」では4割を超えていますが、「要介護3～5」では3割前半となっています。

6) 介護者の働き方の調整状況

就業している主な介護者の働き方の調整状況をみると、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」と「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」の割合が32.6%で3割を超え、就業と介護を両立するために多くの介護者が何らかの対応を講じていることがわかります。一方で、「特に行っていない」も約3割おり、介護の状況や就業環境によって対応の必要性や可能性に差があることがうかがえます。

前回調査と比較すると、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」の割合が6.5ポイント減った一方で、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」の割合は5.5ポイント増えています。日常的な勤務時間の柔軟化よりも、必要に応じて休暇を取得する形で介護に対応する傾向が強まっている可能性が考えられます。

世帯類型別では、「単身世帯」では「特に行っていない」が36.0%で最も多く、「夫婦のみ世帯」では「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」(46.9%)、「その他」の世帯では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」(37.0%)が最も多くなっています。また、「夫婦のみ世帯」では、「介護のために、『在宅勤務』を利用しながら、働いている」の割合が1割半ばで他の世帯より多くなっており、さらに、「特に行っていない」の割合が約1割と少なく、ほとんどの介護者が何らかの調整を行いながら、就業と介護の両立に向けた対応を進めていることがわかります。

また、要介護度によって、主な介護者の働き方の調整内容は異なっています。「要支援1～2」では「特に行っていない」が42.0%で最も多く、「要介護1～2」では「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」(36.3%)、「要介護3～5」では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」(42.0%)が最も多くなっています。また、「特に行っていない」の割合が、「要介護1～2」と「要介護3～5」では3割未満であり、7割前後が何らかの働き方の調整を行っています。

7) 介護者の就労継続の見込み

就業している主な介護者の就労継続の見込みについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が53.7%で最も多く、「問題なく、続けていける」(20.2%)と合わせると7割を超えており、多くの介護者が一定の困難を抱えつつも、就労と介護の両立を継続する意向を示していることがわかります。一方で、「続けていくのは、やや難しい」(12.4%)、「続けていくのは、かなり難しい」(5.0%)を合わせると2割近くになり、両立が困難な層も一定程度存在しています。

前回調査と比較すると、「問題なく、続けていける」が5.1ポイント増え、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」割合

は、6.0 ポイント減っており、全体としては両立可能性に対する認識がやや改善していると考えられます。

世帯類型別でみると、すべての世帯類型で、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた「続けていける」の割合は7割を超えている一方で、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」割合は、すべての世帯類型で1割を超えており、特に「その他」の世帯では2割を超えています。

要介護度別では、「要支援1～2」と「要介護1～2」で、「続けていける」の割合は7割を超えていますが、「要介護3～5」では6割前半となっています。また、「続けていくのは難しい」割合は、「要介護3～5」で3割となっており、介護の重度化に伴い、就労との両立がより困難になることを示していると考えられます。

在宅生活維持の難しさ別でみると、現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなってきたと回答した人は、「続けていくのは、やや難しい」(25.7%)と「続けていくのは、かなり難しい」(20.0%)を合わせた「続けていくのは難しい」の割合が45.7%で、半数近くが今後も働きながら介護を続けていくことは難しいと感じています。一方で、在宅生活の維持が難しくなってきたと回答した人は、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた「続けていける」の割合が88.3%で、大半が続けていけると感じています。在宅生活の安定性が就労継続の可否に大きく影響していることがうかがえます。

8) 介護者が望む勤務先からの支援内容

就業している主な介護者が、仕事と介護の両立に効果があるとする勤務先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が34.4%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(31.2%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」と「介護をしている従業員への経済的な支援」が25.7%となっています。

前回調査と比較すると、前回最も多かった「介護をしている従業員への経済的な支援」(31.3%)の項目が、今回は5.6ポイント減り第3位となっています。一方で、前回調査で第4位だった「制度を利用しやすい職場づくり」は6.2ポイント増え第2位となっています。単なる金銭的支援よりも、制度を実効的に活用できる職場環境や、心理的・制度的な利用のしやすさがより重視される傾向に変化している可能性も考えられます。

9) 介護者が不安に感じている介護の内容

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等について尋ねたところ、「外出の付き添い、送迎等」が22.1%で最も多く、次いで「認知症状への対応」(20.0%)、「夜間の排泄」(14.0%)となっています。日常生活における移動支援や認知症対応、身体介護の中でも負担の大きい場面に不安が集中していることがわかります。これらは継続的かつ突発的な対応が求められる場面であり、介護者の心理的・身体的負担の大きさが背景にあると考えられます。

前回調査と比較すると、項目の順位は概ね同様ですが、5ポイント以上減っている項目が6つありました。上位3つに加え、「入浴・洗身」、「食事の準備（調理等）」、「日中の排泄」が該当しますが、「無回答」の割合が前回調査よりも18.2ポイント増え3割近いことも、上記6項目の割合が減った要因として考えられます。

世帯類型別にみると、すべての世帯類型において、上位の順位は概ね「全体」と同様となっています。一方で、「単身世帯」は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（21.5%）と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（14.9%）において、他の世帯類型より多くなっています。また、「夫婦のみ世帯」では、各項目の割合がすべて2割を下回っており、「単身世帯」や「その他」の世帯よりも不安を感じる介護等が少ない傾向にあります。

要介護度別では、すべての要介護度において、「外出の付き添い、送迎等」と「認知症状への対応」は上位を占めています。一方で、「要介護3～5」では、「夜間の排泄」や「日中の排泄」の割合が多くなっており、要介護度の重度化に伴い、昼夜を問わない身体介護への対応が求められることに対して、介護者の不安が大きくなっていることを示しています。

介護者の就労継続の見込み別でみると、今後も働きながら介護を続けていけそうかとの問（問35）に、「続けていくのは、やや難しい」と回答した人が不安を感じる介護は「食事の準備（調理等）」が25.0%で最も多く、次いで「外出への付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が上位を占めています。また、「続けていくのは、かなり難しい」と回答した人が不安を感じる介護は「入浴・洗身」と「日中の排泄」が33.3%で最も多く、次いで、「外出への付き添い、送迎等」、「夜間の排泄」となっています。

介護者の不安は、要介護度や生活状況、就労状況に応じて多様であるものの、特に移動支援、認知症対応、排泄介助といった負担の大きい領域に集中している傾向がみられます。これらの負担軽減に資する介護サービスの充実や、専門的支援の強化、レスパイト支援の拡充などが、介護者の不安軽減および在宅生活の継続に向けて重要であると考えられます。

10) 介護する上で困っていること

主な介護者が介護する上で困っていることは、「精神的な負担が大きい」が46.8%で最も多く、次いで「身体的な負担が大きい」（37.5%）、「金銭的な負担が大きい」（26.8%）となっており、在宅介護においては心理的負担を中心に、身体面・経済面の負担が重層的に生じていることがわかります。「特にない」との回答も2割みられるものの、全体としては何らかの負担を感じている介護者が多数います。この傾向は、前回調査と概ね同様です。

世帯類型別にみると、すべての世帯類型において、上位項目は「全体」と同様ですが、「その他」の世帯は、「精神的な負担が大きい」（51.6%）の割合が他の世帯類型よりも多くなっています。また、「夫婦のみ世帯」（43.0%）と「その他」の世帯（39.3%）では、「身体的な負担が大きい」の割合が「単身世帯」（28.9%）よりも10ポイント以上多く、同居による日常的な身体介護の負担が影響していると考えられます。

要介護度別でみると、すべての要介護度において、上位項目は「全体」と概ね同様です。また、「精神的な負担が大きい」、「身体的な負担が大きい」、「金銭的な負担が大きい」のいずれにおいても、要介護度が高くなるほど割合が多くなり、精神的と身体的な負担に関しては、「要介

護3～5」で半数を超えています。これは、介護の重度化に伴い、介護者の負担が量的にも質的にも大きくなることを示しています。また、「要支援1～2」では、「本人がサービスを希望しない」(21.1%)が第3位に挙げられており、比較的軽度の段階では、サービス利用に関する本人の意向が介護上の課題となっている点が特徴的です。

認知症診断別でみると、認知症と診断されている場合は、診断されていない場合よりも、すべての項目において介護する上での困り事の割合が多くなっています。特に「精神的な負担が大きい」(64.6%)の割合は、20ポイント以上多くなっています。認知症特有の行動・心理症状への対応や見通しの立ちにくさ等が、介護者の心理的負担を増大させていると考えられます。

在宅生活維持の難しさ別でみると、在宅生活の維持が難しくなっているという回答した人は、難しくなっていない人よりも、概ねすべての項目において介護する上での困り事の割合が多くなっています。特に精神的と身体的な負担に関しては、30ポイント以上多くなっており、介護負担の大きさが在宅生活の継続困難感と強く結びついていることがわかります。

在宅介護における課題は精神的負担を中心としつつ、身体的・経済的負担が重層的に重なっている構造にあり、特に重度者や認知症のある人を介護する場合にその傾向が顕著です。

11) 介護する家族への支援で重要なこと

在宅で介護する家族等への支援として重要だと思うことは、「介護者の自由な時間があること」が36.7%で最も多く、次いで「介護サービスがもっと利用できること」(29.0%)となっており、介護者の負担軽減、とりわけ時間的余裕の確保が強く求められていることがわかります。また、「デイサービスやデイケアなどでの様子を知る機会があること」の項目も約2割の回答があり、サービス利用時の安心感や情報共有の充実に対するニーズもみられます。前回調査と比較すると、「他の家庭がどんな介護をしているのか知る機会があること」(13.5%)が5.8ポイント減ったものの、他の項目は前回調査と概ね同様の傾向です。

世帯類型別にみると、すべての世帯類型において上位項目は「全体」と同様ですが、特に、「その他」の世帯で、「介護者の自由な時間があること」の割合が4割を超えて多くなっています。また、「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」でも3割台となっており、世帯類型にかかわらず、介護者の時間的負担が共通の課題となっています。

要介護度別でみると、「要介護1～2」と「要介護3～5」では、上位項目は「全体」と概ね同様ですが、「要支援1～2」では「介護サービスがもっと利用できること」が26.0%で最も多く、次いで「デイサービスやデイケアなどでの様子を知る機会があること」となっています。

認知症の診断別では、認知症と診断されている場合は、診断されていない場合と比べて、「介護者の自由な時間があること」、「介護サービスがもっと利用できること」、「本人の状態の維持や改善の方法について、知る機会があること」、「介護や認知症についてもっと周りの理解があること」の4つの項目で割合が高くなっています。特に、「介護者の自由な時間があること」(43.8%)は4割を超えています。これは、認知症介護における負担の大きさとともに、社会的理解や情報提供の必要性が高いことを示しています。

在宅生活維持の難しさ別でみると、在宅生活の維持が難しくなっていると感じている人は、「介護サービスがもっと利用できること」の割合が半数近く、難しくなっていると感じていない人よりも20ポイント以上多くなっており、ニーズの高さがうかがえます。一方で、「介護者の自由な時間があること」については、在宅生活の維持の難しさに関わらず4割を超えて多く、すべての介護者に共通するニーズであることがわかります。

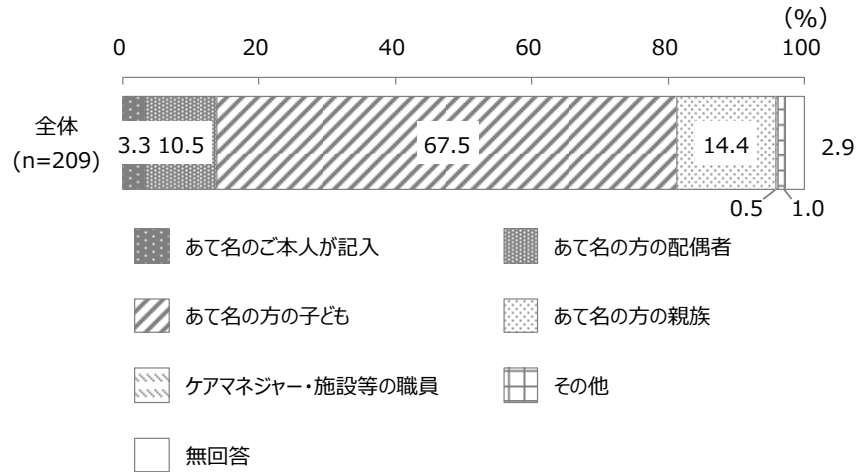
在宅介護を支えるためには、介護者の時間的負担を軽減する支援とともに、必要な介護サービスを十分に利用できる環境の整備が重要となっています。また、認知症対応や情報提供、地域の理解促進など、多面的な支援を組み合わせることが、介護者支援の充実に向けて求められています。

第3章

施設サービス利用者調査

調査票を記入されたのはどなたですか。[1つに○]

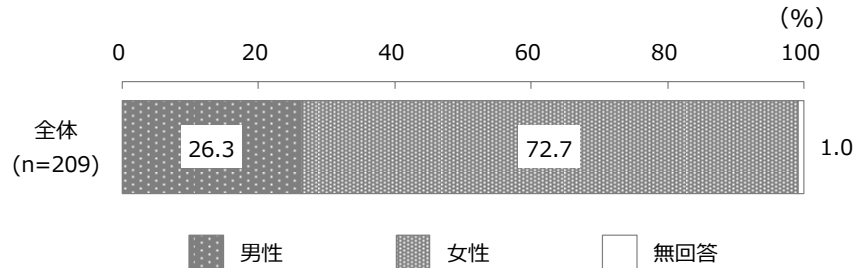
「あて名の方の子ども」が 67.5%で最も多く、次いで「あて名の方の親族」(14.4%)、「あて名の方の配偶者」(10.5%)となっています。また、「あて名のご本人が記入」は 3.3%となっています。



1. 回答者の属性

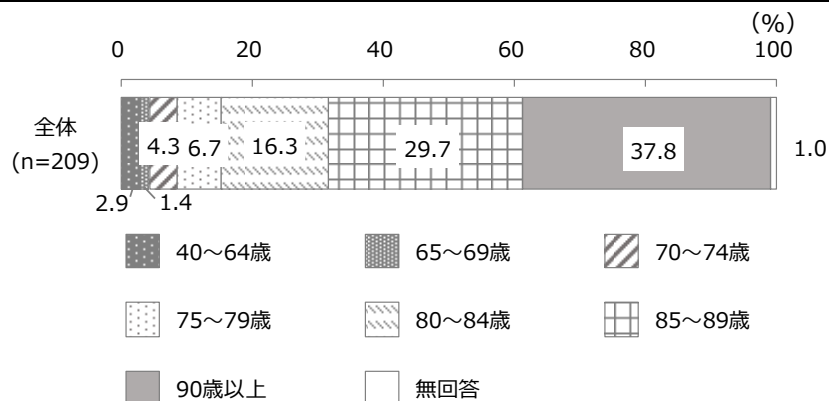
問1 性別を教えてください。[1つに○]

「女性」が 72.7%で、「男性」(26.3%) より多くなっています。



問2 12月1日現在、何歳ですか。[1つに○]

「90歳以上」が 37.8%で最も多く、次いで「85～89歳」(29.7%)、「80～84歳」(16.3%)となっています。65～74歳までの前期高齢者が 5.7%である一方、75歳以上の後期高齢者は 90.5%で、大半を占めています。また、「40～64歳」は 2.9%となっています。



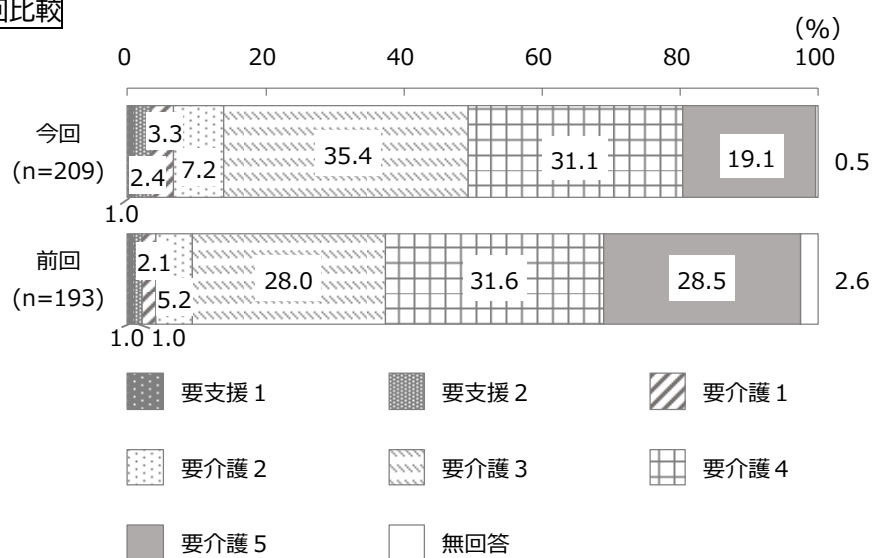
問3 現在の介護度はいくつですか。〔1つに○〕

全体 「要介護3」が35.4%で最も多く、次いで「要介護4」(31.1%)、「要介護5」(19.1%)となっています。「要介護3」、「要介護4」、「要介護5」を合わせた中重度の高齢者の割合は85.6%となり、大半を占めています。

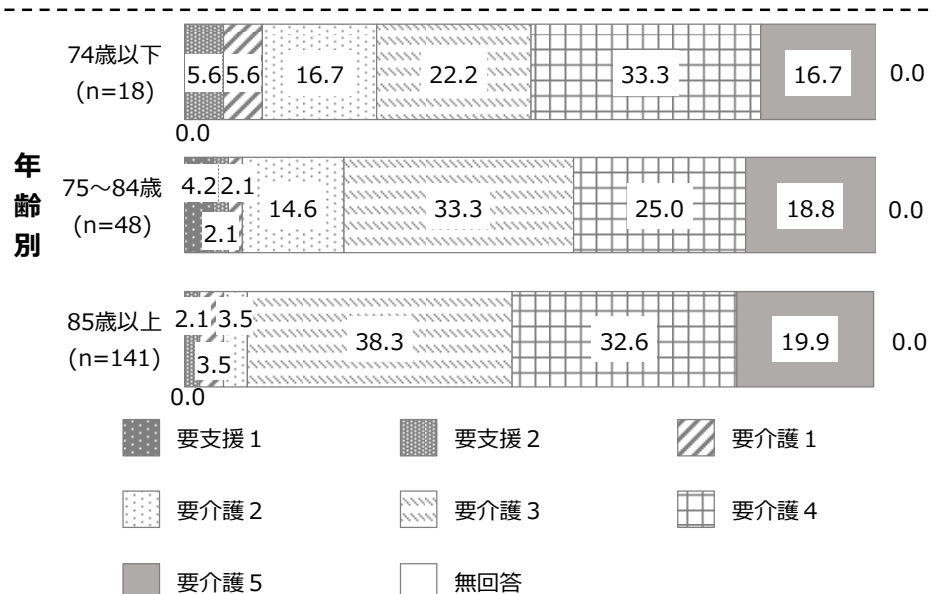
前回比較 前回調査と比較すると、「要介護5」が9.4ポイント減少している一方、「要介護3」は7.4ポイント増加しています。

年齢 年代が高くなるほど、「要介護3」の割合が多くなり、85歳以上は、74歳以下と比較して16.1ポイント多く、約4割となっています。一方で、「要支援1」から「要介護2」までを合わせた比較的軽度の高齢者の割合は、年代が高くなるほど少なくなり、85歳以上では1割を下回っています。

全体・前回比較



属性別比較



問4 医師に「認知症」と診断されていますか。[1つに○]

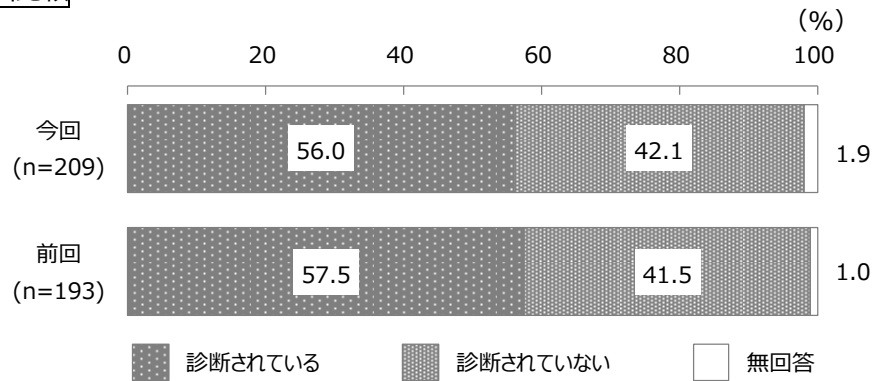
全体 「診断されている」が56.0%で、「診断されていない」(42.1%)より多くなっています。

前回比較 前回調査と概ね同様の傾向です。

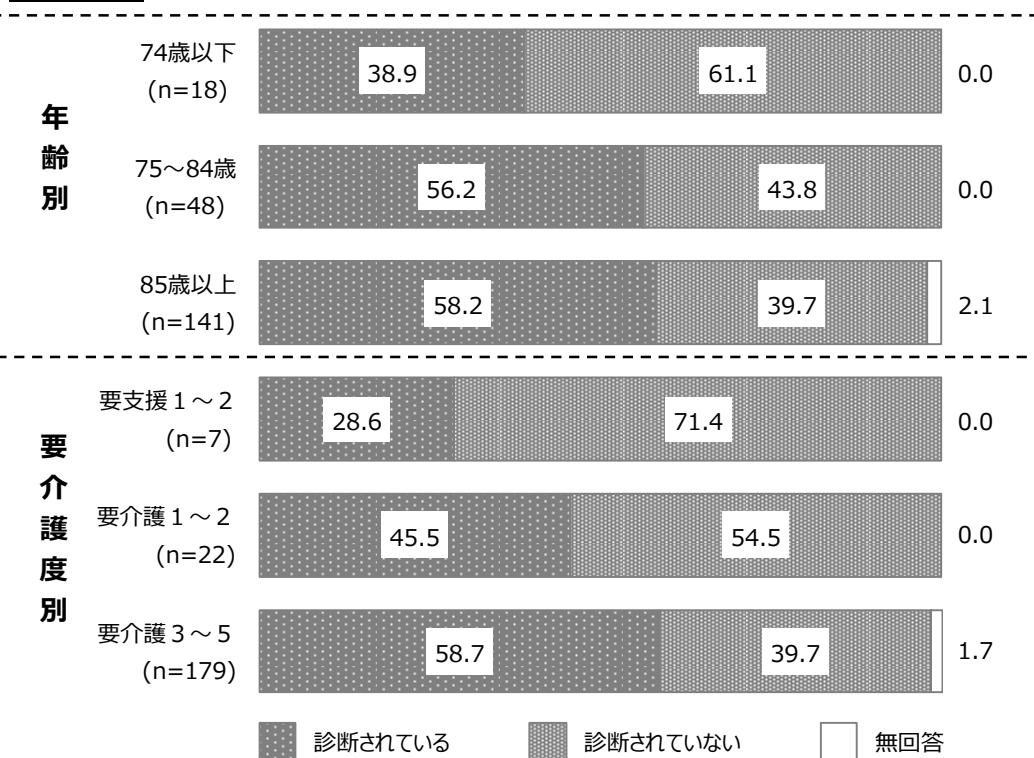
年齢 年代が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、85歳以上は74歳以下と比較して19.3ポイント多く、約6割となっています。

要介護度 要介護度が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、「要介護3～5」は、「要支援1～2」と比較して30.1ポイント多く、約6割となっています。

全体・前回比較



属性別比較



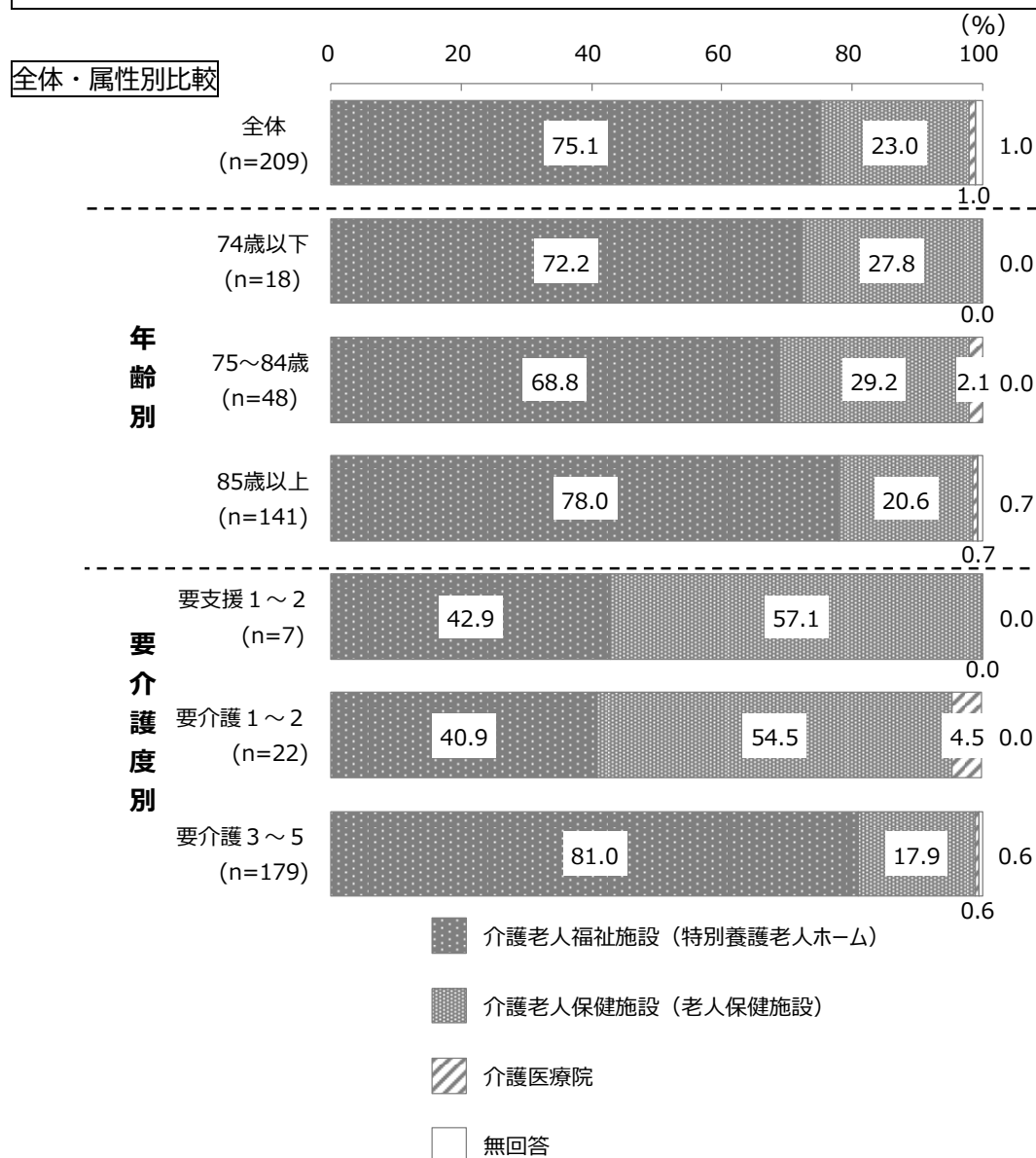
2. 入所している施設について

問5 入所している施設の種類のほかはどれですか。〔1つに〇〕

全体 「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が75.1%で最も多く、次いで「介護老人保健施設（老人保健施設）」（23.0%）、「介護医療院」（1.0%）となっています。

年齢 85歳以上は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の割合が約8割で、75～84歳と74歳以下よりも多くなっている一方、「介護老人保健施設（老人保健施設）」の割合は約2割で、他の年代よりも少なくなっています。

要介護度 「要支援1～2」と「要介護1～2」は「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の割合が4割前半、「介護老人保健施設（老人保健施設）」の割合が5割台で、概ね同様の傾向にありますが、「要介護3～5」は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の割合が8割を超え、大半を占めています。

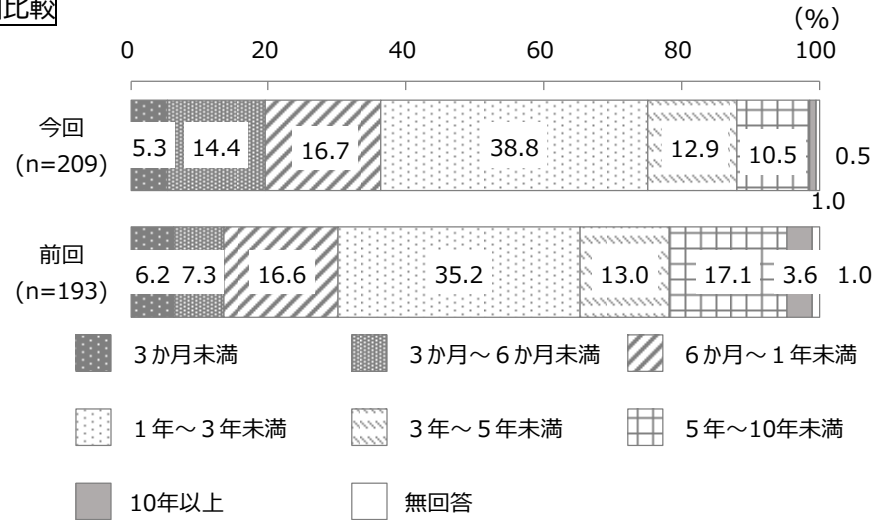


問6 現在の施設に入所されてから、どのくらいたちますか。[1つに○]

全体 「1年～3年未満」が38.8%で最も多く、次いで「6か月～1年未満」(16.7%)、「3か月～6か月未満」(14.4%)となっています。

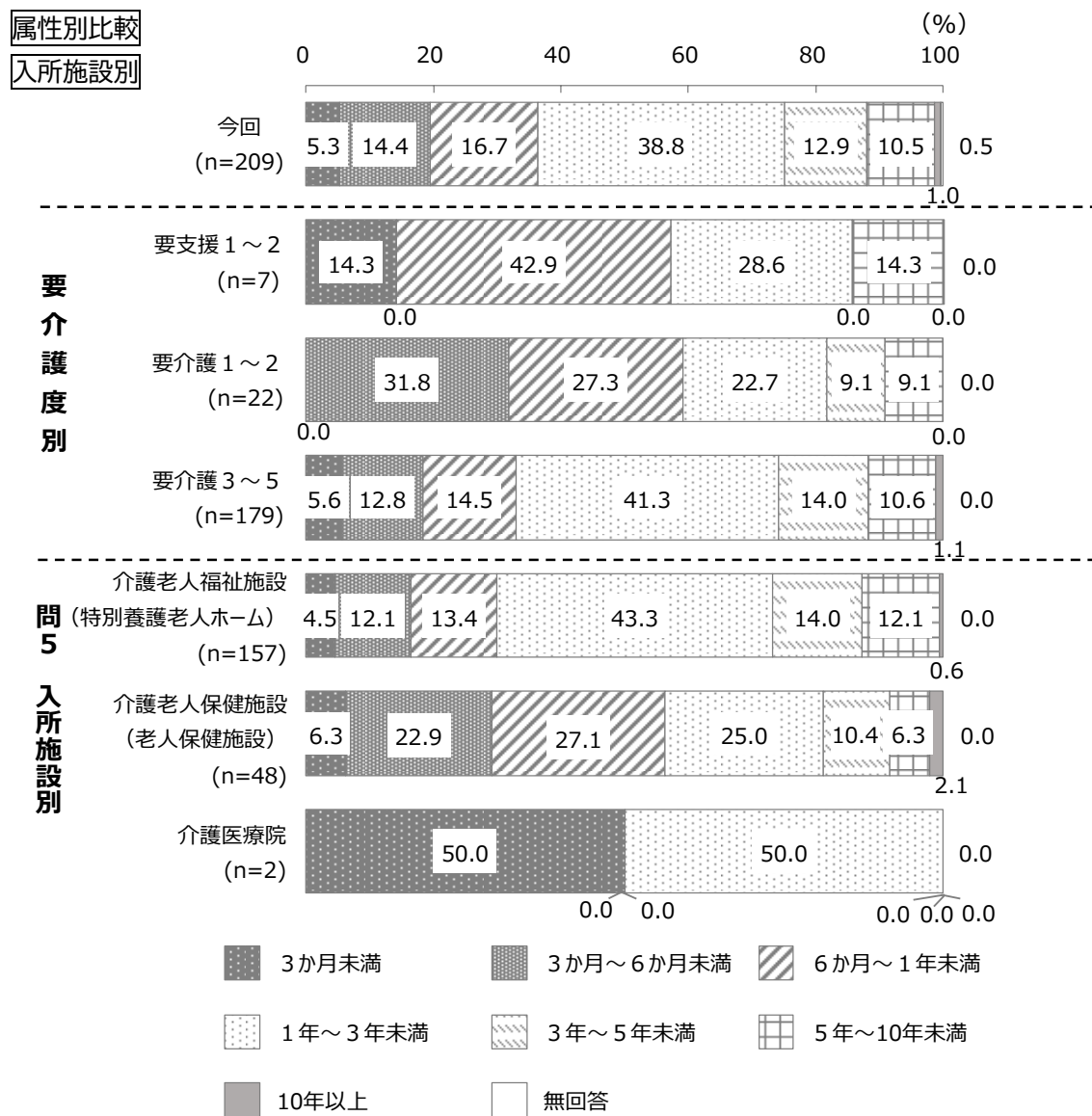
前回比較 前回調査と比較すると、「3年～5年未満」、「5年～10年未満」、「10年以上」を合わせた3年以上入所している割合が、9.3ポイント少なくなっており、入所期間が3年未満の割合が増えています。

全体・前回比較



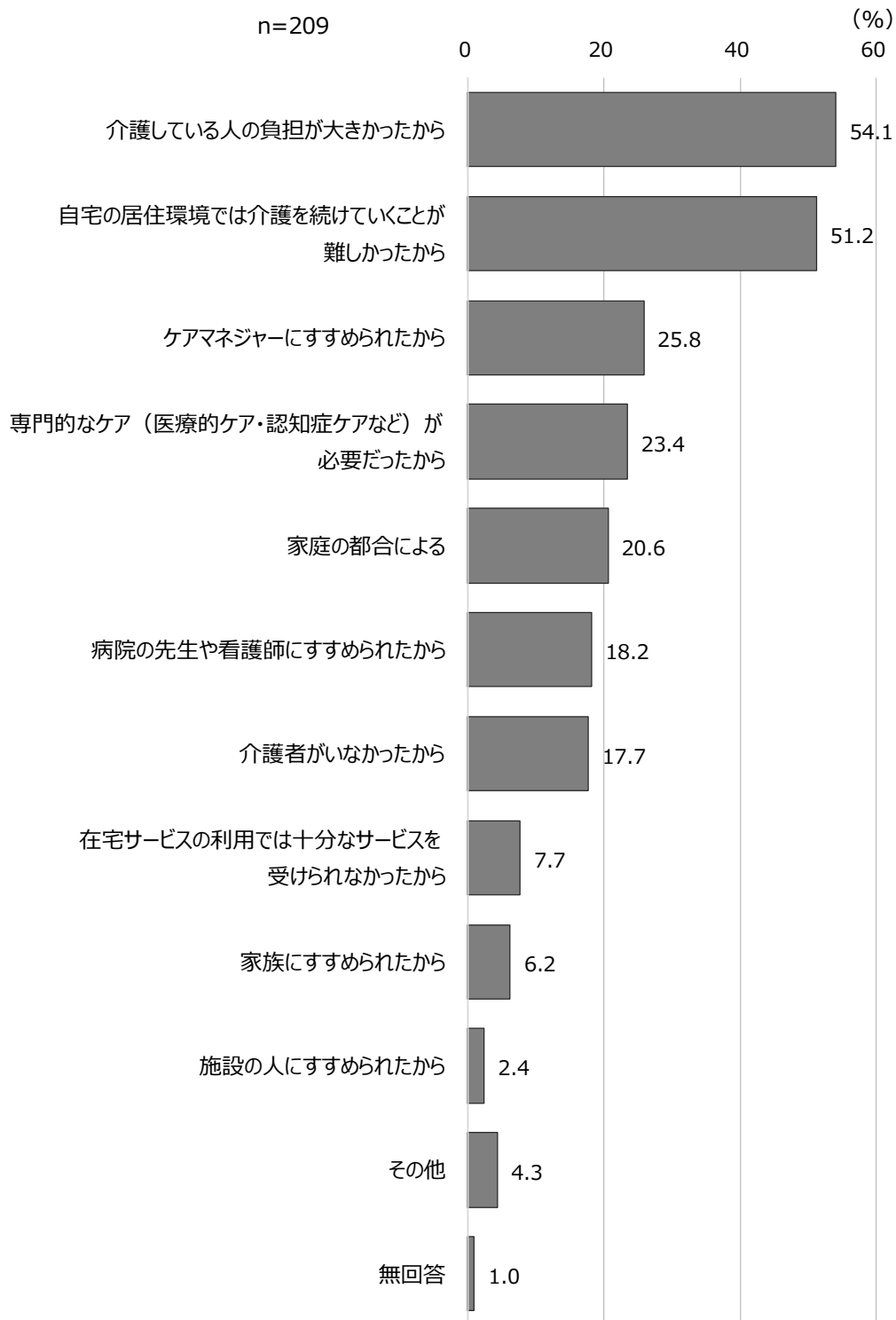
要介護度 「3か月未満」、「3か月～6か月未満」、「6か月～1年未満」を合わせた入所期間が1年未満の割合が、「要支援1～2」と「要介護1～2」の比較的低度の高齢者では5割後半である一方、「要介護3～5」の中重度の高齢者では3割前半と少なくなっています。また、「要介護3～5」では、入所期間が1年以上の割合が7割近くとなっています。

入所施設 問5の入所施設別に比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、入所期間が1年以上の割合が約7割である一方、介護老人保健施設（老人保健施設）は4割前半となっており、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の方が入所期間が長くなっています。



問7 どのような理由で入所しましたか。[〇は3つまで]

「介護している人の負担が大きかったから」が54.1%で最も多く、次いで「自宅の居住環境では介護を続けていくことが難しかったから」(51.2%)、「ケアマネジャーにすすめられたから」(25.8%)となっています。

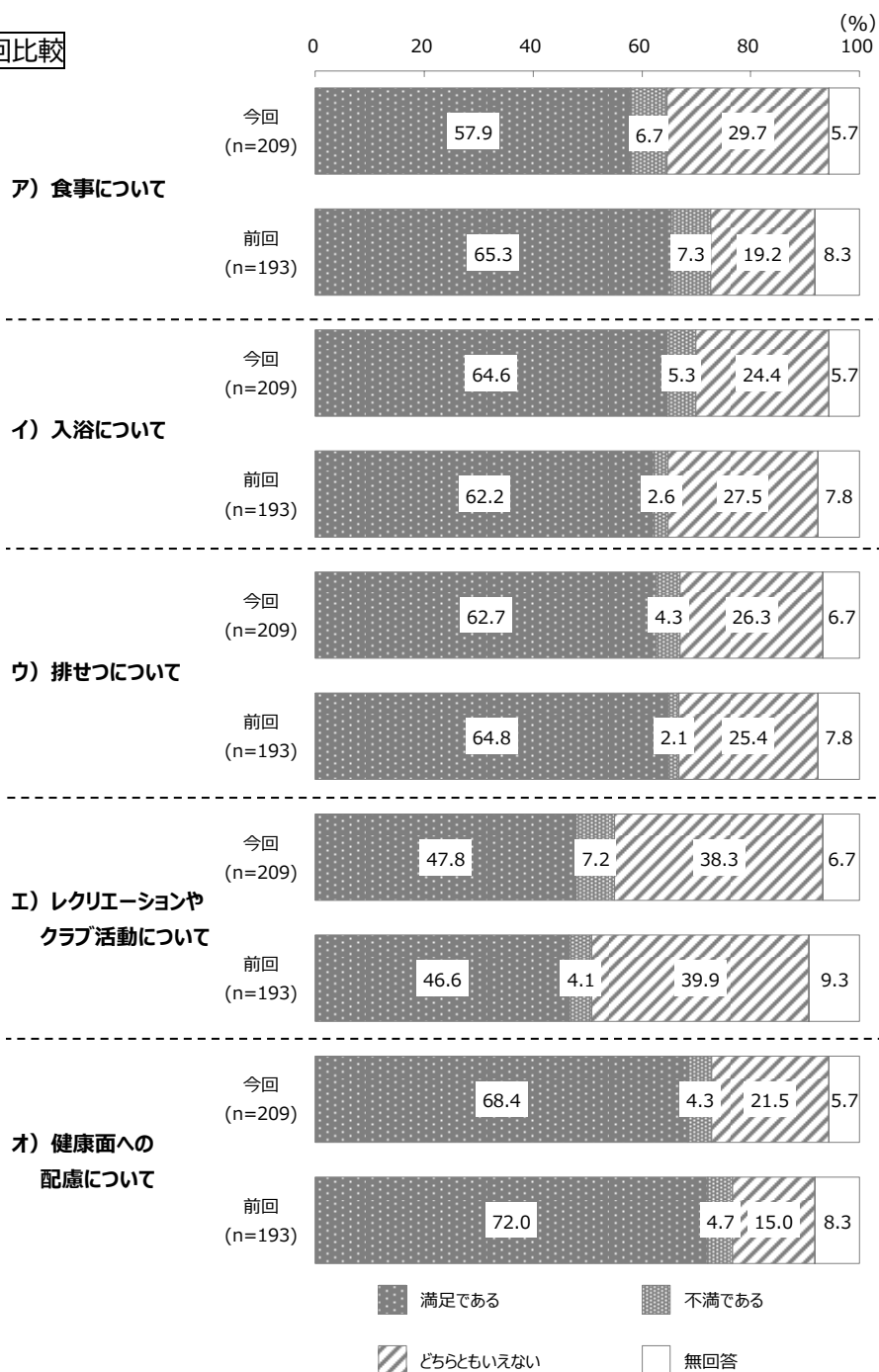


3. 施設のサービスについて

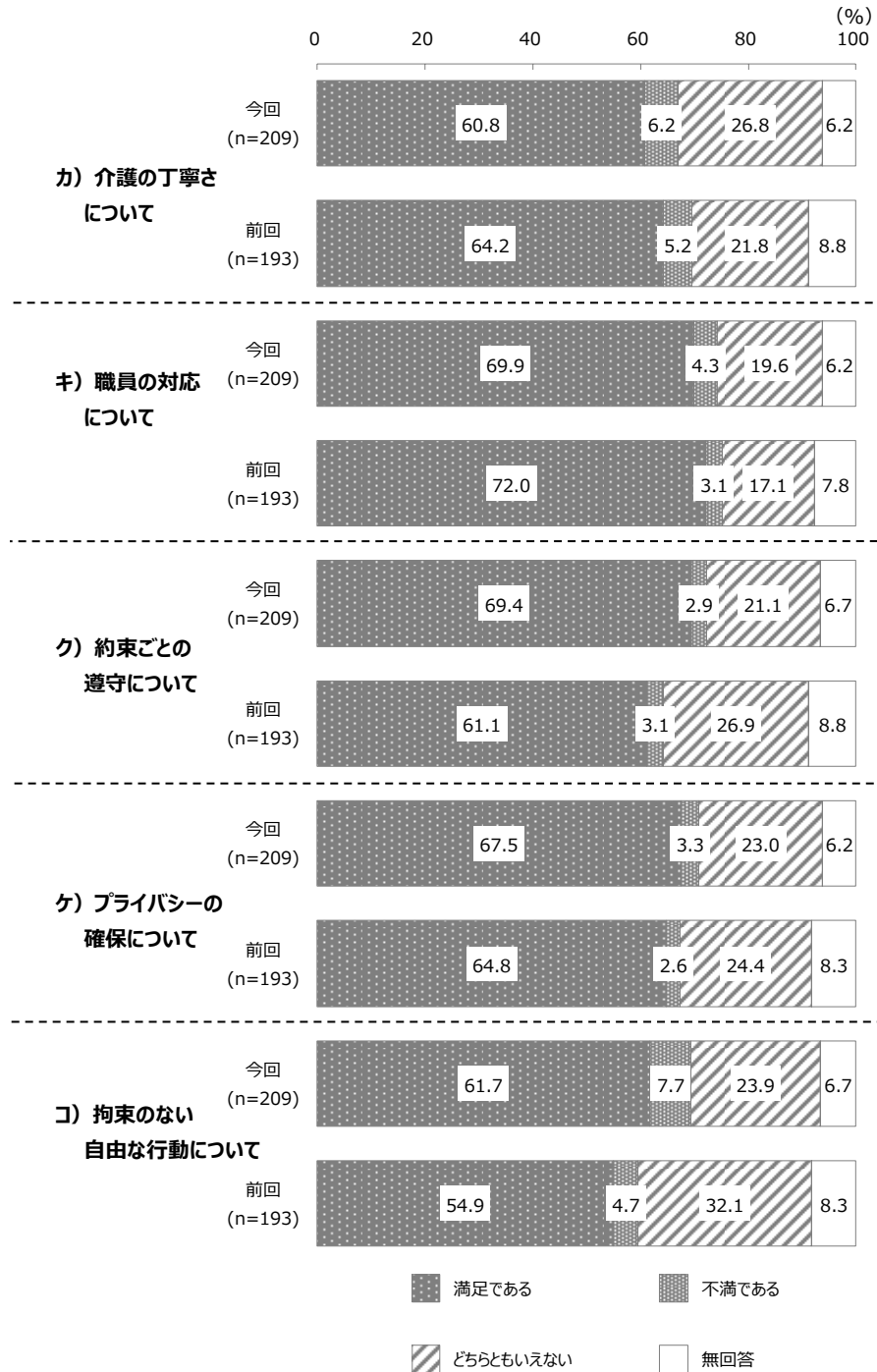
問8 施設のサービスについて、満足していますか。[それぞれ1つずつ○]

全体 ア～カの10の施設サービスのうち、「満足である」の割合は、「ア）食事について」（57.9%）と「エ）レクリエーションやクラブ活動について」（47.8%）を除き、他のすべてのサービスで6割台となっています。また、「不満である」が1割を超えているサービスはありません。

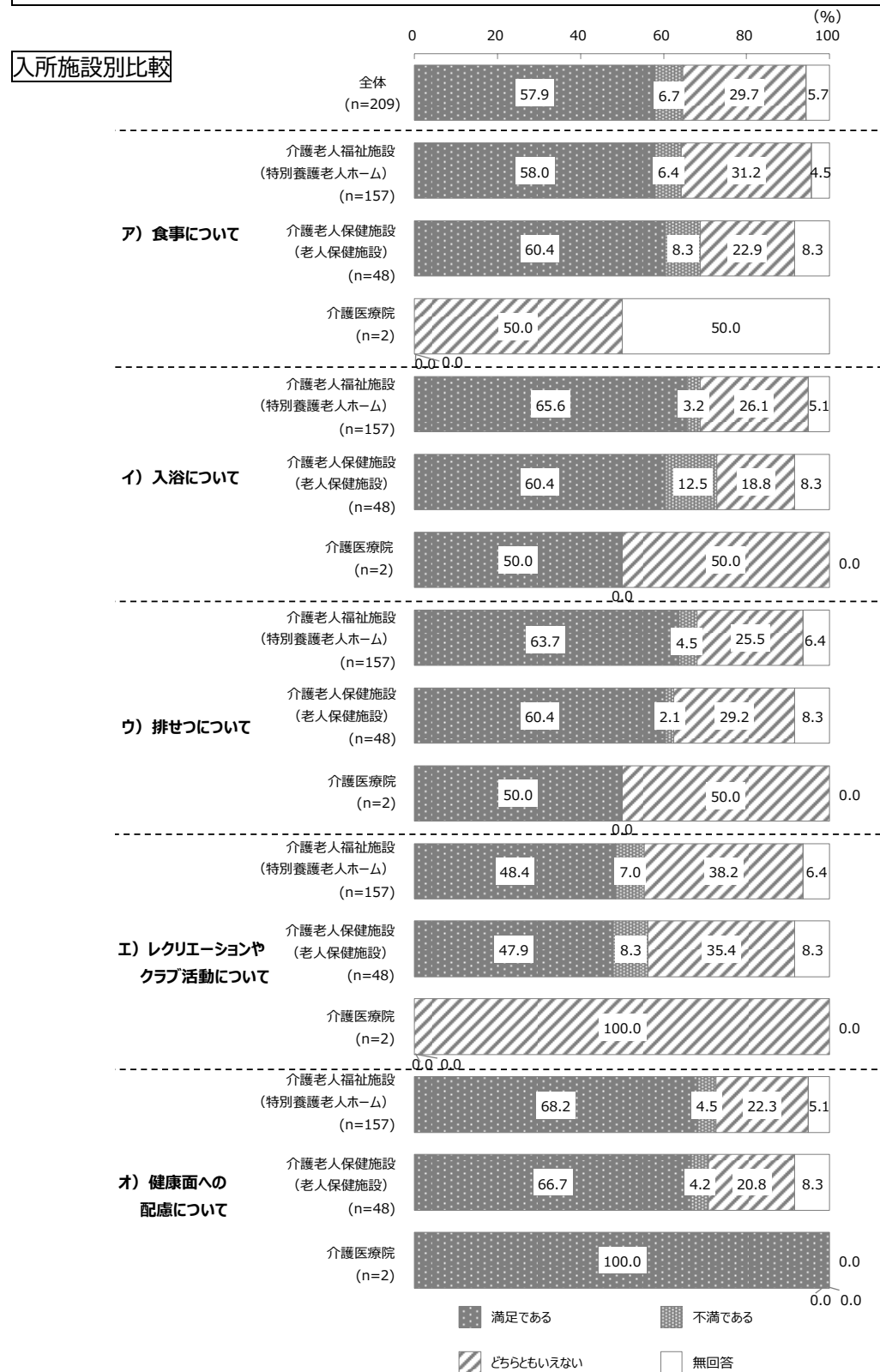
全体・前回比較

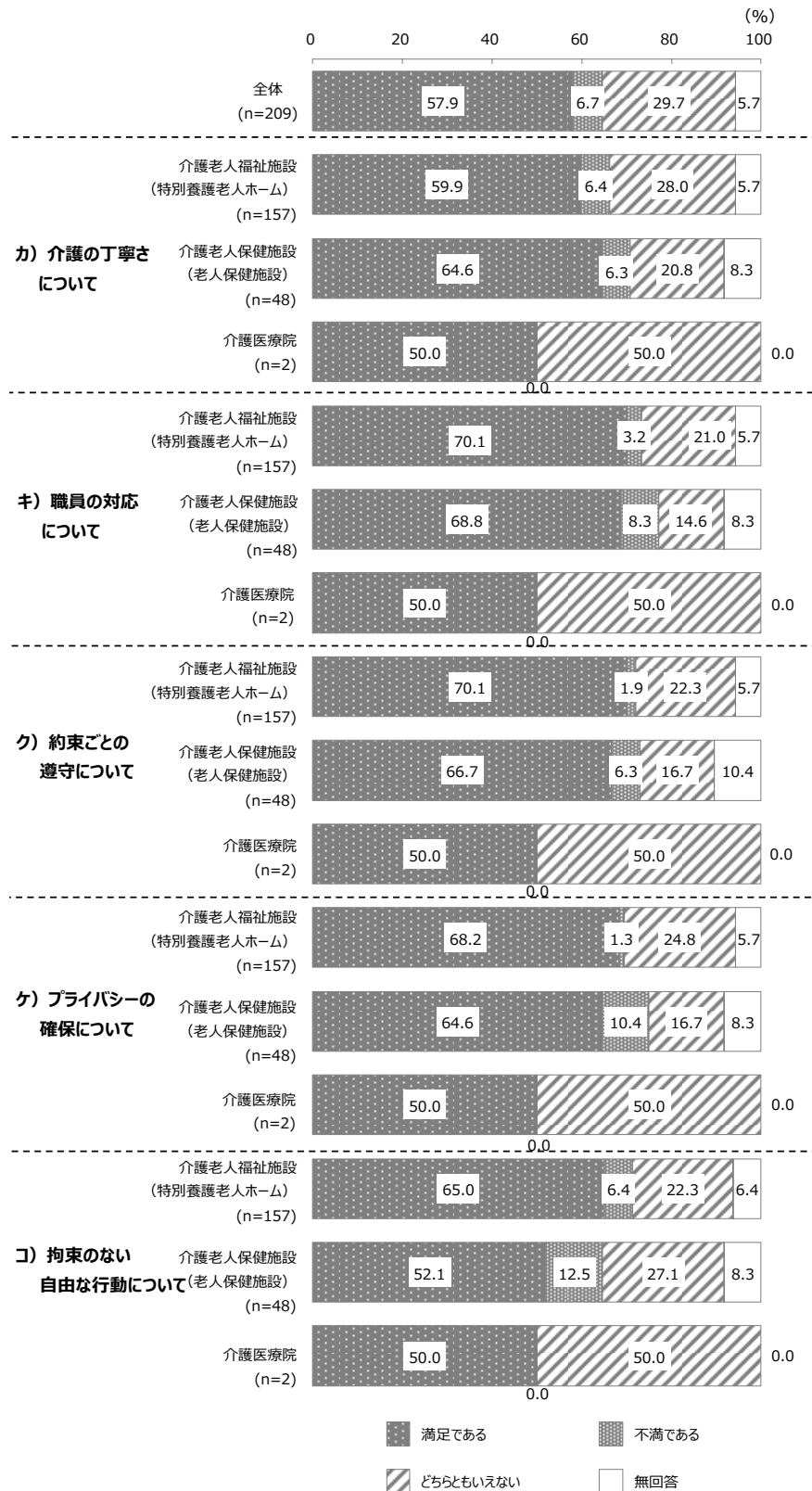


前回比較 前回調査と比較すると、「満足である」の割合が5ポイント以上増えた施設サービスは、「ク）約束事の順守について」と「コ）拘束のない自由な行動について」であり、5ポイント以上減った施設サービスは「ア）食事について」となっています。



入所施設 問5の入所施設別で比較すると、介護老人保健施設（老人保健施設）は、「不満である」の割合が、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）よりも5ポイント以上多い施設サービスが4つあります。該当するサービスは、「イ）入浴について」、「キ）職員の対応について」、「ケ）プライバシーの確保について」と「コ）拘束のない自由な行動について」となっています。





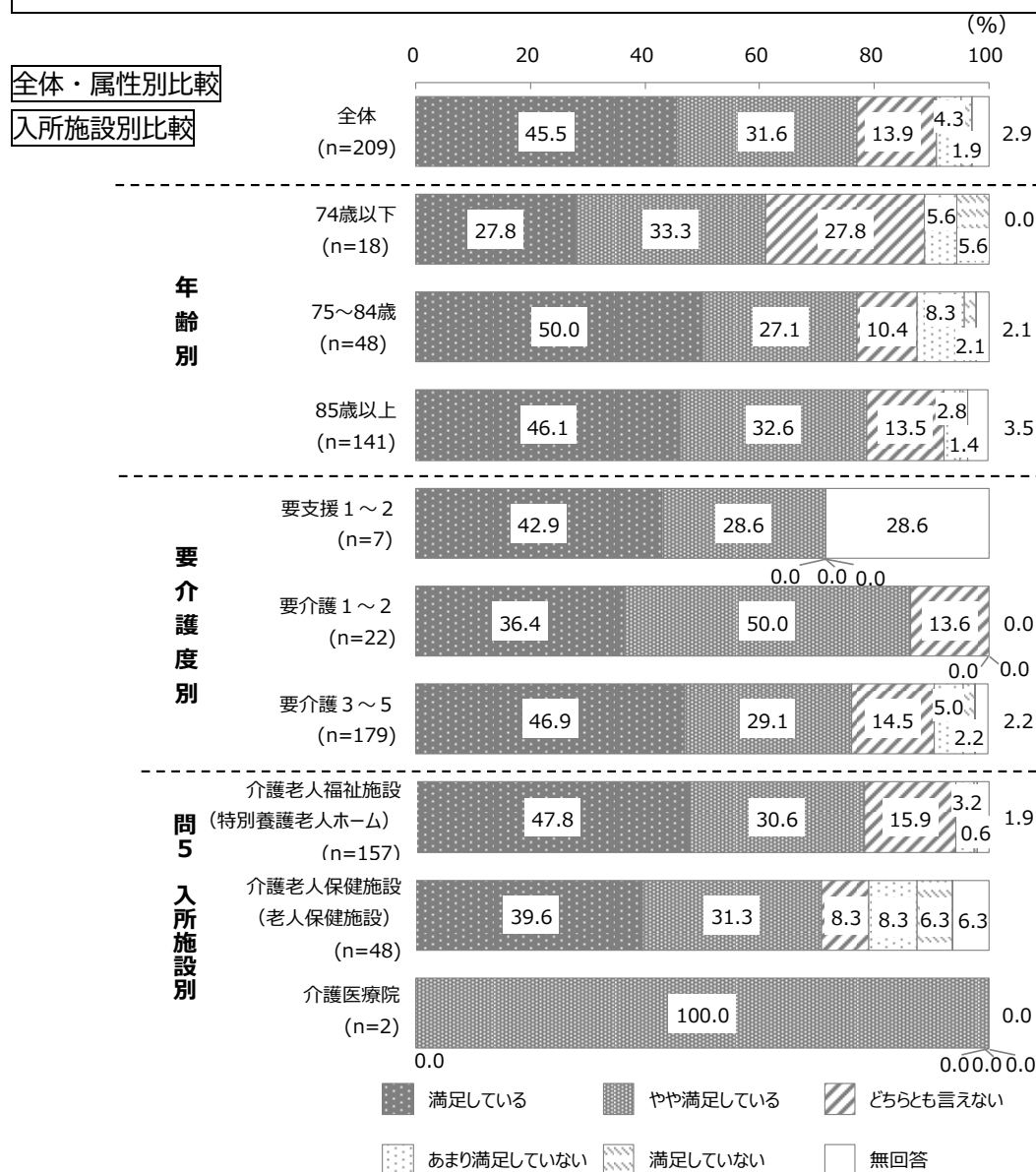
問9 現在入所している施設のサービス全般に満足していますか。[1つに○]

全体 「満足している」が45.5%で最も多く、次いで「やや満足している」(31.6%)、「どちらとも言えない」(13.9%)となっています。「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた満足していない割合は、6.2%となっています。

年齢 年代が高くなるほど、「満足している」と「やや満足している」を合わせた満足している割合が多くなり、85歳以上では、約8割となっています。

要介護度 「要介護1～2」は、「満足している」と「やや満足している」を合わせた満足している割合が86.4%で大半を占めています。また、「要介護3～5」は、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた満足していない割合が7.2%である一方、「要支援1～2」と「要介護1～2」は、ともに0.0%となっています。

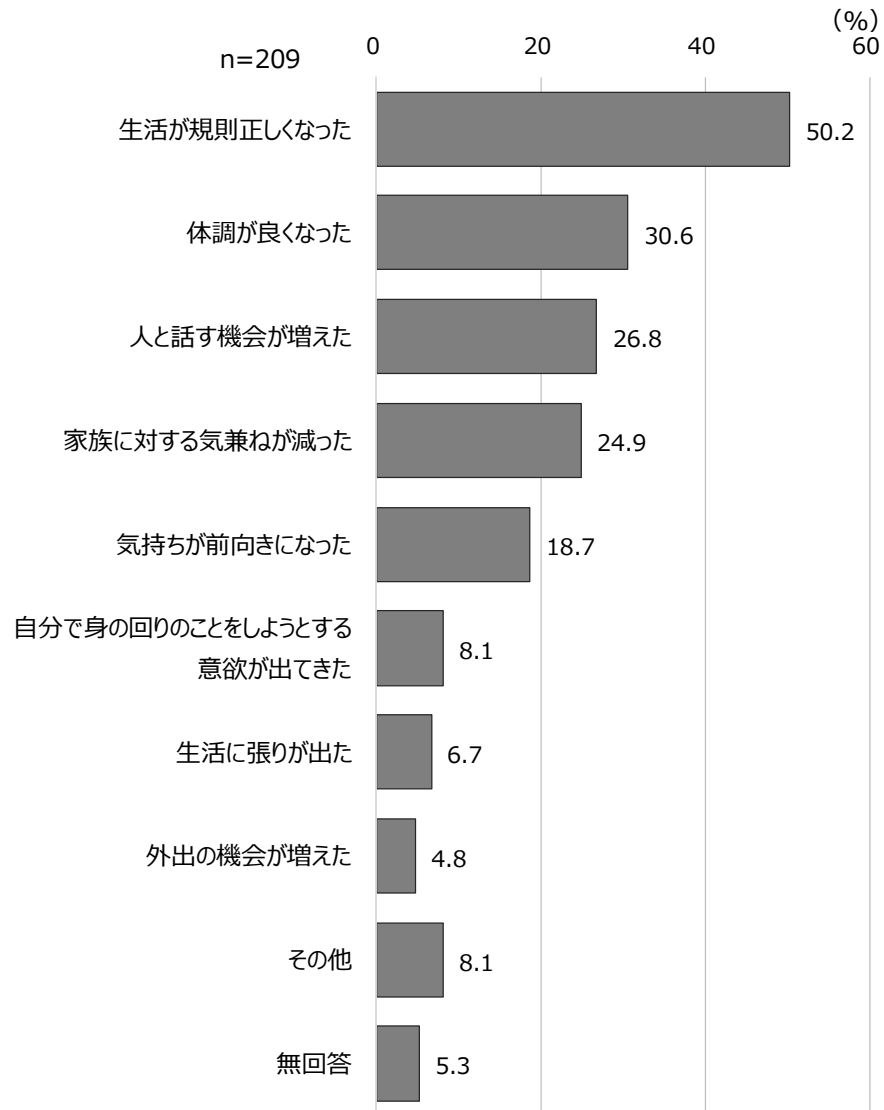
入所施設 問5の入所施設別に比較すると、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)は、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた満足していない割合が3.8%である一方、介護老人保健施設(老人保健施設)は14.6%となっています。



問10 現在入所している施設のサービスを受けてよかったと思うことは何ですか。[あてはまるものすべてに○]

全体 「生活が規則正しくなった」が50.2%で最も多く、次いで「体調が良くなった」(30.6%)、「人と話す機会が増えた」(26.8%)となっています。一方、「自分で身の回りのことをしようとする意欲が出てきた」、「生活に張りが出た」、「外出の機会が増えた」の割合は1割を下回っています。

全体



要介護度 すべての要介護度で「生活が規則正しくなった」の割合が最も多くなっていますが、要介護度が高くなるほど、割合は少なくなり、「要介護3～5」では半数を下回っています。一方で、「体調が良くなった」の割合は、「要支援1～2」では1割半ばであるものの、「要介護1～2」と「要介護3～5」では、3割以上となっています。また、「家族に対する気兼ねが減った」の割合は、「要支援1～2」は0.0%である一方、「要介護1～2」と「要介護3～5」は2割台となっています。

認知症診断別 問4で医師に「認知症と診断されている」と回答した人は、「診断されていない」と回答した人と比べて、「生活が規則正しくなった」と「気持ちが前向きになった」の割合が5ポイント以上少なくなっています。

入所施設 問5の入所施設別で比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、「生活が規則正しくなった」と「家族に対する気兼ねが減った」の割合が介護老人保健施設（老人保健施設）よりも5ポイント以上多くなっている一方、「体調が良くなった」と「人と話す機会が増えた」は少なくなっています。

属性別比較

入所施設別・認知症診断別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

(%)

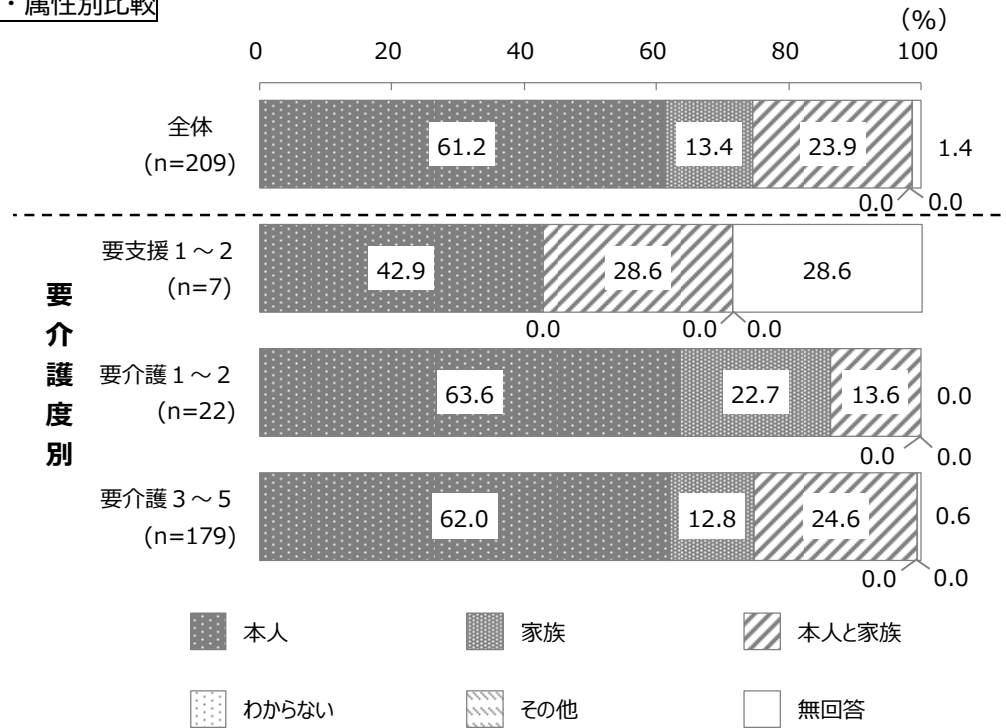
		生活が規則正しくなった	体調が良くなった	人と話す機会が増えた	家族に対する気兼ねが減った	気持ちが前向きになった	自分で身の回りのことをしようとする意欲が出てきた	生活に張りが出た	外出の機会が増えた	その他	無回答
全体(n=209)		50.2	30.6	26.8	24.9	18.7	8.1	6.7	4.8	8.1	5.3
要介護度別	要支援1～2(n=7)	71.4	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6
	要介護1～2(n=22)	54.5	40.9	36.4	27.3	13.6	13.6	4.5	4.5	9.1	0.0
	要介護3～5(n=179)	48.6	30.2	25.7	25.7	19.6	7.8	7.3	5.0	8.4	5.0
問4 認知症診断別	認知症と診断されている(n=117)	47.0	32.5	25.6	25.6	12.8	8.5	6.0	3.4	8.5	6.0
	認知症と診断されていない(n=88)	54.5	29.5	28.4	25.0	27.3	8.0	8.0	6.8	6.8	3.4
問5 入所施設別	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）(n=157)	52.2	28.0	25.5	27.4	19.7	7.0	7.6	5.7	8.9	3.8
	介護老人保健施設（老人保健施設）(n=48)	43.8	37.5	31.3	18.8	16.7	12.5	4.2	2.1	6.3	10.4
	介護医療院(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問11 施設に払っている費用は、主にどなたが負担していますか。[1つに○]

全体 「本人」が61.2%で最も多く、次いで「本人と家族」(23.9%)、「家族」(13.4%)となっています。

要介護度 「要支援1～2」は、「本人」の割合が4割前半である一方、「要介護1～2」と「要介護3～5」は6割前半と多くなっています。また、「要支援1～2」は、「家族」の回答がなかった一方、「要介護3～5」は約1割、「要介護1～2」は約2割で多くなっています。

全体・属性別比較

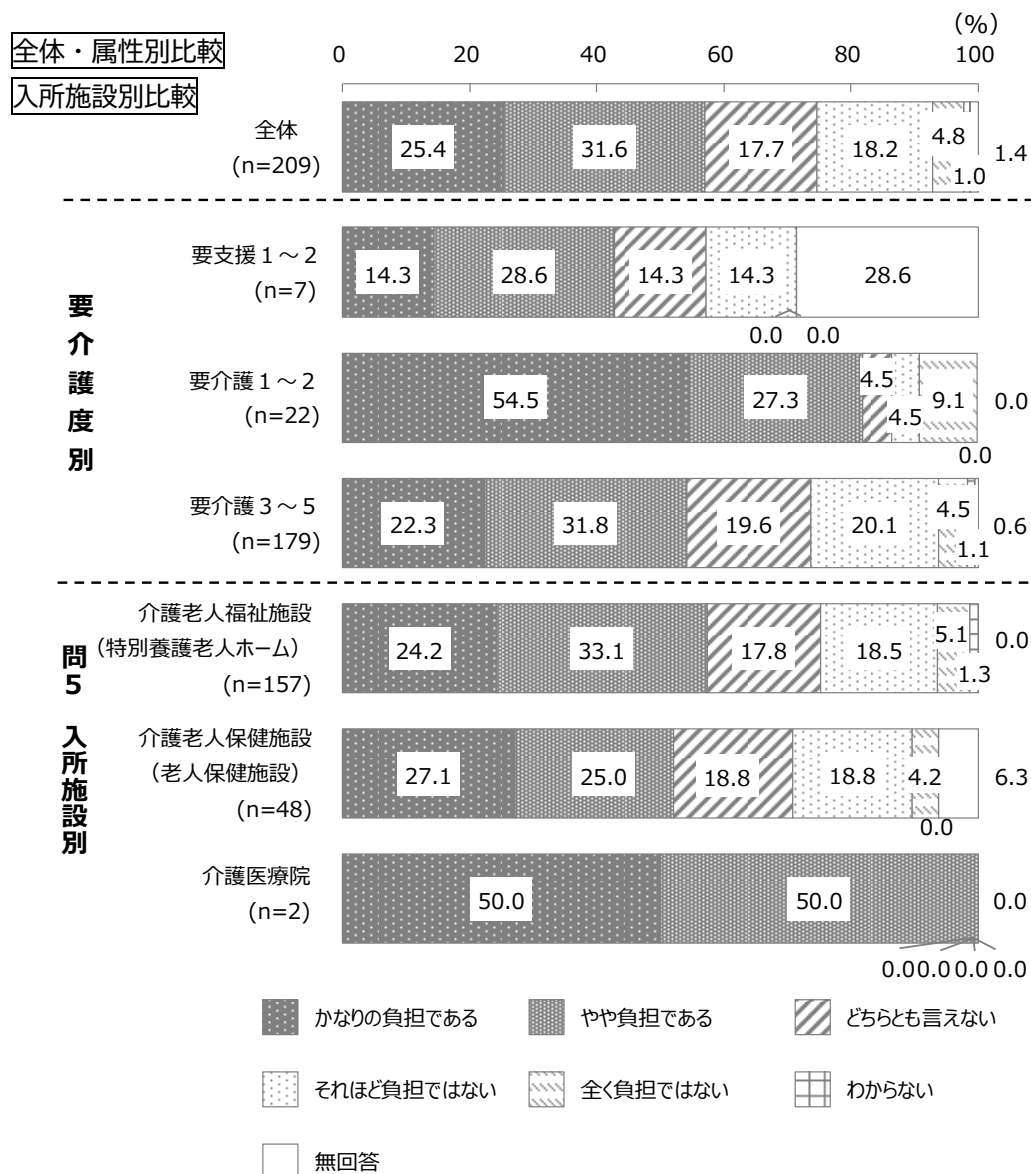


問12 施設への支払額は、どのように感じられますか。[1つに○]

全体 「やや負担である」が31.6%で最も多く、次いで「かなりの負担である」(25.4%)、「それほど負担ではない」(18.2%)となっています。「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた負担であると感じている割合は、57.0%となっています。

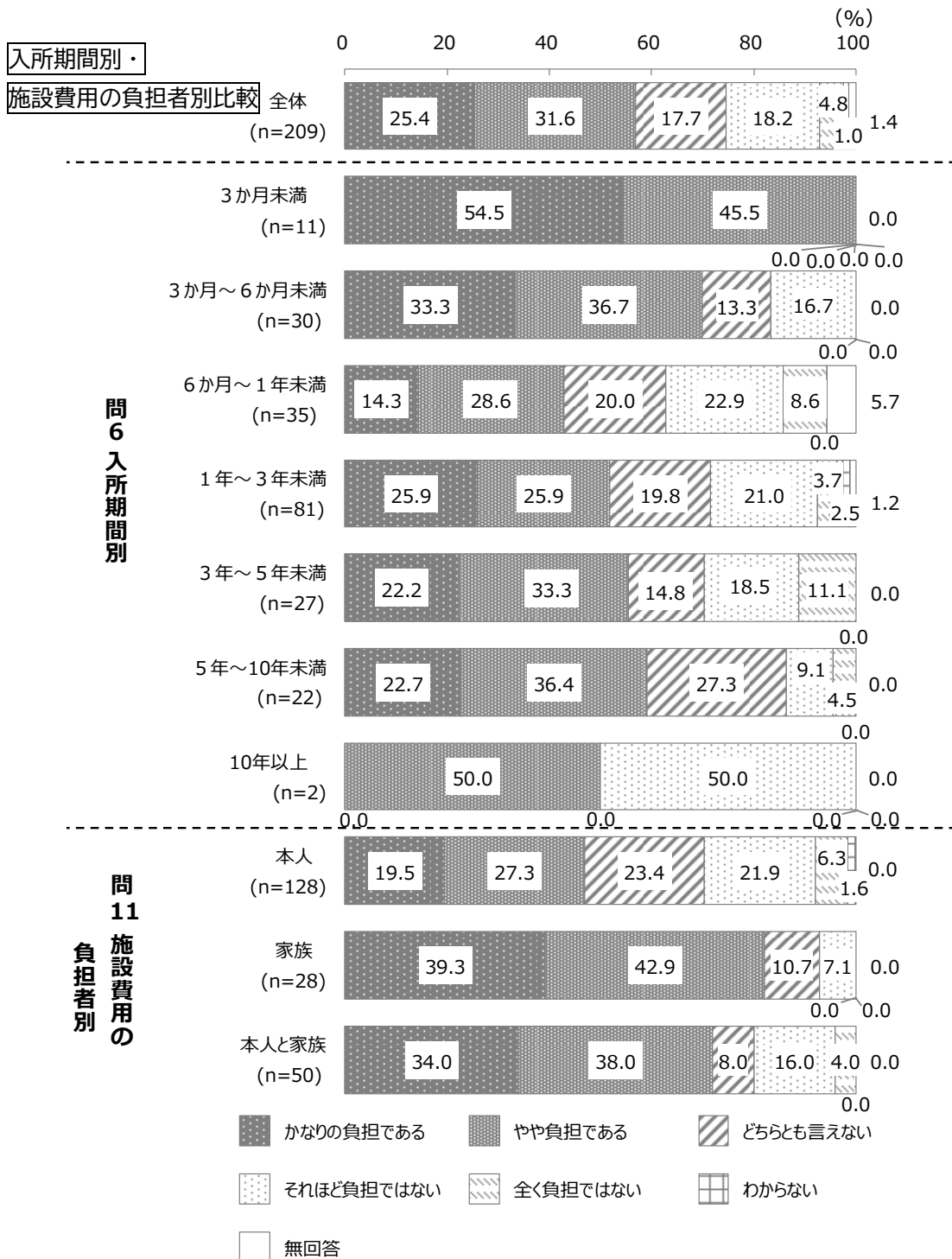
要介護度 「要介護1～2」は、「かなり負担である」の割合が、「要支援1～2」と「要介護3～5」と比較して、30ポイント以上多く、5割半ばとなっています。「要介護1～2」では、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた負担である割合は、81.8%で大半を占めています。

入所施設 問5の入所施設別に比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた負担である割合が、介護老人保健施設（老人保健施設）より5.2ポイント多くなっています。



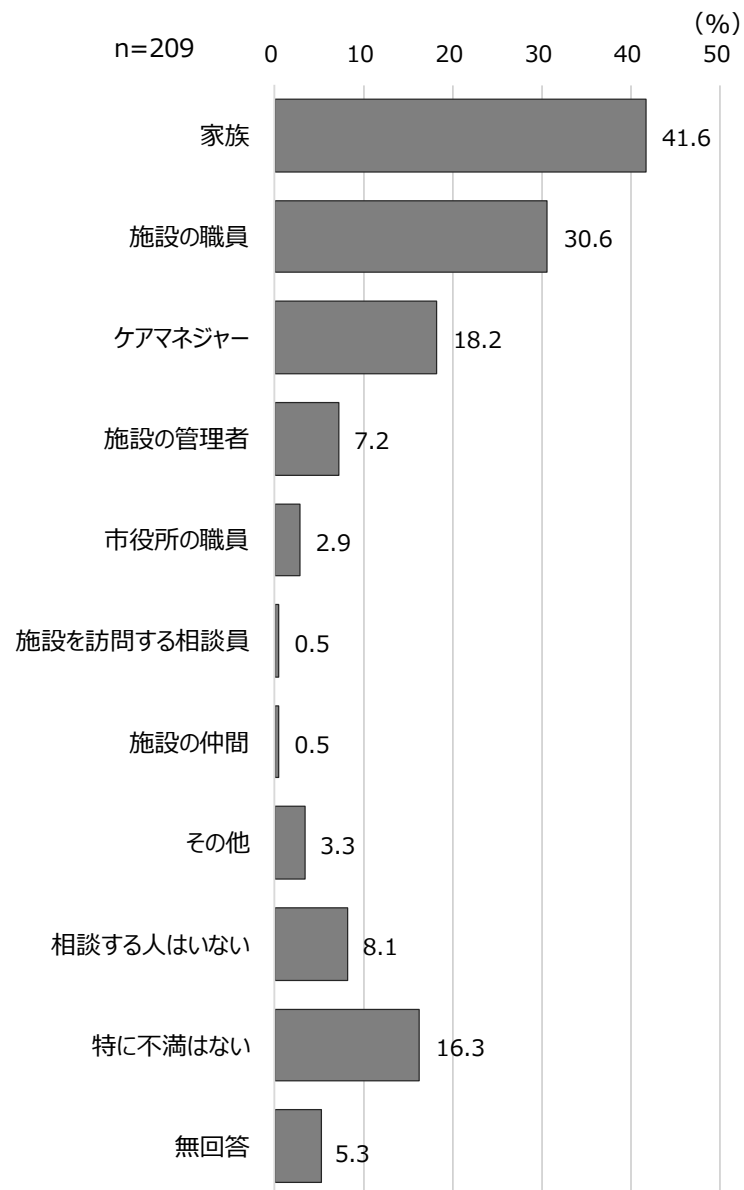
入所期間別 問6の入所期間別で比較すると、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた負担である割合は、「3か月未満」で 100.0%であるものの、「3か月～6か月未満」(70.0%)、「6か月～1年未満」(42.9%)と、期間が長くなるほど少なくなっていますが、1年以上の期間では、半数を超え5割台となっています。

施設費用の負担者別 問11の施設費用の負担者別で比較すると、「本人」は、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた負担である割合が4割半ばである一方で、「家族」と「本人と家族」では、負担である割合が7割以上と多くなっています。



問13 施設に不満があるとき、誰に相談しますか。[あてはまるものすべてに○]

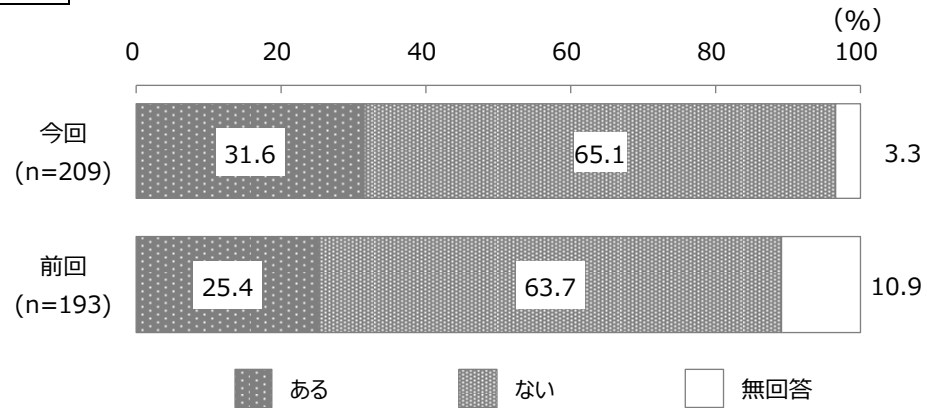
「家族」が41.6%で最も多く、次いで「施設の職員」(30.6%)、「ケアマネジャー」(18.2%)となっています。また、「相談する人はいない」が8.1%となっています。



問14 施設でのサービスについて改善してほしいことはありますか。〔1つに○〕

全体 「ない」が65.1%で、「ある」(31.6%)より多くなっています。

前回比較 前回調査と比較すると、無回答の割合が減ったことが影響している可能性もありますが、「ある」が6.2ポイント多くなっています。

全体・前回比較

問15 〔問14で「1 ある」と回答した方のみお答えください〕

改善してほしいことは、具体的にどのようなことですか。〔あてはまるものすべてに○〕

全体「面会について」が42.4%で最も多く、次いで「食事内容や食事の介護内容」(25.8%)、「職員の態度・コミュニケーション」(21.2%)となっています。



入所施設 問5の入所施設別で比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設（老人保健施設）ともに、項目の順位は全体と同様ですが、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の方が各項目の割合が多い傾向にあり、「面会について」は15.5ポイント、「食事内容や食事の介護内容」については9.5ポイント多くなっています。一方で、「人権やプライバシーへの配慮」（13.2ポイント）と「介護に関する要望を聞き入れてくれない」（5.9ポイント）は、介護老人保健施設（老人保健施設）の方が多くなっています。

入所施設別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

		面会について	食事内容や食事の介護内容	職員の態度・コミュニケーション	外出・外泊のルールについて	入浴や排せつの介護内容	レクリエーションの内容	職員体制	人権やプライバシーへの配慮	介護に関する要望を聞き入れてくれない	職員の乱暴な言動や対応	その他
全体(n=66)		42.4	25.8	21.2	19.7	18.2	18.2	15.2	10.6	10.6	6.1	12.1
問5 入 所 施 設 別	介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） (n=44)	45.5	29.5	22.7	20.5	18.2	22.7	18.2	6.8	9.1	6.8	6.8
	介護老人保健施設 （老人保健施設） (n=20)	30.0	20.0	20.0	20.0	15.0	10.0	10.0	20.0	15.0	5.0	20.0
	介護医療院 (n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

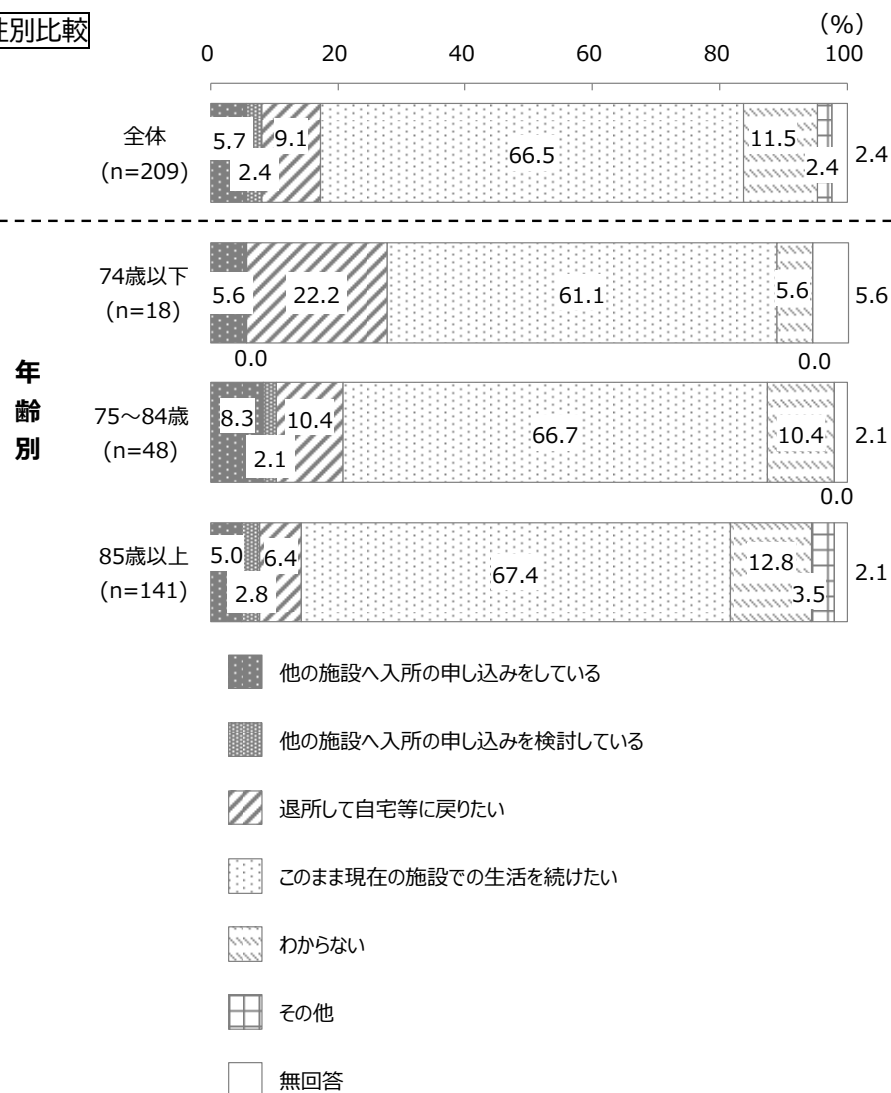
4. 今後の意向や要望について

問16 施設からの退所や他の施設への入所を希望していますか。〔1つに○〕

全体 「このまま現在の施設での生活を続けたい」が 66.5%で最も多く、次いで「わからない」(11.5%)、「退所して自宅等に戻りたい」(9.1%)となっています。

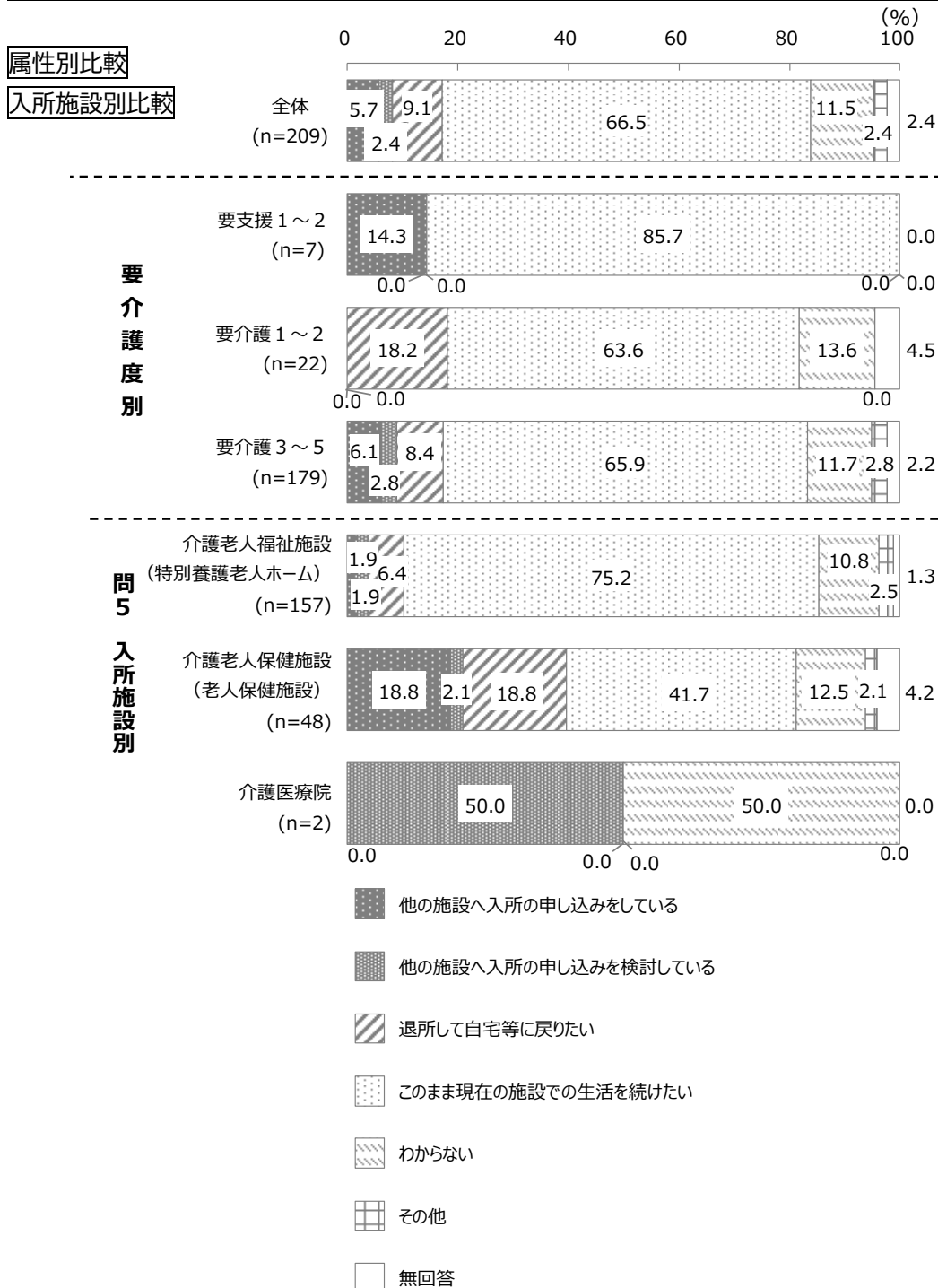
年齢 年代が高くなるほど、「退所して自宅等に戻りたい」の割合が減り、「このまま現在の施設での生活を続けたい」の割合が増えています。74歳以下は、「退所して自宅等に戻りたい」の割合が2割を超えています。

全体・属性別比較



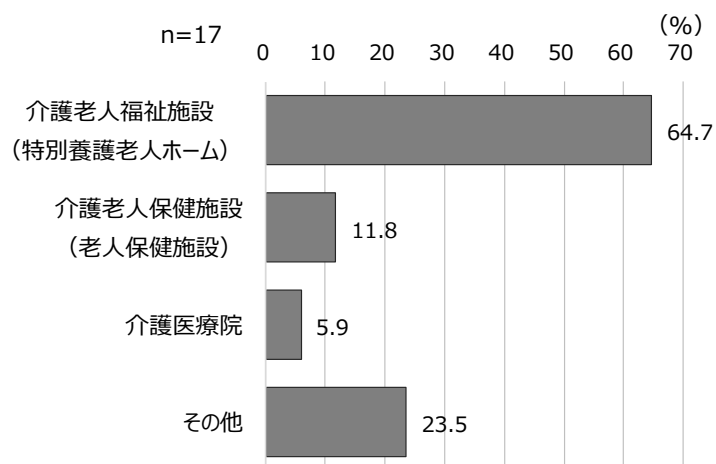
要介護度 「要支援1～2」は、「このまま現在の施設での生活を続けたい」の割合が8割を超え、大半を占めている一方、「要介護1～2」と「要介護3～5」は6割台となっています。また、「要介護1～2」は、「退所して自宅等に戻りたい」の割合が2割近くとなっています。

入所施設 問5の入所施設別に比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、「このまま現在の施設での生活を続けたい」の割合が7割半ばである一方、介護老人保健施設（老人保健施設）は4割前半となっています。また、介護老人保健施設（老人保健施設）は、「他の施設へ入所の申し込みをしている」と「退所して自宅等に戻りたい」の割合が2割近くとなっています。



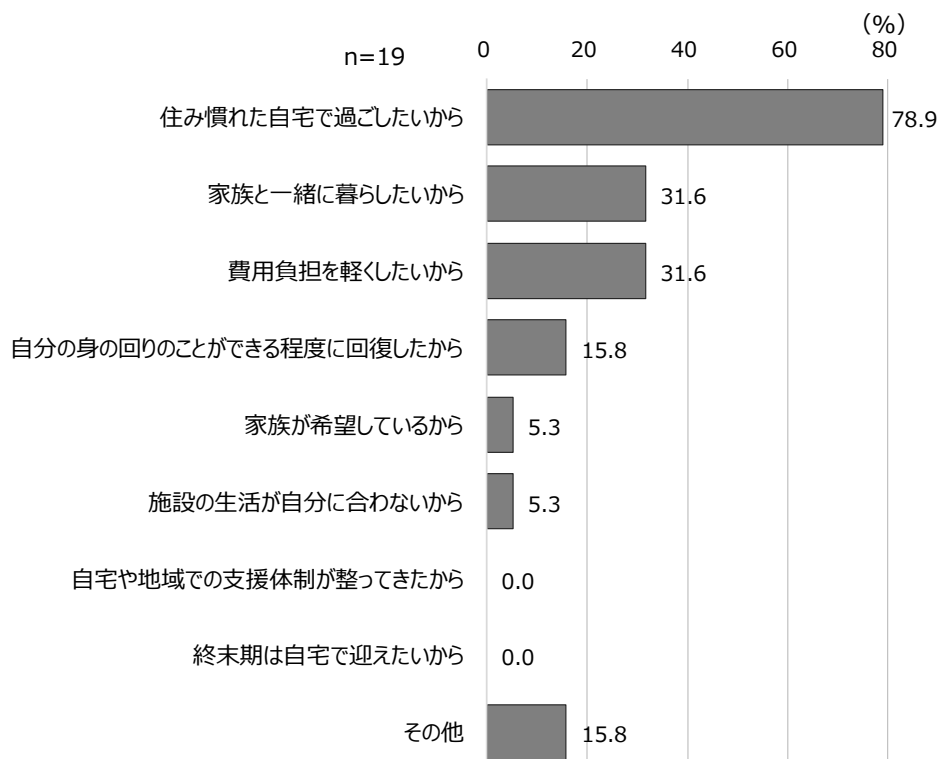
問17 〔問16で「1又は2」と回答した方のみお答えください〕
どの施設に申し込んでいますか。〔あてはまるものすべてに○〕

「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が64.7%（11人）で最も多く、次いで介護老人保健施設（老人保健施設）（11.8%）（2人）、「介護医療院」（5.9%）（1人）となっています。また、「その他」の内訳は、グループホームが2人、有料老人ホームが1人、不明1人となっています。



問18 〔問16で「3 退所して自宅等に戻りたい」と回答した方のみお答えください〕
あなたが退所して自宅等に戻りたい主な理由は何ですか。〔○は3つまで〕

「住み慣れた自宅で過ごしたいから」が78.9%で最も多く、次いで「家族と一緒に暮らしたいから」と「費用負担を軽くしたいから」が31.6%となっています。

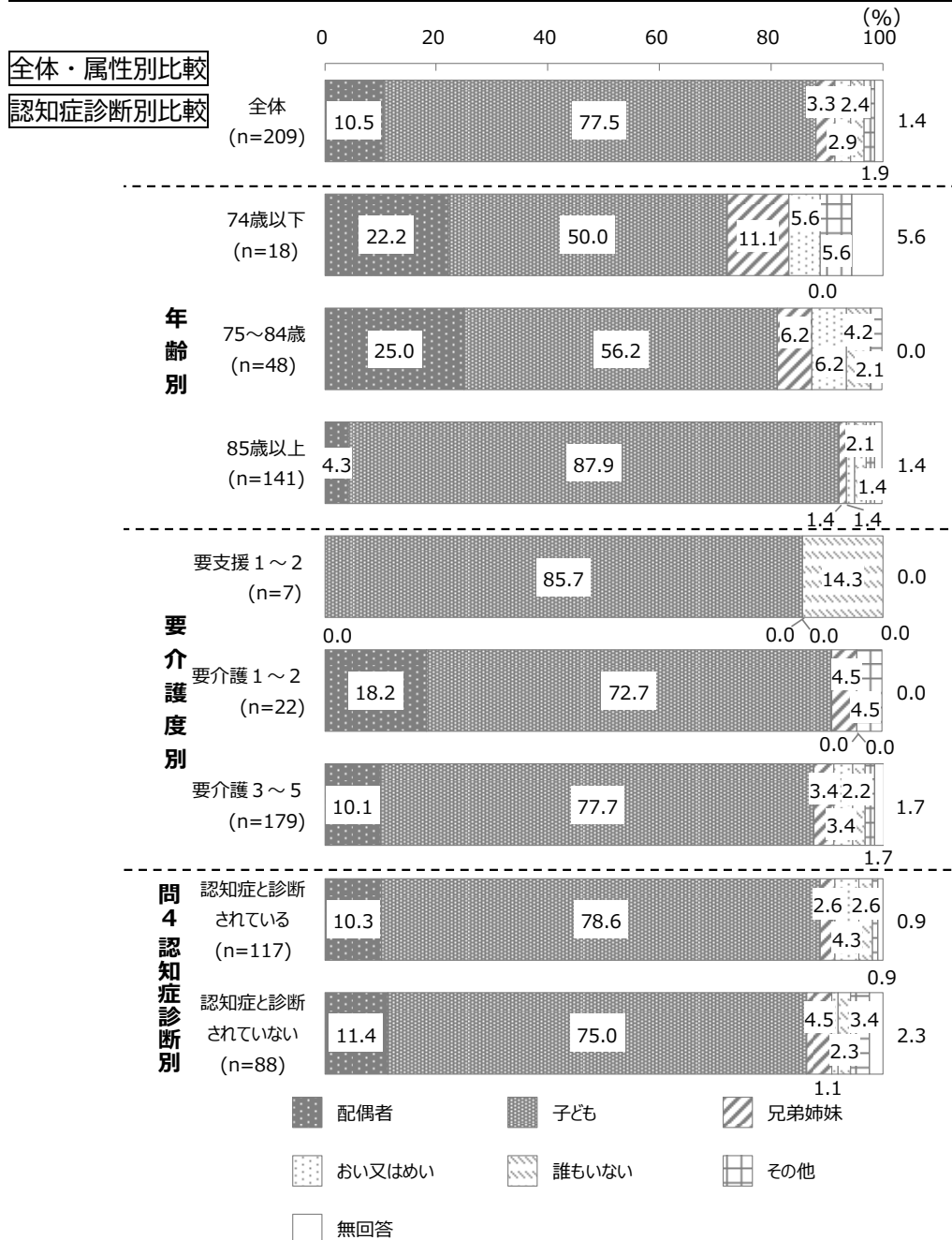


問19 あなたの身に緊急事態が起きた時に、必要な手続きや金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。[1つに○]

全体 「子ども」が77.5%で最も多く、次いで「配偶者」(10.5%)、「兄弟姉妹」(3.3%)となっています。

年齢 74歳以下と75～84歳では、「子ども」の割合が5割台で、「配偶者」の割合が約2割、「兄弟姉妹」や「おい又はめい」の割合は5.0%以上となっています。一方、85歳以上では、「子ども」の割合が9割近くで、「子ども」以外はそれぞれ5.0%以下となっています。

要介護度 「要支援1～2」は、「子ども」の割合が8割を超え、大半を占めている一方、「要介護1～2」と「要介護3～5」は7割台となっています。また、「要介護1～2」は、「配偶者」の割合が約2割、「要介護3～5」は約1割となっています。



問20 あなたは、成年後見制度（判断力が低下した方への法的な支援制度）を知っていますか。[1つに○]

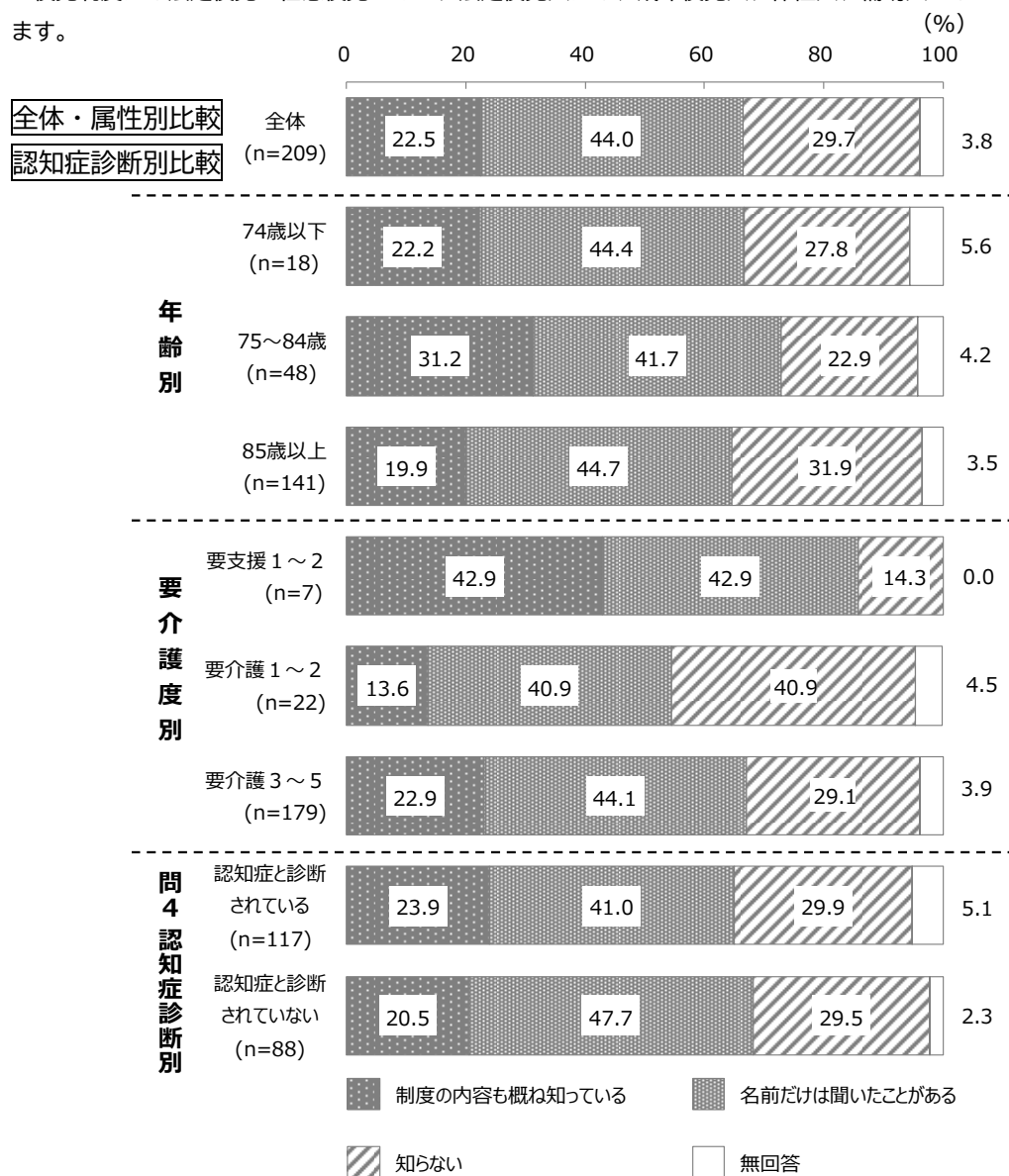
全体 「名前だけは聞いたことがある」が44.0%で最も多く、次いで「知らない」(29.7%)、「制度の内容も概ね知っている」(22.5%)となっています。

年齢 75～84歳は、「制度の内容も概ね知っている」の割合が約3割で、74歳以下と85歳以上より多くなっています。また、85歳以上では、「知らない」の割合が3割を超えています。

要介護度 「要支援1～2」は、「知らない」の割合が1割半ばである一方、「要介護3～5」は約3割、「要介護1～2」は約4割となっており、要介護度によって、成年後見制度の認知度に差が見られます。

認知症診断別 問4で医師に認知症と診断されていないと回答した人は、診断されている人よりも、「名前だけは聞いたことがある」と「知らない」を合わせた「制度の内容を知らない」割合が6.3ポイント多くなっています。

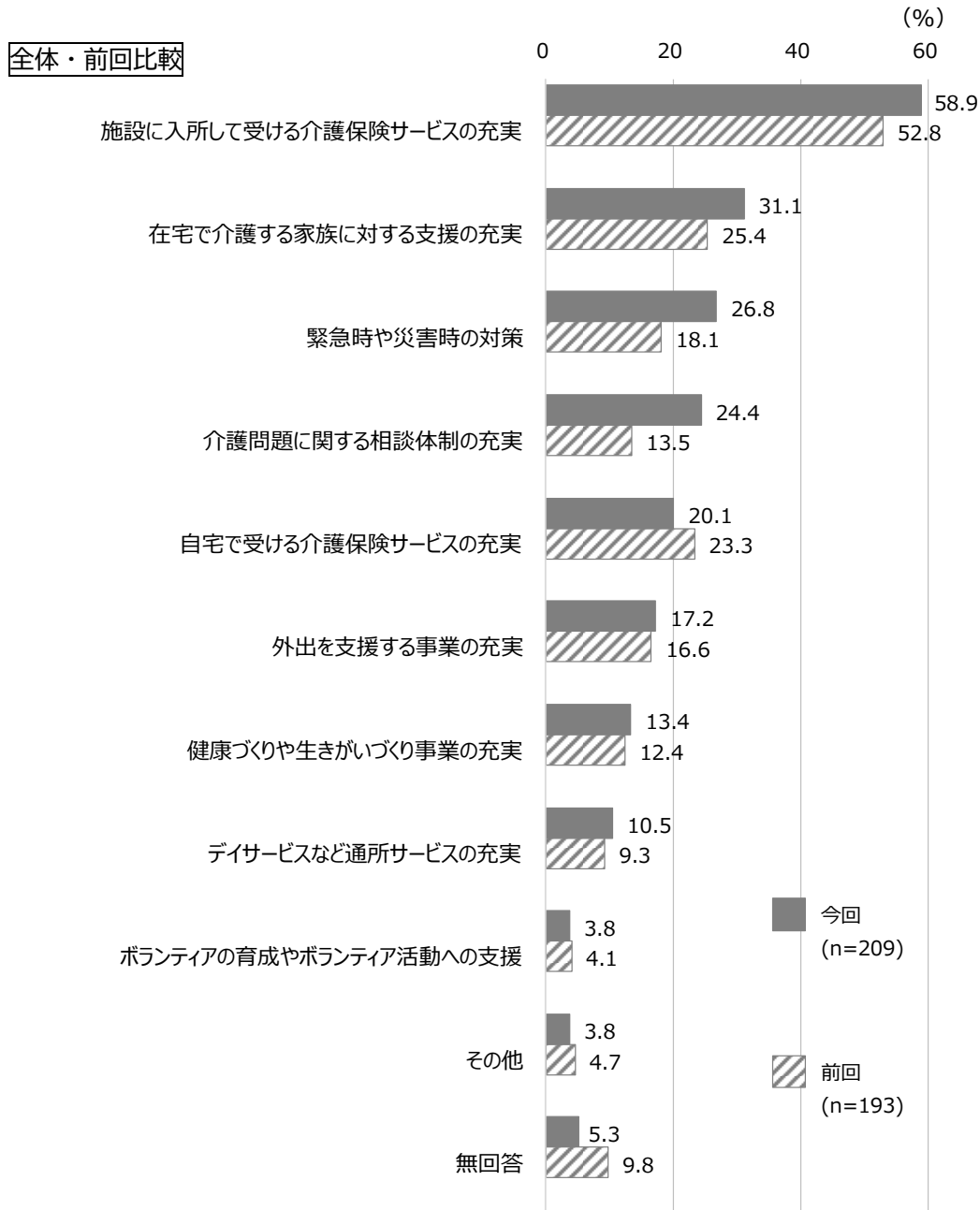
※後見制度には法定後見と任意後見があり、法定後見人には、成年後見人、保佐人、補助人の3つの種類があります。



問21 高齢者への対応として、今後、行政にどのようなことを期待しますか。〔〇は3つまで〕

全体 「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が58.9%で最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(31.1%)、「緊急時や災害時の対策」(26.8%)となっています。

前回比較 前回調査では、今回調査の選択肢に加え、「病院や診療所などの医療機関の充実」、「防犯対策の充実」、「高齢者向け住宅の整備」、「老人クラブの活発化」の選択肢が含まれていたため、単純な比較はできませんが、そのことを前提に比較すると、「介護問題に関する相談体制の充実」が10ポイント以上、「緊急時や災害時の対策」、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が5ポイント以上多くなっています。



注：前回調査では、今回調査の選択肢に加え、「病院や診療所などの医療機関の充実」、「防犯対策の充実」、「高齢者向け住宅の整備」、「老人クラブの活発化」の選択肢が含まれていた。

年齢 年代によって、行政に期待することの優先度が異なっています。75～84歳と85歳以上では、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が6割を超えて最も多くなっていますが、75～84歳の第2位は「介護問題に関する相談体制の充実」(33.3%)、85歳以上は「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(33.3%)となっています。一方で、74歳以下では、「緊急時や災害時の対策」が4割半ばで最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」(38.9%)となっています。

要介護度 すべての要介護度において、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が最も多くなっていますが、「要支援1～2」は、「要介護1～2」と「要介護3～5」よりも10ポイント以上多くなっています。また、「要支援1～2」は、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」の割合が0.0%である一方、「要介護1～2」は2割前半、「要介護3～5」は3割前半となっています。

属性別比較

※網掛けは濃～淡の順に各属性での上位3位を表す

(%)												
		施設に入所して受ける 介護保険サービスの充実	在宅で介護する家族に 対する支援の充実	緊急時や災害時の対策	介護問題に関する 相談体制の充実	介護保険サービスの充実 自宅で受ける	外出を支援する事業の充実	生きがいづくりや 健康づくりや 事業の充実	デイサービスなど 通所サービスの充実	ボランティアの育成や ボランティア活動への支援	その他	無回答
全体(n=209)		58.9	31.1	26.8	24.4	20.1	17.2	13.4	10.5	3.8	3.8	5.3
年 齢 別	74歳以下(n=18)	27.8	38.9	44.4	22.2	22.2	27.8	22.2	0.0	11.1	5.6	5.6
	75～84歳(n=48)	64.6	20.8	25.0	33.3	18.8	10.4	6.2	8.3	2.1	10.4	4.2
	85歳以上(n=141)	60.3	33.3	25.5	22.0	20.6	18.4	14.2	12.8	3.5	1.4	5.7
要介護 度別	要支援1～2(n=7)	71.4	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3
	要介護1～2(n=22)	54.5	22.7	18.2	31.8	22.7	4.5	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1
	要介護3～5(n=179)	58.7	33.5	27.9	24.0	20.1	19.0	14.5	11.7	4.5	3.4	4.5

5. 自由意見

市へご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、どのようなことでも結構ですからお知らせください。

59 件のご意見をいただき、以下の6つのカテゴリーに分類しました。(概ね原文のとおり)

【入所施設のサービスの充実】(9件)

- ・ どの施設でも同じですが、他の利用者とのコミュニケーションが少ないようです。
- ・ 今でも十分なサービスを受けていると思いますが、元来、外出好きな性格なため、施設内の生活を少し窮屈に感じているようです。人手が足りないこともあるでしょうが、外出の機会がもう少し増えたらいいなと思っています。
- ・ 特養でもリハビリをしてほしい。
- ・ 病気の時、施設へ迎えに行き、病院へ連れて行くのは、自家用車では難があります。車いすのまま乗れる車を施設に用意していただき、病院への付き添いをお願いしたいです。「従業員が足りないので家族に付き添いをお願いしている状態」とのことです。人員の確保をよろしくお願い致します。
- ・ 入所者が多く、スタッフの数が不足しているようで、夜のトイレも自分で行くことはできず、皆オムツが基本のようです。集団生活なので、一律の対応もありますが、今までできていたことができなくなってしまっています。(中略) 慣れ親しんだ家に戻りたそうですが、今までできたことができなくなったため、難しいと思います。そのため、介護予防や体力が落ちない運動、人とのコミュニケーション、脳トレなどに力を入れていただきたいと思いました。
- ・ コロナ禍以降、面会できるのが月2回予約制で、パーテーション越しの面会となっています。以前は予約することなく、面会時におやつを渡して食べてもらうこともできましたが、今は差し入れも施設が用意した小さめのビニール袋に、冷凍や冷蔵のものは1個のみ、その袋に入るだけで、包装紙に賞味期限の記載のある物と制限されています。感染症防止のため仕方ないと思いますが、いつまでこの状態が続くのでしょうか。他の施設も同様でしょうが、面会場所も入口のそばにあり、中の様子、部屋の様子すら確認できないのが少し心配です。施設は信用してすべてお任せしており、感謝しています。

【高齢者福祉全般】（10件）

- ・ 特別養護老人ホームを増やしてほしいです。
- ・ 高齢者の移動手段の確保。料金が安いバスの充実。
- ・ 今、介護老人保健施設に入所しています。期限が過ぎても他の施設も満所で、移動できないです。
- ・ 市が車椅子用の自動車を用意して、それを借りて家族が運転して医者に行ったり、ちょっと公園に行ったりできるようになったらよいのですが。
- ・ 市は、定期的に各施設の状況や問題は何かないか等を確認するために、介護施設の現場の様子を見られることはあるのでしょうか。
- ・ 高齢者福祉サービスの充実（蓮田市は配食サービスや車イスの貸出し、移送サービスなどあり。見本にすべき）。
- ・ 自宅の改造支援（室内車椅子用シート・車椅子トイレ・玄関階段・手摺取付・風呂）。

【介護従事者】（7件）

- ・ 施設はどこも人手不足で、きめ細かい介護ができていないようです。現状を見ていればわかるのですが、それを言えないでいます。できない、無理なのがわかっているから。市から施設への支援が増えることを期待します。
- ・ 施設の職員の待遇を良くしないとサービスにも影響があると思います。
- ・ 医療従事者、介護施設スタッフに手厚い報酬をお願いするのみです。
- ・ 入所者に対して介護職員があまりにも少な過ぎる。手が足りていないので、介護職員の負担があまりにも多過ぎて、入所者へのサービス（関わり）が少な過ぎる。
- ・ 施設の職員さんには、大変よく面倒を見ていただいています。本人も家族も感謝しております。職員さんの人手不足にならないよう、処遇・待遇が良くなりますよう希望します。

【相談・情報提供】（9件）

- ・ 急に支援が必要になった時の相談先（連絡先）を知りたかった。
- ・ 介護サービスの内容、相談など更なる周知が必要だと思います。
- ・ 施設を選択する際に、多くの時間を必要とした。もう少し市役所にて、施設に関する情報提供をしてほしかった。
- ・ 健康な時から色々なサービスや施設（特養、小規模、グループホーム等）の紹介をしてほしい。
- ・ 特養に入所すると住民票を施設に移すことになり、役所での手続きが、本人でないためスムーズにいかない。委任状以外（例えば施設の契約書）でも、すんなりOKしてほしい。
- ・ 介護は突然始まり、家族はほぼ知識ゼロの状態から、猛スピードで介護体制を整えなければなりません。（中略）市として「この施設の特徴はどこか」「どう組み合わせれば、介護負担が減って介護離職せずに済むか」「他市の施設やサービス業者の情報も知りたい」など、誰もがサービスを検索できる情報を開示してほしい。
- ・ 介護する家族の相談体制の充実を強く望みます。

【経済的負担】（10 件）

- ・低所得世帯と普通所得世帯の施設料の差を少なくしてほしいです。行政で補助していただければ、大変助かります。
- ・施設利用の際に、多額の費用が必要となるため、減額する施策を準備してほしい。
- ・公費で行われてきたコロナワクチン接種が前年度で終了してしまい、12,000 円全額自己負担は大きくて困る。施設入所で共同生活であれば、接種せざるを得ないから、何とかならないものか。
- ・家族の負担が多いので、金銭的な部分を減らしてほしい。
- ・補助には大変助かっています。

【その他意見】（14 件）

- ・50 代の世代が介護している人もいる。仕事に介護に体の負担が大きい。
- ・子供のことを大切にするのは良いと思うけど、年寄りのことも大切にしてほしい。
- ・高齢者が多くなり、大変なこととおもいます。よろしくお願いします。
- ・既に施設に入り、相応の時間が経過しています。市内に家がありますが、誰も住んでいません。昨年、空き巣に入られ、被害にあいました。家を人に貸すことも考えましたが、当人の生活していた荷物もあり、勝手に処分することもできません。パトロール等の対応があると安心できます。
- ・数年の自宅介護の末、施設へ入所でき、本人、介護人ともにありがたく感謝です。
- ・白岡市は他の市町村に比べると、色々と手厚いと思います。このまま高齢者も住み良い市であってほしいです。

6. 施設サービス利用者調査のまとめ

【調査票の記入者】

「あて名の方の子ども」が 67.5%で最も多く、次いで「あて名の方の親族」(14.4%)、「あて名の方の配偶者」(10.5%)となっています。「あて名のご本人が記入」は 3.3%で、本人以外の方の回答が9割を超えています。

【1. 回答者の属性】

回答者の性別は、「女性」が 72.7%、「男性」が 26.3%で、約4分の3が女性となっています。年齢構成をみると、「90歳以上」が 37.8%で最も多く、次いで「85～89歳」(29.7%)、「80～84歳」(16.3%)となっています。65～74歳までの前期高齢者が 5.7%である一方、75歳以上の後期高齢者は 90.5%で、大半を占めています。また、「40～64歳」は 2.9%となっています。

要介護度は「要介護3」が 35.4%で最も多く、次いで「要介護4」(31.1%)、「要介護5」(19.1%)で、これらを合わせた中重度の高齢者の割合は 85.6%となり、大半を占めています。年代が高くなるほど、「要介護3」の割合が多くなり、85歳以上では約4割となっています。また、85歳以上では、「要介護4」(32.6%)と「要介護5」(19.9%)を合わせると半数を超えており、重度の高齢者の割合が多くなっています。

医師に認知症と診断されているかについては、「診断されている」が 56.0%で、施設入所者の半数以上を占めています。在宅介護実態調査における同じ設問（問9）と比較すると、認知症と診断されている人の割合は 34ポイント高くなっており、認知症であることが施設入所の要因の一つとなっていることがうかがえます。年代が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、85歳以上では約6割となっています。要介護度別では、要介護度が高くなるほど、「診断されている」の割合が多くなり、「要介護3～5」では約6割となっています。年代が高くなるほど、また、要介護度が高くなるほど、施設入所者における認知症との診断を受けた人の割合が多くなっています。

【2. 入所している施設について】

入所している施設の種類は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が 75.1%で最も多く、次いで「介護老人保健施設（老人保健施設）」(23.0%)、「介護医療院」(1.0%)となっています。年代別でみると、85歳以上は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の割合が約8割で、他の年代よりも多くなっています。

要介護度別でみると、「要支援1～2」と「要介護1～2」は「介護老人保健施設（老人保健施設）」の割合が5割台で最も多い一方、「要介護3～5」は「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の割合が8割を超え、大半を占めています。要介護2までは、長期入所を前提としない「介護老人保健施設（老人保健施設）」の利用が多く、要介護3を超えると長期入所を

見据えた「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の利用が多くなっていることがうかがえます。

現在の施設に入所してからの期間は、「1年～3年未満」が38.8%で最も多く、次いで「6か月～1年未満」(16.7%)、「3か月～6か月未満」(14.4%)となっています。前回調査と比較すると、3年以上入所している割合が、9.3ポイント少なくなっており、入所期間が3年未満の割合が増えています。要介護度別にみると、「要支援1～2」と「要介護1～2」の比較的軽度の高齢者では、入所期間が1年未満の割合が5割後半である一方、「要介護3～5」では、入所期間が1年以上の割合が7割近くであり、要介護度が高くなると入所期間も長くなっています。

入所施設別に比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、長期入所を見据えた施設であることから、入所期間が1年以上の割合が約7割と多くなっていますが、長期入所を前提としていない介護老人保健施設（老人保健施設）でも、入所期間が1年以上の割合が4割前半となっており、退所後の生活の場を見つけることが難しい状況にあることがうかがえます。

入所した理由は、「介護している人の負担が大きかったから」が54.1%で最も多く、次いで「自宅の居住環境では介護を続けていくことが難しかったから」(51.2%)となっており、半数以上が在宅での介護が難しくなったことを理由として挙げています。

【3. 施設のサービスについて】

1) 入所している施設の個別サービスの満足度

現在入所している施設のサービスの満足度について、項目ごとに尋ねました。10のサービスのうち、「満足である」の割合は、「ア）食事について」(57.9%)と「エ）レクリエーションやクラブ活動について」(47.8%)を除き、他のすべてのサービスで6割台となっており、「不満である」が1割を超えているサービスはありません。

前回調査と比較すると、「満足である」の割合が5ポイント以上減った施設サービスは「ア）食事について」となっています。入所施設別で比較すると、介護老人保健施設（老人保健施設）は、「不満である」の割合が、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）よりも5ポイント以上多いサービスが4つあります。該当するサービスは、「イ）入浴について」、「キ）職員の対応について」、「ケ）プライバシーの確保について」と「コ）拘束のない自由な行動について」となっています。また、「エ）レクリエーションやクラブ活動について」はいずれの施設においても「満足している」の割合は半数を下回っており、施設種別を問わず共通の課題となっています。入所者の生活の質の向上やいきがづくりの観点から、活動内容の充実や参加しやすい環境整備が求められます。

2) 入所している施設のサービス全般の満足度

現在入所しているサービス全般の満足度は、「満足している」(45.5%)と「やや満足している」(31.6%)を合わせた満足している割合が77.1%となっています。一方で、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた満足していない割合は1割を下回っており、総じて満足

度は高くなっています。年代別にみると、年代が高くなるほど、「満足している」と「やや満足している」を合わせた満足している割合が多くなり、85歳以上では、約8割となっています。

要介護度別でみると、「要介護3～5」は、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた満足していない割合が7.2%である一方、「要支援1～2」と「要介護1～2」は満足していないと回答した人はおらず、比較的軽度者において満足度が高い状況となっています。入所施設別にみると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた満足していない割合が3.8%である一方、介護老人保健施設（老人保健施設）は14.6%でやや多く、施設種別による満足度の差がみられます。

3) 入所している施設のサービスを受けてよかったこと

現在入所している施設のサービスを受けてよかったと思うことを尋ねたところ、「生活が規則正しくなった」が50.2%で最も多く、次いで「体調が良くなった」(30.6%)、「人と話す機会が増えた」(26.8%)となっており、生活リズムの安定や健康面、人との交流機会の増加といった効果が確認できます。一方で、「自分で身の回りのことをしようとする意欲が出てきた」、「生活に張りが出た」、「外出の機会が増えた」の割合は1割未満に留まっています。

施設入所により一定の生活安定や健康維持の効果は得られているものの、主体性の向上や生活の張り、外出機会の増加といった側面については十分とはいえない状況がうかがえます。入所者がより生きがいや充実感を持って生活できるような取組の充実が求められます。

4) 施設費用について

施設費用の主な負担者について尋ねたところ、「本人」が61.2%で最も多く、次いで「本人と家族」(23.9%)、「家族」(13.4%)となっており、8割以上のケースで、本人も費用負担に関わっています。一方で4割近くのケースで家族も費用を負担しており、家族の経済的関与も大きいことがわかります。

施設への支払額の負担感は、「やや負担である」が31.6%で最も多く、次いで「かなりの負担である」(25.4%)となっており、両方を合わせた、負担であると感じている割合は、57.0%と過半数を占めており、費用負担の重さがうかがえます。要介護度別でみると、「要介護1～2」は、「かなり負担である」の割合が5割半ばであり、「やや負担である」を合わせると8割を超え、大半が負担を感じている状況となっています。

また、施設費用の負担者別でみると、「本人」は、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた負担である割合が4割半ばであるのに対し、「家族」と「本人と家族」では7割以上と多くなっています。本調査の調査票の記入者の9割以上が家族であることから、家族が費用負担を強く感じている実態が反映されていると考えられます。

5) 施設に不満がある時の相談者

施設に不満がある時に相談する人は、「家族」が41.6%で最も多く、次いで「施設の職員」(30.6%)、「ケアマネジャー」(18.2%)となっています。また、「相談する人はいない」が8.1% (17人)となっており、一定数の入所者が相談先を持たない状況にあります。施設内外の相談

体制は一定程度機能しているものの、相談相手がいない入所者への対応が課題であり、施設側からの積極的な声掛けや相談しやすい環境づくりが求められます。

6) 施設でのサービスで改善してほしいこと

施設でのサービスについて改善してほしいことがあるか尋ねたところ、「ある」が31.6%となっており、一定数の利用者・家族が改善の必要性を感じています。改善してほしい具体的な内容は、「面会について」が42.4%で最も多く、次いで「食事内容や食事の介護内容」(25.8%)、「職員の態度・コミュニケーション」(21.2%)となっています。利用者本人と家族、また施設職員と十分なコミュニケーションを図れるよう改善し、利用者本人がより生活しやすい環境づくりが必要となっています。

入所施設別で比較すると、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、介護老人保健施設（老人保健施設）と比べて、「面会について」は15.5ポイント、「食事内容や食事の介護内容」については9.5ポイント多くなっており、これらの項目において、改善ニーズがより高くなっています。一方で、「人権やプライバシーへの配慮」(13.2ポイント)と「介護に関する要望を聞き入れてくれない」(5.9ポイント)は、介護老人保健施設（老人保健施設）の方が多くなっています。施設種別によって、改善してほしい項目の優先度も異なるため、それぞれの施設特性に応じて、優先度の高い項目から改善へ向けた取組が求められます。

【4. 今後の意向や要望について】

1) 施設からの退所や他の施設への入所希望

施設からの退所や他の施設への入所を希望しているか尋ねたところ、「このまま現在の施設での生活を続けたい」が66.5%で最も多く、「退所して自宅等に戻りたい」は1割未満となっています。年代別にみると、74歳以下は、「退所して自宅等に戻りたい」の割合が2割を超えていますが、年代が高くなるほど割合は減り、「このまま現在の施設での生活を続けたい」の割合が増えています。要介護度別でみると、「要介護1～2」は、「退所して自宅等に戻りたい」の割合が2割近くとなっています。

入所施設別では、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、「このまま現在の施設での生活を続けたい」の割合が7割半ばである一方、介護老人保健施設（老人保健施設）は4割前半となっています。また、介護老人保健施設（老人保健施設）は、「他の施設へ入所の申し込みをしている」と「退所して自宅等に戻りたい」の割合が2割近くと多くなっています。

2) 申し込みしている他の施設

「他の施設へ入所の申し込みをしている」または「他の施設へ入所の申し込みを検討している」と回答した人17人のうち、どの施設に申し込んでいるか尋ねたところ、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が64.7%（11人）で最も多く、次いで介護老人保健施設（老人保健施設）(11.8%)（2人）、「介護医療院」(5.9%)（1人）となっています。

3) 退所して自宅等に戻りたい理由

「退所して自宅等に戻りたい」と回答した19人に主な理由を尋ねたところ、「住み慣れた自宅で過ごしたいから」が78.9%（15人）で最も多く、次いで「家族と一緒に暮らしたいから」と「費用負担を軽くしたいから」が31.6%（6人）となっています。「退所して自宅等に戻りたい」との意向を可能な限り実現できるよう、在宅生活を支える介護サービスの充実や支援体制の整備が求められています。

4) あなたの身の緊急事態時に必要な手続きや金銭管理をしてくれる身内

あなたの身に緊急事態が起きた時に、必要な手続きや金銭管理をしてくれる身内がいるかどうか尋ねたところ、「子ども」が77.5%で最も多く、次いで「配偶者」（10.5%）で、「誰もいない」は2.4%（5人）となっています。年代別でみると、84歳以下では、「子ども」の割合が5割台で、「配偶者」の割合が約2割ですが、85歳以上では、「子ども」の割合が9割近くで、「配偶者」は4.3%に留まっています。今後、子どものいない単身高齢者が増加していくことが見込まれている中、必要な手続きや金銭管理等を行う人がいないという課題が増え、「子ども」や「配偶者」が担うことが前提となっている現在の制度設計の見直しが課題となります。

5) 成年後見制度の認知度

成年後見制度（判断力が低下した方への法的な支援制度）の認知度は、「名前だけは聞いたことがある」が44.0%で最も多く、次いで「知らない」（29.7%）、「制度の内容も概ね知っている」（22.5%）となっており、制度の内容まで概ね把握している人は約2割に留まっており、十分な周知には至っていない状況がうかがえます。

年代別にみると、85歳以上では、「知らない」の割合が3割を超えて、84歳以下と比較して認知度が低い傾向がみられます。認知症の診断の有無別にみると、「制度の内容も概ね知っている」の割合に5ポイント以上の差はみられず、認知症の有無による成年後見制度の認知度への影響は限定的であると考えられます。今後は、制度の必要性が高まることを踏まえ、よりわかりやすい情報提供や周知啓発の充実が求められます。

6) 高齢者への対応として、今後行政に期待すること

高齢者への対応として、今後行政に期待することは、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が58.9%で最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」（31.1%）、「緊急時や災害時の対策」（26.8%）となっています。年代別にみると、75～84歳と85歳以上では、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が6割を超えて最も多くなっていますが、74歳以下では、「緊急時や災害時の対策」が4割半ばで最も多くなっています。要介護度別でみると、すべての要介護度において、「施設に入所して受ける介護保険サービスの充実」が最も多くなっています。

施設サービスの質の向上とともに、在宅支援や災害対策など、多様なニーズに対応した施策の推進が求められています。

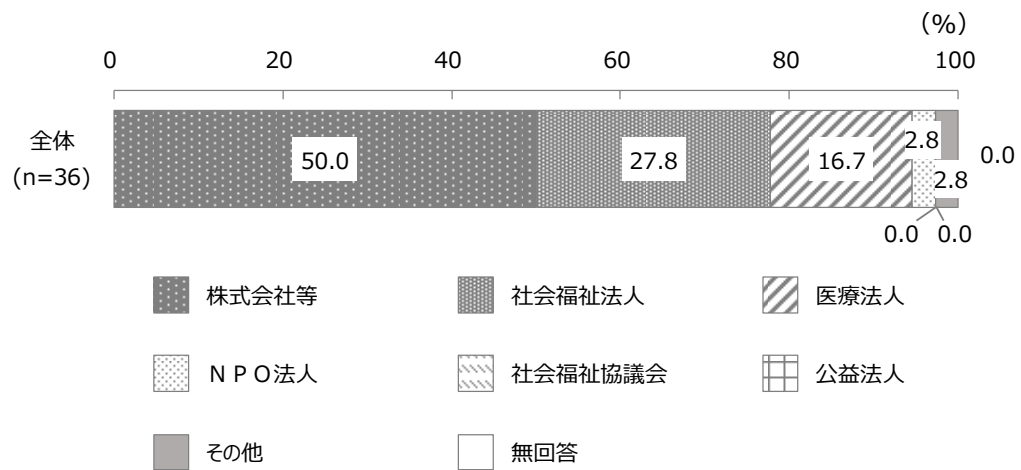
第4章

サービス提供事業者調査

1. 回答事業者の属性

問1 事業所の法人格

「株式会社等」が50.0%で最も多く、次いで「社会福祉法人」(27.8%)、「医療法人」(16.7%)となっています。



2. サービスの提供状況及び今後の事業展開について

問2 貴事業所で実施しているサービスはどれですか。[あてはまる番号すべてに○]

52 のサービスのうち、「1 訪問介護[居宅サービス]」を実施している事業所が9 事業所で最も多く、次いで「39 居宅介護支援」が6 事業所、「3 訪問看護」と「44 訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」が5 事業所となっています。

問3 問2で選択したサービスは、ニーズに対応できていますか。[それぞれ1 つに○]

「断ることがある」サービスは、52 のサービスのうち、9 つありました。内訳は、「1 訪問介護[居宅サービス]」が3 事業所、「39 居宅介護支援」が2 事業所、以下の7 つのサービスは1 事業所ずつとなっています：「3 訪問看護」、「15 介護予防訪問看護」、「30 認知症対応型通所介護」、「36 介護予防認知症対応型通所介護」、「40 介護予防支援」、「41 介護老人福祉施設」、「44 訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」。

問4 問2で選択したサービスの今後の事業展開の予定をお答えください。[それぞれ1 つに○]

「規模拡大」と回答のあったサービスは、18 サービスありました。そのうち、複数の事業所が「規模拡大」と回答したサービスは、「1 訪問介護[居宅サービス]」、「3 訪問看護」、「10 特定施設入居者生活介護」、「15 介護予防訪問看護」、「44 訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」となっています。一方、「規模縮小」と回答のあったサービスは6 つで、「1 訪問介護[居宅サービス]」、「8 短期入所生活介護」、「40 介護予防支援」、「41 介護老人福祉施設」、「44 訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」、「49 ケアマネジメントA」となっています。

サービス名	問2	問3		問4		
	実施している事業所数	対応できている	断ることがある	規模拡大	現状維持	規模縮小
1訪問介護[居宅サービス]	9	6	3	2	6	1
2訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0
3訪問看護	5	4	1	2	3	0
4訪問リハビリテーション	3	3	0	0	3	0
5居宅療養管理指導	1	1	0	0	1	0
6通所介護[居宅サービス] *	4	3	0	1	3	0
7通所リハビリテーション	2	2	0	0	2	0
8短期入所生活介護	4	4	0	0	3	1
9短期入所療養介護	1	1	0	0	1	0
10特定施設入居者生活介護	2	2	0	2	0	0
11福祉用具貸与	2	2	0	1	1	0
12特定福祉用具販売	2	2	0	1	1	0
13居宅介護住宅改修	1	1	0	1	0	0

サービス名	問2	問3		問4		
	実施している事業所数	対応できている	断ることがある	規模拡大	現状維持	規模縮小
14介護予防訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0
15介護予防訪問看護	4	3	1	2	2	0
16介護予防訪問リハビリテーション	3	3	0	0	3	0
17介護予防居宅療養管理指導	1	1	0	0	1	0
18介護予防通所リハビリテーション	2	2	0	0	2	0
19介護予防短期入所生活介護	3	3	0	0	3	0
20介護予防短期入所療養介護	1	1	0	0	1	0
21介護予防特定施設入居者生活介護	1	1	0	1	0	0
22介護予防福祉用具貸与	2	2	0	1	1	0
23特定介護予防福祉用具販売	2	2	0	1	1	0
24介護予防住宅改修	1	1	0	1	0	0
25基準該当短期入所生活介護 *	1	0	0	0	1	0
26基準該当介護予防短期入所生活介護	1	1	0	0	1	0
27定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	0	0
28夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0
29地域密着型通所介護	2	1	0	0	2	0
30認知症対応型通所介護 **	2	1	1	1	0	0
31小規模多機能型居宅介護	2	2	0	0	1	0
32認知症対応型共同生活介護	2	2	0	1	1	0
33地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0
34地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	1	0	0	1	0
35看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)	1	1	0	1	0	0
36介護予防認知症対応型通所介護 **	1	0	1	0	0	0
37介護予防小規模多機能型居宅介護	2	2	0	0	2	0
38介護予防認知症対応型共同生活介護	2	2	0	1	1	0
39居宅介護支援	6	4	2	0	6	0
40介護予防支援	3	2	1	0	2	1
41介護老人福祉施設	3	2	1	0	2	1
42介護老人保健施設	1	1	0	0	1	0
43介護医療院	0	0	0	0	0	0
44訪問介護【介護予防・日常生活支援総合事業】	5	4	1	2	2	1
45訪問型サービスA	1	1	0	0	1	0
46通所介護【介護予防・日常生活支援総合事業】	4	4	0	1	3	0
47通所型サービスA	2	2	0	0	2	0
48通所型サービスC	0	0	0	0	0	0
49ケアマネジメントA	1	1	0	0	0	1
50住宅型有料老人ホーム	4	4	0	0	4	0
51サービス付き高齢者向け住宅	3	3	0	0	3	0
52ケアハウス	1	1	0	0	1	0

注:表中、無回答数は除いている。サービス名の横の「*」は問3で無回答が、「**」は問4で無回答があったサービスである。

問5 上記1～52番までのサービスのうち、3年以内（令和9～11年度）に新たに開始を予定しているサービスがありましたら、サービス番号、具体的な内容、開始する理由をわかる範囲で記入してください。

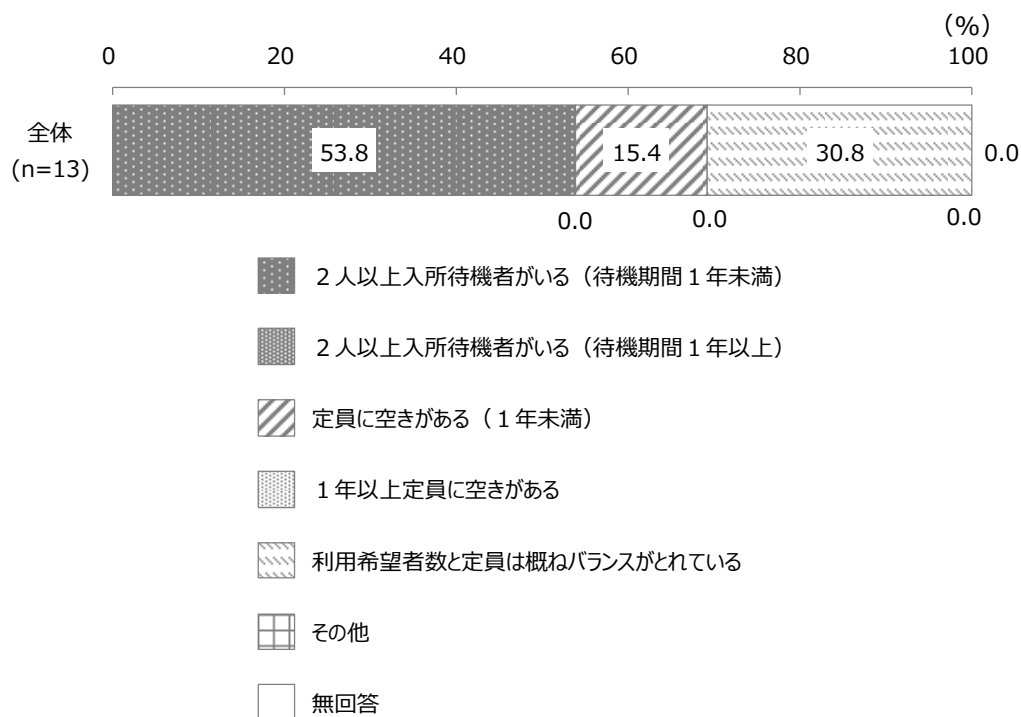
「新たに開始を予定しているサービス」はありませんでした。

3. 施設・居住系サービスの利用者数の動向について

問6 問2で「施設・居住系サービス」（サービス番号：32「認知症対応型共同生活介護」、41～43「介護保険施設」、50～52「高齢者の住まい」）の1つでも実施していると回答した方にうかがいます。

施設・居住系サービスの利用者数はどのような状況ですか。〔1つに○〕

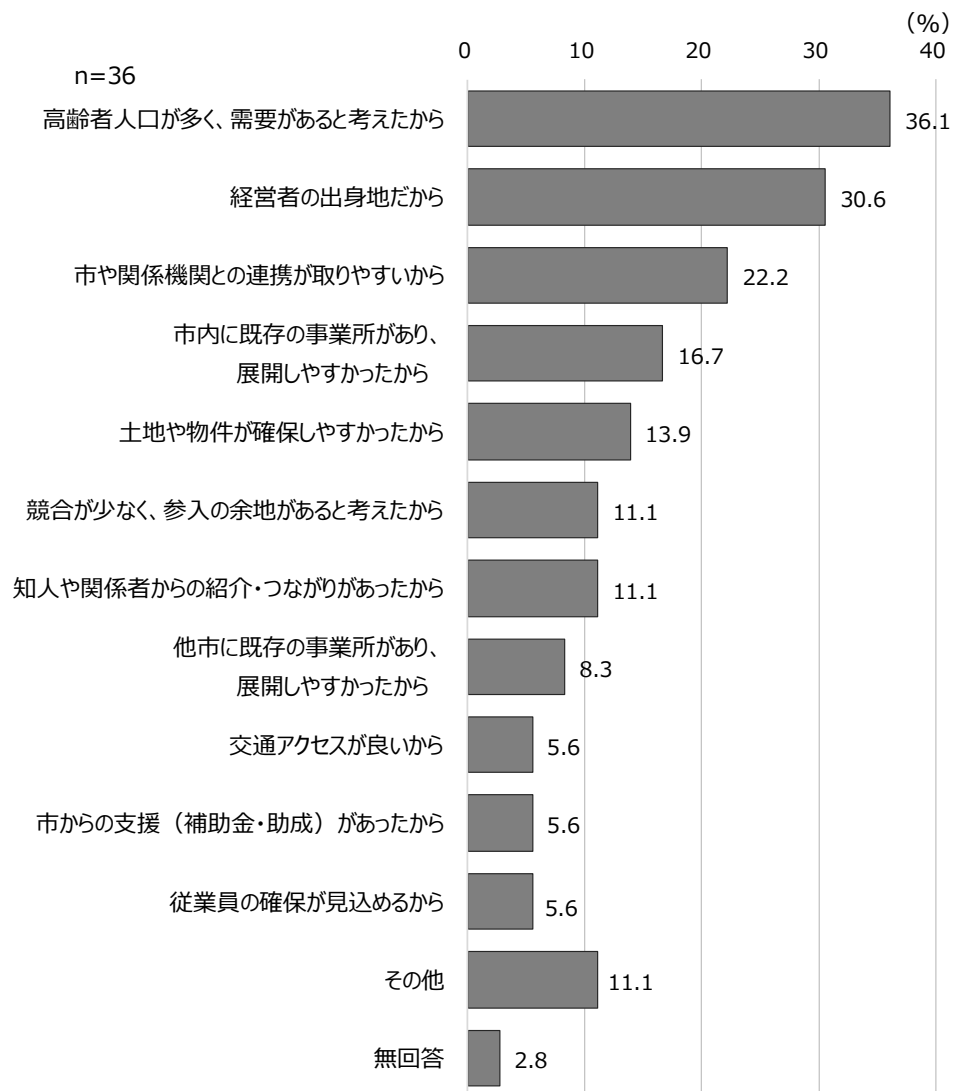
半数以上の事業所が、「2人以上入所待機者がいる（待機期間1年未満）」と回答しています。一方で、「定員に空きがある（1年未満）」と回答した事業所は全体の15.4%でした。



4. 事業所の開所理由について

問7 白岡市で事業所を開所した理由は何ですか。〔あてはまるものすべてに○〕

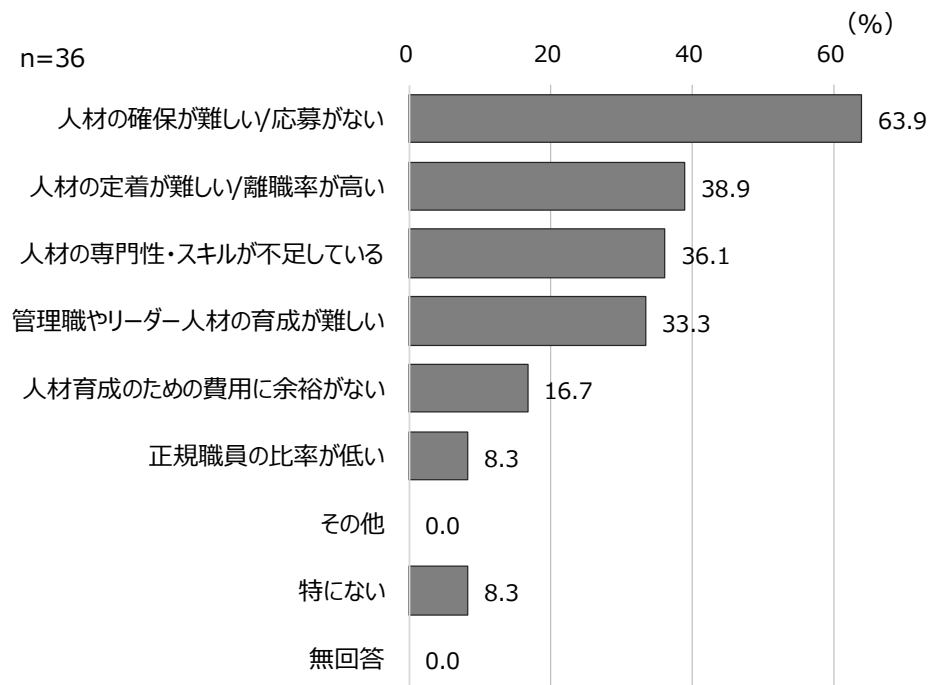
「高齢者人口が多く、需要があると考えたから」が36.1%で最も多く、次いで「経営者の出身地だから」(30.6%)、「市や関係機関との連携が取りやすいから」(22.2%)の順となりました。一方で、「交通アクセスが良いから」、「市からの支援（補助金・助成）があったから」、「従業員の確保が見込めるから」との理由はそれぞれ全体の5.6%となっていました。



5. 運営上の課題・市に期待するサポートについて

問8 介護人材の採用・育成・定着等に関して困っていることは何ですか。[あてはまるものすべてに○]

「人材の確保が難しい/応募がない」が63.9%で最も多く、次いで「人材の定着が難しい/離職率が高い」(38.9%)、「人材の専門性・スキルが不足している」(36.1%)となっています。



問9 介護人材の採用・育成・定着等に関して、市に期待するサポートや、改善に向けた具体的な提案があれば、ご記入ください。（自由記述）

8事業所から10件のご意見をいただきました。そのうち、人材確保・人材育成に関する意見が8件挙げられました。

人材確保・人材育成

- ・市で介護スタッフの無料研修（動画でもよい）を行ってほしい。
- ・人材確保のお手伝いをしてほしい。
- ・研修の機会。
- ・市内にナースバンクのような看護師の登録をする仕組みがあれば、利用しやすいと思う。
- ・各法人は現場を回すことで目一杯で、法人単位の責任では人材育成が賄いきれていない。市として、市内で働く介護人材の育成に関わり、例えば市内事業所を退職しても、市内の別事業所で再就職することができるようにするなど、市内介護人材が市内にいれば、専門職として学べる機会が得られ、成長できると感じられるような支援策を期待したい。
- ・研修・資格取得支援の充実。
- ・初任者研修や実務者研修の受講費助成、研修機会の拡充により、未経験者でも参入しやすい環境づくりを期待する。
- ・介護人材の育成にかかる研修等の費用の補助金のサポート、研修会等。

その他

- ・市自体の魅力 UP。
- ・白岡市内への定住を都内の方に PR してもらいたい。

問10 問8で回答した介護人材に関する困り事以外で、現在、貴事業所が抱えている運営上の課題は何ですか。「運営全般」についてと、「サービスごと」にその内容を記入してください。サービス番号は、裏面の1～52番の中から選んでください。（自由記述）

運営全般 11事業所から14件のご意見をいただきました。人材確保や人材育成の難しさや、物価高騰による影響が挙げられました。

サービスごと 10事業所から44件のご意見をいただきました。書類作成の負担や、利用者の減少等が挙げられました。

運営全般

経費・経営面について

- ・安定的な事業運営の維持と利用者へのサービス品質確保のため、物価高騰のための補助金を希望する。
- ・修理、新規購入、消耗品、光熱水費、材料費、保守等、すべてにおいて費用が高騰している。
- ・経費人件費の上昇に対応できるよう介護報酬をあげてもらいたい。
- ・物価高騰。
- ・利用者の確保及び稼働率の維持。
- ・売り上げについて。

施設・機材について

- ・施設機材の老朽化。
- ・施設老朽化への対応。設備更新や修繕の費用負担が重い状況。
- ・事業所がオープンして17年経過し、事業所各箇所での故障が多くなっている為、修繕の費用が高くなっている。

人材不足・人材育成について

- ・5人体制で、圏域内8千人以上の高齢者を対象に相談窓口を担っている。業務過多であり、現人員体制では限界に近い。
- ・人材のスキルアップのため研修を行うが、時間の余裕がなく研修後のフォローができていない。
- ・運営上の係の仕事、質の向上のための勉強会、看護研究などにかかる時間がとれない。
- ・介護スタッフの高齢化及びスタッフのほとんどがパートスタッフの為、研修や事業所会議の実施の困難さ。

その他

- ・身寄りのない方の対応。

サービスごと

1 訪問介護[居宅サービス]
・介護報酬。 ・駐車場がないお宅の対応。路上駐車許可証が取れない所は、有料駐車場使用するが、駐車料金は事業所負担となるので、負担が大きい。
3 訪問看護
・訪問以外の記録、書類作成が多く時間を要する。契約書の署名捺印が多く、高齢者や体調不良、介護の疲れがある家族に負担となっている。 ・医療依存度の高い利用者が増える中、専門職の確保が難しく、受け入れ制限が発生している。 ・低所得の方へのサービス提供困難。
4 訪問リハビリテーション
・利用者の獲得。
6 通所介護[居宅サービス]
・利用者が減少している。 ・介護予防に尽力したい。
7 通所リハビリテーション
・定員調整。
8 短期入所生活介護
・利用者が減少している。
9 短期入所療養介護
・ベッド調整。
12 特定福祉用具販売
・償還払いのため手続きに時間がかかり、お客様にご迷惑をかけることがある。
13 居宅介護住宅改修
・償還払いのため手続きに時間がかかり、お客様にご迷惑をかけることがある。
15 介護予防訪問看護
・リハビリが12ヶ月以降減算になるが、継続してリハビリや運動できる仕組みがないと機能低下すると思われる。 ・訪問以外の記録、書類作成が多く時間を要する。 ・医療職による専門的なアセスメントやリハビリを提供しても、報酬体系が十分ではなく、経営面の課題となっている。 ・契約書の署名捺印が多く、高齢者や体調不良、介護の疲れがある家族に負担となっている。
16 介護予防訪問リハビリテーション
・利用者の獲得。
18 介護予防通所リハビリテーション
・定員調整。
19 介護予防短期入所生活介護
・利用者が減少している。
20 介護予防短期入所療養介護
・ベッド調整。
23 特定介護予防福祉用具販売
・償還払いのため手続きに時間がかかり、お客様にご迷惑をかけることがある。

24 介護予防住宅改修
・償還払いのため手続きに時間がかかり、お客様にご迷惑をかけることがある。
29 地域密着型通所介護
・キーパーソンになるご家族が就労している事が多く忙しくしているので、利用者家族との連絡調整を取ることの困難を感じる。 ・週7日で運営している為、日によっての利用者の平均介護度に差がある為、入浴や排泄・食事といった介助量にも影響があり。
30 認知症対応型通所介護
・休業中。
31 小規模多機能型居宅介護
・需要と供給のバランスが悪い。
34 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
・利用者が減少している。
36 介護予防認知症対応型通所介護
・休業中。
39 居宅介護支援
・要介護3の判定が出ると、入所傾向が強い。 ・業務量の増加（計画書作成・モニタリング・給付管理）が続き、ケアマネの負担が過多。 ・利用者・ご家族・事業所連絡調整が困難なことが多く時間がかかる。
40 介護予防支援
・引き受け手がおらず、包括が直営でケース担当せざるを得ない状況が増えている。複数事業、業務を受託しているが、介護予防支援の直接担当数が増え、他業務を圧迫している。
41 介護老人福祉施設
・利用者が減少している。
42 介護老人保健施設
・稼働の安定。
44 訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]
・介護報酬。 ・総合事業は、自立支援が基本となると思うが、利用者もケアマネジャーも家事手伝いのように利用する方が多い。ケアマネジャーの意識も向上してほしい。
46 通所介護[介護予防・日常生活支援総合事業]
・利用者が減少している。 ・介護予防に尽力したい。
47 通所型サービスA
・総合事業の通所型サービスであっても、提供するサービスの内容は地域密着型通所サービスと同じようなことが多くあり、利用される方の介護者であっても、見守りを含む介助量には大きな差はないと感じている。サービスを受ける側に対して、自立支援を促しながら提供することは、対応・言葉遣いを含む接し方を間違えないように注意が必要と感じている。
49 ケアマネジメントA
・直営での担当件数増加しており、他業務を圧迫している。
51 サービス付き高齢者向け住宅
・空室の増減に左右されやすく、安定的な経営が難しい。 ・入居者の要介護度が高くなってきており、見守りや生活支援だけでは対応が困難なケースが増えている。

6. 自由意見

市へご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、お知らせください。

3件のご意見をいただきました。

- ・ 近隣施設の状況を聞いても以前のような入所待ちはない。新規施設を作るのではなく、現存する施設の活性化を図ってほしい。
- ・ 住宅改修の許可までの時間をもう少し短縮頂けるとありがたい。周辺市町村は大体1週間なので。
- ・ 高齢者、後期高齢者人口が増加する中、包括支援センター2拠点では担当するエリアが広く、対応しきれていない。また、高齢者が住む地域によって、既存センターは通うに遠く、身近な相談先とは必ずしも言えない。既に高齢者の増加は現状の人員体制基準以上の状況。後期高齢化の進行も相まって、要介護認定率も高まる事がみこまれ、短期的にエリア再編、拠点増設の必要を感じる。

7. サービス提供事業者調査のまとめ

【1. 回答事業者の属性】

回答のあった事業所の法人格は、「株式会社等」が50.0%（18事業所）で最も多く、次いで「社会福祉法人」（27.8%）（10事業所）、「医療法人」（16.7%）（6事業所）となっています。また、「NPO法人」と「その他」はそれぞれ2.8%（1事業所）となっています。

【2. サービスの提供状況及び今後の事業展開について】

実施しているサービスは、52のサービスのうち、「訪問介護[居宅サービス]」が9事業所で最も多く、次いで「居宅介護支援」が6事業所、「訪問看護」と「訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」が5事業所となっています。また、いずれの事業所も実施している回答がなかったサービスは7つあり、「訪問入浴介護」、「介護予防訪問入浴介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「夜間対応型訪問介護」、「地域密着型特定施設入居者生活介護」、「介護医療院」、「通所型サービスC」となっています。

実施しているサービスのニーズへの対応状況については、断ることがあるサービスは9つありました。内訳は、「訪問介護[居宅サービス]」が3事業所、「居宅介護支援」が2事業所で、次の7つのサービスは1事業所ずつとなっています。「訪問看護」、「介護予防訪問看護」、「認知症対応型通所介護」、「介護予防認知症対応型通所介護」、「介護予防支援」、「介護老人福祉施設」、「訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」が該当のサービスです。

今後の事業展開の予定については、「規模拡大」と回答のあったサービスは、18サービスありました。そのうち、複数の事業所が「規模拡大」と回答したサービスは5つで、「訪問介護[居宅サービス]」、「訪問看護」、「特定施設入居者生活介護」、「介護予防訪問看護」、「訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」となっています。一方、「規模縮小」と回答のあったサービスは6つで、「訪問介護[居宅サービス]」、「短期入所生活介護」、「介護予防支援」、「介護老人福祉施設」、「訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」、「ケアマネジメントA」となっています。また、今後3年以内に新たに開始を予定しているサービスはありませんでした。

ニーズへの対応として、断ることがある9つのサービスのうち、今後事業を縮小していくと回答した事業所があるサービスは、「訪問介護[居宅サービス]」、「介護予防支援」、「介護老人福祉施設」、「訪問介護[介護予防・日常生活支援総合事業]」の4つです。市内でニーズに対応できていない状況がある一方、事業を縮小していく事業所があるという状況にあります。事業所が市内でのニーズに対応でき、利用者が希望するサービスが利用できるよう、十分なサービス提供体制を整えていくことが求められています。

【3. 施設・居住系サービスの利用者数の動向について】

施設・居住系サービス※のうち、1つでも実施している事業所（13事業所）に対し、利用者数の状況について尋ねたところ、半数以上の事業所（7事業所）が、「2人以上入所待機者がいる（待機期間1年未満）」と回答しています。一方で、「定員に空きがある（1年未満）」と回答した事業所は2事業所でした。また、4事業所（30.8%）は、「利用希望者数と定員は概ねバランスがとれている」と回答しています。

※「認知症対応型共同生活介護」、「介護老人福祉施設」、「介護老人保健施設」、「介護医療院」、「住宅型有料老人ホーム」、「サービス付き高齢者向け住宅」、「ケアハウス」

【4. 事業所の開所理由について】

白岡市で事業所を開所した理由は、「高齢者人口が多く、需要があると考えたから」が36.1%（13事業所）で最も多く、次いで「経営者の出身地だから」（30.6%）（11事業所）、「市や関係機関との連携が取りやすいから」（22.2%）（8事業所）となっています。一方で、「交通アクセスが良いから」、「市からの支援（補助金・助成）があったから」、「従業員の確保が見込めるから」との理由はそれぞれ全体の5.6%（2事業所）となっています。

【5. 運営上の課題・市に期待するサポートについて】

介護人材の採用・育成・定着等に関して困っていることでは、「人材の確保が難しい/応募がない」が63.9%で最も多く、次いで「人材の定着が難しい/離職率が高い」（38.9%）、「人材の専門性・スキルが不足している」（36.1%）となっています。それら介護人材に関する困り事に対して、市に期待するサポートや改善に向けた提案として8件の意見が挙げられました。ナースバンクのような看護師を登録する仕組みや、市内で働いていた介護人材が退職後に市内で再就職しやすくする仕組みなどの創設の提案に加え、介護人材への無料研修の実施、研修費用の補助、資格取得支援など介護人材の育成や、未経験者でも参入しやすい環境作りに期待する声が挙がっています。

事業所が抱えている運営全般の課題として14件の意見が挙げられました。経費・経営面では、人件費や物価等の経費高騰による運営の難しさに加え、利用者の確保及び稼働率の維持に関する課題が挙げられ、施設・機材面では、施設機材の老朽化や修繕費の負担に関する課題、人材不足や育成に関しては、業務過多や介護人材の高齢化等による仕事の内容や質への影響が生じていることなどが挙げられています。

事業所が抱えているサービスごとの課題として44件の意見が挙げられました。サービスによって異なる課題が挙げられているものの、総じて、書類作成の負担、利用者の減少、介護報酬の低さ、利用者家族との連絡調整の困難さ、ケアマネジャーの負担過多などが挙げられています。

安定的に事業所が運営され、サービス提供が行えるよう、事業所からの意見も踏まえ、必要に応じた支援策について検討する必要があります。

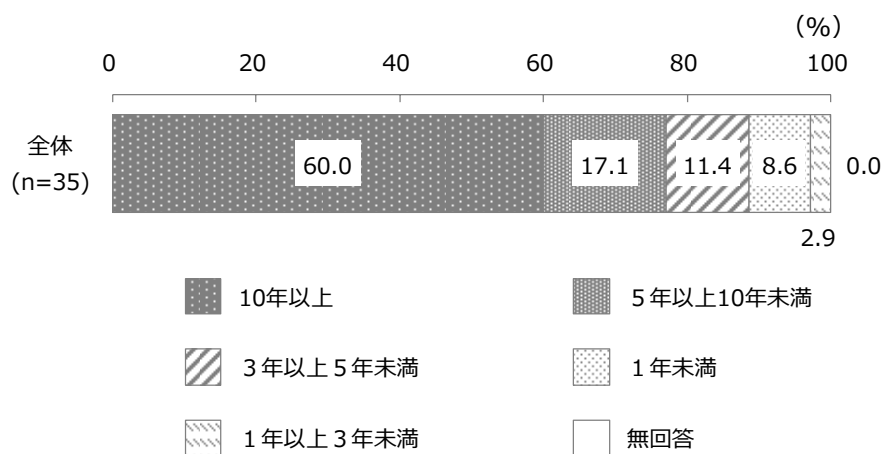
第5章

ケアマネジャー調査

1. 回答者の属性

問1 あなたはケアマネジャーの仕事をしてどのくらいになりますか。[1つに○]

「10年以上」が60.0%で最も多く、次いで「5年以上10年未満」(17.1%)、「3年以上5年未満」(11.4%)となっています。



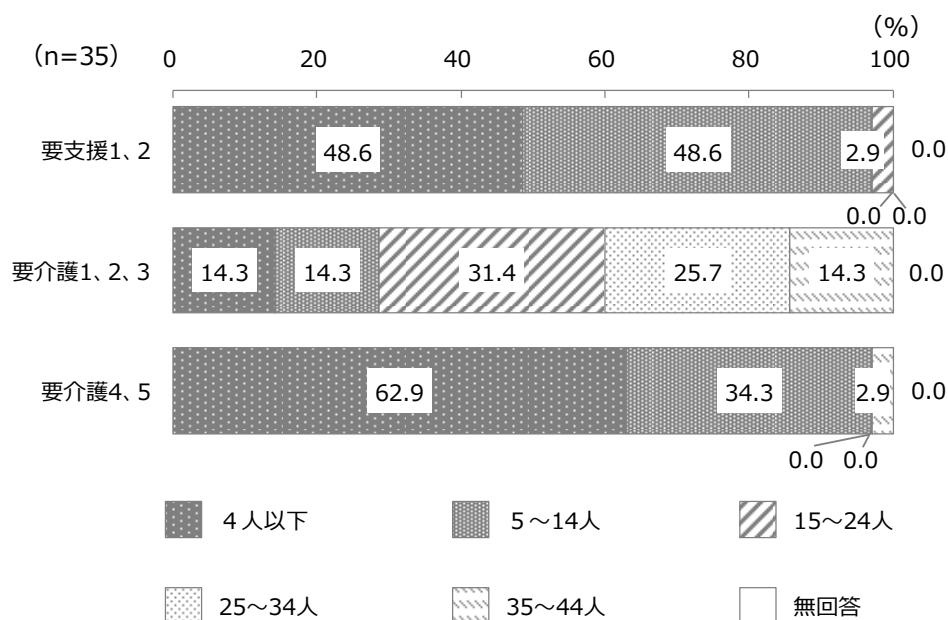
2. ケアプランについて

問2 あなたが、ケアプランを作成している方は何人ですか。また、白岡市の方については要介護度別に人数をご記入ください。

白岡市分の受け持ち人数の内訳（要介護度別） 白岡市分の要介護度別受け持ち人数は、「要支援1、2」では、「4人以下」と「5～14人」が48.6%となっています。「要介護1、2、3」では、「15～24人」が31.4%で最も多く、次いで「25～34人」（25.7%）となっています。「要介護4、5」では、「4人以下」が62.9%で最も多く、次いで「5～14人」（34.3%）となっています。

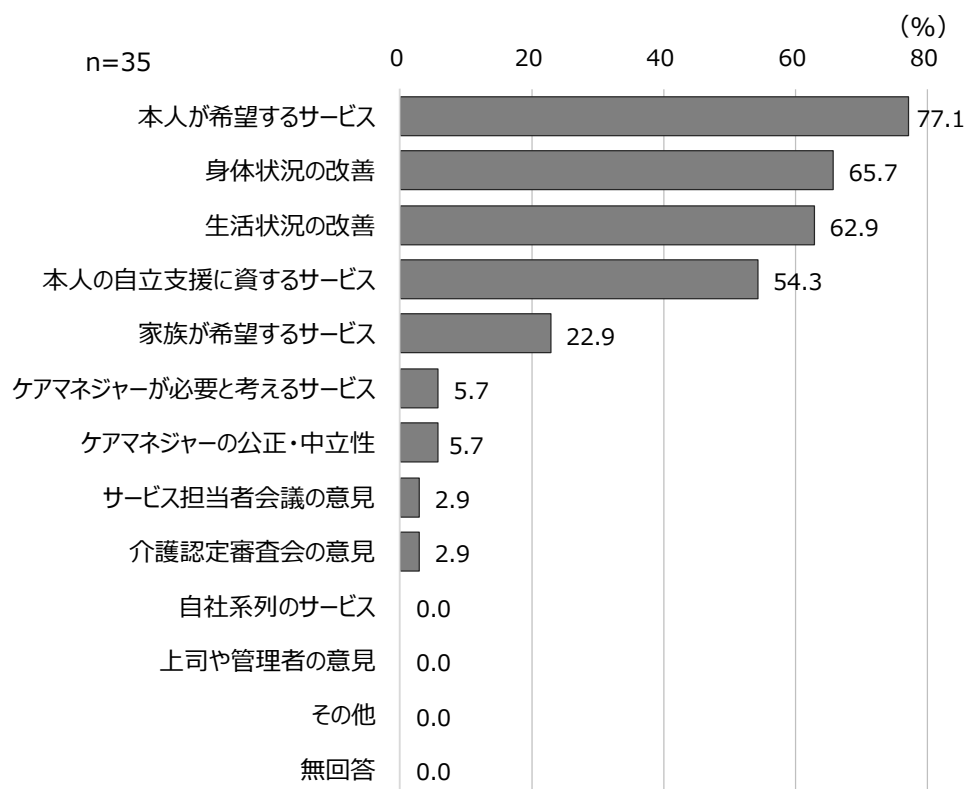
注：本設問の回答欄は、ケアプランの作成人数を市内分は要介護度別に、市外分は合計人数を回答いただく仕様となっておりましたが、市外分の人数について、誤って記入した可能性のある回答が複数見受けられたため、市外のケアプラン作成（受け持ち）人数については、掲載を差し控えさせていただきます。

白岡市内分の受け持ち人数の内訳（要介護度別）



問3 ケアプランを作成する際、あなたは何を重視しますか。[重視するもの上位3つに○]

「本人が希望するサービス」が77.1%で最も多く、次いで「身体状況の改善」(65.7%)、「生活状況の改善」(62.9%)となっています。



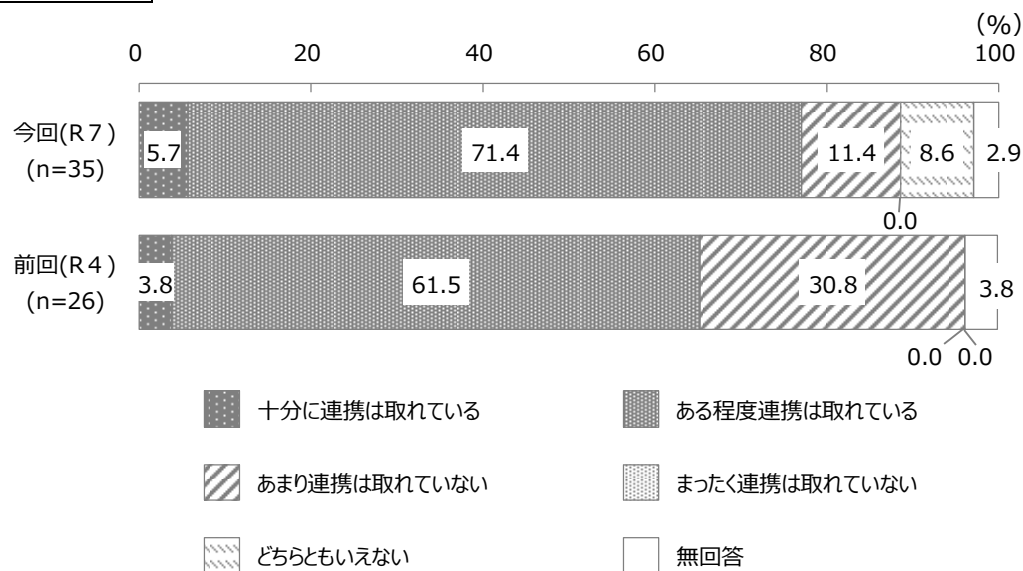
3. 他機関との連携について

問4 医療機関との連携は取れていますか。[1つに○]

全体 「ある程度連携は取れている」が 71.4%で最も多く、次いで「あまり連携は取れていない」(11.4%)、「どちらともいえない」(8.6%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「あまり連携は取れていない」が 19.4 ポイント減少し、「ある程度連携は取れている」が 9.9 ポイント増加しています。

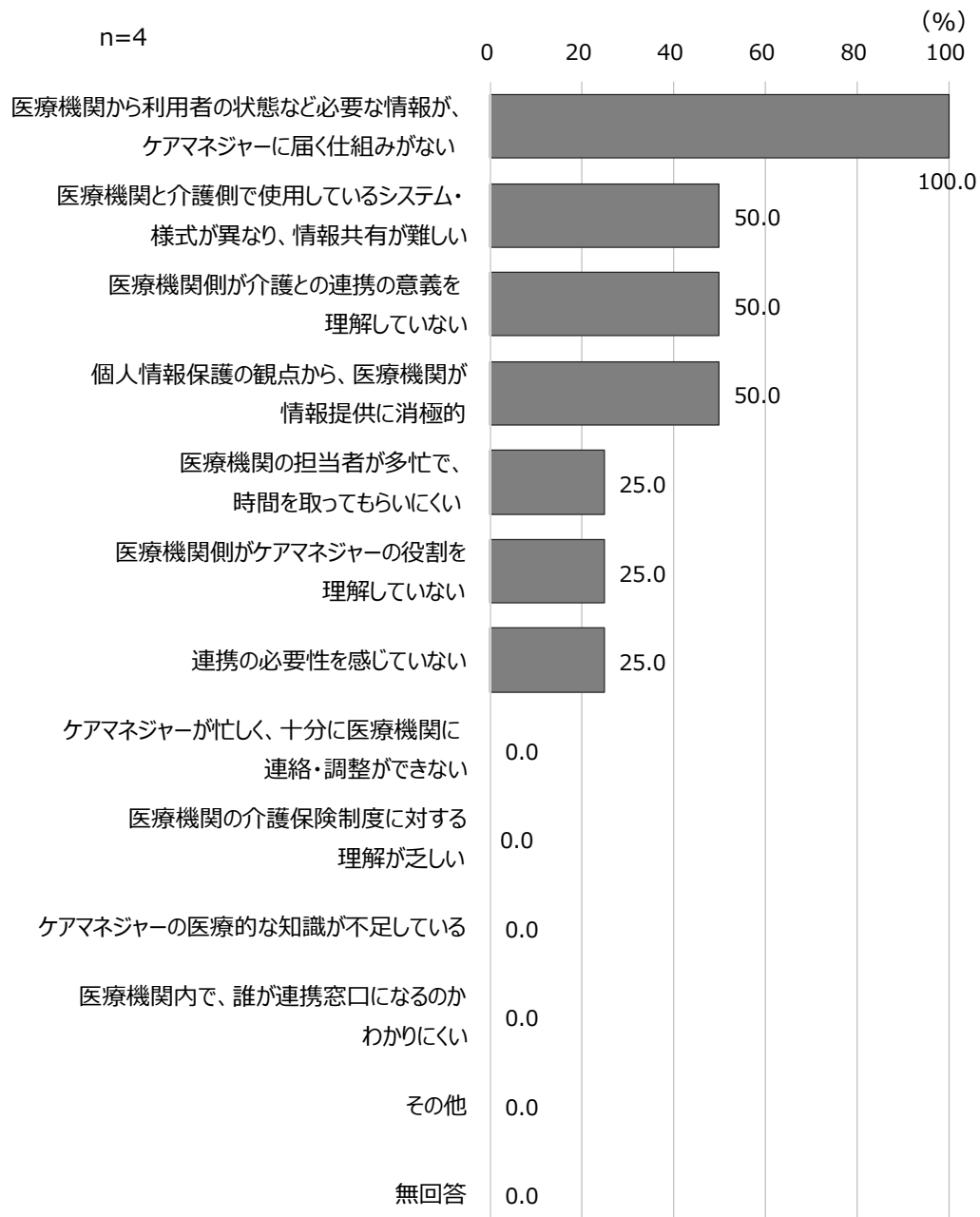
全体・前回比較



問5 「問4で「3または4」と回答した方のみお答えください」

医療との連携が取れていない理由は何ですか。[あてはまるものすべてに○]

「医療機関から利用者の状態など必要な情報が、ケアマネジャーに届く仕組みがない」が100%で最も多く、次いで「医療機関と介護側で使用しているシステム・様式が異なり、情報共有が難しい」と「医療機関側が介護との連携の意義を理解していない」と「個人情報保護の観点から、医療機関が情報提供に消極的」が50.0%となっています。

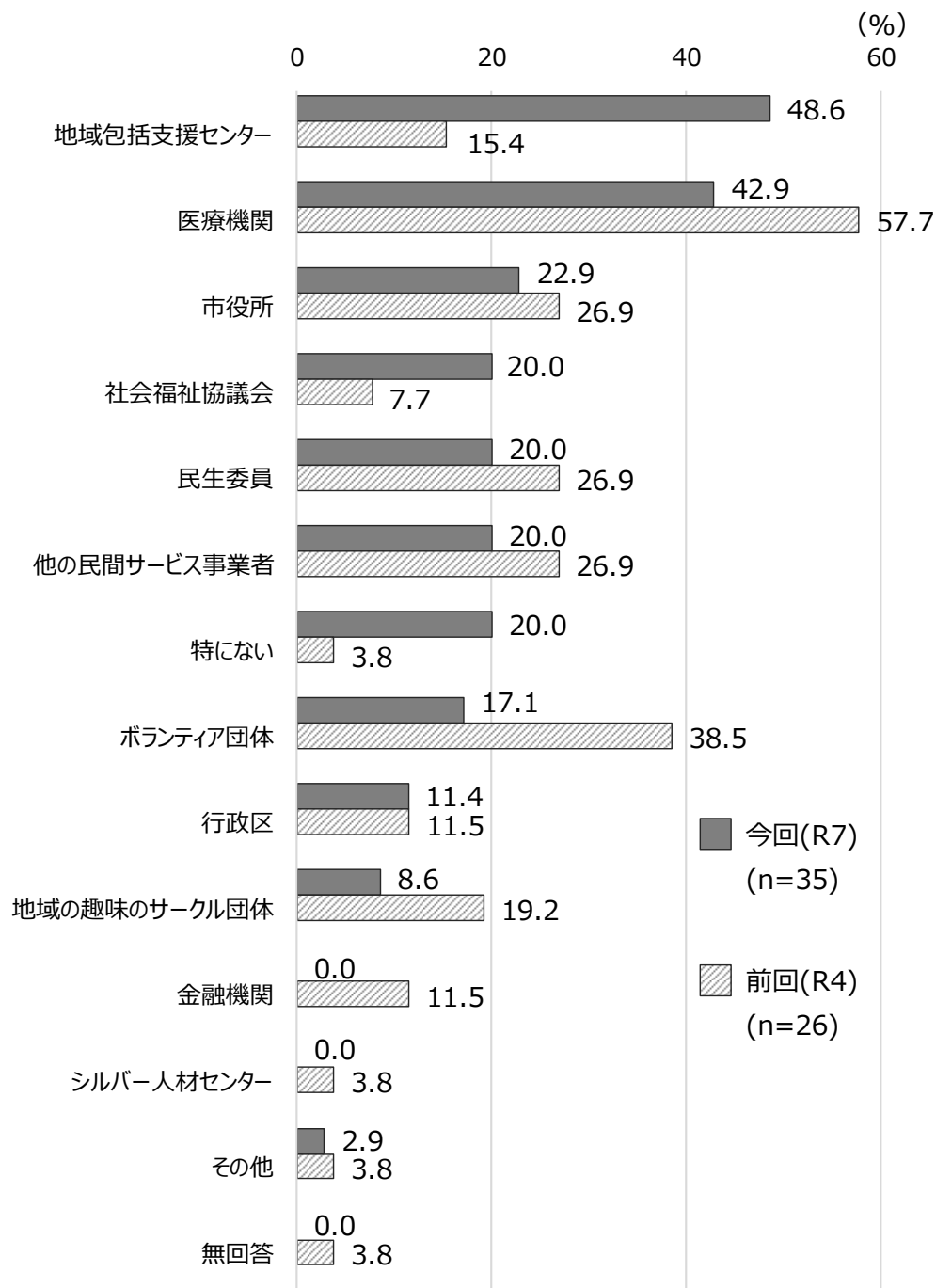


問6 もっと連携を取りたいと思う機関・団体などはありますか。主なものを3つ以内で選び、その番号と、どのような連携を取りたいか簡単にご記載ください。

全体 「地域包括支援センター」が48.6%で最も多く、次いで「医療機関」(42.9%)、「市役所」(22.9%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「地域包括支援センター」が33.2ポイント増加している一方で、「ボランティア団体」が21.4ポイント、「医療機関」が14.8ポイント減少しています。

全体・前回比較



どのような連携を取りたいか

機関・団体ごとに取りたい連携内容は以下のとおりです。

() の数字は意見数

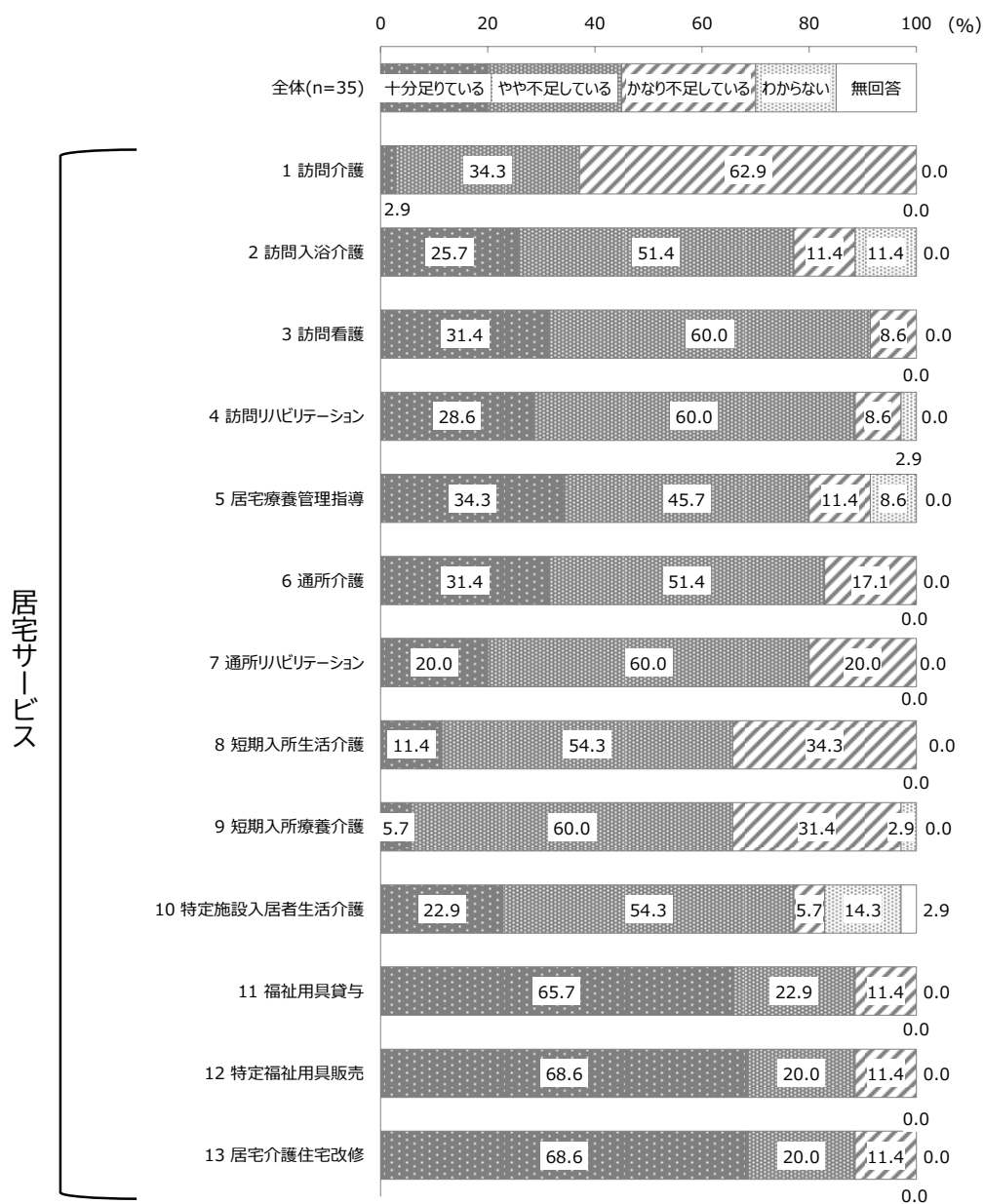
2. 地域包括支援センター	
・困難な事例（虐待、独居高齢者、家族の関わりが薄い等含む）の相談にのってほしい。（6） ・利用者等の情報提供・共有（2） ・家族全体の取り組みができるように連携したい。 ・介護保険で対応できない困りごと ・不安な時は同行などして助言してほしい。	・地域資源を把握するため（2） ・ケアマネジメントにおいて葛藤が生じるケースなどにおける連携 ・プランのサービス以外の支援を教えてほしい。 ・ケアマネ支援 ・気軽に相談できる体制
7. 医療機関	
・（リアルタイムの）身体状況や病状、服薬の状況等の把握・共有ができるとよりよいケアマネジメントにつながると思う。（4） ・退院前のカンファレンス等に呼んでもらい、本人の様子を教えてほしい。退院後の必要なサービスの提案などがほしい。入退院時の状況が知りたい。（3） ・主治医との連携をもう少し密に取りたい。気軽に相談できる関係/医師との相談体制の確立（3） ・レスパイト入院が必要な方や、医療度が高い方など	
1. 市役所	
・困難事例等の相談、指導等（2） ・介護保険で対応できない困りごと ・認定結果の情報のスピード	・情報共有、細かな情報がほしい。（2） ・申請や審査会、給付管理に関する質問 ・減額対象になるかどうかなど
3. 社会福祉協議会	
・地域の資源や成年後見などが必要なケースでの連携 ・地域の社会資源の発掘、開発 ・特定のサービス利用	・介護保険で対応できない困りごと ・利用者の困難な状況に対し、助言を得たい。 ・要介護者の家族支援、サービスの充実、広報活動
5. 民生委員	
・独居の場合で認知症がありなくなった時など ・見守り ・地域との関わりの仲介	・独居の方の情報共有 ・ご近所レベルでの高齢者についての相談ごと、困りごと
9. 他の民間サービス事業者	
・生前の遺産整理 ・移送など ・介護保険では補えないサービス ・白岡市内で利用可能なサービスの種類とその連携方法などの情報共有	・認知症で独居の見守り ・サービス調整等 ・利用者の意向にあった支援につながる情報がほしい。
6. ボランティア団体	
・利用者の意向にあった支援につながる団体の情報 ・介護保険では補えないサービス ・院内介助	・地域資源の活用等 ・見守りや傾聴など ・地域での取り組みや協力、地域課題の抽出
4. 行政区	
・一人暮らしで家族の協力が得られない方やお金がない方などへの対応 ・ゴミ出し当番や回覧板について	・身元保証人の手続き ・高齢者についての地域の課題、困りごと
10. 地域の趣味のサークル団体	
・インフォーマルなサービスについての情報がほしい ・地域での取り組みや協力	・利用者の意向にあった支援につながる情報がほしい。

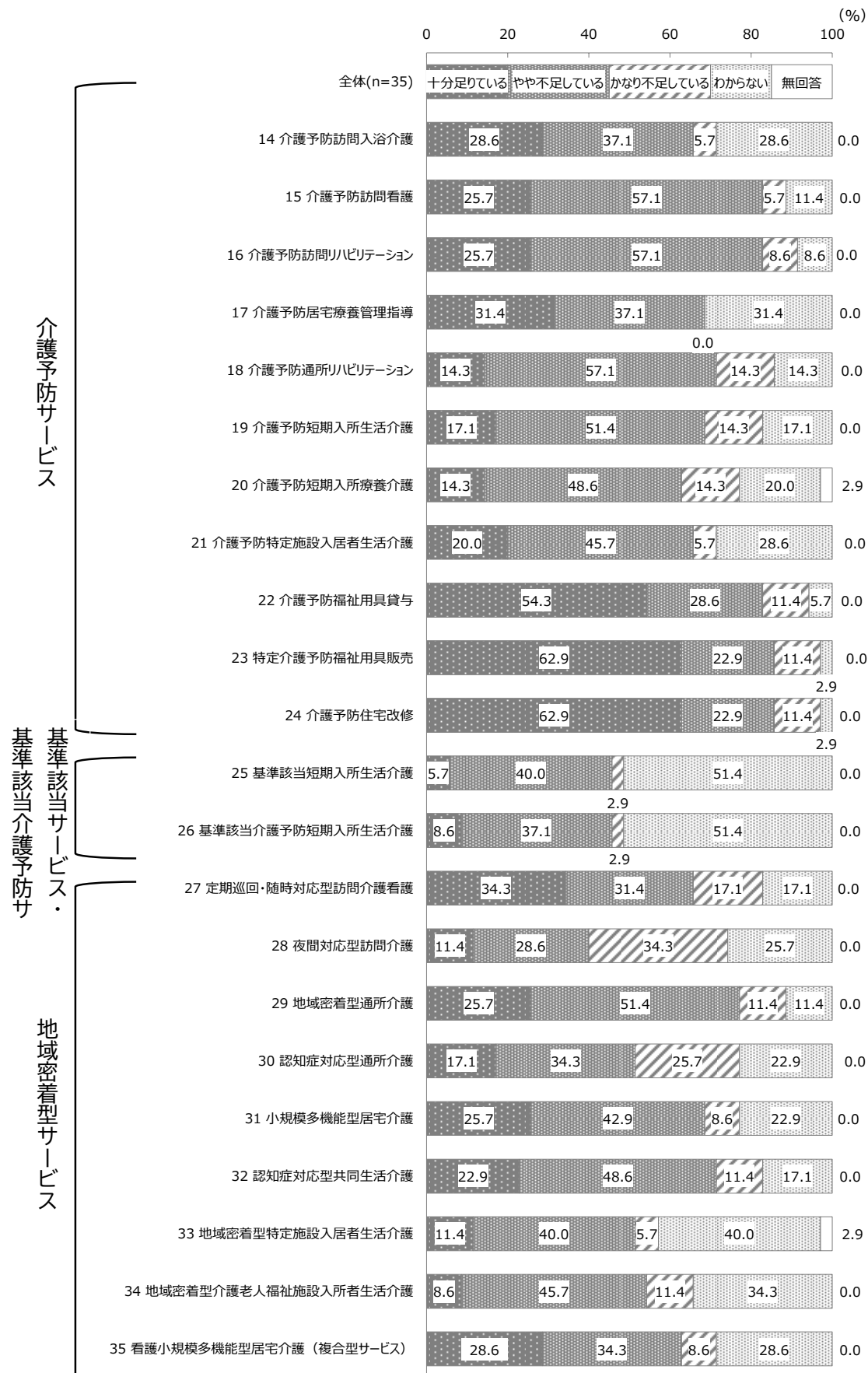
4. サービスの供給バランスに対する評価について

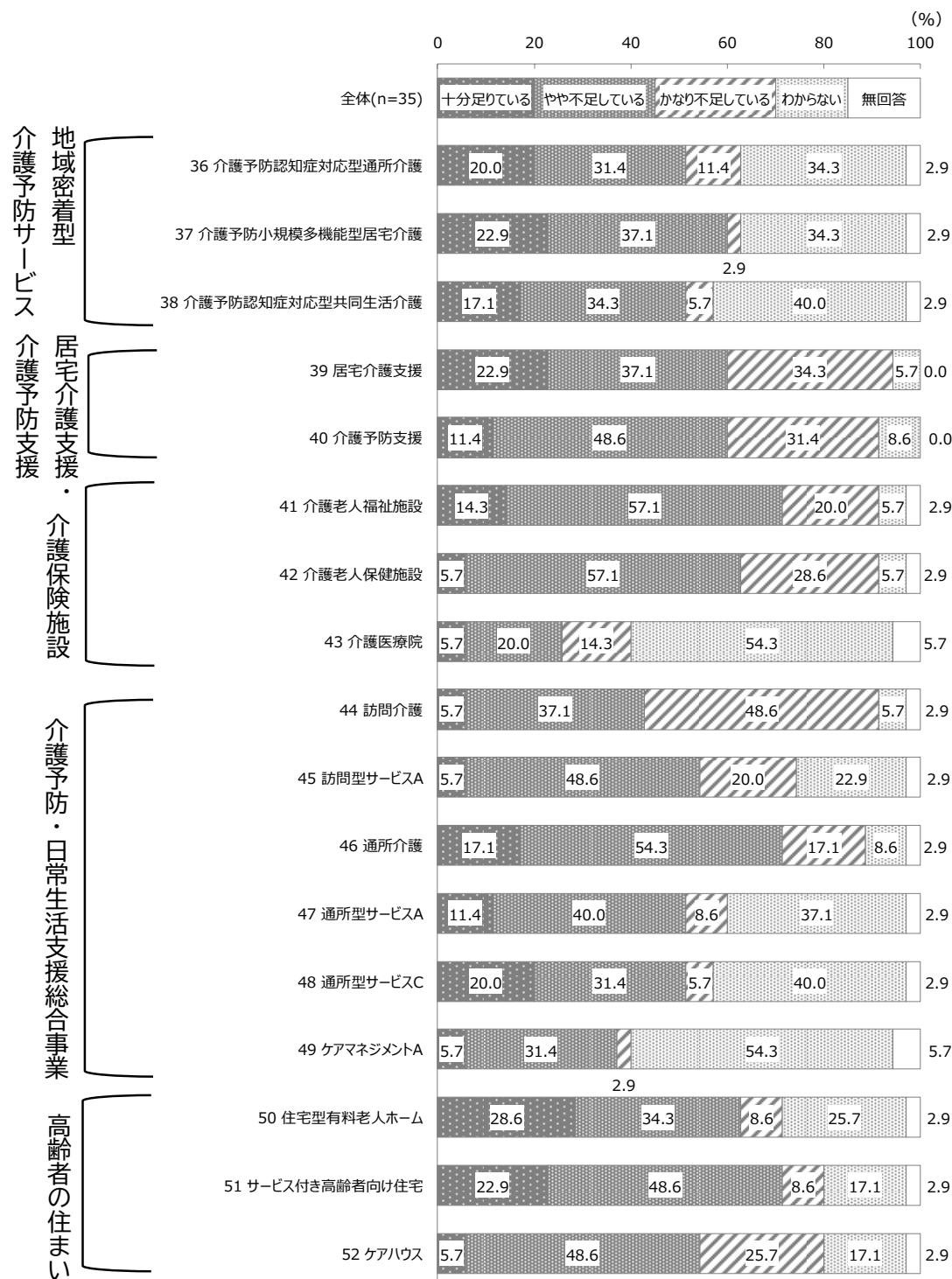
問7 白岡市における介護保険サービス事業は、利用者の需要（希望）に対して足りていると思いますか。[それぞれ1つずつ○]

「十分足りている」という割合が50%を超えて多かったのは、「12 特定福祉用具販売」(68.6%)、「13 居宅介護住宅改修」(68.6%)、「11 福祉用具貸与」(65.7%)、「23 特定介護予防福祉用具販売」(62.9%)、「24 介護予防住宅改修」(62.9%)となっています。

一方、「かなり不足している」という割合が50%を超えて多かったのは、「1 訪問介護[居宅サービス]」で62.9%となっています。また、「かなり不足している」と「やや不足している」を合計して90%を超えて多かったのは、「1 訪問介護[居宅サービス]」(97.1%)と「9 短期入所療養介護」(91.4%)となっています。







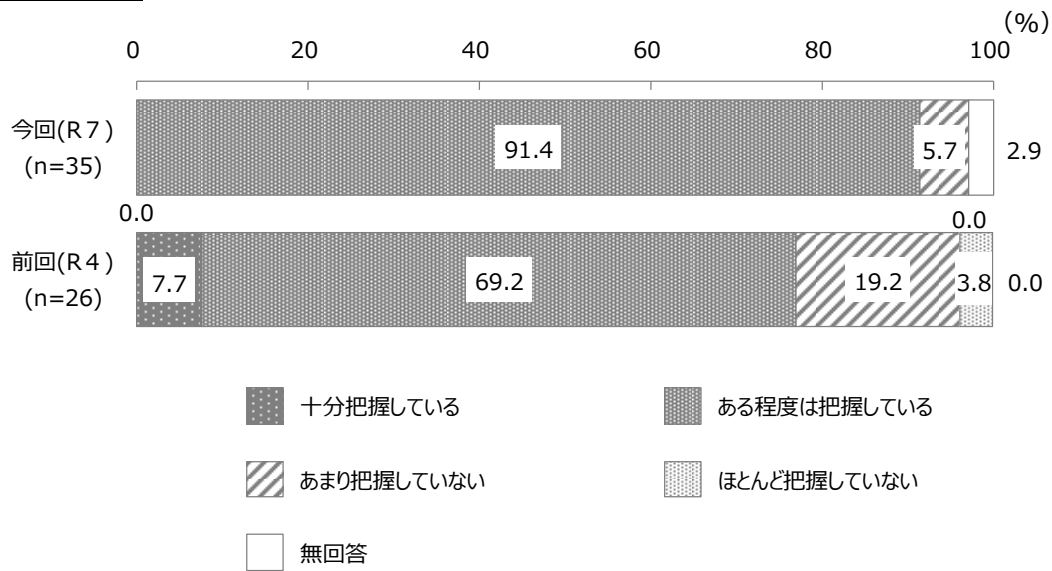
5. 地域資源の把握・利用・不足の状況について

問8 自立支援を目的としたケアマネジメントにおいては、介護保険サービス以外の地域資源の活用も重要となってきますが、あなたは、白岡市の地域資源についてどの程度把握していますか。[1つに○]

全体 「ある程度は把握している」が91.4%で大半を占める一方、「あまり把握していない」は5.7%となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「ある程度把握している」が22.2ポイント増加している一方で、「あまり把握していない」が13.5ポイント、「十分把握している」が7.7ポイント減少しています。

全体・前回比較



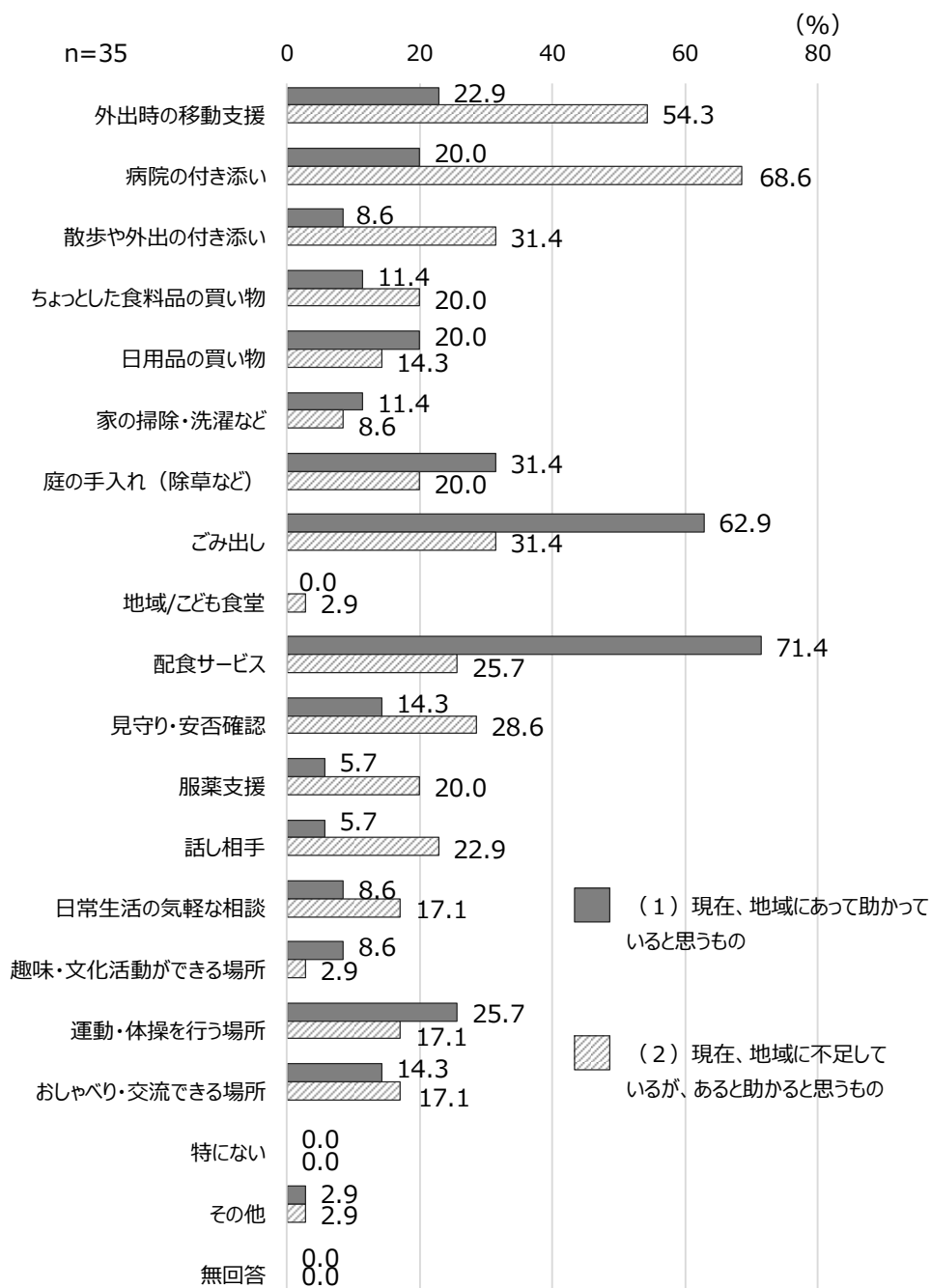
問9 〔問8で「3又は4」と回答した方のみお答えください〕 どのような機会があれば、地域資源をより把握することができると思いますか。自由にお書きください。

回答はありませんでした。

問10 介護保険サービスや福祉サービス以外で、要介護者及び介護者の生活を支えるための以下の1～19の手助け・地域資源について、(1) 現在、地域にあって助かっていると思うもの及び(2) 現在、地域に不足しているが、あると助かると思うものについて、主なものをそれぞれ5つ以内で○をつけてください。

現在、地域にあって助かっていると思うもの 「配食サービス」が71.4%で最も多く、次いで「ごみ出し」(62.9%)、「庭の手入れ(除草など)」(31.4%)となっています。

現在、地域に不足しているが、あると助かると思うもの 「病院の付き添い」が68.6%で最も多く、「外出時の移動支援」(54.3%)、「散歩や外出の付き添い」と「ごみ出し」が31.4%となっています。

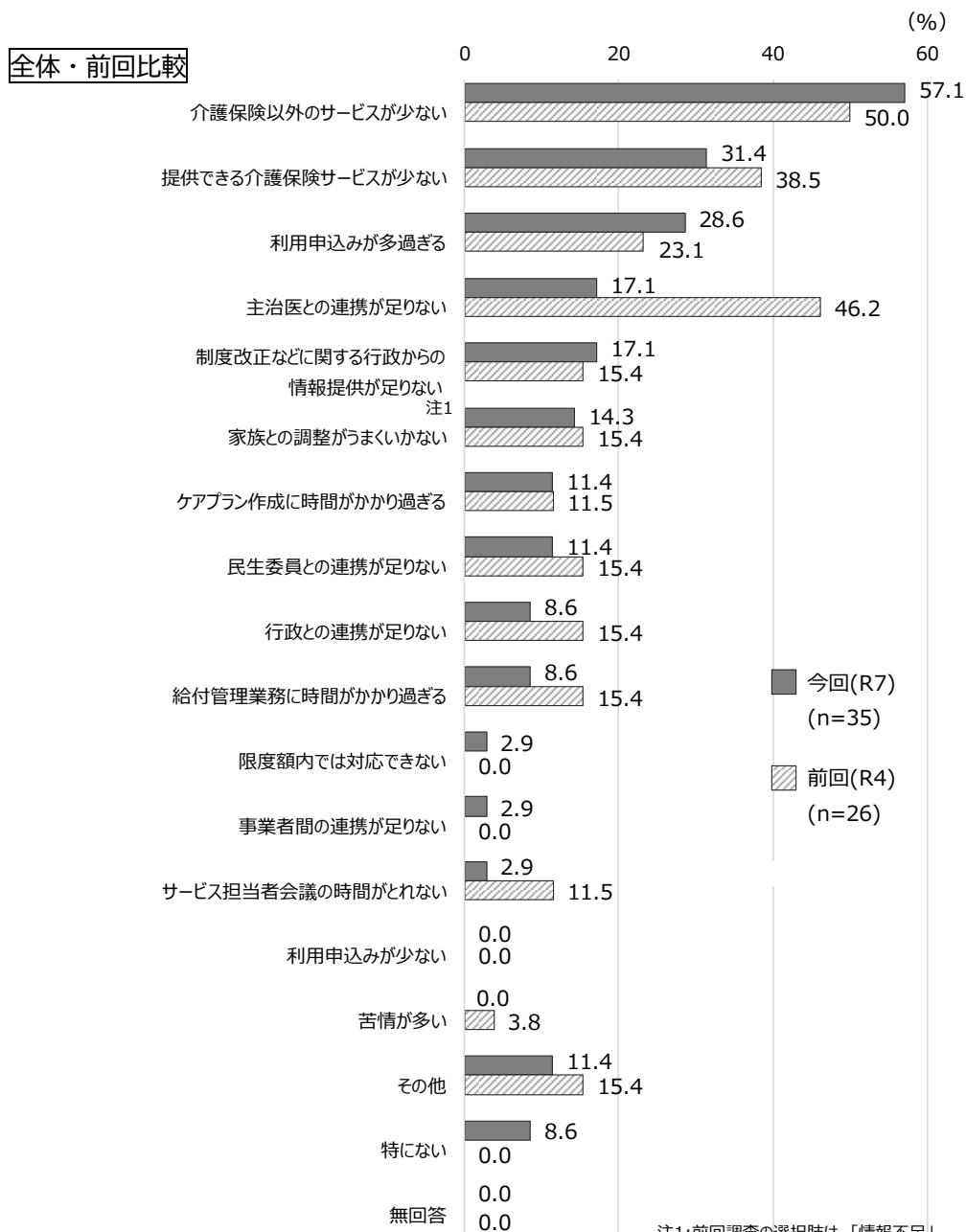


6. ケアマネ業務の課題・負担について

問11 ケアプラン作成などのケアマネジャーとしての活動の際に、何か問題を感じていることがありますか。率直な感想をお答えください。[〇は3つまで]

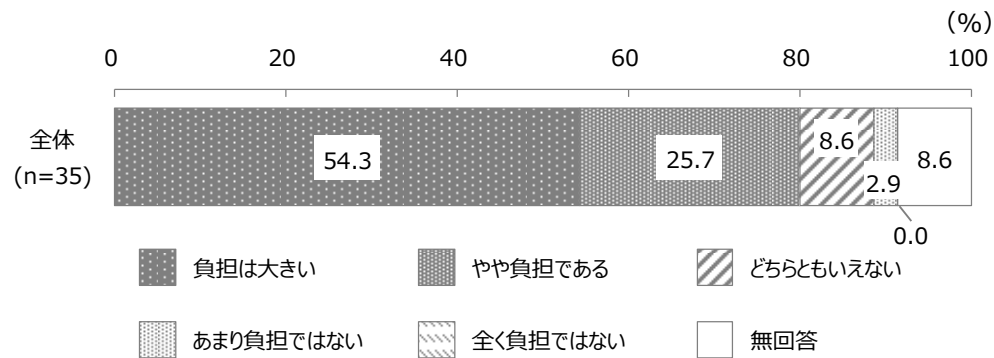
全体 「介護保険以外のサービスが少ない」が57.1%で最も多く、次いで「提供できる介護保険サービスが少ない」(31.4%)、「利用申込みが多過ぎる」(28.6%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「主治医との連携が足りない」が29.1ポイント、「提供できる介護保険サービスが少ない」が7.1ポイント、「行政との連携が足りない」と「給付管理業務に時間がかかり過ぎる」が6.8ポイント減少しています。一方、「介護保険以外のサービスが少ない」が7.1ポイント、「利用申込みが多過ぎる」が5.5ポイント増加しています。



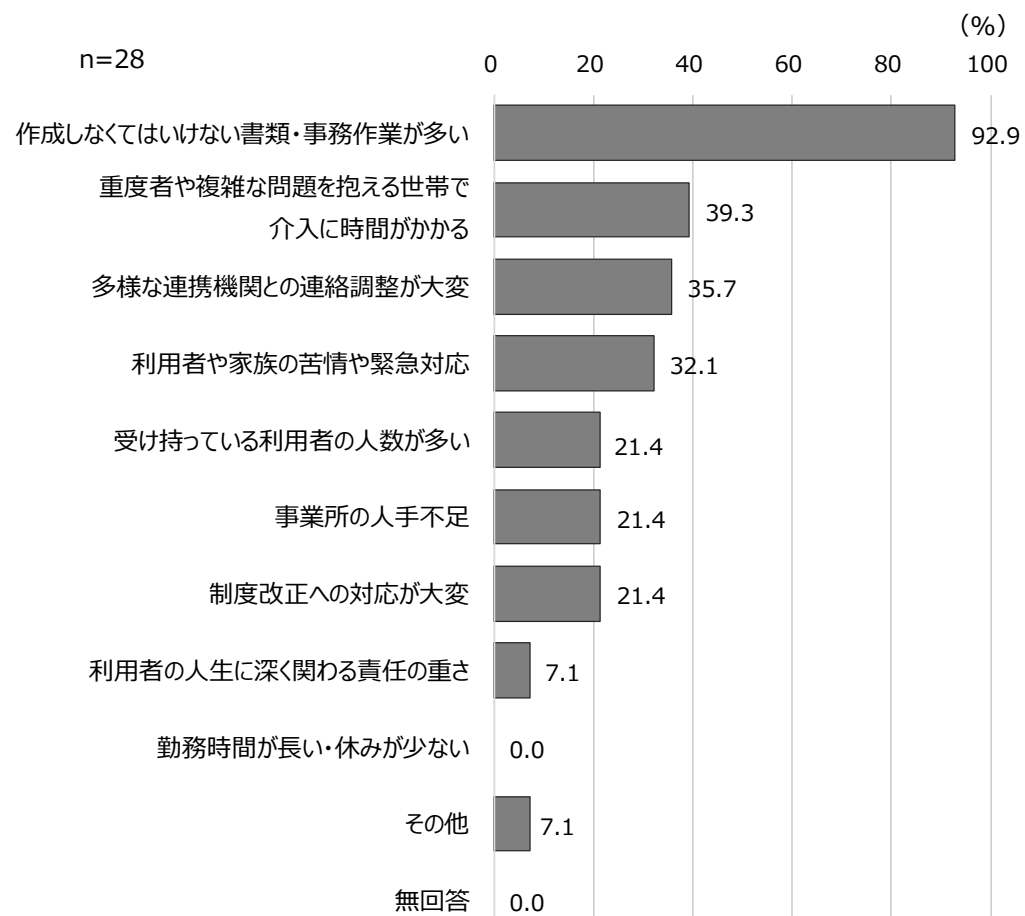
問12 ケアマネジメント業務の負担感について、どのように感じますか。〔1つに○〕

「負担は大きい」が54.3%で最も多く、次いで「やや負担である」(25.7%)、「どちらともいえない」(8.6%)となっています。



問13 〔問12で「1又は2」と回答した方のみお答えください〕
負担を感じる要因は何ですか。〔○は3つまで〕

「作成しなくてはいけない書類・事務作業が多い」が92.9%で最も多く、次いで「重度者や複雑な問題を抱える世帯で介入に時間がかかる」(39.3%)、「多様な連携機関との連絡調整が大変」(35.7%)となっています。



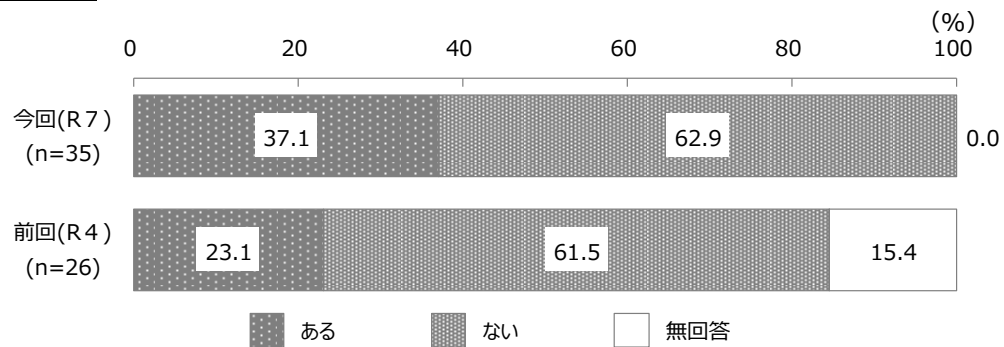
7. 虐待について

問14 あなたが担当している白岡市のケースの中で、これまでに虐待が疑われるケースはありましたか。[1つに○]

全体 「ない」が62.9%で、「ある」(37.1%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「ある」が14.0ポイント増加しています。

全体・前回比較

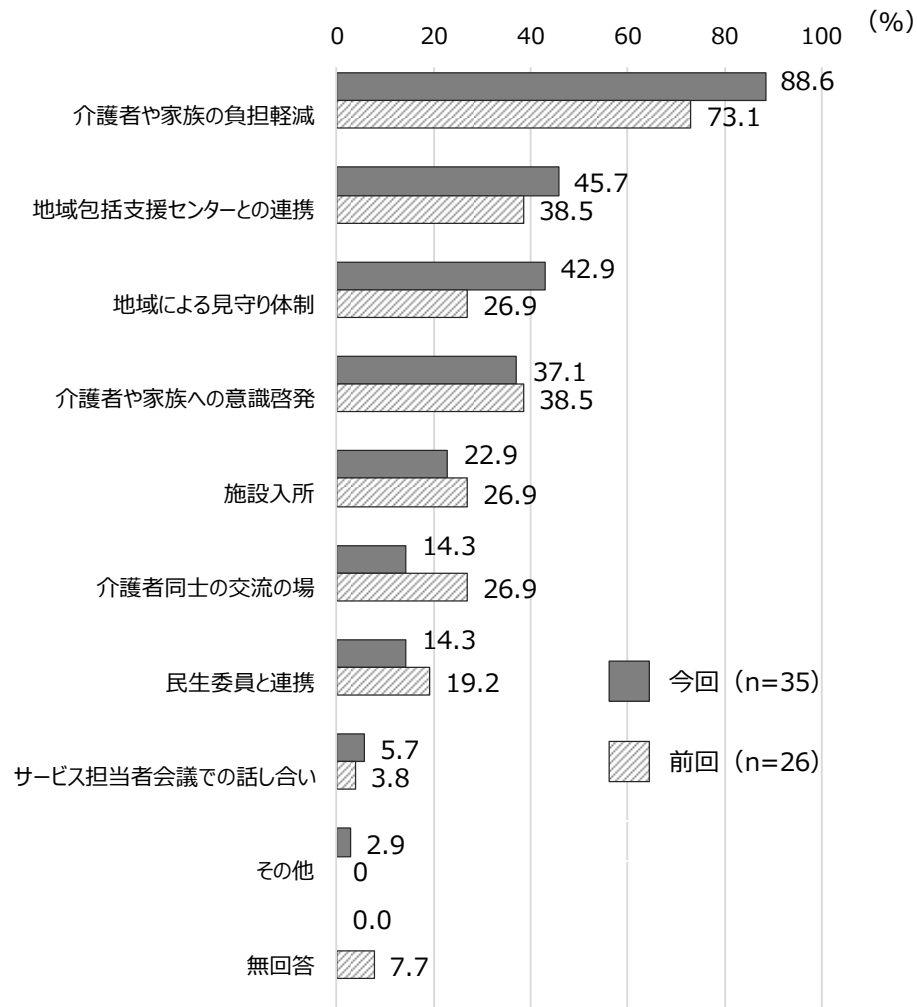


問15 虐待防止のために、特に必要だと思うことは何ですか。[〇は3つまで]

全体 「介護者や家族の負担軽減」が88.6%で最も多く、次いで「地域包括支援センターとの連携」(45.7%)、「地域による見守り体制」(42.9%)となっています。

前回比較 前回調査と比較すると、「地域による見守り体制」が16.0ポイント、「介護者や家族の負担軽減」が15.5ポイント増加している一方で、「介護者同士の交流の場」が12.6ポイント減少しています。

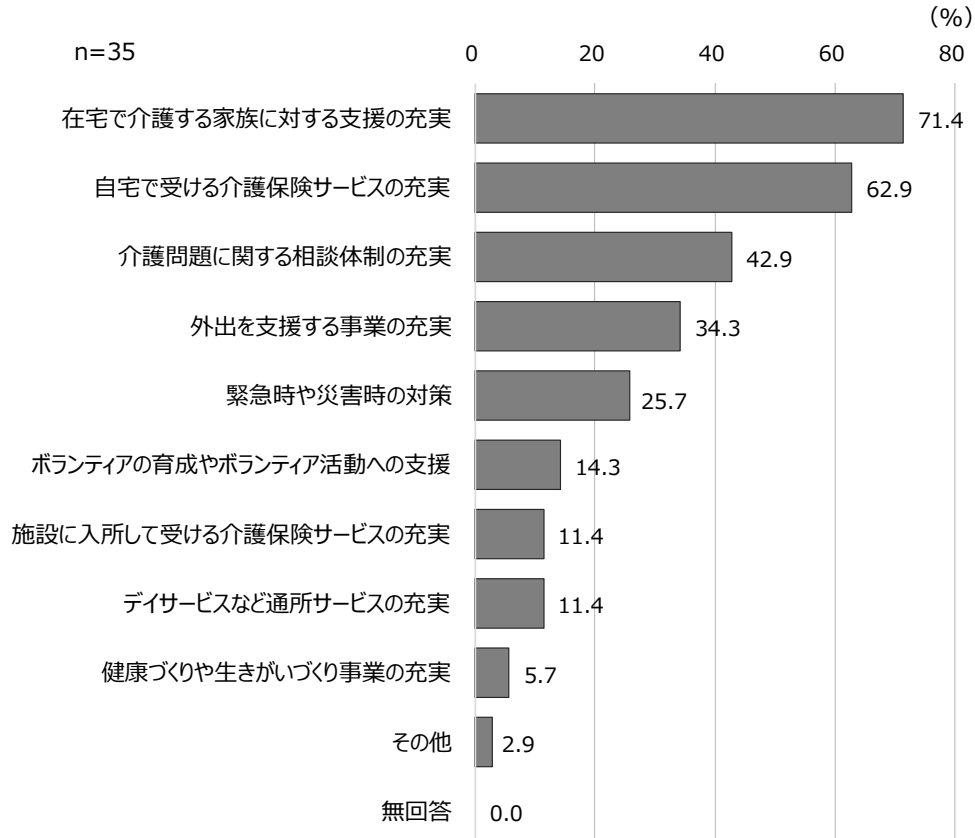
全体・前回比較



8. 行政に期待することについて

問16 高齢者への対応として、今後、行政にどのようなことを期待しますか。[〇は3つまで]

「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が71.4%で最も多く、次いで「自宅で受ける介護保険サービスの充実」(62.9%)、「介護問題に関する相談体制の充実」(42.9%)となっています。



9. 自由意見

市へご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、どのようなことでも結構ですからお知らせください。

4件のご意見をいただきました。

- ・ 半日型デイサービス等、1日利用しない、運動特化型サービスの充実を望む。
- ・ 集団指導の実施をお願いしたい。
- ・ 審査会后、介護保険証を受け取るのに時間がかかっていると感じる。内部決裁の関係と聞いているが、他市町村はスムーズに受け取れる。ぜひ改善していただきたい。
- ・ サービスは近隣の市町村を利用せざるを得ない。研修などで、他市町村ではサービス事業所も介護保険外のサービスも充実していて驚く。重度になってきたら、施設を勧めるしかない。

10. ケアマネジャー調査のまとめ

【1. 回答者の属性】

ケアマネジャーとしての経験年数は、「10年以上」が60.0%で最も多く、次いで「5年以上10年未満」(17.1%)、「3年以上5年未満」(11.4%)となっています。9割近くの人が3年以上の経験年数を有しています。

【2. ケアプランについて】

市外を除く白岡市内分のケアプラン作成受け持ち人数は、平均で30.0人となっています。要介護度別でみると、「要支援1、2」は、「4人以下」と「5～14人」がそれぞれ48.6%（17人）ずつとなっています。「要介護1、2、3」は、「15～24人」が31.4%（11人）で最も多く、次いで「25～34人」(25.7%)（9人）となっています。「要介護4、5」では、「4人以下」が62.9%（22人）で最も多く、次いで「5～14人」(34.3%)（12人）となっています。総じて、「要介護1、2、3」のケアプラン作成を受け持っているケアマネジャーが多くなっています。

ケアプランを作成する際に重視することは、「本人が希望するサービス」が77.1%（27人）で最も多く、次いで「身体状況の改善」(65.7%)（23人）、「生活状況の改善」(62.9%)（22人）、「本人の自立支援に資するサービス」(54.3%)（19人）となっています。利用者の希望に基づいて、身体状況や生活状況の改善を行いながら、本人の自立につながるようなケアプランを提案していることがうかがえます。

【3. 他機関との連携について】

医療機関との連携が取れているかとの間に、「ある程度連携は取れている」と回答したケアマネジャーは71.4%（25人）で最も多く、「あまり連携は取れていない」は11.4%（4人）でした。前回調査と比較すると、「あまり連携は取れていない」が19.4ポイント減少し、「ある程度連携は取れている」が9.9ポイント増加しています。前回調査時から医療機関との連携状況が改善していることがうかがえます。

一方で、あまり又は全く連携は取れていないと回答した4人のケアマネジャーにその理由を尋ねたところ、全員が「医療機関から利用者の状態など必要な情報が、ケアマネジャーに届く仕組みがない」と回答し、次いで「医療機関と介護側で使用しているシステム・様式が異なり、情報共有が難しい」、「医療機関側が介護との連携の意義を理解していない」、「個人情報保護の観点から、医療機関が情報提供に消極的」の3つの理由に対しては、それぞれ2人ずつが回答しています。医療機関との連携状況は改善傾向であるものの、医療機関から必要な情報が届く仕組み作りなど、さらなる連携強化の取組が求められています。

もっと連携を取りたいと思う機関・団体は、「地域包括支援センター」が48.6%で最も多く、次いで「医療機関」(42.9%)、「市役所」(22.9%)となっています。前回調査と比較すると、「地域包括支援センター」が33.2ポイント増加しており、連携の重要性がより認識されたことがうかがえ

ます。一方で、「ボランティア団体」が21.4ポイント、「医療機関」が14.8ポイント減少しています。医療機関との連携は改善傾向にあるため、より連携を深めたいというニーズもあわせて減少したものと推測できます。

具体的に取りたい連携内容は、地域包括支援センターや市役所に対しては、困難事例の相談や利用者等の情報共有など、医療機関に対しては、身体状況、病状、服薬、入退院時の状況等の共有や医師との相談体制の確立などが挙げられています。より効果的・効率的な高齢者福祉を推進していくために、他の機関との連携を強化していく取組が重要となっています。

【4. サービスの供給バランスに対する評価について】

白岡市における介護保険サービス事業は、利用者の需要（希望）に対して足りていると思うかどうか尋ねたところ、「十分足りている」という割合が50%を超えて多かったのは、「特定福祉用具販売」（68.6%）、「居宅介護住宅改修」（68.6%）、「福祉用具貸与」（65.7%）、「特定介護予防福祉用具販売」（62.9%）、「介護予防住宅改修」（62.9%）となっています。

一方、「かなり不足している」という割合が50%を超えて多かったのは、「訪問介護[居宅サービス]」で62.9%となっています。また、「かなり不足している」と「やや不足している」を合計して90%を超えて多かったのは、「訪問介護[居宅サービス]」（97.1%）に加え、「短期入所療養介護」（91.4%）となっています。

調査④：サービス提供事業者調査の間3と間4で、実施しているサービスがニーズに対応できているか、また、今後の事業展開の予定について尋ねた結果では、「訪問介護[居宅サービス]」は、3事業者が断ることがあり、2事業者が規模拡大を予定していると回答しています。一方で、「短期入所療養介護」は、サービスを提供している1事業者は、対応できており現状維持の予定と回答しています。ケアマネジャーが感じている「短期入所療養介護」の不足感と事業所の対応状況に差がみられます。

【5. 地域資源の把握・利用・不足の状況について】

市内の地域資源についてどの程度把握しているか尋ねたところ、「ある程度は把握している」が91.4%で大半を占めており、多くのケアマネジャーが市内の地域資源を把握している状況が確認できます。前回調査と比較すると、「十分把握している」と「ある程度把握している」を合わせた、把握している割合は14.5ポイント増加しており、地域資源に関する情報共有やネットワークの構築が進んでいることがうかがえます。

介護保険サービスや福祉サービス以外で、要介護者及び介護者の生活を支えるための手助け・地域資源について、現在地域にあって助かっているものを尋ねたところ、「配食サービス」が71.4%で最も多く、次いで「ごみ出し」（62.9%）、「庭の手入れ（除草など）」（31.4%）となっています。在宅生活の継続においては、家事支援や生活支援サービスが重要な役割を果たしていることがうかがえます。

一方で、現在地域に不足しているが、あると助かると思うものは、「病院の付き添い」が 68.6%で最も多く、「外出時の移動支援」(54.3%)、「散歩や外出の付き添い」と「ごみ出し」が 31.4%となっています。通院や外出に関する項目が上位を占めており、支援不足が課題となっていることが読み取れます。また、「ごみ出し」については、地域にあって助かっている支援であるものの、ニーズに対して供給が十分でないことがうかがえます。

既存の地域資源の有効活用を図るとともに、住民主体の支え合い活動や民間サービスの活用など、多様な手法による支援体制の構築を進めていく必要があります。

【6. ケアマネ業務の課題・負担について】

ケアマネジャーとしての活動の際に感じている問題点は、「介護保険以外のサービスが少ない」が 57.1%で最も多く、次いで「提供できる介護保険サービスが少ない」(31.4%)、「利用申込みが多過ぎる」(28.6%)となっており、支援ニーズに対してサービス供給が十分に追いついていない状況がうかがえます。

前回調査と比較すると、「主治医との連携が足りない」が 29.1 ポイント、「提供できる介護保険サービスが少ない」が 7.1 ポイント、「行政との連携が足りない」と「給付管理業務に時間がかかり過ぎる」が 6.8 ポイント減少しており、医療との連携体制は一定程度改善していると考えられ、行政との連携や業務の一部については改善の動きがみられます。一方、「介護保険以外のサービスが少ない」が 7.1 ポイント、「利用申込みが多過ぎる」が 5.5 ポイント増加しており、需要の増加に対して社会資源の整備が追いついていない状況がうかがえます。

ケアマネジメント業務の負担感については、「負担は大きい」が 54.3% (19 人) で最も多く、次いで「やや負担である」(25.7%) (9 人) となっており、合わせて 8 割 (28 人) のケアマネジャーが業務に負担を感じています。負担に感じる要因は、「作成しなくてはならない書類・事務作業が多い」が 92.9%で突出して多く、業務負担の主な要因となっていることがわかります。次いで「重度者や複雑な問題を抱える世帯で介入に時間がかかる」(39.3%)と「多様な連携機関との連絡調整が大変」(35.7%) も多くなっており、支援内容の複雑化に伴う負担の増大もみられます。

介護保険以外のサービスを含めた地域資源の充実を図るとともに、事務作業の効率化や負担軽減に向けた取組、さらには困難事例への支援体制の強化や多職種連携の円滑化を進めていくことが重要となっています。

【7. 虐待について】

担当している白岡市のケースの中で、これまでに虐待が疑われるケースがあったかとの問に対して、「ない」が 62.9% (22 人) で、「ある」が 37.1% (13 人) となっており、一定数の現場で虐待が疑われる事案が発生している状況が確認できます。前回調査と比較すると、前回は無回答が 15.4%あったものの、「ある」が 14.0 ポイント増加しており、虐待事案の顕在化、または、ケアマネジャーの問題認識の高まりが進んでいる可能性があります。

虐待防止のために特に必要だと思うことは、「介護者や家族の負担軽減」が 88.6%で最も多く、次いで「地域包括支援センターとの連携」(45.7%)、「地域による見守り体制」(42.9%)となっています。虐待の背景として介護負担の大きさが強く認識されていることがうかがえ、また、地域包括支援センターとの連携や地域全体での支援体制の重要性が認識されています。前回調査と比較すると、「地域による見守り体制」が 16.0 ポイント、「介護者や家族の負担軽減」が 15.5 ポイント増加している一方で、「介護者同士の交流の場」が 12.6 ポイント減少しています。交流機会の提供より、より直接的な負担軽減や支援体制の整備の重要性が認識されています。

【8. 行政に期待することについて】

高齢者への対応として今後行政に期待することは、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が 71.4%で最も多く、次いで「自宅で受ける介護保険サービスの充実」(62.9%)、「介護問題に関する相談体制の充実」(42.9%)となっています。家族が安心して介護保険サービスを利用し、在宅で介護できるような取組が求められていることがうかがえます。

令和 7 年度 白岡市高齢者等実態調査報告書

発行年月： 令和 8 年 3 月

発 行： 白岡市

編 集： 白岡市健康福祉部高齢介護課

住 所： 埼玉県白岡市千駄野 432 番地

電 話： 0480-92-1111
